

第188図 61号住居の出土遺物

### 62号住居

(第189～191図 PL59・60・152・153 遺物観察表P.380)

位置 A6区3W,3V-38,39グリッド

形状 南北にやや長い横長長方形ないし長隅丸長方形。南壁がやや短く、西壁がやや傾く。四隅は丸みを持って屈曲するが、特に北壁の両隅の丸みが強い。

規模 長辺 3.66m 短辺 3.2m 面積 11.45㎡

方位 N-91°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 焼土粒、炭化物粒を含む砂質～シルト質の褐灰色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 8cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

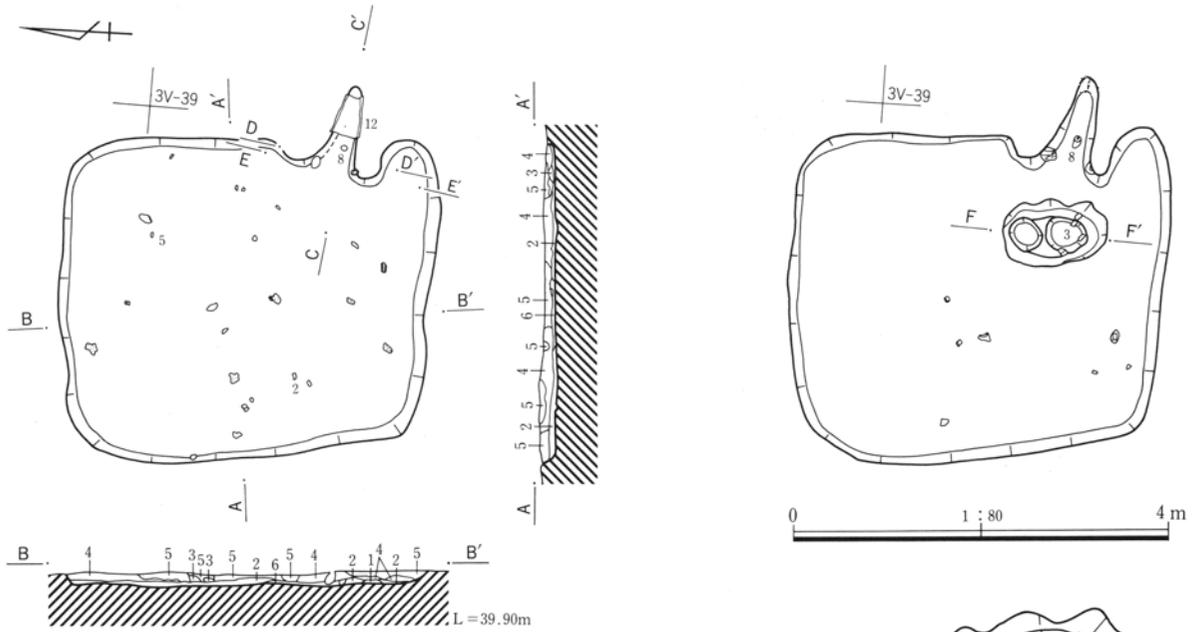
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。住居中央付近の床面上に方形に近い平面形状で灰と炭化物が分布する。

竈 東壁の南隅近くを細長いU字形に掘り込んで燃焼部を作り煙道を延ばす。左右の袖とも地山を掘り残しており、上部に黄白色粘土を乗せる。右袖部には埴輪が、左袖部には円礫が置かれる。燃焼部を仕切るように円筒埴輪が横たえられる。燃焼部中央には支脚に転用された羽口が立ち、煙道部には円筒埴輪が利用されている。確認長1.1m、焚き口部内側幅36cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる色粘土が見られる。竈前の床下には長径1.1m、短径0.7mほどの楕円形の平面形の窪みがあり、焼土塊や炭化物粒、黄白色の粘土塊を含む褐色土で埋まる。重複 なし。

遺物と出土状況 竈及びその周辺に構造材として用いられた埴輪片などが集中し、他は住居全体に破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀中葉)

第3章 検出された遺構と遺物

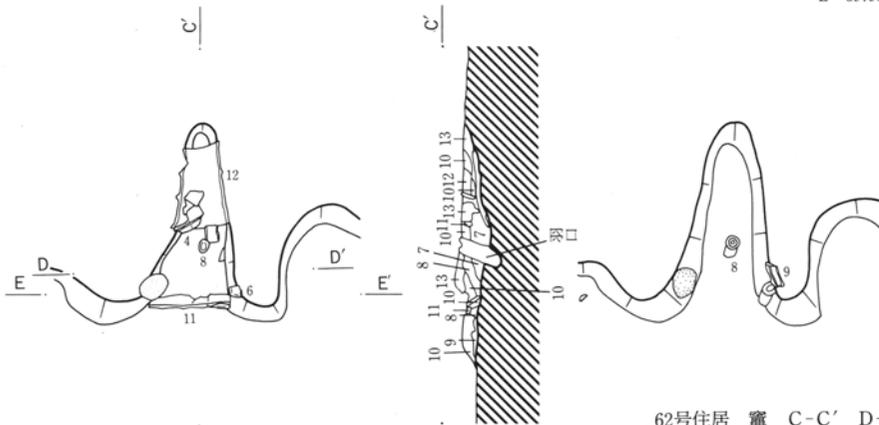


62号住居 A-A' B-B'

- 1 灰黄色細砂。
- 2 灰褐色土 焼土粒・炭粒含み、砂質シルトのしまった層。
- 3 5層よりも色の濃い砂層。
- 4 5層より更に灰色をした砂層であるが、炭化物を含み、5層と同様。
- 5 砂層 灰褐色・炭化物を含む。
- 6 灰層。

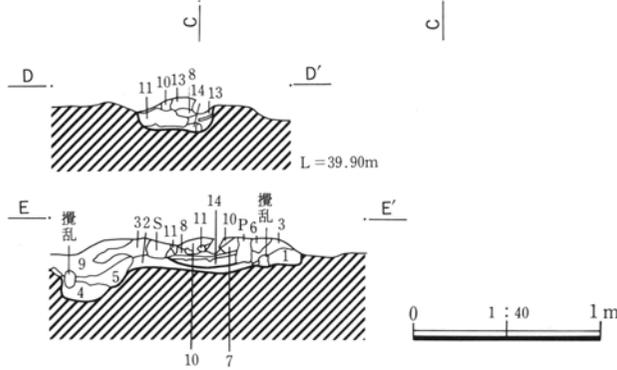
62号住居 床下土坑 F-F'

- 1 黄褐色土 黄白色粘土塊主体。粘性強い。
- 2 褐灰色土 黄白色粘土塊に灰褐色土混じる。焼土・炭粒含む。
- 3 褐色土 黄白色粘土塊を含む。
- 4 褐色土 黄白色粘土塊・焼土小塊・炭粒含む。

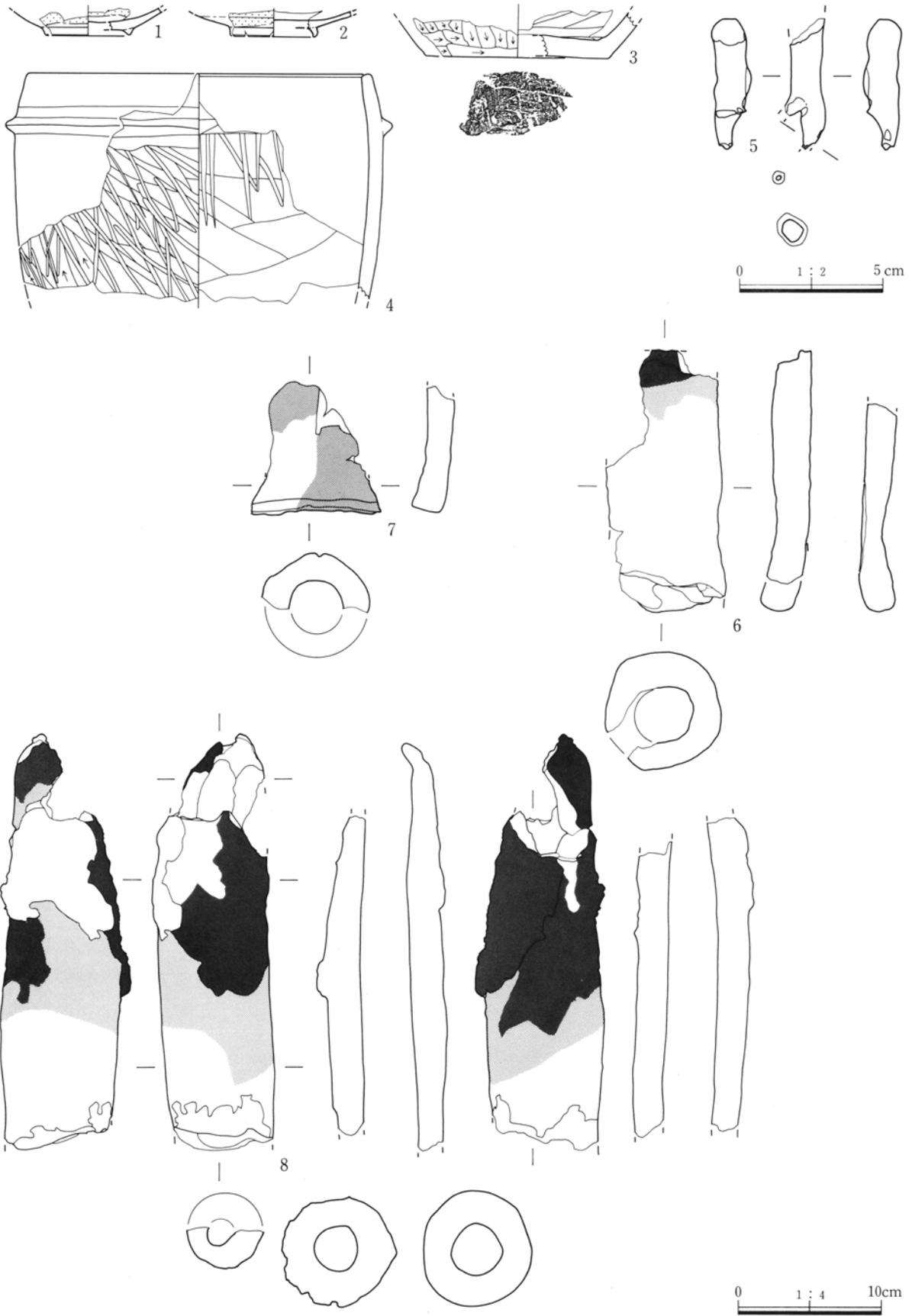


62号住居 竈 C-C' D-D' E-E'

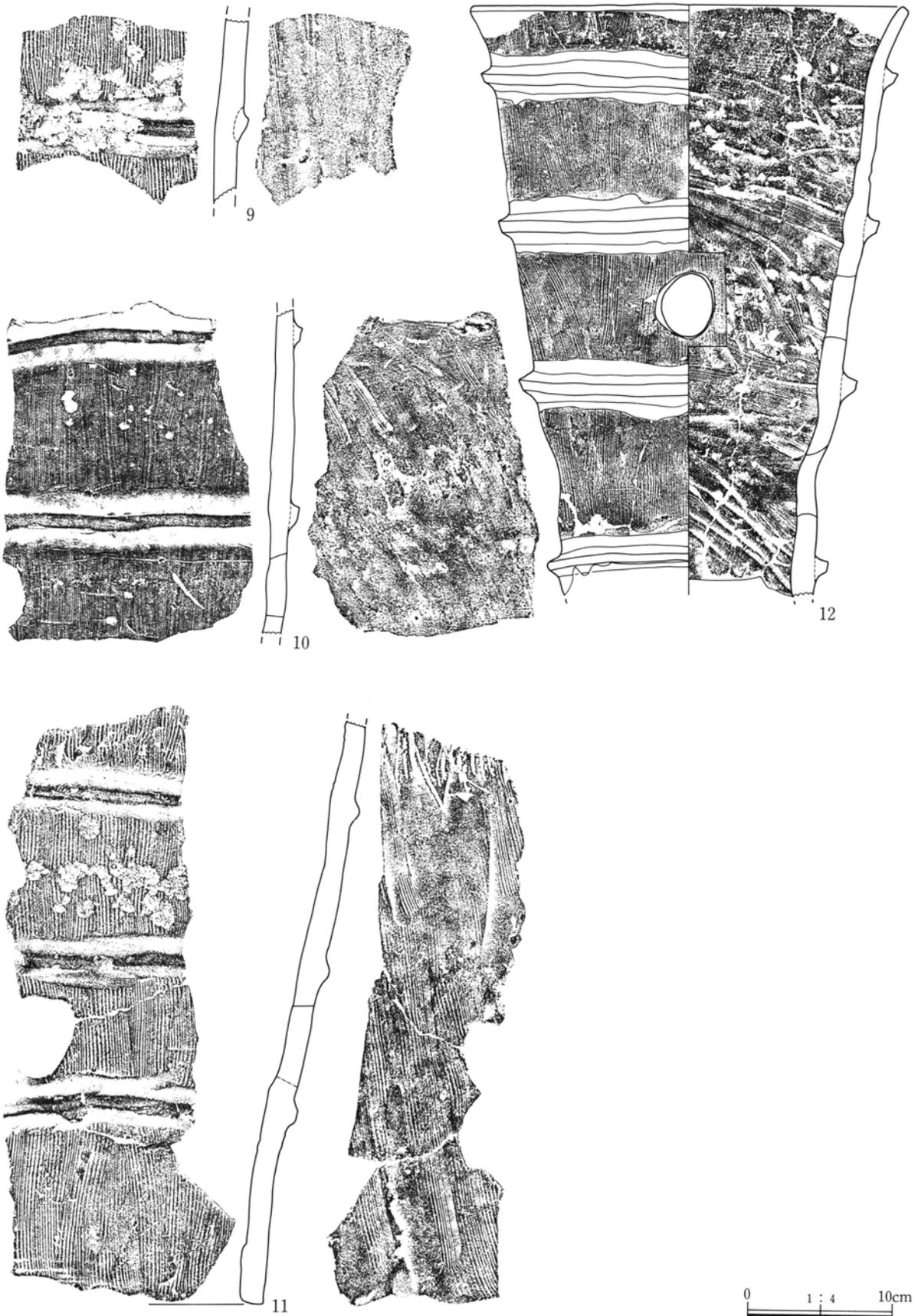
- 1 灰黄褐色土 炭化物少量含む。
- 2 黄褐色土 細砂含む。
- 3 褐色土 黄白色粘土塊散在。
- 4 灰黄褐色土 炭化物・黄白色粘土粒僅かに含む。
- 5 灰黄褐色土 炭化物を多く含み、黄白色粘土粒混じる。
- 6 黄白色粘土 竈構築材。
- 7 暗褐色土 焼土小塊・粒・黄白色小塊・粒混じり。
- 8 灰黄色土 シルト質。ローム塊・焼土塊含む。
- 9 灰褐色土 炭粒僅かに含む。
- 10 灰黄褐色土 黄白色小塊、炭粒混じりホクホクした層。
- 11 焼土。
- 12 明黄褐色土 灰白色シルト混じり。
- 13 明黄褐色土 ローム塊主体。焼土塊・灰混じり、ボソボソした層(天井崩落土)。
- 14 灰層。



第189図 62号住居



第190図 62号住居の出土遺物(1)



第191図 62号住居の出土遺物(2)

64号住居(第192~194図 PL60・61・153 遺物観察表P.381)

位置 A6区3V-36・3V, 3W-37グリッド

形状 西壁を下底とする、ややゆがんだ、南北に長い隅丸台形状の平面形を呈する。南壁はやや蛇行し、これと接続する両隅は丸みを持っているが、北壁は直線的で、両隅部は丸みが少ない。特に北東隅部は丸みを持たずに屈曲している。なお、北壁東端から北西隅を経て西壁中央やや南寄りまで、犬走り状の段がある。北壁の直線性やその両隅部が整っていること、西壁が長い形状を示すことなどは、この部分の拡張、ないし作り直しがあったことを示すものかと思われる。

規模 長辺 3.60m 短辺 3.40m 面積 14.24㎡

方位 南壁 N-71°-E

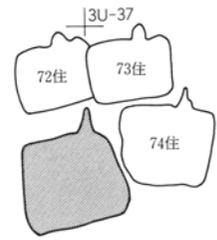
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 床面は炭化物を含む褐色砂壤土で埋まる。埋没土上位には多量のスス状炭化物を含む黒褐色の埴壤土が堆積している。

確認最大壁高及び壁の状況 22.5cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、住居中央部がやや高いが、ほぼ平らに仕上げられている。中央やや北寄りに床下土坑があり、その東にピットが認められた。

竈 東壁の南寄りを壁外にU字形に掘り込んで燃焼

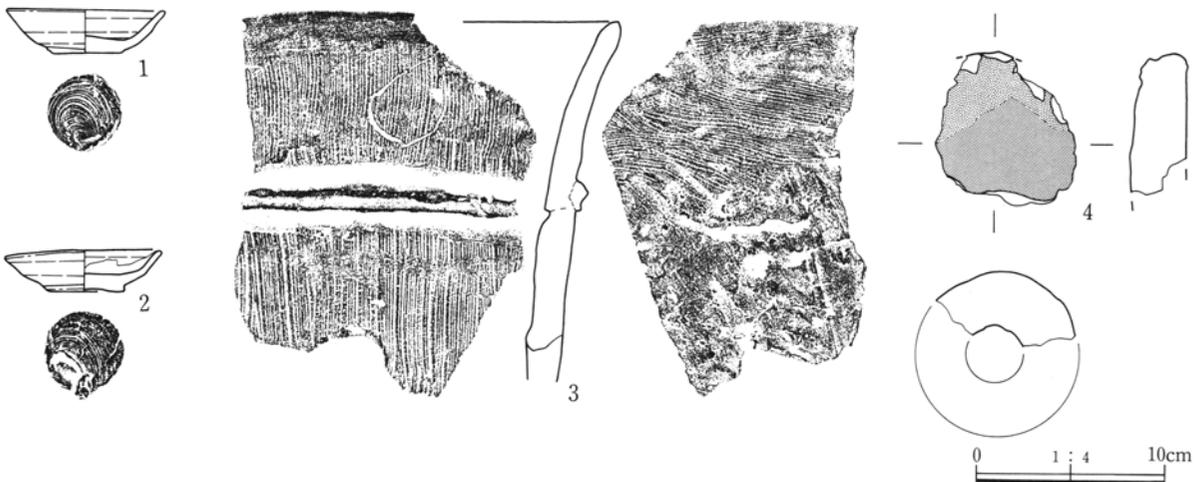


部の半ばを作り、煙道を延ばす。竈主軸は壁の方向よりやや南に振れて、N-96°-Eを示している。左右の袖に相当する部分に青灰色の粘土が見られ、特に左袖部では壁から40cmほど張り出している。燃焼部の壁面には青灰色粘土、白色粘土が貼られ、円筒埴輪口縁や朝顔形埴輪頸部の破片が倒立位で、外面を燃焼部内に向けて置かれている。確認長1.64m、燃焼部は左袖粘土残存部先端までの長さ88cm、幅50cmほどで、煙道との接続部は顕著な段を持たない。

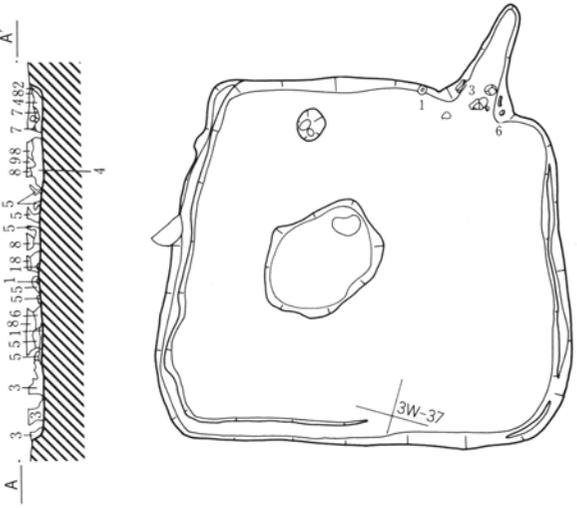
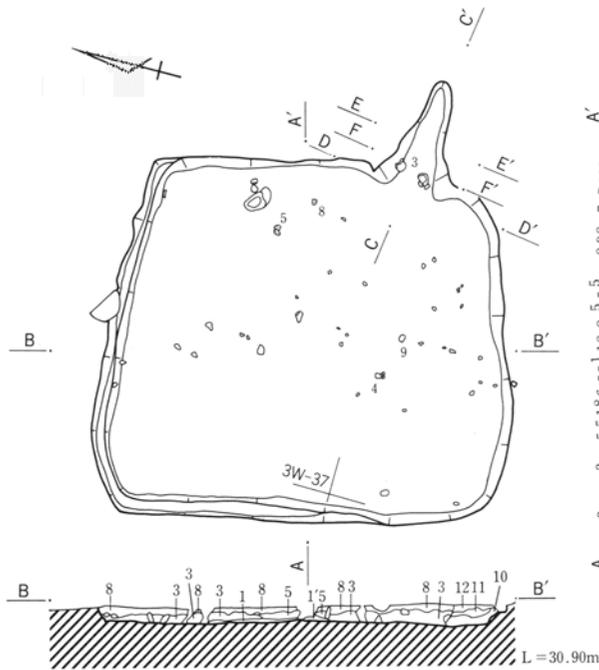
重複 住居中央部北寄りに炭化物の集中が見られ、その下層に炭化物を多く含む暗褐色壤土や多量のスス状炭化物を含む黒褐色壤土が見られ、特に炭化物が集中する部分もある。明確な遺構としてはとらえられないが、土坑状の落ち込みが見られ、鉄生産関連の残滓の廃棄等に用いられた可能性がある。

遺物と出土状況 埋没土中にスラグが多く見られるほか、土器片も散在するが、住居に伴うと認められる遺物はごく少ない。竈内の埴輪、竈左手の壁際から出土した坏などがある。

その他 平安時代(11世紀前半)



第192図 64号住居の出土遺物(1)

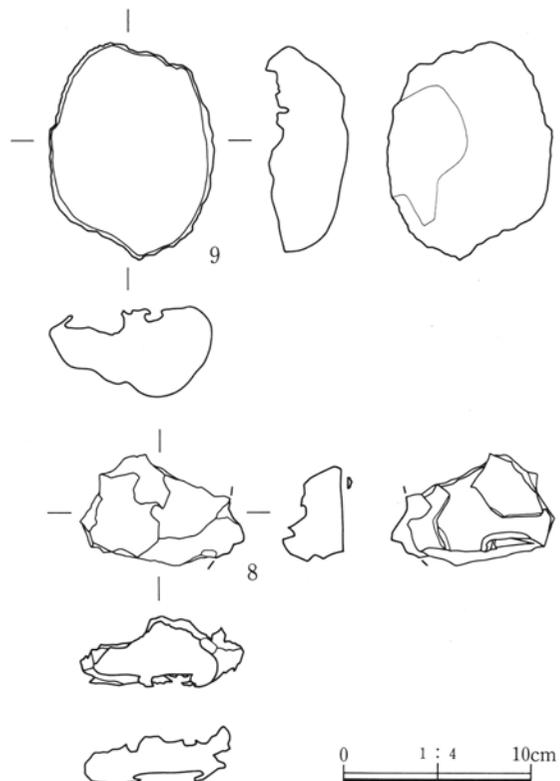


64号住居 A-A' B-B'

- 1 黒褐色埴壤土(10YR2/2)多量のスス状炭化物を含む。
- 1' におい黄橙(10YR6/4)におい黄橙色粘土の上面に炭化物層(厚さ2mm)が貼りついている。
- 2 褐色壤土(10YR4/4)炭化物を含まない。
- 3 褐色砂壤土(10YR4/4)炭化物を含む。
- 4 暗褐色砂壤土(10YR3/4)炭化物を少量含む。
- 5 暗褐色壤土(10YR3/3)炭化物を多く含む。

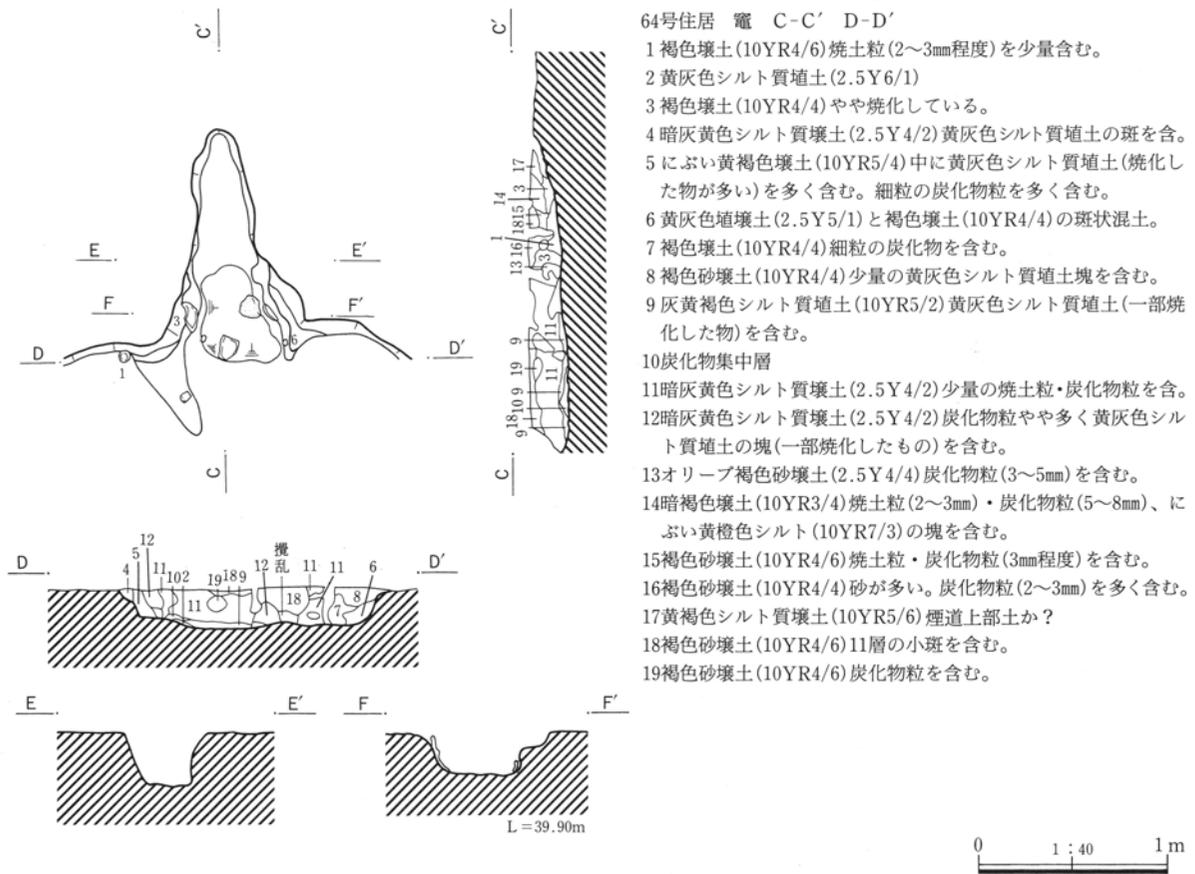
- 6 炭化物が特に多い。
- 7 におい黄褐色砂壤土(10YR4/3)砂多い。炭化物を含まない。
- 8 暗褐色砂壤土(10YR3/3)炭化物を含む。
- 9 焼土粒を含む。
- 10 灰黄褐色砂壤土(10YR4/2)炭化物を含まない。
- 11 暗褐色壤土(10YR3/4)炭化物を含まない。地山のにおい黄橙色シルトを含む。
- 12 褐色シルト質壤土(10YR4/6)炭化物を含まない。地山のシルトを11層より多く含む。

0 1:80 4m



0 1:4 10cm

第193図 64号住居と出土遺物(2)



- 64号住居 竈 C-C' D-D'
- 1 褐色壤土(10YR4/6)焼土粒(2~3mm程度)を少量含む。
  - 2 黄灰色シルト質埴土(2.5Y6/1)
  - 3 褐色壤土(10YR4/4)やや焼化している。
  - 4 暗灰黄色シルト質埴土(2.5Y4/2)黄灰色シルト質埴土の斑を含む。
  - 5 におい黄褐色壤土(10YR5/4)中に黄灰色シルト質埴土(焼化した物が多い)を多く含む。細粒の炭化物粒を多く含む。
  - 6 黄灰色埴壤土(2.5Y5/1)と褐色壤土(10YR4/4)の斑状混土。
  - 7 褐色壤土(10YR4/4)細粒の炭化物を含む。
  - 8 褐色砂壤土(10YR4/4)少量の黄灰色シルト質埴土塊を含む。
  - 9 灰黄褐色シルト質埴土(10YR5/2)黄灰色シルト質埴土(一部焼化した物)を含む。
  - 10 炭化物集中層
  - 11 暗灰黄色シルト質埴土(2.5Y4/2)少量の焼土粒・炭化物粒を含む。
  - 12 暗灰黄色シルト質埴土(2.5Y4/2)炭化物粒やや多く黄灰色シルト質埴土の塊(一部焼化したもの)を含む。
  - 13 オリーブ褐色砂壤土(2.5Y4/4)炭化物粒(3~5mm)を含む。
  - 14 暗褐色壤土(10YR3/4)焼土粒(2~3mm)・炭化物粒(5~8mm)、に  
おい黄橙色シルト(10YR7/3)の塊を含む。
  - 15 褐色砂壤土(10YR4/6)焼土粒・炭化物粒(3mm程度)を含む。
  - 16 褐色砂壤土(10YR4/4)砂が多い。炭化物粒(2~3mm)を多く含む。
  - 17 黄褐色シルト質埴土(10YR5/6)煙道上部土か?
  - 18 褐色砂壤土(10YR4/6)11層の小斑を含む。
  - 19 褐色砂壤土(10YR4/6)炭化物粒を含む。

第194図 64号住居竈

65号住居(第195・196図 PL61・153・154 遺物観察P.381)  
 位置 A6区3T,3U-33~35グリッド  
 形状 上面の削平が著しいが、平面形はとらえられる。南北に長い横長長方形を基本とする平面形状と思われるが、南壁がやや短いため、北壁を下底とする台形状の平面形を呈することとなる。北東隅はトレンチに切られていて屈曲状況を把握できないが、他の三隅はやや丸みを持って屈曲する。  
 規模 長辺 4.00m 短辺 3.04m 面積 11.62㎡  
 方位 N-82°-E  
 柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。  
 埋没土 黄白色土の小塊を含むしまった灰褐色土で埋まっている。部分的に焼土粒、炭化物粒を少量含むにおい黄橙色土が見られる。  
 確認最大壁高及び壁の状況 7cm。上面が削平されていて、詳細な観察はできなかった。わずかに上方

に開くが、やや丸みを持って立ち上がっている。  
 床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。東北隅に長径109cm、短径86cm、深さ30cmほどの大きさで、楕円形の平面形を呈する床下土坑があり、焼土粒を含む細砂を主体とする褐灰色土で埋まっている。  
 竈 東壁の南端近くにあつて、壁外にU字形に掘り込んで燃焼部を作り、煙道を延ばす。袖は認められない。確認長1.34m、燃焼部幅50cm。構築材に用いられたと考えられる灰白色のシルト質粘土が周辺に広がるように残っており、竈の前部には焼土塊や灰も広がっている。燃焼部内からは埴輪小片が出土していて、本遺跡の他の例から見て構造材に用いられた可能性もあるが、比較的小きな破片であるため確定できない。粘土の広がり方などから、意図的に壊された竈であろうとの所見が得られている。

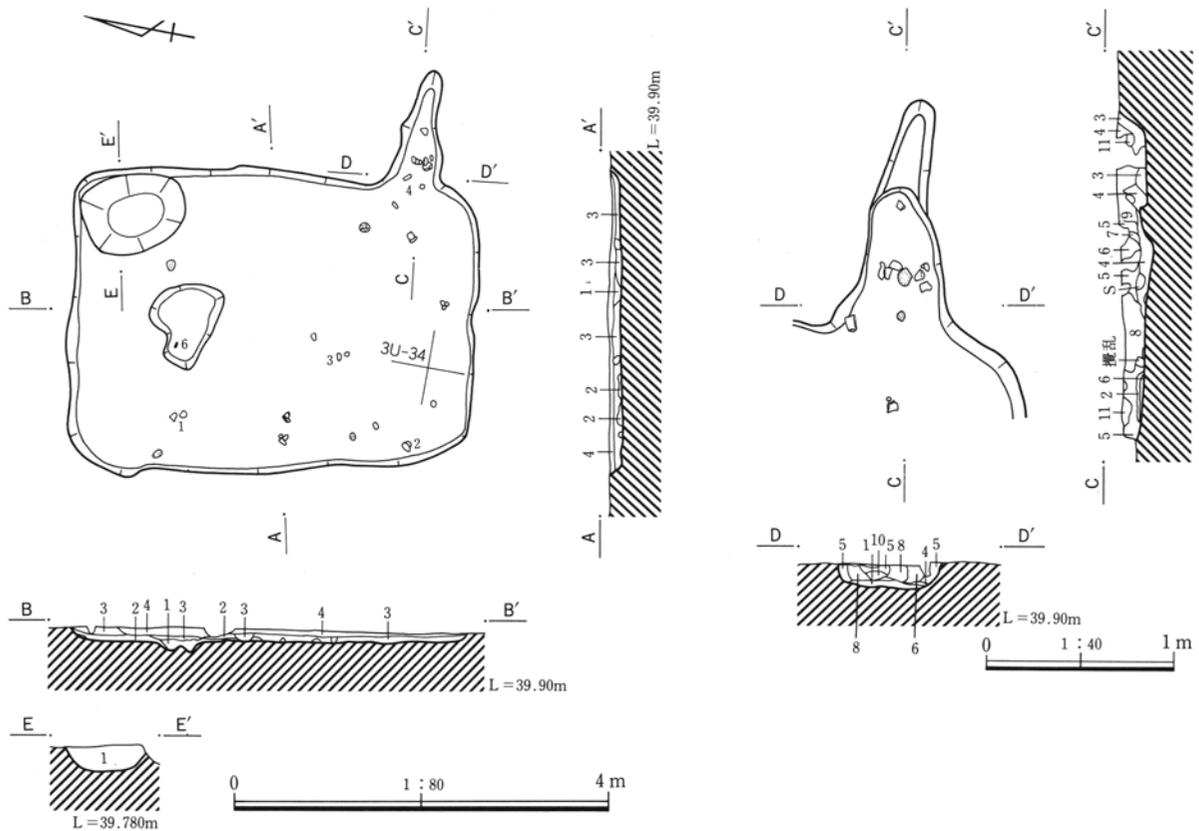
第3章 検出された遺構と遺物

重複 住居中央部北寄りに炭化物の集中が見られ、焼土塊を含む灰色細砂がその下層にある。明確な遺構としてはとらえられないが、住居中央北寄りに不整形の土坑があって、この周辺にこれら炭化物等が集中するところから、住居廃棄後の埋没途中で一部が掘られ、鉄生産関連の残滓の廃棄等に用いられた可能性があるだろう。

遺物と出土状況 竈及びその周辺に集中し、他は住

居全体に点在するが、北東隅部にはほとんど認められない。いずれも小破片である。

その他 平安時代(10世紀後葉)



65号住居 A-A' B-B'

- 1 焼土塊含む、灰色細砂
- 2 にぶい黄橙色土 細砂の絞まった土。炭粒・焼土粒少量見られる。
- 3 灰褐色土 しまり強く、黄白色土小塊混じる。
- 4 灰褐色土 焼土・炭粒を僅かに含み、サクサクした砂質土。

65号住居 竈 C-C' D-D'

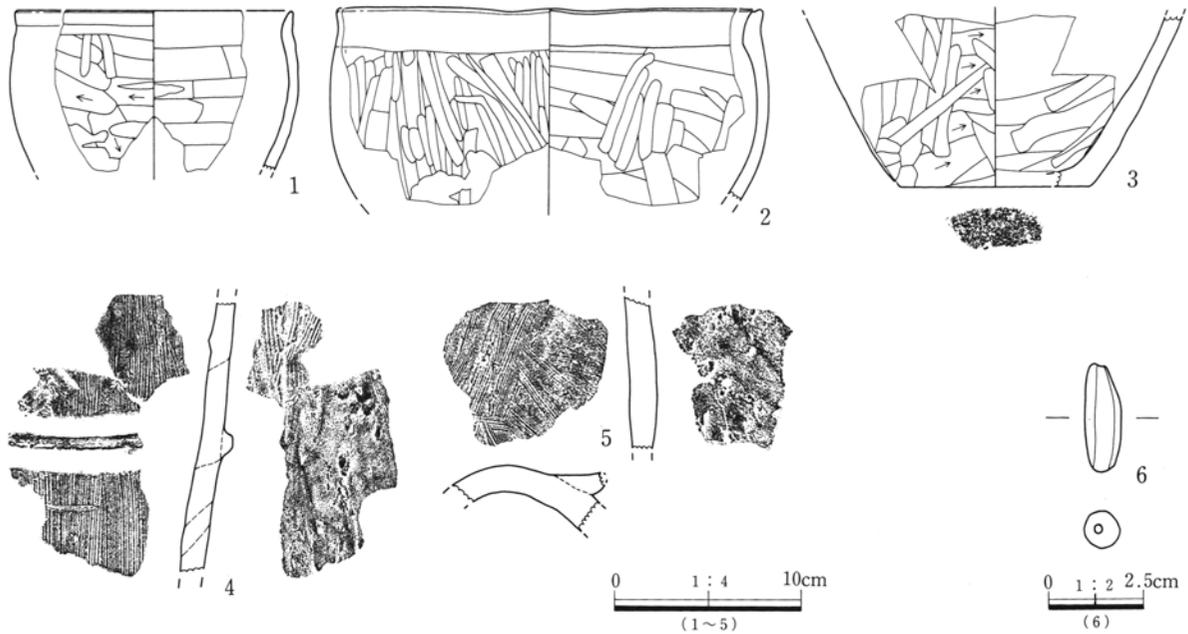
- 1 暗褐色土 焼土・灰・炭が僅かに含む。
- 2 黒褐色土 灰層。
- 3 黒褐色土 灰層縞状に入り、その間に焼土塊・黄褐色塊(ロームに似る)混じる。

- 4 黒褐色土 灰層に焼土小塊混じる。
- 5 灰褐色土 6層のくすんだ層。焼土塊含む。
- 6 明黄色土 粘質土。竈構築土。
- 7 灰褐色土 灰色粘質土主体。灰黄色土塊含む。
- 8 くすんだ灰黄褐色土 焼土粒・小塊・炭粒入り混じる。
- 9 灰褐色土 焼土塊・灰黄色土小塊・まだらに入り混じる。
- 10 灰褐色土 焼土塊・灰・炭化物混じる。
- 11 褐色土 灰白色土小塊・炭粒僅かに含む。

65号住居 床下土坑 E-E'

- 1 褐灰色土 上層に僅かに炭・焼土粒含む。下層に僅かに焼土粒含む。細砂主体。

第195図 65号住居



第196図 65号住居の出土遺物

66号住居(第197図 PL61・62・154 遺物観察表P.381)

位置 A6区3S-32,33グリッド

形状 南北にやや長い横長長方形の平面形を呈する。北東隅は竈右手から貯蔵穴の形態に沿って丸みながら南壁につながっている。北壁の両隅はやや丸みを持って屈曲する。竈より北側は整った長方形状だが、竈以南はややゆがんでいる。

規模 長辺 3.04m 短辺 2.70m 面積 8.68m<sup>2</sup>  
方位 N-77°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈右手に当たる南東隅にある。直径75cmほどのほぼ円形の平面形を呈していて、深さは床面から12cmほどある。底面は平坦面を持たず、皿状に窪んでいる。

埋没土 明灰色の砂と、灰褐色のシルト質の緻密な土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 13cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。比較的強い立ち上がりを示すが、南壁の西部のみは崩れたように上部に開いている。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが

ほぼ平らに仕上げられる。暗オリーブ褐色の粘質土で貼り床されている。

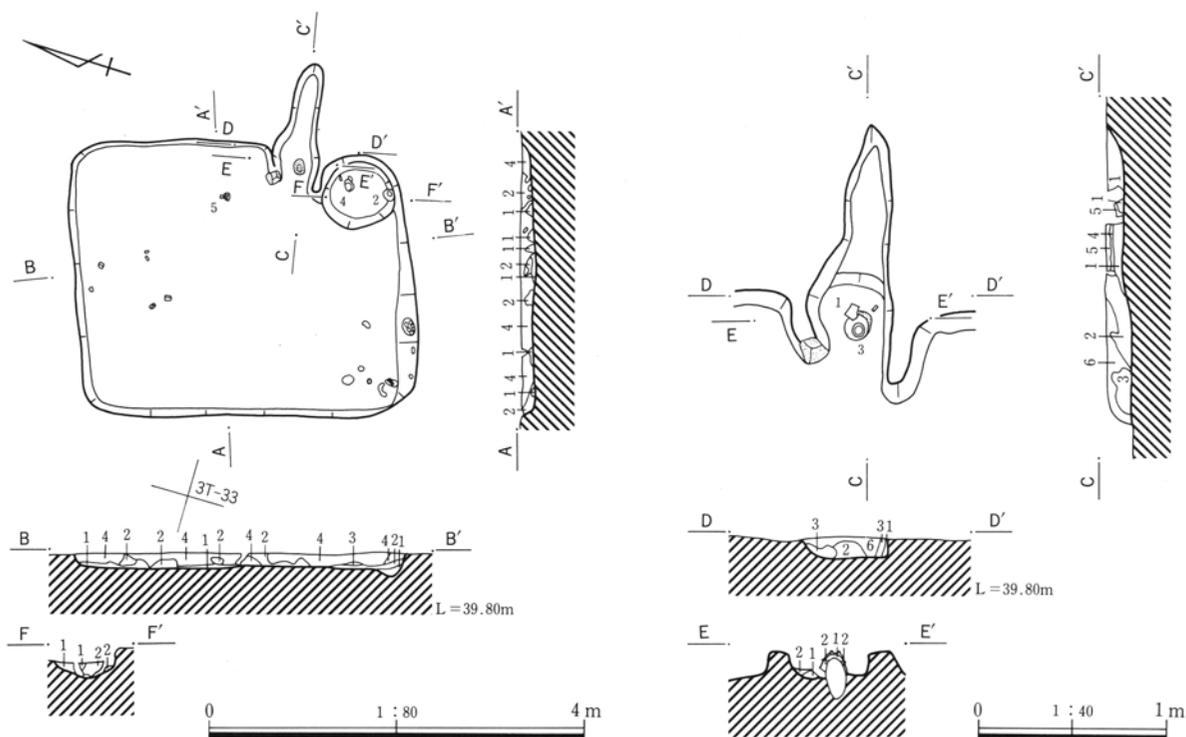
竈 東壁の南寄りを半円形に掘り込んで燃焼部の半ばを作り煙道を延ばす。左右ともに地山を掘り残して袖を作る。右袖は直線的に住居内に突きだし、左袖は湾曲して燃焼部を囲む。左袖先端に焚き口の構造材であろう礫が立てられている。燃焼部中央には支脚と見られる礫が立てられていて、ここから坏が出土している。燃焼部と煙道は小さな段を持って接続している。確認長1.46m、燃焼部幅46cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる青灰色の粘土が粒子状に集中し、あるいは小塊状に砕けて見られる。竈前部には炭化物が広がっている。

重複 なし。

遺物と出土状況 竈、貯蔵穴及びその周辺から坏類が出土している。他は細片で、住居中央北寄りと南西隅近くにあつて、中央部からの出土はない。

その他 平安時代(10世紀前葉)

第3章 検出された遺構と遺物



66号住居 A-A' B-B'

- 1 明灰色砂状の層。
- 2 暗灰褐色 ボソボソとした植物腐食が混じった層。
- 3 暗オリーブ褐色の粘土状 (住居の床)
- 4 灰褐色 シルト質。サラサラした緻密な土壌。

66号住居 貯蔵穴 F-F'

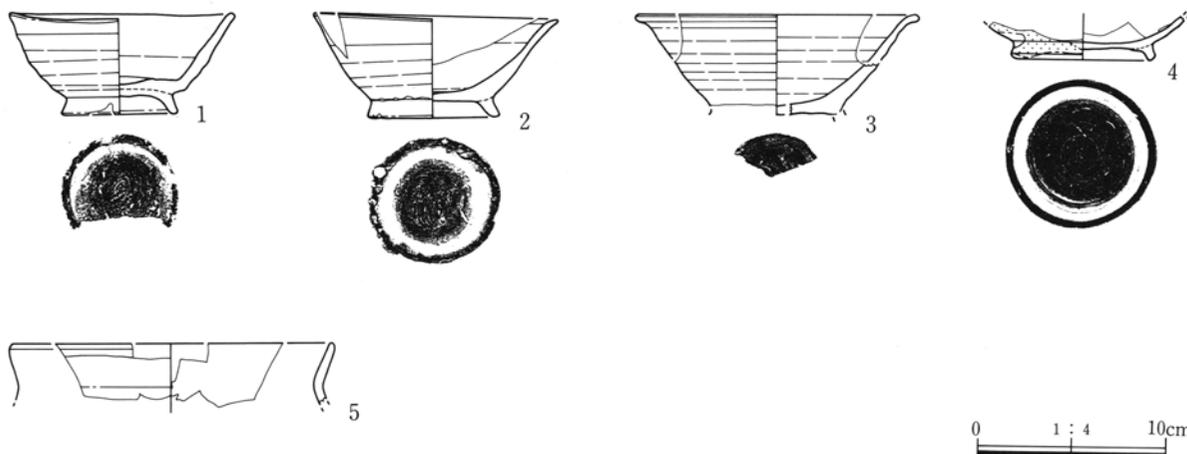
- 1 灰褐色土(白っぽい) 炭粒僅かに含む。細砂も含む。
- 2 灰褐色土 炭粒僅かに含む。細砂含み、粘性しまりあり。

66号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 明灰色のシルトを含む。
- 2 暗褐色 青灰色の粘土粒・焼土粒が混じるが1層の土より粗くボソボソしている。
- 3 暗褐色 焼土粒が混じる、サラサラした土壌。
- 4 褐色土 構築材の粘土が小塊状にくだけた層。
- 5 黒灰色 灰層。
- 6 褐色土 炭化物・焼土・青灰色の粘土粒が混じる。

66号住居 竈 E-E'

- 1 にぶい橙褐色土 青灰色粘土が熱を受け焼土化した土。煉瓦状。
- 2 オリーブ褐色土 青灰色粘土塊・灰・黄褐色土の混土。



第197図 66号住居と出土遺物

67号住居 (第198図 PL62)

位置 A6区3N, 3O-31, 32グリッド

形状 住居床面と考えられる硬化面と、その中央部の炭化物の広がりを確認したのみであるため、全体の形状は分からない。方形ないし長方形と考えられる。

規模 南西辺長 3.22m 南東辺確認長 2.28m

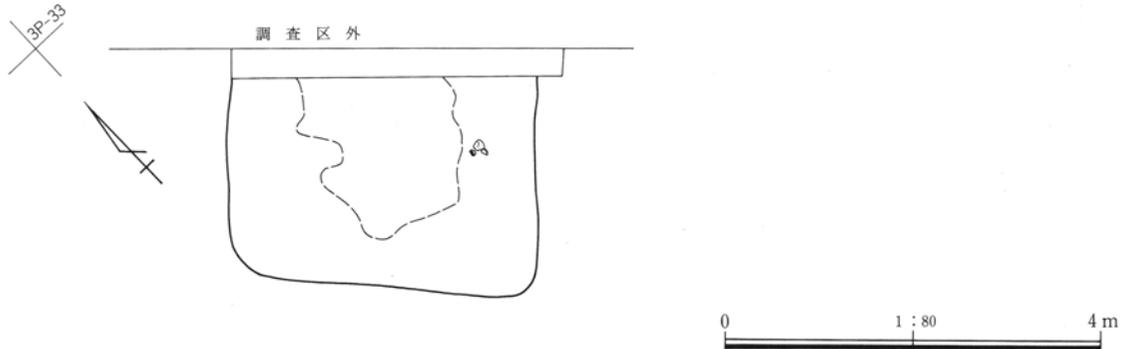
方位 N-42° -W (南東辺)

柱穴・周溝・貯蔵穴・竈 確認できない。

重複 なし。

遺物と出土状況 なし。

その他 平安時代



第198図 67号住居

68号住居 (第199・200図 PL62・63・154 遺物観察表P.381)

位置 A6区4C, 4D-43, 44グリッド

形状 南北に長い横長長方形。南壁の大半と南東隅部を69号住居より古い。他の三隅はやや丸みを持って屈曲する。

規模 長辺 3.94m 短辺 3.02m

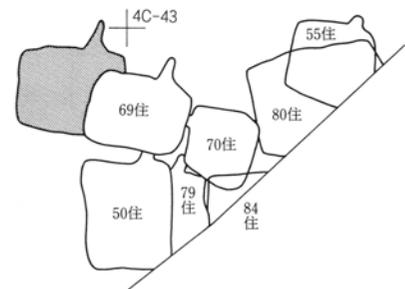
方位 N-95° -E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 灰白色土の小塊を含む褐色砂質土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 34cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。竈右手に当たる東南隅に土坑がある。直径75cmほどのゆがんだ円形の平面形を呈し、深さは床面から20cmほどある。底面は緩やかに窪む。最下層の埋没土は竈の袖材と同じ褐色粘土で、その上位に黒色の灰層と灰白色シルト層の薄い互層などが見られる。位置的には



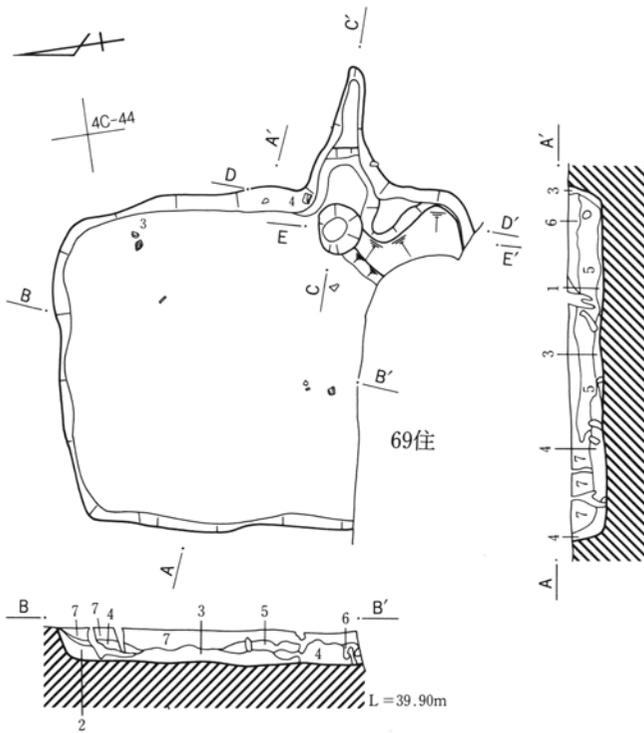
貯蔵穴としても良いが、遺物の出土はなく、竈の袖がこの土坑の埋没土を切る形で作られる。

竈 東壁の南端近くをU字形に掘り込んで燃焼部を作り煙道を延ばす。左袖はないが、右袖部は地山を削り残し、褐色粘土を貼っている。確認長1.96m、燃焼部幅50cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる褐色粘土が見られる。燃焼部手前の使用面下には直径55cmほどの大きさで、床面からの深さ35cm、ゆがんだ円形の平面形を呈するピットがある。

重複 69号住居より古い。

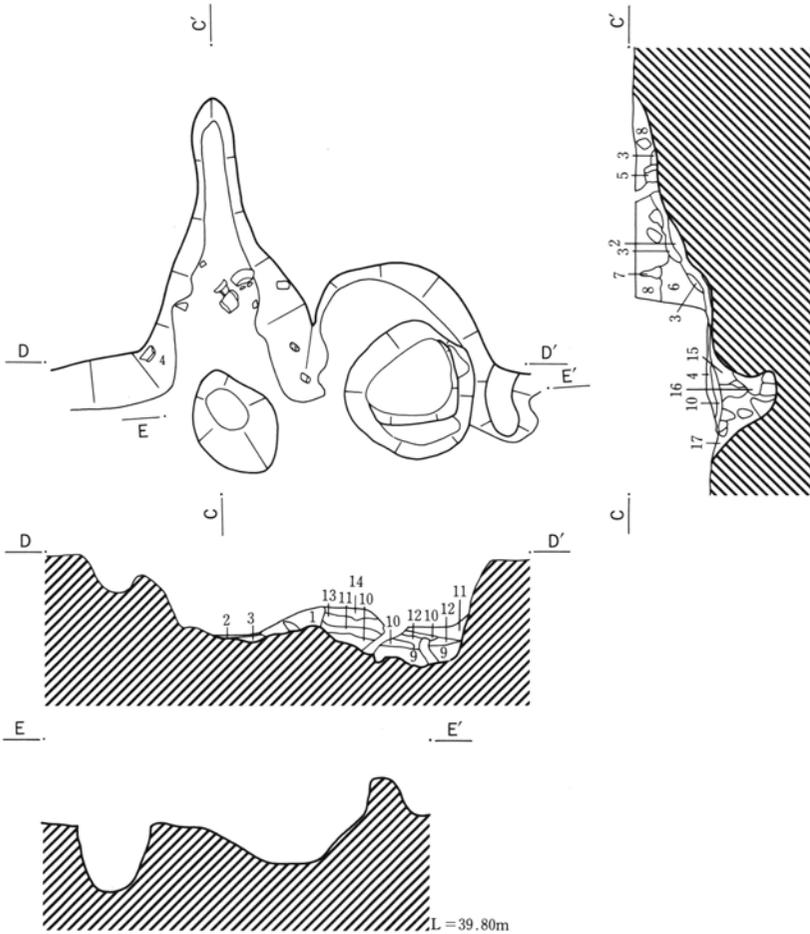
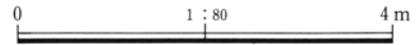
遺物と出土状況 遺物数はごく少なく、竈内にややまとまった破片が見られるのみである。

その他 平安時代 (10世紀前葉)



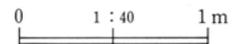
68号住居 A-A' B-B'

- 1 灰黄褐色土 灰褐色土小塊に炭化物含む。床面？
  - 2 灰黄褐色土 夾雑物少なくシルト質土。洪水砂。
  - 3 灰褐色土 灰白色・灰褐色土小塊をまだらに含む。細砂塊含む。
  - 4 灰褐色土 灰白色小塊を斑点状に含む。シルト質土。
  - 5 灰黄褐色土 シルト質土に灰白色粒・小塊がまだらに含む。灰褐色土粒混じる。
  - 6 灰黄褐色土 夾雑物少ない、シルト質土。
  - 7 ぶい褐色土 シルト質、焼土粒・炭粒・灰褐色土粒を点々と含む。
- 3・4・5は洪水砂？

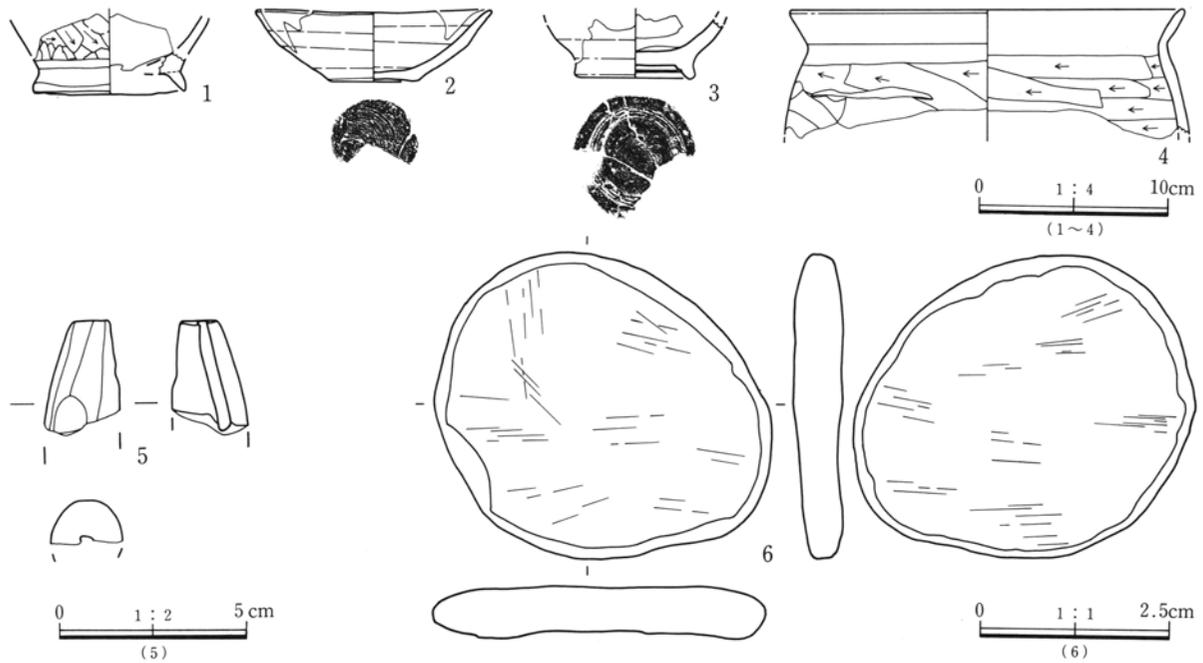


68号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 褐色粘土 袖。
- 2 黒褐色土 青灰色の灰層と黒色灰、及び焼土塊混じり。
- 3 橙色土 焼土化したシルト質土。焼土塊混じり。
- 4 暗褐色土 焼土塊・炭粒混じり。
- 5 橙色 焼土・灰・青灰色シルト混じり。
- 6 灰褐色土 焼土粒・炭粒含む。粘性強い(天井崩落?)。
- 7 黄褐色土 シルト質。黄白色土小塊含む。
- 8 ぶい黄色 夾雑物少ないシルト・黄白色小塊斑点状に含む。
- 9 褐色粘土 竈袖と同じ。竈構築材。
- 10 黒色灰層 灰白色シルト縞状に薄く互層に堆積。
- 11 黒色灰層 灰白色シルト小塊僅かに含む。
- 12 灰黄褐色土(やや暗い)
- 13 灰黄褐色土(やや暗い)14層より灰を多く含む、焼土粒僅かに含む。
- 14 灰黄褐色土 灰白色シルト塊と灰の混土。
- 15 灰白色シルト。
- 16 灰白色細砂。
- 17 灰白色シルト小塊を混じる灰層。



第199図 68号住居



第200図 68号住居の出土遺物

69号住居

(第201~206図 PL63・64・154・156 遺物観察表P.382・383)

位置 A6区4C, 4D-42, 43グリッド

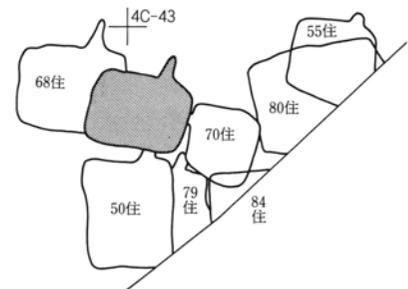
形状 南北にやや長い、横長の隅丸長方形の平面形を呈する。南壁の両隅はやや丸みが強く、北壁の両隅も丸みを持って屈曲する。東西壁ともに中央近くがややくびれる。

規模 長辺 3.50m 短辺 2.92m 面積 10.30㎡

方位 N-105°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 南西隅部にある。南北98cm、東西76cmほどの大きさで、床面からの深さは38cmほどある。楕円形の平面形を呈している。底面は平坦に掘られている。灰白色土塊を斑状に含み、焼土、炭化物をわずかに含む灰黄褐色土で埋まる。埋没土の中位から土器片が出土している。竈右袖前の灰面下に白色粘土を貼った部分があり、ここで検出した浅い円形土坑も位置から見て貯蔵穴として用いられたものと想定している。直径50cmほどの大きさで、円形の平面形を呈している。深さは6cmほどしかなく、皿状の断面形を呈する。



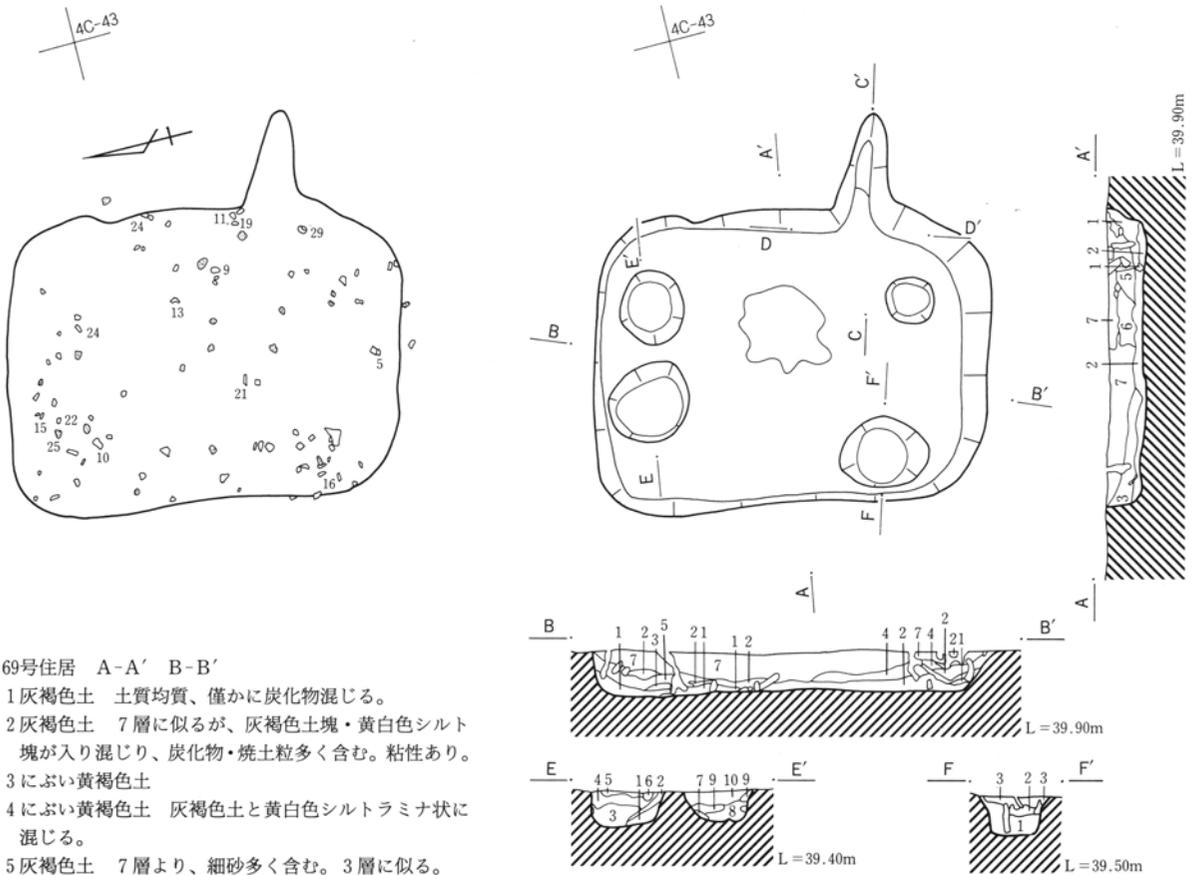
埋没土 灰褐色土や黄褐色土塊が入り混じり、炭化物、焼土粒などを多く含む灰褐色土で埋まっている。確認最大壁高及び壁の状況 21cm。やや丸みを持って立ち上がる。地山が砂質土で、これに掘り込まれているため、崩落したものか、上方への開きがやや強い。

床面の状況及び床下施設等 住居中央部の床面が周囲よりやや高くなっている。堅くしめる。貼り床はない。住居中央部やや東寄りには灰や炭化物の広がる部分がみられる。北壁際に二基並んで土坑がある。西側のNo.1土坑は直径88cmほどの大きさで、深さは40cmほどある。円形の平面形を呈している。底面は比較的平坦で、コの字に近い断面形状である。埋没土の最上位は床面と同様であるが、炭化物や焼土が

第3章 検出された遺構と遺物

周囲の床面より多く含まれる。下位は黄白色土の小塊を斑状に含む褐灰色土で、埋め戻されたものとの所見を得ている。東側のNo.2土坑は東西76cm、南北70cmほどの大きさで、楕円形の平面形を呈している。深さは35cmほどある。底面は丸みを持ち、半円形の断面形状を示す。埋没土は褐灰色土を主体とし、上層には炭化物や焼土を含む。ともに床下土坑と判断される。

竈 東壁の南寄りを壁外にU字形に掘り込んで燃焼部の半ばを作り、煙道を延ばす。袖はない。確認長1.75mで、燃焼部幅38cm。燃焼部奥で段差を持って煙道に続く。地山がオリブ黄色の細砂であるため、崩落を防止するためであろう、構築にあたって白色の粘土を貼っている。さらに奥壁部には、板状の形象埴輪（家形埴輪）の大きな破片や円筒埴輪を用いて補強を施している。掛け口には朝顔形埴輪の円筒



69号住居 A-A' B-B'

- 1 灰褐色土 土質均質、僅かに炭化物混じる。
- 2 灰褐色土 7層に似るが、灰褐色土塊・黄白色シルト塊が入り混じり、炭化物・焼土粒多く含む。粘性あり。
- 3 におい黄褐色土
- 4 におい黄褐色土 灰褐色土と黄白色シルトラミナ状に混じる。
- 5 灰褐色土 7層より、細砂多く含む。3層に似る。
- 6 灰褐色土 灰褐色シルトと細砂がラミナ状に入っているようにみえる。炭化物・焼土粒僅かに含む。
- 7 灰褐色土 焼土粒・炭化物含む。斑鉄多く含む。細砂粒少量混じる。

69号住居 貯蔵穴1 F-F'

- 1 灰黄褐色土 灰白色塊をまだらに含み、焼土・炭粒僅かに含む。
- 2 灰黄褐色土 灰白色塊と灰褐色塊の混土。焼土・炭粒含み土器片混じる。(灰白色塊は灰白色と白色シルトがラミナ状に交互に入りやや固くしまった層)
- 3 褐灰色土 黄白色粒・炭粒僅かに含む。(床面の様な固くしまった層ではない)

69号住居 床下土坑1・2 E-E'

- 1 褐灰色粘質土 地山に比べ砂質。
- 2 褐灰色粘質土 黄白色小塊僅かに混じる。
- 3 褐灰色土 黄白色小塊含み、細砂塊状に混じる。
- 4 褐灰色土 黄白色小塊まだらに含み、粘性強い。
- 5 灰褐色土 土質密、炭化物含み黄白色粒含む。
- 6 灰褐色土 焼土・炭粒含む。
- 7 におい黄褐色土 粘性強い。
- 8 灰褐色土 炭粒・炭化物・黄白色小塊含む。
- 9 灰褐色土 黄白色小塊混じり。
- 10 灰褐色土 焼土粒・炭粒・黄白色粒僅かに含む。

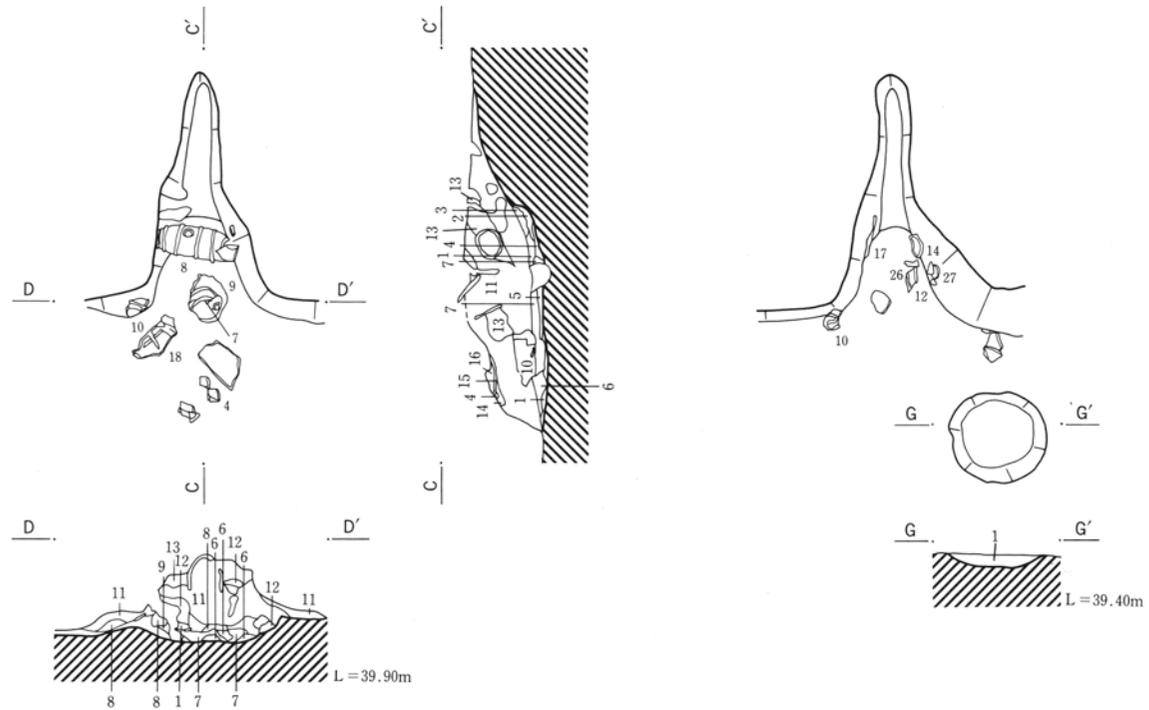
第201図 69号住居

部を横位に架設している。焚き口付近からも円筒埴輪が見られ、これも構造材として利用されたものであろう。

重複 50号・68号・70号住居より新しい。

遺物と出土状況 竈及びその周辺には構築材とされた埴輪破片がまとまる。円筒埴輪や家形埴輪、馬形埴輪などがある。埋没土上位から礫、スラグ、羽口片、釘などの鉄製品片が多数出土している。これらの鉄生産関連遺物は、住居廃絶後、埋没途中に周辺にあった鉄生産関連炉から廃滓されたものと考えられる。

その他 平安時代（10世紀中葉）



69号住居 竈 C-C' D-D'

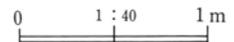
- 1 灰褐色土 夾雑物少ない。
- 2 淡赤褐色土 地山細砂質土の焼土化した層。
- 3 赤褐色土 焼土塊主体。黄褐色塊含む。
- 4 黒褐色土 しまった灰層。煙道側、焼土塊混じる。
- 5 黒褐色土 灰層。僅かに焼土含む。
- 6 黒褐色土 灰と黄白色シルトが数mm単位で互層に堆積。
- 7 黒褐色土 焼土・灰・炭の混土。
- 8 灰白色土 白色粘土主体。灰褐色粘土含む。
- 9 灰褐色土 白色粘土小塊・焼土塊混じり。粘性強い。

10 灰黄白色シルト 灰褐色土塊混じる。

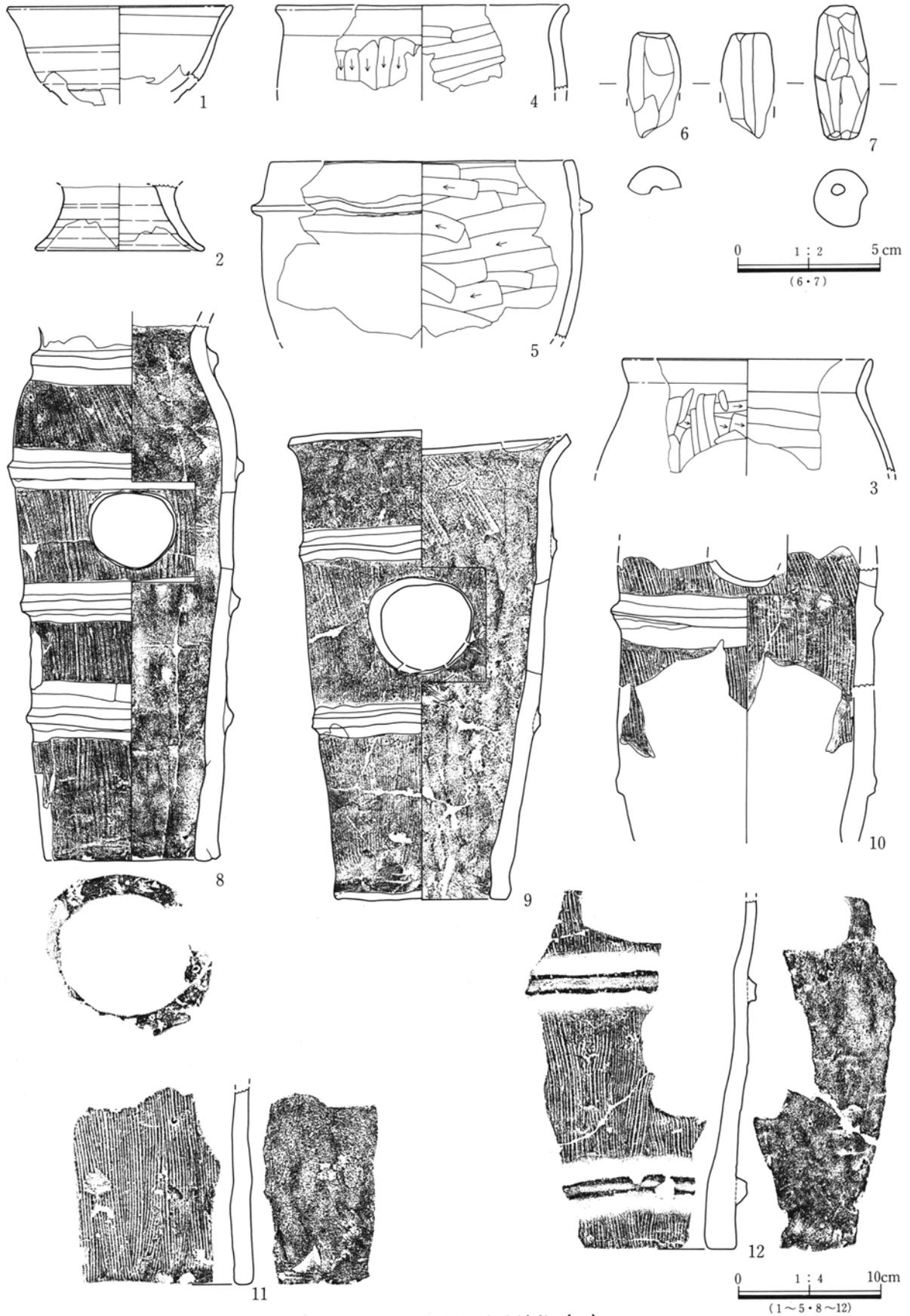
- 11 灰褐色土 黄白色小塊・炭粒を斑点状に含む、シルト質土。
- 12 灰褐色土 白色粘土塊との混土。
- 13 灰褐色土 黄白色小塊を多く含む、炭粒含む。粘性あり。
- 14 黄褐色細砂
- 15 黄白色シルト
- 16 灰褐色土 灰白色シルト小塊・炭粒含む。

69号住居 貯蔵穴2 G-G'

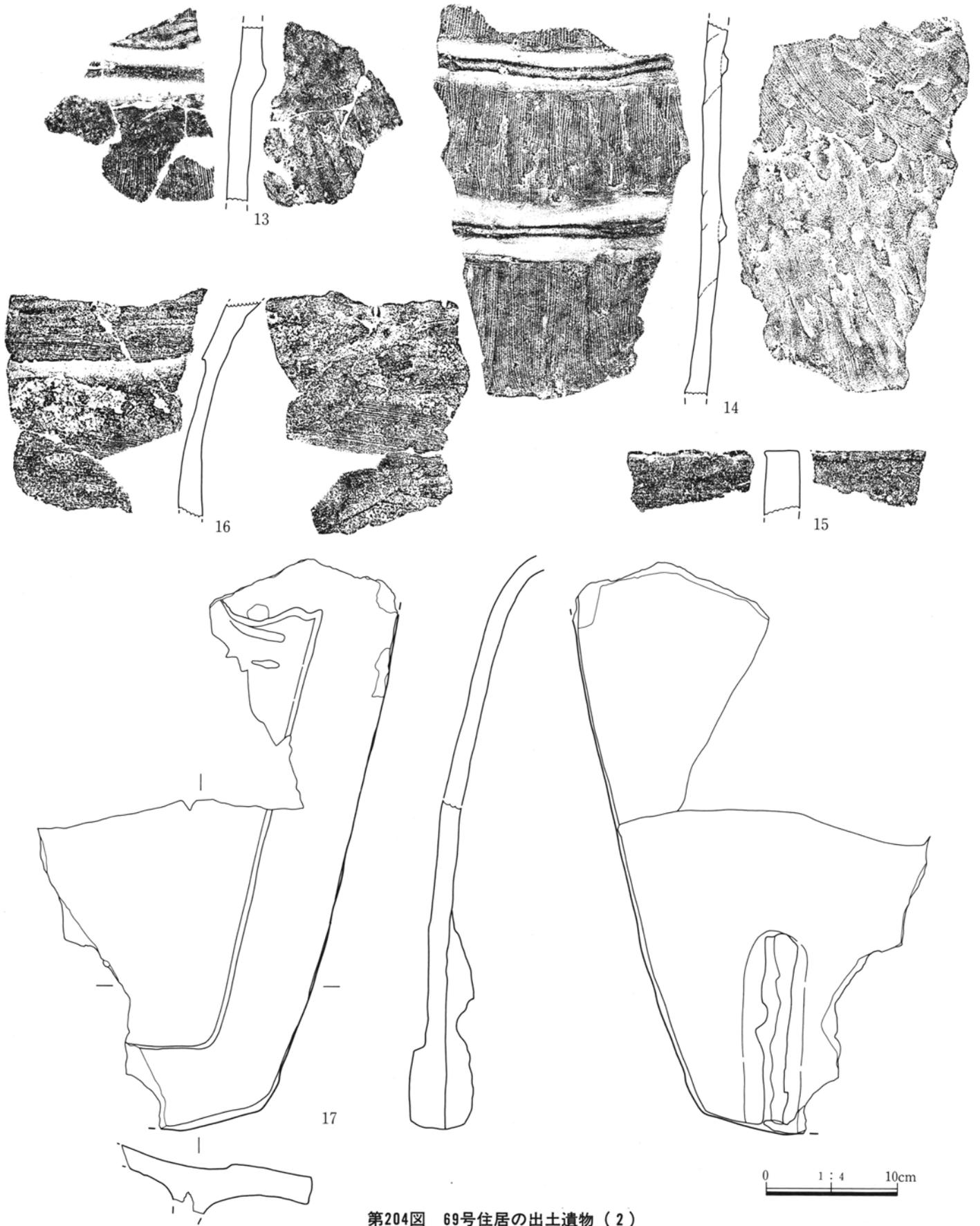
- 1 褐色(灰色)粘質土に、白色粘土塊(1~3cm大)入り混じる。僅かに炭化物含む。(上面に灰層堆積)



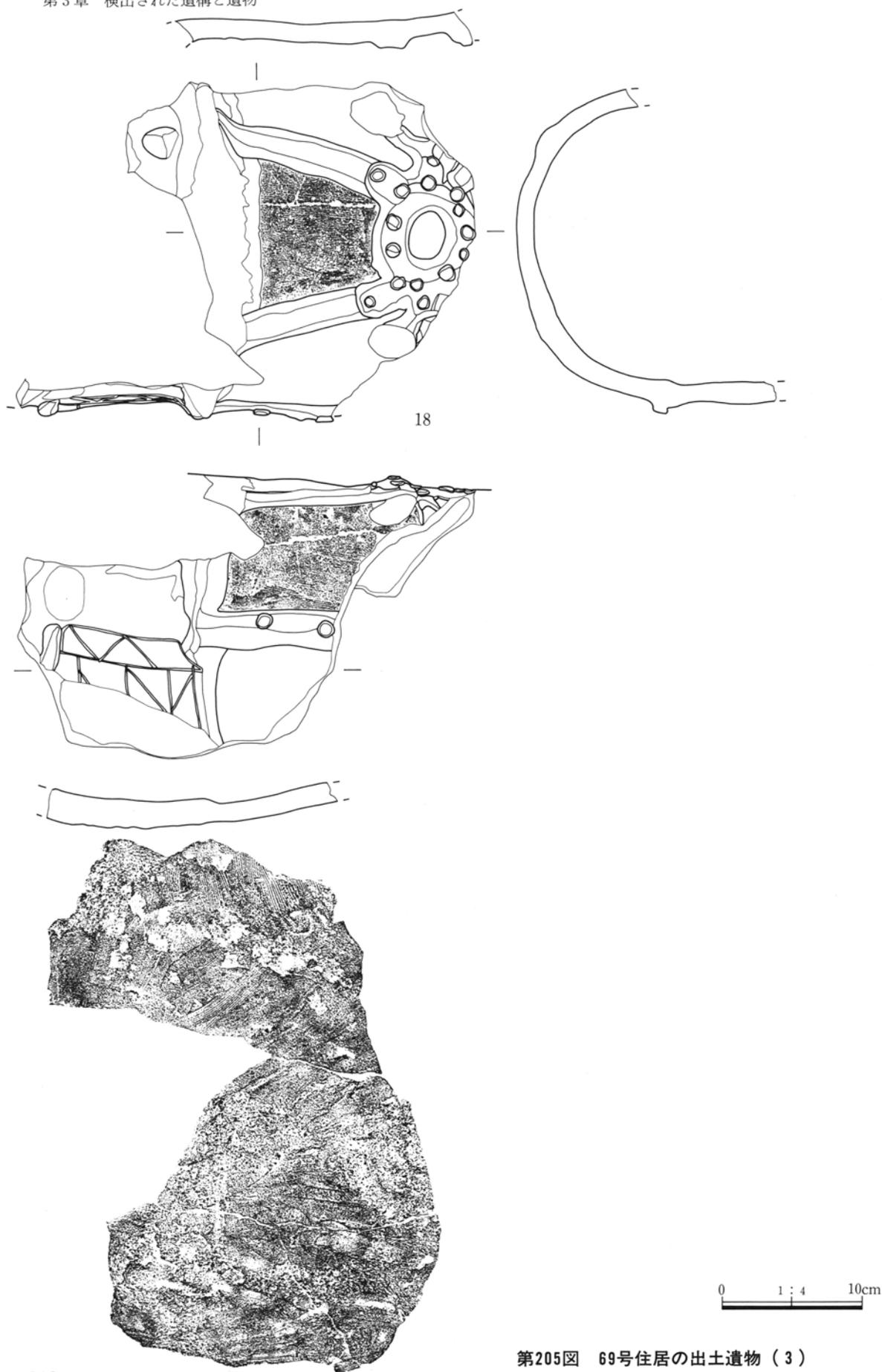
第202図 69号住居竈



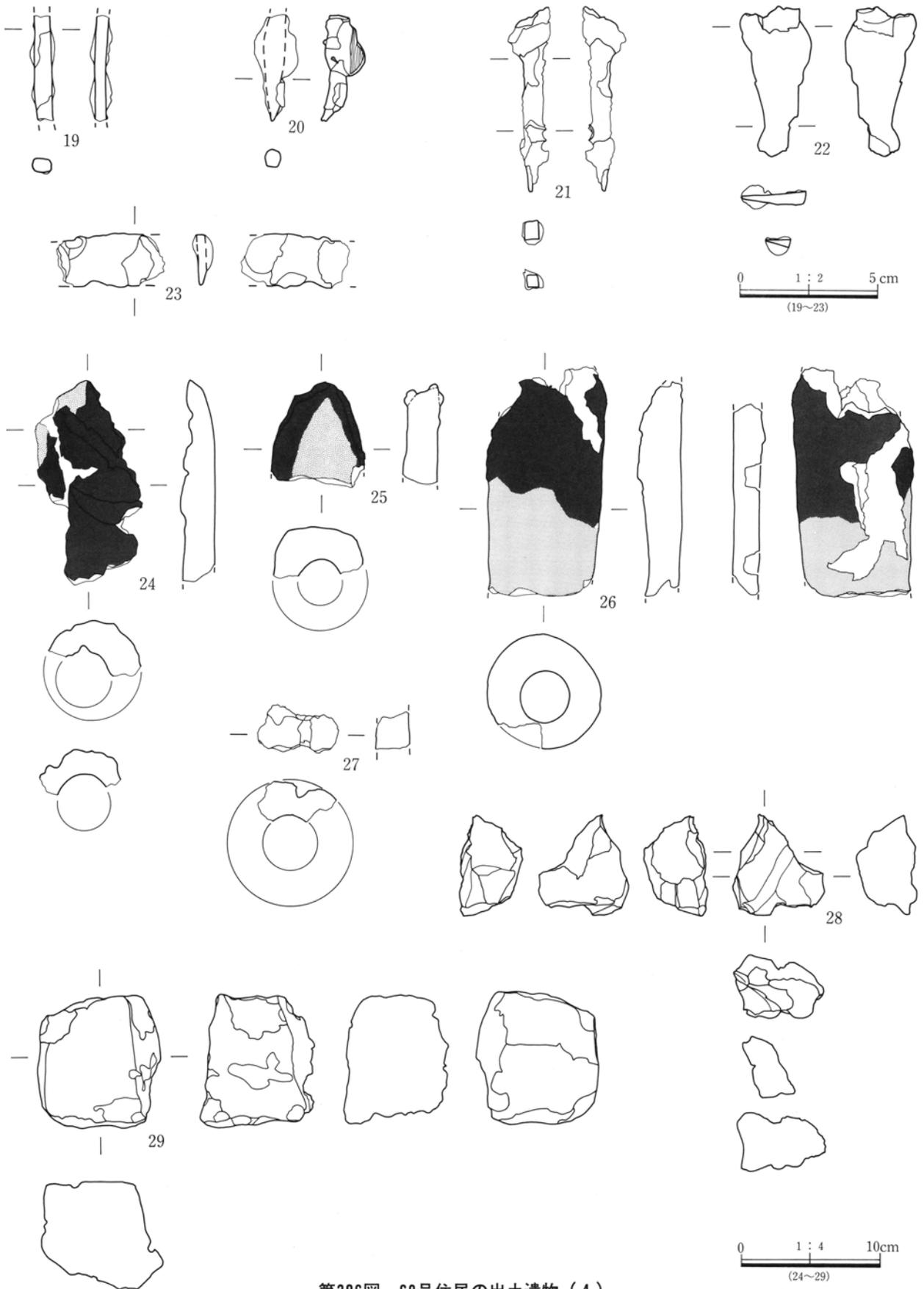
第203図 69号住居の出土遺物(1)



第204図 69号住居の出土遺物(2)



第3節 古代の遺構と遺物



第206図 69号住居の出土遺物(4)

70号住居(第207・208図 PL65・156 遺物観察表P.383)

位置 A6区4C, 4D-41, 42グリッド

形状 南壁を下底とする隅丸台形状の平面形を呈する。北壁と東壁は比較的直線的だが南壁、西壁はふくらみ、南壁の両隅は丸みが強い。竈部を69号住居に切られる。

規模 長辺 2.98m 短辺 2.36m

方位 N-13°-E

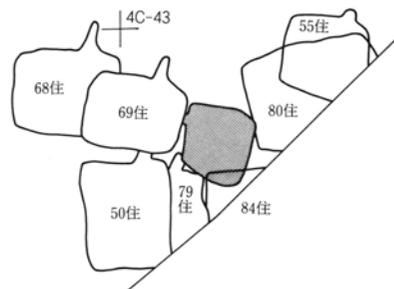
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 灰黄色土、灰褐色土の小塊を含む黄褐色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 13cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、中央部がやや低くなるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 北壁東寄りをU字形に掘り込んで燃焼部を作る

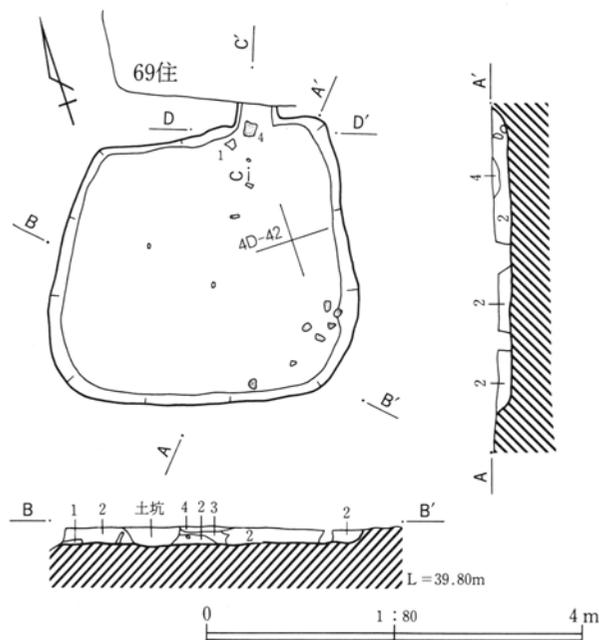


が、ほとんどを69号住居に切られて詳細は分からない。袖はない。確認できた長さは30cmほどしかない。燃焼部幅38cm。埋没土中には天井の構築材として用いられたと思われる灰白色のシルトが崩落しているのが見られる。竈前部には炭化物や灰が広がっている。

重複 69号住居より古い。84号住居より新しい。

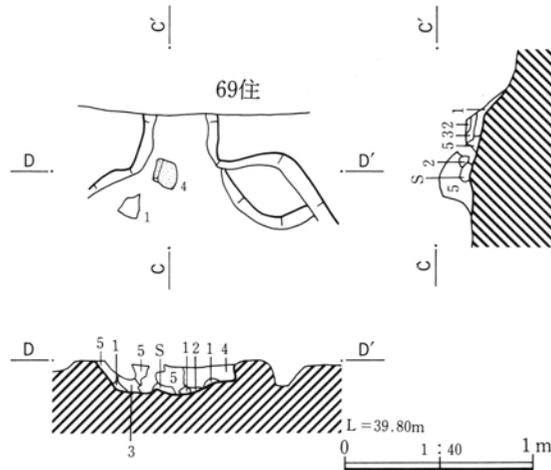
遺物と出土状況 遺物数はごく少ない。竈前から羽釜片が出土している。東壁南寄りに円礫や棒状礫がまとまって出土している。

その他 平安時代(10世紀前葉)



70号住居 A-A' B-B'

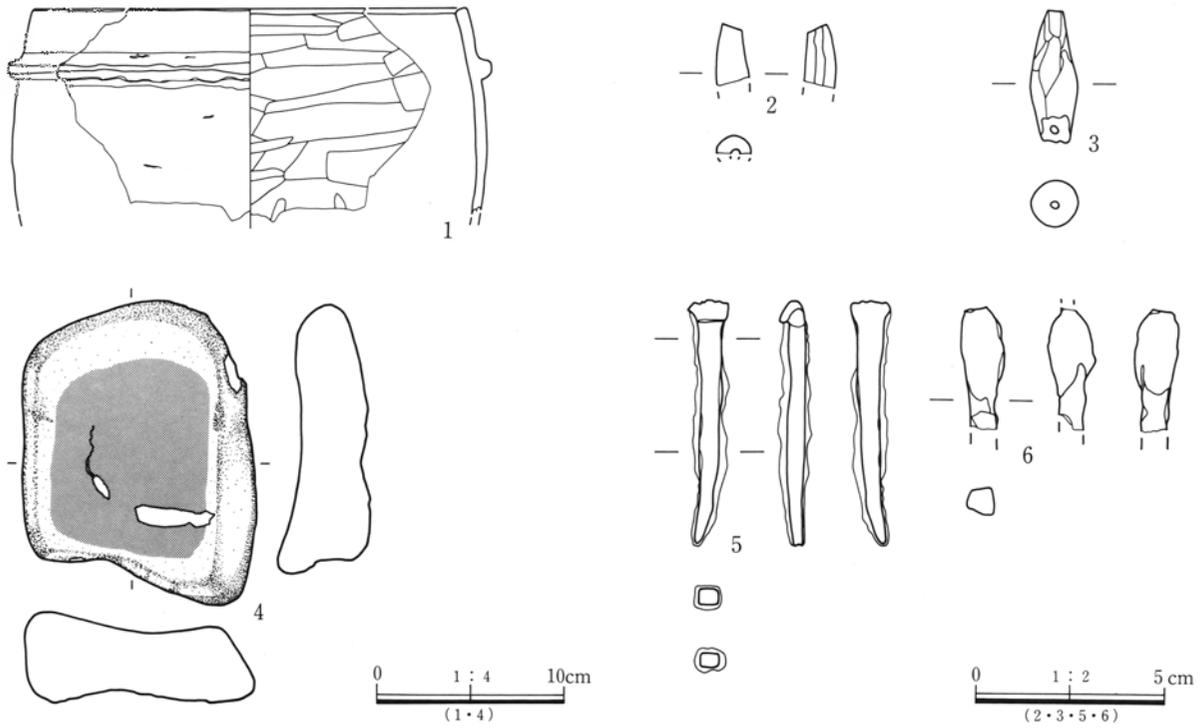
- 1 浅黄色土 灰褐色土混じりの灰黄色土。
- 2 黄褐色土 灰黄色粒小塊・灰褐色小塊含む。
- 3 暗灰黄色土 夾雑物少なく僅かに灰黄色粒含む。
- 4 黄褐色土 シルト質。灰黄色粒(5mm)をまだらに含む。



70号住 竈 C-C' D-D'

- 1 暗灰褐色土 焼土小塊、灰層の混土。(灰層)
- 2 黄橙色土 灰白色シルトと焼土塊の混土(天井崩落土)。
- 3 褐灰色 土質均質、緻密。
- 4 灰褐色土 褐色気味。土質均質僅かに焼土・炭粒含む。
- 5 灰褐色土 黄白色土小塊含み、焼土・炭粒少量含む。

第207図 70号住居



第208図 70号住居の出土遺物

71号住居(第209図 PL64・65・156 遺物観察表P.383)

位置 A6区3X-41・3X,3Y-42グリッド

形状 南北に長い横長隅丸長方形の平面形を呈するものと思われる。南壁から西壁にかけてを56号住居と57号住居に切られる。北壁の両隅は丸みを持って屈曲するが、特に北東隅は丸みが強い。

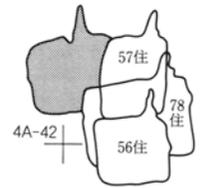
規模 北辺長 3.00m 東辺確認長 3.46m

方位 N-82°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈右手に円礫や土器片が集中する部分がある。わずかな落ち込みを示すのみで遺構としては明確ではない。また、57号住居と切り合う部分にあって、礫や土器の帰属も不明瞭であったが、本住居竈出土土器片とこの部分出土の土器片が接合することから、本住居の貯蔵穴的な位置にあるものとする。埋没土 炭化物を含み、やや粘性のある明褐色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 8cm。なだらかな丸みを持って立ち上がり、上方に開く。



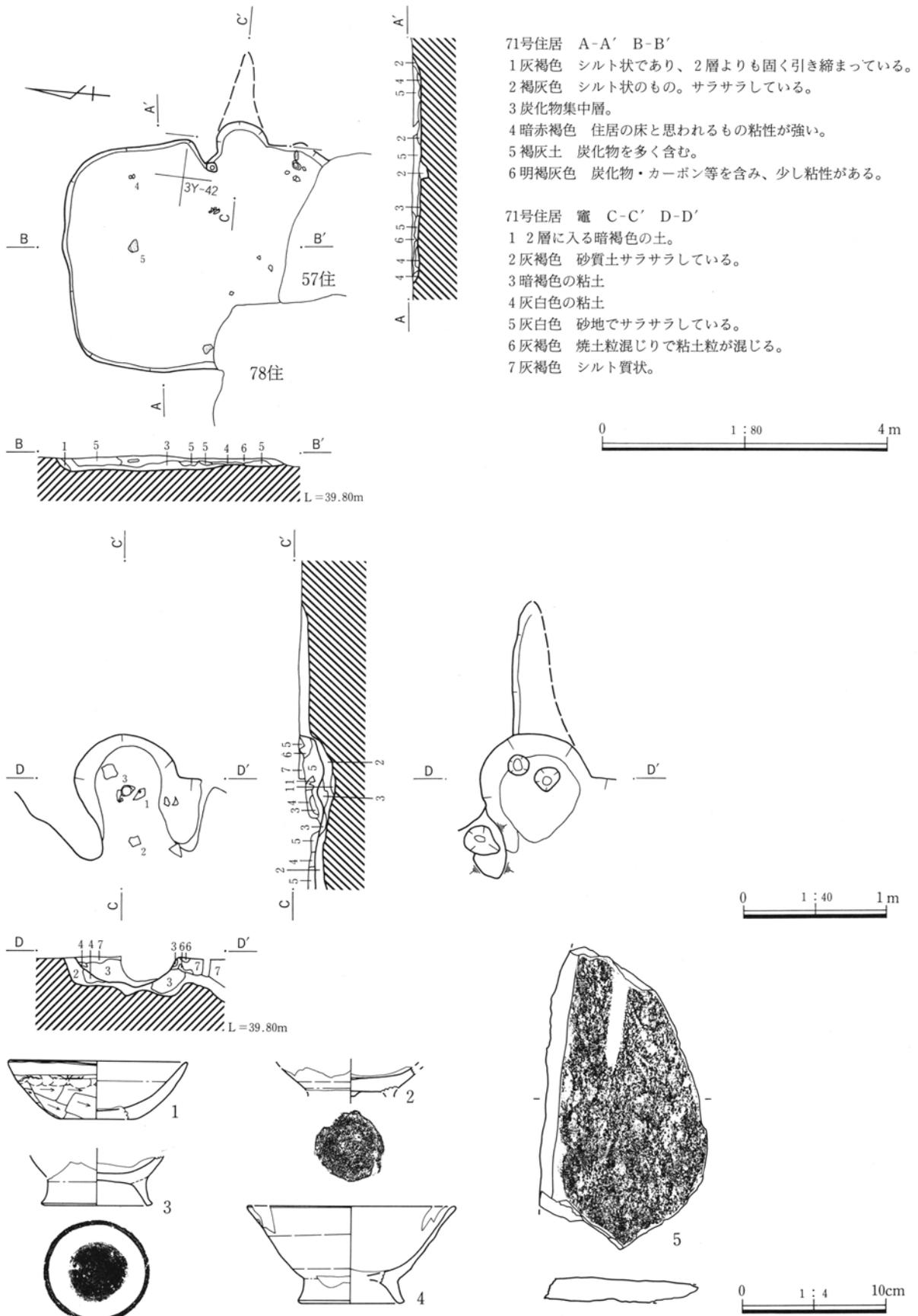
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、中央部がやや低くなるが、ほぼ平らに仕上げられる。粘性の強い暗赤褐色土で貼り床が作られ、その下位には炭化物を多く含む褐色土がある。

竈 東壁南寄り相当の部分に壁外に半円形に掘り込んで燃焼部の半ばを作り、地山を掘り残した袖で囲んでいる。確認長0.87m、燃焼部幅45cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる暗褐色の粘土や灰白色粘土が見られる。煙道は下底部が痕跡的に残るのみであった。

重複 57号住居、78号住居より古い。

遺物と出土状況 遺物数はごく少ない。竈内及び竈の右手から土器片や円礫が出土している。

その他 平安時代(10世紀前葉)



第209図 71号住居と出土遺物

72号住居(第210・211図 PL65・156 遺物観察表P.383)

位置 A6区3U-36,37グリッド

形状 南壁は73号住居との切り合いにより不明瞭であるが、南北に長い横長の隅丸長方形の平面形を呈する。各隅は丸みを持って屈曲し、北壁はややふくらみを持つ。

規模 長辺 2.96m 短辺 2.30m 面積 7.96m<sup>2</sup>

方位 N-78°-E

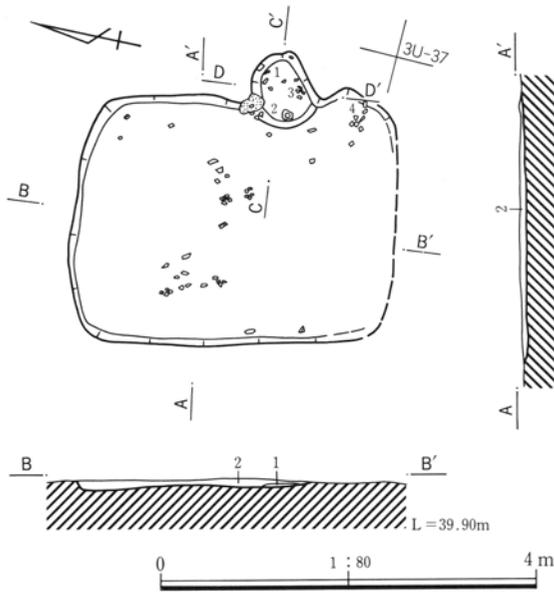
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 炭化物粒や焼土粒をわずかに含む暗灰黄色のシルト質土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 5cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がる。

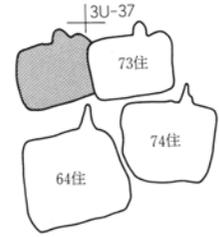
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、西側がやや低くなるが、ほぼ平らに仕上げられる。

貼り床はない。



72号住居 A-A' B-B'

- 1 灰褐色土 ややしまり・粘性のある層。床面。
- 2 暗灰黄色 黄白の小塊が見られる。砂質気味のシルト、炭粒・焼土粒僅かに含む。

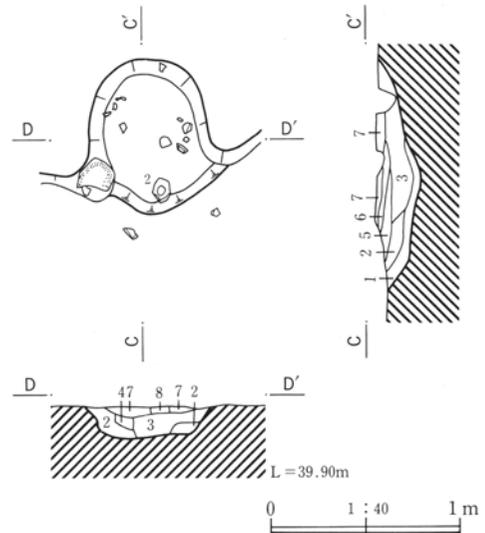


竈 東壁南寄りをU字形に掘り込んで燃烧部を作る。煙道は確認できなかった。確認長0.81m、燃烧部幅51cm。袖は認められないが、左右の袖相当位置にわずかな窪みがあり、袖石の痕跡かと思われる。

重複 73号住居より新しい。

遺物と出土状況遺 物数は少ない。竈内、竈右手と住居中央やや西寄りにそれぞれ土器片のまとまりがある。

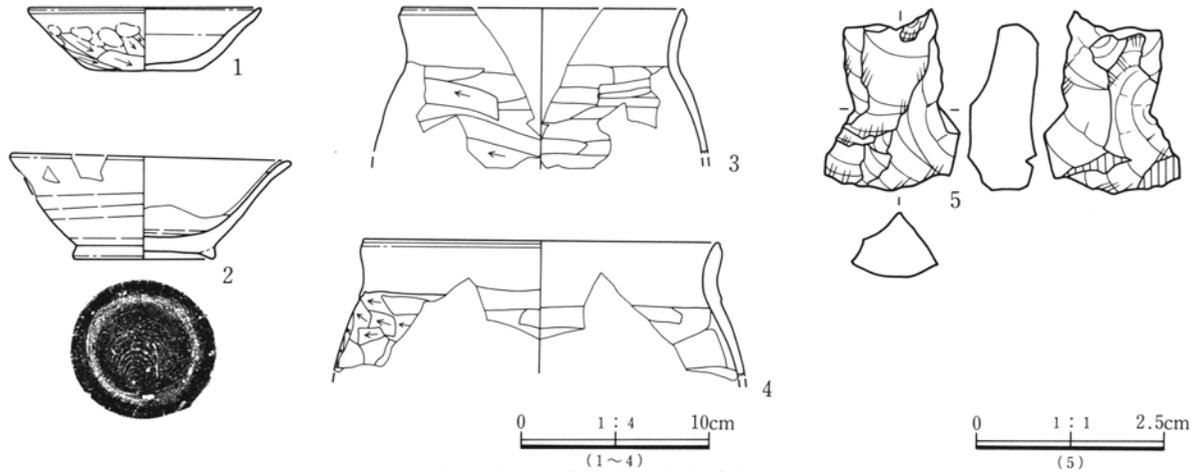
その他 平安時代(10世紀中葉)



72号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 くすんだ黄褐色土 6層より褐色土塊少ない。
- 2 くすんだ黄褐色土 黄褐色細砂に焼土小塊・褐色土塊混じり。
- 3 暗褐色土 焼土小塊・灰混じり、黄褐色細砂含む。
- 4 橙色土 焼土塊・黄白色シルトの焼土化した塊。
- 5 黒褐色灰層
- 6 褐色土 炭粒・褐色粘土小塊含む。
- 7 褐色土 焼土小塊混じり、灰含む。
- 8 灰白色シルト 焼土粒僅かに含む。

第210図 72号住居



第211図 72号住居の出土遺物

### 73号住居

(第213・213図 PL65・156・157 遺物観察表P.383・384)

位置 A6区3T,3U-36グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈する。北壁は72号住居との切り合いによりやや不明瞭であるが、床面のラインは把握できる。各隅は丸みを持って屈曲する。特に南東隅は丸みが強い。

規模 長辺 3.22m 短辺 2.34m 面積 8.29㎡

方位 N-87°-E

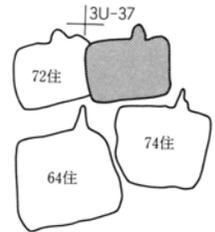
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 炭化物粒や焼土粒をわずかに含む暗灰黄色のシルト質土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 14cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。北半部に粘性のある灰褐色土による貼り床が認められる。

竈 東壁南寄りを壁外にU字形に掘り込んで燃焼部を作っている。煙道は確認できない。確認長0.72m、燃焼部幅48cm。左袖部は地山を短く突起状に掘り残している。右袖部も地山をなだらかに掘り残し、その先端近くには袖石に用いられたものと見られる円礫がまとまって出土している。埋没土中には構築材に用いられたと考えられる青灰色粘土塊や粘性のあ

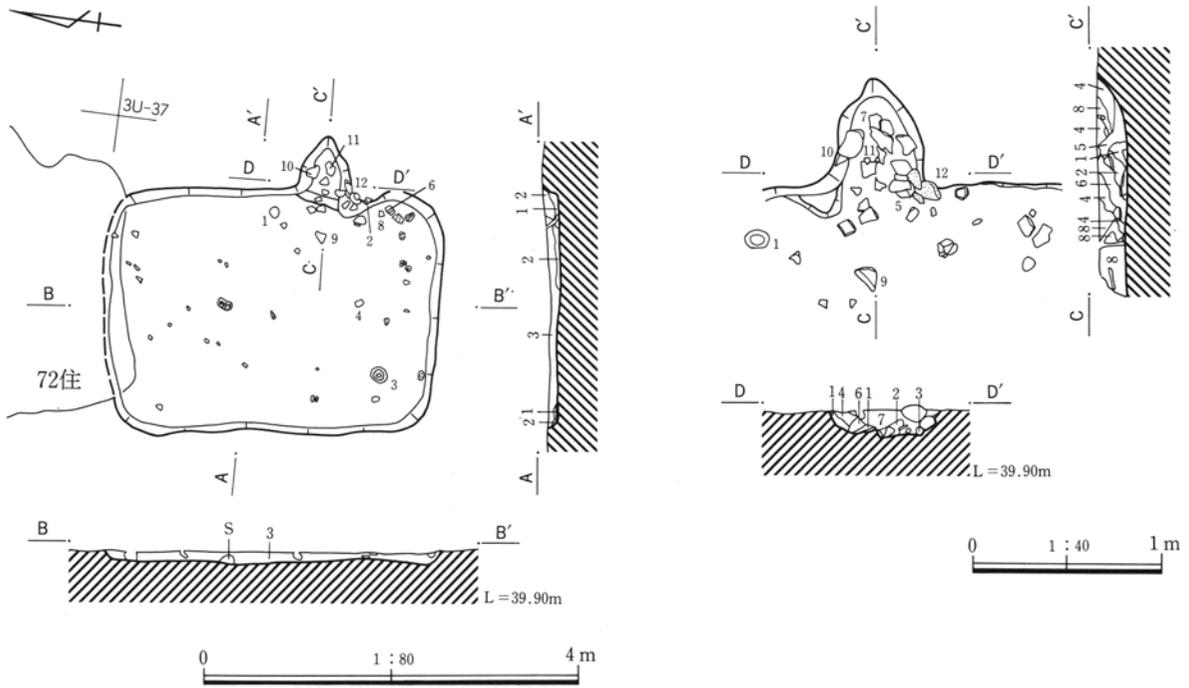


る褐色土塊が見られる。構築材の主体は青灰色粘土であったようだ。竈前部から、その右手に当たる南東隅部にかけて炭化物の薄い層が広がっている。

重複 72号住居より古い。

遺物と出土状況 竈内からその前面及び右手にかけて、坏、羽釜、甕などの土器破片が出土している。この部分の破片は比較的大きく、接合するものも多い。南西隅部近くからもほぼ完形に近い坏が出土している。住居中央やや北寄りには比較的大きな垂角礫がある。その他、住居全体に小破片が散在するが、特定の分布傾向は見られない。

その他 平安時代(10世紀中葉)

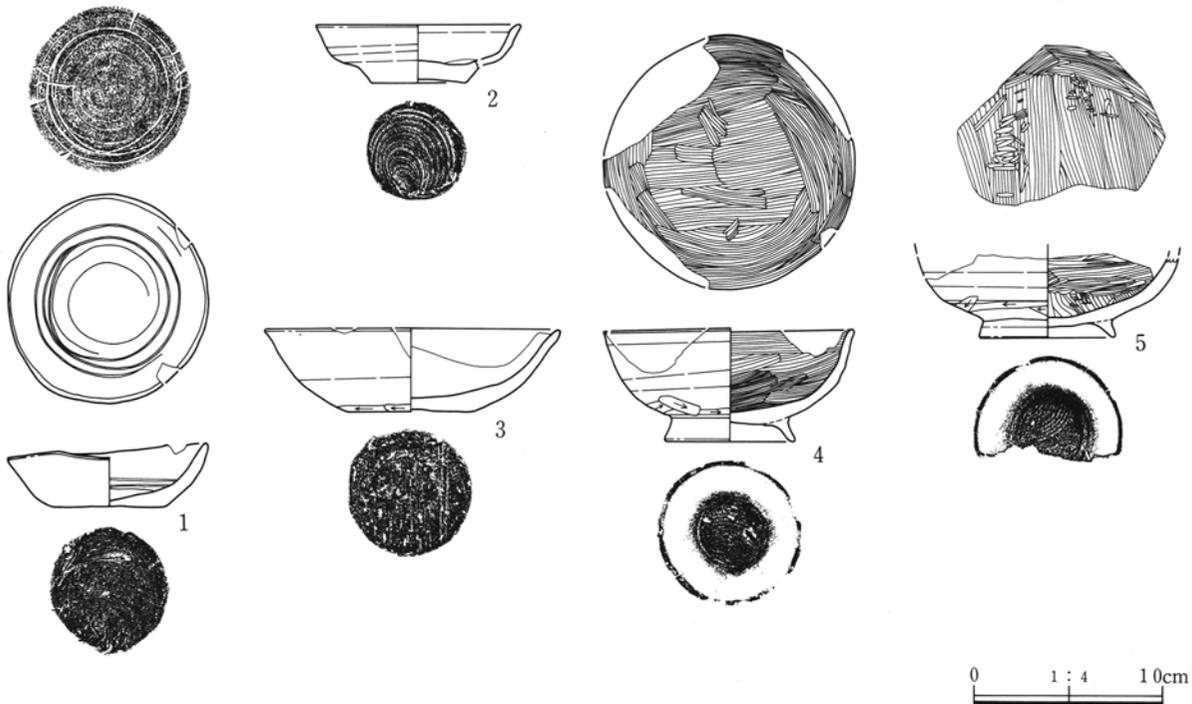


73号住居 A-A' B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 砂質シルト、黄白色小塊僅かに含む。
- 2 黄褐色土 焼土・炭粒僅かに含む。うすく灰を見られる。
- 3 暗灰黄色 黄白の小塊が見られる。砂質気味のシルト、炭粒・焼土粒僅かに含む。

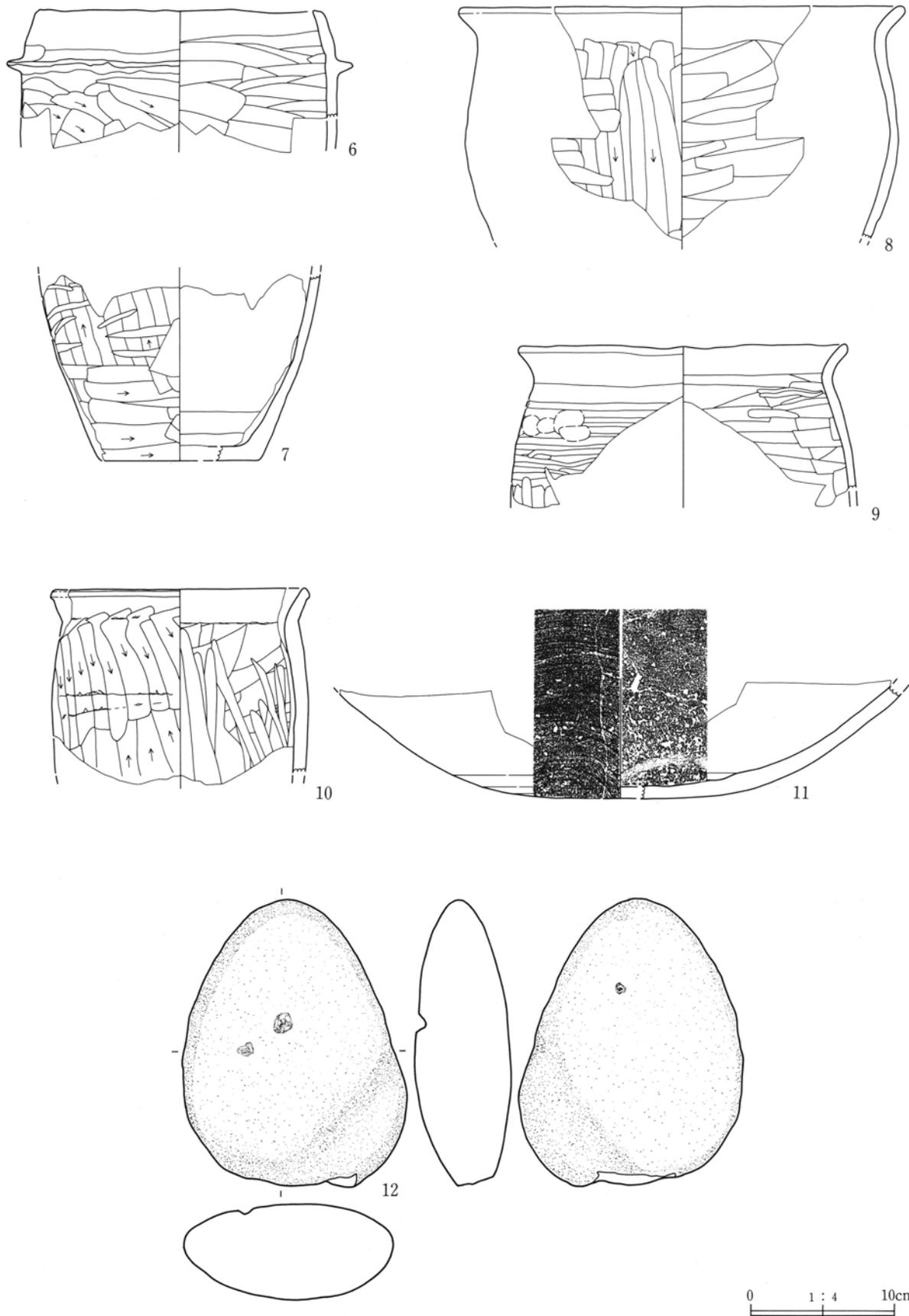
73号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 橙色 焼土主体。粘性のある褐色土含む。
- 2 粘土
- 3 焼土
- 4 暗褐色 青灰色粘土小塊・焼土小塊少量含む。
- 5 橙色 焼土を多量に含み青灰色粘土塊灰混じる。(天井崩落土)
- 6 暗褐色 青灰色塊・焼土塊を少量含む。
- 7 暗褐色 青灰色塊・焼土塊混じり、まだらに含む。
- 8 浅黄色シルト 僅かに褐色土、黄白色粒含む。



第212図 73号住居と出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第213図 73号住居の出土遺物(2)

74号住居 (第214~216図 PL66・157 遺物観察表P.384)

位置 A6区3U,3V-35,36グリッド

形状 東壁を下底とする隅丸台形状の平面形を呈する。各隅は丸みを持って屈曲する。

規模 東辺長 3.76m 西辺長 2.62m 東西長 3.06m 面積 10.75m<sup>2</sup>

方位 N-112°-E (南壁) N-93°-E (竈)

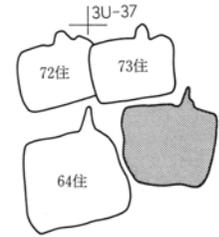
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 灰褐色土、黄白色土の小塊を含み、ごくわずかな炭化物粒を含む黄褐色シルト質土で埋まる。壁際では灰褐色土や黄白色シルトの混入がみられるが、床面から確認面までほぼ単層で埋没している。

確認最大壁高及び壁の状況 21cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床は認められない。

竈 東壁南寄りをU字形に掘り込んで燃烧部の半ばを作り、煙道を延ばす。確認長1.35m、燃烧部幅33

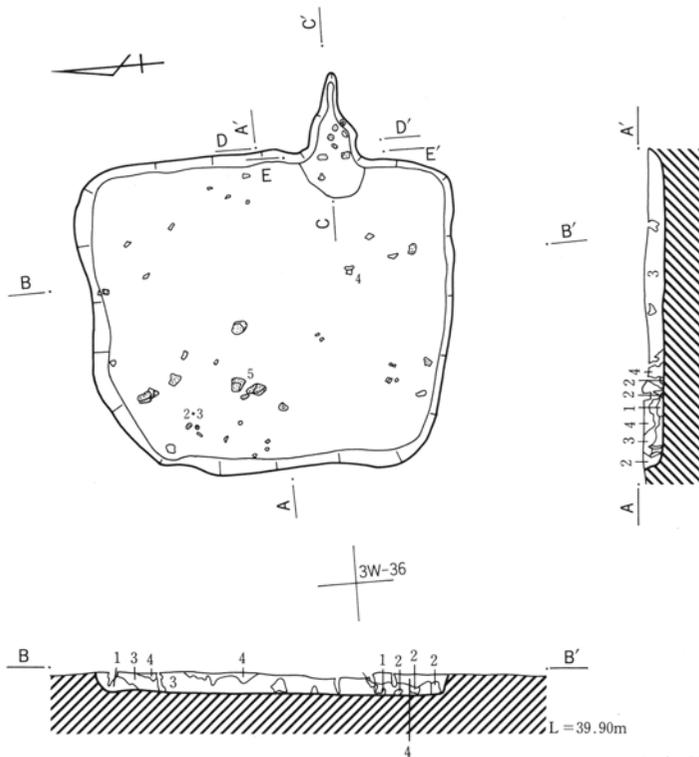


cm。住居壁との接点部左右に袖石とみられる割石があり、燃烧部中央奥よりには支脚に用いられたと考えられる円礫が立つ。埋没土には構築材に用いられたと考えられる褐色粘質土塊が見られる。焼け方は弱い。

重複 64号住居と接するが、確認面での切り合いはない。

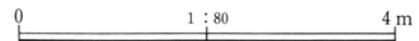
遺物と出土状況 遺物数は少ない。竈内から大型の土器破片が出土しているが、他は住居全体に小破片が散在する。竈の構築材以外にも礫の出土が多い。

その他 平安時代か



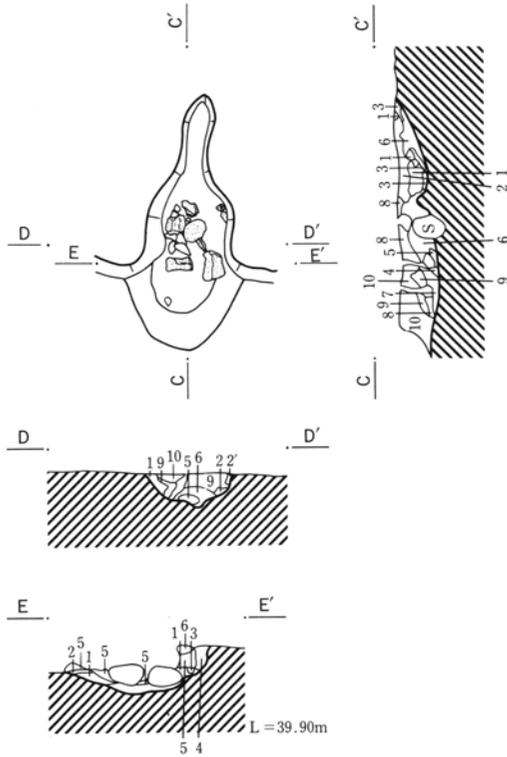
74号住居 A-A' B-B'

- 1 黄褐色土 シルト質。3層に似るがやや灰褐色を多く含む。
- 2 黄褐色土 黄白色シルト質多く含む。
- 3 黄褐色土 シルト質。灰褐色土小塊・黄白色小塊少量混じる。僅かに炭粒含む。
- 4 黄褐色土 やや鉄分沈着見られ橙色。シルト質。細砂含む。



第214図 74号住居

第3章 検出された遺構と遺物

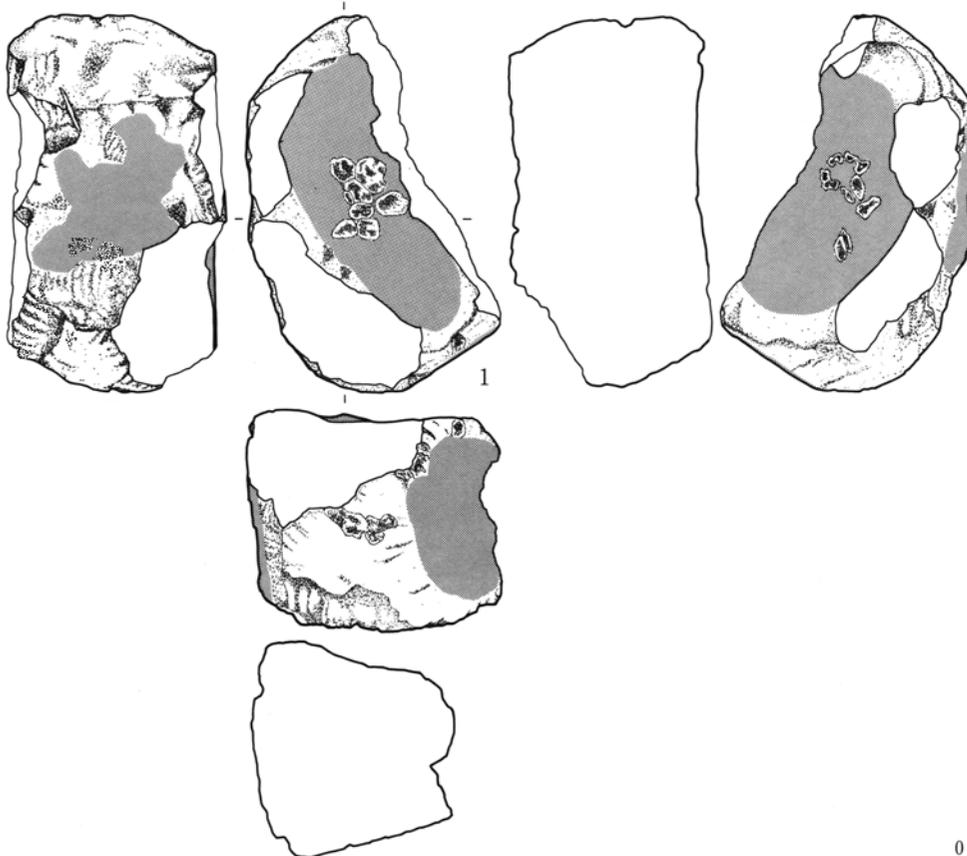
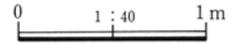


74号住居 竈 C-C' D-D'

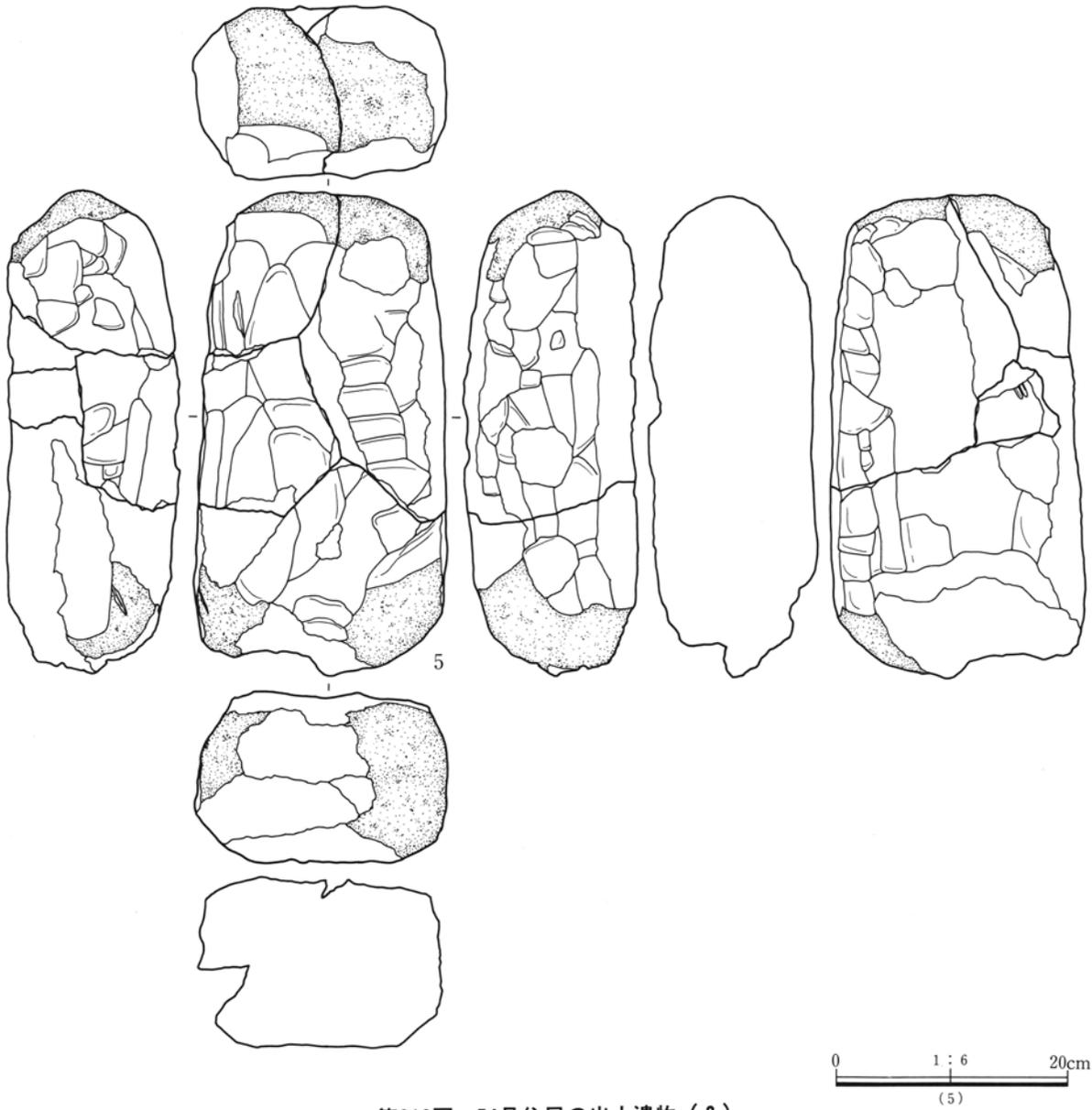
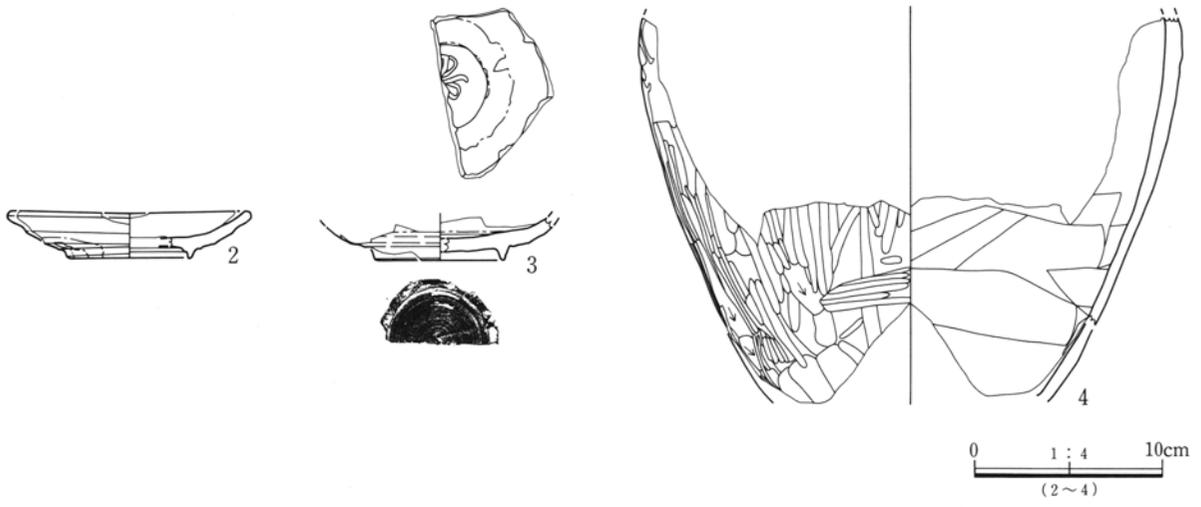
- 1 橙色 焼土塊。
  - 2 におい黄橙色土 焼土小塊・灰白色土小塊・灰色塊の混土。
  - 2' 褐色土 焼土塊・粒含む。
  - 3 暗褐色土 灰・焼土塊混土(灰層)。
  - 4 におい黄橙色(白っぽい)炭化物、灰僅かに含む。
  - 5 褐灰色土 6層に炭化物少量含む。
  - 6 褐灰色土 炭粒含み、粘性強い。
  - 7 褐灰色土 夾雑物少なく、砂質。
  - 8 におい黄橙色土 炭粒、焼土粒僅かに含む。
  - 9 におい黄橙色 シルト。
  - 10 におい黄橙色シルト主体、黄白粒含む。
- 5・6・7・8・9・10は、全体にシルト。確認時に竈は不明瞭であった。また内面も焼土弱い。1・2は天井崩落土。

74号住居 竈 E-E'

- 1 灰黄褐色土 灰・炭粒含む砂質シルト。
- 2 橙色土 焼土主体。
- 3 褐色粘質土
- 4 くすんだ褐色土 焼土・炭粒僅かに含む。サクサクした層。
- 5 くすんだ褐色土 焼土・炭粒僅かに含み褐色粘質土まじり。
- 6 黄褐色土 灰白色塊主体。



第215図 74号住居竈と出土遺物(1)



第216図 74号住居の出土遺物(2)

75号住居(第217・218図 PL66・67・157 遺物観察表P.384)

位置 A6区4E~4G-46,47グリッド

形状 計測数値上では南北に長い横長長方形形状を示すが、東壁部の攪乱によって計測点の選択が限定されたため、ほぼ方形ないし隅丸方形を基本的平面形とするものであろう。各隅は丸みを持って屈曲する。竈が東壁の延長線より内側に入り込んで造られているため、南東隅は変形している。竈右袖から連続する南壁は、比較的直線性が強い。東壁南部は現代の耕作溝によって攪乱されている。

規模 長辺 4.14m 短辺 3.54m

方位 N-89°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 ロームの小塊と炭化物粒、焼土粒を含む粘性の強い暗褐色土で埋まっている。さほど浅い住居ではないのだが、床面から確認面まで、ほぼ単一の土で埋没している。

確認最大壁高及び壁の状況 26cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、直立する。

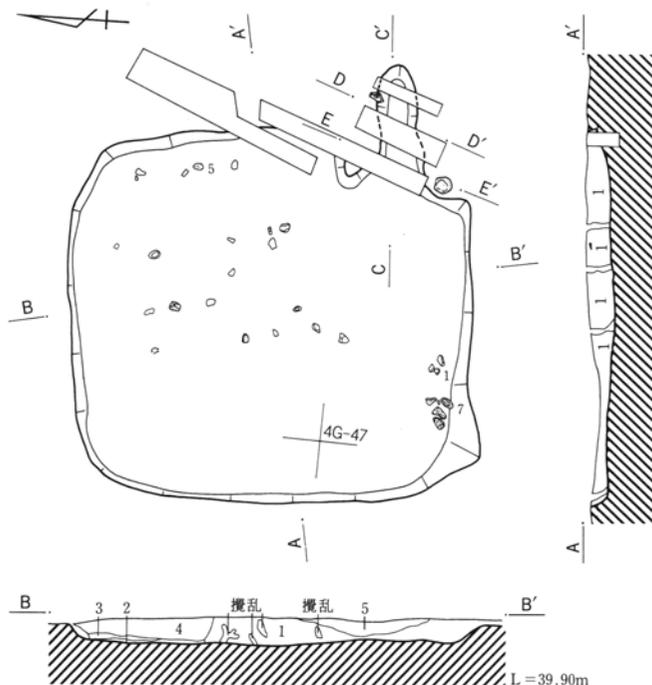
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。北壁際ではロームや灰色土、黒色土塊が混じり合い、灰や炭が薄い互層をなす貼り床状の部分がみられる。

竈 東壁南寄りを壁外に掘り込んで燃焼部を作り、煙道を延ばすが、現代の耕作溝により縞状に切られているため、部分的な観察に留まる。確認長1.65m、燃焼部幅約65cm。両袖部は地山をわずかに削り残した上に黄白色の粘質土を乗せて作っており、左袖の住居壁との接点部からは、攪乱下底ながら、袖石と思われる角礫が出土している。埋没土には構築材に用いられたと考えられる黄白色粘質土や青灰色粘土塊が含まれる。

重複 なし。

遺物と出土状況 遺物数は少ない。住居中央から東よりに破片が散在する。南西隅部から円礫や亜角礫ががまとまって出土し、この中に比較的大型の鉄滓が混じている。

その他 平安時代(10世紀後葉)

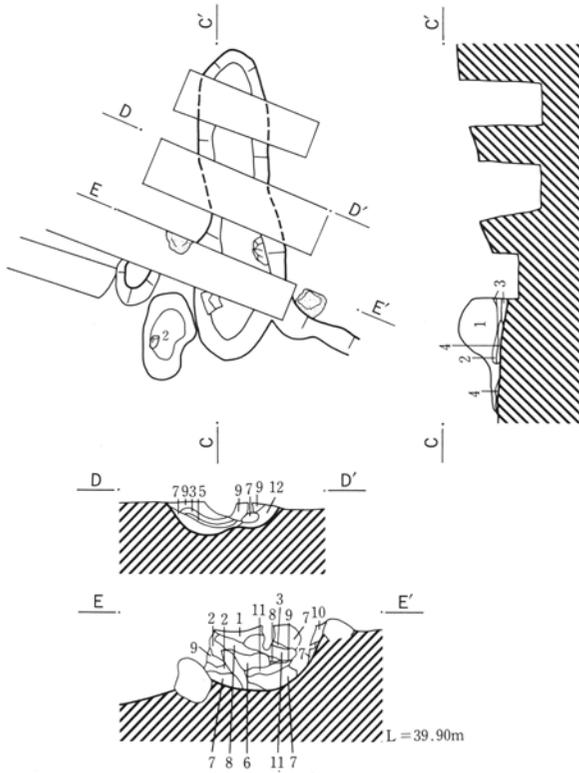


75号住居 A-A' B-B'

- 1 暗褐色土 ローム小塊・焼土粒・炭粒混じり、しまり・粘性強い。
- 2 暗褐色土 灰・炭・焼土粒が混じる。やや硬質。
- 3 暗褐色土 ローム小塊混じる。土坑?
- 4 暗褐色土 ローム塊(1~3cm大)をまだらに含む。'ボソボソした層。土坑?
- 5 灰褐色土 ローム塊・灰色粘土塊をまだらに含み、炭化物も多く含む。

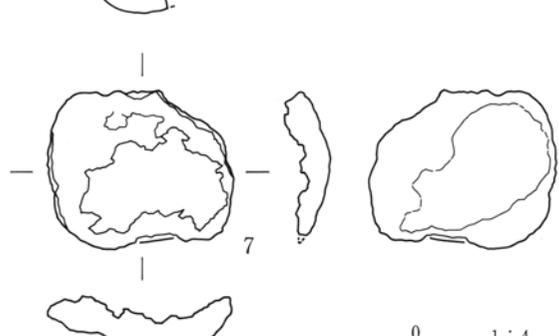
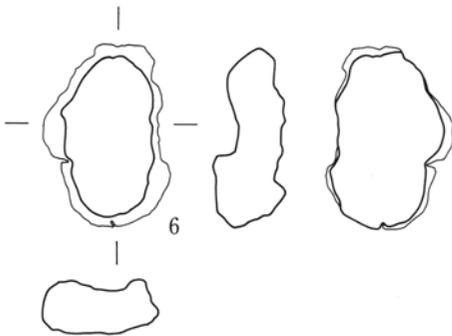
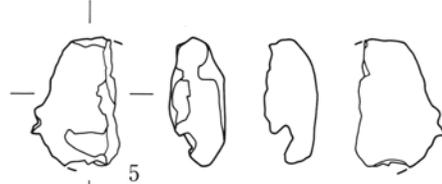
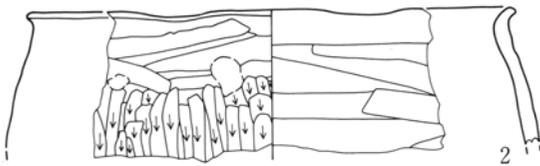
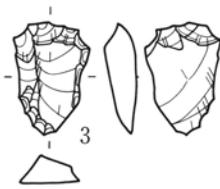
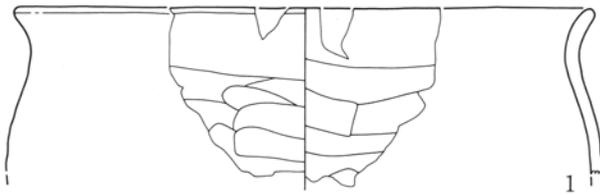
第217図 75号住居

第3節 古代の遺構と遺物



75号住居 竈 C-C' D-D' E-E'

- 1 褐色土 ローム塊を含み、焼土・炭粒含む。
- 2 ローム塊。
- 3 焼土塊。
- 4 黒褐色土 灰層・焼土粒含む。
- 5 暗灰褐色土 灰層に焼土層見られ、互層に堆積しまり弱い。
- 6 青灰色粘土塊。
- 7 褐色土・焼土小塊・灰混じり。
- 8 黄褐色土 10層塊、11層塊混土(壁崩落)。
- 9 黄橙色土 11層に灰白色灰混じり(壁崩落)。
- 10 黄白色粘質土 竈構築土(崩落土)。
- 11 黄橙色粘質土 下層焼土化(崩落土)。
- 12 黒褐色土 ローム塊含む。しまり弱い。



第218図 75号住居竈と出土遺物

76号住居(第219・220図 PL67・157・158 遺物観察表P.384)

位置 A6区4A,4B-44,45グリッド

形状 東西に長い、ゆがんだ縦長長方形の平面形を呈するものと思われる。調査以前の地境にあたる場所にあるため、桑根によって全体に著しく攪乱されており、さらに南西部は51号住居上にあたって不明瞭となるため、正確な形状の把握ができない。残存部分から見ると、北壁は南壁よりやや短いようで、西壁は北壁と丸みを持ちつつもほぼ直角方向に屈曲して連続するが、東壁は傾きを持ち、北東隅部ではなだらかな円弧状を呈して北壁と連続する。

規模 長辺 3.48m 短辺 2.52m

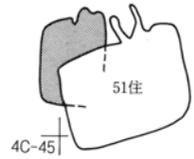
方位 N-92°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 基本的には暗灰黄色砂壤土や炭化物粒を多く含む暗褐色壤土で埋まっている。

確認最大壁高及び壁の状況 2.5cm。東壁部での観察にとどまる。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、直立する。

床面の状況及び床下施設等 攪乱のため、部分的な観察に留まる。暗灰黄色砂壤土と黒褐色砂壤土の混



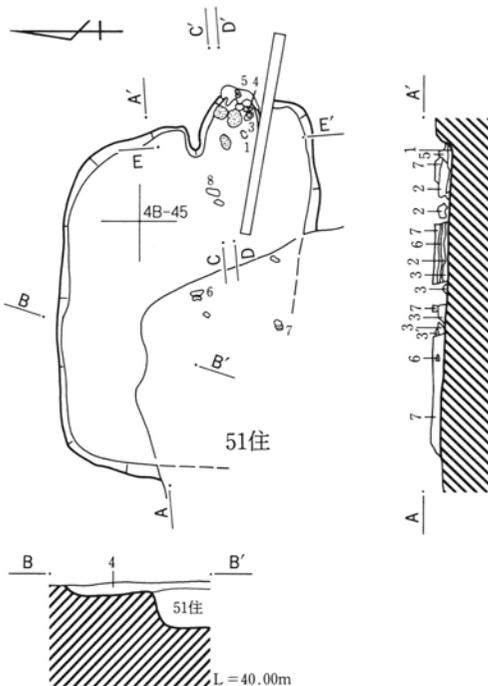
土で床貼りされる。床表面は炭化物を多く含む、暗オリーブ褐色壤土で、固くしまっている。

竈 東壁のやや南寄りを、C字形に壁外に掘り込んで燃焼部の半ばを作る。煙道は確認できない。確認長1.4m、燃焼部幅約1.2m。右袖部は攪乱により失われている。左袖部は地山を小さな突起状に掘り残している。燃焼部内には円礫や垂角礫があって、構築材として用いられていたものと思われるが、本来の位置をとどめていない。また、粘土塊も燃焼部奥部を中心に面的に残り、埋没土にも構築材に用いられたと考えられる粘土塊が見られる。

重複 51号住居より新しい。

遺物と出土状況 遺物数は少ないが、竈周辺に坏類の比較的大きな破片がある。羽釜は竈前から住居中央部にかけて散在していたものである。

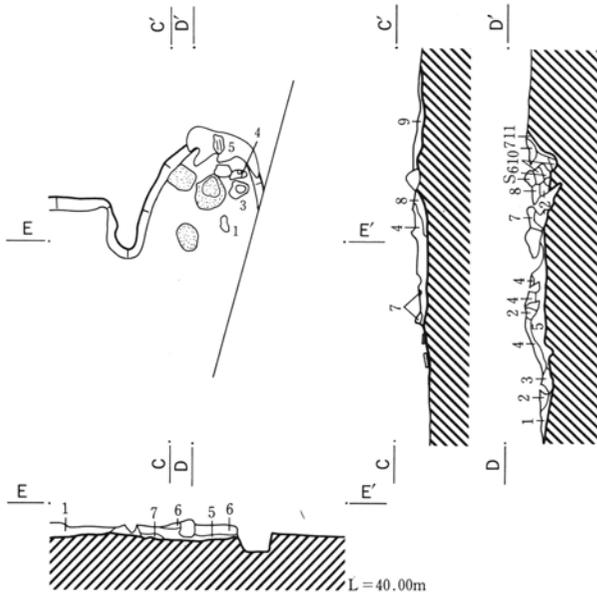
その他 平安時代(10世紀中葉)



76号住居 A-A' B-B'

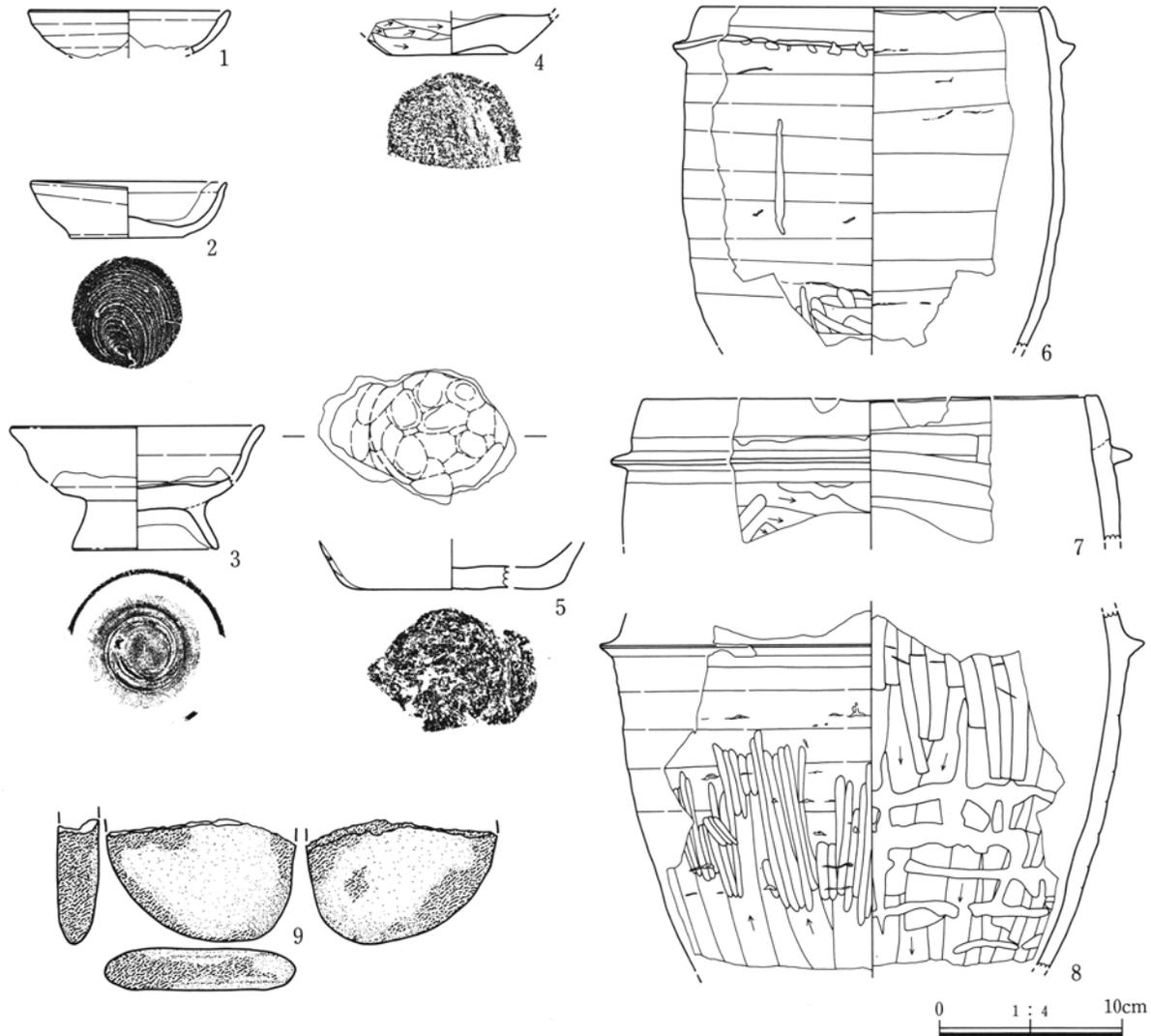
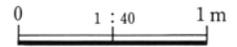
- 1 暗褐色壤土(10YR3/3)やや乱されて2層の暗灰黄色砂壤土の塊が入る。
- 2 暗灰黄色砂壤土(2.5Y4/2)と暗褐色壤土(10YR3/2)との混土。  
7:3位の比、前者の塊中に後者がはさまれる。
- 3 2と同層だが4:6位の比に逆転、黒褐色土中に暗灰黄色土の塊が入る。
- 3' 炭化物粒を含む。各層の塊が乱され、斑状に混土。
- 4 オリーブ褐色砂壤土(2.5Y4/4)・炭化物粒を多く含む。
- 5 暗褐色壤土(10YR3/4)
- 6 暗オリーブ褐色壤土(2.5Y3/3)・炭化物粒を多く含む固くしまっている。
- 7 5に近い。炭化物粒を多く含む。

第219図 76号住居



76号住居 竈 C-C' D-D' E-E'

- 1 褐色壤土(10YR4/4)焼土粒を含む。
- 2 におい黄橙色埴土(10YR7/3)炭化物粒・焼土粒を多く含む。
- 3 暗オリーブ褐色壤土(2.5Y3/3)
- 4 褐色壤土(10YR4/6)焼土粒を多く含む。炭化物粒を含む。
- 5 褐色壤土(10YR4/4)炭化物を多く含む。
- 6 基本的には暗褐色壤土(10YR3/3)で炭化物・焼土粒を含むが、攪乱されている。
- 7 灰黄色粘土(2.5Y6/2)及びその焼化した塊。
- 8 黒褐色埴壤土(10YR2/3)中に炭化物を多量に含む。下部は炭化物集中層になる。
- 9 暗褐色壤土(10YR3/4)
- 10 灰・焼土の小塊・炭化物粒の集中。
- 11 焼土。



第220図 76号住居竈と出土遺物

77号住居(第221~224図 PL67・68・158・159 遺物観察表P.384)

位置 A6区4D,4E-44,45グリッド

形状 基本的には南北に長い横長隅丸長方形の平面形を呈するものと思われるが、全体にゆがみが激しい。

規模 長辺 4.2m 短辺 3.2m 面積 13.82㎡

方位 N-111°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 焼土、炭化物粒を含む暗褐色粘質土で埋まる。壁際の埋没土には部分的に灰白色土粒が混入する。覆土中に灰褐色土と褐色土が薄い互層を成す貼り床状の土層が見られる。

確認最大壁高及び壁の状況 26cm。丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 南北方向断面では、わずかな凹凸をもちつつ南に下がりながらも、ほぼ平らに仕上げられる。東西断面では住居中央部が大きく波打つ。

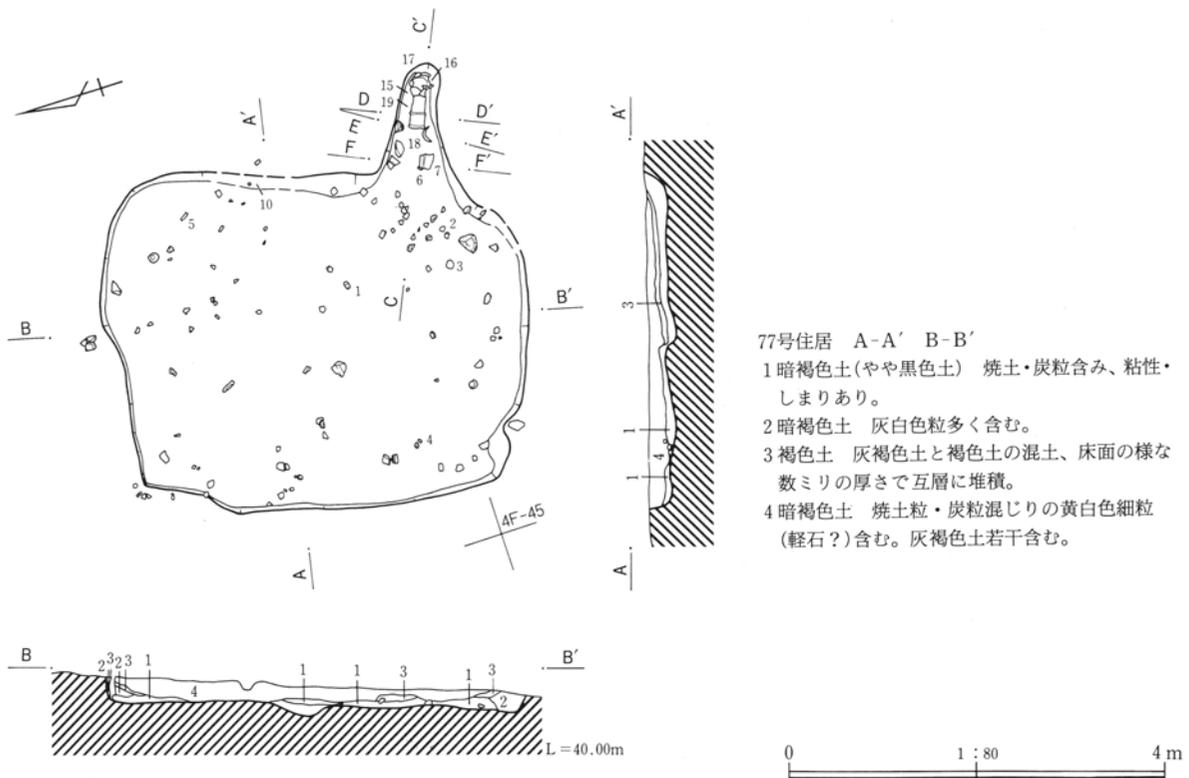
竈 東壁南寄りをもU字形に近く掘り込んで燃焼部を

作り、煙道をのぼす。袖部は明確ではない。確認長1.45m、燃焼部のやや奥よりの左壁には、円筒埴輪の半切片の外面を燃焼部内に向けて横位に置き、その奥に円礫を立位で据える。右壁部にも円筒埴輪の半切片が同様の状態で配されるが、こちらには礫はない。これよりやや奥に当たる煙道との接続部には、左右に円筒埴輪を立てる。煙道も円筒埴輪が利用されており、口縁を欠いた1本の円筒埴輪を口縁側を燃焼部に向けて横たえ、もう一本の円筒埴輪の底部を煙道に使われた円筒埴輪の底部に接続させながら、やや角度を付けて立ち上がらせている。煙道接続部の円筒埴輪間の内側幅19cm。煙道に用いられた円筒埴輪の上や埋没土中には構築材に用いられた黄白色粘土塊が見られる。

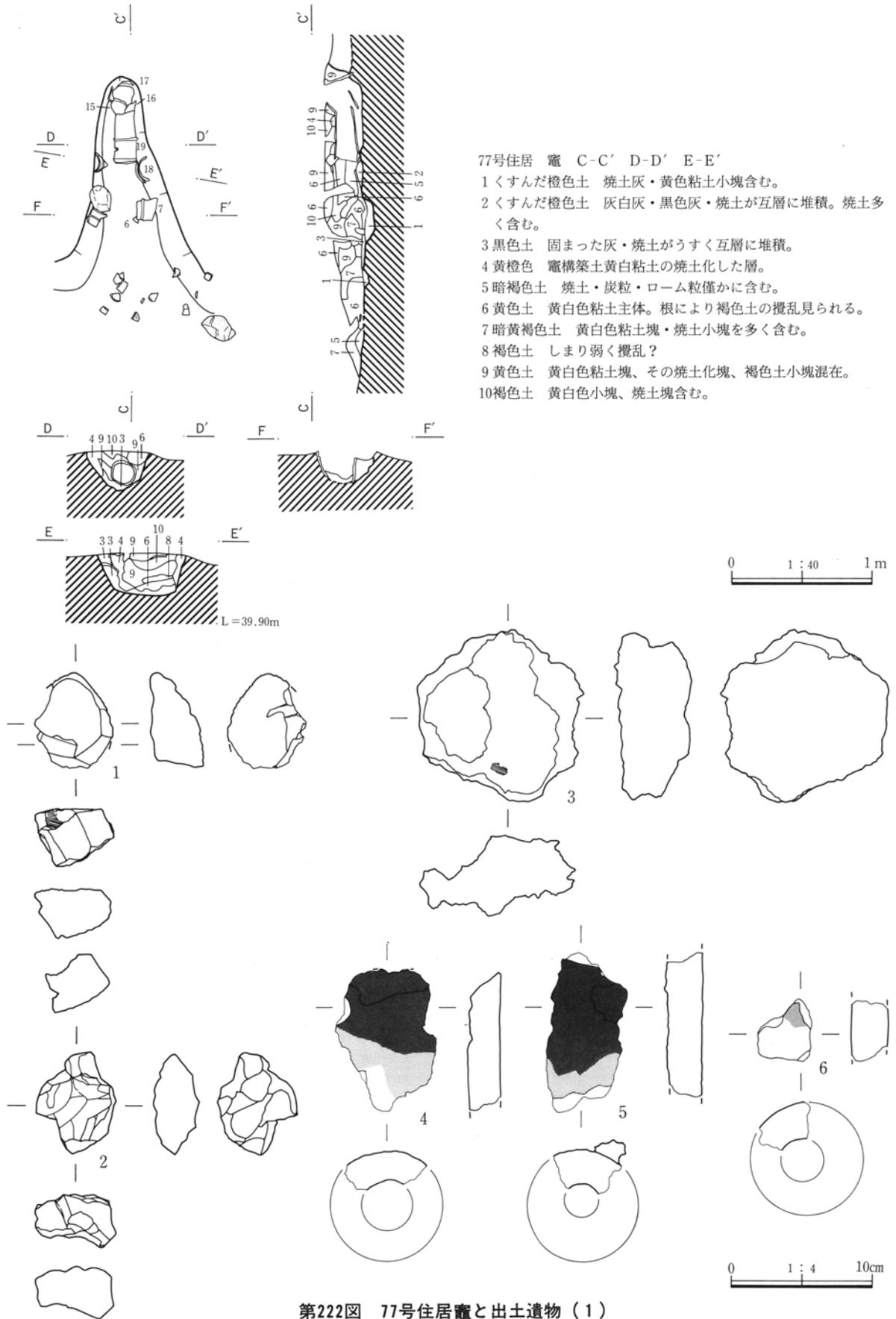
重複 80号・115号土坑より古い。

遺物と出土状況 竈内には構築材の埴輪が多い。覆土の比較的上位から土器破片や鉄滓、羽口片などが住居全体に散在する状態で出土している。

その他 平安時代(10世紀中葉)

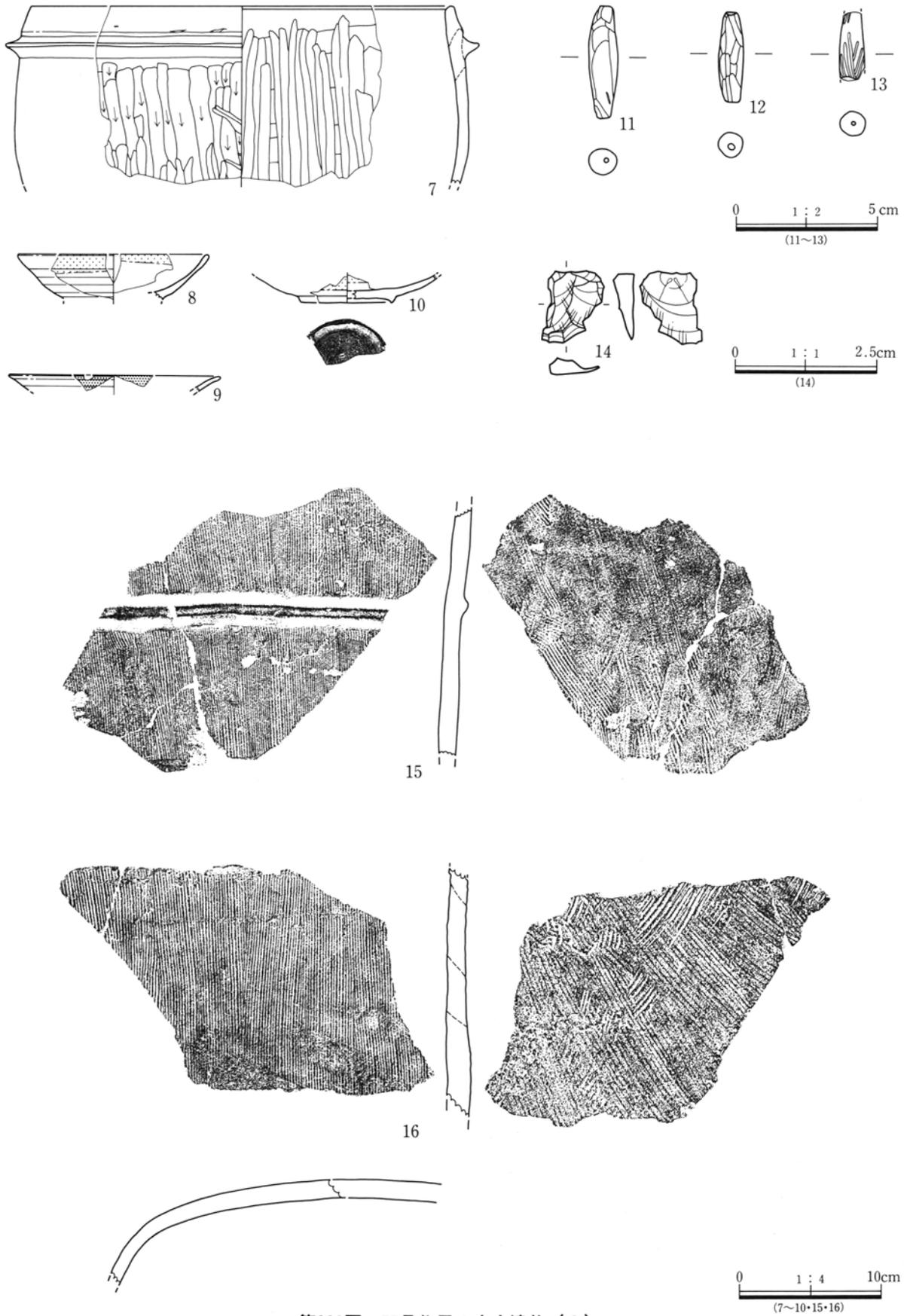


第221図 77号住居

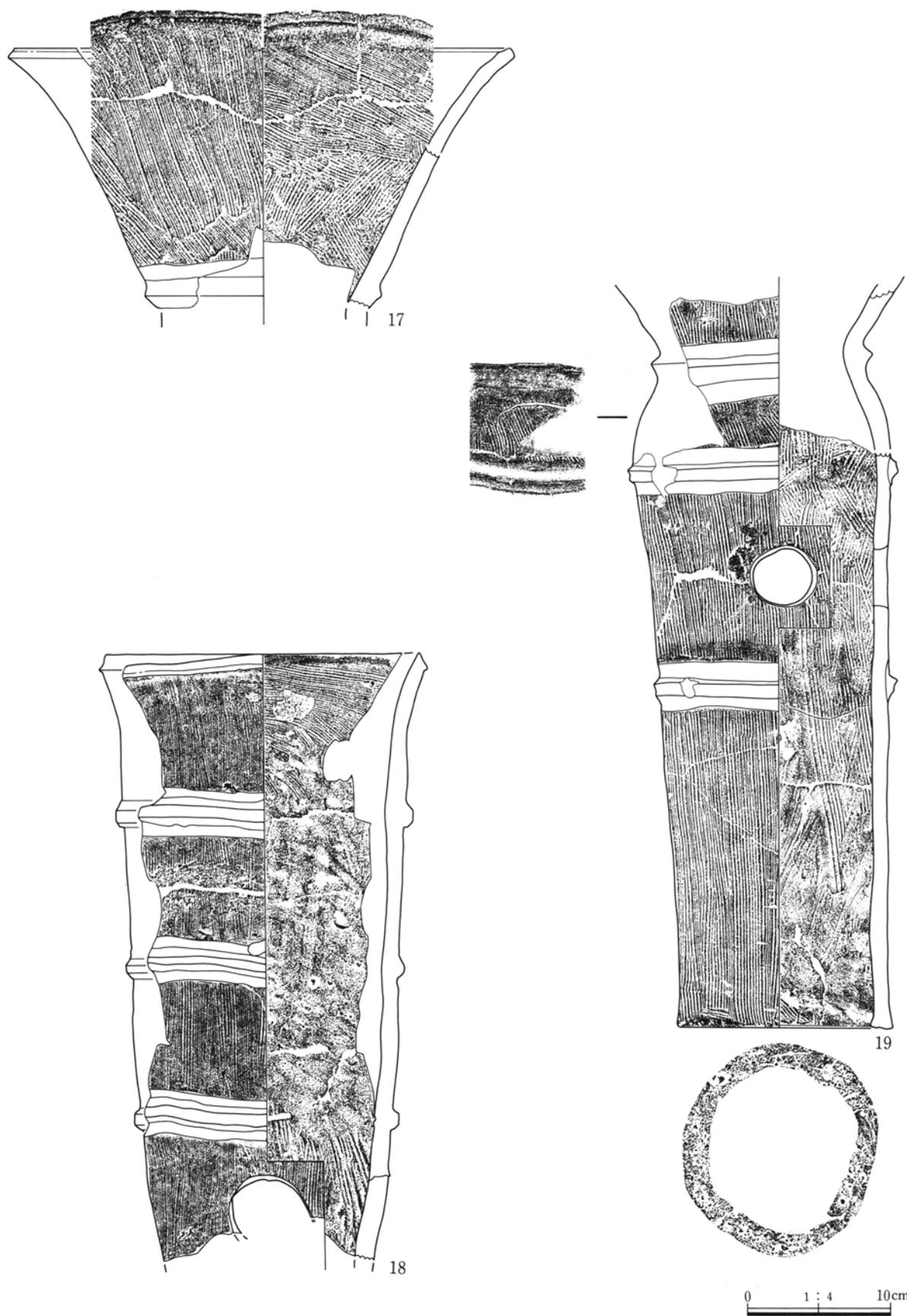


第222図 77号住居竈と出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第223図 77号住居の出土遺物(2)



第224図 77号住居の出土遺物（3）

78号住居(第225・226図 PL68・159 遺物観察表P.385)

位置 A6区3Y, 4A-40, 41グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈する。西壁の大半は56号住居に切られ、北西隅は失われているが、他の三隅はあまり丸みを持たずに屈曲する。南北壁はやや蛇行する。東壁はわずかに膨らみを持つ。

規模 長辺 4.14m 短辺 3.16m

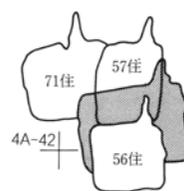
方位 N-85°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 地山と酷似した、全体に均質な、わずかに炭化物や焼土を含むにぶい黄橙色土で埋没する。床面上では焼土や炭化物が多く見られる。

確認最大壁高及び壁の状況 11.5cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

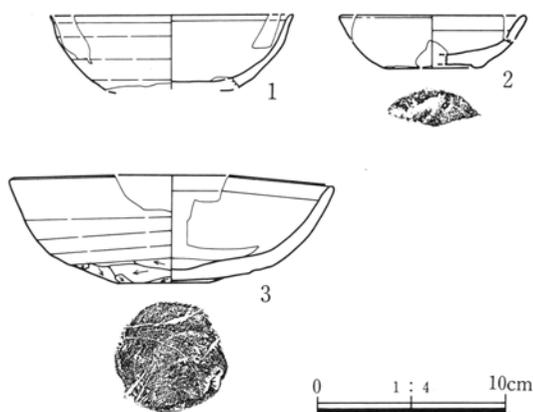
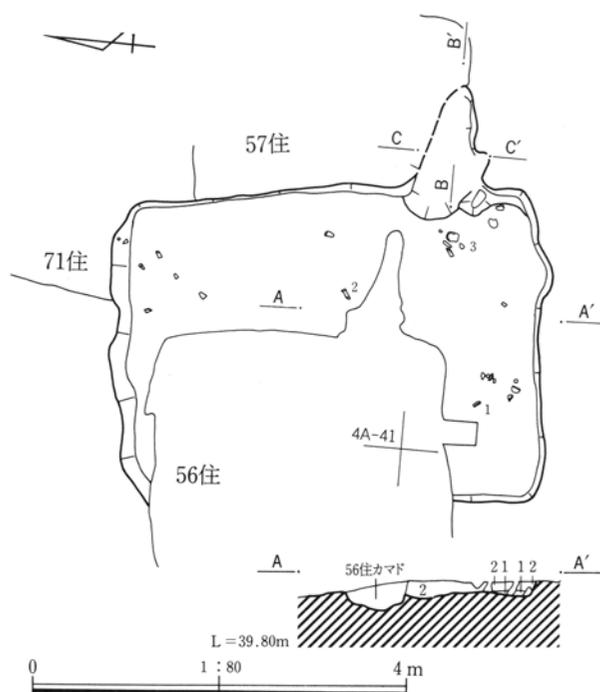
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。



竈 東壁南端近くを壁外にU字形に掘り込んで燃焼部の半ばを作り、煙道をのぼすが、57号住居に切られて左半分が失われており、全体の形状は分からない。確認長1.44m、燃焼部幅60cm。右袖部は地山を小さく突起状に削り残している。埋没土には構築材に用いられたと考えられる灰白色粘土塊が見られる。重複 56号住居、57号住居より古い。71号住居より新しい。

遺物と出土状況 遺物数は少ない。竈手前に比較的大きな破片があるが、他は住居全体に小破片が散在する。

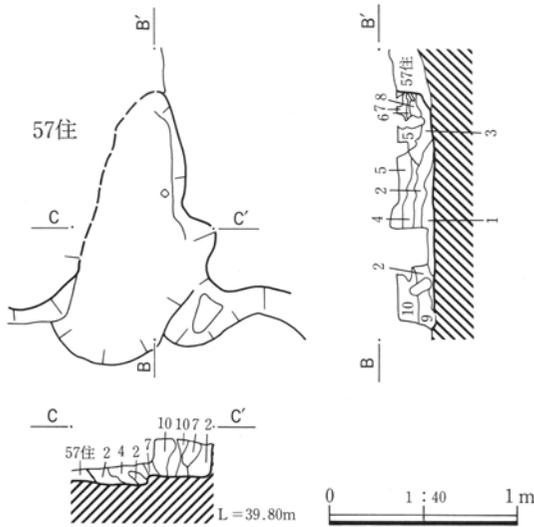
その他 平安時代(10世紀前葉)



78号住居 A-A'

- 1 にぶい黄橙色土 焼土粒・炭粒含む。
  - 2 にぶい黄橙色土 夾雑物少なく僅かに焼土粒・黄白色粒含む。
- 1・2 全体に土質均質、確認当初地山と思われたが、時間が経つにつれ乾きが違い、よく見ると焼土・炭粒が見られ住居覆土と認定出来た。

第225図 78号住居と出土遺物



78号住居 竈 B-B' C-C'

- 1 浅黄色土 細砂・黄白色粒含む。
- 2 にぶい黄橙色土 3層より少なく焼土・炭粒を含む。
- 3 にぶい黄橙色土 褐色(鉄分?)粒多く含み、焼土・炭粒僅かに含む。
- 4 にぶい黄橙色土 炭粒含み、黒っぽくにじむ。
- 5 にぶい黄橙色土 焼土・炭粒点々と含む。
- 6 赤褐色土 焼土塊。
- 7 浅黄色土 シルトのように滑らかな土。
- 8 にぶい褐色土 土質密、シルトの焼土化した層。
- 9 黄褐色土 灰白粒・炭粒・焼土粒僅かに含む。
- 10 灰褐色土 土質密、灰白小塊・炭粒・焼土粒僅かに含む。

第226図 78号住居竈

79号住居(第227・228図 PL68・69・159 遺物観察表P.385)

位置 A6区4D,4E-42グリッド

形状 当初は50号住居と同一のものとして調査したものである。北部の大半を50号住居に切られ、西部は調査区外となるため、方形ないし長方形の平面形と思われるが、全体の形状は分からない。南東隅はわずかに丸みを持って屈曲する。

規模 東西確認長 3.42m 南北確認長 1.46m

方位 N-93°-E (南壁)

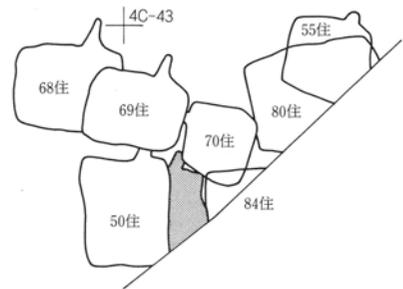
柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

埋没土 暗褐色土で埋まる。

壁の状況 ごく部分的な観察にとどまる。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。竈前から南東隅にかけて、広い範囲に青灰色粘土が広がっている。50号住居竈前の床下土坑埋没土中にもこの青灰色粘土がみられ、これらの土坑が本住居に付属する施設である可能性もある。

竈 東壁南寄りに相当すると思われる部分を、壁外にU字形に掘り込んで燃焼部を作り、煙道を延ばす。確認長0.91m、燃焼部幅38cm。燃焼部内から竈前に



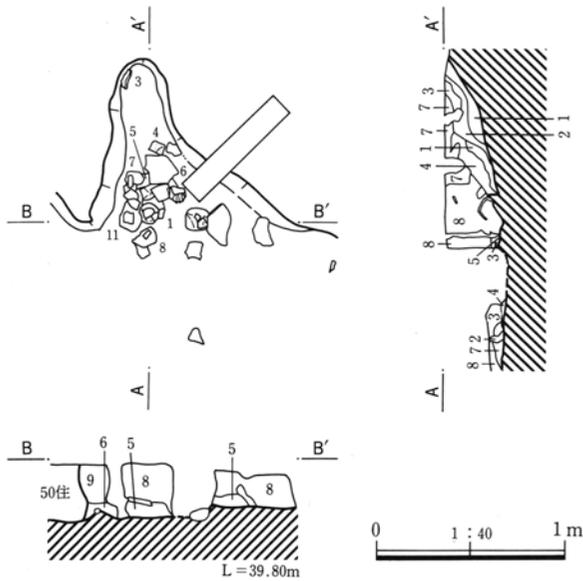
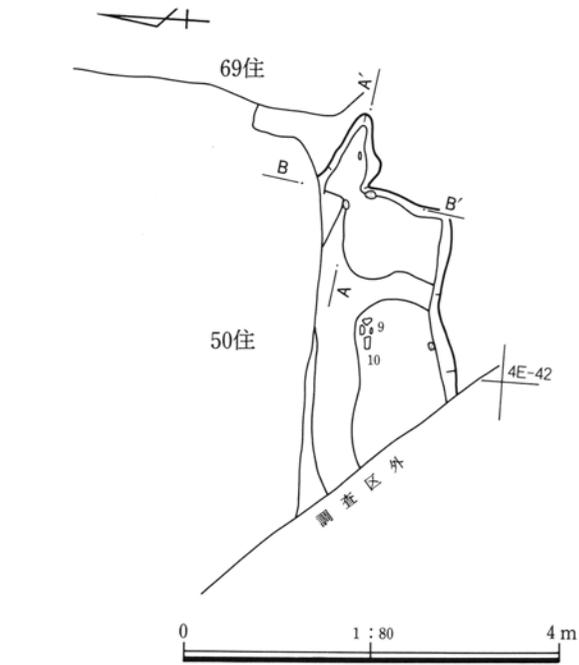
かけて炭化物や粘土の薄い層が広がる。燃焼部内には右袖部近くを中心に砂岩の垂角礫や円礫が認められるが、構造上の位置を保っているものではない。埋没土には構築材に用いられたと考えられる青灰色粘土塊が竈前から南東隅にかけて点々と見られる。

重複 50号住居より古い。

遺物と出土状況 ごく狭い範囲の調査だが、遺物数は比較的多い。竈内と、南壁中央近くに当たると思われる確認範囲の中央付近から、大小の羽釜片をはじめとする大型の土器破片が小さなまとまりを持って出土している。また、床面下から、坏が出土している。

その他 平安時代(10世紀中葉)

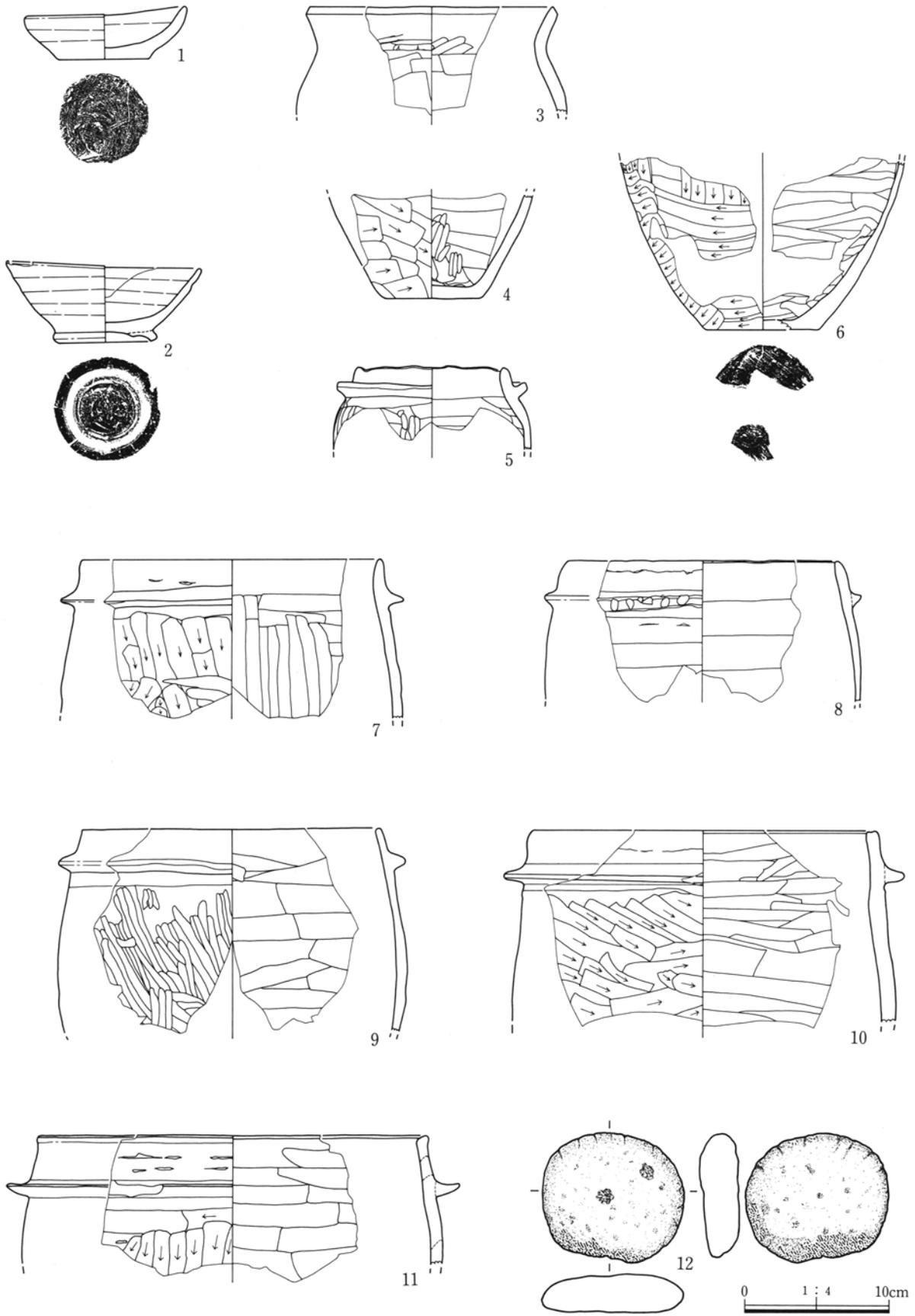
第3章 検出された遺構と遺物



79号住居 竈 A-A' B-B'

- 1 褐灰色土 灰色粘質土に焼土塊混じり。
- 2 にぶい橙色土 灰白・黄白色シルト塊入り混じる。
- 3 灰褐色土 灰色粘質土塊・焼土塊・灰含む。
- 4 黒褐色土 炭粒含む灰層。
- 5 暗褐色土 炭粒・暗褐色粘土塊含む。
- 6 灰色土 青灰色粘土多量に含む、焼土粒・炭粒僅かに含む。粘性しまり強い。(天井崩落土)
- 7 灰褐色土 8層に炭粒・焼土粒含む。
- 8 灰褐色土 灰白色粒・小塊僅かに見られる。
- 9 灰褐色土 灰褐色砂質シルトに灰白シルト・青灰色粘土塊混じり。

第227図 79号住居



第228図 79号住居の出土遺物

80号住居(第229・230図 PL69・159 遺物観察表P.385)

位置 A6区4C,4D-40,41グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈するものと思われる。南西部が調査区外となるため、全体の形状は分からない。東壁の両隅はやや丸みを持って屈曲する。

規模 東辺 5.42m 東西確認長 3.96m

方位 N-80°-E(北壁)

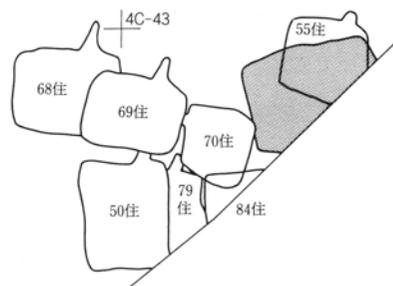
柱穴 東南隅近くにあるピットを柱穴とした。上端直径49cm、深さ23cmで、柱痕はない。

周溝 なし。

貯蔵穴 南東隅にある。東西111cm、南北73cmほどの楕円形で、床面からの深さは16cmほどである。底部は凹凸があるが平坦な面があり、断面形は広いコの字状を呈する。青灰色粘土の小塊を含む、粘性の強い灰褐色土で埋まる。

埋没土 青灰色粘土、灰白色土を含む細砂混じりのにぶい黄橙色土の単層で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 21cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。



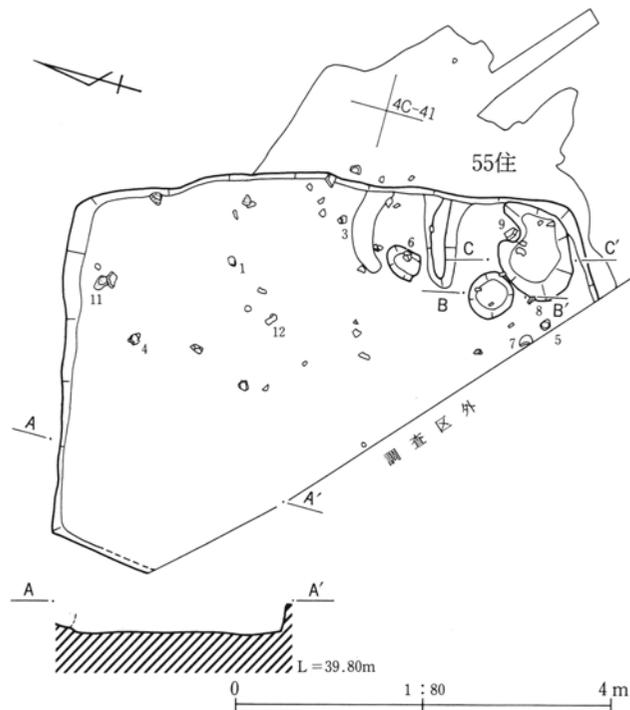
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 東壁南寄りに青灰色粘土が袖状に張り出す部分があり、灰や焼土塊が集中する。この部分を竈と想定した。壁外への掘り込みは認められない。確認長1.0m、内側幅60cm。両袖の端部中央にピットがあり、下層は黒色の灰と焼土塊で埋まり、表層は青灰色粘土で埋められる。

重複 55号住居より古い。

遺物と出土状況 遺物数は少ない。貯蔵穴周辺から大型の土器破片が出土している。他は住居全体に小破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀前葉)

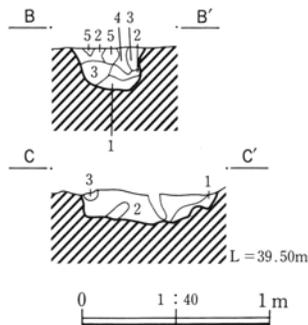


80号住居 貯蔵穴 C-C'

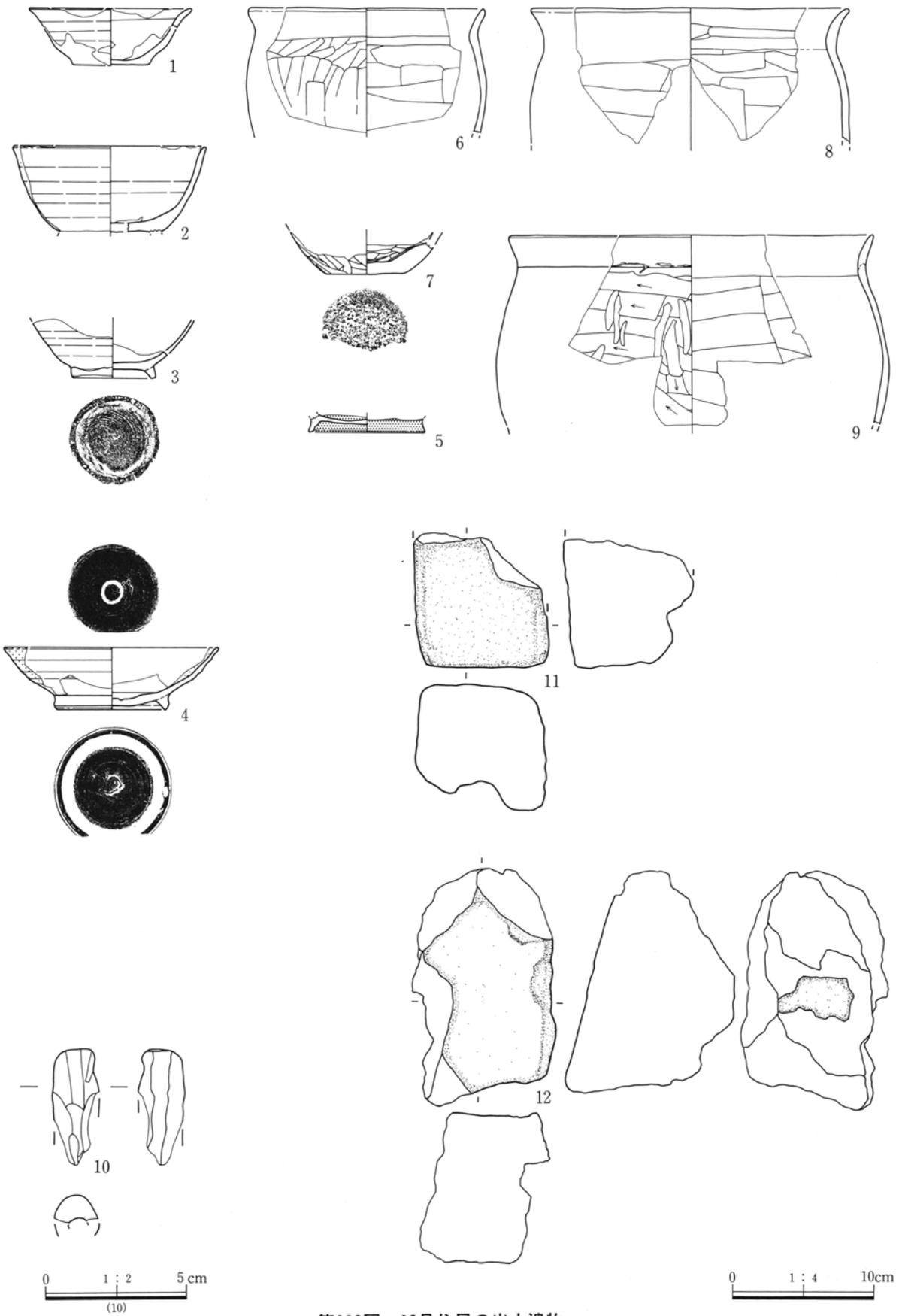
- 1 灰褐色土 青灰色粘土塊混じり、粘性強く、しまりあり。
- 2 灰褐色土 土質均質、青灰色粘土小塊含む。粘性強く、しまりあり。
- 3 粘土。

80号住居 柱穴 B-B'

- 1 灰褐色土 青灰色粒僅かに含む。シルト質粘土。
- 2 灰褐色土 青灰色粘土塊・粒混じり。
- 3 灰褐色土 青灰色粒・炭粒含む。土質密、粘性強い。
- 4 暗灰褐色土 青灰色粒・炭粒僅かに含む。
- 5 褐色土 青灰色粒、炭粒僅かに含む(やや茶色)。



第229図 80号住居



第230図 80号住居の出土遺物

81号住居(第231・232図 PL.69・70・159 遺物観察表P.386)

位置 A6区3W,3X-40,41グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈するものと思われる。南半は57号住居、61号住居に切られる。南東以外の隅部は丸みを持って屈曲する。

規模 長辺 3.54m 短辺 3.30m

方位 N-79°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 東南隅にある。直径62cmほどのゆがんだ円形の窪みで、断面形は皿状を呈する。埋没土の下位は細砂混じりの黄褐色土で、中位以上に炭化物を含む。

埋没土 わずかに焼土、炭化物を含む褐灰色のシルト質砂土で埋まる。床面直上にはごく薄い灰褐色シルトがのる。

確認最大壁高及び壁の状況 4cm。丸みを持って立ち上がりわずかに上方に開く。

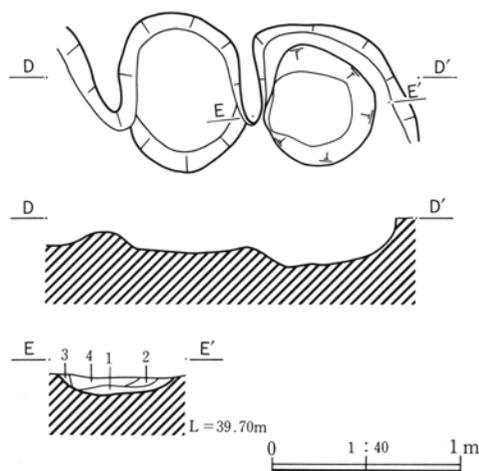
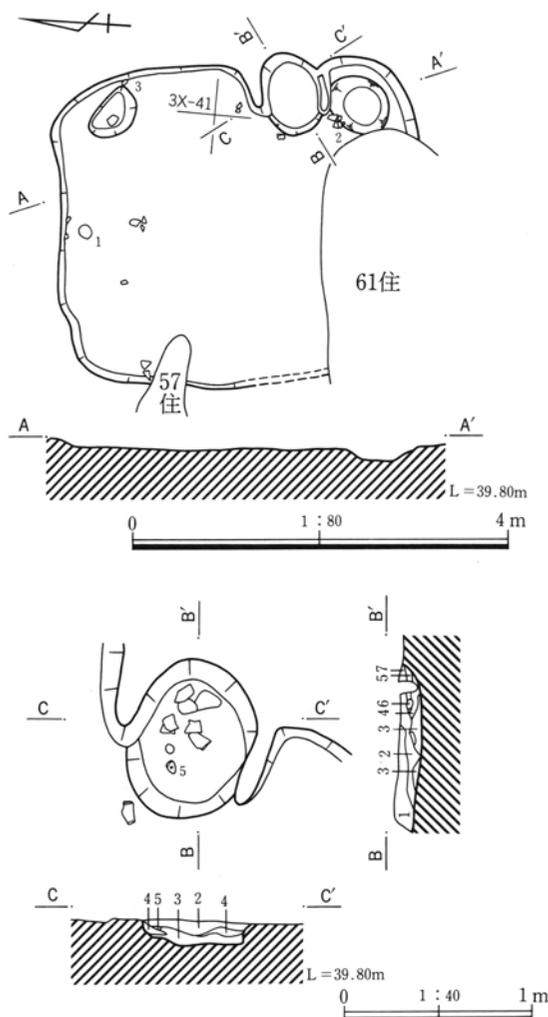
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床が認められる。

竈 東壁の南端近くを半円形に掘り込んで燃焼部の半ばをつくる。長さ0.84m、幅57cmの楕円形の窪みが燃焼部としてとらえられる。埋土には構築材と考えられる青灰色粘土の小塊が混じり、燃焼部奥には天井部が崩落したものと思われる粘土塊がある。

重複 57号住居、61号住居より古い。

遺物と出土状況 遺物数は少ない。貯蔵穴左手に大型の土器破片がみられるが、他は住居全体に小破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀前葉)



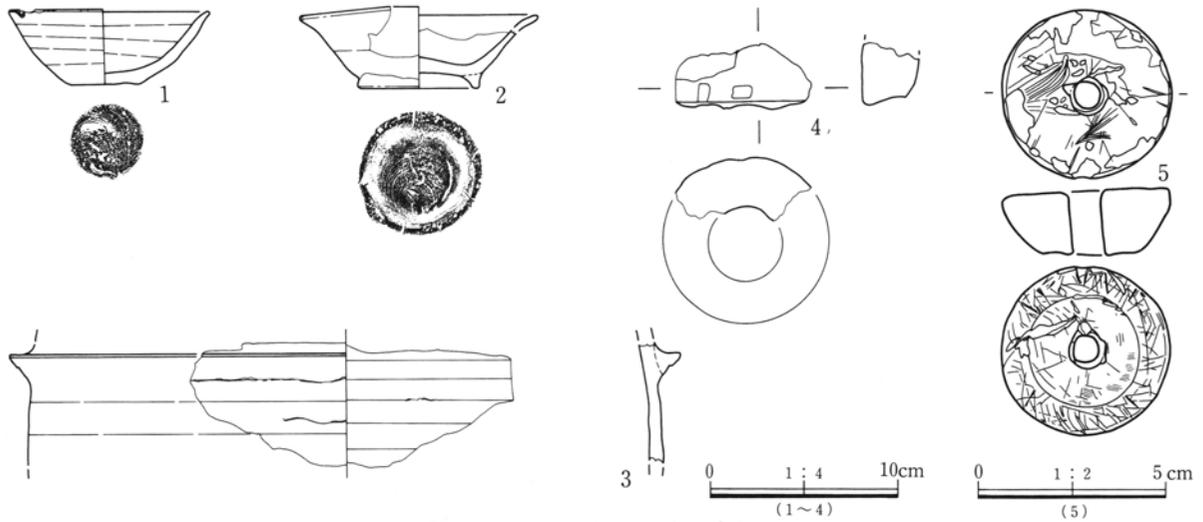
81号住居 竈 B-B' C-C'

- 1 灰黄褐色土 青灰色の灰に焼土粒混じる。灰層。フカフカした層。
- 2 橙色土 焼土塊主体。天井崩落土。
- 3 浅黄シルト質 炭粒・黄白色粒含む。サクサクした層。
- 4 くすんだ灰黄色シルト質 3層より炭粒少ない。
- 5 灰褐色土 焼土小塊・青灰色小塊をまだらに含む。
- 6 灰褐色土 炭粒・灰を含む。サクサクした層。
- 7 赤褐色土 焼土塊・灰褐色小塊混じり。

81号住居 貯蔵穴 E-E'

- 1 黄褐色土 細砂に黄色小塊含む。
- 2 黄褐色土 砂質、僅かに炭粒含む。
- 3 灰褐色土 炭化物多く含む、褐色粘土小塊混じり。
- 4 褐灰色土 炭粒含む、砂質・青白色小塊見られる。

第231図 81号住居



第232図 81号住居の出土遺物

82号住居 (第233・234図 PL70 遺物観察表P.386)

位置 A6区3P,3Q-31,32グリッド

形状 計測数値上ではわずかに南北に長いが、ほぼ整った方形の平面形を呈している。南壁の南端部に竈と並ぶように小さな張り出しが造られている。他の各隅はやや丸みを持って屈曲する。南壁中央に小さな突出部がある。

規模 長辺 3.76m 短辺 3.64m 面積 13.49㎡

方位 N-64°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 わずかに黄白色土の小塊を含む、褐灰色のシルト質砂土の単一層で埋まっている。周辺地山と、容易には判別しがたいほどに酷似した土質である。

確認最大壁高及び壁の状況 12cm。わずかに上方に開きながら、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

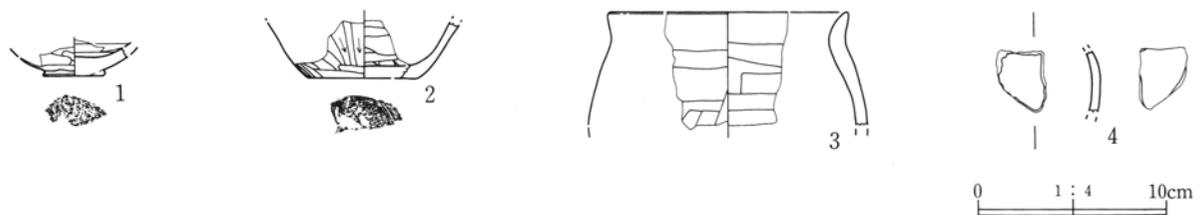
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平坦に仕上げられている。貼り床はない。

竈 上面の削平が著しいため、下底の一部を把握し得たのみである。東壁南寄りを壁外に半円形に掘り込んで燃焼部の半ばを作っている。煙道は確認できない。袖はなく、石などを設置した痕跡も認められない。確認長0.57m、燃焼部幅40cm。埋没土中には構築材に用いられたと考えられる黄灰色粘土が見られる。

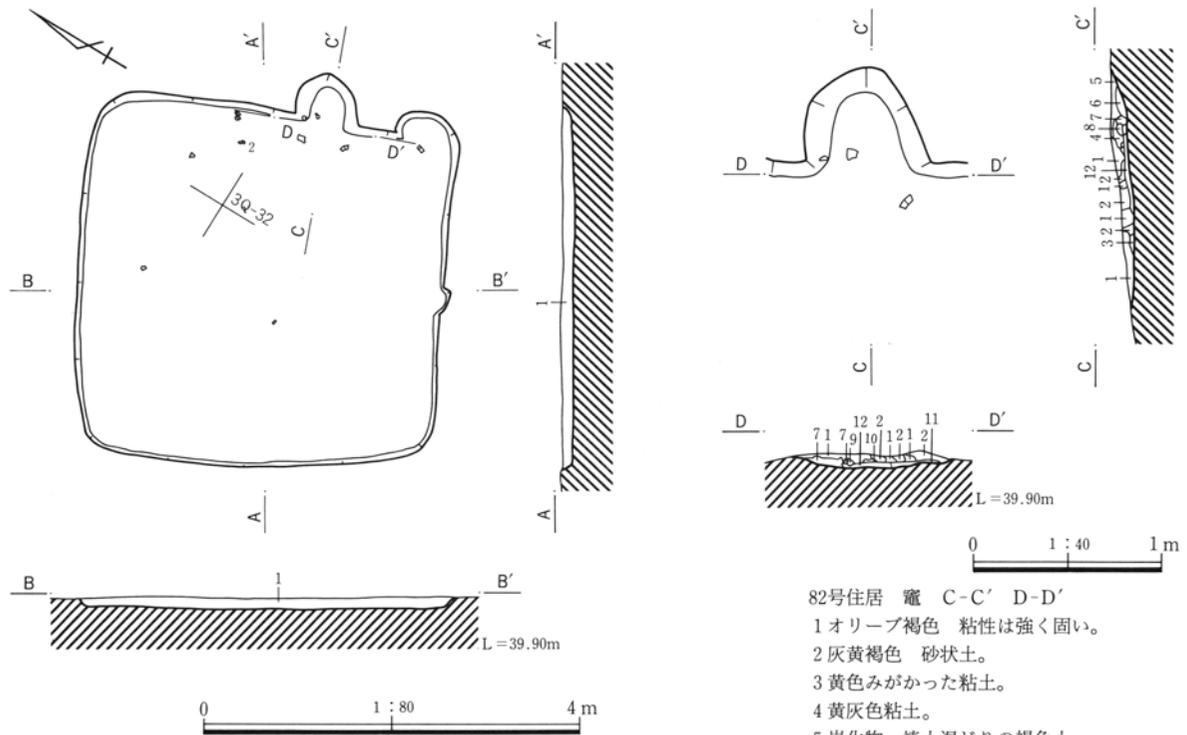
重複 なし。

遺物と出土状況 遺物数はごく少ない。竈内とその左手壁際、住居中央近くなどに小破片が点在するのみである。

その他 平安時代(10世紀前葉)



第233図 82号住居の出土遺物



82号住居 A-A' B-B'

1 褐灰色土 僅かに黄白色土小塊含む。茶色粒見られる、砂質シルト(周辺地山と判別しにくい層)。

82号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 オリーブ褐色 粘性は強く固い。
- 2 灰黄褐色 砂状土。
- 3 黄色みがかった粘土。
- 4 黄灰色粘土。
- 5 炭化物、焼土混じりの褐色土。
- 6 炭化物。
- 7 焼土。
- 8 粘土・炭化物混じり。
- 9 黒い砂。
- 10 焼土・灰混じり。
- 11 灰白色の砂。
- 12 灰。

第234図 82号住居

84号住居 (第235図 PL70)

位置 A6区4D, 4E-41, 42グリッド

形状 北東隅部のみを調査したもので、他は調査区外となる。北壁、東壁ともに直線的で膨らみを持たず、北東隅部はあまり丸みを持たずに、ほぼ直角に屈曲する。方形ないし長方形の平面形を呈するものだろう。

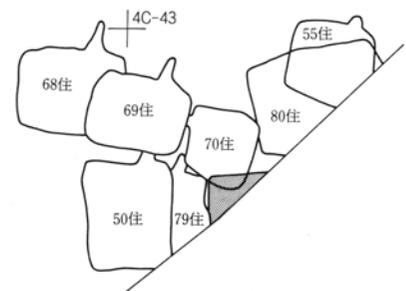
規模 東西確認長 2.05m 南北確認長 2.74m

方位 N-4°-W (東壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴・竈 確認できない。

確認最大壁高及び壁の状況 29cm。わずかに上方に開くが、ほとんど丸みを持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。住居中央寄りがやや高く

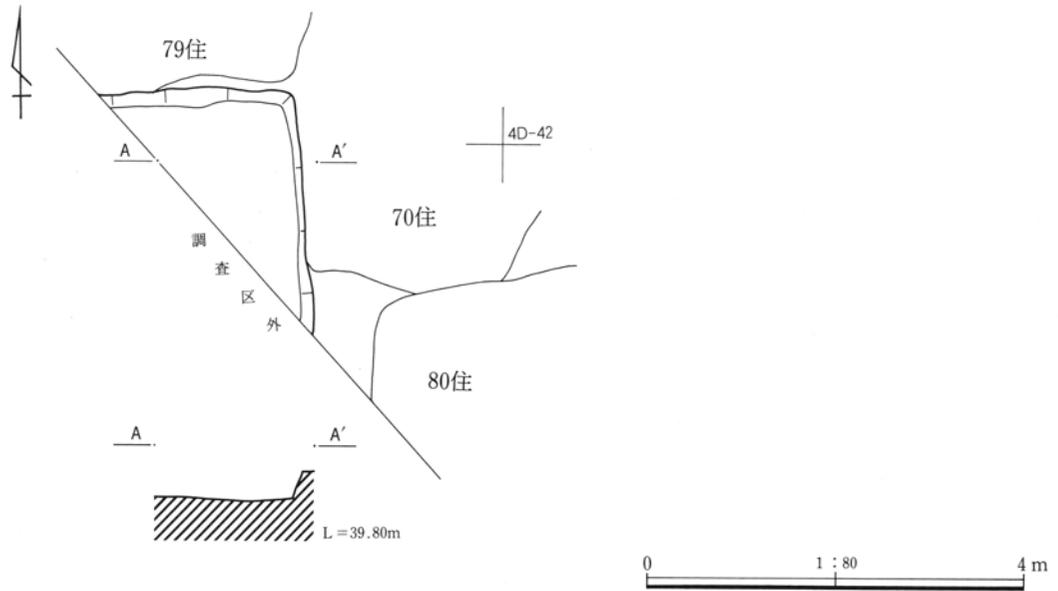


なる傾向がある。貼り床はない。

重複 70号住居より古い。79号住居とは直接切り合わない。

遺物と出土状況 なし。

その他 平安時代か



第235図 84号住居

85号住居 (第236図 PL70)

位置 A6区3Y-44,45グリッド

形状 南西隅に相当すると思われる部分のみを調査した。東は調査区外となり、北は旧河道より古い。隅丸方形ないし長形状を呈するものと思われ、隅部は丸みを持って屈曲する。

規模 南北確認長 2.04m 東西確認長 1.56m

方位 N-82°-E (西壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴・竈 確認できない。

埋没土 褐灰色砂質壤土で埋まる。

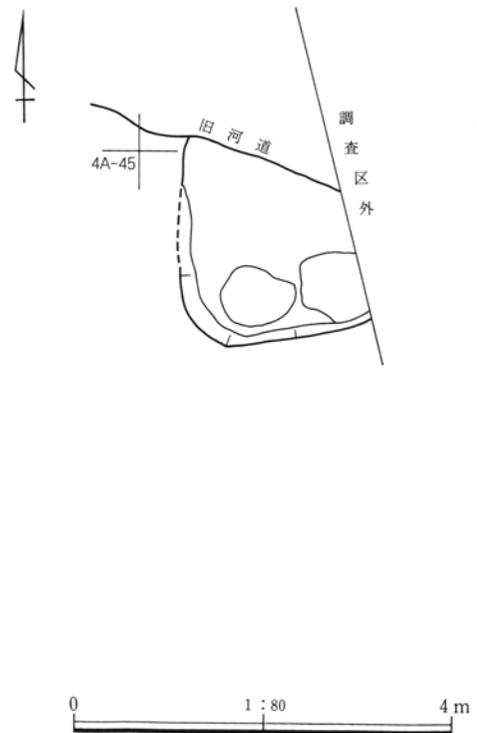
確認最大壁高及び壁の状況 10cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。掘り方を褐灰色土で埋め、炭化物を多く含む暗褐色土を貼って床としたもの考えられる。

重複 旧河道より古い。

遺物と出土状況 なし。

その他 平安時代か



第236図 85号住居

86号住居(第237~241図 PL71・159・160 遺物観察表P.386・387)

位置 A6区4G-44グリッド

形状 竈部を含む東壁の一部のみを確認したもので、他は調査区外となるため、平面形状を把握することはできなかった。

規模 東壁確認長 2.7m

方位 N-122°-E (竈)

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

埋没土 ローム粒、炭化物粒を含む黒褐色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 5cm。上面の削平が激しく、調査がごく部分的であることと併せて詳細な観察はできていない。東壁北部では、わずかに上方に開くが、あまり丸みを持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

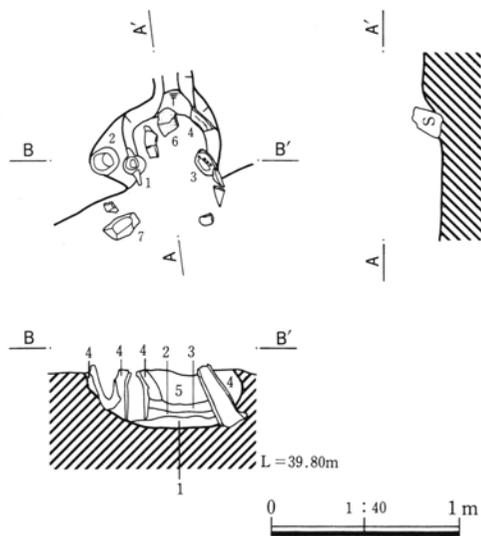
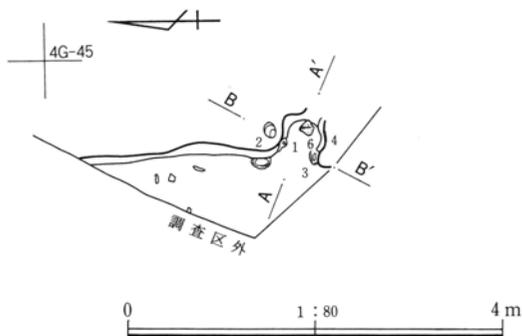
竈 東壁の南寄りに相当すると思われる部分を、壁

外にC字形に掘り込んで燃烧部を作り、細い煙道を延ばすが、煙道部はほとんど確認できない。燃烧部と煙道は小さな段をもって接続している。燃烧部と住居壁との接続部近くに、右袖相当の位置には靱形の、左袖相当の位置には髯形の形象埴輪を立てている。左袖の髯形埴輪のさらに左にも円筒埴輪を立てて、焚き口部を構成している。燃烧部奥には支脚かと思われる礫が立っている。左袖部前にも角礫があるが、これは構造を示す位置を保っていない。確認長0.6m、左右の埴輪間の内側幅26cm。埋没土中には構築材に用いられたと考えられる白色粘土が見られる。

重複 なし。

遺物と出土状況 竈内からは構築材の埴輪や礫が出土しているが、他の遺物はない。竈右手の壁際に羽釜、土釜の小片が散在している。

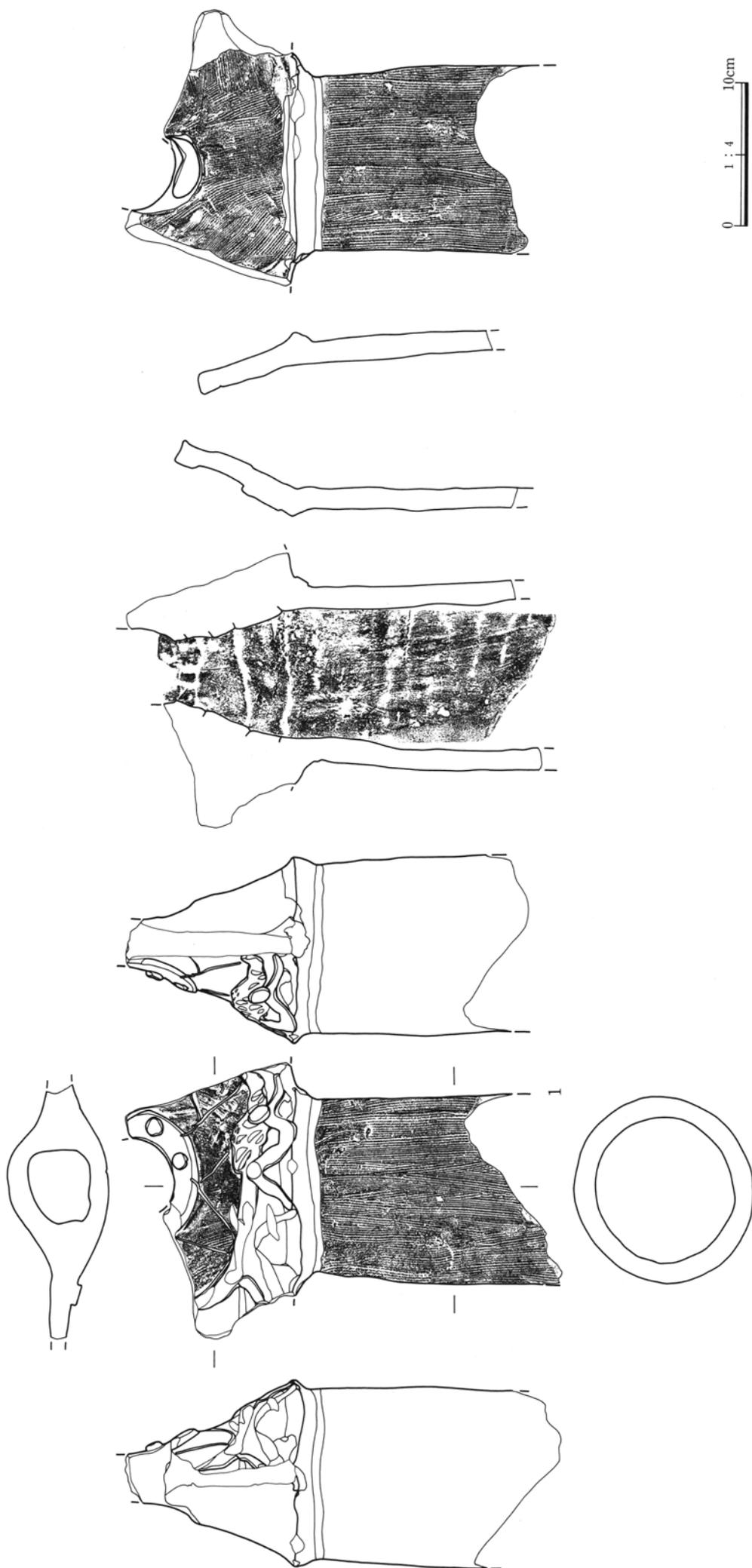
その他 平安時代か



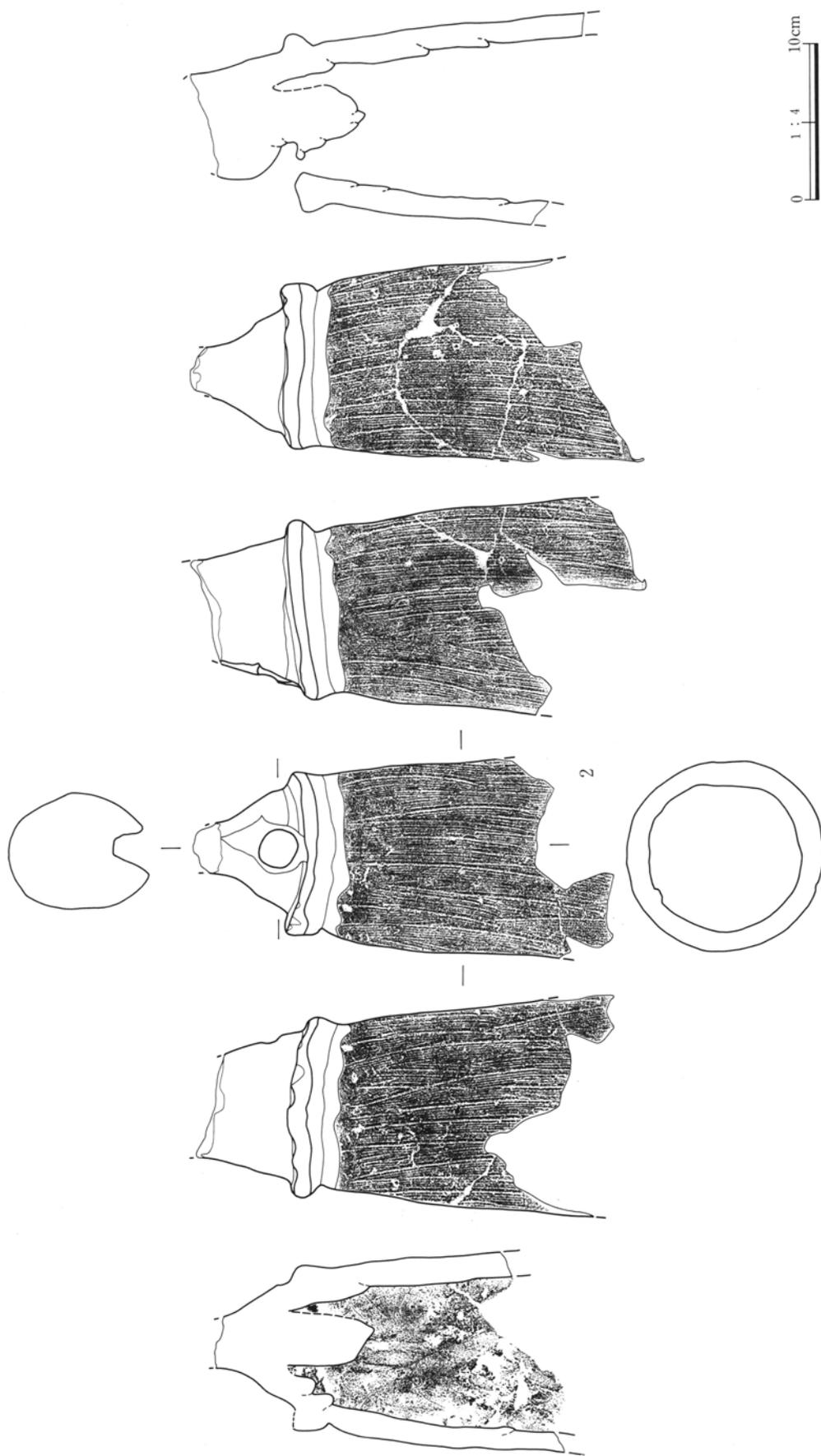
86号住居 竈 B-B'

- 1 暗褐色土 ローム漸移層。
- 2 黒色土 灰主体。しまりあり。
- 3 黒色土 灰主体。焼土粒含む。
- 4 白色粘土
- 5 暗褐色土 焼土粒・白色粘土粒含む。

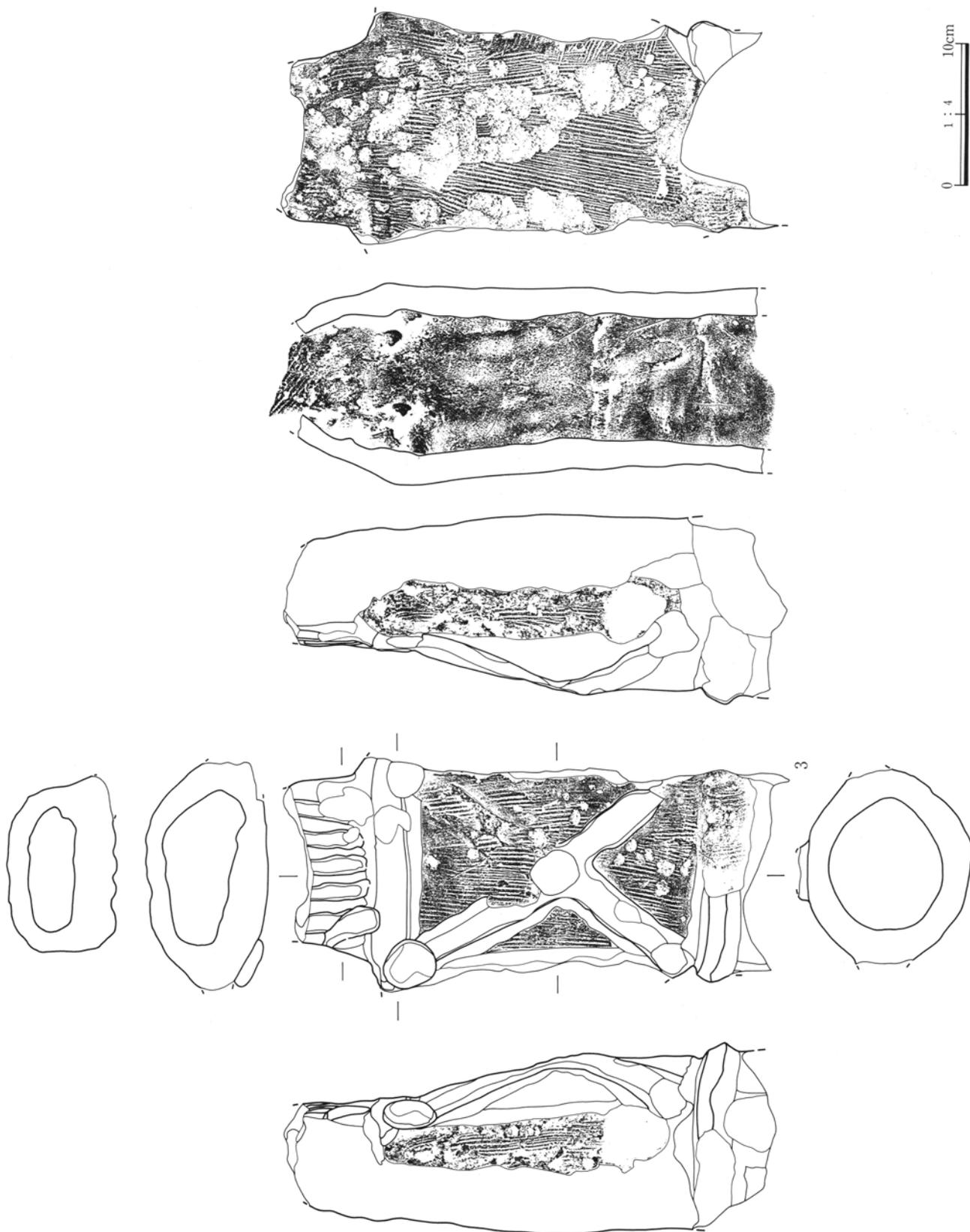
第237図 86号住居



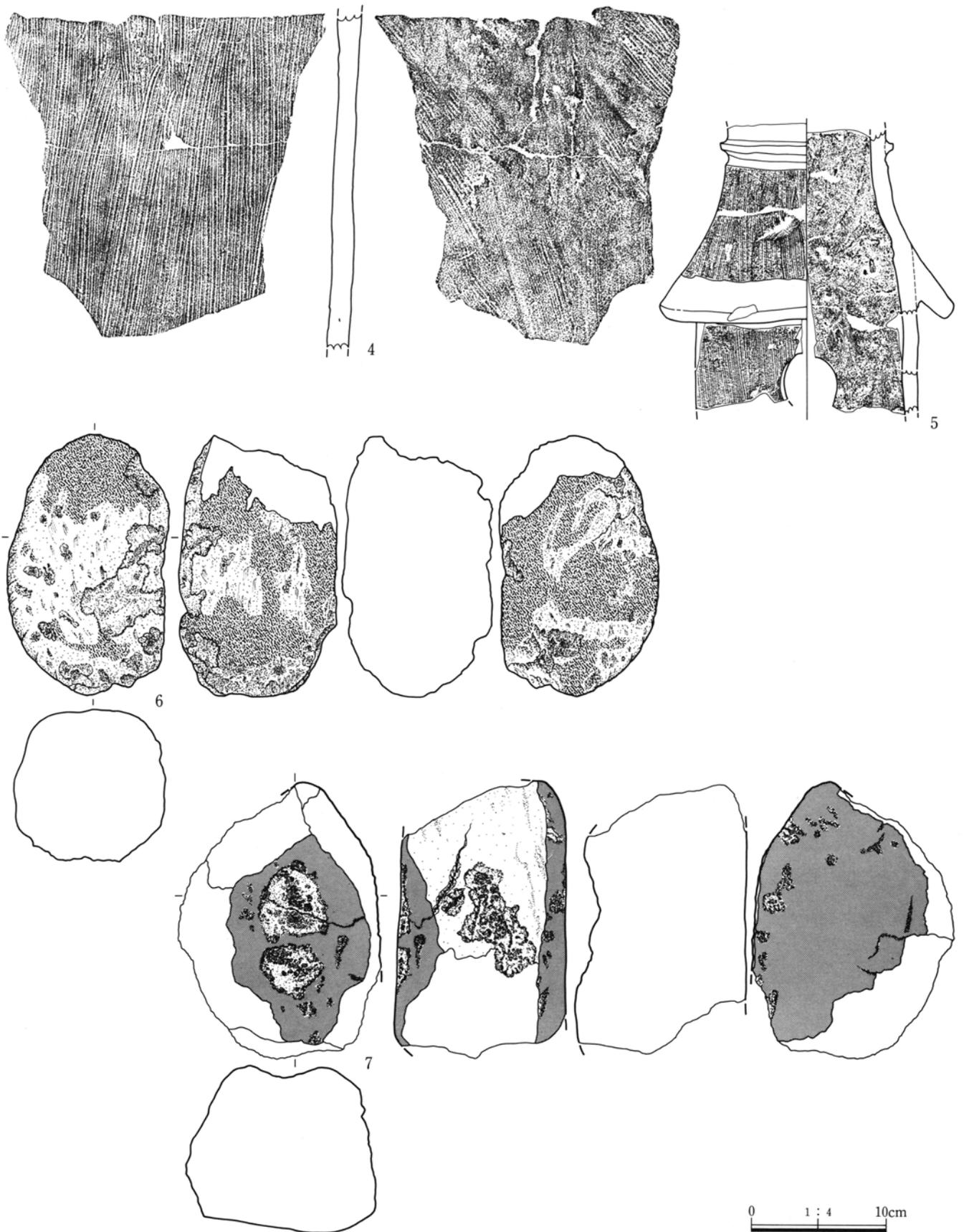
第238図 86号住居の出土遺物(1)



第239図 86号住居の出土遺物(2)



第240図 86号住居の出土遺物(3)



第241図 86号住居の出土遺物(4)

87号住居 (第242図 PL71)

位置 A6区3H, 3I-21, 22グリッド

形状 南西部が調査区外となるため、全体の形状は分からない。上面の削平が著しく、ごく一部を除いて床面のみを検出している。長方形ないし方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 東辺長 2.3m 東西確認長 1.02m

方位 N-58°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

確認最大壁高及び壁の状況 2.5cm。東壁北寄り部分のみ観察できた。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。他は床面のみ

を確認している。

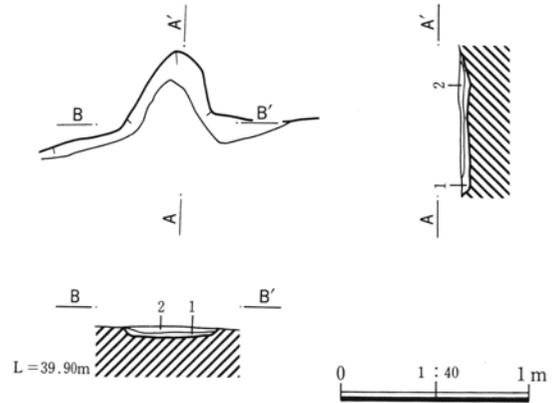
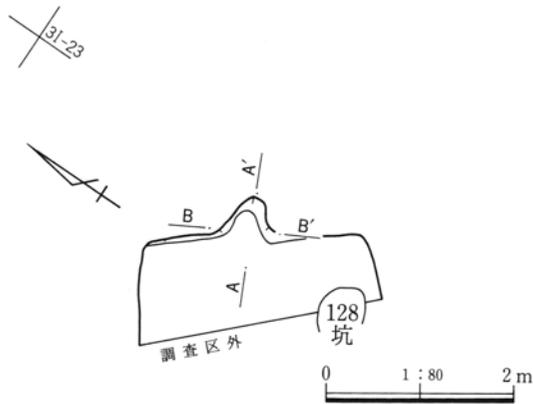
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。

竈 東壁のほぼ中央と思われる部分をU字形に掘り込んで燃焼部を作る。袖はない。確認長0.5m、燃焼部幅33cm。埋没土には多くの焼土粒と炭が混入する。図示していないが、竈前に2個、燃焼部左奥に1個小ピットがあった。構造と関連をもつものかどうか分からない。

重複 128土坑より古い。

遺物と出土状況 なし。

その他 平安時代か



87号住居 竈 A-A' B-B'

1 灰色砂質土 灰色の砂を主とした層。

2 灰褐色土 灰含む砂質土、多くの焼土粒と炭を含む。

第242図 87号住居

88号住居 (第243図 PL71・72 遺物観察表P.387)

位置 A6区3H, 3I-23, 24グリッド

形状 床面のみを検出した。ほぼ方形と考えられる。

規模 長辺 3.10m 短辺 3.00m 面積 9.12m<sup>2</sup>

方位 N-114°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

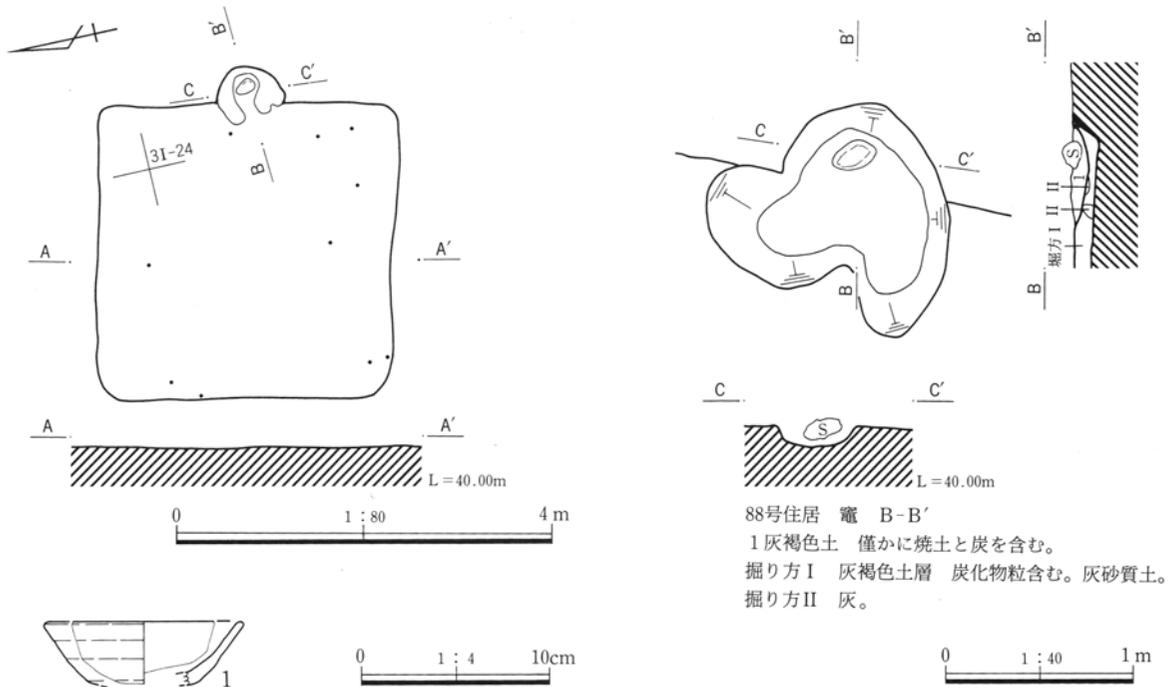
竈 東壁のほぼ中央と思われる部分をC字形に掘り込んで燃焼部の半ばを作る。燃焼部の底面のみを検

出したもので、袖は確認できない。確認長60cm、燃焼部幅70cm。構築材に用いられたと考えられる灰白色粘土が燃焼部をとりまいてC字状に残っている。燃焼部中央に礫があるが、やや浮いた状態にあり、構造と関連をもつものかどうか分からない。

重複 なし。

遺物と出土状況 住居全体に小片が散在する。

その他 平安時代(9世紀後葉)



第243図 88号住居と出土遺物

89号住居(第244図 PL72・160・161 遺物観察表P.387)

位置 A6区3J~3L-26,27グリッド

形状 上面のほとんどを削平されており、わずかに床面のみを検出したものである。確認した床面から想定すると、方形ないし隅丸長方形の平面形であったものと考えられる。北辺と西辺は直線的でこの両辺に挟まれた北西隅はほぼ直角に屈曲する。東辺はやや西に傾き、竈部は内側にゆがむ。南辺は緩やかにふくらみ、南東隅はなだらかな丸みを持っているものと思われる。

規模 長辺 3.5m 短辺 3.2m 面積 11.54㎡

方位 N-124°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられている。貼り床はない。

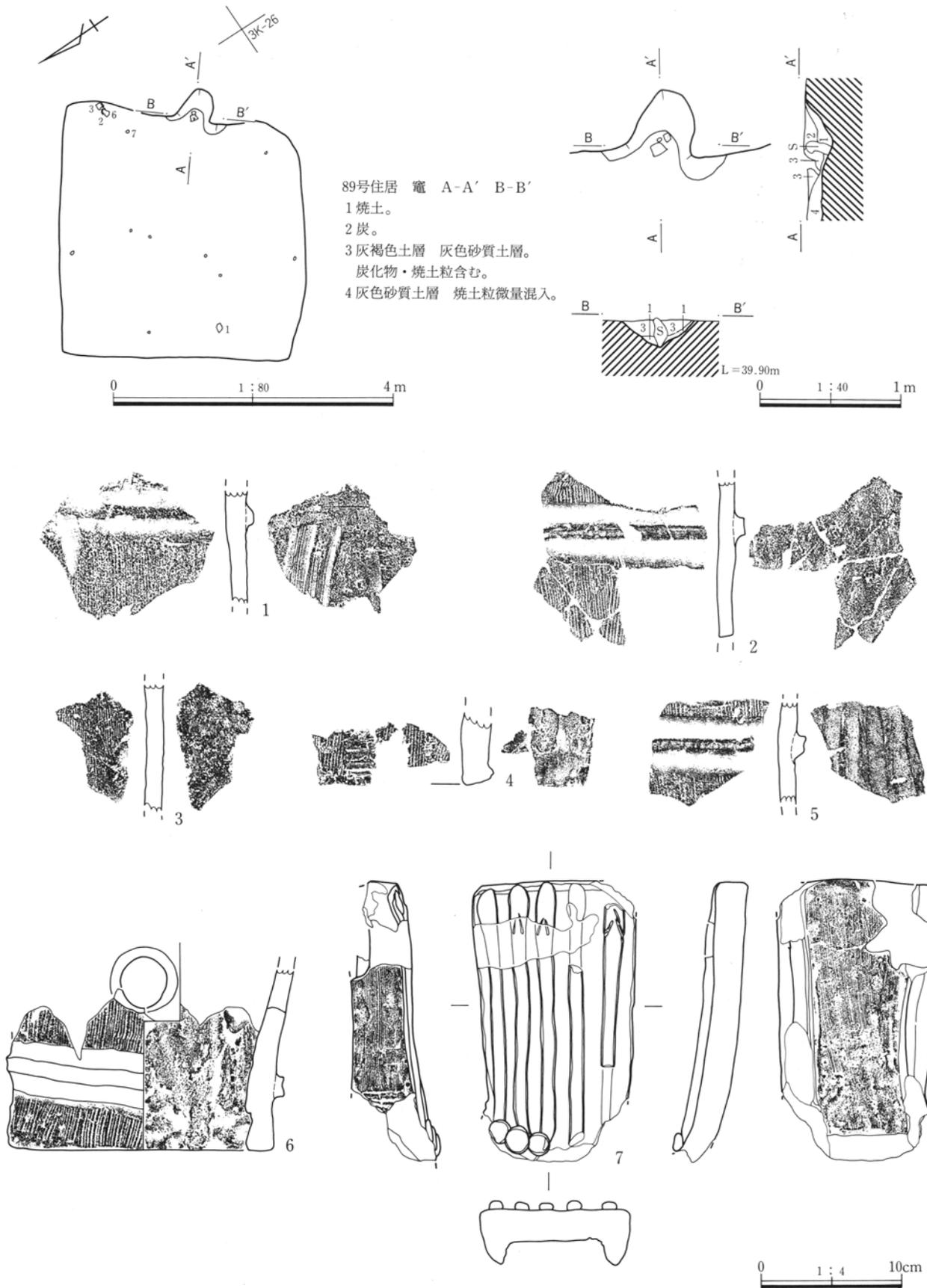
竈 燃烧部底面のみを検出している。東壁の中央をU字形に掘り込んで燃烧部の半ばを作る。煙道・袖は確認できない。袖部では若干地山を掘り残したようになだらかな傾斜が残るが、袖石などの設置痕跡も確認できない。確認長60cm、燃烧部幅46cm。燃烧

部奥よりの中央近くには、支脚に用いられたものと思われる礫が立てられている。

重複 なし。

遺物と出土状況 遺物数はごく少ない。東壁北寄り、比較的大型の破片が、小さなまとまりを持って出土しているが、他は住居全体に小片が散在するのみで、特定の分布傾向も見いだせない。埴輪片が多く、円筒埴輪片に混じて靱形の形象埴輪片も出土している。床面に接する位置からの出土が多い。本遺跡では埴輪が竈構造材として用いられる例が少ないが、本住居の埴輪片は竈からは出土しておらず、やや離れた位置からの出土である。

その他 平安時代か



第244図 89号住居と出土遺物

90号住居 (第245図 PL72 遺物観察表P.387)

位置 A6区3K, 3L-24, 25グリッド

形状 竈の燃烧部底面と床面と思われる硬化面、その周辺に分布する土器片群から住居としたもので、平面的な規模や形状は分からない。床面としてとらえられる範囲から復元すると、東西にやや長い縦長長方形の平面形を呈するものと思われる。

規模 長辺推定長 3.3m 短辺推定長 2.6m

方位 N-109°-E

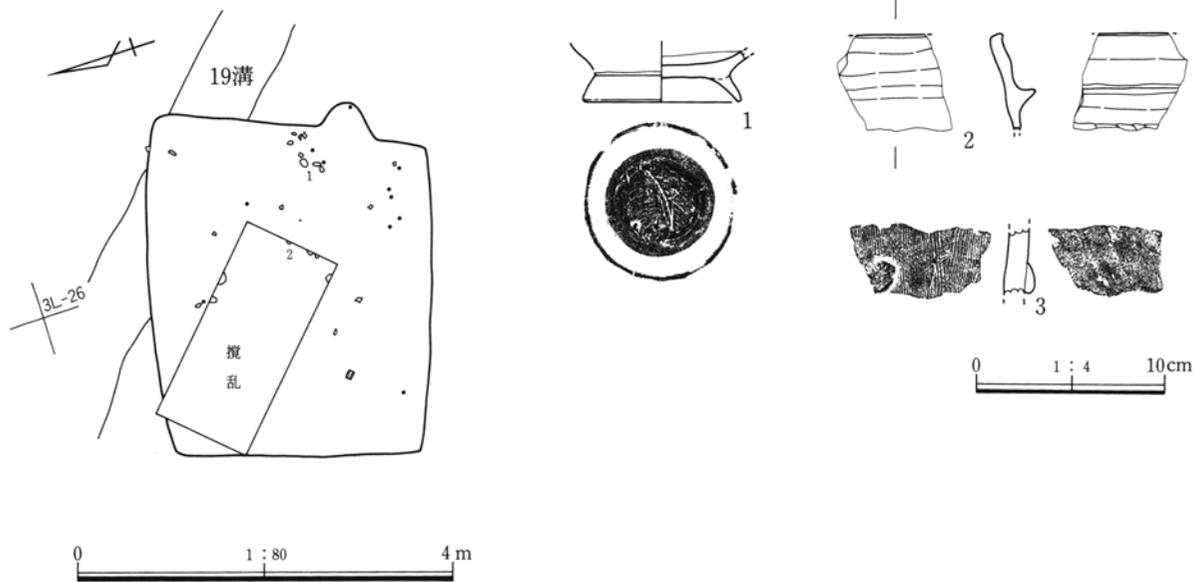
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

竈 東壁の南寄りに相当すると思われる部分の壁面をU字形に掘り込んで燃烧部を作る。袖は認められない。確認長40cm、燃烧部幅52cm。

重複 98号住居より新しい。

遺物と出土状況 住居全体に小破片が散在する。

その他 平安時代 (10世紀前葉)



第245図 90号住居と出土遺物

92号住居 (第246図 PL72・73・161 遺物観察表P.387)

位置 A6区3M, 3N-28, 29グリッド

形状 方形を基本とする平面形を持つものと考えられるが、北東隅部は大きく丸みを持っている。東壁は竈を壁内に取り込むように膨らんでいる。南壁は直線的で、南東・南西隅部はあまり丸みを持たずに屈曲する。

規模 長辺 2.7m 短辺 2.7m 面積 7.89m<sup>2</sup>

方位 N-130°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 焼土粒、灰を含む灰褐色砂質土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 4.8cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立す

る。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、中央部がやや窪む。貼り床はない。

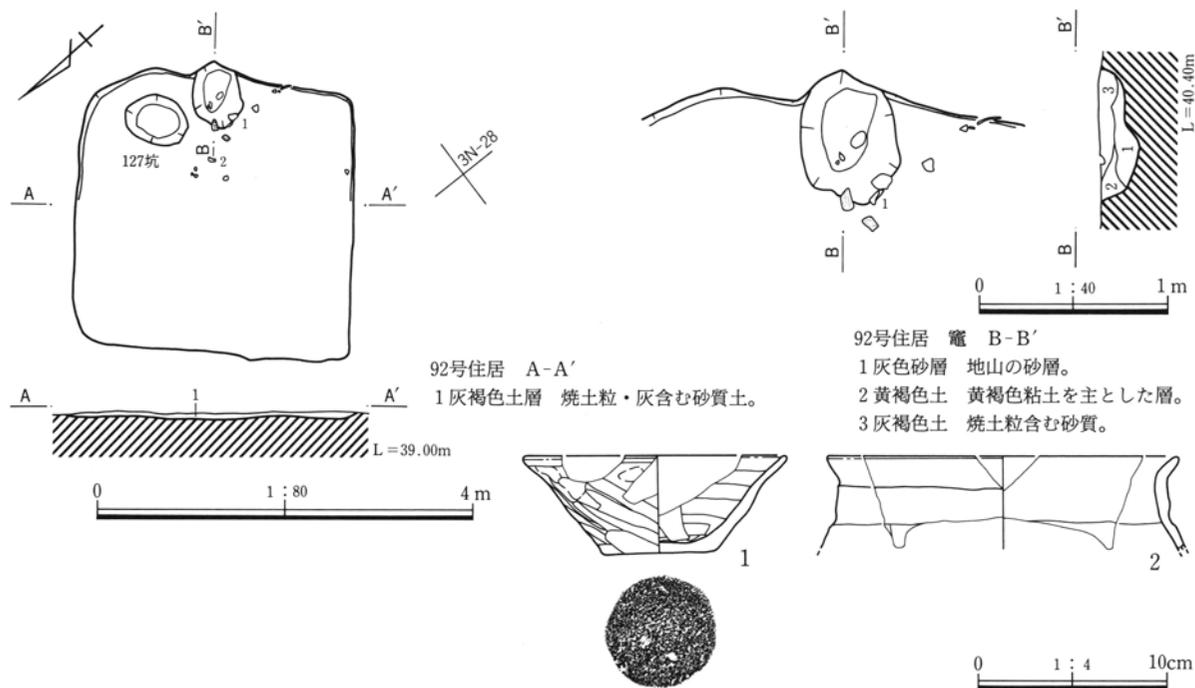
竈 東壁の南寄りをわずかに掘り込んで燃烧部奥を張り出させる。煙道は認められない。燃烧部は大半が住居内に作られるが、袖は確認できない。確認長0.7m、燃烧部幅50cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる黄褐色粘土が見られる。

重複 127号土坑より古い。

遺物と出土状況 竈及びその周辺に小破片が散在する。

その他 平安時代 (9世紀後葉)

第3節 古代の遺構と遺物



第246図 92号住居と出土遺物

94号住居 (第247図 PL73・161 遺物観察表P.387)

位置 A6区3N-27,28グリッド

形状 竈底面及び床面を確認した。東西にやや長い縦長長方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 長辺 2.6m 短辺 2.34m 面積 6.52m<sup>2</sup>

方位 N-90°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、

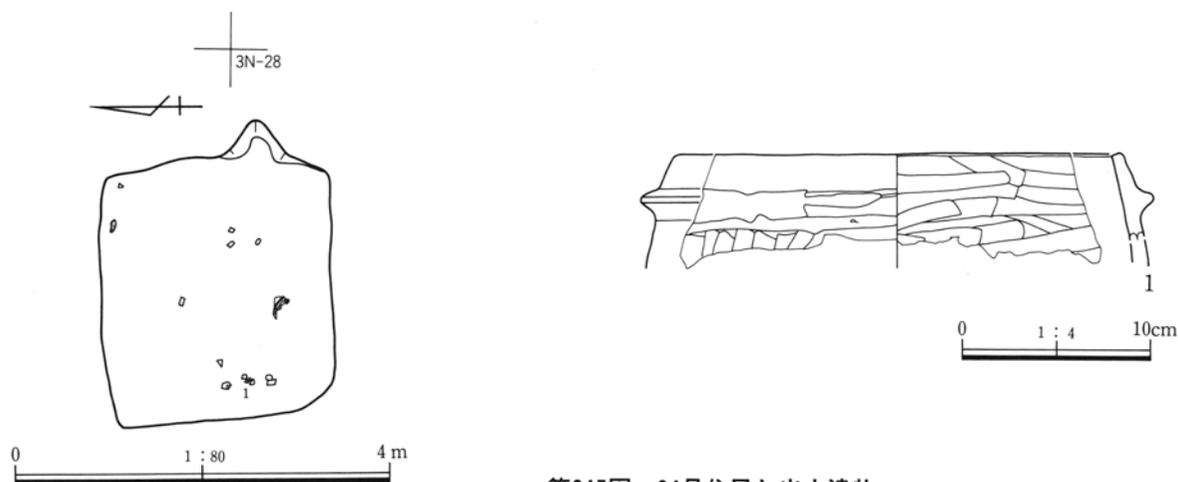
ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 東壁の南寄りをU字形に掘り込んで燃焼部を作っている。煙道、袖は確認できない。確認長45cm、燃焼部幅42cm。

重複 なし。

遺物と出土状況 住居中央より南寄りに散在する。南西四半に比較的大型の破片がみられる。

その他 平安時代 (10世紀中葉)



第247図 94号住居と出土遺物

98号住居 (第248~250図 PL73・162 遺物観察表P.387・388)

位置 A6区3K, 3L-24~26グリッド

形状 上面の削平が著しく、形状を明確にとらえることができていない。ゆがんだ方形の平面形を呈するものと考えられる。西壁は直線的に掘られるが他の三壁はゆがんでいる。南北壁ともに、中央部近くで南に小さく折れるため、北西隅はやや鋭角に、南西隅はやや鈍角になっている。南東隅はあまり丸みを持たずに屈曲するが、東壁の北部は中央近くの竈に向かって膨らんでいて、北東隅は大きな丸みをもって北壁に連続している。

規模 長辺 4.1m 短辺 3.9m 面積 17.94㎡

方位 N-105°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 ローム塊を含む茶褐色砂質土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 14cm。わずかに上方に開くが、あまり丸みを持たずに直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、

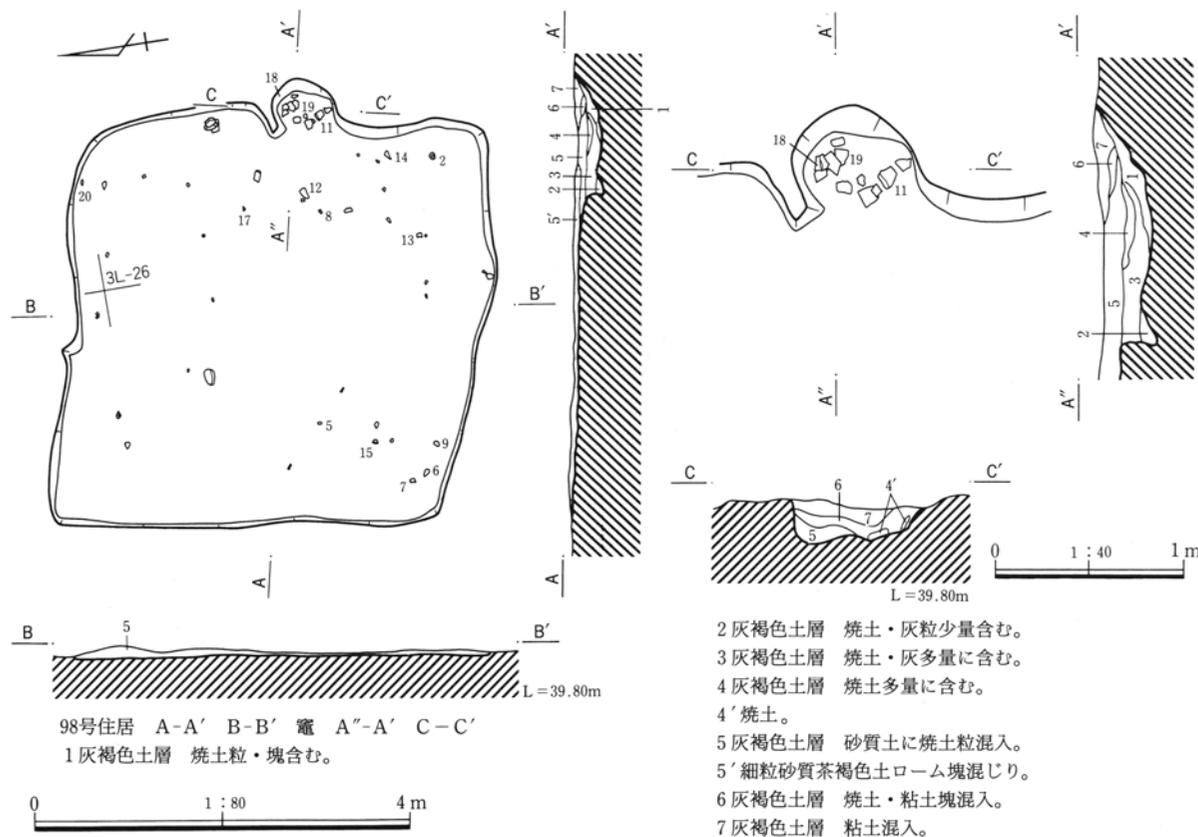
南西隅がわずかに低くなるが、全体的にはほぼ平らに仕上げられている。貼り床はない。

竈 東壁のほぼ中央を、壁外に半円形に掘り込んで燃焼部の一部を作り、煙道を立ち上げている。燃焼部の主体は住居壁内にある。煙道との接続部には小さな段差がもうけられている。左袖は地山を小さな長形状に削り残しているが、右袖部ではややなだらかな傾斜で壁が削られているものの、明瞭にはとらえられない。埋没土には構築材として用いられたと考えられる粘土塊が混じている。確認長0.6m、燃焼部幅50cm。

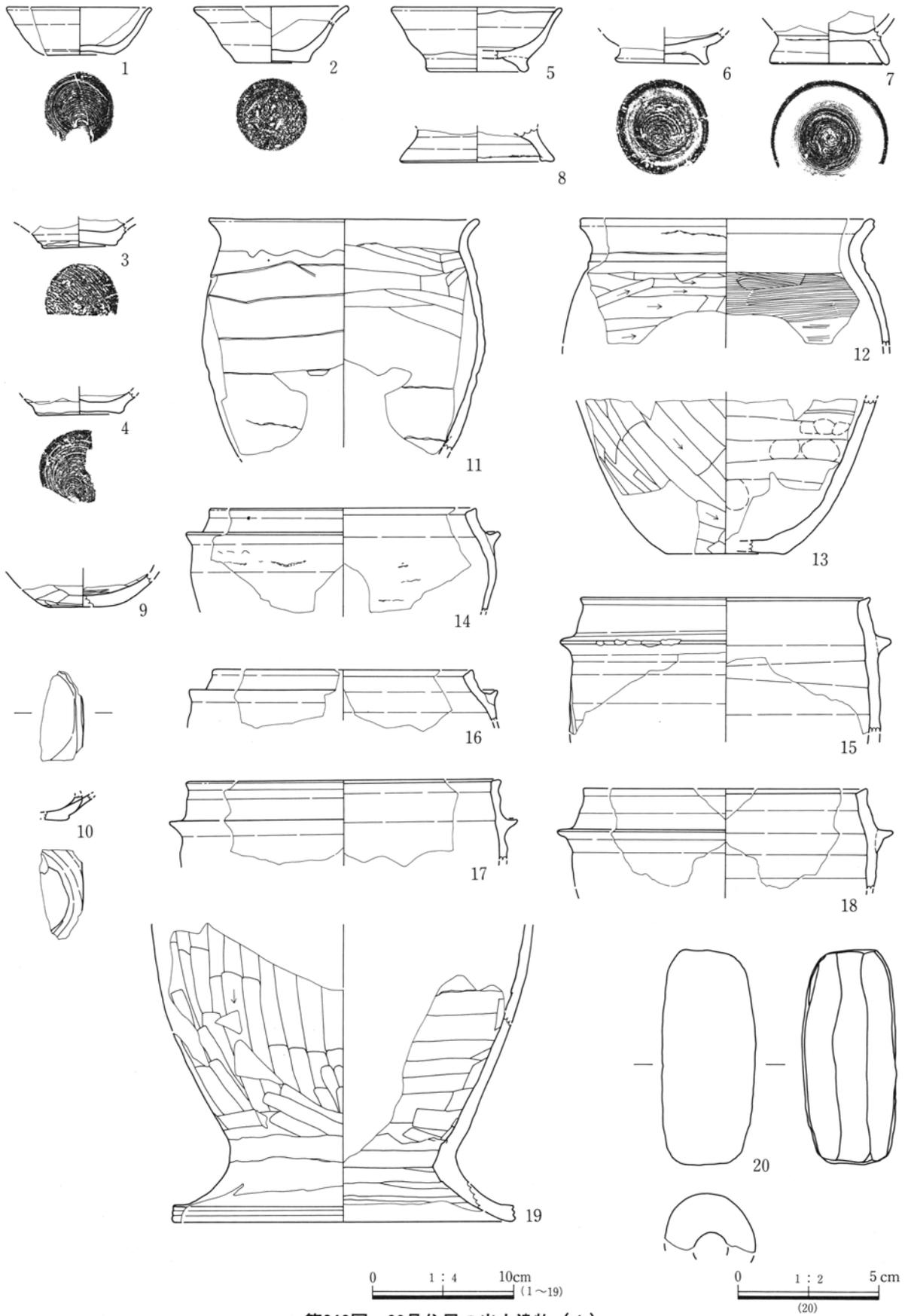
重複 90号住居より古い。

遺物と出土状況 住居全体に坏、甕、羽釜などの土器片が散在するが、竈及びその周辺と南西隅部近くに比較的大型の破片が集中するまとまりがあるようだ。しかし、須恵器甕の底部片は竈内、南壁中央際と、南西隅部にある破片が接合している。

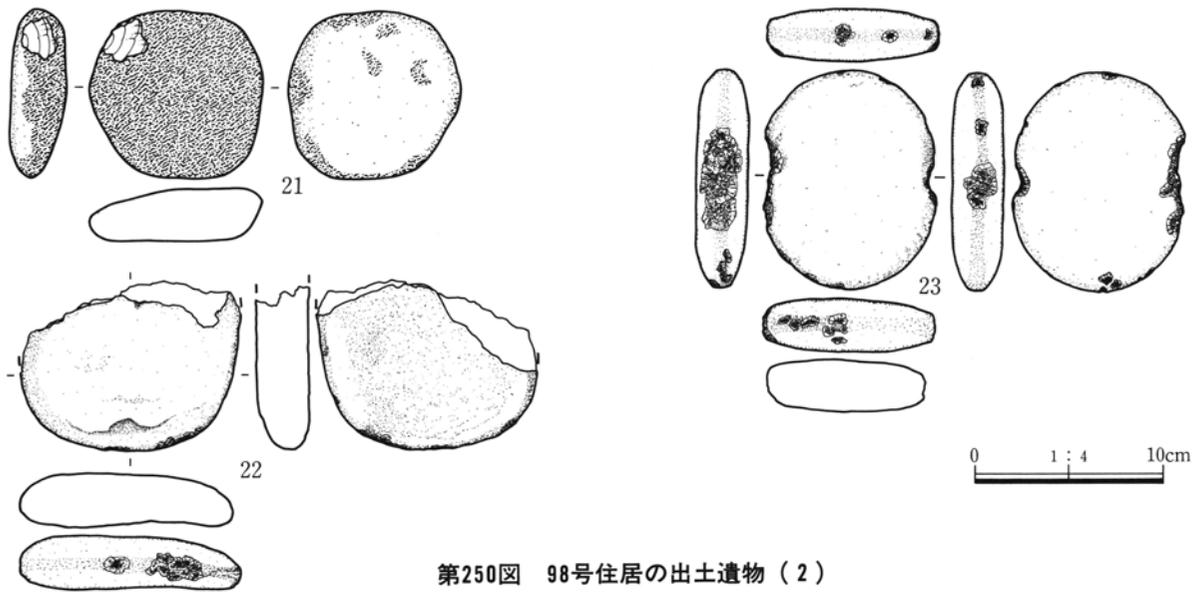
その他 平安時代(10世紀前葉)



第248図 98号住居



第249図 98号住居の出土遺物(1)



第250図 98号住居の出土遺物(2)

105号住居 (第251図 PL74)

位置 A6区3G, 3H-23, 24グリッド

形状 調査区界近くで竈燃焼部底面にあたるものと思われる炭と焼土の集中を検出したものである。この周辺には掘り方の底面と考えられる小さな凹凸が集中していることが認められたため、住居の痕跡と判断したものである。このため、規模・形状を判断する材料には乏しい。掘り方の残痕と想定される凹凸の分布範囲をたどってみると、南西辺相当長3.5m、北西辺相当部分の確認長3.24mの規模となり、この分布範囲の形状から見て、方形ないし長方形の平面形を呈する住居であった可能性が高いものと思われる。

方位 N-58°-E (南西壁想定線)

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

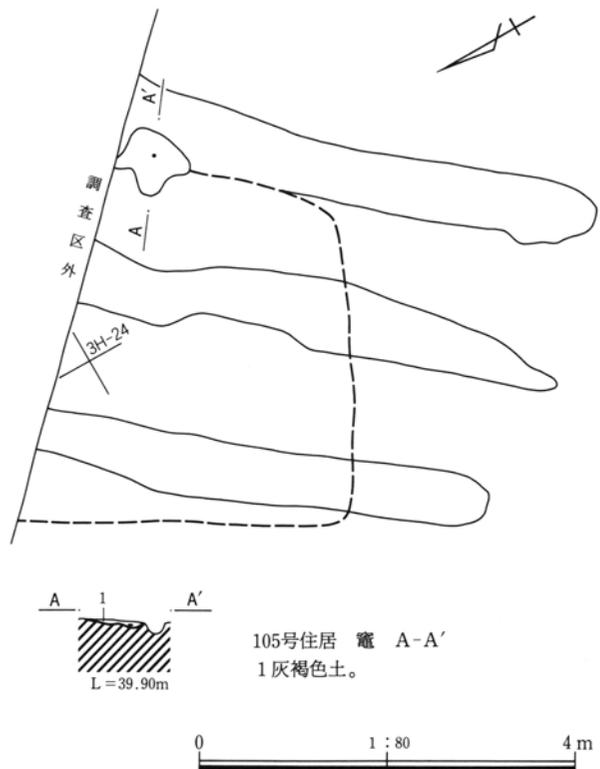
竈 南東壁に作られているものと思われる。掘り方残痕から想定した住居平面からみると、壁外に燃焼部の半ばを張り出すように掘られていたものと考えられる。北西-南東方向に主軸をもつものと思われる。確認長70cm、幅80cmほどの大きさの不整な浅い窪みの中に、焼土や炭が堆積する状態であった。

重複 畠より新しい。

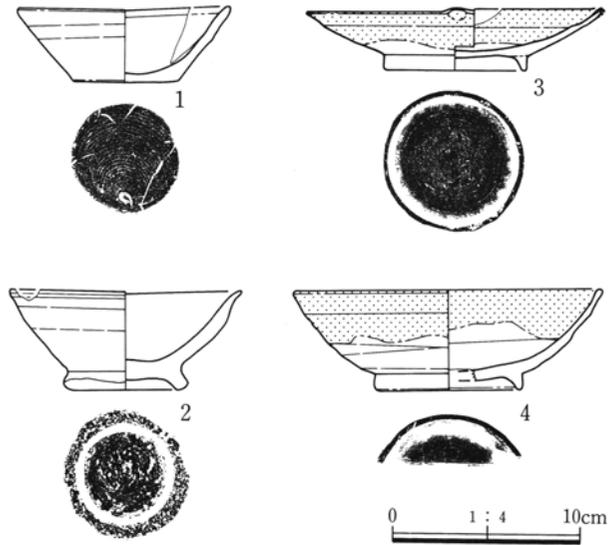
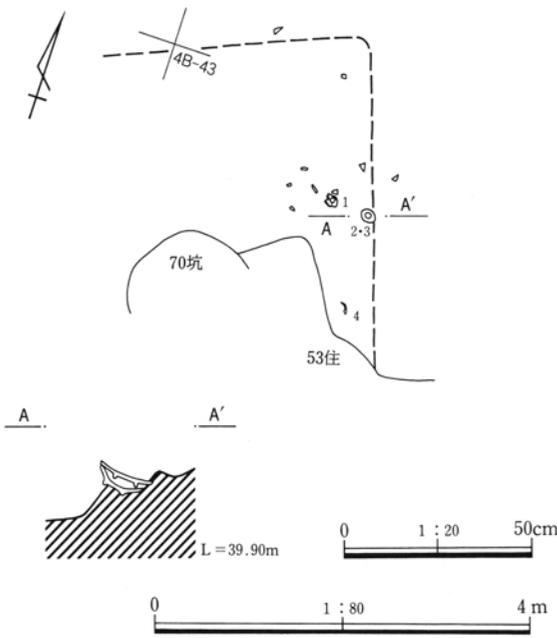
遺物と出土状況 竈想定部分やその周辺に土器細片

が点在するが、この住居にともなうものかどうか判断できない。

その他 平安時代



第251図 105号住居



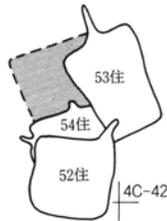
第252図 106号住居と出土遺物

106号住居

(第252図 PL66・162 遺物観察表P.388)

位置 A6区4A・4B-42, 43グリッド

形状 明確な遺構としてはとらえられない。53号住居調査時に、東壁の延長線近くからまとまった遺物の出土を見た。特に、坏2個体が重なった状態で出土したため、これも53号住居にともなう遺物と考えたが、床面レベルが異なること、53号住居出土遺物との間に時期差があることなどから、別個の住居が存在したものと見るに至ったものである。床面と思われる硬化面及び遺物の分布状態から想定すると、方形ないし長方形の平面形であったものと思われる。



規模・方位 不明。

柱穴・周溝・貯蔵穴・竈 確認できない。

重複 53号、54号住居より古い。

遺物と出土状況 東壁想定線のやや北寄りかと思われる位置に坏を中心に土器がまとまる。

その他 平安時代(10世紀前葉)

99号住居 (第253図 PL74・162 遺物観察表P.388)

位置 A7区5F, 5G-22, 23グリッド

形状 南北にやや長い長方形ないし隅丸長方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 南北確認長 3.24m 南辺長 3.30m

方位 N-108°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

確認最大壁高及び壁の状況 7cm。わずかに上方に開くが、ほぼ直立する。

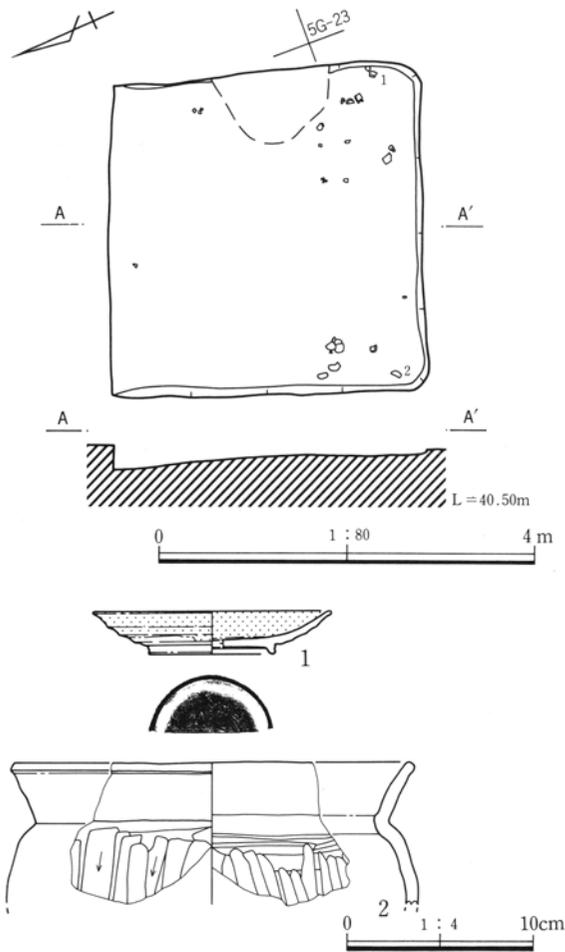
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 東壁のやや南寄りに相当するかと思われる位置に痕跡的に残されているのみであった。

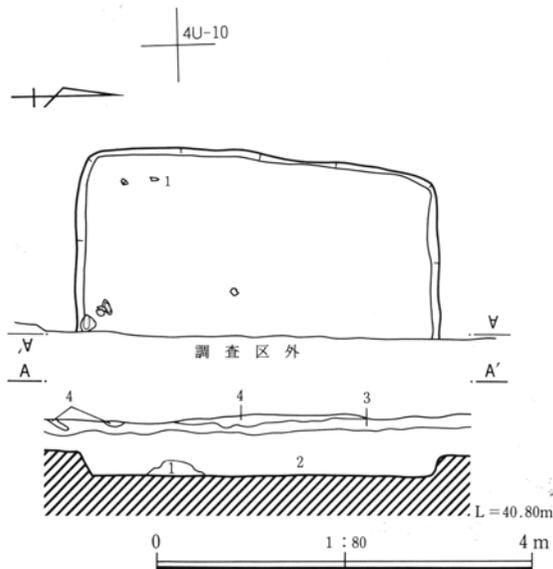
重複 なし。

遺物と出土状況 遺物量はすくない。竈右手及び南西隅部近くに土器破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀前葉)



第253図 99号住居と出土遺物



- 102号住居 A-A'
- 1 暗褐色土 ローム塊混じり。
  - 2 褐色土 火山灰なし。
  - 3 褐色土 火山灰混じり(火山粒)。
  - 4 耕土 火山灰混じり。

第254図 102号住居と出土遺物

102住居 (第254図 PL70 遺物観察表P.388)

位置 A7区4T-10,11グリッド

形状 東部が調査区外となり、全体の形状は不明。確認した範囲では3壁は直線的に掘られており、西壁の両隅はあまり丸みを持たずに屈曲している。長方形ないし方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 西辺 3.58m 南辺確認長 1.30m

方位 N-13°-E (西壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴・竈 確認できない。

埋没土 火山灰を含まない褐色土で埋まる。一部にローム塊を混じる暗褐色土が見られる。

確認最大壁高及び壁の状況 15cm。わずかに上方に開くが、あまり丸みを持たずにほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 非常に均平に仕上げられる。西壁際の一部を除いて、床下10cmほどに不整形の掘り方があるが、これも凹凸はさほど大きなものではない。

重複 なし。

遺物と出土状況 遺物数はごく少ない。南部に土器片が点在し南壁調査区界に礫のまとまりが見られる。

その他 平安時代(10世紀後葉)

96号住居 (第255~257図 PL75・161 遺物観察表P.388・389)

位置 B3区2V, 2W-46, 47グリッド

形状 東西に長い縦長長方形の平面形を呈する。各隅はあまり丸みをもたずに屈曲するが、北東隅部はやや丸み強い。

規模 長辺3.78m 短辺 2.90m

方位 N-119°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈の右手前にあたる、南壁東寄りの位置にある土坑を貯蔵穴とした。直径50cmほどの大きさで、ゆがんだ円形の平面形を呈している。深さは20cmほどである。底面はやや窪んでいて、U字形に近い断面形を示す。

確認最大壁高及び壁の状況 20.5cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 ゆるやかに波打つような凹凸があり、中央部がわずかに窪む。掘り方では

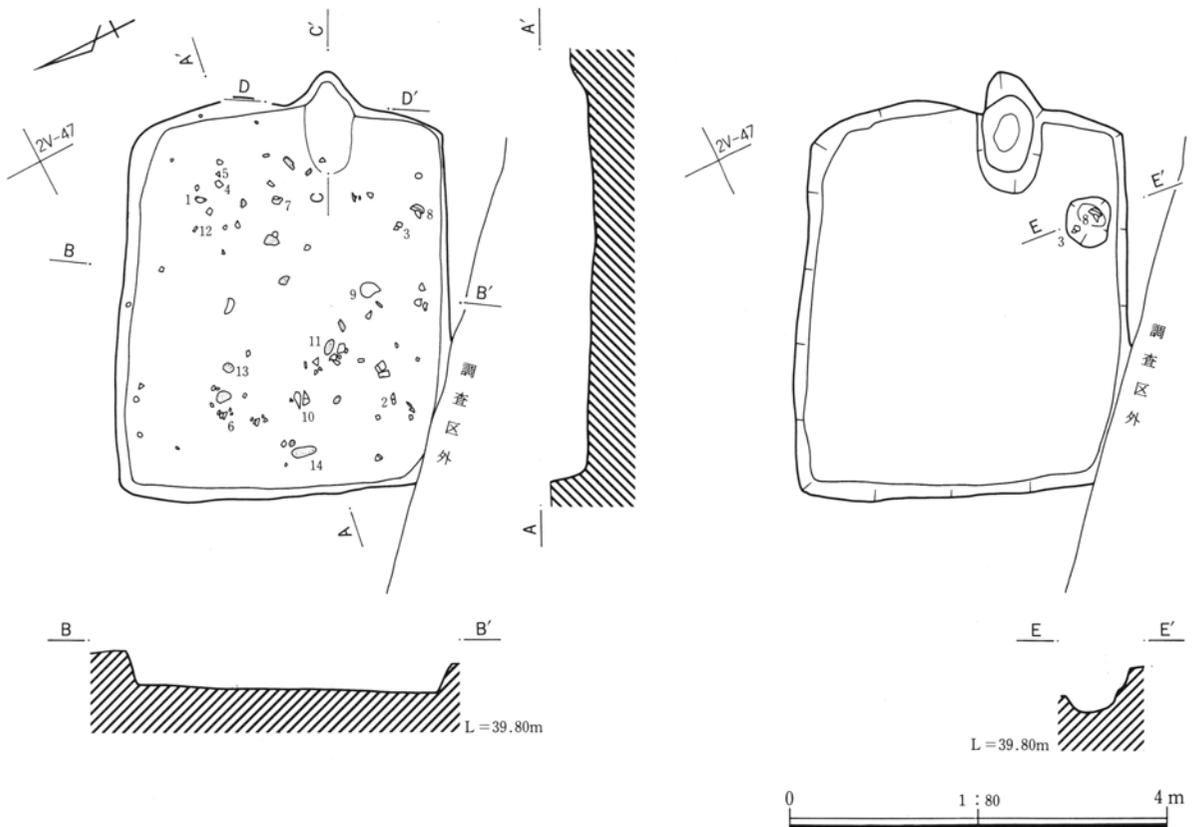
壁に沿ってやや深く掘られている部分がある。

竈 東壁の中央やや南寄りにある。燃烧部の主体は住居壁内にあつて、壁を浅いU字形に掘り込んで煙道を立ちあげているものらしい。袖は認められない。燃烧部は長さ1.3m、幅70cmほどの楕円形の平面形状で、床面からの深さ5cmほどの窪みとしてとらえられる。

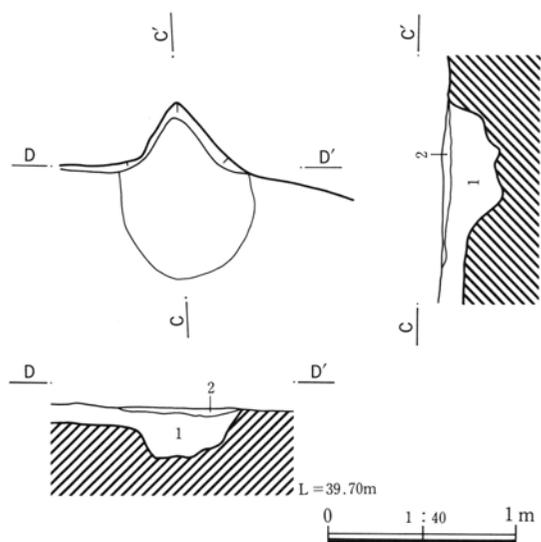
重複 なし。

遺物と出土状況 床面からはやや浮いたものが多いが、坏をはじめとする土器の比較的大きな破片や円礫が、住居全体に散在している。竈周辺と北西隅部では遺物が少ない。

その他 平安時代(10世紀中葉)



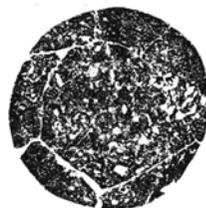
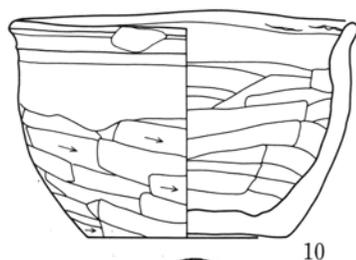
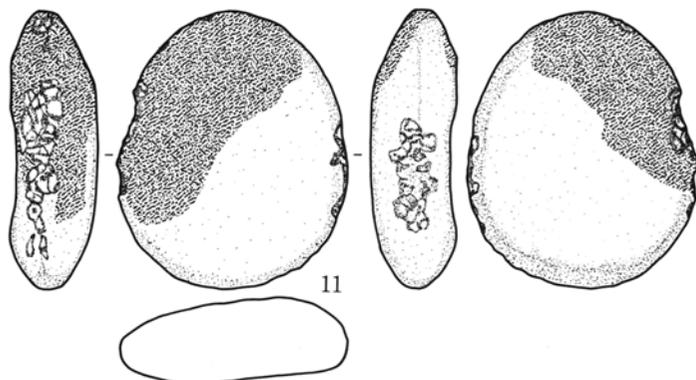
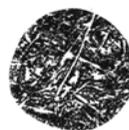
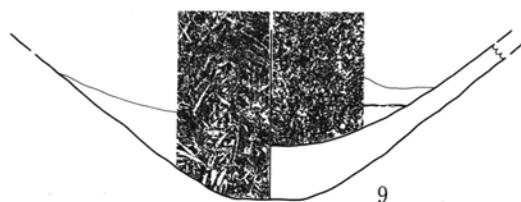
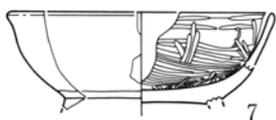
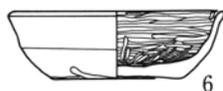
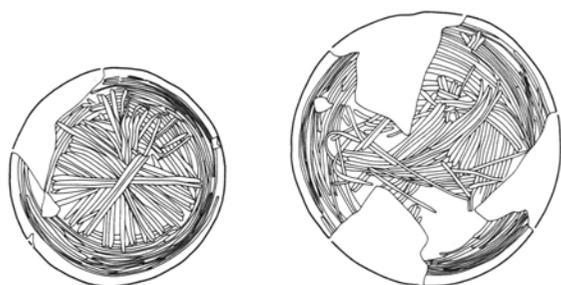
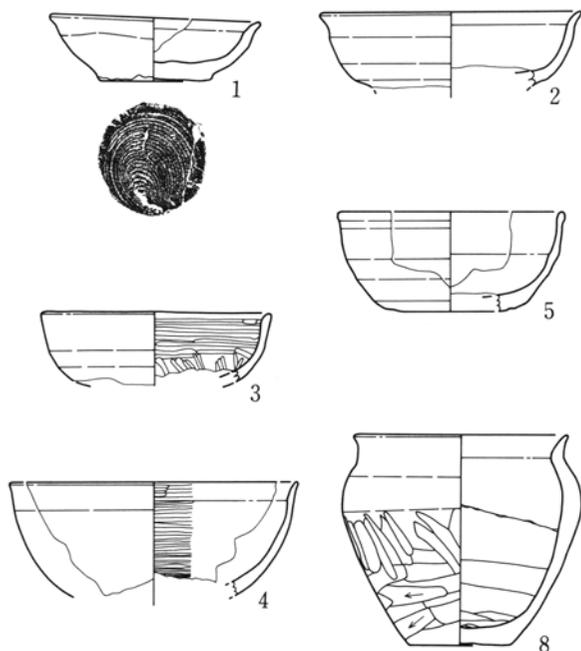
第255図 96号住居



96号住居 竈 C-C' D-D'

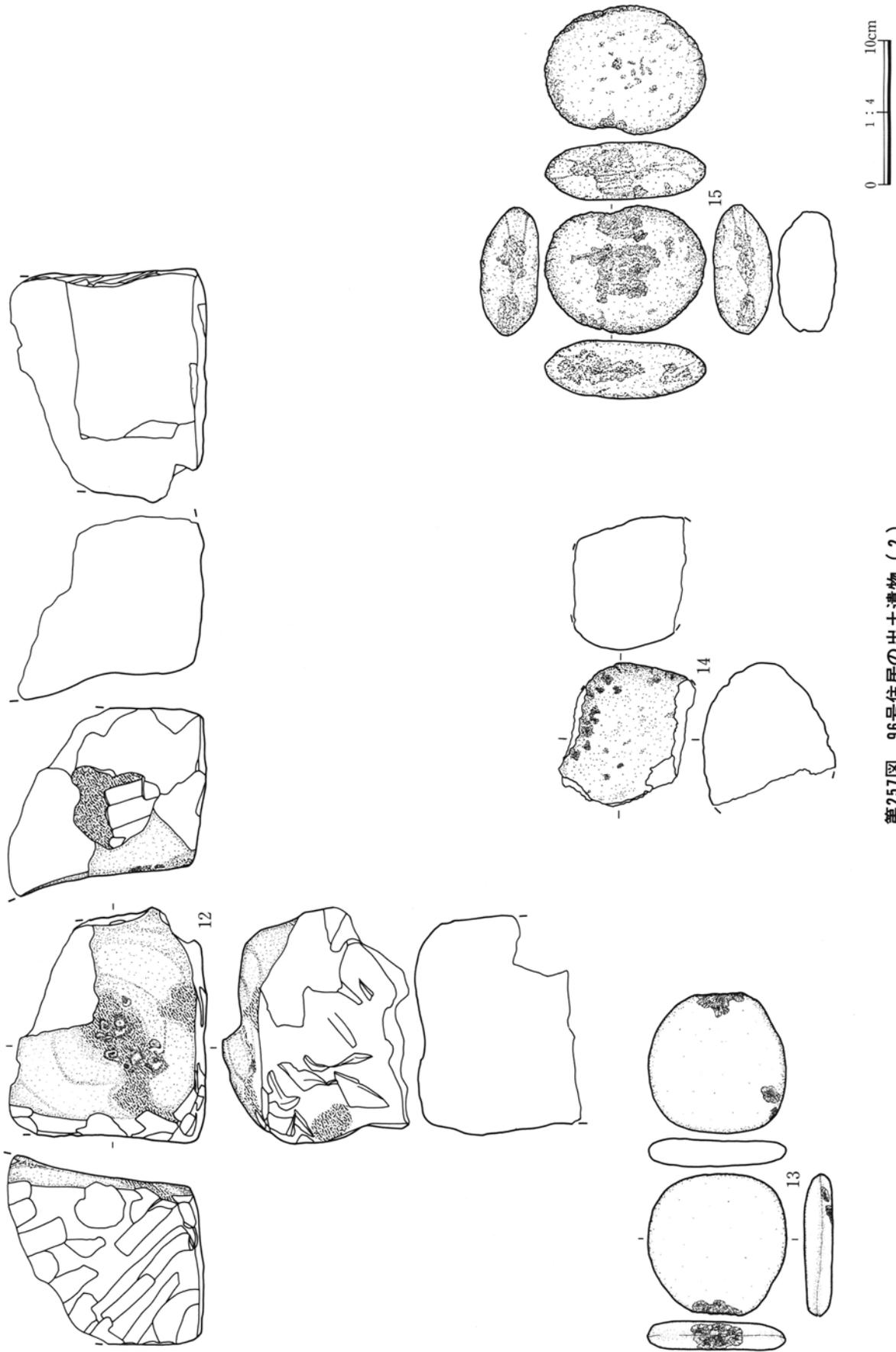
1 灰褐色土と茶褐色土焼土塊混じり。

2 灰褐色土層 焼土粒・塊・灰含む。



0 1 : 4 10cm

第256図 96号住居竈と出土遺物(1)



第257図 96号住居の出土遺物(2)

97号住居(第258・259図 PL75・161 遺物観察表P.389)

位置 B3区2W,2X-48グリッド

形状 竈を含む南東隅部のみを検出したもので、他は調査区外となるため全体の形状は分からない。南東隅は丸みをもたずに屈曲しており、長方形ないし方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 南北確認長 2.54m 東西確認長 1.90m

方位 N-120°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈右手にあたる南東隅部にある。上面は壁の屈曲をなぞるような不整なL字状の平面形を呈するが、基本的には直径40cmほどの大きさの、円形ないし楕円形の平面形を持つものとして意識されたとと思われる。床面からの深さは35cmほどで、底面は楕円形の平坦面をもつ。

埋没土 焼土粒、炭化物粒を少量含む暗褐色土で埋

まる。

確認最大壁高及び壁の状況 15cm。わずかに上方に開くが、あまり丸みを持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

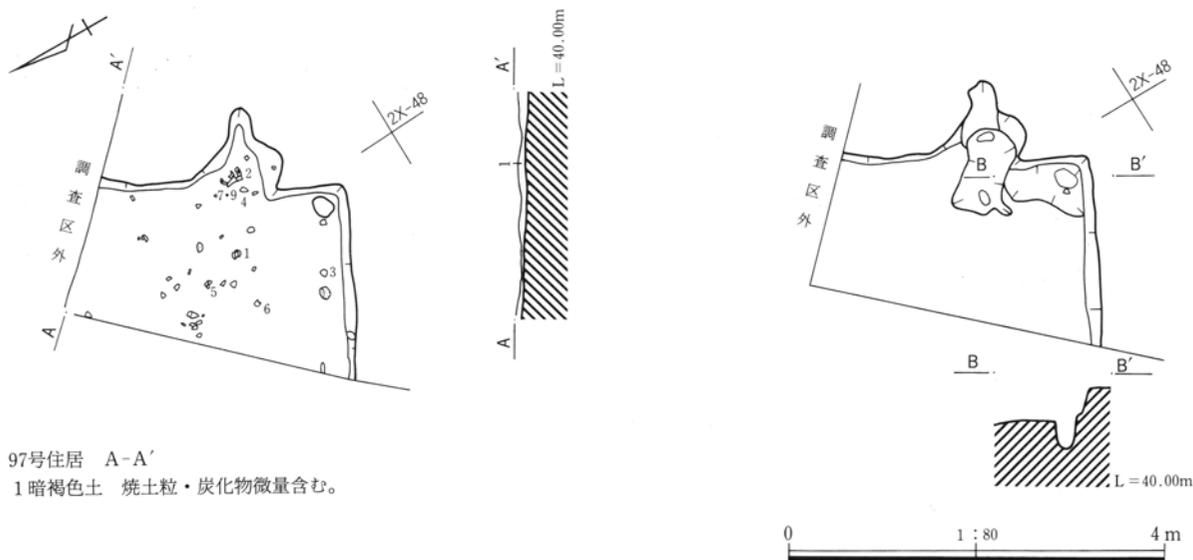
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。掘り方には円形ないし半円形の刺突状の痕跡が認められる。

竈 東壁の南寄りに相当すると思われる部分を半円形に掘り込んで燃焼部の一部を作り、煙道を延ばす。袖はない。燃焼部の主体は住居壁内にあって、ここから竈手前にかけて、不整形の窪みがある。確認長1.4m、燃焼部幅45cm。

重複 なし。

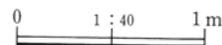
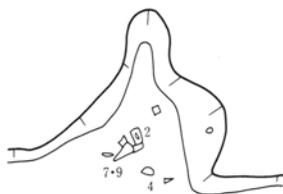
遺物と出土状況 住居全体に坏類を中心とする土器破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀前葉)

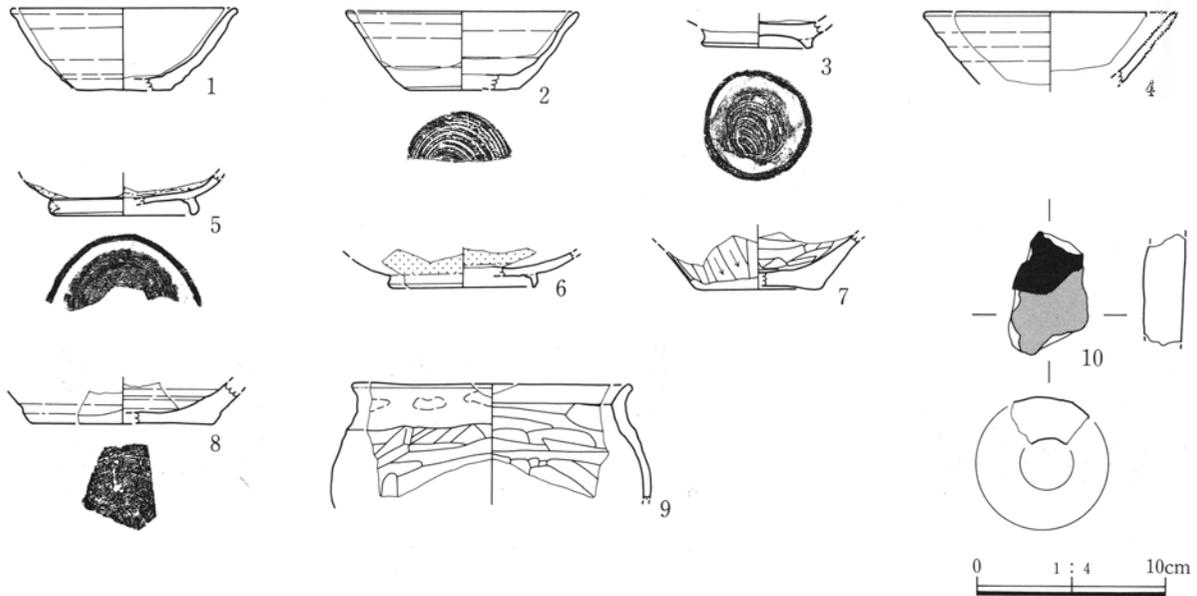


97号住居 A-A'

1 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量含む。



第258図 97号住居



第259図 97号住居の出土遺物

2. 土坑 (第260~288図 PL76~99・165・166)

遺物観察表P.389~392)

三ツ木皿沼遺跡では、総数150基の土坑が調査された。このうち16基が縄文時代後期、2基が古墳時代、1基が近世の遺構である。残りの131基は、すべての時期が確定できる状態ではなかったが、古代の遺物を出土するものが多いこと、古代の住居と遺構の分布がほぼ一致することから、ここでは古代の遺構として扱った。

土坑が最も多く分布するのはA 6区で、113基が調査された。これらの土坑は、住居の分布と重なる位置にあったが、A 6区北部では住居の空白部に土坑が位置する地点もあった。A 2区・B 2区は住居の分布はなかったが、土坑が数基ずつ位置していた。

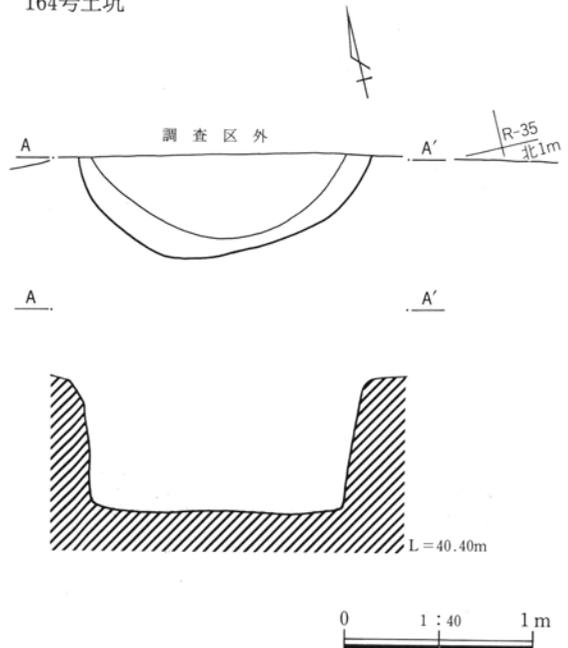
古代の131基の土坑は、平面形によって円形・楕円形・隅丸方形・長方形・不定形の5種に分けられた。各土坑の規模や方向は遺構一覧表(第4章第6表)にまとめて記載してある。ここでは土坑の平面図と断面図を平面形ごとに掲載した。

円形・楕円形の土坑は、小型の土坑が多かったが、いくつか直径が1mを越える大型の土坑がある。これらは、土器などの遺物を多く出土する傾向がある。円形の94号土坑や楕円形の55号土坑は出土土器の特徴から9世紀末の土坑と考えられ、畠から居住域に

変わった当初につくられた遺構といえる。

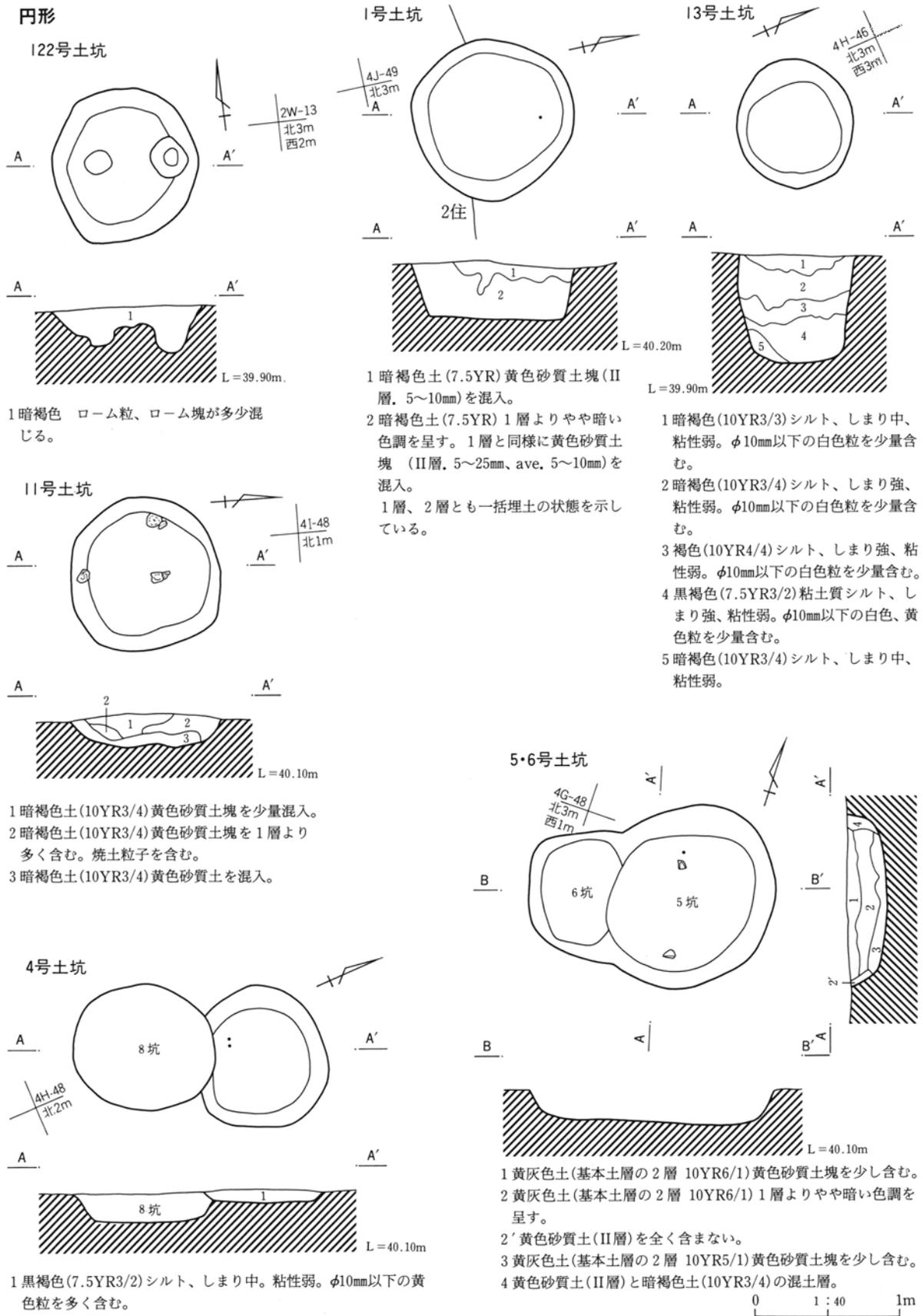
細長い長方形の土坑はA 2区・B 2区・B 3区に多く分布していた方位を意識した方向に掘られており、後述する中世・近世以降の溝と方向性が共通する土坑も見られるので、これらの長方形土坑は平安時代より新しい可能性が高い。

164号土坑

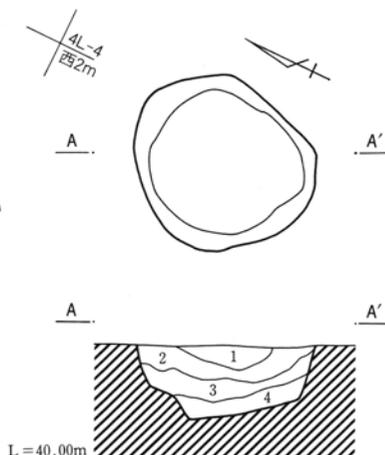
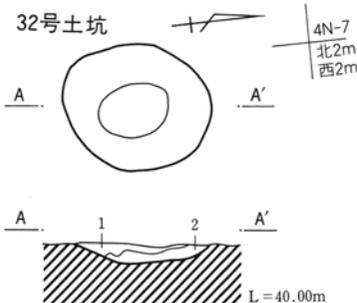
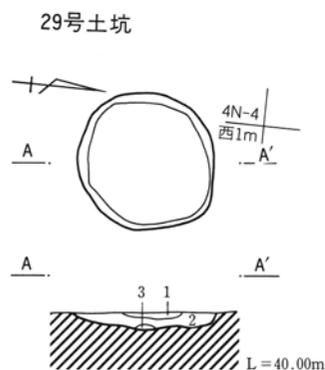
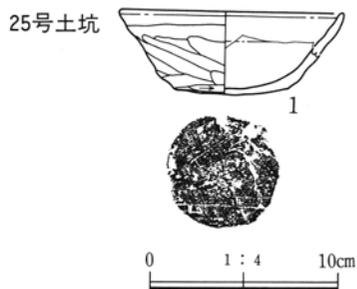
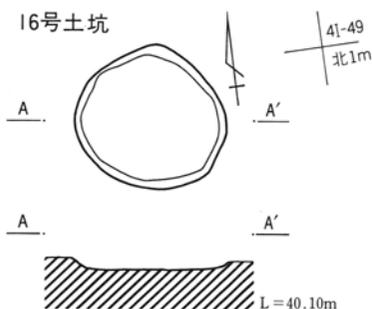
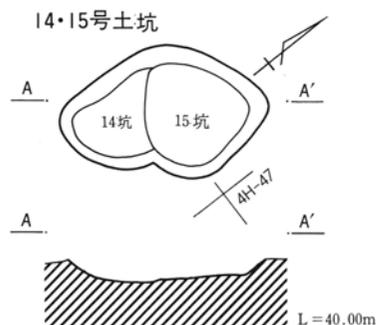


第260図 A 2区の円形土坑

円形



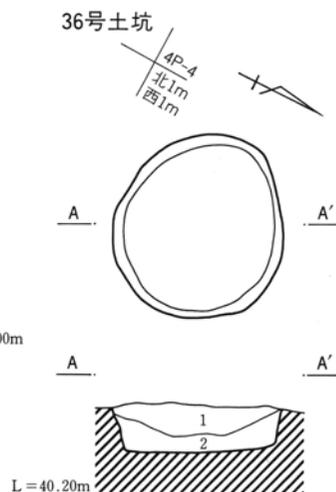
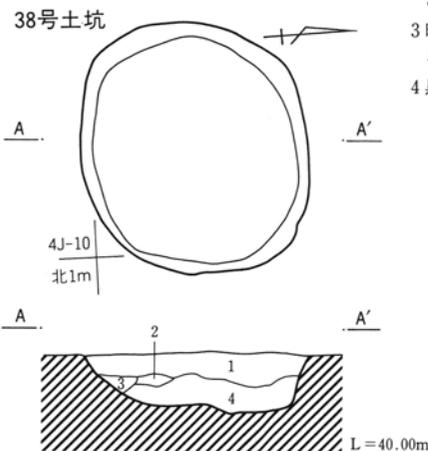
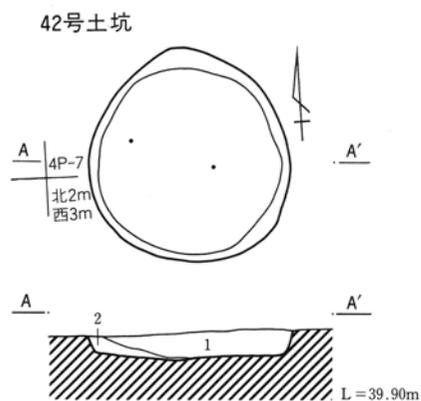
第261図 A4区・A6区の円形土坑(1)



- 1 暗灰黄褐色土(2.5Y4/1)炭化物(1~2mm大)を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土(2.5Y3/2)白色土粒(0.5~1cm)を多量に含む。やや粘性が強い。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)粘質土。白色土粒(0.5~1mm程)を少量含む。

- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)灰白色土粒小塊(φ1~2cm)、炭化物粒を多量に含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)灰白色土粒小塊(φ1~2cm)、炭化物粒を含む。

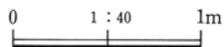
- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/1)炭化物(1~2mm)、灰白色土粒(1~10mm)を多量に含む。粘性、しまりやや弱。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/1)白色土粒(1~5mm大)を多量に含み、炭化物を少量含む。粘性、堆積弱。
- 3 暗灰黄色土(2.5Y4/1)白色土粒(1~5mm)を少量含む。粘性弱。堆積は緻密。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/2)



- 1 灰白色土(2.5Y8/2)φ1~2cmの褐灰色土(10YR8/2)塊を含む。
- 2 灰白色土(2.5Y8/2)少量の褐灰色土粒を含む。

- 1 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)白色土粒を含む。シルト質。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)焼土粒と炭化物粒を含む。
- 3 暗灰黄色土(2.5Y4/2)固く締まっている。やや粘質。
- 4 暗灰黄色土(2.5Y4/2)やや砂質。

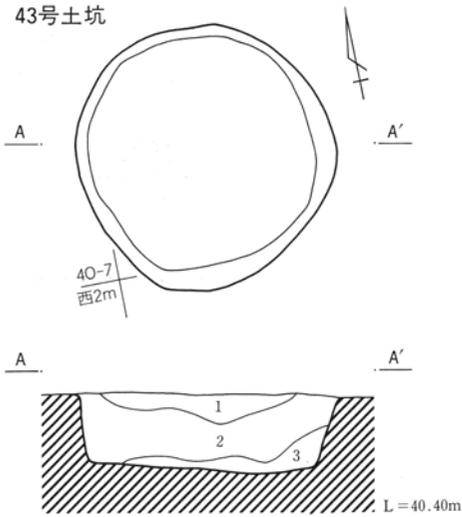
- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)白色土粒(1~10mm大)、焼土、炭化物を少量含む。粘性弱、堆積は緻密でない。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)焼土、炭化物を少量含む。白色土粒(1~5mm大)を極少量含む。粘性やや強。



第262図 A6区の円形土坑(2)

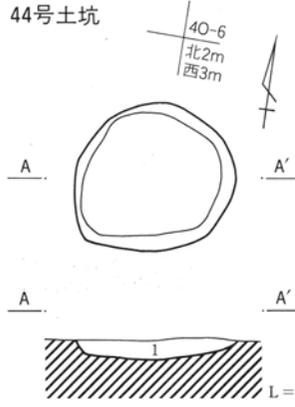
第3章 検出された遺構と遺物

43号土坑



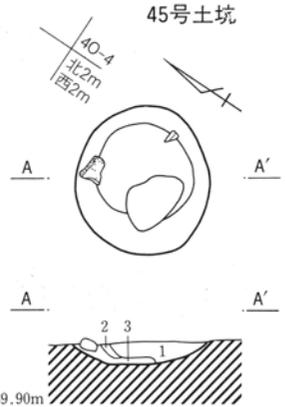
- 1 褐灰色土(10YR5/1)  $\phi$ 1~2cmの灰白色土(10YR8/2)塊を多量に含む。
- 2 灰白色土(2.5Y8/2)  $\phi$ 1~2cmの褐灰色土(10YR8/2)塊・粒を多く含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)少量の焼土粒を含む。

44号土坑



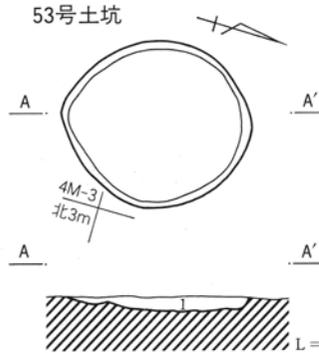
- 1 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)  $\phi$ 1~5mmの砂粒を少量含む。

45号土坑



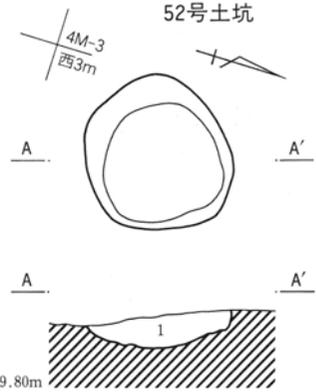
- 1 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)  $\phi$ 0.5~1mmの灰白色粒子を少量含む。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)  $\phi$ 0.5mm以下の砂粒を少量含む。
- 3 灰白色土(10YR6/1)  $\phi$ 0.5~2・3mmの砂粒を微量含む。

53号土坑



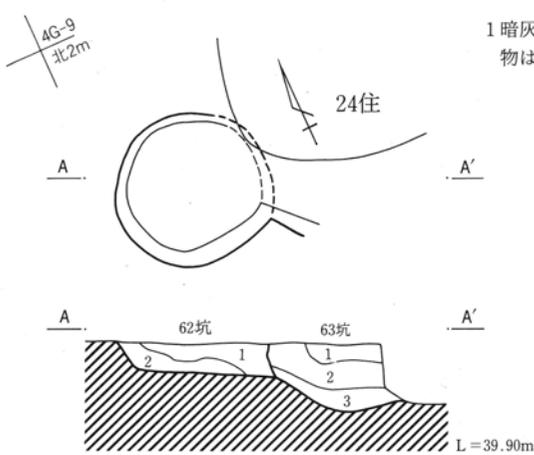
- 1 暗灰黄色土(2.5Y5/2)シルト質。夾雑物はほとんどない。

52号土坑



- 1 黄灰褐色土(10YR4/2)やや砂質。灰白色土粒を少量含む。

62・63号土坑



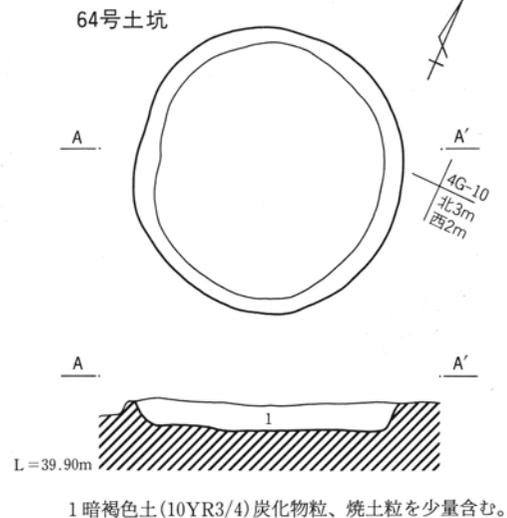
62号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR0/2)焼土粒、炭化物粒、灰白色砂小塊を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR0/2)少量の炭化物粒を含む。

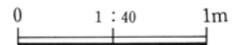
63号土坑

- 1 褐灰色土(10YR6/1)やや粘質。
- 2 黄灰色土(2.5Y6/1)炭化物粒を含む。
- 3 黄灰色土(2.5Y6/1)炭化物粒、褐灰色土(10YR5/1)小塊( $\phi$ 0.5cm)を多量に含む。

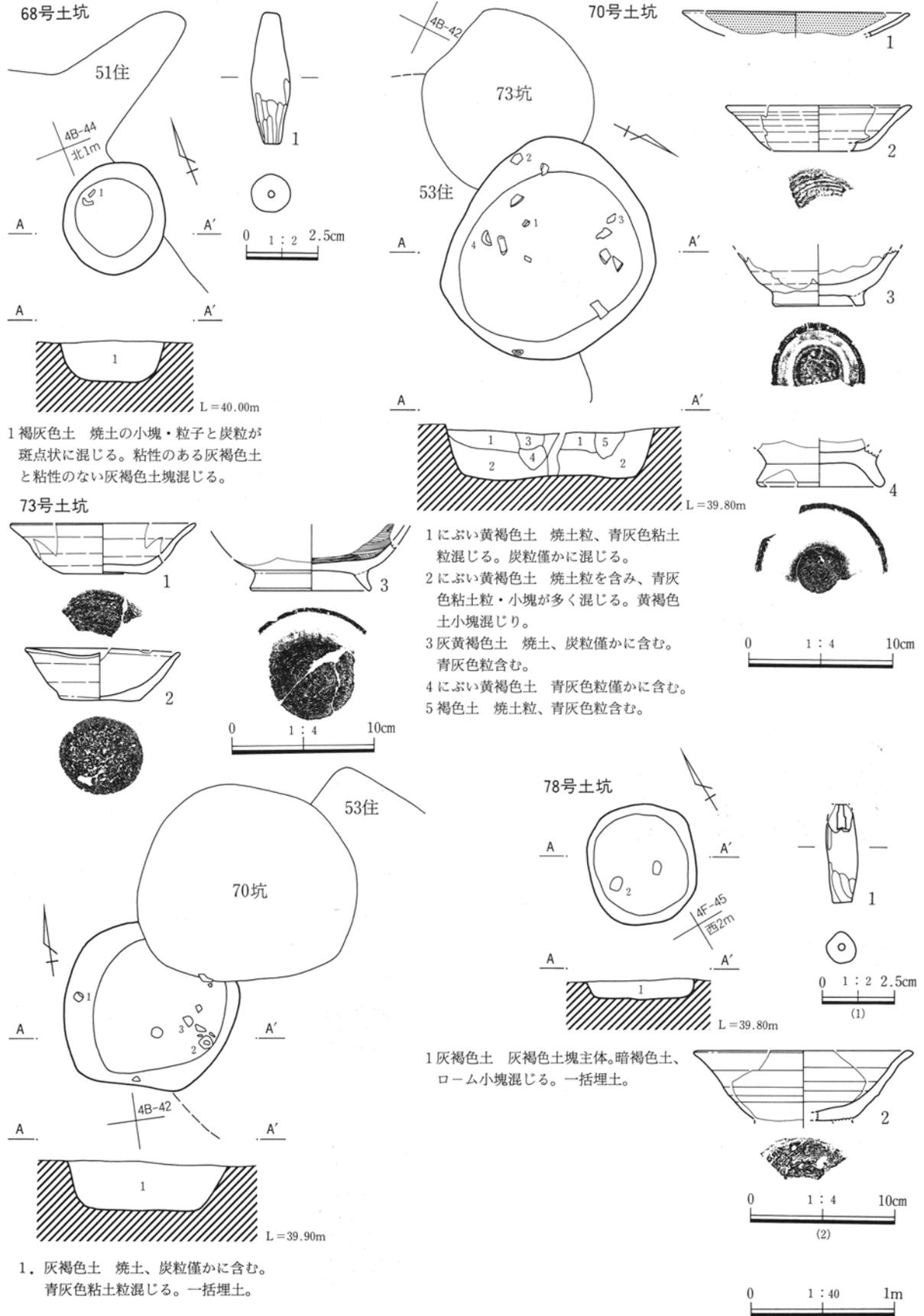
64号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/4)炭化物粒、焼土粒を少量含む。



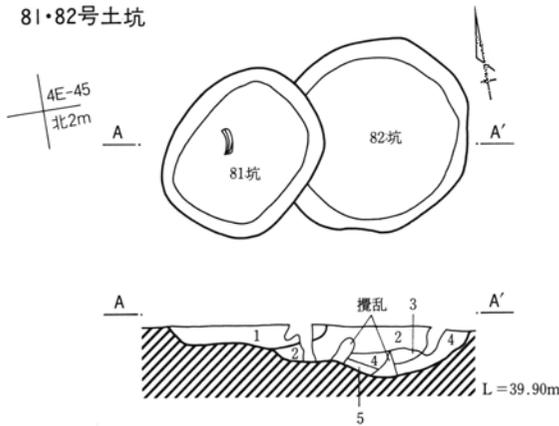
第263図 A6区の円形土坑(3)



第264図 A6区の円形土坑(4)

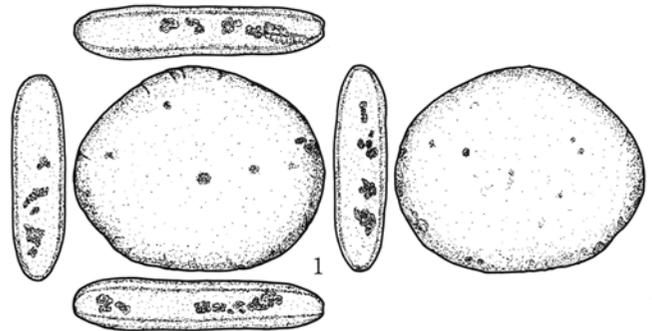
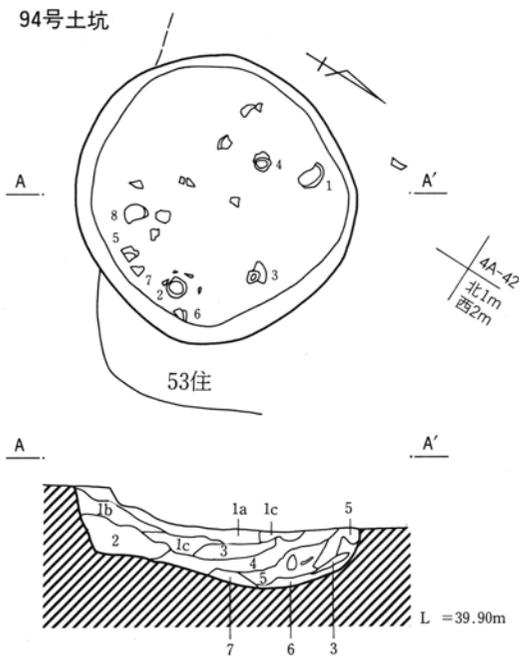
第3章 検出された遺構と遺物

81・82号土坑

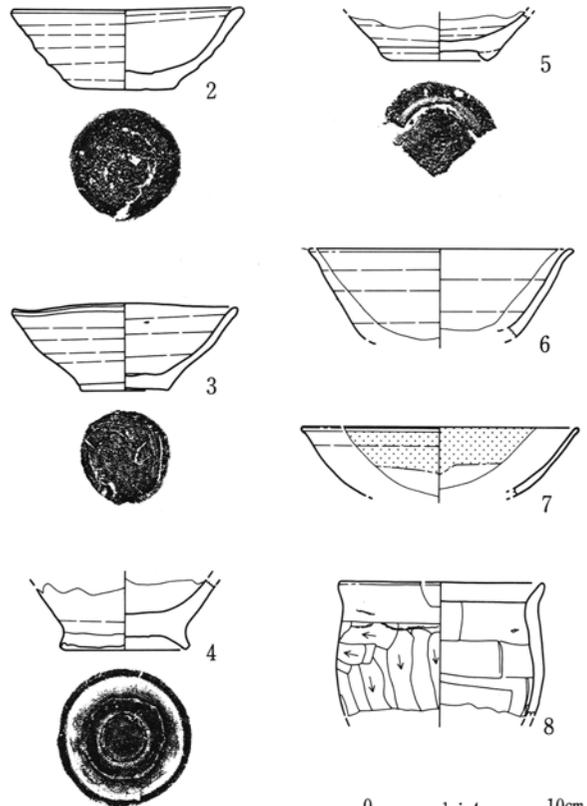


- 1 暗灰褐色土 黄白粒、灰褐色土小塊含む。ホクホクした層。
- 2 灰黄褐色土 黄橙色シルト主体。灰褐色シルト塊混じる。
- 3 灰黄褐色土 2層と逆に灰褐色シルトに黄橙色シルト小塊混じる。
- 4 灰黄褐色土 2層と3層の間。両シルト小塊で混じる。
- 5 褐灰色土 粘性、しまり強く、黄白色粒含む。

94号土坑



- 1 a 褐灰色土 青灰色粘土小塊を斑点状に含む。炭粒、焼土粒が見られる。
- 1 b 褐灰色土 青灰色粘土小塊・灰白色シルト含む。細砂混じる。
- 1 c 褐灰色土 青灰色粘土小塊多く混じる。粘性かなり強い。
- 2 褐灰色土 細砂主体。灰白色・灰褐色小塊が点々と見られる。
- 3 暗青灰色土 青灰色粘土塊主体。粘ったものか、流れ込みか、判断つきづらい。
- 4 灰褐色粘質土 夾雑物少ない。
- 5 暗灰褐色土 灰白色粘土塊・白色粗砂・炭混じりの固くしまった粘性の強い土。(粘土が一時乾燥状態になり、再度粘性を帯びる)
- 6 暗灰褐色土 灰・黄白色シルト・灰褐色土が数ミリ単位に縞状に入り、踏み締められた土。粘床面が塊状になり、落ち込む。
- 7 灰褐色土 細砂・僅かに黄白色シルト塊含む。

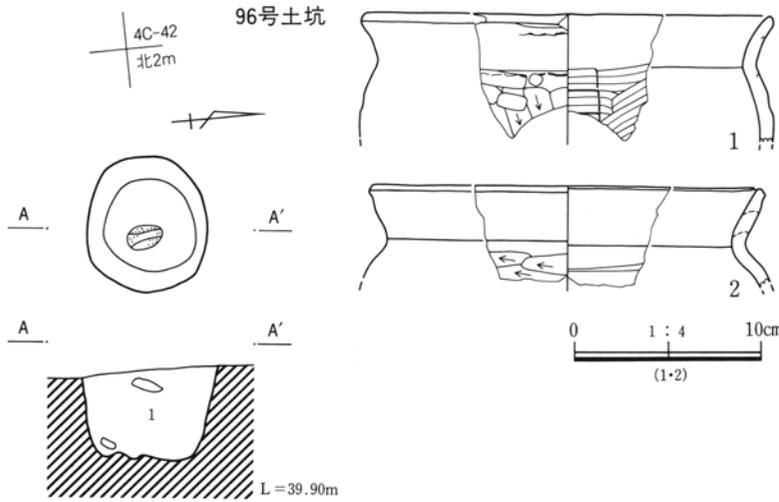


0 1 : 40 1m

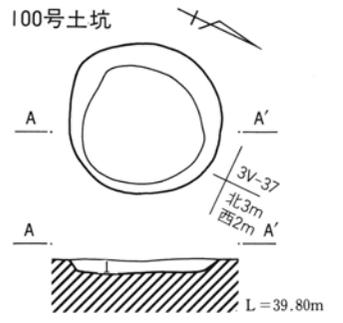
0 1 : 4 10cm

第265図 A6区の円形土坑(5)

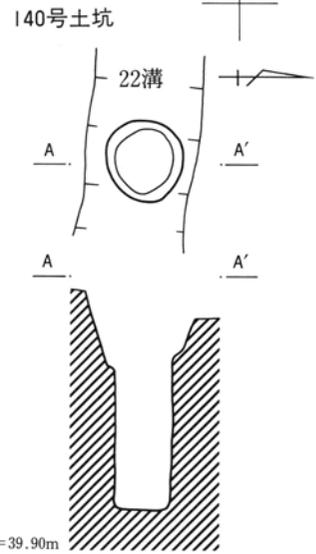
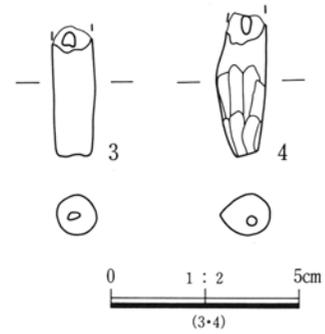
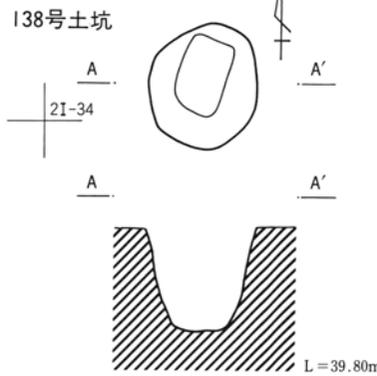
第3節 古代の遺構と遺物



1 灰黄褐色土 シルト質。僅かに灰白色粒を含む。

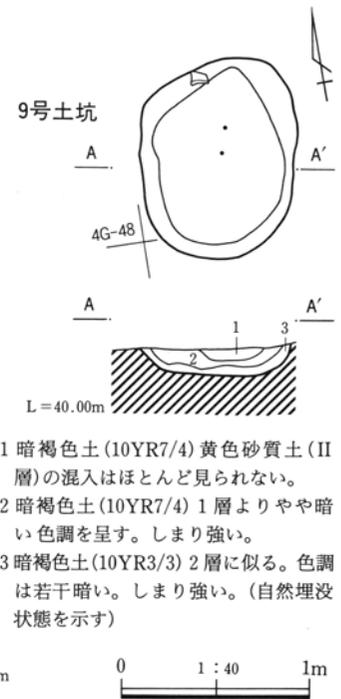
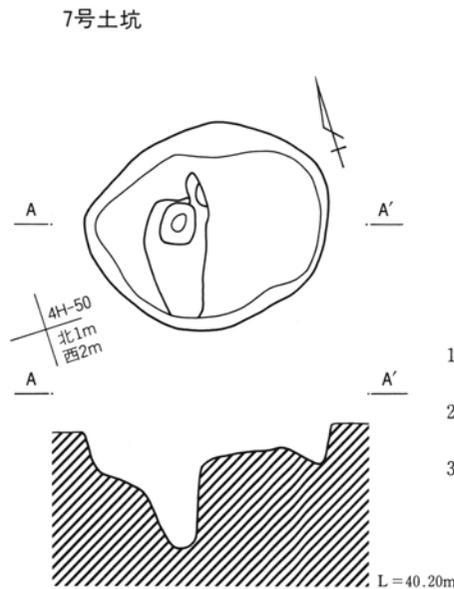
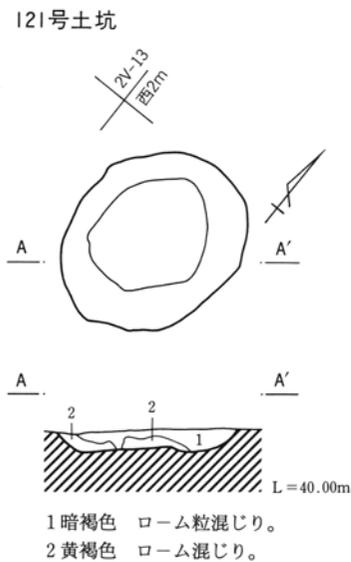


1 オリーブ黄 砂質土(細砂)灰白色シルト。褐色粘土小塊含む。



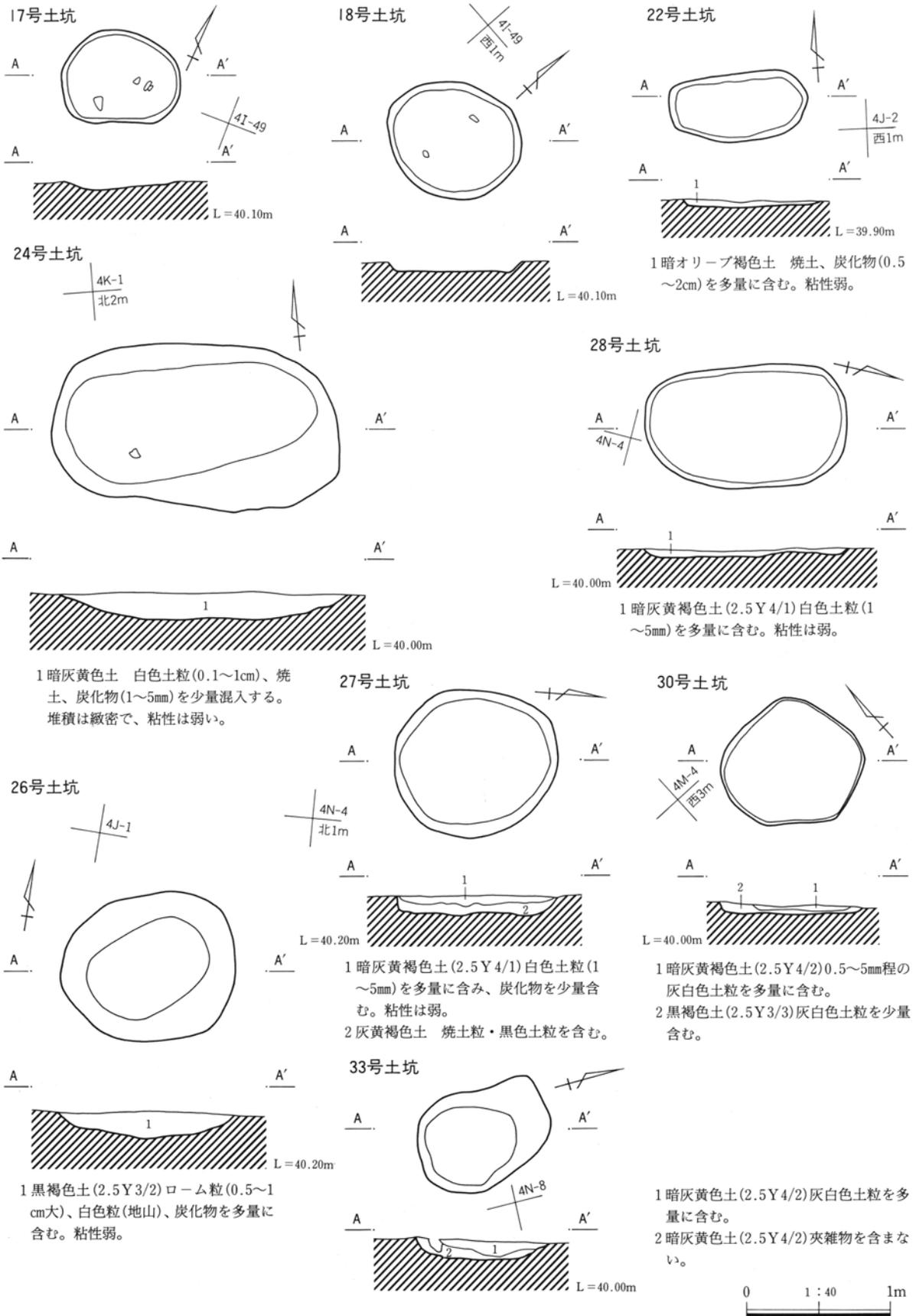
第266図 A6区・B2区の円形土坑(6)

楕円形



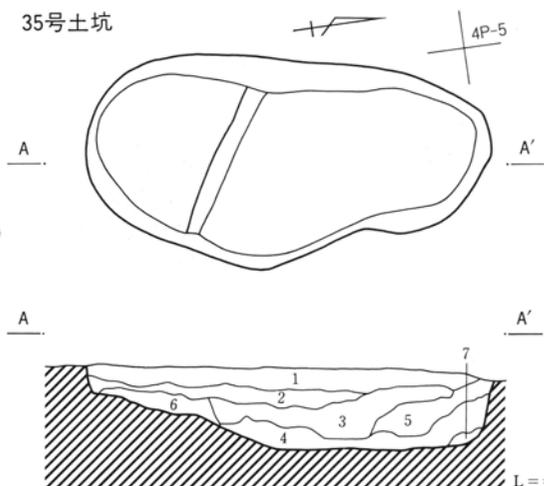
第267図 A4区・A6区の楕円形土坑(1)

第3章 検出された遺構と遺物



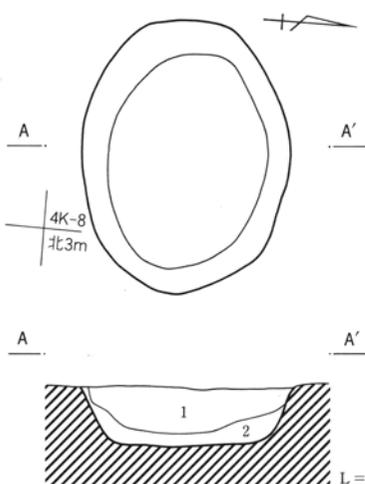
第268図 A6区の楕円形土坑(2)

35号土坑



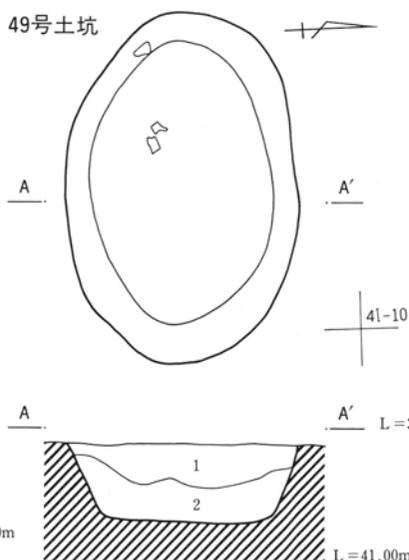
- 1 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)炭化物・焼土を少量含む。白色粒(2~5mm)を少量含む。粘性弱。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)焼土・白色土粒(2~5mm)を少量含む。粘性弱。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)焼土を少量含む。(鉄分の凝集が著しい)粘性やや強。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/2)焼土・炭化物を極少量含む。堆積は緻密であり、粘性やや強。
- 5 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/2)炭化物・焼土を少量含む。堆積は緻密であり、粘性やや強。
- 6 暗灰黄色土(2.5Y4/2)炭化物・白色土粒を少量含む。粘質土。
- 7 黒褐色土(2.5Y3/1)ローム土粒が極少量混入する。粘質土。

47号土坑



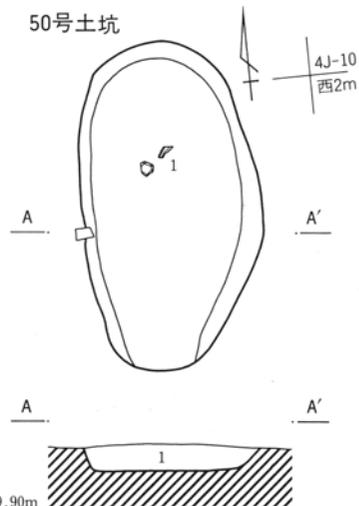
- 1 黄灰色土(2.5Y6/1)φ1~2mmの黄褐色粒子を極少量含む。
- 2 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)φ0.5~1.2mmの砂粒を若干含む。

49号土坑

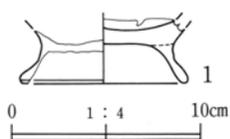


- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)炭化物(1~5mm)、焼土を多く含み、白色粒(0.5~2mm)を少量含む。粘性弱、堆積はやや緻密である。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)炭化物、焼土を少量含む。(上層より炭化物の数は多い。0.5~1cm大)

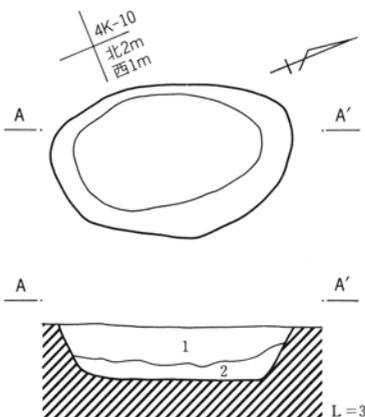
50号土坑



- 1 暗灰黄色土(2.5Y5/2)炭化物(1~5mm)、焼土を多く含み、白色土粒を少量含む。粘性弱、堆積は緻密である。

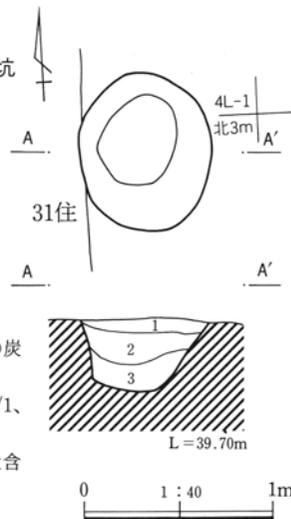


51号土坑

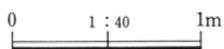


- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)焼土、炭化物(1~5mm)、白色土粒(0.5~1cm)を少量含む。粘性弱、堆積は緻密である。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)焼土、炭化物(1~5mm)を少量含む。粘性弱、堆積は緻密である。

57号土坑

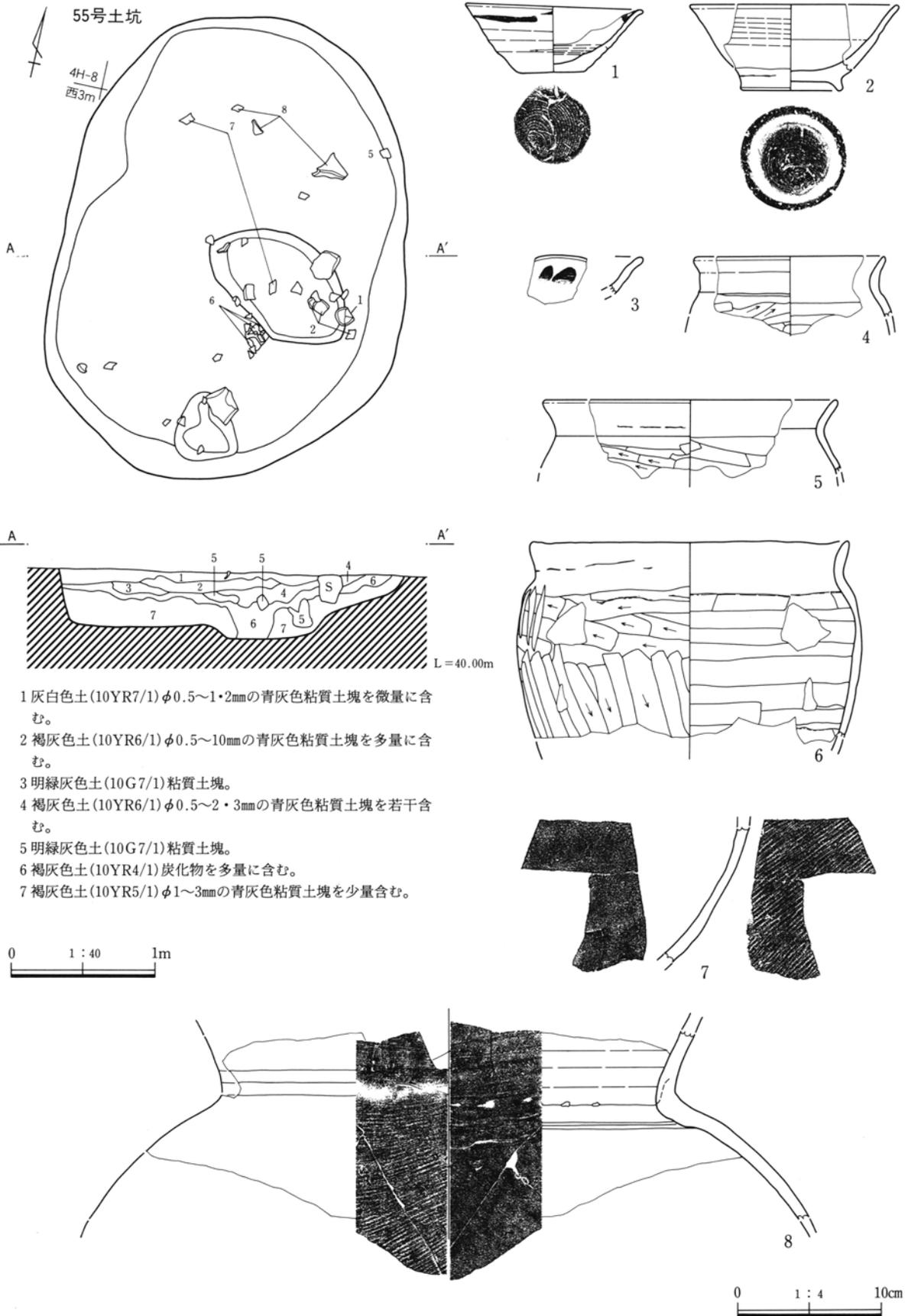


- 1 灰色土(5Y5/1)シルト質。極少量の炭化物を含む。
- 2 灰色土(5Y5/1)灰白色土小塊(5Y7/1、φ0.5~1cm)を含む。
- 3 灰色土(5Y4/1)灰白色土粒を少量含む。やや粘質。



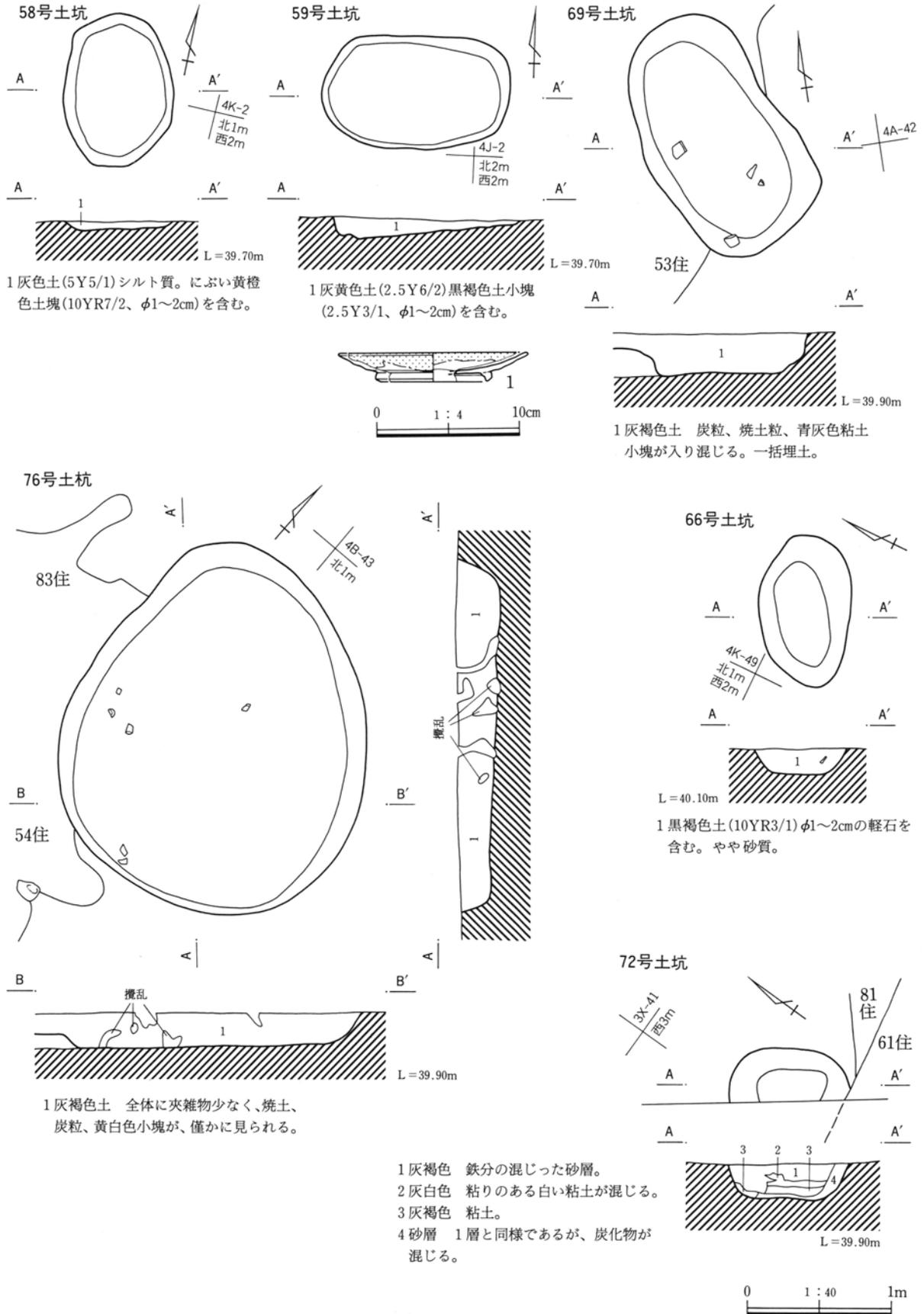
第269図 A6区の精円形土坑(3)

第3章 検出された遺構と遺物



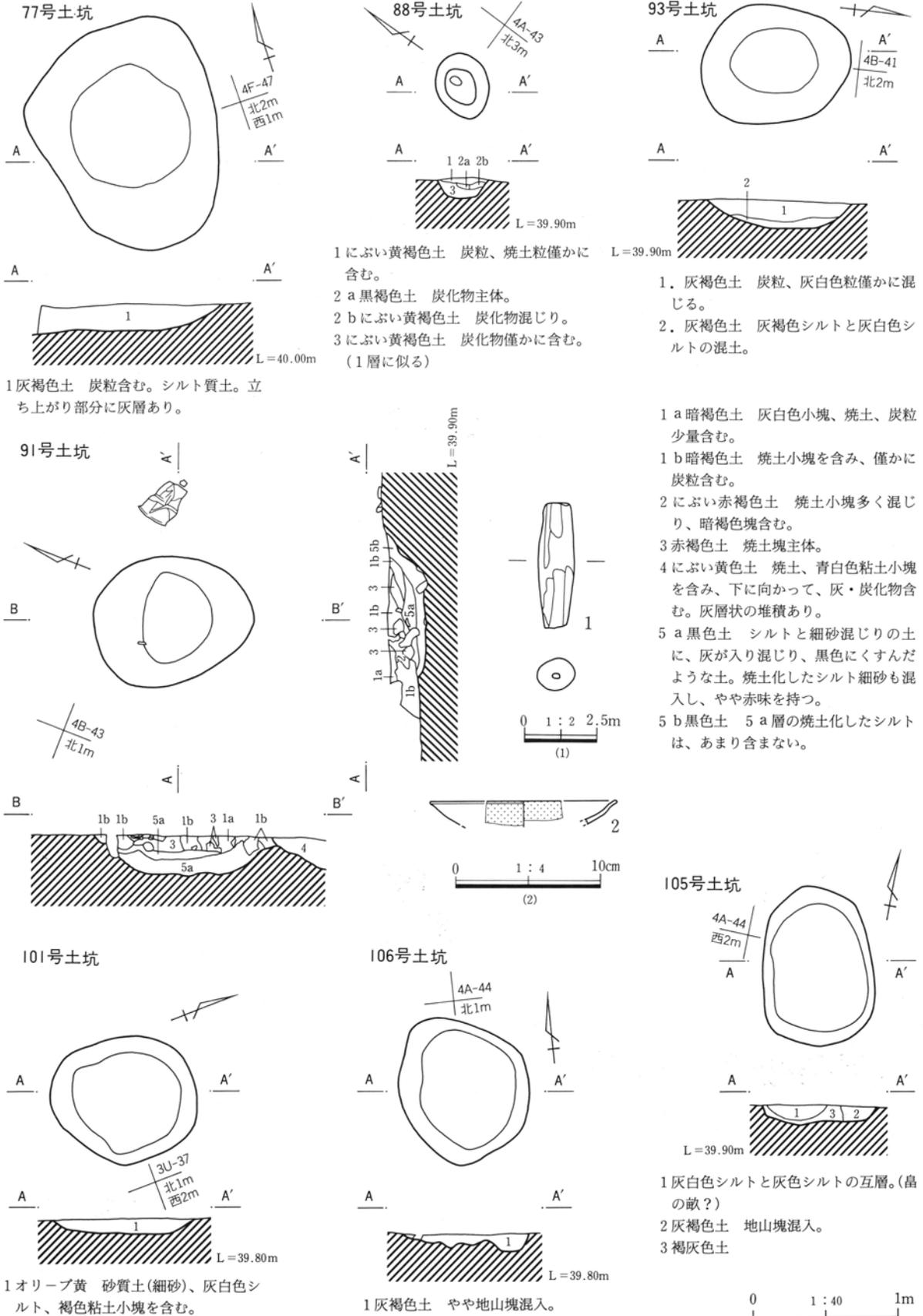
第270図 A6区の楕円形土坑(4)

第3節 古代の遺構と遺物

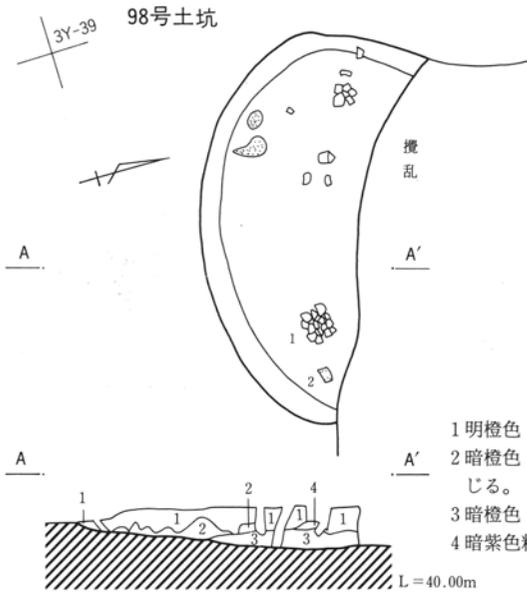


第271図 A6区の楕円形土坑(5)

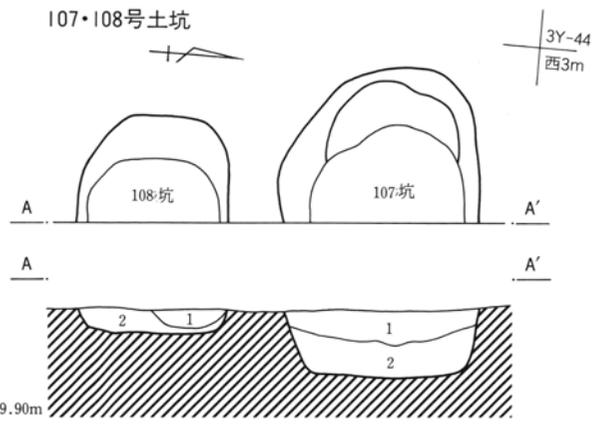
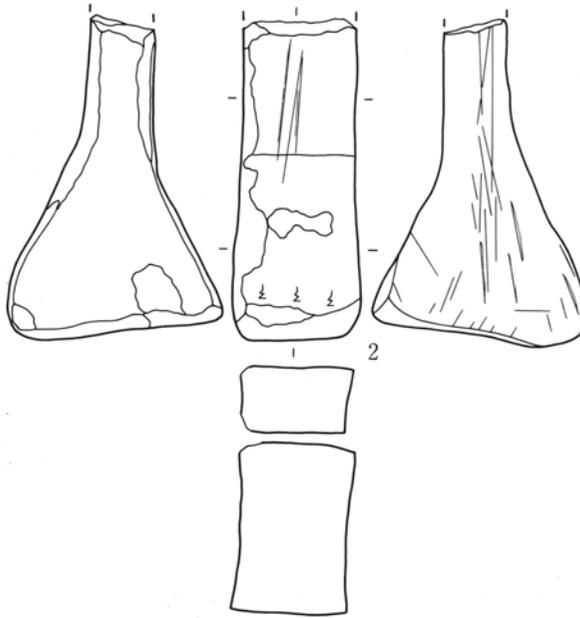
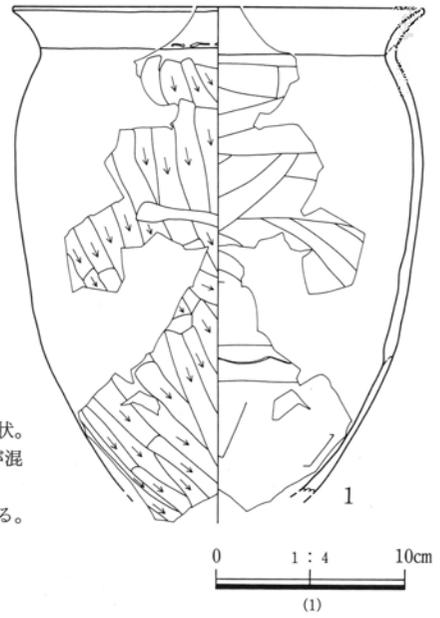
第3章 検出された遺構と遺物



第272図 A6区の楕円形土坑(6)

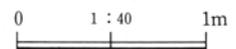
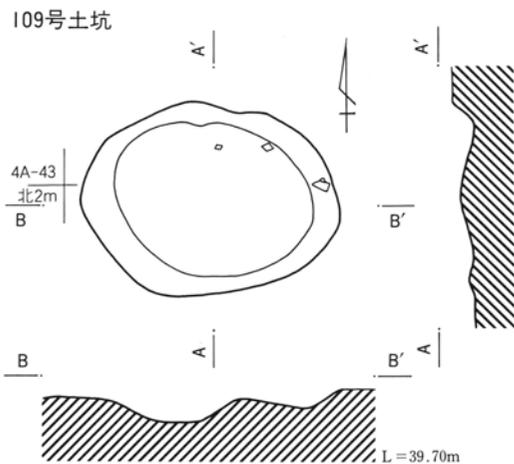


- 1 明橙色 固く締まっている、シルト状。
- 2 暗橙色 粘性を帯びている炭化物が混じる。
- 3 暗橙色 砂状の土。さらさらしている。
- 4 暗紫色粘土 固い。

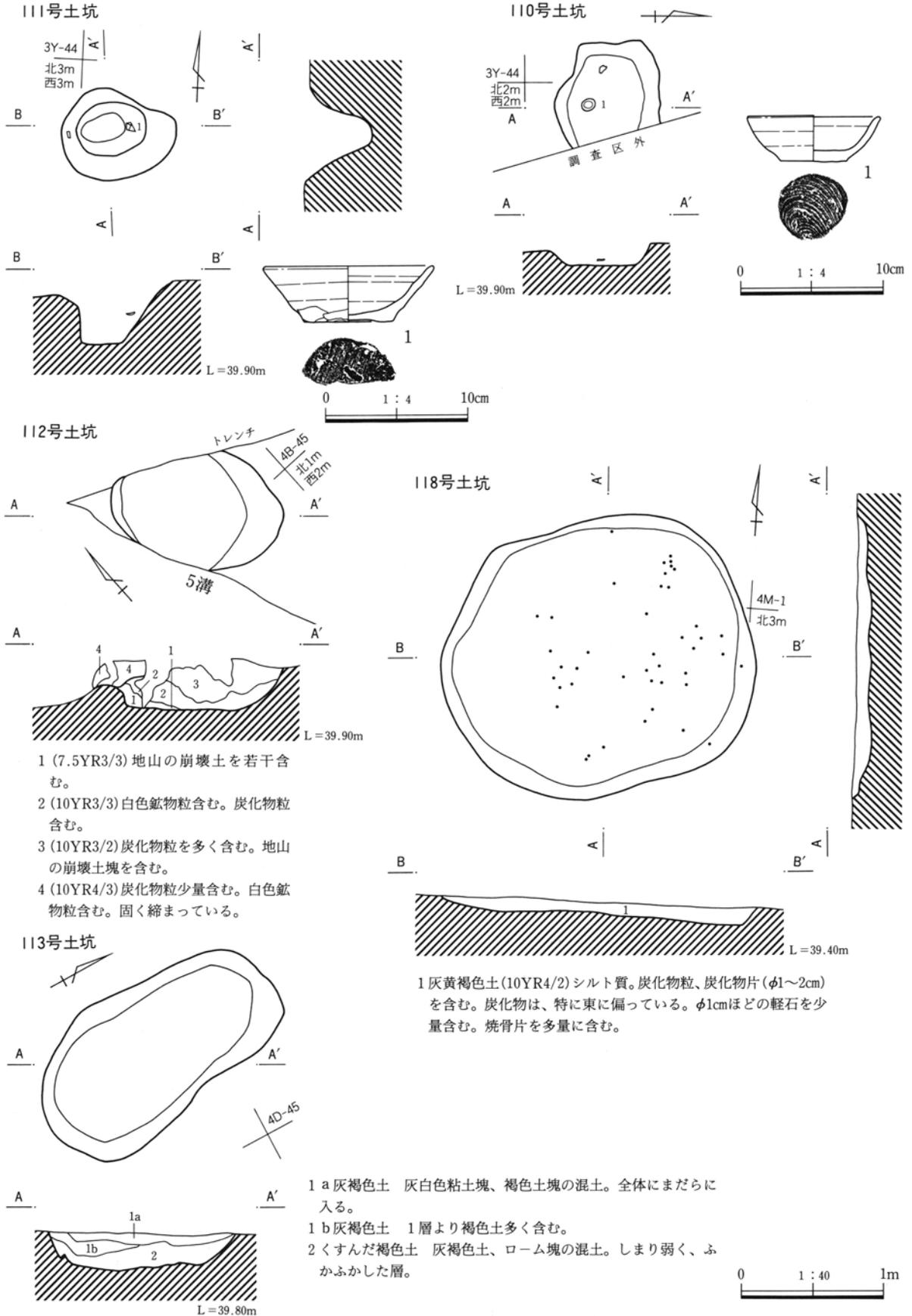


- 107号土坑
- 1 灰褐色土 褐色土小塊・青白色粘土小塊を含み、炭粒僅かに含む。
  - 2 灰褐色土 1層に比べ、混入土大粒になる。

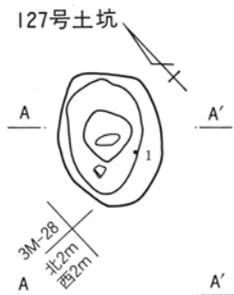
- 108号土坑
- 1 灰白色シルトと灰色シルトの互層。
  - 2 灰褐色土 地山塊混入。



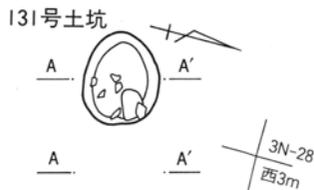
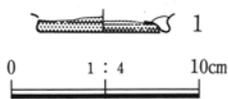
第273図 A6区の楕円形土坑(7)



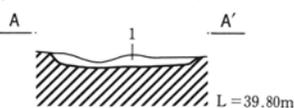
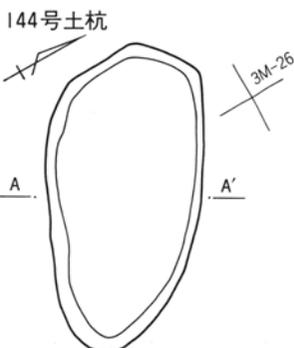
第274図 A6区の楕円形土坑(8)



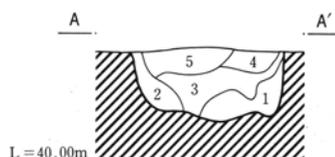
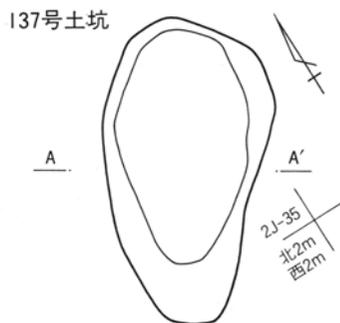
1 灰褐色土 灰褐色砂層を主とし、少量の黄褐色粘質土を含む。  
2 黄褐色粘質土 灰褐色砂を全く含まない。



1 灰褐色土層 砂質土。

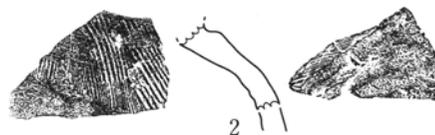
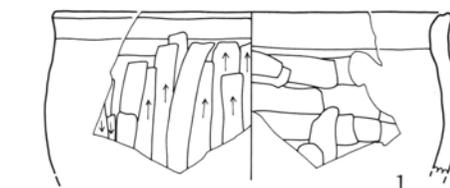
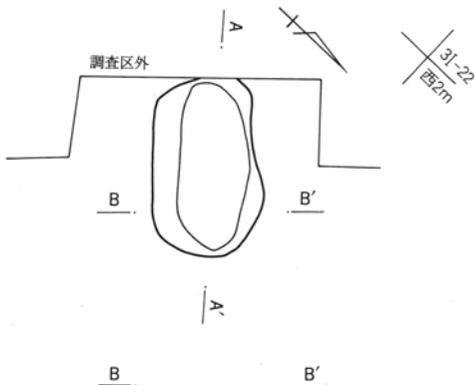


1 茶褐色土 細粒、粘質なし。黑色焼土混じり。

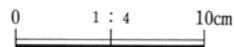
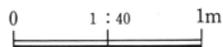
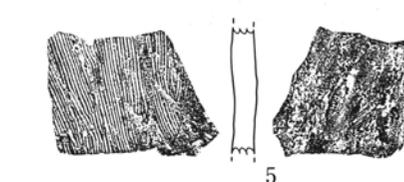
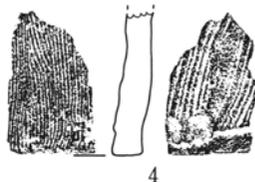
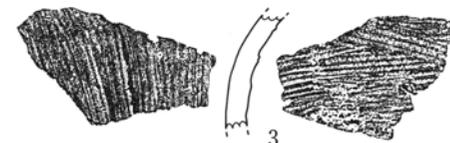
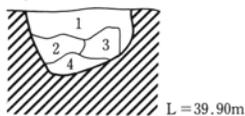


1 ローム。  
2 ローム塊混じりの暗灰褐色。  
3 ローム塊混じりの暗褐色。  
4 粒々、塊ローム混じりの褐色。  
5 粒々ローム混じりの焼土。

128号土坑

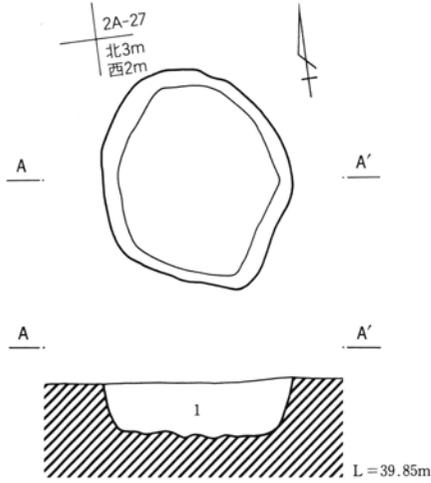


1 灰褐色土 焼土粒を少量含む。灰色砂質土。  
2 灰褐色土 焼土粒を含む。灰色砂質土。  
3 灰褐色土 焼土塊を多量に混入。  
4 灰褐色土 焼土粒を微量に含む。



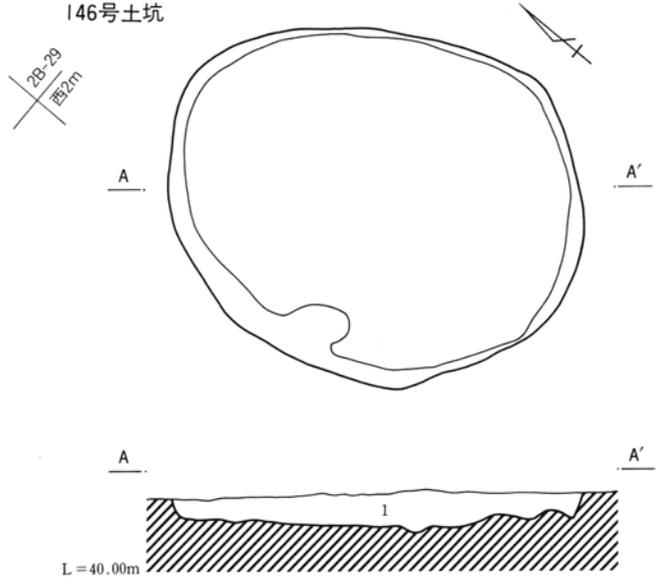
第275図 A6区・B2区の精円形土坑

139号土坑



1 ローム塊混じりの茶褐色土。中程度の粘質。砂質なし。

146号土坑

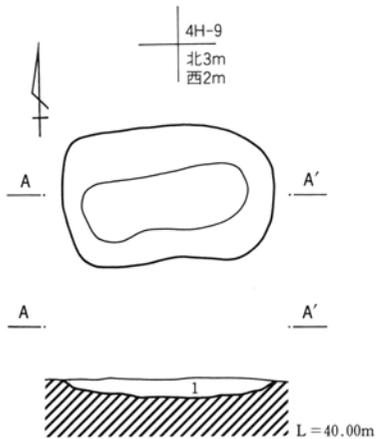


1 ローム混じりの暗褐色土。

第276図 B2区の楕円形土坑

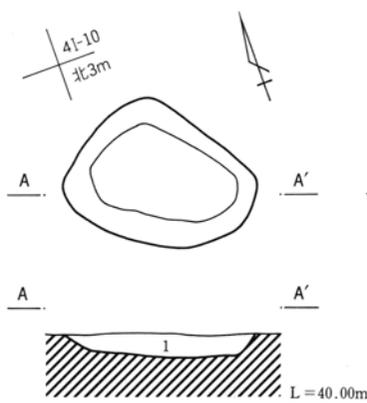
隅丸方形

39号土坑



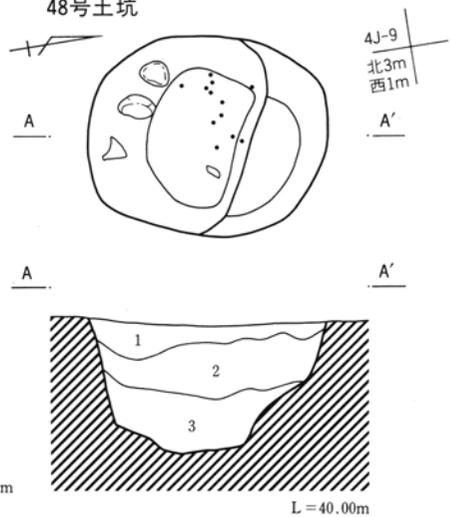
1 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)しまりがある。少量の炭化物粒、焼土粒を含む。

40号土坑

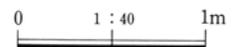


1 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)シルト質。ごく少量の焼土粒を含む。

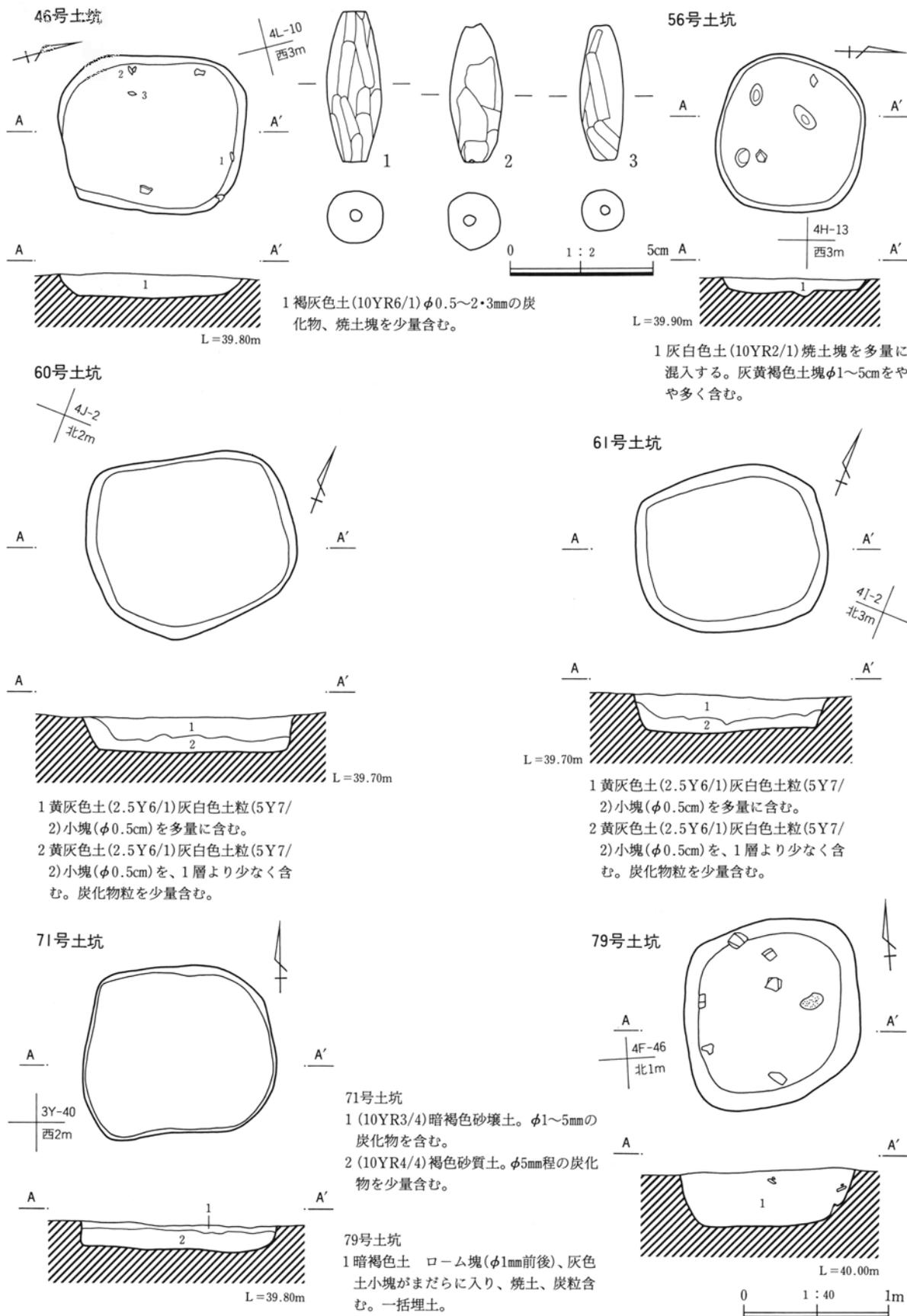
48号土坑



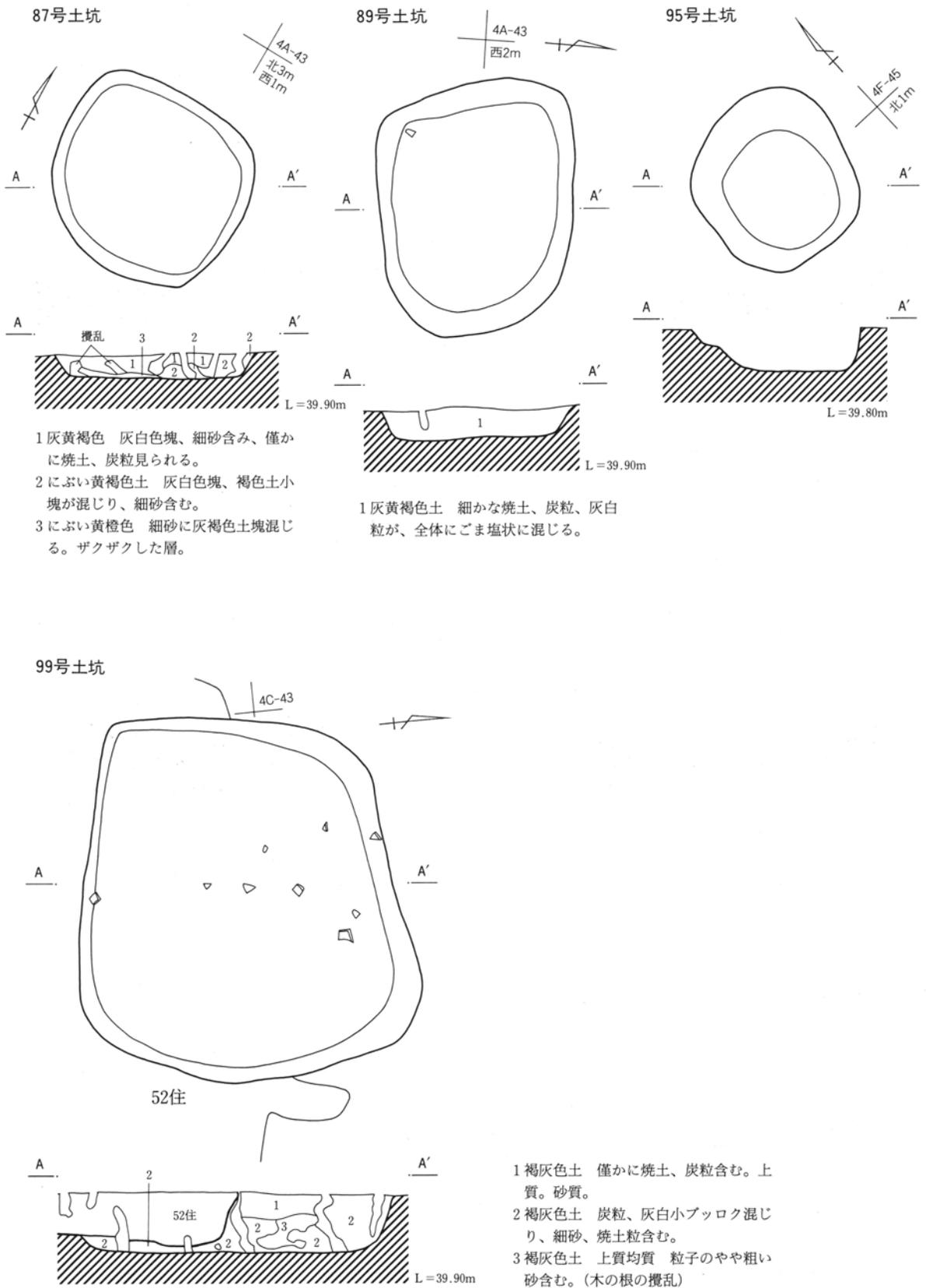
1 黄灰色土(2.5Y6/1)φ0.5~2・3mmの砂礫を若干含む。  
 2 黄灰色土(2.5Y5/1)φ1~2mmの炭化物、砂粒を少量含む。  
 3 黄灰色土(2.5Y4/1)φ0.5~3・4mmの砂礫を若干含む。



第277図 A6区の隅丸方形土坑(1)

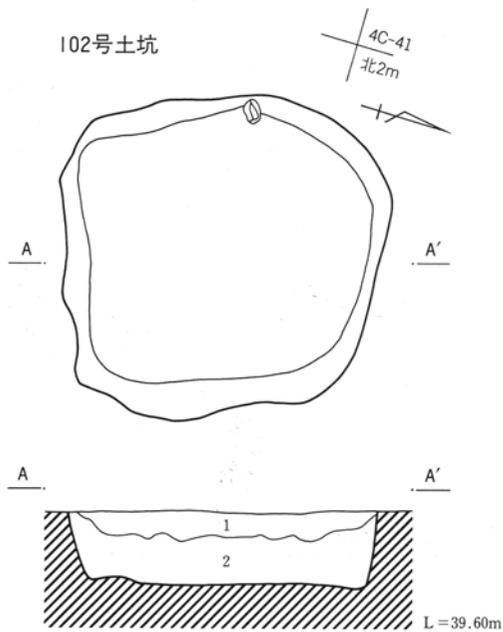


第278図 A6区の隅丸方形土坑(2)

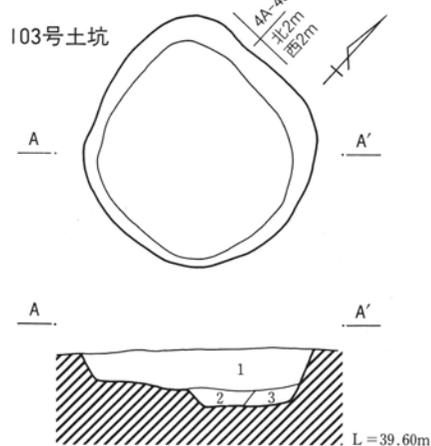


0 1:40 1m

第279図 A6区の隅丸方形土坑(3)



- 1 灰褐色土 青灰色粘土小塊が点々と見え、僅かに焼土・炭粒を含む。
- 2 灰褐色土 青灰色粘土粒僅かに含み、細砂・粘質土塊混じる。

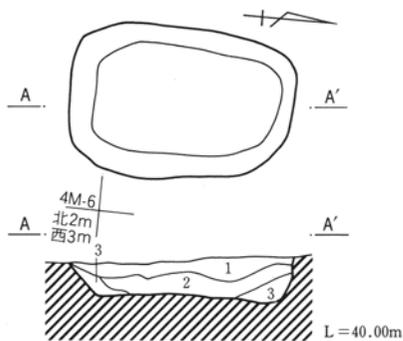


- 1 灰褐色土 青灰色粘土粒僅かに含み、細砂、粘質土塊混じる。
- 2 黄褐色土 細砂、白色シルト混じり。
- 3 灰褐色 粘質土。

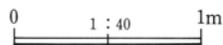
第280図 A6区の隅丸方形土坑(4)

隅丸長方形

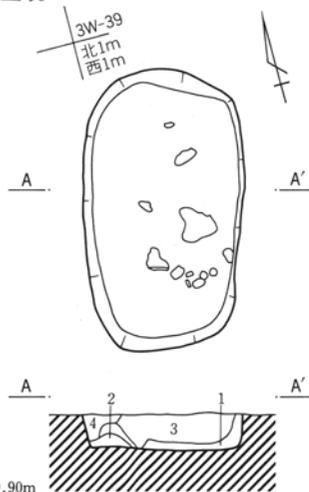
31号土坑



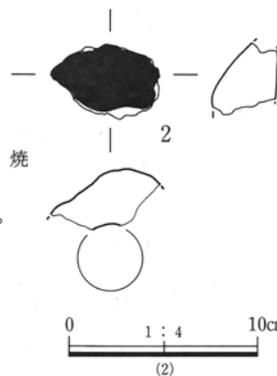
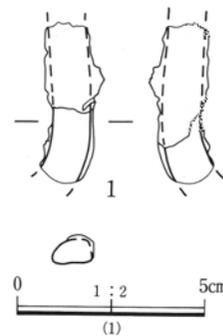
- 1 黄灰色土(2.5Y5/1)φ0.5~1cmの灰白色土塊を含む。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)φ0.5~1cmの灰白色土塊・粒を多量に含む。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)灰。



75号土坑

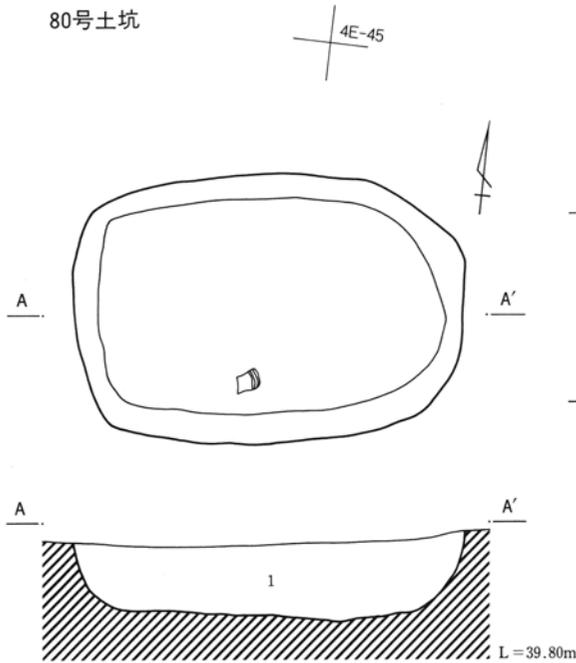


- 1 褐色埴壤土(10YR4/3)混入物なし。しまり弱い。
- 2 暗褐色砂壤土(10YR3/3)細粒の炭化物を少量含む。
- 3 褐色砂壤土(10YR4/3)細粒~長10mm程の炭化物を多く含む。焼土粒(φ2~5mm)を少量含む。
- 4 暗褐色砂壤土(10YR3/4)細粒~φ2mm程の炭化物を多く含む。



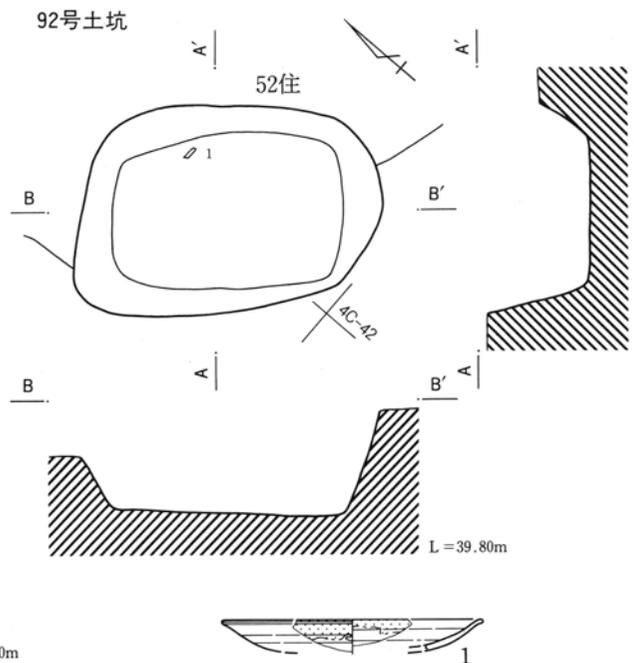
第281図 A6区の隅丸長方形土坑(1)

80号土坑



1 灰褐色土 ローム塊(1~3cm)、黒褐色土塊、灰色土塊が入り混じる。一括埋土。

92号土坑

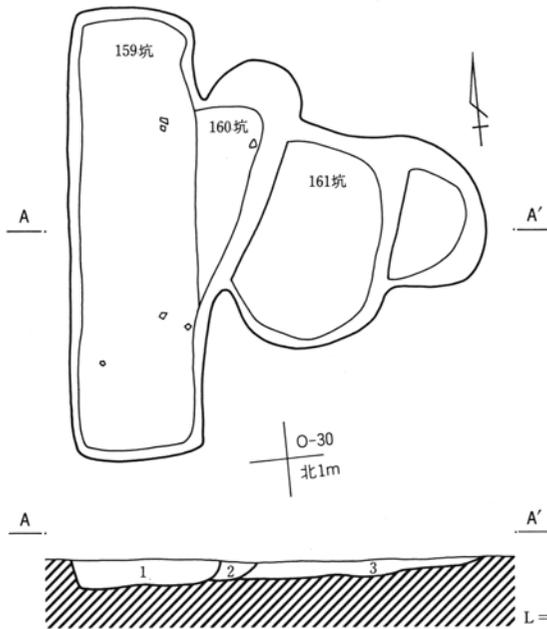


0 1:4 10cm

第282図 A6区の隅丸長方形土坑(2)

長方形

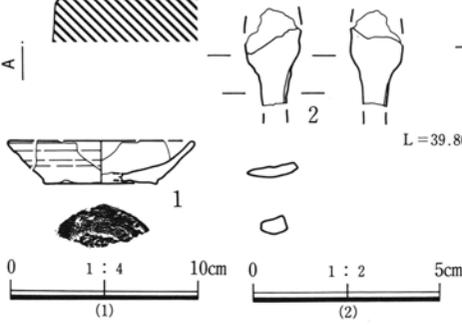
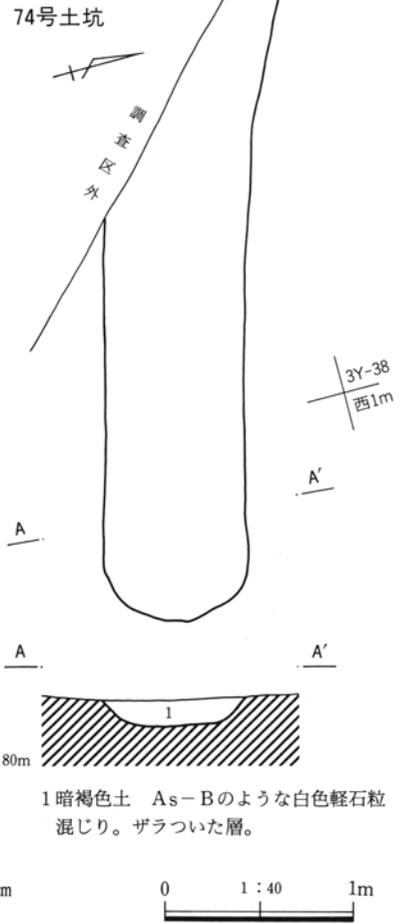
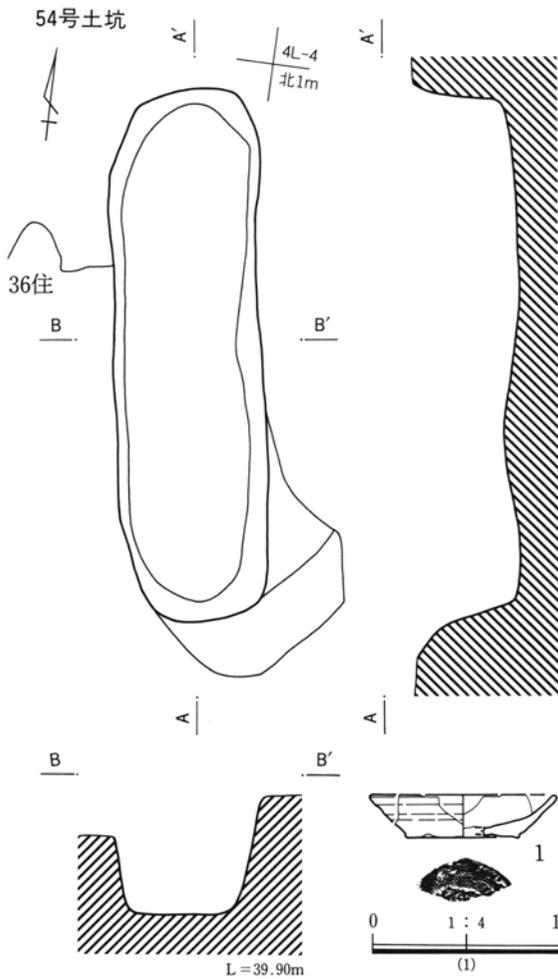
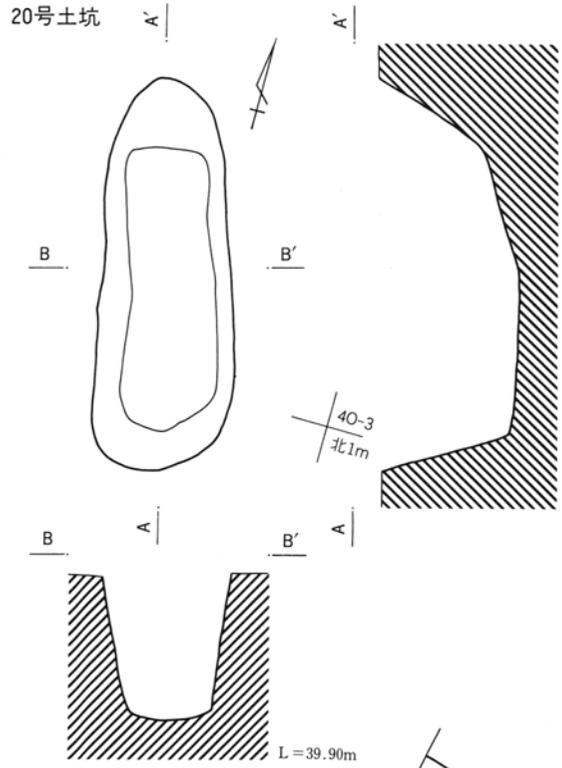
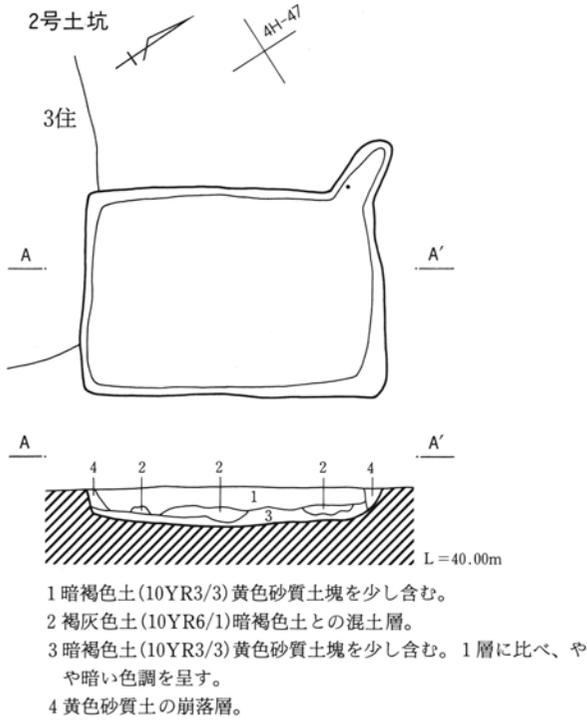
159・160・161号土坑



159号(長方形)・160号(長楕円形)・  
161号(不定形)土坑  
1 黄灰色土(10YR4/1)φ0.5~2・3mmのローム粒子、塊を若干含む。  
2 暗黄褐色土(2.5Y5/3)φ0.5~3・4mmのローム粒子、塊を多く含む。  
3 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)φ0.5~2・3mmのローム粒子、塊をやや多く含む。

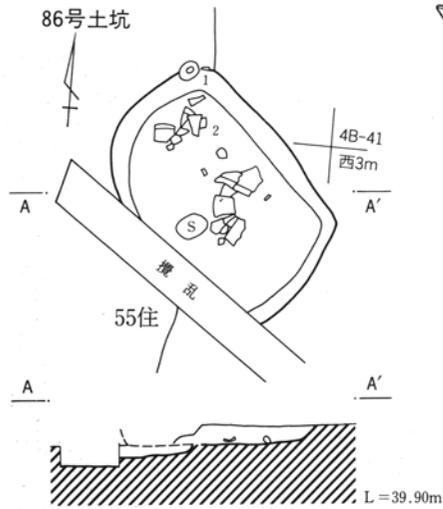
0 1:40 1m

第283図 A2区の長方形土坑

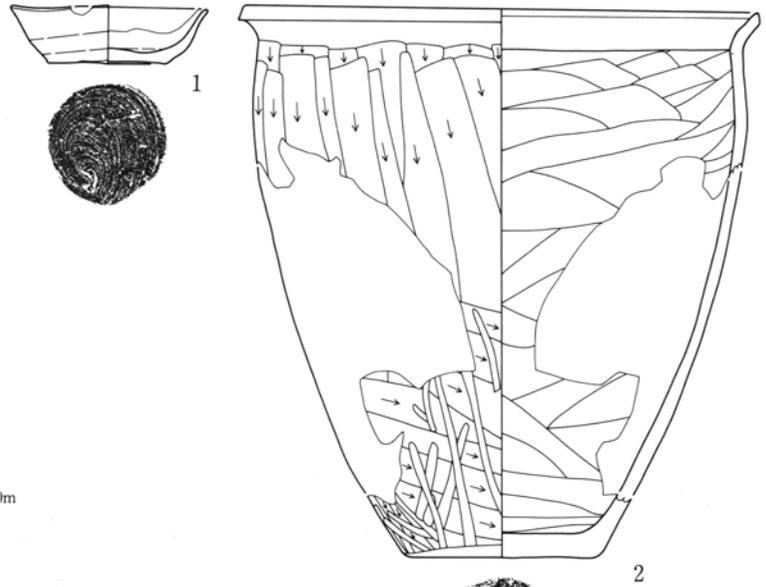


第284図 A6区の長方形土坑(1)

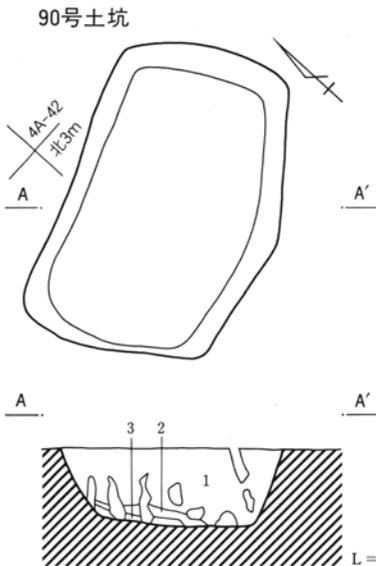
第3章 検出された遺構と遺物



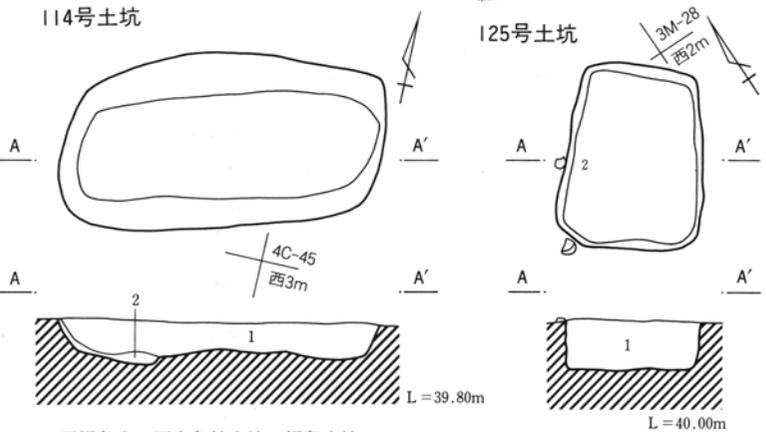
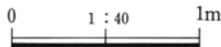
1 褐灰色土 黄白色粒、炭粒僅かに含む。やしまり、粘性あり。焼土塊などが時々出土し、55号住居竈と思われたが、竈のようなまとまりは見られず、土坑とした。新旧については、土坑を新とする。



114号土坑

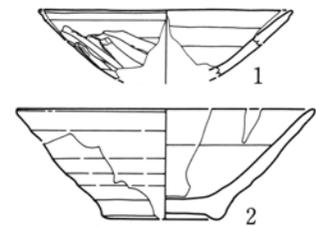


1 灰黄褐色土 灰白色シルト塊、炭粒、焼土粒、青灰色粘土小塊点在する。  
2 灰白色シルト 灰白色シルトに細砂混じり。僅かに炭粒含む。  
3 灰黄褐色土 シルトと細砂の混土。

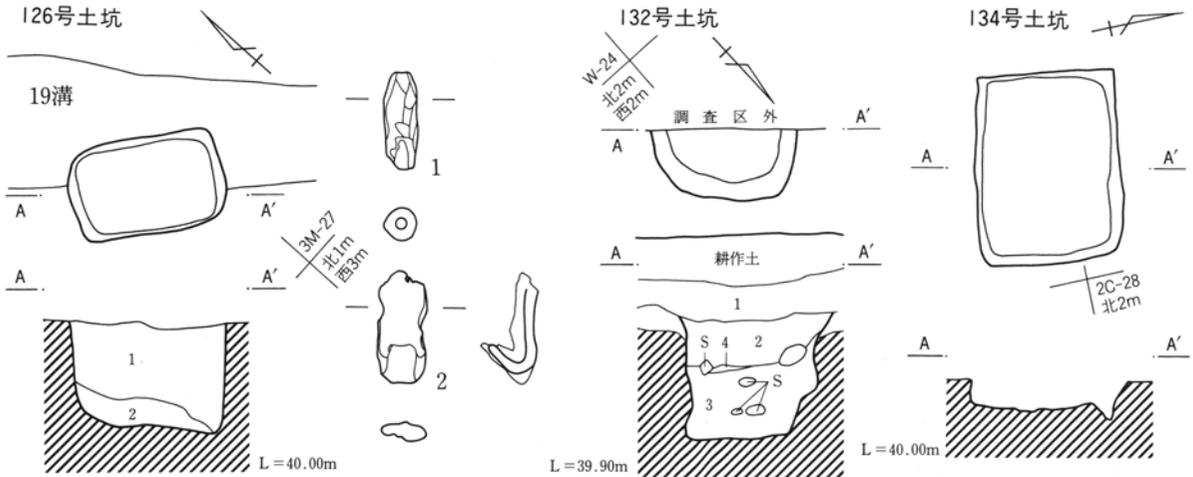


1 灰褐色土 灰白色粘土塊、褐色土塊の混土。全体にまだらに入る。  
2 暗褐色土 漸位層地山。

1 灰褐色土 全体にわずかに灰を含む。全体に均一のため、埋められたものと思われる。



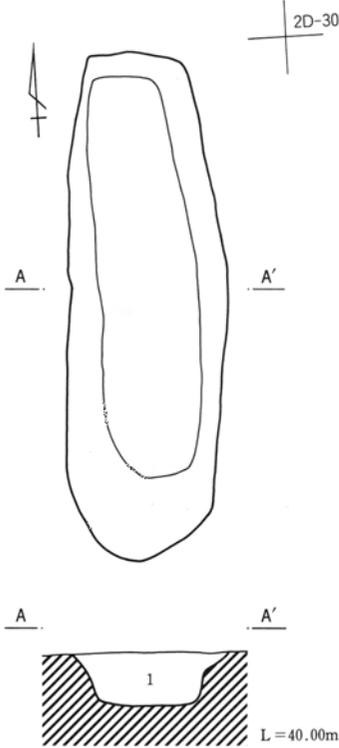
第285図 A6区の長方形土坑(2)



1 灰褐色土 全体にわずかに灰を含む。全体に均一のため、人為的に埋められたものと思われる。  
 2 茶褐色土層 砂質土。(下の島の畦の可能性あり)

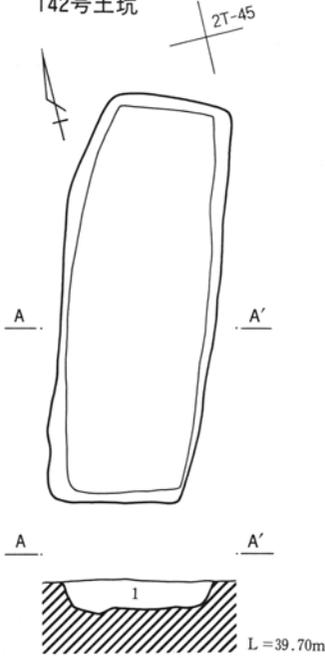
1 黄褐色土層 粘性なし。  
 2 暗褐色土層 ローム塊を多量に含む。  
 3 黒褐色土層  
 4 黒褐色土層 ローム粒、自然石を多量に含む。

135号土坑



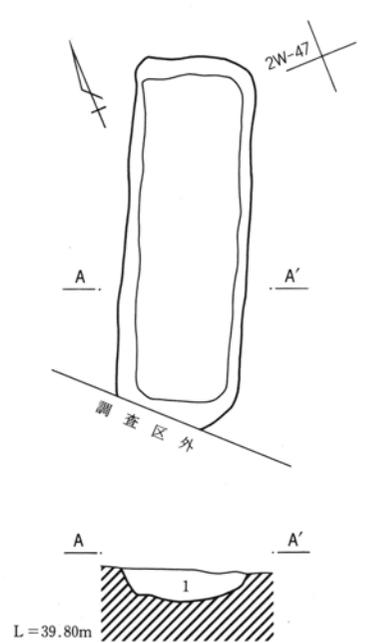
1 ローム粒々混じりの暗褐色土。

142号土坑

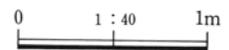


1 暗褐色土 細粒灰褐色土塊、焼土塊、炭塊混じり。

143号土坑



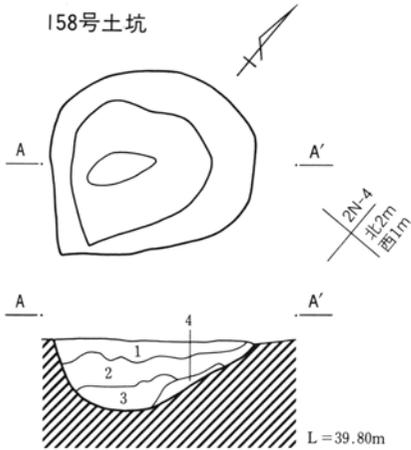
1 暗茶褐色 細粒粘質灰褐色土塊、細粒粘質茶褐色塊(焼土)混じり。



第286図 A6区・B2区・B3区の長方形土坑

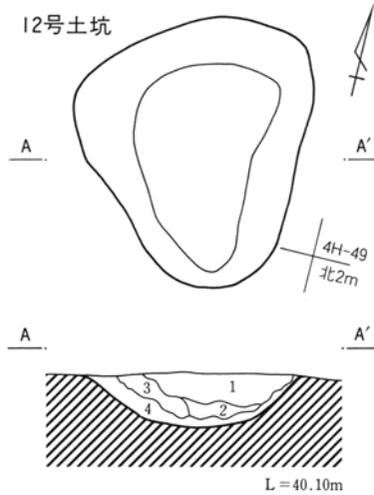
不定形

158号土坑



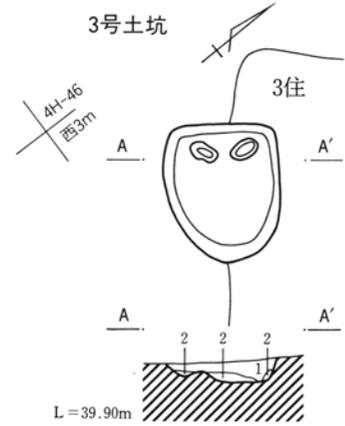
- 1 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)ローム粒を少量含む。粘性弱。
- 2 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)ローム粒(1~2cm大)を少量含み、軽石を少量含む。粘性弱。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)ローム土が大量に混入する。粘性弱、堆積は緻密である。
- 4 黄褐色土(2.5Y5/6)ローム土が大量に混入し、ローム粒が少量含まれる。粘性弱、堆積は緻密である。

12号土坑



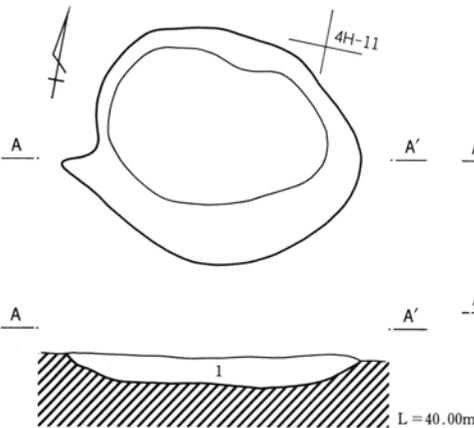
- 1 暗褐色(7.5YR3/3)シルト。しまり中、粘性弱。φ5mm以下の白色粒を少量含む。φ1mm程度の赤色粒を少量含む。
- 2 黒褐色(7.5YR3/2)シルト。しまり強、粘性弱。φ5mm以下の白色、赤色粒を少量含む。
- 3 暗褐色(10YR3/3)シルト。しまり中、粘性弱。φ10mm以下の白色粒を少量含む。φ1mm程度の赤色粒を少量含む。
- 4 褐色(10YR4/4)シルト。しまり弱、粘性弱。φ5mm以下の白色粒を少量含む。

3号土坑



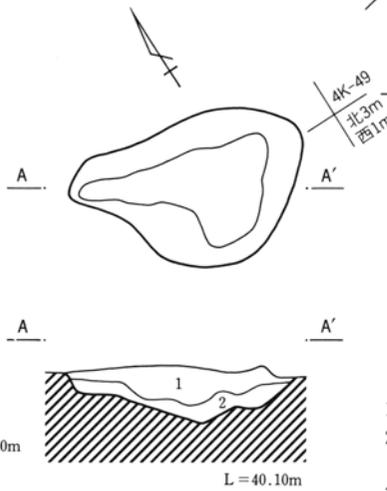
- 1 ローム粒塊状に30%含む。しまりややあり。パミス(φ5mm)を5%以下含む。
- 2 ローム粒が主体。暗褐色土を10%まばらに含む。

41号土坑



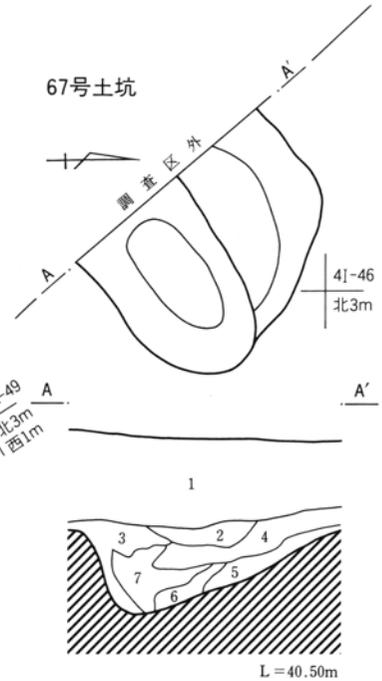
- 1 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)シルト質。ごく少量の焼土粒を含む。

116号土坑

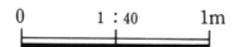


- 1 におい黄褐色土(10YR4/3)φ0.5~1cmのローム粒を少量含む。
- 2 におい黄褐色土(10YR5/4)浅黄褐色土の塊(φ1~2cm)、φ1~2cmの軽石を多く含む。

67号土坑

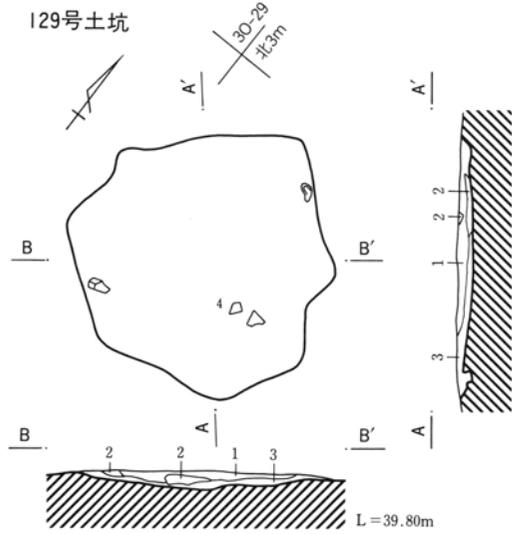


- 1 黒褐色土(10YR2/2)表土。しまりなし。
- 2 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)φ1~2cmの軽石を多く含む。
- 3 黄褐色土(2.5Y5/3)φ0.5~2cmの軽石を少量含む。
- 4 2層と3層の混土。
- 5 2層と同じ。
- 6 4層と同じ。
- 7 黒褐色土(2.5Y3/2)φ2~4cmの軽石を含む。

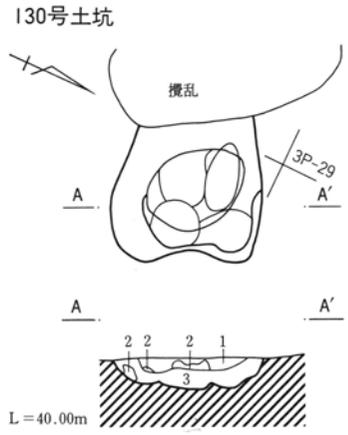
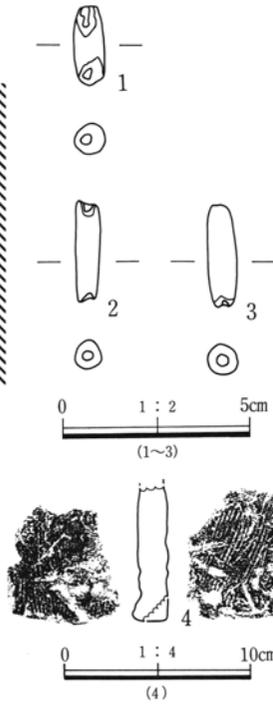


第287図 A3区・A6区的不定形土坑(1)

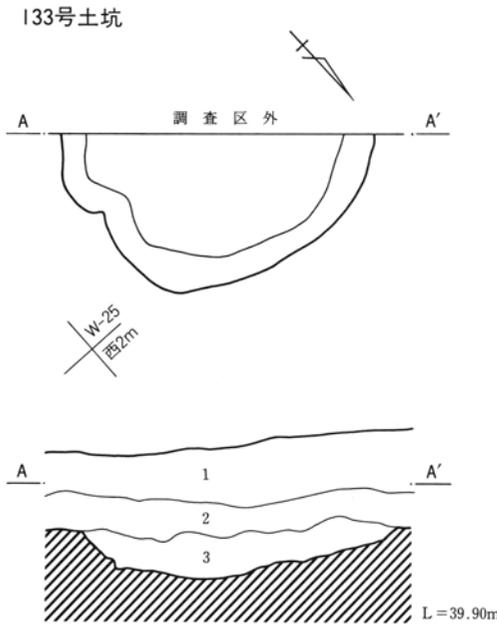
第3節 古代の遺構と遺物



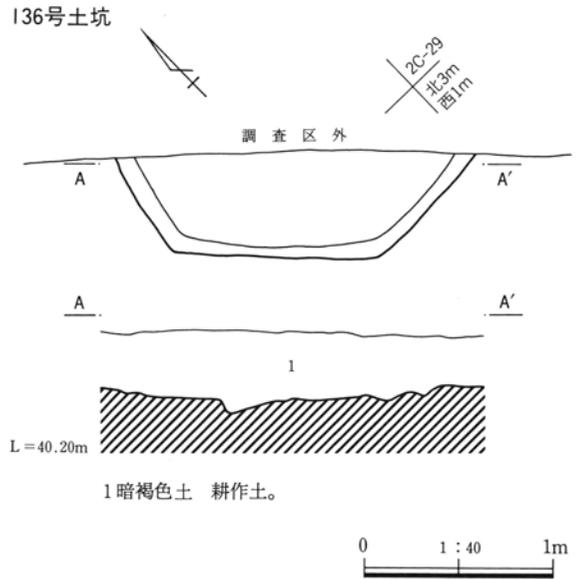
- 1 灰褐色土 少量の粘土と焼土粒を含む。
- 2 炭化物。
- 3 黒褐色土 多くの灰と粘土を含む。



- ・1 灰色砂層 わずかに焼土粒を含む。
- 2 焼土。
- 3 赤褐色土 灰色砂層中に、多くの焼土粒を含む。



- 1 茶褐色土 耕作土。
- 2 暗褐色土 ローム粒を混じる。
- 3 黒褐色土 ローム塊を混じる。



- 1 暗褐色土 耕作土。

第288図 A6区・B2区の不定形土坑

3. 祭祀址

(第289・290図 PL99・164 遺物観察表P.392)

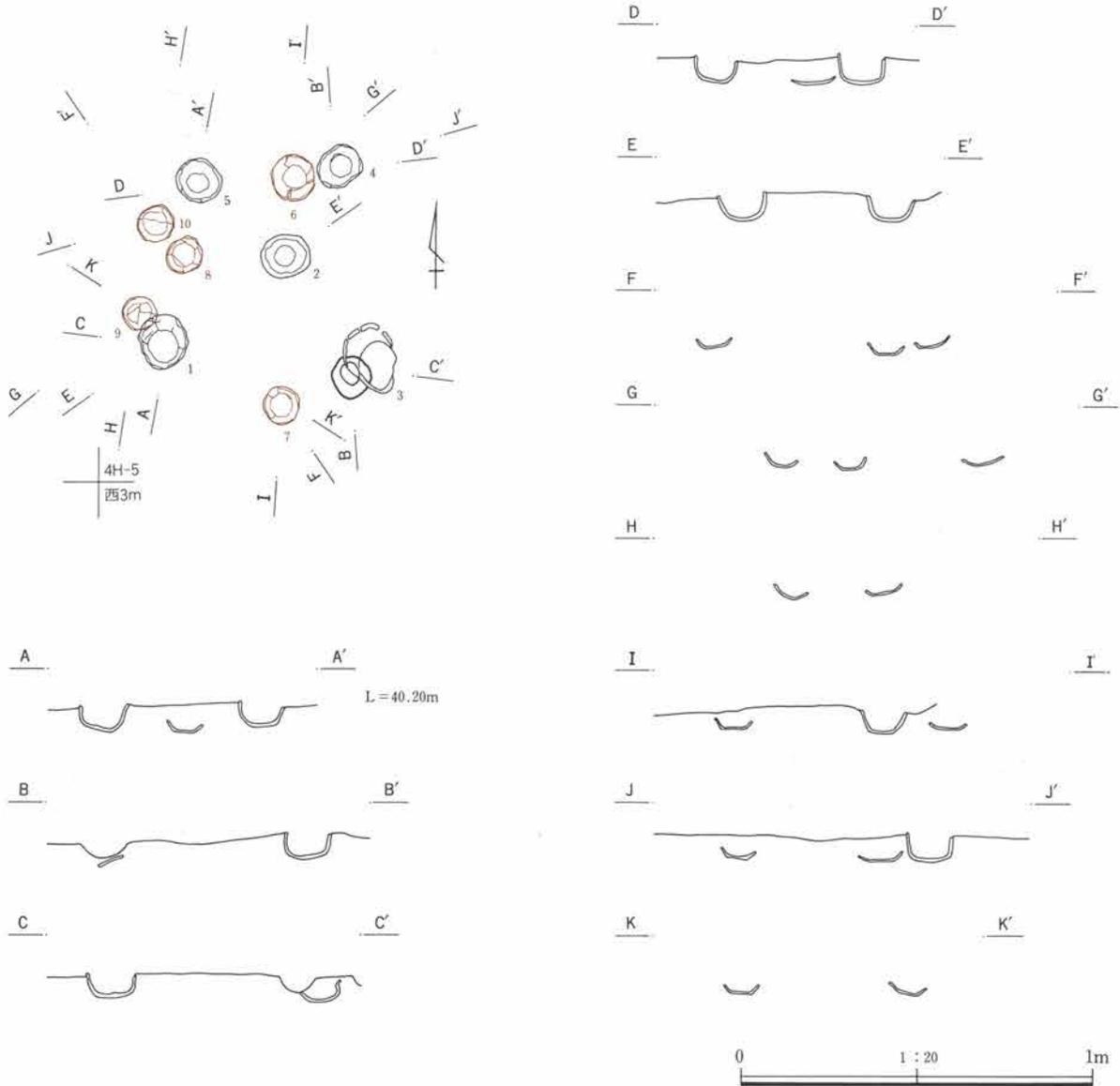
A 6 区北区の表土直下の遺構を調査後、下層の住居の確認面まで掘り下げていく途中で、2層にわたって遺存している土器を検出した。位置は4H-5グリッドで、土器の標高は40.1~40.5mである。

この遺物を検出したのはA 6 区の低地部であり、黄灰色の砂質土で遺物は埋まっていた。土器の出土した位置は住居の分布のない空白部である。この層位では、低地部に広がる住居群の平面形も同時に確認できていた。したがってこの土器群と住居の

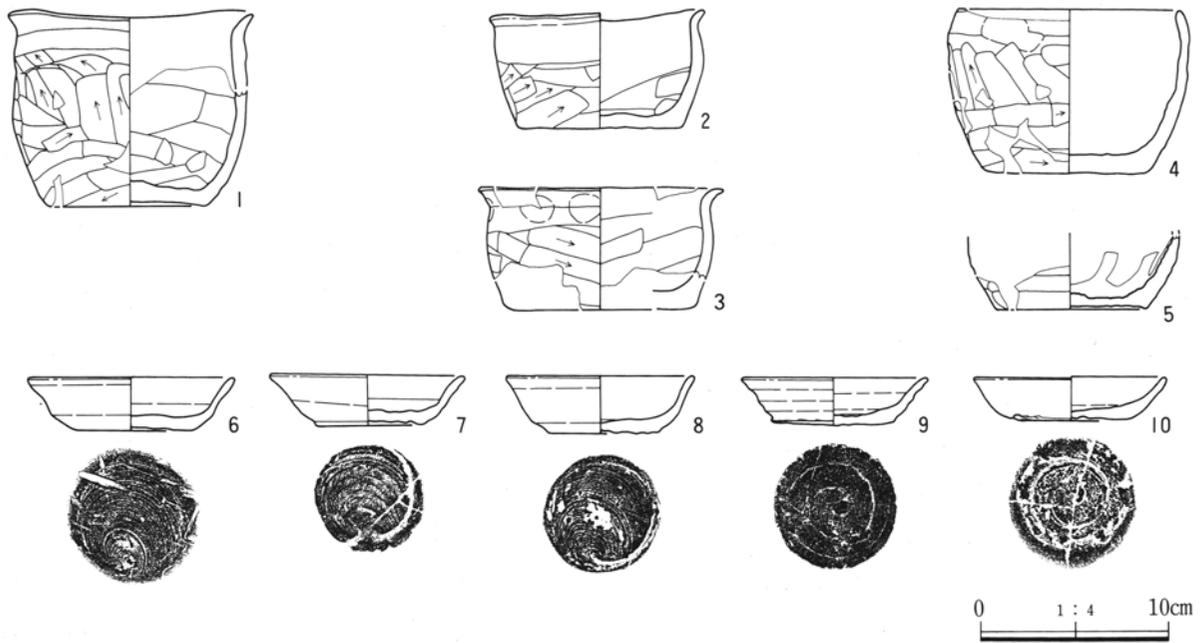
時期は明確な重複関係は確認できていない。土器の型式からは近接した時期と考えられる。

掘り下げ当初は5個の土師器小型平底鉢形土器を検出した。これらの配置は台形の四隅とそのほぼ中央の位置になっていた。土器はすべて正位で置かれていた。土器の遺存状態は極めて悪く、器壁は脆弱になっていたので、取り上げはバインダー液を塗布して行った。

小型鉢形土器群を記録して取り上げた後、周辺を精査したところ、鉢形土器の直下で須恵器小型環形土器を5個検出した。それぞれの5個の環形土器の



第289図 A 6 区祭祀址



第290図 A6区祭祀址の出土遺物

配置は上層の鉢形土器の真下ではなく、ややずれた位置にあった。しかし、坏形土器の配置も鉢形土器と同様に、台形の四隅に4個と、一方に偏ってはいるが四隅の内側に1個となっていた。

出土した土器は、以上の土師器小型平底鉢形土器5個と須恵器小型坏形土器5個のみである。鉢形土器は、口縁部が外反するタイプと、頸部がなく内湾するタイプの2種類があった。また器高が口径と同じくらいのタイプと口径より小さく浅いタイプの2種類がある。この鉢形土器は住居の出土遺物にはあまり類例のない形態のものであるが、三ツ木皿沼遺跡では口縁部が外反し深いタイプのものがA2区109号住居に出土している。坏形土器は小型で浅く、口縁部が直線的に開くタイプである。底部の切り離しには回転ヘラ削りと回転ヘラ起こしの2種類があった。これらの坏形土器は住居で出土するものと同様のものである。

これらの特徴から、土器はいずれも10世紀後半のものと考えられ、住居群の継続時期に合致している。土器群の性格は確定できないが、集落内の祭祀の可能性が高いと考えられる。

集落内の祭祀については農耕にかかわるもの、鎮

めにかかわるもの、戸にかかわるもの等が想定されるが未解明である。三ツ木皿沼遺跡の祭祀に関わると考えられる土器群は2層に分かれて、少し配置を変えて重なっていた。これは2種の土器が無造作に置かれた可能性も考えられるが、若干の時間差をもって同じ場所に置かれたことが考えられよう。また土器群が住居群の分布しない空白地に出土したことも祭祀の性格を考えるうえで重要であろう。

集落の中に煮沸具や供膳具を置き祭祀空間とする例は、黒井峯遺跡のような古墳時代の例が知られているが、古代の例はあまり確認されていない。三ツ木皿沼遺跡の例は古代の集落内の祭祀を考える上で重要な資料となろう。これらの土器がどのような場面に使われたのかは、類例を調査して再考しなければならない。

4. 鉄生産関連遺構

三ツ木皿沼遺跡では、鉄生産に関連すると考えられる遺構として、炉の痕跡2基と鉄滓等が廃棄された土坑7基が検出された。また周辺にある平安時代の住居からも多くの鉄滓や羽口等の鉄生産に係る遺物が出土した。

鉄生産関連遺構を含む平安時代の集落が確認されたのはA6区低地部である。ここは洪水砂で周囲のローム台地とほとんど同じ高さまで低地が埋まり居住域になった地点である。特に炉が検出されたところは、平安時代の住居が最も著しく重複している。これらの住居の埋没土や住居中央部床面には炭化物層があり、埋没土中に鉄滓や炉壁の破片が顕著に出土する住居や土坑があった。(第2表・第291図) 土坑の一部には埋没土に焼土や炭化物が多量に含まれ

ていて、羽口や鉄滓の破片および一部に鍛造薄片も出土していることから廃棄に使われたとみられるものも含まれている。

このような遺物の出土状況は、炉の操業に伴う廃棄物が、周囲の埋没途中の住居や土坑に棄てられたものと推定される。また、埋没土に目立った炭層等は検出されなくても鉄滓や炉壁の破片を出土した住居もあった。これらは住居埋没途中で遺物が混入したのと考えられる。

1号・2号炉の時期は、時期のわかる炉からの出土遺物等がなかったために不明である。しかし1号・2号炉の周囲にある鉄滓等が棄てられたか混入した住居の時期をみると、10世紀初頭から11世紀前半の100年間に及んでいる。この状況から、三ツ木皿沼遺跡で炉の操業がおこなわれていたのは、10世紀前半の住居が埋まる途中の時期から11世紀前半の住居

第2表 三ツ木皿沼遺跡鉄生産関連遺物出土遺構一覧表

発掘区	出土遺構	遺構の時期	遺構の様相	鉄生産関連遺物												
				製品	鍛造薄片	鉄滓				スサ入粘土状物質			粘土状物質	羽口		鉄塊 鉄鉄
						塊状滓	碗形滓		塊状滓 粘土状 物質付着	部分溶融	発泡	酸化		内径3 cm未満	内径3 cm以上	
							小型	大型								
A6区	53号住居	10世紀前半	特になし。			1							1			
A6区	66号住居	10世紀前半	埋没土に焼土・粘土			1							1			
A6区	81号住居	10世紀前半	61住と重複									1			1	
A6区	71号住居	10世紀前半	住居西部埋没土に炭層									1				
B3区	97号住居	10世紀前半	特になし。											1		
A6区	98号住居	10世紀前半	特になし。			1			1							
A6区	51号住居	10世紀中葉	埋没土中位に炭化物層			1										1
A6区	52号住居	10世紀中葉	特になし。	2	刀子・釘					1						
A6区	56号住居	10世紀中葉	住居中央に炭化物層	3	不明	1		1	4					3		2
A6区	62号住居	10世紀中葉	住居中央部に炭層	2	不明	3				1						6
A6区	69号住居	10世紀中葉	住居中央部に炭層	6	刀子・釘	13		1		6						5
A6区	77号住居	10世紀中葉	埋没土中位に炭化物層			8		1		2				2		4
A6区	60号住居上層	10世紀前半より新	廃棄用土坑か。			○	8	1		5	1			4		2
A6区	1号炉	10世紀前半より新	単独屋外炉	2	針状		8	2	10	13						1
A6区	2号炉	10世紀前半より新	単独屋外炉			○	9	3	5	15	1	6		1		6
A6区	54号住居	10世紀後半	特になし。	1	針							1				
A6区	61号住居	10世紀後半	埋没土に炭			1						2	2			
A6区	65号住居	10世紀後半	住居中央部に炭層			2				1						
A6区	73号住居	10世紀後半	特になし。			1										
A6区	75号住居	10世紀後半	礫出土			2	1							1		1
B3区	96号住居	10世紀後半	特になし。							1						
A6区	83号土坑	11世紀前半	廃棄用土坑か。			3			2	2			1	1		2
A6区	11号住居	11世紀前半	灰の入った床下土坑	1	刀子	1										
A6区	20号住居	11世紀前半	住居中央に炭化物層											1		
A6区	64号住居	11世紀前半	埋没土に炭化物			11	1			2						5
A6区	74号住居	古代	住居北西部に炭層			1				1						
A6区	89号住居	古代	特になし。							1						
A6区	71号土坑	古代	特になし。						1	1						
A6区	75号土坑	古代	埋没土に炭化物多含	1	不明	2										1
A6区	76号土坑	古代	特になし。			2					1					
A6区	84号土坑	古代	廃棄用土坑か。							1						
A6区	97号土坑	古代	廃棄用土坑か。			○	1	1		1						1

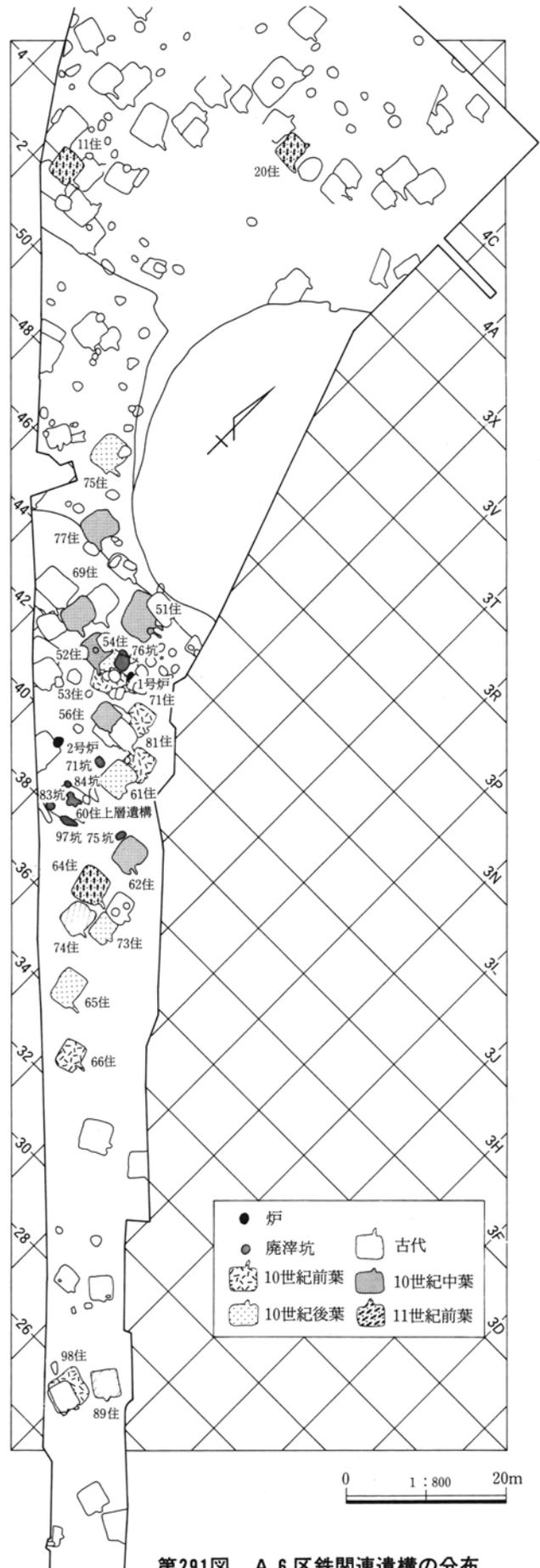
が埋まる途中の時期までということになる。

10世紀中葉と考えられる62号住居には、竈の支脚に羽口が転用されていた。これは住居の時期あるいはそれ以前に、周辺で炉の操作があったことを示唆している。また62号住居の中央部床面には炭層があり、鉄滓が床面から2～3cm上で、羽口が住居中央部床面直上で出土している。これらは廃絶直後の埋没過程にある住居の中央部が埋まらないうちに、鉄滓等が捨てられたのであろう。

このような鉄生産関連遺物が棄てられたか、混入した住居の分布と廃棄物の多寡を時期別に見ると、やや偏在傾向が見られる。10世紀前葉の住居は1号・2号炉の周辺に散在しており、棄てられた遺物も断片的である。10世紀中葉の住居は炉を取り巻くような位置にあり、炉の出土遺物と同じようなものが棄てられている。10世紀後葉の住居はそれまでより炉から離れた位置になる。炉と同じようなものが棄てられているが、量は少なくなる。

一方、鉄生産関連遺物が出土した土坑の時期は不明なものが多い。しかしその分布は住居と同様に1号・2号炉の周辺に集中している。このうち71号・76号土坑は埋没土の炭化物や焼土が少なく、75号土坑はやや1号・2号炉から離れていたため本書では一般の土坑として報告した。しかし出土遺物や位置からは鉄生産に関連する土坑と見ることもできる。そのほかの83号・85号・84号・97号土坑は、廃棄あるいは鉄生産に何らかの関連があった遺構と考えられる。

三ツ木皿沼遺跡の鉄生産関連の炉と考えられる遺構は2基ともに遺存状態が極めて悪く、生産の実態を遺構のみから推定することは困難であった。そこで、遺構の検討とともに、多くの遺構から出土した鉄生産関連遺物を詳細に検討して、三ツ木皿沼遺跡内で行われた鉄生産の実態に迫ることとした。ここではまず、三ツ木皿沼遺跡の鉄生産関連遺構を個別に報告し、その内容を整理した。次に出土遺物の外観を観察し、分類を試みた。遺物の詳細は第3表にまとめた。



第291図 A6区鉄関連遺構の分布

1号炉

(第292・293図 PL100・166・167 遺物観察表P.392)

位置 A6区4A-42グリッド

重複 53号住居を切っている。

形状 南側がややすぼまる楕円形の掘り方をもっている。深さは中央で確認面から12cmほどであり、北西部がやや深くなっている。断面形は短軸は箱形、長軸は皿状を呈する。

規模 長軸 1.45m 短軸 0.75m

深さ 0.12m

長軸方位 N-11°-W

埋没土 焼土や炭化物塊を混じる暗褐色土や橙色土と、炉壁の破片や鉄滓を多く含む暗褐色土が攪乱された状態で北寄りに集中して埋まっていた。

遺構の状況 南寄りでは炭化物が多く出土し、木炭が外部で燃やされたような残存状態であったが、上層の攪乱が著しく炉壁の痕跡や立ち上がり等、炉の構造を示す状況は明瞭に確認できなかった。底面は地山のシルトがやや焼土化した部分が南半部に確認できた。壁面には焼土化した部分は確認できなかった。

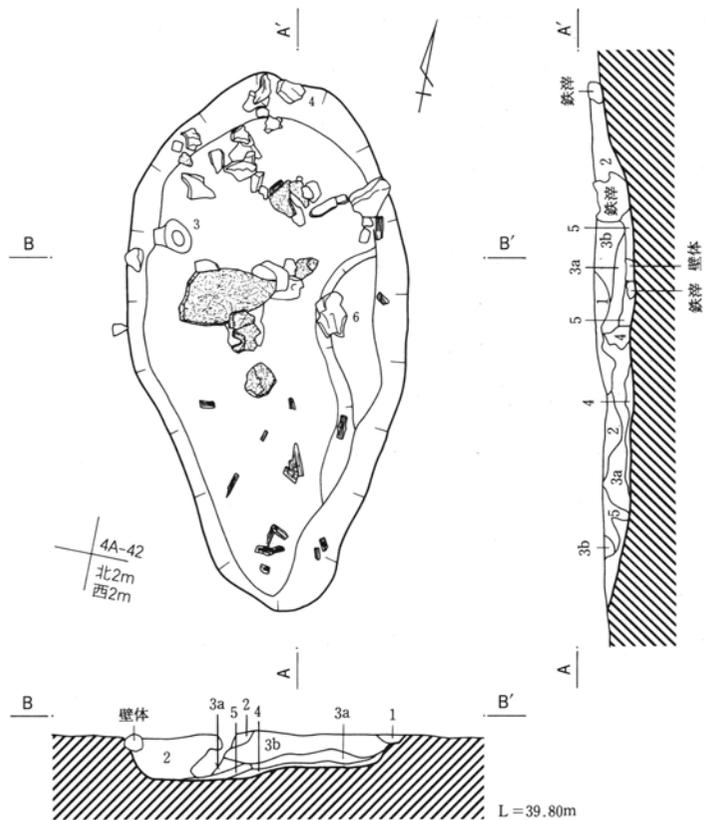
遺物と出土状況 出土遺物は、鉄滓、スサ入粘土状物質、羽口、針状の鉄製品である。遺構を確認した時点で、攪乱が底部付近にまで及び、鉄滓等の遺物は埋没土上面に露出していた。これらの遺物は焼土や炭化物塊とともに埋没土と混じって出土した。

鉄滓は椀形滓が2点、塊状滓が8点、粘土状物質が付着した塊状滓が10点出土している。椀形滓(4・6)は長径13cmほどの楕円形を呈する。厚さは3cmほどの薄いものと、7cmほどもあるものが出土している。塊状滓は小破片が多く、流れた跡のようにひも状に固まった塊状滓も含まれていた。また片面に粘土状物質を

付着して固結している塊状滓が目立った。塊状滓のなかには木片によると見られる攪拌痕跡が残っているものもあった。

スサ入粘土状物質は部分熔融したと思われるものは13点が出土した。第293図5は反応容器の底部と見られ、内側の凹みは椀状滓の外側の形状と一致する。

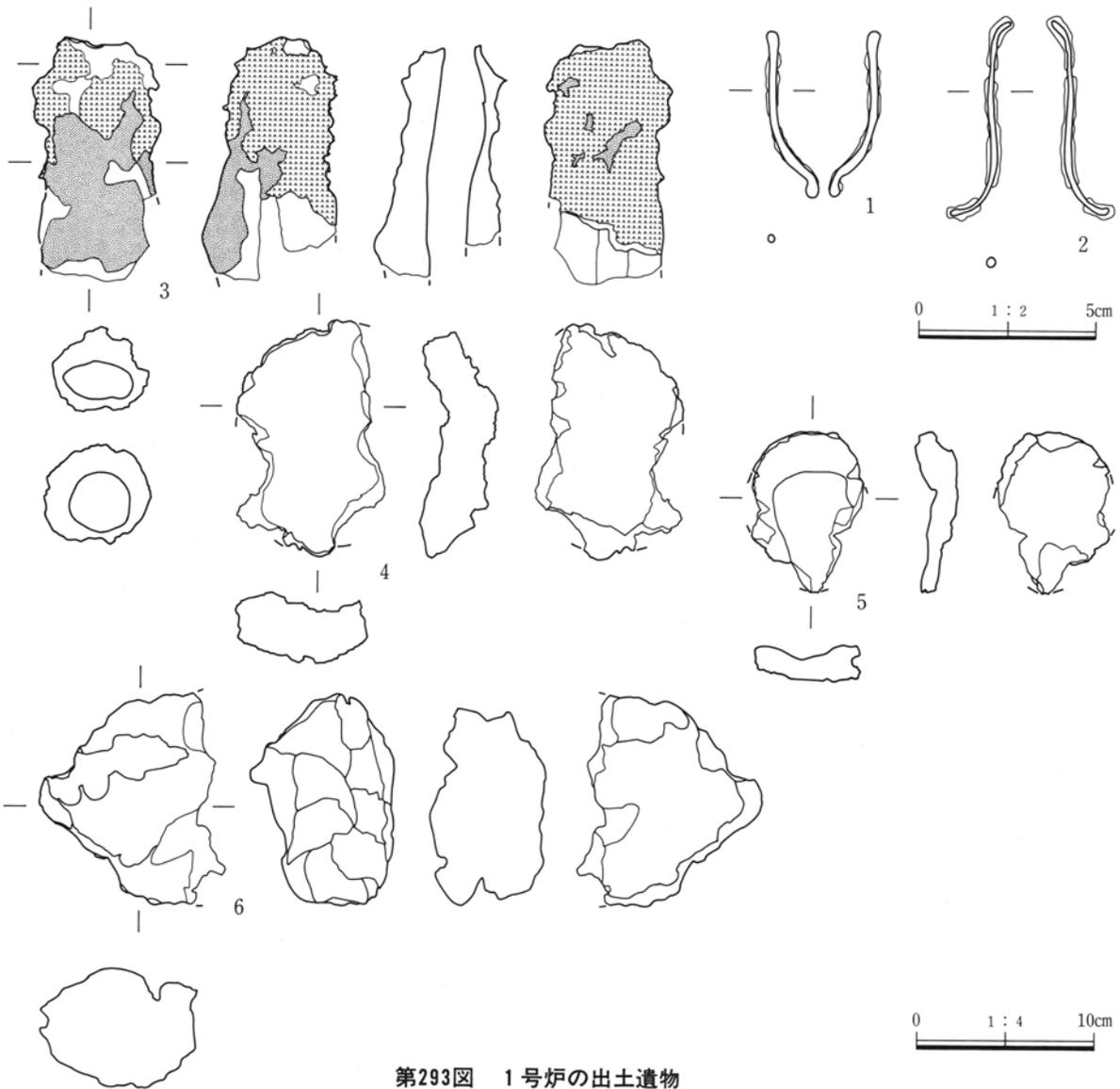
羽口はいくつかの破片が接合したが1個体が認められた。先端部側半分のみが残存である。先端側はつぶされたように扁平になっており、先端部の周囲には鉄滓が付着し、その下位は著しい反応によって珪化部分が発砲していた。またねじれて湾曲した針状の鉄製品が2点出土した。



- 1 灰褐色土 焼土塊、炭、黄橙色土塊を含む。
- 2 暗褐色土 炉体の崩落塊。鉄滓、スラグ等混じる。
- 3 a 黄橙色土 2層同様、炉体の崩落部ではあるが、構築材である黄白色粘土がボソボソ見られる。
- 3 b 橙色土 焼土塊のみ。
- 4 くすんだ橙色土 地山シルトが火熱を受け、焼土化した。
- 5 暗褐色土 炭を多く含み、焼土塊混じる。

0 1:20 50cm

第292図 1号炉



第293図 1号炉の出土遺物

分析試料は、塊状滓1点、粘土状物質が付着した塊状滓1点、椀形滓1点、部分溶融したスサ入粘土状物質4点、羽口1点である。

2号炉

(第294~269図 PL101・167~170 遺物観察表P.392・393)

位置 A6区4A-39グリッド

重複 58号住居を切っている。

形状 北側がややすぼまる楕円形の掘り方をもっている。深さは中央で確認面から17cmほどである。断面形は短軸および長軸ともにだらだらとした皿状を呈する。

規模 長軸 1.40m 短軸 1.05m

深さ 0.17m

長軸方位 N-9°-E

埋没土 最下部には炭化物を含む暗褐色土が一部に

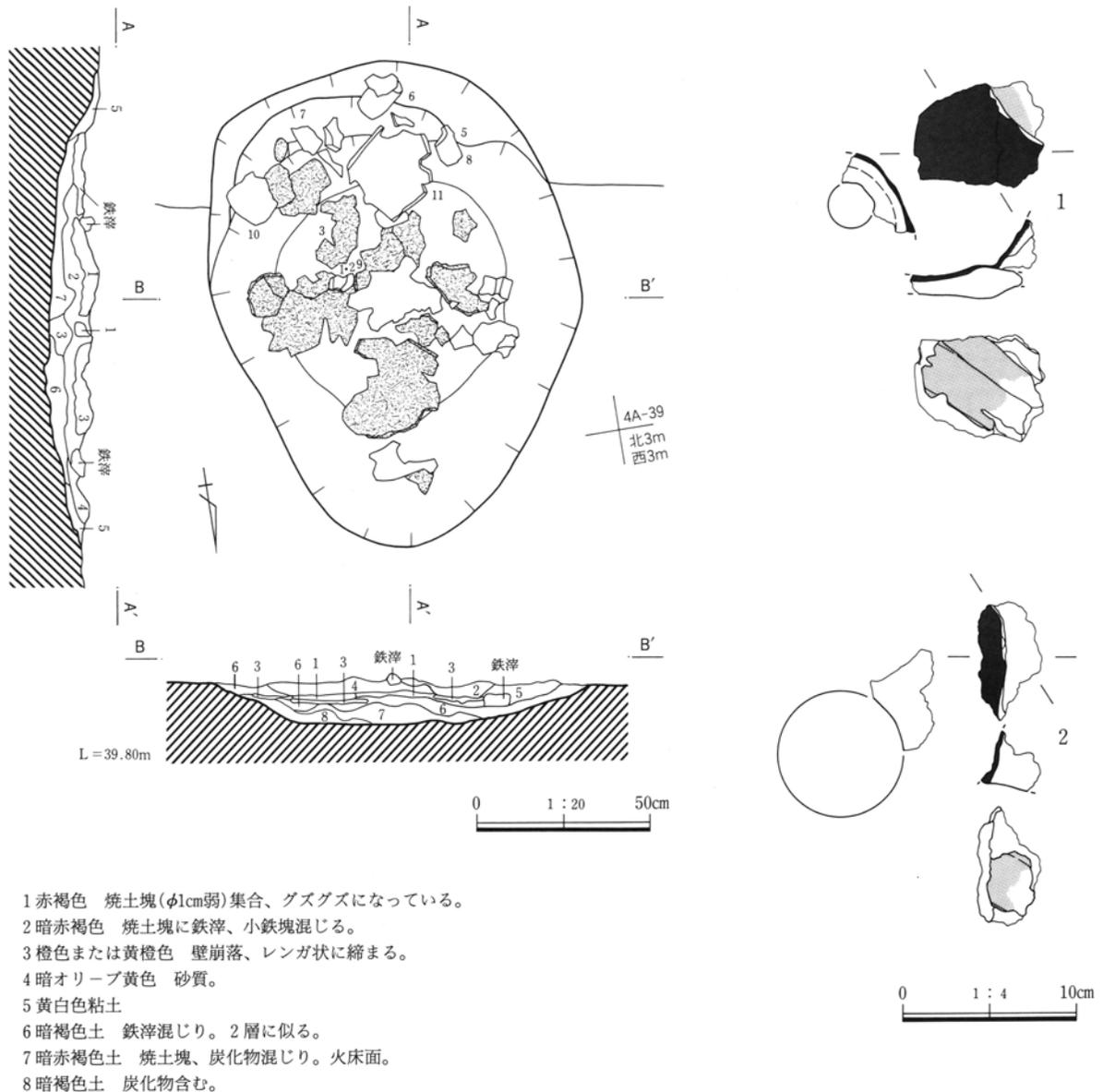
第3章 検出された遺構と遺物

あり、その上に全体的に焼土塊・炭化物を混じる暗赤褐色土があった。その上位には大型の炉壁が崩落したと思われるレンガ状の橙褐色土や鉄滓・焼土塊を混じる暗赤褐色土が平らに堆積していた。西側・北側の縁に近い方には黄白色粘土が残っていた。遺構の状況 攪乱が著しく、炉壁の痕跡や立ち上がり等、炉の構造を示す状況は1号炉と同様に明瞭に確認できなかった。

しかし、西縁には黄白色粘土が残っており、周囲に粘土による構造物があったことが推定される。ま

た底面には暗赤褐色に焼けた面が一部に残存していた。

遺物と出土状況 出土遺物は、鍛造薄片、鉄滓、スサ入粘土状物質、羽口である。遺構を確認した時点で、攪乱が炉底部までおよび、鉄滓等の遺物は埋没土上面に露出していた。炉壁や容器の破片は比較的中央部にほぼ平らに出土し、鉄滓や羽口はその周囲に放置されていた。鍛造薄片は埋没土中で検出した。埋没土層の全体を洗浄調査したものではない。



第294図 2号炉と出土遺物(1)



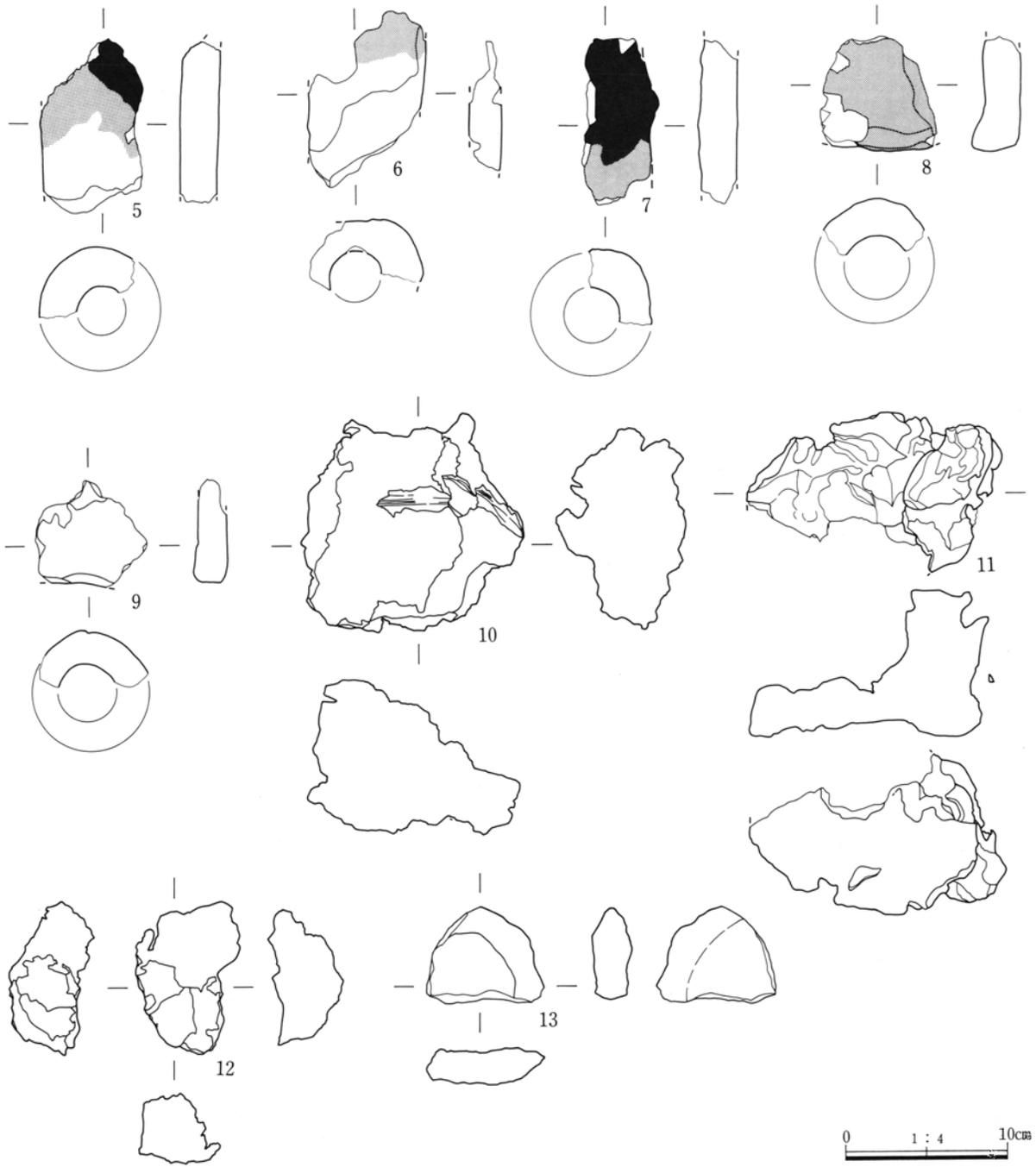
第295図 2号炉の出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

鉄滓は粘土状物質が付着した塊状滓が3点、同じく粘土状物質が付着した椀形滓が3点、塊状滓が14点、椀形滓が3点出土した。塊状滓には羽口が付着しているものもある。椀形滓のうち10は短径13cmほどの楕円形を呈する。厚さは9cmと厚い。上面に木片に拠るとみられる攪拌痕跡がある。13は厚さ2cmほどの薄い塊状滓である。また、羽口に付着して丸

くカーブした鉄滓の破片が2点出土している。

スサ入粘土状物質は22のまとまりが出土した。これらは火熱による反応の全くない炉壁外側の酸化状態の破片と、反応が鈍い発泡状態の破片、反応が激しく部分溶融している破片に分けられる。部分溶融した破片は溶解・固結の過程で曲がりくねり、接合作業は困難であった。しかし一部に接合する破片が



第296図 2号炉の出土遺物(3)

あり、壁体の全体の復元まではできなかったが部分的には炉の構造を推定させる資料となった。

なかでも第294図に図示した羽口が付着したままの資料(1)と、羽口の挿入痕跡が残る資料(2)は、羽口が炉壁に対して斜めに挿入されていたことを示している。他に羽口は7点が出土した。内径・外径のわかる5点を図示した。還元部分で計測した羽口内径で比べると、3cm未満の細いものと、3cm以上の太いものに分けられる。羽口の全体がわかる資料は無い。

分析した試料は、粘土状物質が付着した椀形滓1点、塊状滓6点、スサ入粘土状物質が部分溶解した資料6点、酸化状態のスサ入粘土状物質1点である。

### 60号住居上層遺構

(第297図 PL102・103・170 遺物観察表P.393)

位置 A6区3X・3Y-38グリッド

重複 60号住居を切っている。

形状 60号住居上層遺構は複数の土坑の集合である。西側には長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.2mの隅丸三角形の土坑の北西側縁に、内径28cmほどの円形に焼けた部分があった。焼けた厚さは13~15cm、残存していた高さは10cmほどである。

その南東側に隣接して3基の土坑が団子状に掘り込まれていた。北からA土坑、B土坑、C土坑とする。土坑の規模は以下の通りである。

	A	B	C
長軸	0.45m	1.00m	1.10m
短軸	0.33m	0.80m	0.73m
深さ	0.21m	0.32m	0.29m
長軸方位	N-26°-E		

A・B・C土坑を貫く方位はN-49°-Eである。

埋没土 60号住居上層は60号住居の床面精査の時点で北壁中央に集中して灰や炭化物・鉄滓が出土し始めたことから確認された。当初60号住居の床面とした面と、鉄滓等が出土した面は高低差がほとんどなく同時に調査することになった。鉄滓等の出土する

土坑群を調査後、60号住居を精査したところ、住居の壁は北に広がり床面はさらに下位に検出された。

そこで60号住居の埋没土を詳細に観察すると、炭化物・焼土の層が土坑群からつながって60号住居埋没土より高い位置で北側に広がっていた。このことから、これらの土坑群は60号住居を切って掘られた新しい遺構と考えた。

遺構の状況 60号住居上層遺構の西半には内径28cm、外径40cmの円形で、3~10cmの厚さで周囲が焼土化した土坑があった。深さは確認面から12cmほどの窪みが検出された。北から西の縁にはスサ入粘土状物質の断片が壁に沿うように出土したが、炉との確信を得るまでには至らなかった。

東側にあるA・B・C土坑は鉄滓や炭が混在する褐色土で埋まっていたが、内部で反応があったような焼土化した痕跡はなかった。

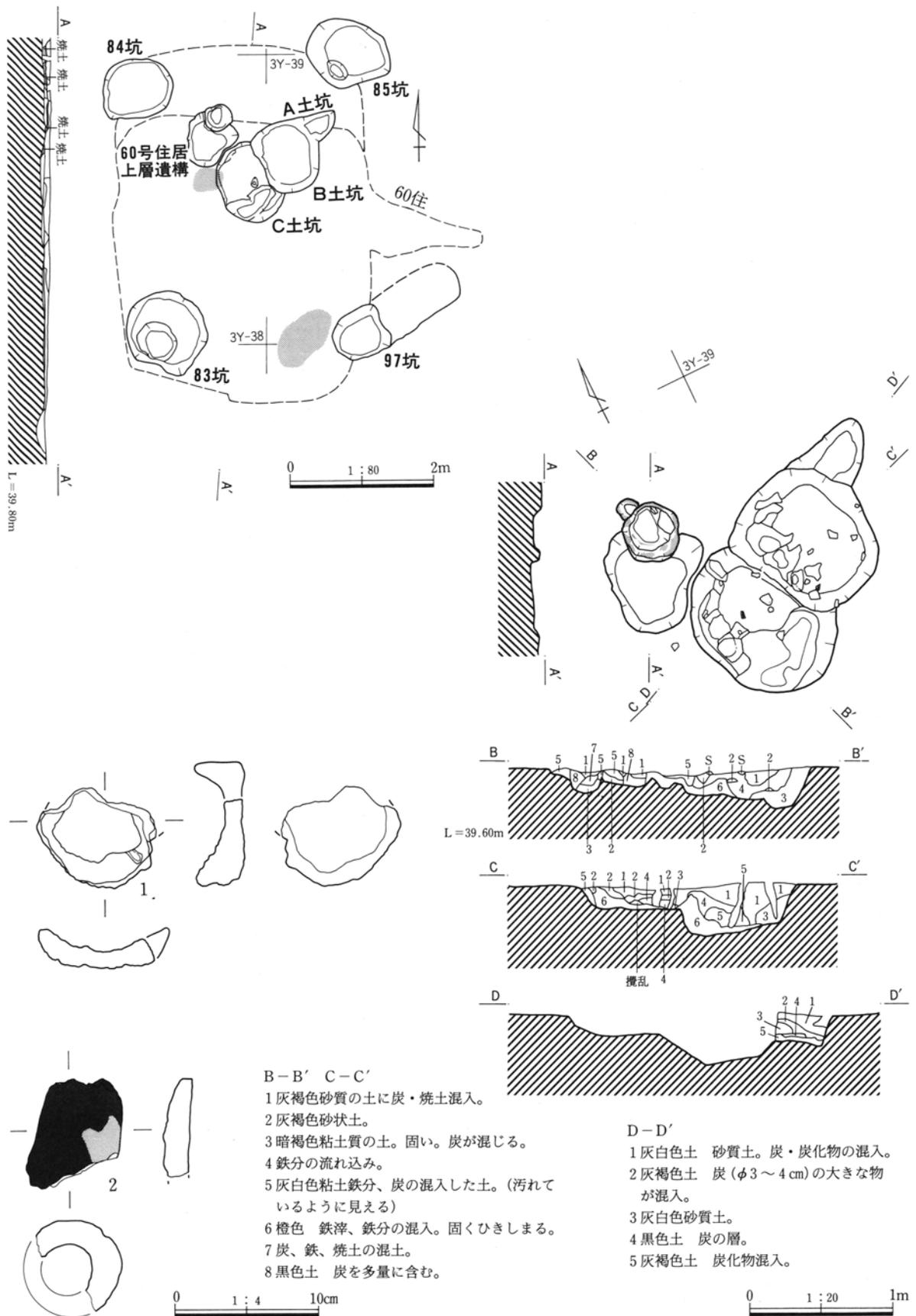
遺物と出土状況 出土遺物は、鍛造薄片、鉄滓、スサ入粘土状物質、羽口である。遺構を確認した時点で、鉄滓等の遺物は埋没土上面に露出していた。B・C土坑の遺物は南西縁に偏在していた。

鍛造薄片はB土坑とC土坑から出土した鉄滓の固まりとともに検出された。埋没土層の全体を洗浄調査したものではない。

鉄滓は粘土状物質が付着した塊状滓が5点、椀形滓が1点、塊状滓が8点出土した。鉄滓はC土坑にやや偏って捨てられていた。椀形滓は図示した1で、B土坑の南縁で検出された。長径9cmほどの楕円形を呈する。厚さは6cmである。塊状滓は数cm角の固まりが多いが、錆が顕著である。また、粘土状物質が付着した塊状滓には羽口と反応したものがあつた。スサ入粘土状物質は部分溶解した破片が1点だけ出土している。何らかの炉の肩部の破片とみられる。

羽口は2点が出土した。図示した2はC土坑の北東で出土した。内径3.4cmである。

分析した資料は、塊状滓1点、椀形滓1点、粘土状物質が付着した塊状滓2点、羽口と反応した塊状滓1点、スサ入粘土状物質1点である。



第297図 60号住居上層遺構と出土遺物

## 鉄生産に関連する土坑

(第297～299図 PL103・104・171 遺物観察表P.393)

60号住居のほぼ四隅にあたる位置には4個の不正円形の土坑が検出された。83号・84号・85号・97号土坑である。これらの土坑の存在は60号住居の上層で何らかの鉄生産が行われていたことを示唆する。このうち、埋没土に焼土や炭化物粒が顕著に混じっていることや出土した鉄生産関連遺物から、83号・84号・97号土坑は廃棄坑と考えられる。しかし、85号土坑は焼土粒や炭化物粒を含むシルト質の褐色土で埋まってはいるが、他の3つの土坑と埋没土や出土遺物が異なっていることから、鉄生産に関わる遺構とは断定できなかった。

**83号土坑** 直径1.16m、深さ0.36mの円形の土坑で、断面形は箱形である。底面は南東部がやや円形に窪んでいた。埋没土の大半が炭化物を含む黄灰色土で、一度に埋められた様相を示す。遺物も埋没土に混じった形で出土した。土器に混じって羽口3点、塊状滓3点、粘土状物質が付着した塊状滓2点、粘土状物質1点、スサ入粘土状物質2点が出土している。一緒に出土した土器は11世紀初頭と考えられる。

**84号土坑** 長軸0.94m、短軸0.8m、深さ0.31mの隅丸方形の土坑である。断面形は箱形で、底面は平坦である。埋没土は炭・焼土の粒や塊を含む黄灰色土で羽釜等の土器に混じって、羽口片が付着したスサ入粘土状物質1点が出土した。

**97号土坑** 長軸1.5m、短軸1.3mの隅丸台形の土坑である。その東西には炭の広がりが出された。特に東側は幅0.8m、長さ1.2mの範囲に0.2mほど掘り窪んでいて灰や粘土の層が見られた。土坑内は鉄滓や炭化物粒、焼土粒を多量に含む灰褐色土で埋まっていた。遺物は羽口1点、鍛造薄片、椀形滓1点、塊状滓1点、粘土状物質が付着した塊状滓1点が出土した。

**その他の土坑** これらのほかに一般の土坑として報告したなかにも鉄生産関連遺物を出土した土坑があった。それは71号土坑(第278図)、75号土坑(第281図)、76号土坑(第271図)、126号土坑(第286図)で塊

状滓・発泡した炉壁等の鉄生産関連遺物数点を出土した。これらの土坑は埋没土に顕著な炭化物・焼土の堆積は見られなかったが、1号・2号炉の近くにあり、鉄生産関連遺物を出土している。土坑の埋没途中に鉄生産関連遺物が混入した可能性が高い。

## 鉄生産関連遺物(第3表)

三ツ木皿沼遺跡では前述したようにA6区で鉄生産関連遺構が検出されたが、そこから鉄生産に関連する遺物が305点出土している。これらは概ね、鉄製品、鍛造薄片、鉄塊、鉄滓、粘土状物質、羽口、その他に分けられる。

鉄製品は遺跡全体では41点が出土したが、A6区から出土したのは31点である。これらはほとんど埋没土中からの出土であり、遺跡内で鍛造鍛冶炉が検出されていないので、本遺跡で生産された遺物とは断定できなかった。また鍛造薄片は2号炉と60号住居上層遺構で数片を確認したにとどまる。

鉄塊はA6区75号住居の埋没土中で銚鉄塊が1点出土したのみである。

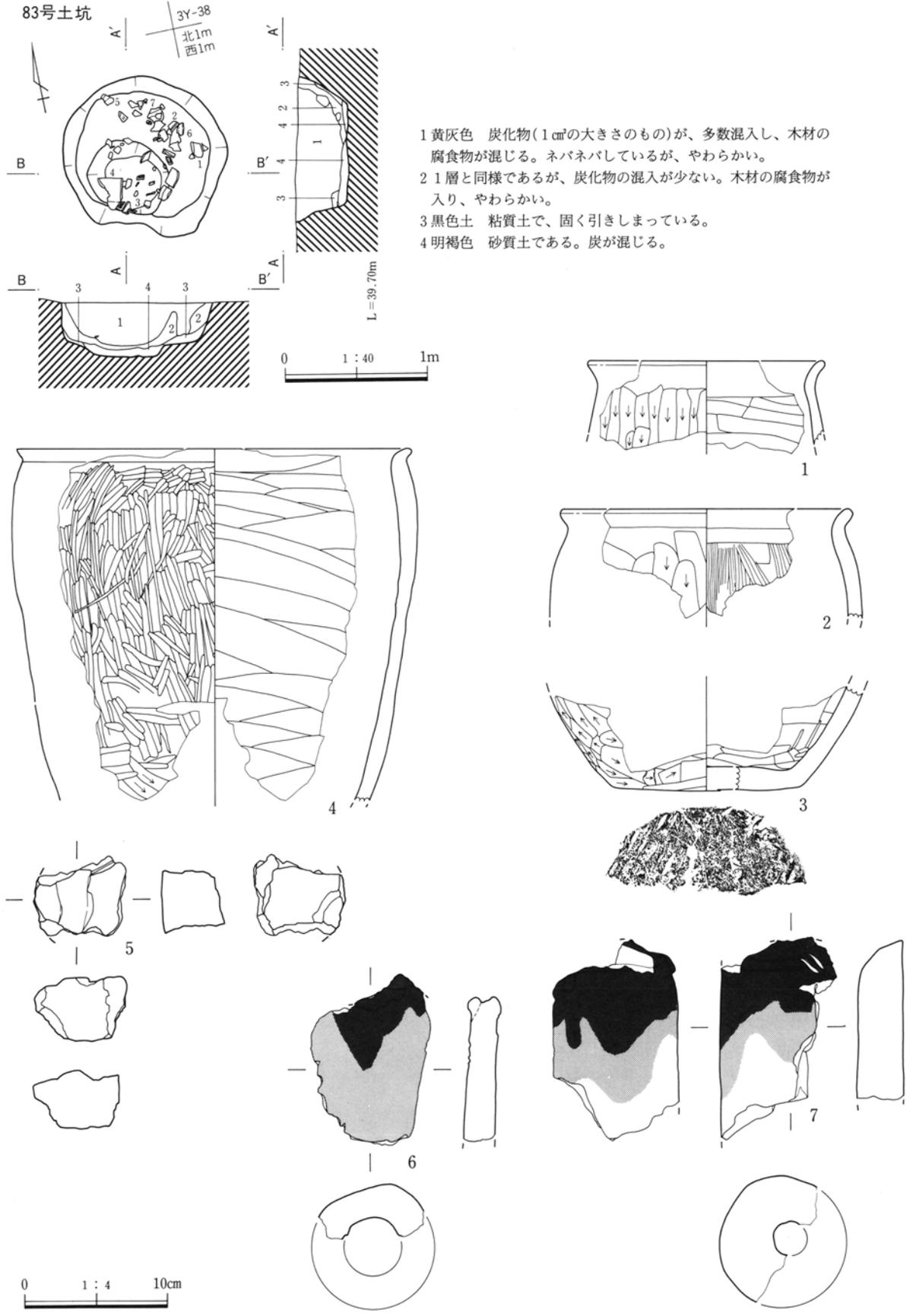
鉄滓は遺跡全体で136点、A6区では133点が出土した。このうち塊状滓は121点で、炭の噛み込みが見られないのが特徴である。なかには羽口や炉壁の粘土状物質が付着したものも含まれている。またA6区では13点の椀形滓が出土した。直径が13cmと9cmの2種類にほぼ分けられる。

炉壁とみられる粘土状物質は、A6区に76点が集中して出土した。A6区で出土した粘土状物質にはスサの入った65点とスサの入らない11点がある。前者は炉壁、後者は何らかの反応容器と推定した。

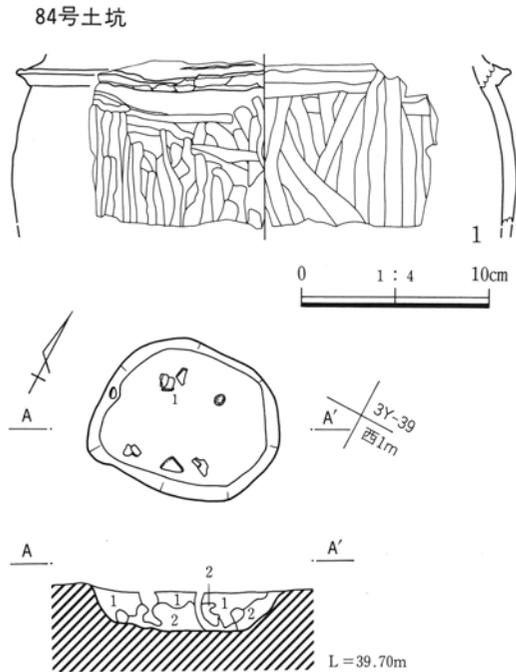
羽口は全体で49点が出土した。A6区では48点の羽口が集中して出土している。送風端の形態や内径でいくつかに分けられる。

これらの鉄生産関連遺物は外観形状を観察し、第3表のように分類した。さらに金属学的分析との総合化によって三ツ木皿沼遺跡での鉄生産活動の復元を試みた。詳細は第6章-8に記述した。

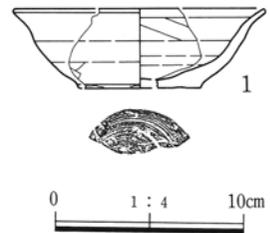
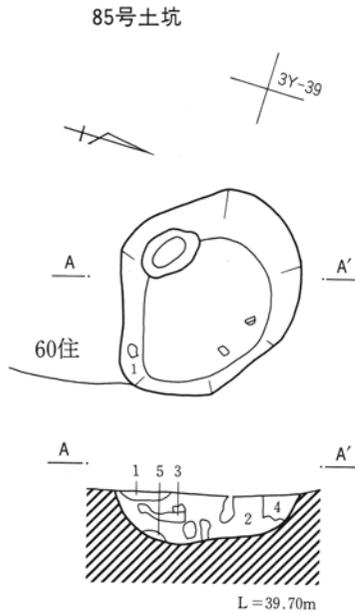
第3章 検出された遺構と遺物



第298図 83号土坑と出土遺物

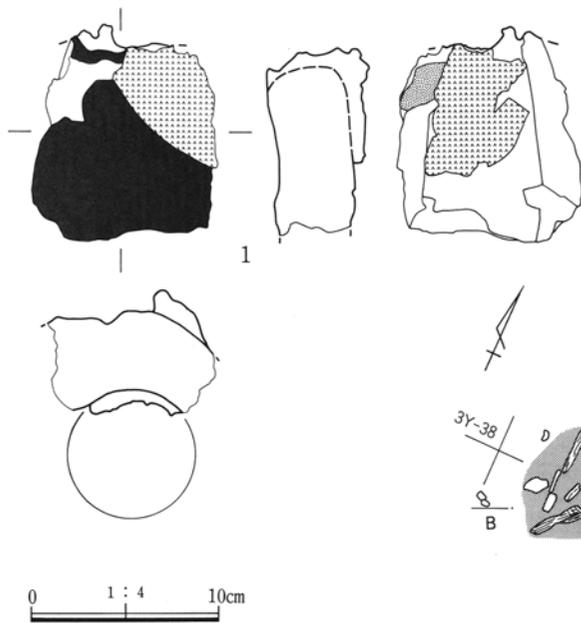


- 1 褐灰色土 炭粒、焼土粒小塊混じり。
- 2 褐灰色土 炭粒を含む。黄色シルト小塊含む。

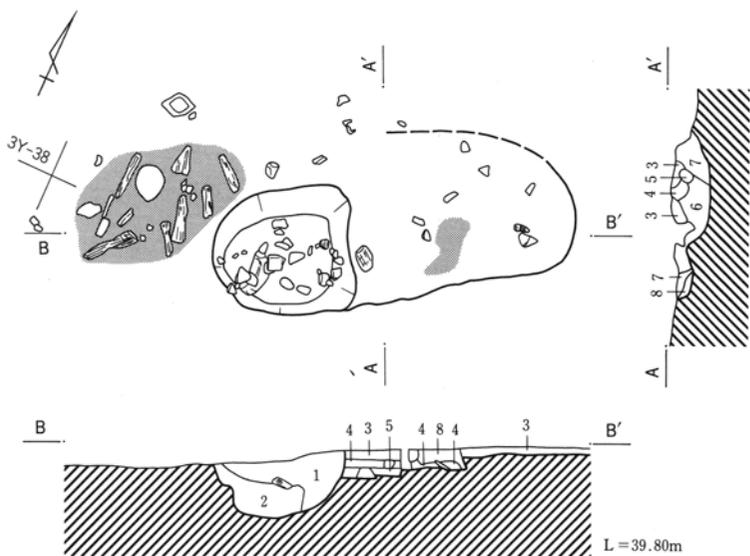


- 1 灰褐色土 黄色シルト混じり。鉄分斑鉄混じり。
- 2 灰褐色土 黄色シルト小塊、炭粒含む。やや砂質シルト。鉄分斑鉄混じり。
- 3 褐色土 炭粒僅かに含む。しまりあり。鉄分斑鉄混じり。
- 4 褐色土 暗褐色粘質土塊、焼土粒、炭粒含む。鉄分斑鉄混じり。
- 5 明黄色シルト 鉄分斑鉄混じり。

97号土坑



- 1 灰褐色土 ベタベタした粘性のある土。鉄滓、細かい炭を多く含む。
- 2 灰褐色土 ベタベタした粘性のある土。粘土粒を含む。炭φ3~5cmを含む。
- 3 明褐色土 粘土と炭が混じる。
- 4 黒色土 炭、灰粘土の混じり。
- 5 橙色土 焼土混入の多い土。
- 6 褐色土 粘土粒、焼土粒、炭化物の混入。
- 7 明褐色土 砂壤土が混入。
- 8 暗褐色土 粘土状でしまりがある。



第299図 84号・85号・97号土坑と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

第3表 三ツ木皿沼遺跡鉄生産関連遺物一覧表 \*銅含む

収納番号	種別	形態 (cm)	発掘区	出土遺構	出土遺構の時期	床面比高	挿図No.	分析No.
40-00046	粘土質物質	スサ無し・緻密・酸化	A 6区	53号住居	10世紀前葉	埋		
40-00045	鉄滓	塊状滓	A 6区	53号住居	10世紀前葉	埋		
40-00047	鉄滓	塊状滓	A 6区	66号住居	10世紀前葉	+ 6		
40-00048	粘土状物質	鉄関連でない。比熱無。	A 6区	66号住居	10世紀前葉	床面直上		
10-000816	羽口	4.0-9.0	A 6区	81号住居	10世紀前半	埋	第232図 4	
40-00049	スサ入粘土状物質	酸化	A 6区	81号住居	10世紀前半	埋		
40-00001	製品	釘	A 6区	70号住居	10世紀前半	埋	第208図 6	106
40-00002	製品	釘	A 6区	70号住居	10世紀前半	埋	第208図 5	107
40-00050	スサ入粘土状物質	酸化	A 6区	71号住居	10世紀前半	- 8		
10-000887	羽口	2.8-7.0	B 3区	97号住居	10世紀前半	+2.5	第259図10	
40-00052	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	98号住居	10世紀前半	埋		
40-00051	鉄滓	塊状滓	A 6区	98号住居	10世紀前半	+22		
40-00003	製品	刀子	A 6区	31号住居	10世紀中葉	+29.5	第139図 1	109
10-000595	羽口	4.6-8.0	A 6区	51号住居	10世紀中葉	埋	第168図22	
40-00053	鉄滓	塊状滓	A 6区	51号住居	10世紀中葉	埋		
40-00004	製品	釘	A 6区	52号住居	10世紀中葉	埋	第171図23	102
40-00005	製品	刀子	A 6区	52号住居	10世紀中葉	埋	第171図22	110
40-00054	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	52号住居	10世紀中葉	埋		
40-00006	製品	断面△棒状	A 6区	55号住居	10世紀中葉	埋	第178図 4	
10-000662	羽口	2.4-6.3	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+ 6	第181図15	
10-000660	羽口	2.6-6.9	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+ 4	第181図13	
10-000663	羽口	3.3-7.8	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+19	第181図16	
10-000661	羽口	2.7-6.2	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+10	第181図14	
10-001100	羽口	3.0-7.5	A 6区	56号住居	10世紀中葉	埋		
40-00008	製品	不明	A 6区	56号住居	10世紀中葉	床面直上	第181図12	114
40-00007	製品	不明	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+ 2	第181図11	115
40-00009	製品	不明	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+ 3	第181図10	116
40-00062	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	56号住居	10世紀中葉	- 6		
40-00064	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	56号住居	10世紀中葉	埋		
40-00063	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	56号住居	10世紀中葉	埋		
40-00065	鉄滓	椀形滓 (大型・径12~16) ・粘土状物質付着	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+25	第181図17	
40-00061	鉄滓	塊状滓	A 6区	56号住居	10世紀中葉	- 2		
40-00060	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+ 4		
40-00055	スサ入粘土状物質	酸化・スサ太い。	A 6区	56号住居	10世紀中葉	埋		
40-00057	スサ入粘土状物質	酸化・スサ太い。	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+ 3		30
40-00059	スサ入粘土状物質	接合部	A 6区	56号住居	10世紀中葉	埋		
10-000690	羽口	3.8-5.2	A 6区	62号住居	10世紀中葉	床面直上	第190図 7	
10-001102	羽口	3.0-7.0	A 6区	62号住居	10世紀中葉	- 6		
10-000691	羽口	3.2-7.9	A 6区	62号住居	10世紀中葉	- 6	第190図 8	201
10-001103	羽口	4.0-9.0	A 6区	62号住居	10世紀中葉	床面直上		
10-001104	羽口	3.5-8.0	A 6区	62号住居	10世紀中葉	+ 2		
10-000689	羽口	3.5-9.0	A 6区	62号住居	10世紀中葉	- 4	第190図 6	
40-00010	製品	不明	A 6区	62号住居	10世紀中葉	床面直上		402
40-00011	製品	不明	A 6区	62号住居	10世紀中葉	床面直上	第190図 5	401
40-00069	鉄滓	塊状滓	A 6区	62号住居	10世紀中葉	- 3		
40-00070	鉄滓	塊状滓	A 6区	62号住居	10世紀中葉	+ 3		204
40-00068	鉄滓	塊状滓	A 6区	62号住居	10世紀中葉	埋		
40-00067	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	62号住居	10世紀中葉	床面直上		
10-000734	羽口	4.0-7.1	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+30	第206図24	
10-000737	羽口	3.9-9.1	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+ 7	第206図27	
10-000736	羽口	3.8-7.8	A 6区	69号住居	10世紀中葉	- 3	第206図26	
10-000735	羽口	3.4-6.9	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+13	第206図25	
10-001108	羽口	? -7.6	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋		
40-00017	製品	不明	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋		
40-00012	製品	釘	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+ 6	第206図19	105
40-00013	製品	釘	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋	第206図20	104
40-00014	製品	釘	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+ 2	第206図21	103

第3節 古代の遺構と遺物

収納番号	種別	形態 (cm)	発掘区	出土遺構	出土遺構の時期	床面比高	挿図No	分析No
40-000016	製品	刀子	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+17	第206図22	112
40-000015	製品	刀子	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	埋	第206図23	111
40-000092	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+7		
40-000091	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+25		
40-000089	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+8		
40-000090	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+11		
40-000077	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+17		
40-000080	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+12		
40-000079	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+24		
40-000078	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	埋		
40-000082	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+22		
40-000084	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	埋	第206図28	10
40-000087	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+9		
40-000083	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	埋		
40-000081	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+7		
40-000088	鉄滓	塊状滓	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+36	第206図29	
40-000072	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	埋		
40-000076	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	埋		
40-000071	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+25		
40-000074	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+4		
40-000075	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	+12		
40-000073	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6 区	69号住居	10世紀中葉	埋		
10-001110	羽口	3.0-9.0	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	+10		
10-000775	羽口	2.4-7.2	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	床面直上	第222図 5	
10-000774	羽口	3.4-8.0	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	-11	第222図 4	
10-000776	羽口	3.1-7.9	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	-2	第222図 6	
10-001111	羽口	2.3-?	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	埋		
10-001112	羽口	?	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	埋		
40-000095	鉄滓	塊状滓	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	+5		
40-000096	鉄滓	塊状滓	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	-3		
40-000097	鉄滓	塊状滓	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	埋		
40-000098	鉄滓	塊状滓	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	-3		
40-000099	鉄滓	塊状滓	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	-2		
40-000100	鉄滓	塊状滓	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	埋		
40-000101	鉄滓	塊状滓	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	+10	第222図 2	16
40-000103	鉄滓	碗形滓 (大型・径13cm) ・粘土状物質付着	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	-5	第222図 3	
40-000102	鉄滓	塊状滓	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	+11	第222図 1	21
40-000094	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	+9		32
40-000093	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6 区	77号住居	10世紀中葉	床面直上		
40-000018	製品	刀子	A 6 区	94号住居	10世紀中葉	-2		113
10-000970	羽口	3.4-7.4	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+13	第297図 2	
10-001101	羽口	? -8.0	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+5		
40-000105	鍛造薄片		A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+9		
40-000106	鍛造薄片		A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+8		
40-000111	鉄滓	塊状滓	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+10		
40-000114	鉄滓	塊状滓	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	底面直上		
40-000109	鉄滓	塊状滓	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+6		
40-000107	鉄滓	塊状滓	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	埋		5
40-000112	鉄滓	塊状滓	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+13		
40-000113	鉄滓	塊状滓	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+6		
40-000108	鉄滓	塊状滓	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	埋		
40-000110	鉄滓	塊状滓	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+12		
40-000120	鉄滓	碗形滓 (小型・径9.3cm)	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+5	第297図 1	19
40-000116	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+10		4
40-000115	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	-2		
40-000119	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+11		
40-000117	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+10		309
40-000118	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6 区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+11		308

第3章 検出された遺構と遺物

収納番号	種別	形態 (cm)	発掘区	出土遺構	出土遺構の時期	床面比高	挿図No	分析No
40-000104	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+11		308
40-000122	粘土状物質	スサ入り?	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	埋		
40-000121	粘土状物質		A 6区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	埋		
40-000124	粘土状物質	薄片を噛み込んでいる。	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+ 4		
40-000123	粘土状物質	薄片を噛み込んでいる。	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前葉以降	+ 8		
10-000964	羽口	3.5-6.0	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 2	第293図 3	1
40-000143	鉄滓	塊状滓	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	埋		
40-000145	鉄滓	塊状滓	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	- 3		
40-000140	鉄滓	塊状滓	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	底面直上		
40-000139	鉄滓	塊状滓	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	埋		
40-000144	鉄滓	塊状滓	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	埋		
40-000141	鉄滓	塊状滓	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 3		12
40-000142	鉄滓	塊状滓	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 7		
40-000146	鉄滓	塊状滓	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 3		
40-000154	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	底面直上		
40-000153	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 3		
40-000152	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 7		
40-000155	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	底面直上		
40-000156	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 4		
40-000150	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 3		
40-000151	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 7		
40-000148	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	底面直上		
40-000149	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 5		13
40-000147	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	底面直上		
40-000157	鉄滓	碗形滓 (大型・径12cm) ・粘土状物質付着	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	底面直上	第293図 4	17
40-000158	鉄滓	碗形滓 (大型・径13cm) ・粘土状物質付着	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	底面直上	第293図 6	
40-000135	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 5		
40-000134	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 5		23
40-000137	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 6		
40-000136	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 8		301
40-000138	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 6		
40-000125	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	底面直上		
40-000126	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	底面直上		
40-000128	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	底面直上		
40-000127	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 2		
40-000130	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 6		24
40-000131	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	底面直上		
40-000129	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	+ 7		
40-000132	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	埋	第293図 5	25
40-000019	製品	針状	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	埋	第293図 2	
40-000020	製品	針状	A 6区	1号炉	10世紀前葉以降	埋	第293図 1	
10-000966	羽口	2.6-5.6	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+10	第296図 6	
10-000965	羽口	3.1-7.5	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	-13	第296図 5	
10-001113	羽口	3.2-7.6	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 5		
10-000968	羽口	4.1-7.4	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	-13	第296図 8	
10-001114	羽口	3.4-6.4	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋		
10-000969	羽口	3.7-7.4	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 8	第296図 9	
10-000967	羽口	3.5-7.5	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 5	第296図 7	
40-000192	鍛造薄片		A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋		
40-000214	薄片		A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋		
40-000204	鉄滓	塊状滓・羽口付着	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 6		
40-000193	鉄滓	羽口付着滓	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+10		
40-000207	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 9	第296図11	
40-000206	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 8		
40-000205	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+12		302
40-000210	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋		14

第3節 古代の遺構と遺物

収納番号	種別	形態 (cm)	発掘区	出土遺構	出土遺構の時期	床面比高	挿図No	分析No
40-000213	鉄滓	碗形滓 (大型・復元径13cm) ・粘土状物質付着	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 2		
			A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 6		
			A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 4		
40-000209	鉄滓	碗形滓 (大型・径13cm) ・粘土状物質付着	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋		
40-000212	鉄滓	碗形滓 (大型・径復元不可) ・粘土状物質付着	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 8		303
40-000195	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 6	第296図10	
40-000194	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 5		
40-000202	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋		
40-000203	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋		8
40-000196	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋	第296図12	2
40-000200	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 3		
40-000201	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 6		
40-000199	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋		33
40-000197	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋	第296図13	18
40-000170	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 6		
40-000171	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋		
40-000172	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 9		26
40-000173	スサ入粘土状物質	部分溶融・発泡	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 2	第295図3	306
40-000174	スサ入粘土状物質	部分溶融・羽口挿入孔	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+ 8	第294図2	
40-000175	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+3		
40-000176	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋	第295図4	307
40-000178	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+8		
40-000179	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+8		
40-000180	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+6		
40-000181	スサ入粘土状物質	部分溶融・羽口装着部	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+8	第294図1	
40-000182	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+8		305
40-000184	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+9		27 304
40-000187	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+3		
40-000188	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+4		
40-000189	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+9		29
40-000159	スサ入粘土状物質	酸化	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+7		28
40-000162	スサ入粘土状物質	酸化	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+6		
40-000163	スサ入粘土状物質	酸化	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋		
40-000166	スサ入粘土状物質	酸化	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+9		
40-000165	スサ入粘土状物質	酸化	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	+9		
40-000167	スサ入粘土状物質	酸化	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋		
40-000168	スサ入粘土状物質	発泡	A 6区	2号炉	10世紀前葉以降	埋		
40-000021	製品	針	A 6区	54号住居	10世紀後葉	埋	第176図6	101
40-000215	スサ入粘土状物質	酸化	A 6区	54号住居	10世紀後葉	埋		
40-000218	鉄滓	塊状滓	A 6区	61号住居	10世紀後葉	埋		
40-000219	粘土状物質	スサ無し。片面平ら。	A 6区	61号住居	10世紀後葉	床面直上		
40-000220	粘土状物質	スサ無し。片面平ら。	A 6区	61号住居	10世紀後葉	床面直上		
40-000217	スサ入粘土状物質	酸化・スサ太い。	A 6区	61号住居	10世紀後葉	床面直上		
40-000216	スサ入粘土状物質	酸化	A 6区	61号住居	10世紀後葉	床面直上		
40-000222	鉄滓	塊状滓	A 6区	65号住居	10世紀後葉	埋		
40-000223	鉄滓	塊状滓	A 6区	65号住居	10世紀後葉	埋		
40-000221	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	65号住居	10世紀後葉	埋		
40-000224	鉄滓	塊状滓	A 6区	73号住居	10世紀後葉	埋		
10-001109	羽口	?	A 6区	75号住居	10世紀後葉	埋		
40-000225	鉄塊	銃鉄	A 6区	75号住居	10世紀後葉	埋	第218図6	117
40-000227	鉄滓	塊状滓	A 6区	75号住居	10世紀後葉	埋		
40-000226	鉄滓	塊状滓	A 6区	75号住居	10世紀後葉	+10	第218図5	
40-000228	鉄滓	碗形滓 (小型・径9~10)	A 6区	75号住居	10世紀後葉	+5	第218図7	20
40-000229	木炭	破片	A 6区	75号住居	10世紀後葉	埋		
40-000230	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	96号住居	10世紀後葉	+25		
10-001115	羽口	3.0-9.4	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
10-000975	羽口	4.0-8.1	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋	第298図6	

第3章 検出された遺構と遺物

収納番号	種別	形態 (cm)	発掘区	出土遺構	出土遺構の時期	床面比高	挿図No	分析No
10-000976	羽口	2.4-9.0	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋	第298図7	
40-000236	鉄滓	塊状滓	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		7
40-000235	鉄滓	塊状滓	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
40-000234	鉄滓	塊状滓	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
40-000238	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋	第298図5	11
40-000240	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
40-000241	粘土状物質	発泡・砂・平ら	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
40-000232	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
40-000233	スサ入粘土状物質	部分溶融・酸化	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
40-000222	製品	刀子	A 6区	11号住居	11世紀前半	埋	第108図23	108
40-000231	鉄滓	塊状滓	A 6区	11号住居	11世紀前半	埋		
10-000447	羽口	2.4-8.5	A 6区	20号住居	11世紀前半	床面直上	第123図6	
10-001105	羽口	4.0-8.6	A 6区	64号住居	11世紀前半	+4		
10-000699	羽口	3.1-8.7	A 6区	64号住居	11世紀前半	+11	第192図4	
10-001106	羽口	?	A 6区	64号住居	11世紀前半	-3		
10-001107	羽口	?	A 6区	64号住居	11世紀前半	+9		
			A 6区	64号住居	11世紀前半	埋		
10-001117	羽口	?	A 6区	64号住居	11世紀前半	埋		
40-000244	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	+7	第193図6	
			A 6区	64号住居	11世紀前半	不明		
40-000247	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	+14		
40-000249	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	+8		
40-000254	鉄滓	塊状滓・羽口付着	A 6区	64号住居	11世紀前半	+15		
40-000245	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	埋		
40-000248	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	+9		
40-000253	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	床面直上		
40-000252	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	+10		
40-000251	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	+5	第193図5	9
40-000250	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	埋	第193図7	
40-000246	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	床面直上	第193図8	15
40-000255	鉄滓	碗形滓 (小型・径8~10)	A 6区	64号住居	11世紀前半	+4	第193図9	202
40-000242	スサ入粘土質物質	部分溶融	A 6区	64号住居	11世紀前半	+9		31
40-000243	スサ入粘土質物質	部分溶融	A 6区	64号住居	11世紀前半	+7		
40-000257	鉄滓	塊状滓	A 6区	74号住居	古代	+4		6
40-000256	スサ入粘土質物質	部分溶融	A 6区	74号住居	古代	埋		
40-000258	スサ入粘土質物質	部分溶融	A 6区	89号住居	古代	埋		
40-000023	製品	刀子	A 6区	54号土坑	古代	埋	第284図2	
40-000260	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	71号土坑	古代	埋		
40-000259	スサ入粘土質物質	部分溶融	A 6区	71号土坑	古代	埋		
40-000024	製品	不明	A 6区	75号土坑	古代	+13	第281図1	118
40-000262	鉄滓	塊状滓	A 6区	75号土坑	古代	+13		
40-000261	鉄滓	塊状滓	A 6区	75号土坑	古代	+13		
10-000942	羽口	3.5-?	A 6区	75号土坑	古代	+13	第281図2	
40-000263	鉄滓	塊状滓	A 6区	76号土坑	古代	埋		
40-000264	鉄滓	塊状滓	A 6区	76号土坑	古代	埋		
40-000265	粘土状物質	発泡	A 6区	76号土坑	古代	埋		
40-000267	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	84号土坑	古代	+5		
40-000272	不明		A 6区	97号土坑	古代	+29		
40-000268	鍛造薄片		A 6区	97号土坑	古代	+2		
40-000269	鉄滓	塊状滓・錆	A 6区	97号土坑	古代	+2		
40-000271	鉄滓	碗形滓 (小型・直径8.5)	A 6区	97号土坑	古代	+29		
40-000270	鉄滓	発泡・粘土状物質付着	A 6区	97号土坑	古代	埋		
10-000979	羽口	6.9-?	A 6区	97号土坑	古代	+19	第299図1	403
40-000029	製品	銅鍋	A 4区	107号住居	10世紀中葉		第88図13	119
40-000028	製品	不明	A 6区	126号土坑	不明	埋	第286図2	
40-000276	鉄滓	塊状滓	A 6区	126号土坑	不明	埋		
40-000279	鉄滓	塊状滓	B 3区	2号墳	不明	埋		3
40-000036	製品	不明	A 6区	3号溝	不明	+8	第322図1	

第3節 古代の遺構と遺物

収納番号	種別	形態 (cm)	発掘区	出土遺構	出土遺構の時期	床面比高	挿図No.	分析No.
40-000274	鉄滓	塊状滓	A 6 区	1001号溝	不明	底面直上		
40-000275	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6 区	1001号溝	不明	埋		
40-000273	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6 区	1001号溝	不明	埋		
40-000026	製品	鎌		表採	不明	埋	第331図22	203
40-000027	製品	不明		表採	不明	埋	第331図24	
40-000041	製品	不明	A 4 区	竪穴状遺構	不明	埋	第311図10	
40-000277	鉄滓	塊状滓	A 4 区	竪穴周辺	不明	埋	第312図12	22
40-000278	鉄滓	塊状滓	A 4 区	2V-12G	不明			
40-000030	製品	刀子	A 4 区	2W-13G	不明		第312図11	
40-000031	製品	釘	A 4 区	2XV-13G	不明			
40-000281	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6 区	表採	不明			
40-000033	製品	釘	A 6 区	3H-22G	不明		第330図32	
40-000034	製品	不明	A 6 区	3H-23G	不明			
40-000035	製品	釘	A 6 区	3I-25G	不明		第330図33	
40-000282	鉄滓	塊状滓	A 6 区	3T-35G	不明			
40-000283	鉄滓	塊状滓	A 6 区	4B-46G	不明			
10-001076	羽口	2.7-8.0	A 6 区	4E-46G	不明		第330図31	
40-000037	製品	刀子	A 6 区	4E-45・46G	不明		第330図34	
40-000038	製品	不明	A 4 区	トレンチ耕作土中	不明		第331図21	
40-000286	鉄滓	楕形滓(大型・径13.5)・粘土状物質付着	A 6 区	旧河道	不明		第328図9	
40-000285	スサ入粘土状物質	部分溶融	A 6 区	旧河道	不明			
40-000288	粘土状物質	発泡	A 6 区	旧河道	不明			
40-000039	製品	鎌	A 3 区	表採	不明			
40-000040	製品	不明	A 3 区	表採	不明			
40-000289	鉄滓	塊状滓		表採	不明			
40-000042	製品	釘		晶	不明			
40-000043	製品	不明	A 4 区	表採	不明			
40-000044	製品	釘	A 6 区	表採	不明		第331図20	
40-000290	鉄滓	塊状滓	A 7 区	表採	不明			
40-000291	粘土状物質			表採	不明			
40-000292	鉄滓	塊状滓		表採	不明			
40-000284	鉄滓	塊状滓	A 2 区	W-37G	不明			
10-001116	羽口	?		表採	不明			

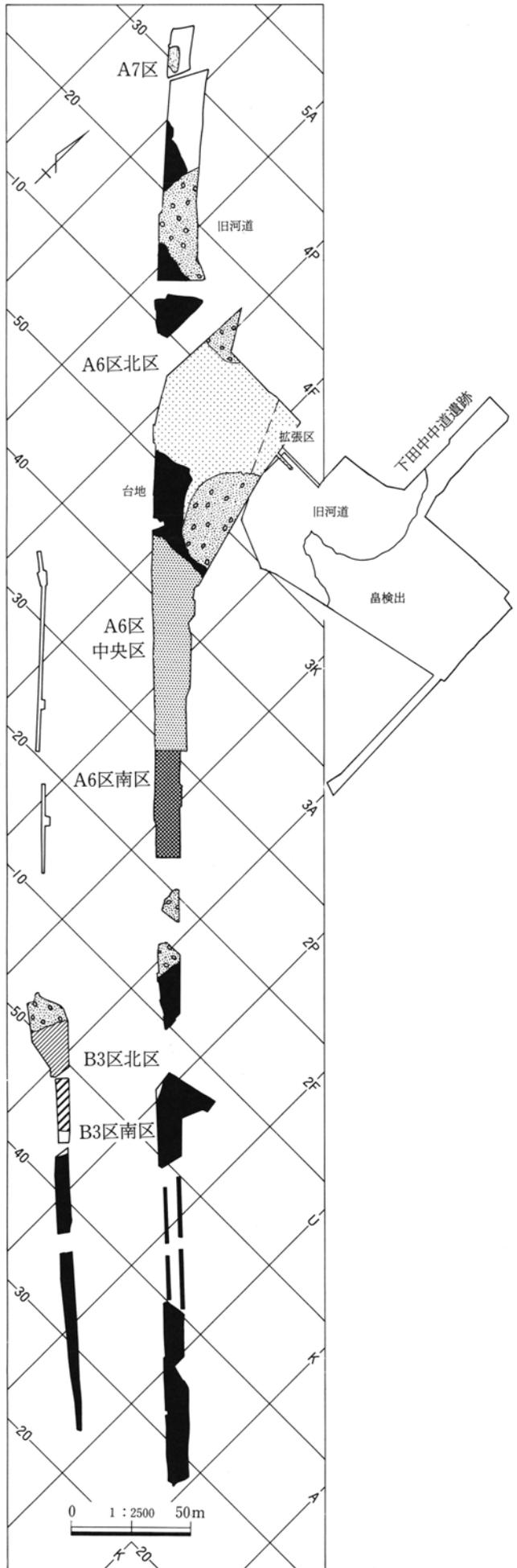
5. 畠

三ツ木皿沼遺跡の畠は低地部のほぼ全域で、早川の氾濫による洪水砂層の直下で検出された。調査は3か年に亘り、A6区・A7区・B3区の3地区で実施した。これらの畠は、用地解決に伴って細かく分断されながら、それぞれ異なる担当者によって発掘されたため、調査区間の調整が不十分にならざるを得なかった。そこで本報告書ではあえて統一の記載をせず各発掘区の観察視点をそのまま記述したい。そのため畠に関する記述や図面・写真の掲載は、原則として調査年度ごとに行うこととした。また、畠の層位の名称や、出土遺物・プラントオパール分析についても、各調査区で統一することができなかったため、同じ調査区単位で述べる。

(1) 記述の前提

畠の調査区と調査面 畠の調査区の呼称は第300図のようにした。最も北にあるA7区は単年度で調査できたので、そのままA7区とする。A6区は調査年度で3分割して調査された。調査区は北から、平成5年度調査のA6区北区、平成7年度調査のA6区中央区、平成9年度調査のA6区南区と呼称する。北東部の三角形の部分、隣接する下田中中道遺跡の調査の際に用地が未解決で調査が完了していなかった地点であるが、三ツ木皿沼遺跡の中で調査できることになった部分で、特に拡張区と呼ぶ。B3区は調査年度で2分割して調査された。平成5年度調査のB3区北区と平成9年度調査のB3区南区と呼称する。

畠の層位の名称は前述のような理由で調査区ごとの名称をそのまま使用した。また畠が重層している地区では、畠と畠の間に間層がはいっていて、作付面がそれぞれ確認できる場合と、方向の異なる畠間列が同一面で確認される場合とがある。これについては前者を「〇〇面畠」とし、後者の同じ方向の畠間列を「××群」とした。



第300図 畠検出發掘区の位置

畝周辺の地形 三ツ木皿沼遺跡の発掘区の地形は、概ね台地部・低地部・旧河道に分けることができる。(第300図) 畝は低地部のほぼ全域で検出された。

A 6 区北区の南東部には台地が削り残されていて、A 6 区中央区との境になっていた。またA 6 区北区の北部と南東部は10世紀後半以降の曲流する旧河道に切られていた。A 6 区中央部の北部も同じ旧河道で切られていた。なお、畝を埋めた洪水砂をもたらした旧河道は発掘調査では確認できなかった。

A 7 区の畝は、畝の南東側の台地から落ち込む低地部に立地している。B 3 区の畝も南東側の台地から落ち込む低地部に立地している。またB 3 区の北西部は旧河道で切られている。

この低地の原形は、出土材の放射線年代測定の結果、3300年前以降には埋積が始まっていた古い谷であることがわかっている。縄文時代から古代にかけて早川の侵食と堆積を繰り返し受けて、低地は洪水砂で埋まっていった。畝がつくられた時期には湿潤ではないある程度乾燥した低地となっていたのだろう。埋積によって高燥化したために畝がつくられるようになったと考えられる。

畝の形態と計測値 畝の発掘調査では多くの場合、上半部の耕作土を検出できずに畝間の溝下半部を列状に確認することがほとんどである。これは畝の畝の一部を確認できたにとどまり、畝の主要部分である作付面は未検出ということになる。しかし三ツ木皿沼遺跡は、畝面がそのまま洪水砂で覆われていたために畝の作付面を確認することができた数少ない遺跡の一つである

畝の形状や規模は栽培されている作物を反映しているはずである。しかし、平面図を記録する際の上幅・下幅の描画は調査担当者の感覚に任されていた。また、規模の計測も一定していないのが現状である。

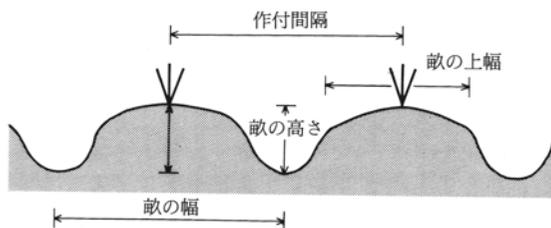
発掘された畝遺構からわかる畝の形状や規模は、作物を特定したり、耕作方法を知る上で重要な項目である。畝の幅は作付けの条やその間隔を反映しているし、畝の高さは作物の作付け深度や作物の違い

を示している可能性がある。したがって、畝の形状については断面図を示し、遺構を計測した面を明らかにして一定の計測値を掲げる必要があるだろう。

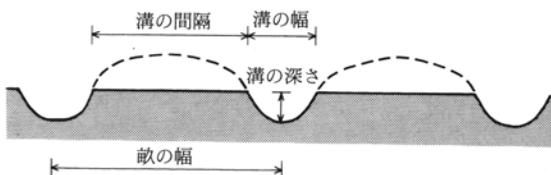
これらのことをふまえて、本報告書では畝の計測値を次のように整理した(第301図)。作付間隔は、中央に1条作付けされていた場合最も作物の生育に関係すると考えられる。これは畝間の中央と中央の間隔と等しくなることから、これを畝の幅の計測値とした。この方法にすれば、作付面が確認できない場合(第301図下)でも、畝の幅は他資料と比較可能な計測値を得ることができる。この場合、畝間の溝の幅は確認面の高さによって変動するので意味がない。

畝の高さは畝の頂部と畝間の底面の差を計測した。この値は作付面が確認できない場合は計測できない。この場合も畝間下部の深さは確認面の高さによって変動するので意味が無い。なお、畝の頂部は作付面と表記する。

作付面が検出できた場合の計測値



作付面がみつからなかった場合の一般的な計測値



第301図 畝の畝と計測値

(2) A6区北区の畝 (付図2~4 PL105~111)

A6区北区は平成5年度に調査した。A6区の最も北に位置する。ここでは、約2300㎡の範囲に6面の畝が検出された。検出した畝は上層から、最上面畝・上面畝・下面畝・拡張区最下面畝である。最上面畝と最下面畝を除く4面は作付面を洪水砂が覆った状態で検出されたが、最上面畝と最下面畝は畝間の下半部のみが検出された。すべての畝は平安時代住居より下層に堆積している砂層に挟まれてみつまっているので、住居以前の年代の畝である。

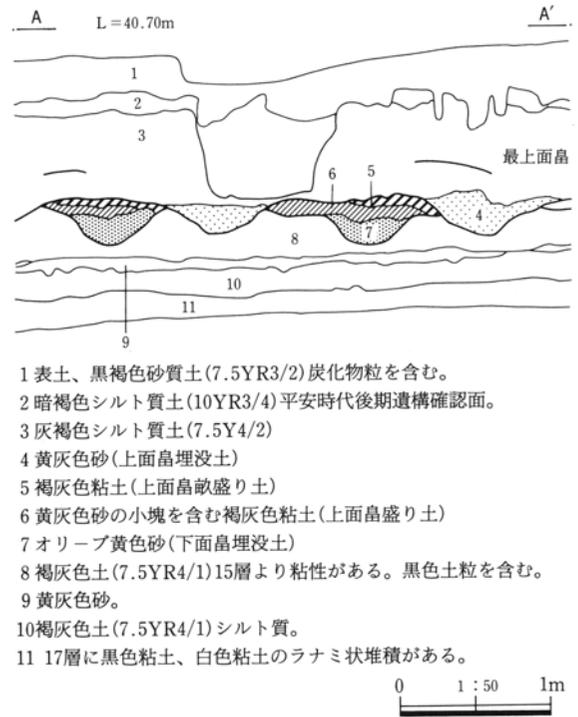
最上面畝は、後出する住居に切られている部分が多く、発掘区の全域で検出することはできなかった。わずかに西側の土層断面と、北東隅の拡張区で良好に遺存していたのみである。上面畝・下面畝は全域で検出された。最下面畝は、下位の黒色砂質土面で3群の畝間の溝列を検出した。

最上面畝 (付図2 PL105)

最上面の畝は、発掘区西側の土層断面で確認した。西側土層断面では、平安時代の住居の確認面から5~10cm下で畝を覆うような形の特徴的な白色の洪水砂が1~2mおきに薄く観察できた。

この断面にあらわれた畝の面は、北区の調査においては見逃してしまった。そこで、隣接する下田中中道遺跡で検出された畝との関係を探ることを目的とした拡張区の調査で、最上面畝の層位に留意したところ、その一部を確認することができた。しかし拡張区の調査を開始できたのは、全体の上面畝の調査が終了し、下面畝の検出に入った段階であった。そのため、拡張区では最上面畝を検出できた一方で、上面畝全体の連続した面を図化および撮影することはできなかった。

拡張区で検出された最上面畝は、遺構としては作付面を確認できなかったところもあり、畝間の溝列のみの平面図となった。後に拡張区北側土層断面を精査したところ、標高39.60m前後に畝状の凹凸が見られた。これが最上面畝の畝と畝間にあたると考え



第302図 A6区北区西壁の畝土層断面 (付図2 A-A'部分)

られた。この土層断面は畝列を斜めに横断しているため、畝の幅を表していないが、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.2mであることが確認できた。

畝の幅には2種類あり、10ライン以北は畝の幅が1.6~1.9mと広いのに対して、10ラインから南は0.7~0.9mと狭くなっている。また11ラインに近い畝間は接するように隣の畝間があり、一時期の畝でないことをうかがわせている。広い畝と狭い畝は、調査時には1時期と考えていたが、畝間の方向が1本おきに似ていることから、2時期の畝間下半部を同時に掘り上げた可能性もあると考えられる。

上面畝 (付図2 PL105~108)

上面畝はA6区北区の低地部全域で検出された。A6区北区は南に削り残された台地があり、南東隅と北西隅は蛇行する旧河道によって切られている。畝の検出面は、北から南へは緩く傾斜しているが、西から東への傾斜は4~5mの比高がある。東端の拡張区はさらに0.8m一段ほど下がる地形になっていた。

上面畝の畝はシルトで覆われていたので、作付面

を検出することができた。ただし10ラインより北部は確認面よりもう少し上位に作付面がつくられていたとみられるが、平安時代後半期の遺構調査作業に際して作付面を削りってしまったところがある。

上面畠を埋めていた洪水砂は概ね3層に分けられる。畝間の下層にはノロのような細かい粘土質の濃灰色土が溜まり、中位には灰色の砂が堆積していた。上位には灰褐色シルトが畝間と畝全体を覆うように堆積していた。この洪水砂の上層には水平に堆積する灰黄褐色シルト・暗褐色シルト層があった。この暗褐色シルト層を9世紀末以降の竪穴住居が掘り込んでいた。前述した最上面畠もこの層中で一部に確認されたことから、ともに9世紀末以前の畠ということになる。

A6区北区の上面畠には、ほぼ東西方向の畝が30～31条検出された。畝は各地点で直線的でなく湾曲していた。地形に起伏があったために、湾曲してしまったのであろう。畝の形は頂部が平坦で、畝の作付面の幅は1.0～1.3m、畝の高さは畝間の底面から0.3m、畝の幅は1.9～2.0mである。作物の痕跡がないかと作付面を精査したが、確認することはできなかった。

A6区北区の南部は台地になっていたが、この台地との比高は0.4mで、台地上まで畠は広がっていなかった。台地の北側は畝の向きと台地の裾線が一致し、東側は台地の裾から0.5mのところまで畝立てが終わっていた。

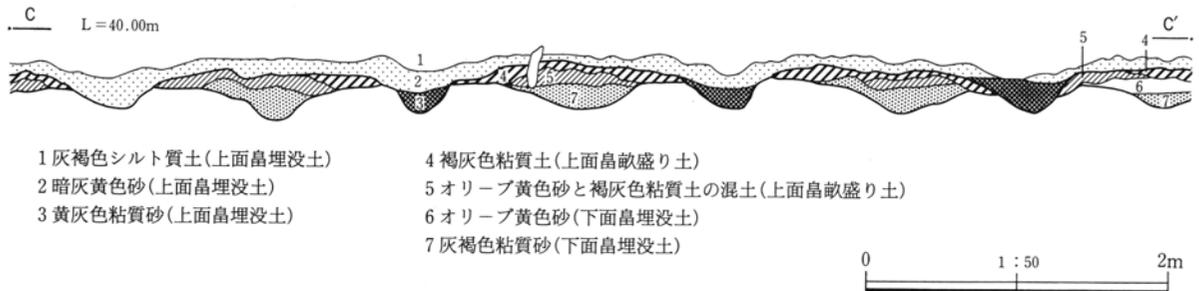
畠の中には畝間が細くとぎれているところが南北方向に3列確認できた。これは畝を横切る農作業道

になっていたと考えられる。中央の道は発掘区を北から南に縦断する長さが確認できた。左右の2列は南から発掘区ほぼ中央の5ラインあたりまでを確認することができた。

また、二股に分かれる畝が数か所にできていた。これは湾曲の向きが逆になった畝の間にできた余剰地を調節するためにつくられている。二股の畝には3つのパターンが見られた。一つは二股に分かれた畝が長くつながるもので、4J-4・10グリッドや4N-9グリッドに見られた。二つ目は入れ子状に隣の畝と絡んでいるもので、4G-3・4J-2グリッド、4F-6・4I-6グリッドの二組に見られた。もう一つは二股畝が部分的につくられている場合で、4I・4J-4グリッド、4K-6グリッド、4K～4M-7グリッド、4L-10グリッドに見られた。

発掘区内には4か所の畝の空白地帯があった。4P・4Q-6～8グリッド、4M-1グリッドは畝間が止まって、その西側につくられていないために畝が空白になっている。4E-6グリッドは畝間が止まって畝が東側につくられていない。また、4I・4J-11・12グリッドでは2.5mの間隔で畝溝がとぎれていた。これらの空白部については、現状では詳細は不明である。

一方、拡張区では上面畠に連続する層位で畠は確認できなかった。拡張区の土層断面を見ると北区西半とは若干異なっている。(第304図)上面畠の畝溝の下層を直接埋めたノロ状の堆積物は拡張区では厚くなり、低い方へ流れ込んでいた。しかし、拡張区ではこの直下で畠を検出することはできなかった。



第303図 A6区北区の畠土層断面  
(付図3 C-C'部分)

下面畠 (付図3 PL105・109・110)

下面畠もA6区北区の低地部全域で検出された。上面畠と同様に、南は台地まで畝がつくられ、南東隅と北西隅は蛇行する旧河道によって切られていた。下面畠の検出面も、北から南へ緩く傾斜し、西から東への傾斜は3~4mの比高がある。東端の拡張区はさらに一段1~2m下がる地形になっていた。一つ異なっていたのは、拡張区で畠が確認されたことである。これについては後述する。

下面畠も洪水砂が作付面を覆っていたが、その中央部は、上面畠の畝間として掘られていた。したがって調査で下面畠の畝全体を検出することはできなかった。しかし、上面畠の畝間は下面畠の畝の中央を掘っているの、畝の規模や配置を確認することは可能であった。

下面畠を埋めていた洪水砂は概ね2層に分けられる。畝間の下層にはノロのような細かい粘土質の濃灰色土が溜まり、上半には灰色シルトが作付面の端を覆うくらいまで堆積していた。

A6区北区下面畠では、ほぼ東西方向の畝が31~32条検出された。畝の列は直線的でなく、緩く湾曲していた。畝の形は頂部が平坦で、作付面の幅は1.0~1.3m、畝の高さは畝間の底面から0.15~0.25m、畝の幅は1.9~2.0mである。畝の形態や規模は基本的に上面畠と同じである。高さは作付面中央部が上面畠の畝間として掘られているので確定的でない。下面畠の畝は、地山の白色軽石を少量含む黒褐色砂質土に畝間を掘ってつくられていた。

作業道は、下面畠4Pラインの西側で1列検出することができた。二股の畝は上面畠と同じ位置にできていた。また、畝の空白地帯は、上面畠で確認されていた4か所の空白部のうち、4M-1グリッド・4E-6グリッド・4I・4J-11・12グリッドは下面畠でも畝はつくられていなかった。一方、4P・4Q-6~8グリッドでは下面畠の畝がつくられていた。

拡張区では、上面畠を埋めていたノロ状の堆積物直下では畠を確認できなかったが、下面畠を埋めて

いたノロとシルトと同じ洪水砂で埋まった畠を検出することができた。この下面畠を埋めていたノロと拡張区で検出された畠を埋めていたノロは層としては連続していないので、同じ洪水によるかどうかは、厳密には判定できないが、堆積の層層を対比すれば下面畠を埋めていたノロと拡張区の畠を埋めていたノロは同じ層位と考えられる。

拡張区で検出された下面畠は、5条の畝が検出された。畝はN-20°-Wの方向につくられており、北区の畝の方向とほぼ直交していた。拡張区の畝の作付面の幅は0.6~1.0mで、北部でやや細くなっている。畝の高さは畝間の底面から0.12~0.2m、畝の幅は1.9~2.0mである。

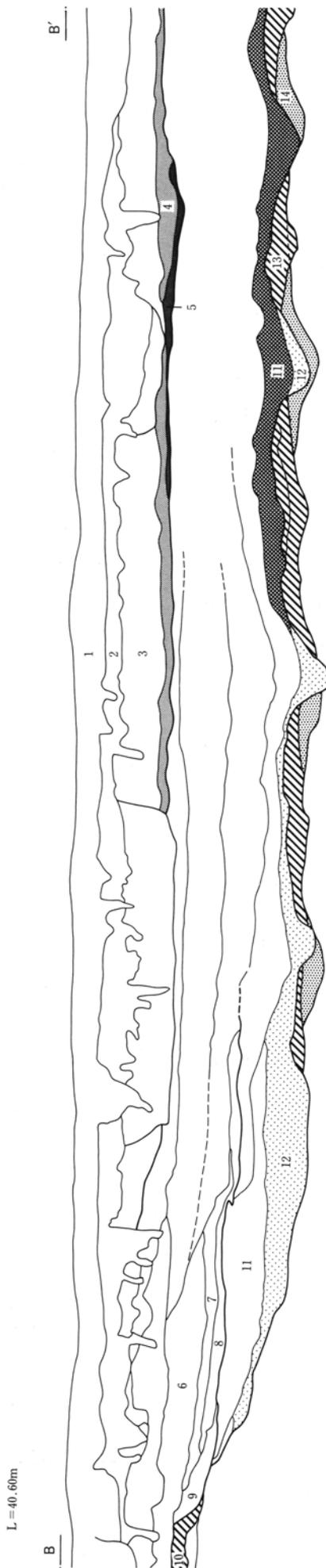
拡張区最下面畠 (付図3 PL110)

拡張区では下面畠の下層に畠を検出したが、この畠が後述するA6区北区の最下面畠と同じ面として対比できる根拠がない。この畠を覆っている砂は、拡張区のみが被災した洪水による可能性もある。したがって拡張区に限定して報告する。また、拡張区最下面畠は当初1面と考え、図化・写真撮影した。しかしその後の土層断面の精査によって2面に分けられることが判明した。ここではその上面を最下面畠1面、下面を最下面畠2面と呼ぶ。

最下面畠1、2面ともに洪水砂で覆われていたの、作付面を検出することができた。1、2面の畝は交互に並んでいる。二者の畝の幅は同じであるが、2面畠の方が、作付面の幅が広く、畝間が狭く深い。

最下面畠1面の畝は5条が検出された。この畠は拡張区西端際まで畝立てされており、限界まで土地利用している。作付面の幅は1.0~1.4m、畝の高さは畝間底面から0.15m、畝の幅は1.7~1.8mである。この畠の畝間は最下面畠2面の作付面の中央を掘ってつくられていた。

一方、最下面畠2面の畝も5条が検出された。この畠は地山の黒褐色砂質土に畝間を掘ってつくられていた。作付面の幅は1.0~1.6m、畝の高さは畝間底面から0.20~0.25m、畝の幅は1.7~1.8mである。



- 1 表土、暗褐色土(10YR3/3)砂質。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/1)シルト質。砂質土を含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR6/2)砂。
- 4 灰白色砂(5 Y7/1)最上面畠埋没土。
- 5 褐灰色粘土(10YR4/1)最上層畠埋没土。
- 6 暗灰黄色粘土(7.5Y4/2)やや粗い。(上面畠埋没土)
- 7 黄灰色粘土(2.5Y5/1)ノロ (上面畠埋没土)
- 8 黄灰色粘土(2.5Y6/1)ノロ (上面畠埋没土)
- 9 10層の崩落土。西区画上层畠埋没土。
- 10 上面畠の盛り土。
- 11 オリーブ黄色砂(5Y6/3)(下面畠埋没土)
- 12 灰褐色粘土(7.5YR6/2)(下面畠埋没土)
- 13 拡張区下面畠の盛り土。
- 14 灰黄褐色砂(10YR5/2)(拡張区最下面畠埋没土)



第304図 A6区北壁の畠土層断面  
(付図3 B-B'部分)

L = 40.60m

最下面畠 (付図4 PL110)

A 6 区北区最下面畠は方向の異なる畝間下部の溝列である。これらの溝列は、8世紀後半および9世紀初頭と考えられる住居とともに黒色砂質土上面で検出された。上層の畠はいずれも洪水砂に覆われていたために作付面まで保存されていたが、最下面畠は溝状の畝間下部しか確認できなかった。

上層の下面畠調査後、下位の遺構の有無を確認するために地山の黒褐色土にトレンチ調査をおこなった。この時点で畠の畝を覆うテフラや洪水砂などの鍵層を確認できなかったため、0.4~0.7m下位の黒色砂質土面まで掘り下げることにした。

後に北側土層断面を精査したところ、畝間に隣接する位置に黒色土塊を混じる褐灰色土が堆積していた。これが畠の畝の可能性があったかもしれない。しかし、この土層の上位にある褐灰色土を掘り下げ

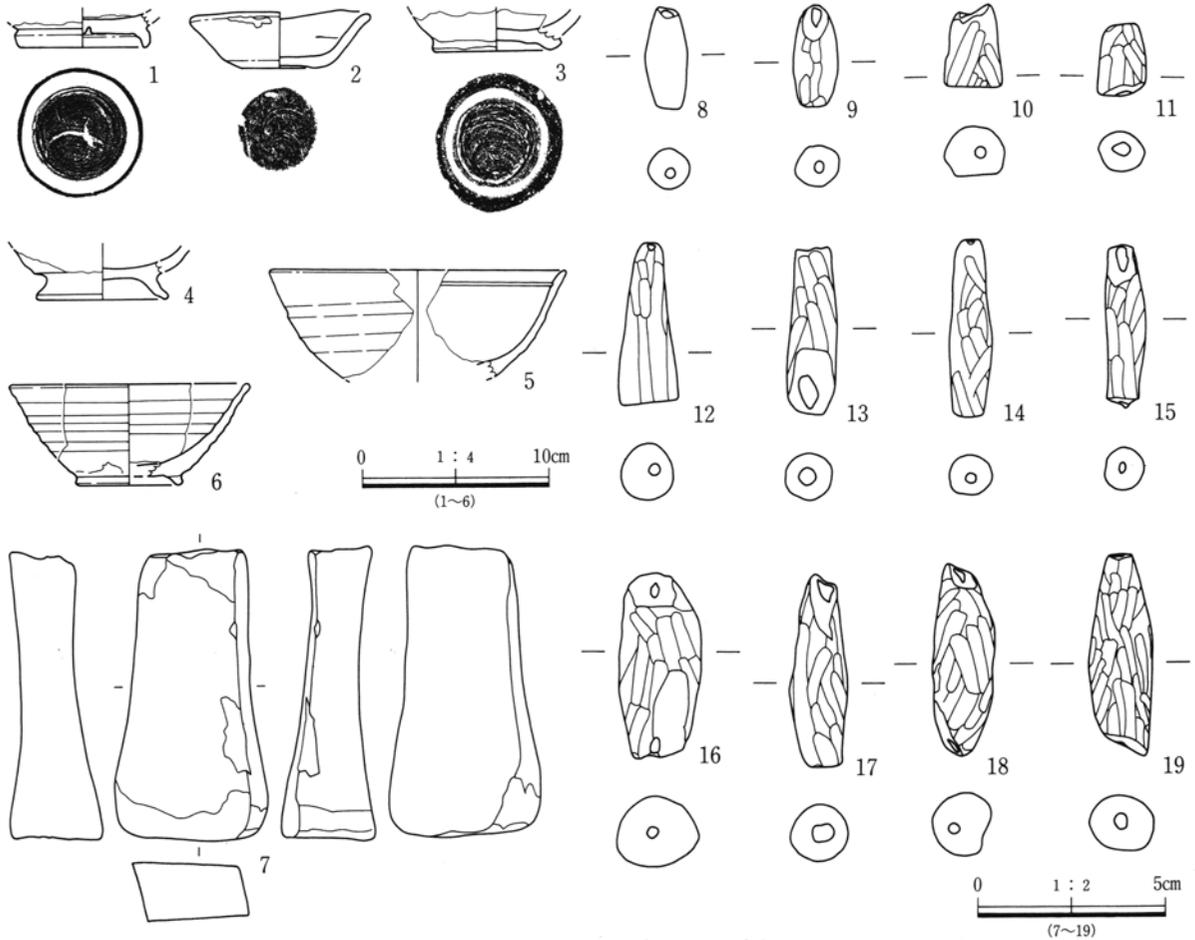
る際に畝の列を認識することはできなかった。

畝間下部の溝群は溝の方向や間隔の違いで3群に分けられた。それぞれは平行あるいは斜行して重なっているため3時期の畠を表していることになる。しかし畝間を埋めていたのはいずれの溝もノロが溜まったような灰白色の粘質土で、新旧関係を明瞭に判断することはできなかった。

1群は4K~4O-9~12グリッドに広がる長短12条の畝間下部の溝列で、N-58°-Eに傾いている。最長13.2mが調査できた。規模は溝幅0.20~0.35m、深さ0.1m、畝の幅は1.1~1.7mである。

2群は4N~4O-4~10グリッドに連なる長短16条の畝間下部の溝列で、N-75°-Eに傾く。最長12.5mが調査できた。規模は溝幅0.20~0.30m、深さ0.12m、畝の幅は1.1~2.0mである。

3群は4L・4M-4・5グリッドで検出された長



第305図 A 6 区北区畠の出土遺物

短7条の畝間下部の溝列で、N-68°-Eに傾いていた。最長0.4mが調査できた。規模は溝幅0.2~0.26m、深さ0.08m、畝の幅は1.60~2.2mであった。

1群と2群は傾きは異なるが、畝間の規模や間隔が似ている。特に狭い方の溝の間隔は、上層にあった上面畝と下面畝の隣接する畝間の間隔とほぼ同じである。

#### A6区北区の出土遺物と畝の時期

(PL171・172 遺物観察表P.393・394)

第305図にA6区北区の畝から出土した遺物を示した。1~5の土師器・須恵器、7の砥石は上面畝の作付面と洪水砂で埋まった畝間の縞模様を確認する作業中に畝上層から出土した。いずれも畝の上層にあった住居(9~10世紀代)の時期のもので、畝より新しい遺物である。8の土錘は下面畝調査中に畝間を埋めていた洪水砂中から出土した。6の須恵器塚、9~19の土錘は下面畝の耕作土中から出土した。

特に6の須恵器塚はその出土状況から、確実に畝が耕されていた時期あるいはそれ以前の遺物と考えられる。土器の時期は、直線的に開く口縁部や高台の特徴から9世紀後半ころと見られる。上面畝の上層につくられた住居のうち最も古いのは9世紀末の住居であった。また下面畝の下層で検出された住居のうち最も新しいのは9世紀初頭の住居であった。畝の年代は上下の遺構の存在時期から9世紀初頭から9世紀末の間に限定される。6の須恵器塚はこの間に入り、矛盾しない。

#### A6区北区畝のプラントオパール分析

A6区北区では、10か所の地点で合計65点の試料を採取し、プラントオパール分析をおこなった。分析の詳細な報告は第5章に掲載した。

分析した試料のうち、最上面畝では5点すべて、上面畝では20点中19点、下面畝では15点中12点、拡張区最下面畝では7点中3点にイネのプラントオパールが検出された。したがって三ツ木皿沼遺跡の低

地部に立地した畝でつくられていた作物のひとつには陸稲があったことがわかる。

また、A6区北区では畝より下位の土層から16点中6点からイネのプラントオパールが検出されている。この土層は榛名二ツ岳火山灰(Hr-FA)や浅間C軽石(As-C)を含む層準で、いずれも古墳時代の土層と考えられる。これらの土層でプラントオパールが検出されたことは、水田か畝かは明らかでないが、ここで古墳時代に稲作がおこなわれていたことを示唆する。

#### (3) A6区中央区の畝(付図5~7 PL112~115)

A6区中央区は平成7年度に調査した。A6区の中央に位置する。A6区中央区では、1200m<sup>2</sup>の範囲に2~5面の畝が検出された。A6区北区とは隣接するが、直接連続する畝を確認することができなかった。A6区北区とは、間にある台地の東側でわずかに低地部がつながる部分があった。しかし、畝より新しい早川の旧河道によってちょうどこの部分が削られていたために、畝の連続を確認することができなかった。したがってA6区北区とA6区中央区の畝を埋めた洪水層の厳密な対比は行えなかった。

A6区中央区で検出した畝は上層から、1面畝・2面畝・3面畝・4面畝・5面畝である。これらの畝も北区と同様に、平安時代住居より下層に堆積している洪水砂層に挟まれて検出されたので、それ以前の年代の畝である。1面、2面畝は上層の住居の掘り込みが著しく畝間の下半部しか検出されなかったが、3面~5面畝は洪水砂が作付面を覆った状態で検出された。

調査工程の都合により、A6区中央区はさらに北と南に2分割して調査を進めた。ここではそれぞれを中央区北半、中央区南半と呼ぶ。写真撮影は調査工程にそって中央区南半・中央区北半を分けて撮影した。図面も2区に分割して航空測量を実施し、同じ面を合成した。

1・2面畠（付図5 PL112）

A6区中央区は台地に近い北西が高く、南にやや傾斜した地形になっている。A6区中央区北半は上層の住居の重複が著しく調査が手間取ったため中央区南半から畠の調査に入った。

中央区南半では、住居確認面より0.2m下位で1・2面畠の畠間下部の溝列を確認した。当初は畠が2面あることを認識できずに、一括して掘り下げ、図化・撮影した。後の土層断面の精査によれば、狭い範囲の畠の方が古い2面畠で、北西に畠間溝が長くなった方の畠が新しい1面畠である。この長さの違いは畠間溝1本おきになっており、畠の方向が同じ2時期の畠を示している。この様相はA6区北区で見た上面畠と下面畠の关系到良く似ている。

畠を埋めた土層を中央の土層断面G-G'でみると、最上層から一定間隔で落ち込んでいるU字形の断面が見られる。これは土層断面位置では確認できていない1面畠の畠間と考えられる。とすれば、その下位の3層で埋まった畠間が2面畠である。

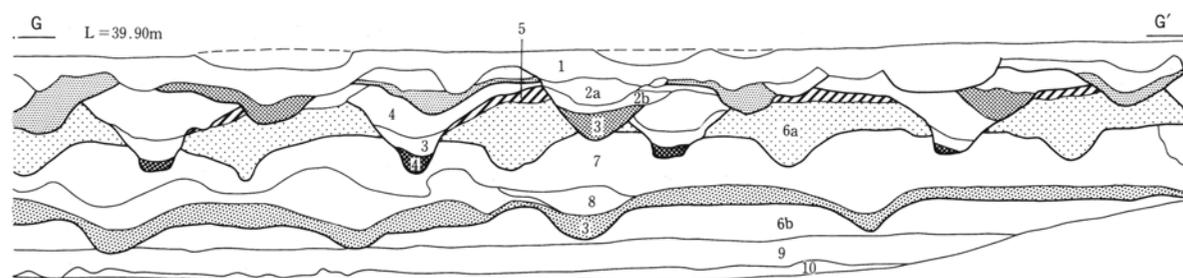
しかし畠間溝を埋めていたのは、1面・2面とも下層に灰褐色のシルト、上層に褐灰色の砂質土という似た土であったことから、確認面で新旧関係を明瞭に判断することはできなかった。

1面畠の畠間は3N~3T-30~34グリッドに広がる長短9条の畠間下部の溝群で、ほぼN-17°-Wに傾いている。最長15mほどが調査できた。規模は溝幅0.4~0.5m、深さ0.08~0.15m、畠の幅は1.9mであった。1面畠の畠は土層断面G-G'（第306図）でも明らかなように作付面が削平されているので、畠の高さは不明である。

2面畠の畠間は3N~3Y-30~38グリッドに広がる13条の畠間下部の溝群が検出できた。南半分は1面畠と同じN-17°-Wに傾くが、北半はN-27°-Wと西にやや方向を変え、北端は北に湾曲する。最長33mが調査できた。規模は溝幅0.2~0.3m、深さ0.3m、畠の幅は0.7mであった。土層断面から推定すると、2面畠の畠の高さは溝底から作付面まで0.2mほどである。

3P・3Q-32~34グリッドに2面畠の畠から北に分かれる2条の畠間が検出されている。これについては別の時期の畠間と考えられるが、2面畠との新旧関係等を調査で確認することはできなかった。

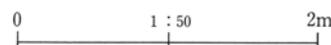
中央区北半は、住居群の確認面とほぼ同じ面かやや下がる層位で、3単位の畠間を検出した。北の1・2群は散在的で畠間の痕跡が部分的に残ったものと見られる。3群はややまとまって畠間下部の溝群



- 1 褐灰色土 灰色シルトを主とし、細砂混じり。
- 2 a 褐灰色土 砂質土。1層と逆。
- 2 b 褐灰色土 灰色シルトに白色微砂塊を多く含み、細砂が混じる。
- 3 灰褐色シルト 粘性強く、上層に白色微砂が見られる。
- 4 オリーブ褐細砂層 部分的に1mm前後の白色パミスを含む。
- 5 灰褐色土 3層の乾いたような砂。
- 6 a 浅黄色 細砂。

- 6 b 浅黄色 暗く、白色軽石(φ1mm前後)を含む。
- 7 灰オリーブ 砂質土。小礫を含む。
- 8 暗灰褐色土 砂と1~3mmの白色軽石が混じる。ザラついた層。
- 9 上層灰色。下層白色粘質土。
- 10 砂層。

第306図 A6区中央区の畠土層断面  
(付図5 G-G'部分)



が検出されたが、1本おきに間隔が変わる溝列の様相は、A6区北区で検出された上面畠と下面畠の関係に似ており、同様な耕作方法がとられていたことを推定させる。これらの中央区北半の畝間下部溝群と中央南区の1・2面畠は、ともに平安時代の住居群の下層に検出されており、ほぼ同層位の遺構面と考えられるが、直接の土層の対比はできなかった。

1群は3Y・4A-44・45グリッドにあった2条の畝間下部の溝群で、N-76°-Wに傾いている。最長5.0mが調査できた。規模は溝幅0.3~0.4m、深さ0.15~0.4m、畝の幅は1.9mであった。

2群は3Y-42グリッドにある3条の畝間下部の溝群で、N-18°-Wに傾く。最長4.5mが調査できた。規模は溝幅0.3m、深さ0.13m、畝の幅は0.7mであった。

3群は3Y~4C-39~41グリッドに広がる長短10条の畝間下部の溝群で、N-53°-Eに傾いていた。最長7.5mが調査できた。規模は溝幅0.3~0.8m、深さ0.1~0.3m、畝の幅は1.1mあるいは0.4~0.7mであった。

3群の北西部には、1本おきに長さに違いのある畝間下部溝群があった。土層断面G-G'(第306図)対応させると、短い方の畝間が広い畝間の間を掘っていることがわかる。したがって短い方の畝が新しくつくられた畠と考えられる。

また、ここでは同じ間隔で並んでいる一時期の畝と考えられる場合でも、溝幅に広いもの(0.8m)と狭いもの(0.3m)の差が顕著であった。しかし畝の幅は1.55~1.6mで一定している。これは本来の畝間に形態差があるか、遺構確認面の高低差によると考えられる。畠は水田と違い、必ずしも水平ではない。その土地の起伏のままに畝立てしている。したがって、畝や畝間をどの層位で確認しているかは常に留意しなければならない。

### 3面畠 (付図6 PL113・114)

3面畠はA6区中央区の低地部全域で検出された。A6区中央区の北端にはA6区北区から続く台地が

ある。3面畠はその台地裾部まで畝立てされていたが、西側の一部(4C~4E-41~43グリッド)に畝立てがされていない楕円形の凹地が検出された。台地裾に畝立てされない何らかの施設があったと考えられるが、調査ではこの凹地の性格を知ることはできなかった。

畠の検出面は、北のローム台地裾部はやや低く、南へだんだん高くなり、中央付近が最も高くなって南半はまたやや低くなっている。このように少し起伏があるが、比高1m以内に収まる緩やかな起伏である。

3面畠を埋めていた洪水砂は概ね3層に分けられる。畝間の下層にはオリブ褐色細砂層が溜まり、中位には灰褐色シルトが堆積していた。上位には再びオリブ褐色細砂層が畝間と作付面を覆うように堆積していた。

中央区3面畠では、畝の方向が違う3区画が検出された。

最も北にある区画は幅15m、長さ35mの範囲に20条の畝が検出された。畝の方向はほぼN-83°-Eであるが、西端は南に、東端は北へ地形に則して湾曲していた。この区画は平安時代の住居が重複していたので、作付面が削平されていた。したがって畝の形は不明であるが、頂部が平坦な形と推定される。畝間の間隔は確認面で1.0~1.3m、畝の高さは不明であるが確認面から畝間の底面まで0.1~0.3、畝の幅は1.4および1.9mである。

最も北の畝の西端は前述した楕円形凹地の東側でとぎれていた。二股になった畝も2か所に見られた。

中央の区画は幅15m、長さ25mの範囲に10条の畝と畝間が検出された。畝の方向はN-26°-Wであった。ここでは、畝の上部まで細砂で覆われていたので、作付面を検出することができた。しかし上位の2面畠の畝間が掘り込んでいて壊されていたところもある。土層断面G-G'(第306図)を見ると、畝の断面形は頂部に丸みがある。作付面の幅は0.9~1.2m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.4~0.55m、畝の幅は1.5~2.2mである。

### 第3章 検出された遺構と遺物

南の区画は幅15m、長さ13mの範囲に8条の畝間を検出した。畝の方向はN-65°~72°-Eである。ここでも、作付面まで細砂で覆われていたので、作付面を検出することができた。しかし2面の方向の異なる畝間と交差して重複していた。土層断面G-G'(第306図)を見ると、畝の断面形は頂部が平坦である。作付面の幅は1.2~1.5m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.35~0.4m、畝の幅は1.8mである。

畝の方向が違う3区画の境には、目立った施設は見られなかった。それぞれの畝間の端は接するようにして立ち上がっていた。

#### 4面畠(付図7 PL114・115)

4面畠もA6区中央区の低地部全域で検出された。ほぼ3面畠と同じの範囲である。また、3面畠に見られた畝の方向が違う3つの区画は4面畠にも同様に検出された。

4面畠を埋めていた洪水堆積物は浅黄色のシルトおよび細砂である。この堆積物の特徴は3つの区画に共通する。洪水堆積物の対比はむずかしいが、堆積物の類似と堆積物層の連続からこの3区画が同じ面と考えられる。

最も北にある区画は幅15m、長さ35mの範囲に20条の畝と21条の畝間溝が検出された。北区画は平安時代の住居との重複が著しく、畠の検出面がやや下位に下がったので、作付面が削平されていた。また上位の3面畠の畝間の掘り込みが他のところより広く4面畠の遺存状態はあまり良くない。

畝の方向は3面と同様で、ほぼN-83°-Eであるが、西端は南に、東端は北へ湾曲していた。畝の形態は土層断面から、頂部が平坦な形と推定される。作付面の幅はほぼ0.9m、畝間の幅は0.8~1.1m、深さは0.25~0.35m、畝の幅は1.8~2.0mである。

3X-39・40グリッドで畝が検出されないのは上層の平安時代の遺構が深かったためである。また、4面畠でも最も北の畝の西端は楕円形凹地の東側でとぎれていた。二股の畝も2か所に見られた。

中央の区画は幅15m、長さ25mの範囲に9条の畝と畝間溝が検出された。畝の方向は3面畠と同様にN-26°-Wである。ここでは、浅黄色の細砂が畝の上部まで厚く堆積していたので、作付面を検出することができた。土層断面G-G'(第306図)を見ると、畝の断面形は頂部が平坦な形である。作付面の幅は1.1~1.3m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.15~0.25m、畝の幅は1.7mである。

4面畠には北の区画と中央の区画との境に10cm前後の明瞭な段が検出された。南西側も3面畠にはなかった落ち込みが確認できたが、詳細は不明である。

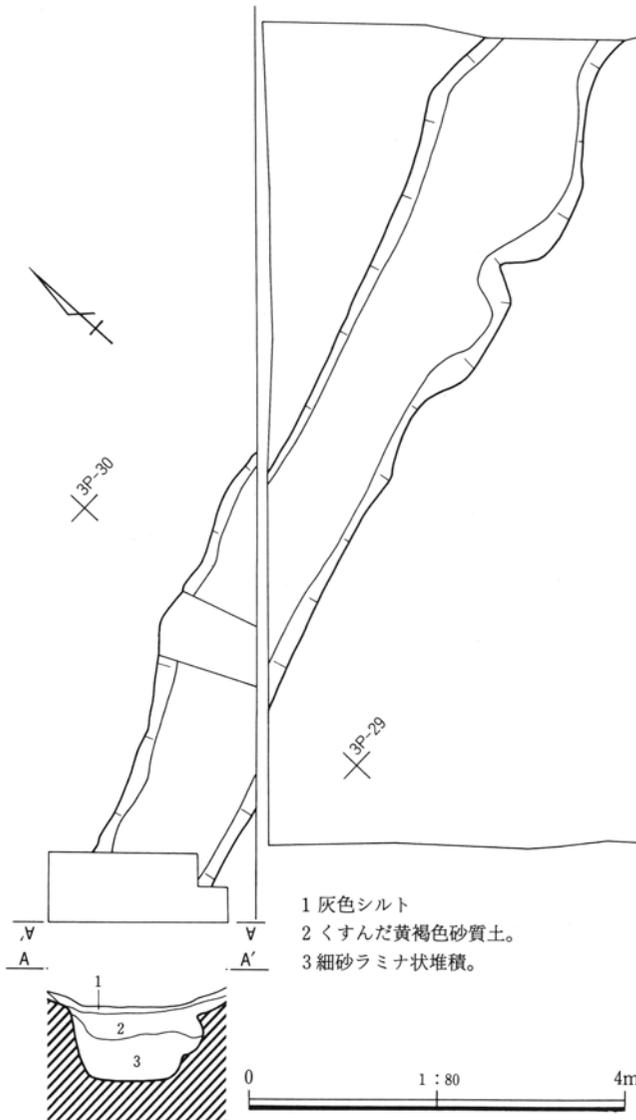
南の区画は幅15m、長さ13mの範囲に7条の畝間溝を検出した。畝の方向は3面と同様でほぼN-65°~72°-Eである。ここでも、作付面の上部まで浅黄色細砂で覆われていたので、作付面を検出することができた。土層断面G-G'(第306図)を見ると、畝の断面形は頂部が平坦である。作付面の幅は1.0~1.8m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.15~0.2m、畝の幅は1.8および2.5mである。中央の区画との境は、T字形に畝間溝がつながって検出された。

4面畠の畝は黒みがかった灰オリーブ砂質土でつくられている。下位には一部で5面畠を検出しているが、4面畠の間にはこの砂質土が0.4mも堆積している。この土は、畠耕作土と砂が形成されたとみられる。また土層断面G-G'(第306図)を見ても5面畠の畝の中央に畝間を掘った痕跡は残っていない。これらのことから、4面畠は5面畠埋没後、そのままある期間耕作が継続された段階で洪水に埋まったと考えられる。

また、4面では発掘区南端の3O・3P-29グリッドで6号溝を検出した。6号溝の走向は、4面畠の畝の方向と一致するとともに、同じ細砂で埋まっていたことから4面畠に伴う溝の可能性が高い。畠に伴うと確定できる唯一の溝である。溝のなかには細砂のラミナ状堆積が残っていた。この溝の東の延長は、後述するA6区南区の北端に確認された。

5面畠（付図7 PL115）

5面畠は3R～3U-35～37グリッドで検出された。4条の畝間を図化したのが、その広がりや記録できなかった。畝はほぼ直線的で、方向はN-43°-Wである。畝の直上が灰褐色シルトで覆われていたのので、作付面を検出することができた。土層断面G-G'（第306図）を見ると、畝の断面形は頂部が平坦な形である。作付面の幅は0.8～1.0m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.15～0.3m、畝の幅は1.8mである。



第307図 6号溝

A6区中央区畠のプラントオパール分析

A6区中央区では、2カ所で合計10点の試料を採取し、プラントオパール分析をおこなった。分析の詳細な報告は第5章に掲載した。

分析した試料のうち、2面畠および3面畠の試料にイネのプラントオパールが検出された。したがって中央区でも低地部の畠で陸稲栽培がおこなわれていたことが判明した。

また、畠より下位の土層から4点の試料を採取し、プラントオパール分析をおこなったが、4点中2点の試料にイネのプラントオパールが検出されている。この土層は榛名二ツ岳火山灰(Hr-FA)や浅間C軽石(As-C)を含む層準で、いずれも古墳時代の土層と考えられる。これらの土層でプラントオパールが検出されたことは、水田か畠かは明らかでないが、ここで古墳時代にも稲作がおこなわれていたことを示唆する。

A6区中央区の出土遺物と畠の時期

(PL171・172 遺物観察表P.394)

A6区北区では、4面畠耕作土中から須恵器杯（第308図1）、5面耕作土から土師器甕（2）、砥石（3）が出土した。1の須恵器杯は畠の上層にあった平安時代の住居の時期のもので、畠より新しい遺物である。2の土師器甕は頸部のコの字形がやや崩れた形態を示しているので9世紀後半から10世紀頃の土器で、畠の耕作時に伴う遺物と考えられるものである。



第308図 A6区中央区畠の出土遺物

(4) A6区南区の畠 (付図8・9 PL116)

A6区南区は平成9年度に調査した。A6区の南部に位置する。A6区南区では、320㎡の範囲に2面の畠が検出された。検出した畠は上層から、I面畠・II面畠である。I面畠は上層の平安時代住居の調査の際に削りとった部分があり、作付面は検出できなかった。II面畠は畠を茶褐色砂が覆っていたので作付面を検出することができた。いずれの畠も平安時代住居の確認面より下位の層位にあり、畠の年代は洪水砂堆積以前である。しかし本区で洪水砂を切つてつくられた最も古い住居は10世紀中葉の99号住居である。この洪水砂がA6区北区や中央区と同じ層と考えれば9世紀後半まで洪水砂堆積の年代をあげて考えることができるが、A6区中央区との土層対比や遺構の連続については資料がない。

なお、南区ではプラントオパール分析は実施しなかった。

I面畠 (付図8 PL116)

A6区南区のI面畠は、方向の異なる3つの畠間下半部の溝列が調査できた。

1群は3H・3J-26~30グリッドで検出した5条の畠間下半部溝列で、N-8°-Wに傾いている。最長13mが調査できた。規模は溝幅0.4~0.6m、深さ0.05~0.15m、畠の幅は1.7および2.3mであった。

2群は3I・3J-24~26グリッドにある5条の畠間下半部溝列で、N-72°-Eに傾く。最長5.8mが調査できた。規模は溝幅0.5~0.7m、深さ0.05~0.24m、畠の幅は2.3mであった。

3群は3G・3H-22グリッドに1条のみ検出された畠間下半部溝列で、N-21°-Wに傾いていた。4.2mが調査できた。規模は溝幅0.25m、深さ0.08~0.13mであった。

これらの溝群は同一遺構面であると確定できないが、平安時代の遺構面よりやや下位で検出できる畠としてより近い層位が想定できる。また、1群はや

や空白部があってA6区中央区の南端とつながる。このI面畠の層位では6号溝はまだ確認されなかった。畝間の走向と確認面のレベルから推定すれば、中央区の1・2面畠のどちらかが南区I面の畠と連続することが想定できる。

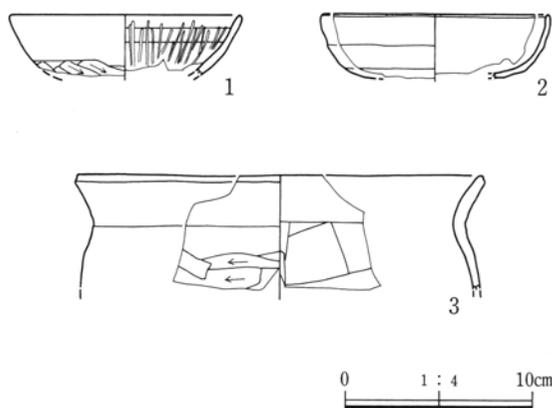
II面畠 (付図9 PL116)

A6区南区のII面畠は、ほぼ全域で検出された。畠面は北西部が最も高く、南東部へ緩やかに傾斜していた。

畝は幅8m、長さ43mの範囲に13条の畝と14条の畝間を検出した。畝の方向はN-10°-Wである。土層断面M-M'(付図8)を見ると、畝の断面形は頂部が平坦な形である。作付面の幅は1.1~1.5m、畝の高さは土層断面から0.1~0.28mである。畝の幅は2.0~2.3mである。

3N・3O-29グリッドでは、A6区中央区の南端で検出された4面畠に伴う6号溝の延長が検出できた。畝方向を変える区画の境につくられた溝であり、重要である。同じ面で6号溝を確認したことから、A6区南区のII面畠はA6区中央区4面畠と対比できると考えられる。

3O-28、3N-29グリッドには、畝間の間に短く1本ずつ溝が検出された。これは本来畝のところに畝間が検出されたもので、A6区北区の上面畠と下面畠、中央区の3面畠・4面畠の関係に似ている。



第309図 A6区南区畠の出土遺物

南区も同様の作業がおこなわれたとすれば、土層断面M-M'(付図9)に現れた畝間の上層に畝間は確認できないことから、この短い畝間の方が古い畠の畝間と推定される。

A6区南区の出土遺物と畠の時期

(PL171・172 遺物観察表P.395)

A6区南区では、畠の耕作土中から第309図のような土器が出土した。いずれも8~9世紀の遺物で、畠の耕作時期かそれ以前の土器と思われる。

A6区北区の最下面畠の畝間は、8世紀末の住居とともに確認されているが、住居と畠の関係は不明である。三ツ木皿沼遺跡の畠の耕作開始時期はよくわかっていないが、A6区南区出土の土器はそれに関わる遺物とも考えられよう。

(5) A7区の畠 (付図10 PL116)

A7区は平成9年度に調査した。A6区の北方に位置し、早川に最も近い調査区である。A7区では、低地部に長短5条の畝間が検出されたが、溝の下半部の列が残っているだけであった。畠の検出面は表土直下である。A7区では上層に平安時代の住居等は検出されていないので、畠の年代は不明である。また他の低地部の発掘区との土層対比は、間に地形が分断されているのでできなかった。なお、A7区ではプラントオパール分析は実施しなかった。

畝間下半部の溝は5N・5O-29~31グリッドで検出した5条で、このうち4条はN-21°-Wに、1条はN-40°-Wに傾いている。最長6.5mが調査できた。規模は溝幅0.4~0.6m、深さ不明、畝の幅は1.2mであった。1条だけ方向の違う溝は幅1.2m、長さ0.7mであった。

(6) B3区の畝 (付図11 PL116)

B3区はA6区南区の南西部に位置する。平成5年度に調査したB3区北区と、平成9年度に調査したB3区南区に分けられる。畝は低地部で検出されたが、B3区北区の北西側は旧河道で切られている。南区は北西部から畝が続き、南東部は台地へ上がっていく斜面になっていた。台地のすぐ北西側は凹地になっており、南東斜面は畝立てされていた。

両地区合わせて320m<sup>2</sup>の範囲に、1面の畝が検出された。両地区は最大5m離れているが、両端の畝間の標高はどちらも39.0mで傾斜も連続すると考えられることから、両地区で検出された畝は同一面と考えられる。

畝の検出面は表土下の砂層中であり、にぶい黄褐色砂で覆われていたので作付面を検出することができた。ここでは平安時代の遺構がなかったため、平安時代の遺構との層位的関係は不明である。

B3区北区の畝 (付図11 PL116)

B3区北区では幅15m、長さ22mの範囲に11条の畝と13条の畝間を検出した。畝の方向はほぼN-45°-Eで、北西側の畝はやや北に湾曲していた。畝の走向は、ほぼ中央で南西と北東に二分する位置で少しずれており、耕作単位が異なっていたことが推定される。

本区では作付面を検出することができたが、現代のゴボウ耕作による掘り込みが畝まで達して遺存状態は良くなかった。畝は灰黄褐色シルトを掘り込んでつくられていた。畝の形状には2種類がある。

一つは土層断面O-O'(付図11)に現れた畝で、断面形は頂部が平坦な形である。この土層断面周辺の作付面の幅は1.0~1.5m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.15~0.2m、畝の幅は2.2mである。

もう一つは、2Y-48~50グリッド、3A-49・50グリッドにある4条の畝である。この畝の断面形は頂部が丸みをもっており畝の幅は0.5~0.7m、畝の高さは畝頂から畝間の底面まで0.3~0.35m、畝の幅は

1.9mである。

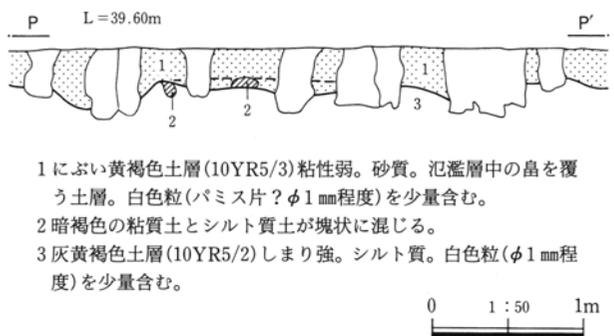
一方、3A-48グリッドや3C-49・50グリッドには他より狭い間隔で畝間がつくられているところがあった。これらをよく見ると、畝間底面の高さは1つおきに異なっていた。これは広い畝の中央に別の畝間が掘られていることによる。3C-49・50グリッドの畝間を土層断面N-N'(第310図)で見ると、ちょうどこの位置に含むにぶい黄褐色砂が畝上に部分的に確認されている。この状況はA6区北区や中央区で検出した畝土層断面と同じであり、B3区の暗褐色粘質土のブロックを含む洪水砂をのせていた畝間は下位の古い畝の畝間である可能性が高い。しかし、この下位の畝はB3区北区全域に広がってはいなかった。

B3区南区の畝 (付図11 PL116)

B3区北区では幅3.5m、長さ33mの範囲に6条の畝と6条の畝間、それとほぼ直交する方向の1条の畝と2条の畝間を検出した。畝はほぼ直線的である。

畝間の溝は黄褐色砂質土で埋まり、上層に白色砂が堆積していた。畝の上部は黒色砂で覆われていたので、作付面を検出することができた。

北にある畝はほぼN-52°-Eの方向で、断面形は頂部が平坦な形である。作付面の幅は1.0~1.3m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.17~0.3mである。畝の幅は1.8~2.0mである。



- 1 にぶい黄褐色土層(10YR5/3)粘性弱。砂質。氾濫層中の畝を覆う土層。白色粒(パミス片?φ1mm程度)を少量含む。
- 2 暗褐色の粘質土とシルト質土が塊状に混じる。
- 3 灰黄褐色土層(10YR5/2)しまり強。シルト質。白色粒(φ1mm程度)を少量含む。

第310図 B3区北区の畝土層断面 (付図10 N-N'部分)

南の畝はN-45°-Wの方向で、南東向き斜面に直交する位置にあった。この畝の断面形は頂部が平坦で、作付面の幅は1.0~1.2m、畝の高さはデータがなく不明である。畝の幅は1.5mである。

石(As-C)を含む層準で、いずれも古墳時代の土層と考えられる。これらの土層でプラントオパールが検出されたことは、水田か畝かは明らかでないが、B3区低地部でも古墳時代に稲作がおこなわれていたことを示唆する。

B3区のプラントオパール分析

B3区は、北区の3か所で合計22点の試料を採取し、プラントオパール分析をおこなった。分析の詳細な報告は第5章に掲載した。

分析した試料のうち、平安時代の畝で採取した試料17点中12点の試料にイネのプラントオパールが検出された。したがってB3区でも低地部の畝で平安時代に陸稲栽培がおこなわれていたことがわかった。

また、畝より下位の土層から5点の試料を採取し、プラントオパール分析をおこなったが、5点中2点の試料にイネのプラントオパールが検出されている。この土層は榛名二ツ岳火山灰(Hr-FA)や浅間C軽

第4表 畝計測表

区	面	群	作付面が検出された畝			畝の幅		作付面が検出されなかった畝			
			畝の形態	作付面の幅	畝の高さ			畝間下半部溝の幅	畝間下半部溝の深さ	畝間下半部溝の間隔	
A6区北区	最上面畝					2.5	2.3	0.4~0.7	0.08~0.20	1.6~1.9	0.7~0.9
A6区北区	上面畝		頂部が平坦	1.0~1.3	0.3	1.9~2.0					
A6区北区	下面畝		頂部が平坦	1.0~1.3	0.15~0.25	1.9~2.0					
拡張区	下面畝		頂部が平坦	0.6~1.0	0.12~0.20	1.9~2.0					
拡張区	最下面畝1面		頂部が平坦	1.0~1.4	0.15	1.7~1.8					
拡張区	最下面畝2面		頂部が平坦	1.0~1.6	0.20~0.25	1.7~1.8					
A6区北区	最下面畝	1群				1.1	1.7	0.20~0.35	0.1	1.7	0.8
A6区北区	最下面畝	2群				1.1	2.0	0.20~0.30	0.12	1.7	0.8
A6区北区	最下面畝	3群				1.6	2.2	0.20~0.26	0.08	0.95	0.33
A6区中央区	1面南半					1.9		0.40~0.50	0.08~0.15	1.4~1.7	
A6区中央区	2面南半				(0.2)	0.7		0.20~0.30	0.3	1.4~1.6	
A6区中央区	1・2面北半	1群				1.9		0.30~0.40	0.15~0.40		
A6区中央区	1・2面北半	2群				0.7		0.3	0.13		
A6区中央区	1・2面北半	3群				1.1	0.4~0.7	0.30~0.80	0.10~0.30		
A6区中央区	3面北区画					1.4	1.9	0.5~0.9	0.1~0.3	1.0~1.3	
A6区中央区	3面中央区画		頂部に丸みがある	0.9~1.2	0.4~0.55	1.5	2.2				
A6区中央区	3面南区画		頂部が平坦	1.2~1.5	0.35~0.4	1.8					
A6区中央区	4面北区画		頂部が平坦			1.8~2.0		0.8~1.10	0.25~0.35	0.9	
A6区中央区	4面中央区画		頂部が平坦	1.1~1.3	0.15~0.25	1.7					
A6区中央区	4面南区		頂部が平坦	1.0~1.8	0.15~0.20	1.8	2.5				
A6区中央区	5面		頂部が平坦	0.8~1.0	0.15~0.30	1.8					
A6区南区	I面	1群				1.7	2.3	0.40~0.60	0.05~0.15	1.2~1.8	
A6区南区	I面	2群				2.3		0.50~0.70	0.05~0.24	1.7~1.9	
A6区南区	I面	3群				...		0.25	0.08~0.13	...	
A6区南区	II面		頂部が平坦	1.1~1.5	0.10~0.28	2.0	2.3				
A7区						1.2		0.40~0.60	...	0.6	
B3区	北区		頂部が平坦	1.0~1.5	0.15~0.20	2.2					
B3区	北区		頂部に丸みがある	0.5~0.7	0.3~0.35	1.9					
B3区	南区	1群	頂部が平坦	1.0~1.3	0.17~0.30	1.8	2.0				
B3区	南区	2群	頂部が平坦	1.0~1.2	?	1.5					

### 第4節 近世と時期不明の遺構

三ツ木皿沼遺跡では近世の遺構が少数検出された。A2区には石製骨蔵器が出土した土坑が検出された。A4区には竪穴状遺構が検出され、陶器・磁器や軟質陶器が多量に出土した。出土状態からは廃棄穴と考えられる。

また、各調査区で溝が検出されたが、これらの大半は時期が不明であるので、本章で一括して報告する。遺跡南東部の台地上で検出された溝は、隣接して発掘調査された小角田前遺跡(上武道路)で検出し

た溝につながる例も確認された。(付図1)

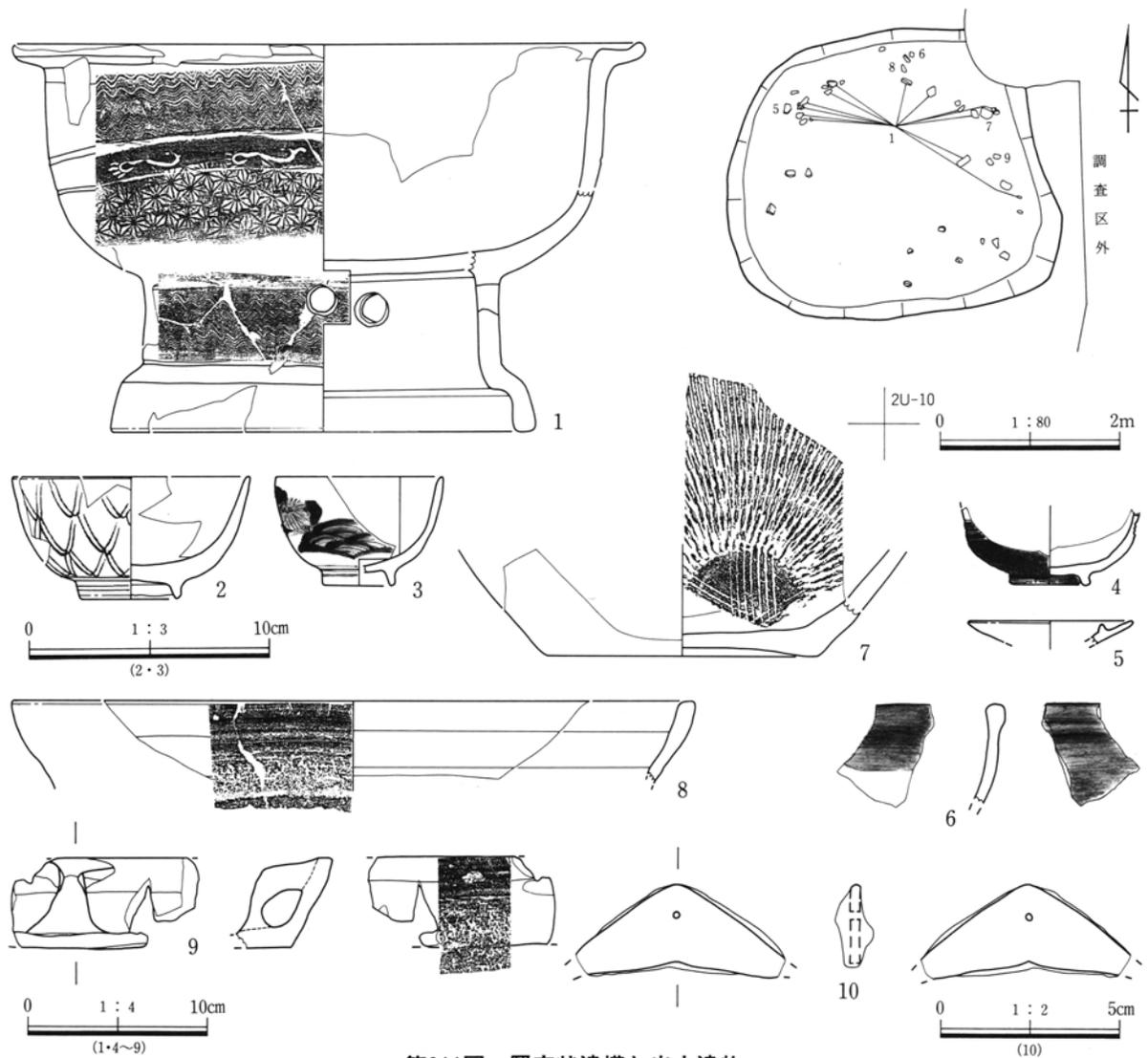
また10世紀後半または中世より新しいと考えられる旧河道が埋まってから掘られた溝も検出された。

#### 1. 竪穴状遺構及びその周辺

(第311～313図 PL117・172・173 遺物観察表P. )

竪穴状遺構はA4区の南東隅で検出された。平面形は東西方向に長軸をもつ隅丸方形で、規模は長軸3.7m、短軸3.2mである。破損した器類の廃棄坑と考えられる。

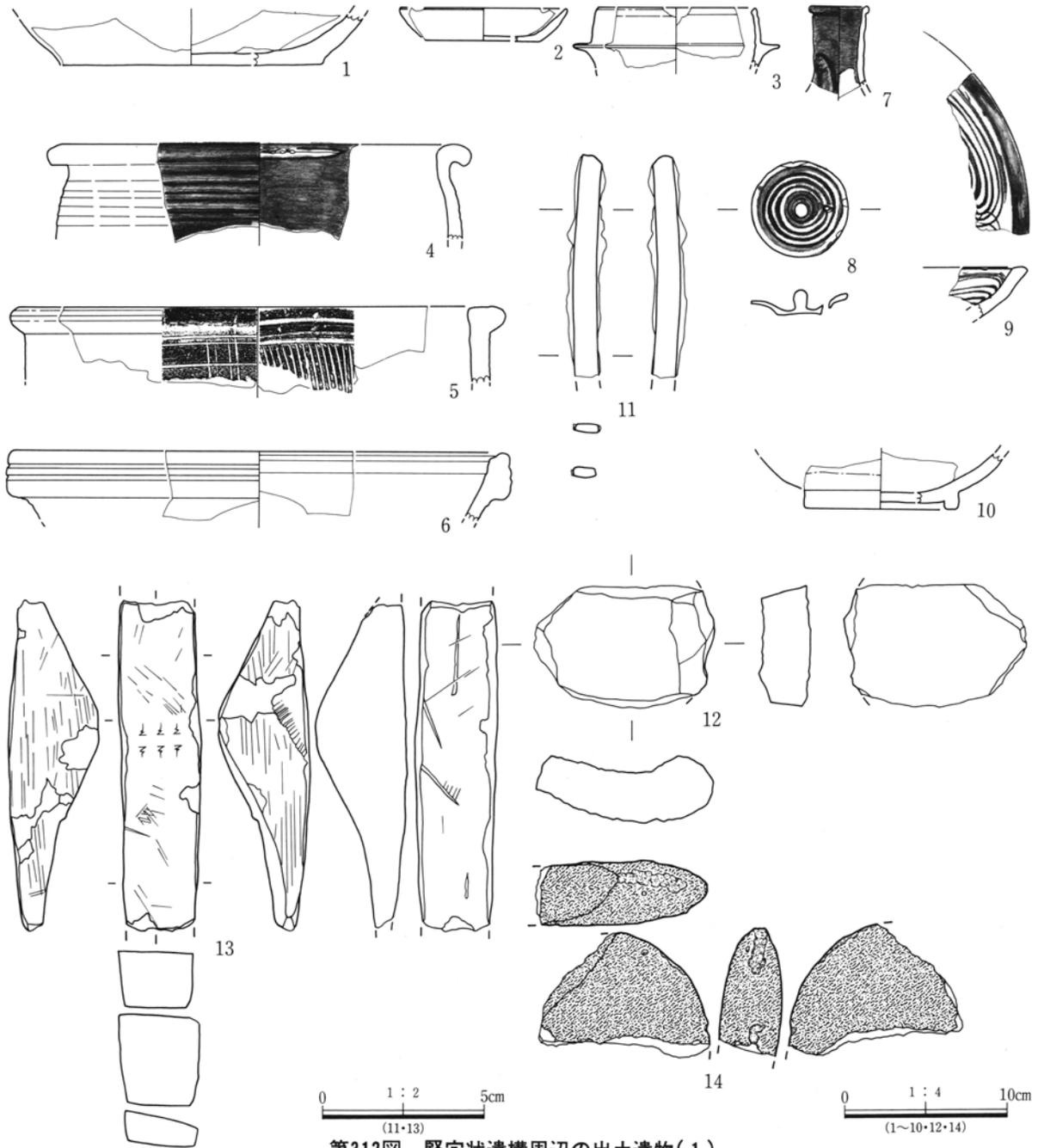
竪穴状遺構からは18・19世紀と見られる陶磁器類



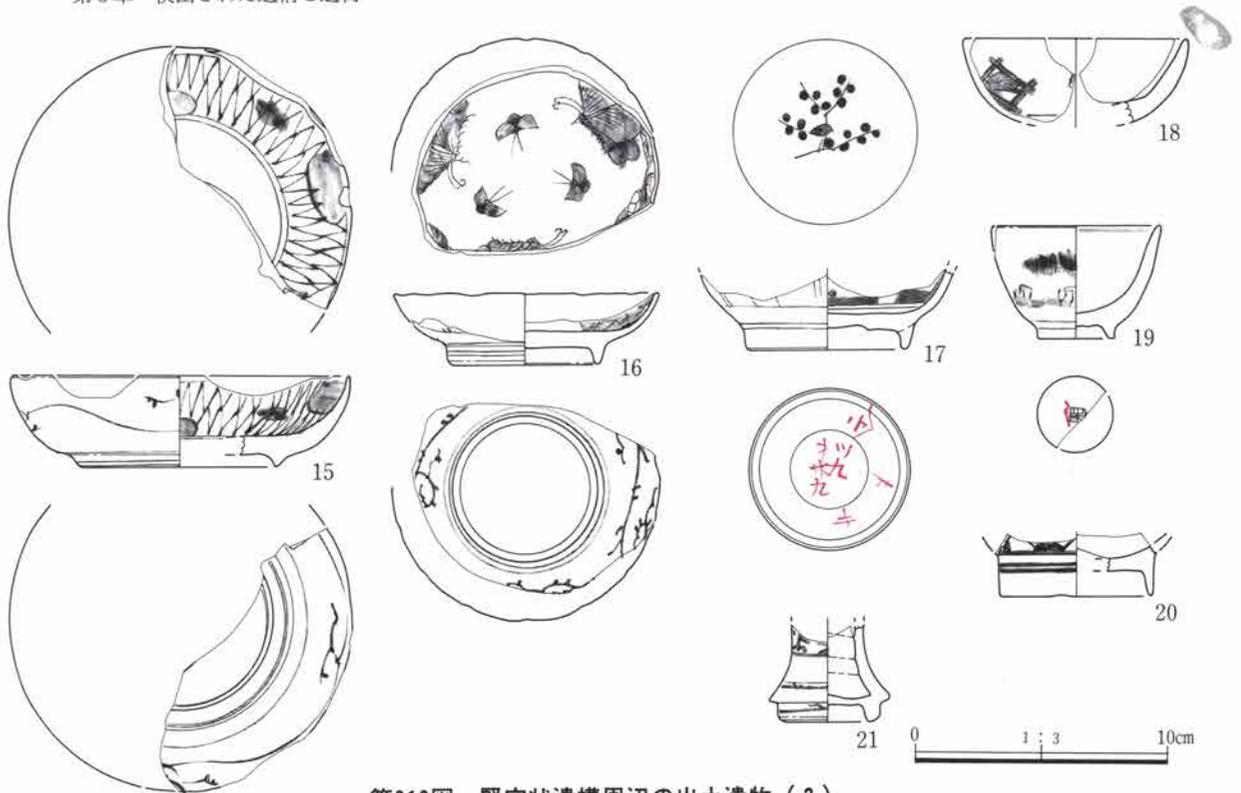
第311図 竪穴状遺構と出土遺物

が多量に出土した。特に第311図1に示した軟質陶器火鉢は竪穴に投げ捨てられて割れたように散乱して出土したがほぼ完形に復元された。他の陶器・時期は破損した状態で出土し、破片遺物が多い。すべてを図示していないが、磁器6点、陶器21点、軟質陶器29点等が出土している。

A4区竪穴状遺構の周囲からは、表土掘削後の以降確認作業時に多量の陶磁器類が出土した。第312・313図に示したのはその一部である。時期は18・19世紀のものが中心で、竪穴状遺構の時期とも対応する。17の染付磁器向付けには底外面に和数字が焼き付けられている。揃い物の記号と考えられる。



第312図 竪穴状遺構周辺の出土遺物(1)



第313図 竪穴状遺構周辺の出土遺物（2）

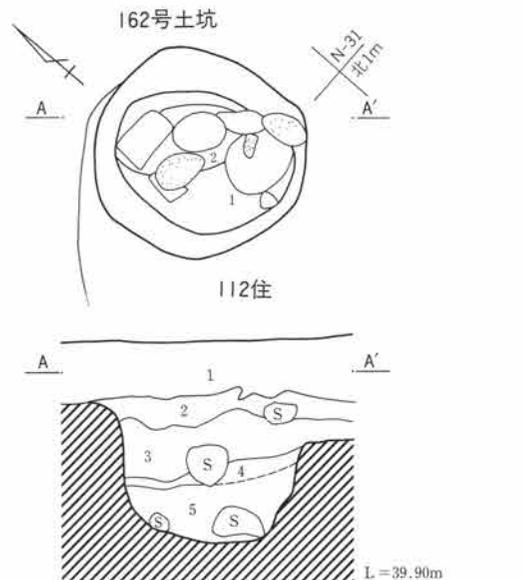
2. 土坑 (第314・315図 PL117・174 遺物観察表P.395)

A 2 区の N-31 グリッドで円形の土坑を検出した。6 世紀中葉の 112 号住居と北西隅で重複する。出土した骨蔵器からは近世の土坑と考えられる。

規模は直径 1.10m、深さ 0.81m で、断面形は U の字形に近い。埋没土の下半部は緻密な堆積の粘性のある黒色土であったが、上半部は堆積が脆弱な粘性の無い黒色土や黒褐色土で埋まっていた。浅間 B テフラは確認されなかった。

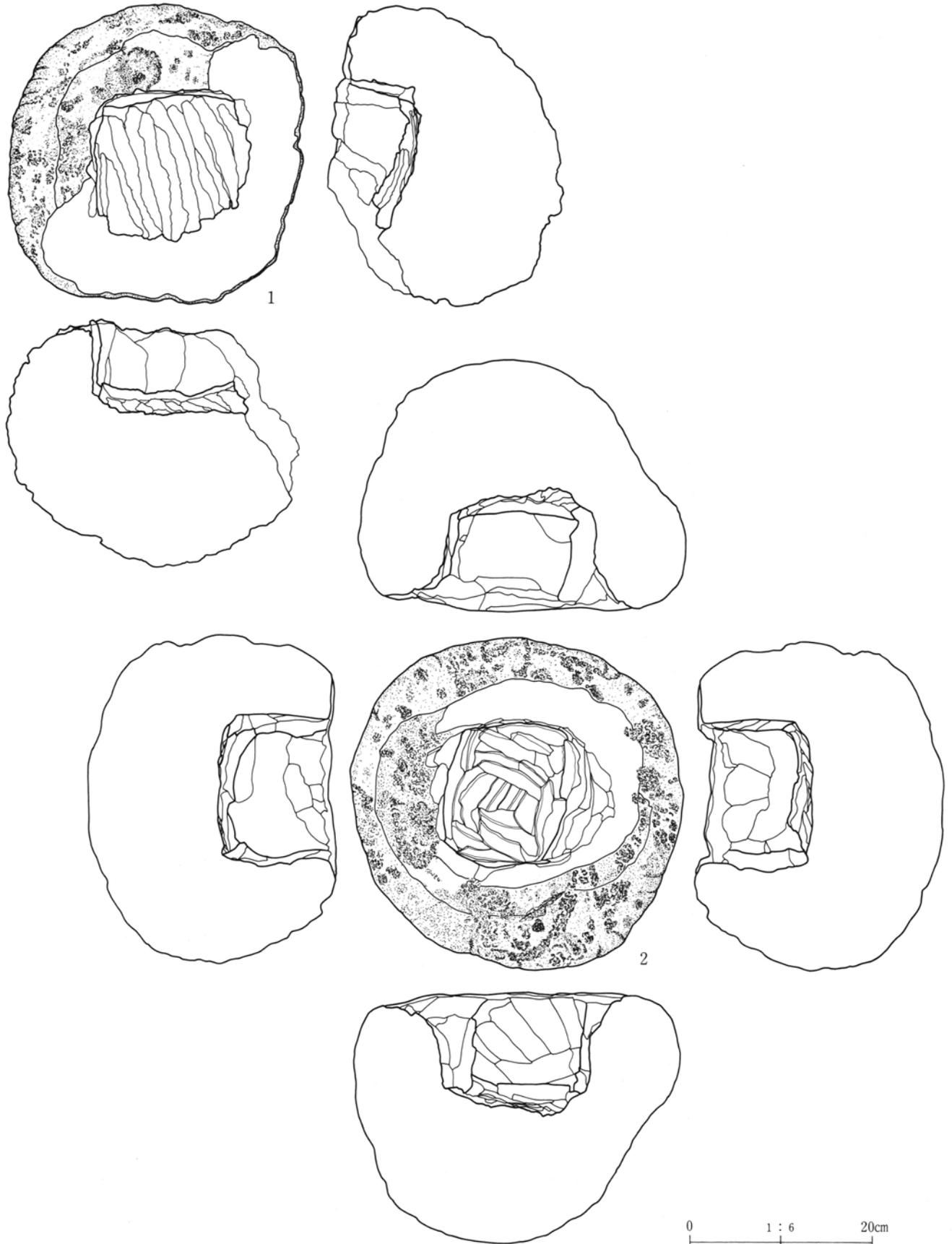
出土遺物は大型の礫と板碑の破片で、間層において埋没土のなかに埋まっていた。礫の大半は自然礫であったが、なかに 2 個体の骨蔵器があった。いずれも一抱えもある榛名軽石で一端を平らに整形して、窪みを掘り込んでいる。窪みの平面形はほぼ正方形の箱形で整形時のノミ痕が顕著に残っていた。

土坑の性格は、骨蔵器と板碑破片の出土から墓坑と考えられる。



- 1 耕作土 (10YR3/3)
- 2 黒褐色土 (10YR2/2)  $\phi$ 0.1~1cm のローム粒を少量含み、白色粒子 (軽石) を少量含む。堆積は脆弱である。
- 3 黒色土 (10YR2/1)  $\phi$ 0.1~0.5cm のローム粒を少量含む。やや粘性は強いが、堆積は脆弱である。
- 4 黒色土 (10YR2/1)  $\phi$ 0.5~2cm のローム粒を多量に含む。やや粘性が強く、緻密な堆積である。
- 5 黒色土 (10YR2/1)  $\phi$ 0.5~1cm のローム粒を、極少量含む。やや粘性が強く、緻密な堆積である。

第314図 162号土坑



第315図 162号土坑と出土遺物

### 3. 溝

(第316～326図 PL118～122・174 遺物観察表P.395)

三ツ木皿沼遺跡では、総数24条の溝が調査された。このうち前述した畠に伴って検出されたA 6区6号溝の年代が9世紀と判明した。しかし、他の溝は出土遺物が少なく、混在しているため、遺物から年代を決めるのに決め手を欠く。遺構の重複関係からは古墳時代以降としか判断できなかった。

また、A 6区の低地部にある溝の多くは、10世紀以降と考えられる旧河道が埋積した後に掘られている。A 4区では旧河道の埋積の上位に浅間Bテフラがほぼ水平堆積していた。他の旧河道には浅間Bテフラの堆積が見られないので、A 4区以外の旧河道の埋積が完了するのは浅間Bテフラ降下(1108年)以降と考えられよう。したがってそれを掘り込む溝の年代も12世紀以降となるが、下限は判然としない。

そこで、A 6区6号溝を除き、他の溝は時期不明として本節で報告した。ここでは各区ごとに特徴を述べ、それぞれの溝の位置や規模等は第4章の遺構一覧表に記載した。

A 2区には、直線の溝が多い。第316図に示したのは、なかでも走向が南北あるいは東西方向をとっている溝である。それぞれは間隔をおいて直交しているが、何らかの区画溝と考えられる。17号溝は途中でとぎれるが、東側に16号溝が続く。(P.15第8図)これらの溝は幅1m前後で断面形が箱形である。一方、14号溝や15号溝は断面U字形で浅い。15号溝は鍵の手に西に曲がっている。その北には159号土坑として報告した細長い掘り込みが連なっている。(P.15第8図)何らかの関連があるかもしれない。

第317図のA 2区12号溝、13号溝も直交する関係にあるが、前述の溝と異なり、溝の走向は北あるいは東にやや傾いている。これもまた別の時期の区画溝と考えられる。なお、遺構全体図を合成したところ、三ツ木皿沼遺跡13号溝は隣接する上武道路小角田前遺跡の28号溝に連続する溝と判明した。(付図1)

A 3区では、直線走向の溝と曲線走向の溝合わせて5条が検出された。南東部にある7号溝・8号溝

(第318図)はほぼ直線の溝である。7号溝は隣接する上武道路小角田前遺跡の全体図と合成すると、矩形に展開する33号溝の北辺に連続し、方形の区画を形成しているとも考えられる。

9号溝・10号溝は曲線走向の溝で台地の縁辺に掘られた溝である。土層断面から9号溝の方が新しく、掘り直された溝とわかる。これらの溝も隣接する上武道路小角田前遺跡の全体図と合成すると、9号溝が35号溝に、10号溝が小角田前遺跡36号溝に連続することがわかり、台地の縁をぐるりと巡る溝の走向が一層明確になる。

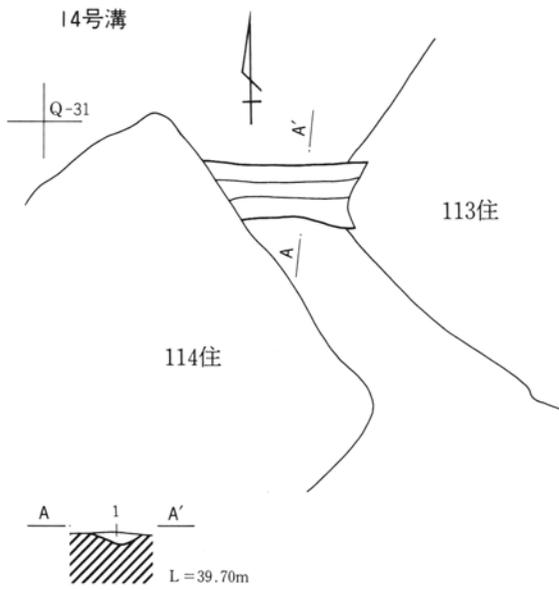
11号溝は1号・2号方形周溝墓を切って掘られている。緩やかな曲線を描いた走向である。埋没土は砂が主体で、他と際だっている。低地部で検出された平安時代の遺構とも考えられるが、洪水砂の対比ができないので、断定できない。

A 4区では北西部で旧河道埋積後に掘られた18号溝が検出された。台地の縁の線に沿うような走向である。第317図には断面図のみ示した。平面図はP.17第10図に示した。

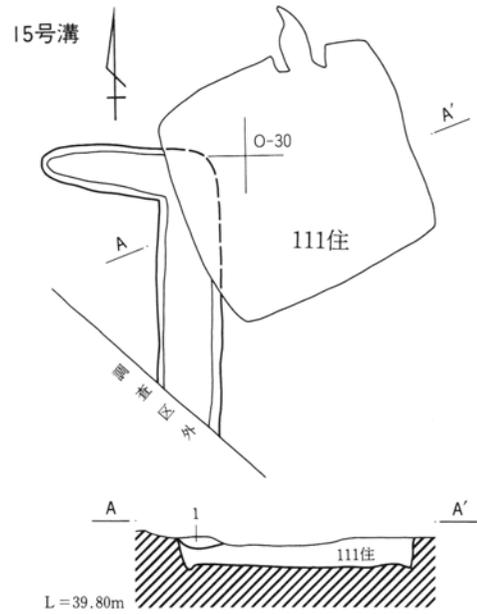
A 6区では6条の溝が検出されたが、6号溝は平安時代の畠に伴う溝である。ここで報告する5条の溝は9世紀～11世紀前半の住居の上層で検出されているので、それ以降の年代が考えられる。

1～3号溝は旧河道の埋積後に掘られていた。特に3号溝は旧河道の縁に沿うように掘られていて、A 4区18号溝と規模は異なるが、類似する。4号溝、5号溝、19号溝は直線走向の溝である。5号溝は51号住居より新しいが、51号住居南側で掘り込みが確認できなくなった。

B 2区では台地上に3条の溝が検出された。21号・22号溝は直線走向の溝である。22号溝の西端の底面からは上下面を平らに整形された二ツ岳軽石が出土した。これらの溝は、隣接する上武道路小角田前遺跡の全体図と合成すると21号溝は小角田前遺跡27号溝と、22号溝は小角田前遺跡31号溝とそれぞれ連続することが判明した。23号溝は緩く湾曲する。2号古墳の周堀を切っている。

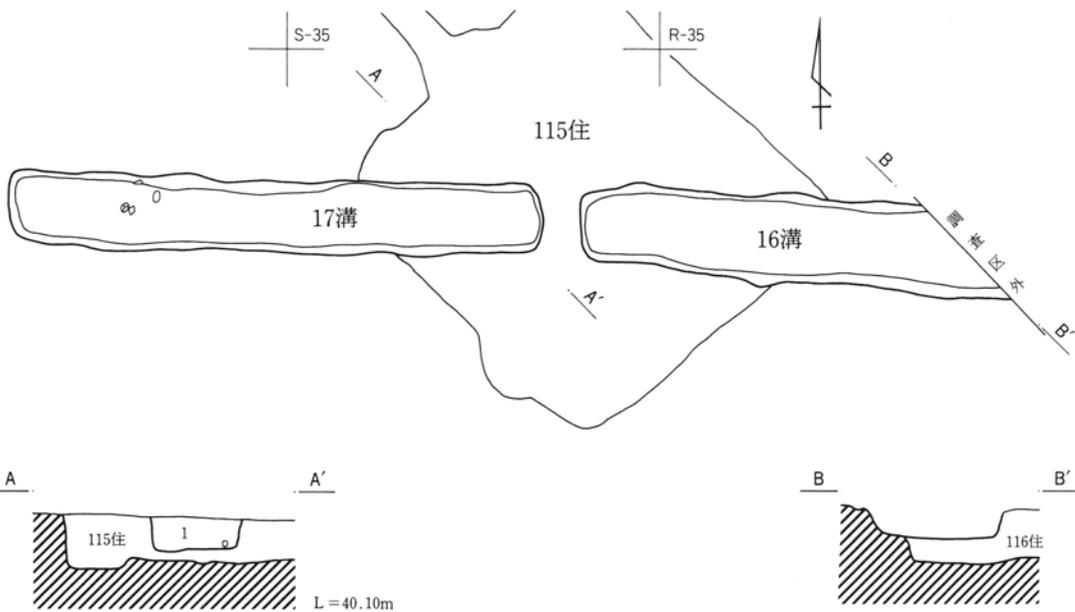


1 黒褐(10YR2/1)ローム粒( $\phi$ 0.5~1cm)を少量含む。堆積はもろく、脆弱である。軽石(粕川テフラカ?)を多量に含む。

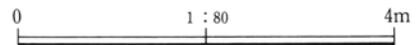


1 暗赤褐色土(5 YR3/2)ローム粒を少量含む。砂質。

16・17号溝

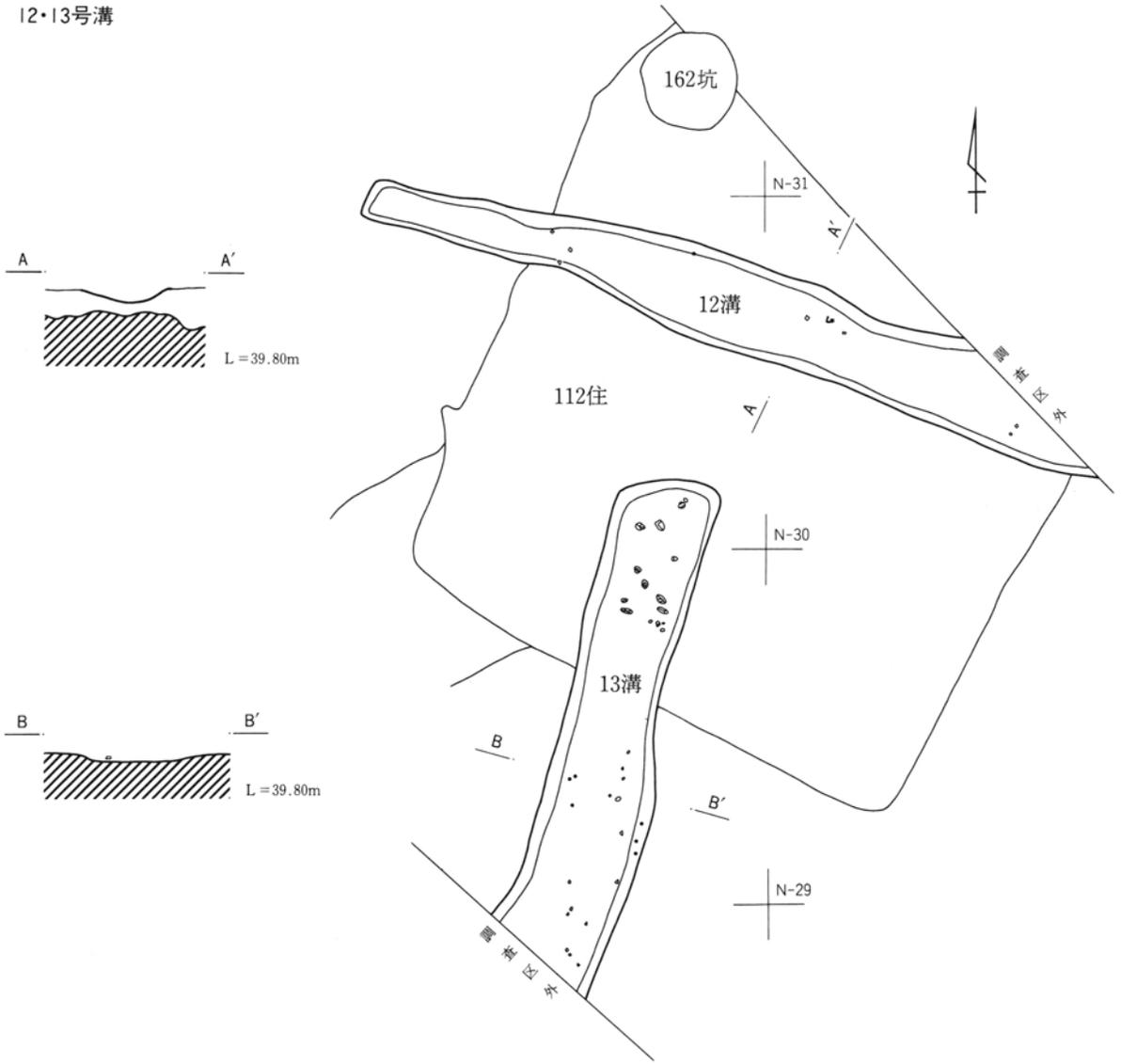


1 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒( $\phi$ 1~5mm)が少量含まれる。堆積はもろい。

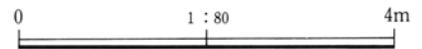
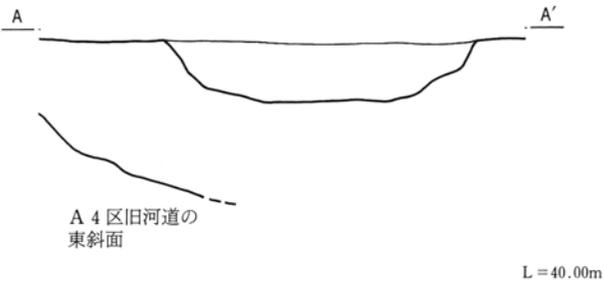


第316図 14号・15号・16号・17号溝

12・13号溝

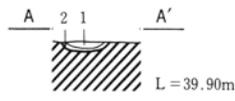
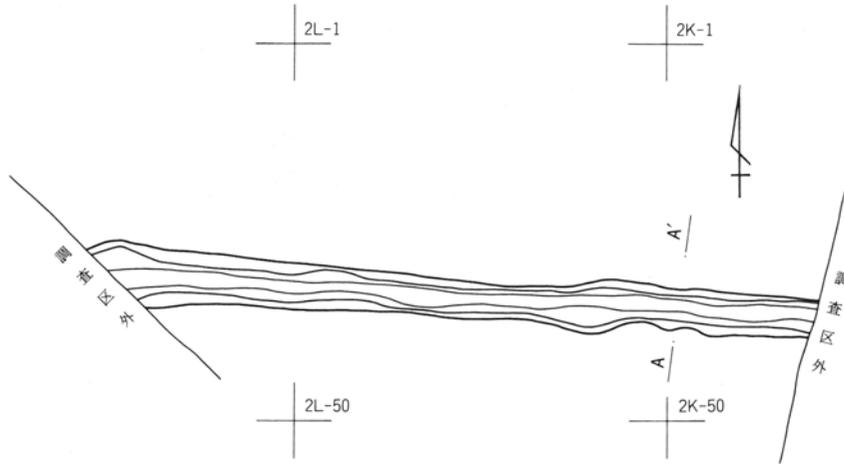


A4区18号溝



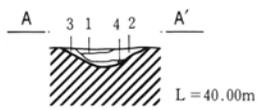
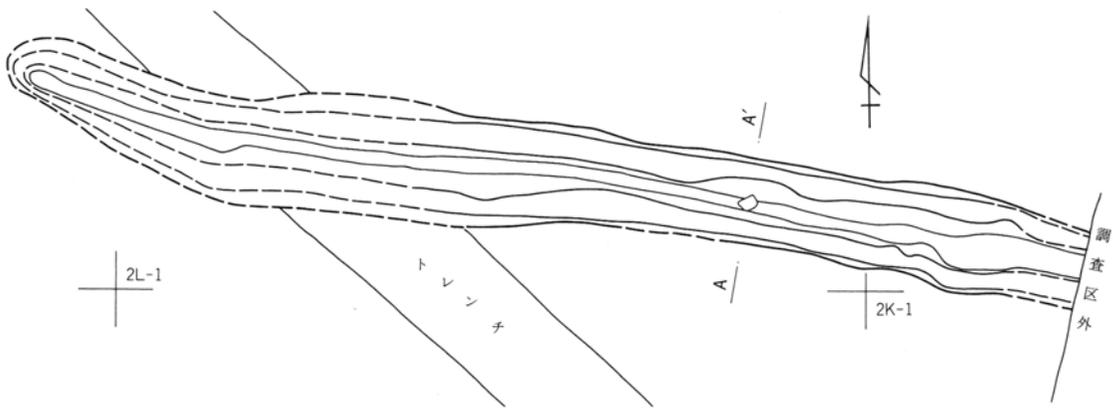
第317図 12号・13号・18号溝

7号溝

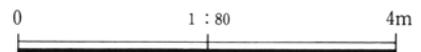


- 1 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(5mm程度)をごく少量含む。しまり強、粘性弱。
- 2 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒(5mm程度)を少量含む。しまり弱、粘性弱。

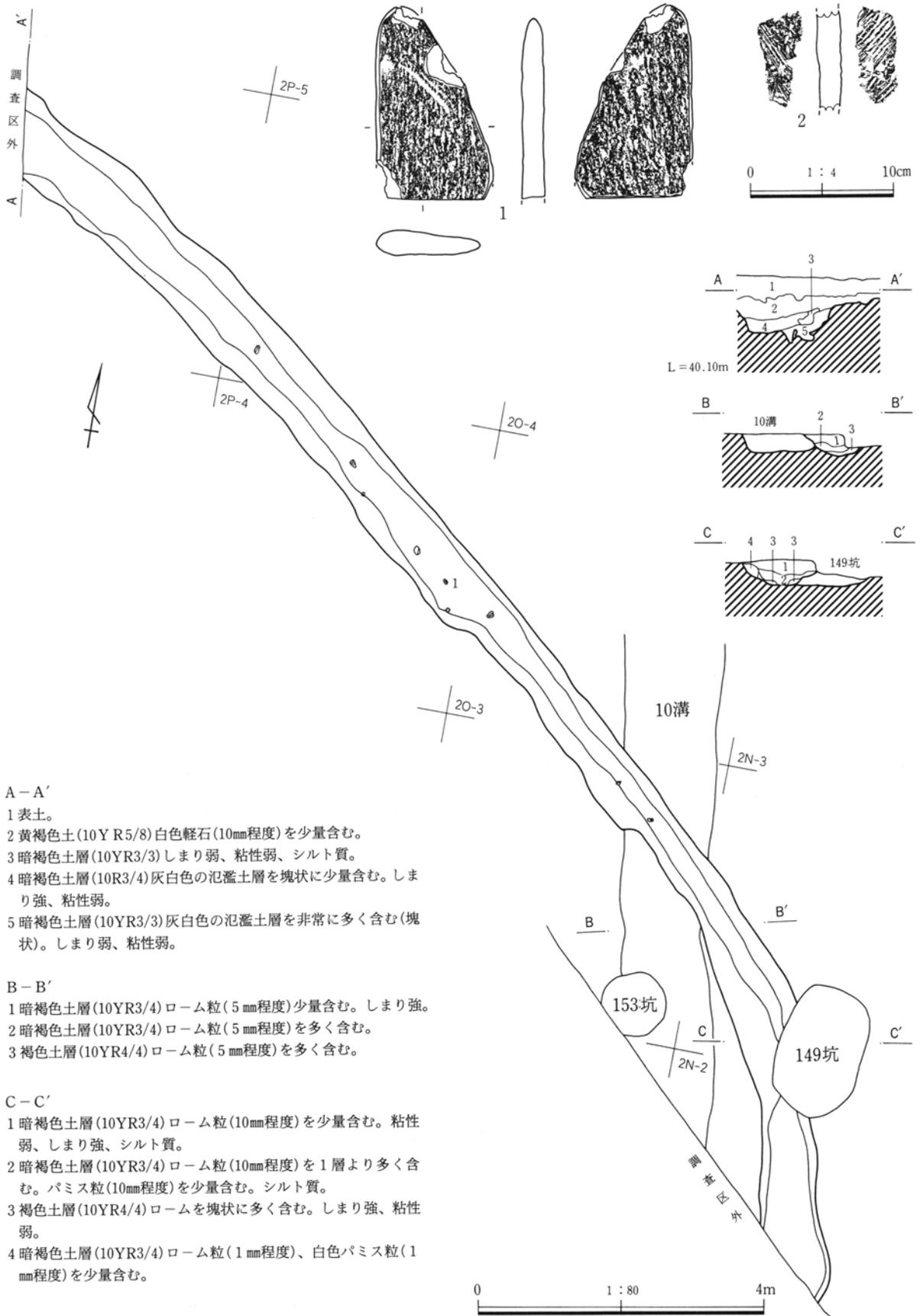
8号溝



- 1 褐色土層(10YR4/4)ローム粒、焼土粒(5mm程度)をごく少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土層(10YR4/3)ローム粒、焼土粒(5mm程度)を1層より多く含む。
- 3 褐色土層(10YR4/4)ローム粒(10mm程度)を多く含む。
- 4 黄褐色土層(10YR5/8)しまり強、ロームを塊状に多く含む。



第318図 7号・8号溝



A-A'

- 1 表土。
- 2 黄褐色土(10Y R5/8)白色軽石(10mm程度)を少量含む。
- 3 暗褐色土層(10YR3/3)しまり弱、粘性弱、シルト質。
- 4 暗褐色土層(10R3/4)灰白色の氾濫土層を塊状に少量含む。しまり強、粘性弱。
- 5 暗褐色土層(10YR3/3)灰白色の氾濫土層を非常に多く含む(塊状)。しまり弱、粘性弱。

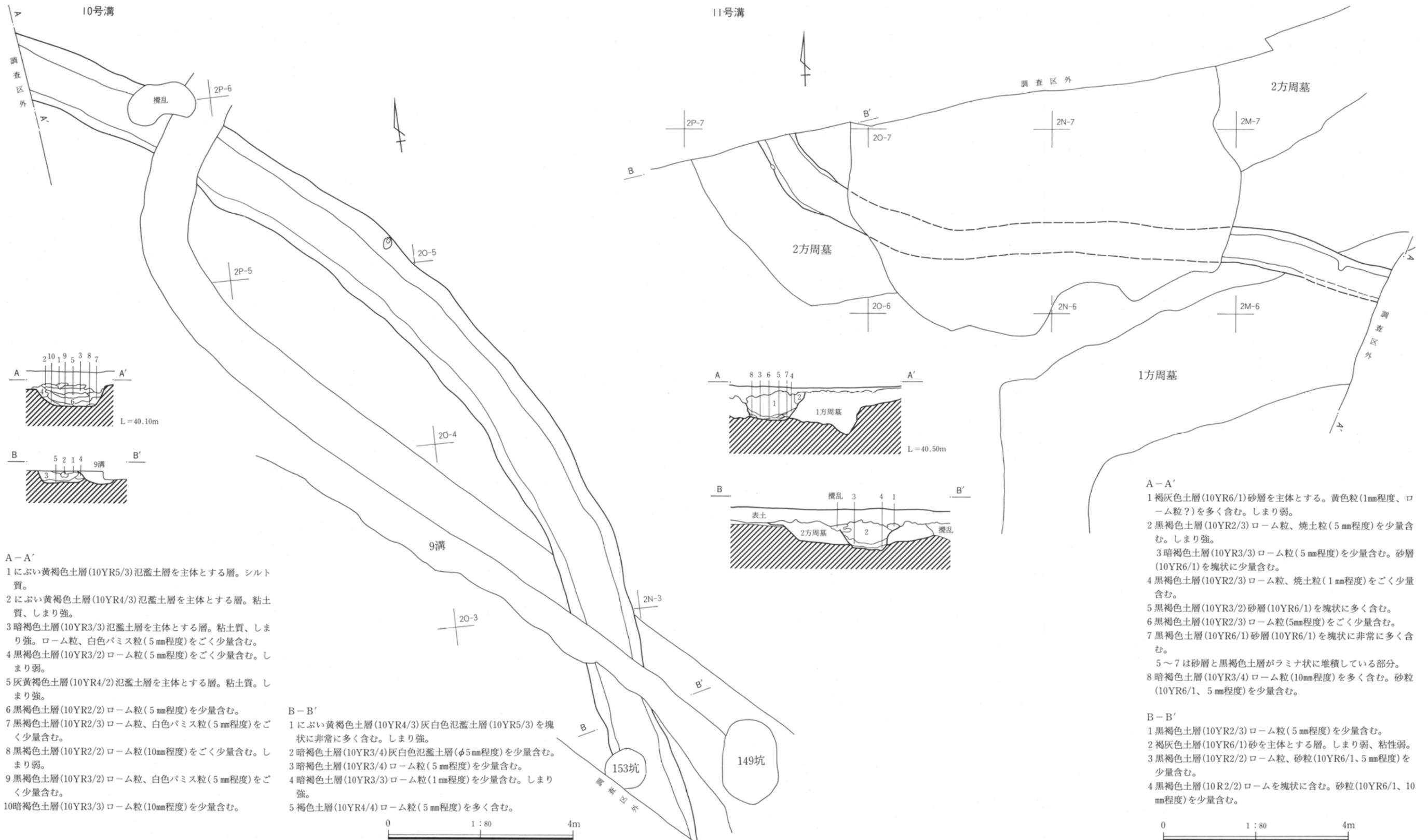
B-B'

- 1 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(5mm程度)少量含む。しまり強。
- 2 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(5mm程度)を多く含む。
- 3 褐色土層(10YR4/4)ローム粒(5mm程度)を多く含む。

C-C'

- 1 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(10mm程度)を少量含む。粘性弱、しまり強、シルト質。
- 2 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(10mm程度)を1層より多く含む。パミス粒(10mm程度)を少量含む。シルト質。
- 3 褐色土層(10YR4/4)ロームを塊状に多く含む。しまり強、粘性弱。
- 4 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(1mm程度)、白色パミス粒(1mm程度)を少量含む。

第319図 9号溝と出土遺物

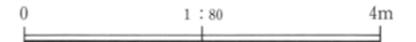
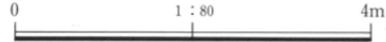


- A-A'
- 1 において黄褐色土層(10YR5/3)氾濫土層を主体とする層。シルト質。
  - 2 において黄褐色土層(10YR4/3)氾濫土層を主体とする層。粘土質、しまり強。
  - 3 暗褐色土層(10YR3/3)氾濫土層を主体とする層。粘土質、しまり強。ローム粒、白色パミス粒(5mm程度)をごく少量含む。
  - 4 黒褐色土層(10YR3/2)ローム粒(5mm程度)をごく少量含む。しまり弱。
  - 5 灰黄褐色土層(10YR4/2)氾濫土層を主体とする層。粘土質。しまり強。
  - 6 黒褐色土層(10YR2/2)ローム粒(5mm程度)を少量含む。
  - 7 黒褐色土層(10YR2/3)ローム粒、白色パミス粒(5mm程度)をごく少量含む。
  - 8 黒褐色土層(10YR2/2)ローム粒(10mm程度)をごく少量含む。しまり弱。
  - 9 黒褐色土層(10YR3/2)ローム粒、白色パミス粒(5mm程度)をごく少量含む。
  - 10 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒(10mm程度)を少量含む。

- B-B'
- 1 において黄褐色土層(10YR4/3)灰白色氾濫土層(10YR5/3)を塊状に非常に多く含む。しまり強。
  - 2 暗褐色土層(10YR3/4)灰白色氾濫土層(φ5mm程度)を少量含む。
  - 3 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(5mm程度)を少量含む。
  - 4 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒(1mm程度)を少量含む。しまり強。
  - 5 褐色土層(10YR4/4)ローム粒(5mm程度)を多く含む。

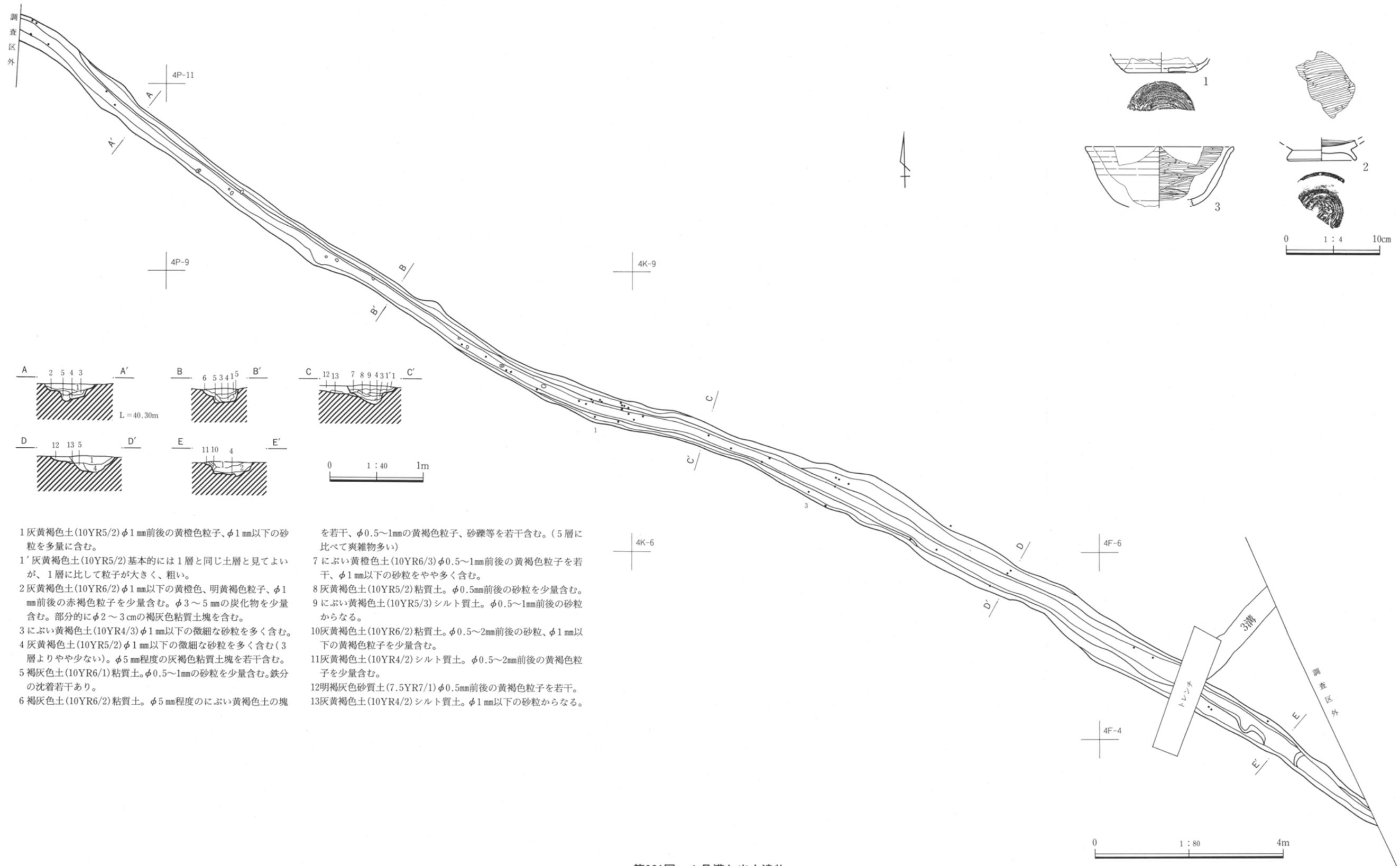
- A-A'
- 1 褐灰色土層(10YR6/1)砂層を主体とする。黄色粒(1mm程度、ローム粒?)を多く含む。しまり弱。
  - 2 黒褐色土層(10YR2/3)ローム粒、焼土粒(5mm程度)を少量含む。しまり強。
  - 3 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒(5mm程度)を少量含む。砂層(10YR6/1)を塊状に少量含む。
  - 4 黒褐色土層(10YR2/3)ローム粒、焼土粒(1mm程度)をごく少量含む。
  - 5 黒褐色土層(10YR3/2)砂層(10YR6/1)を塊状に多く含む。
  - 6 黒褐色土層(10YR2/3)ローム粒(5mm程度)をごく少量含む。
  - 7 黒褐色土層(10YR6/1)砂層(10YR6/1)を塊状に非常に多く含む。
  - 5~7は砂層と黒褐色土層がラミナ状に堆積している部分。
  - 8 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(10mm程度)を多く含む。砂粒(10YR6/1、5mm程度)を少量含む。

- B-B'
- 1 黒褐色土層(10YR2/3)ローム粒(5mm程度)を少量含む。
  - 2 褐灰色土層(10YR6/1)砂を主体とする層。しまり弱、粘性弱。
  - 3 黒褐色土層(10YR2/2)ローム粒、砂粒(10YR6/1、5mm程度)を少量含む。
  - 4 黒褐色土層(10YR2/2)ロームを塊状に含む。砂粒(10YR6/1、10mm程度)を少量含む。



第320図 10号・11号溝



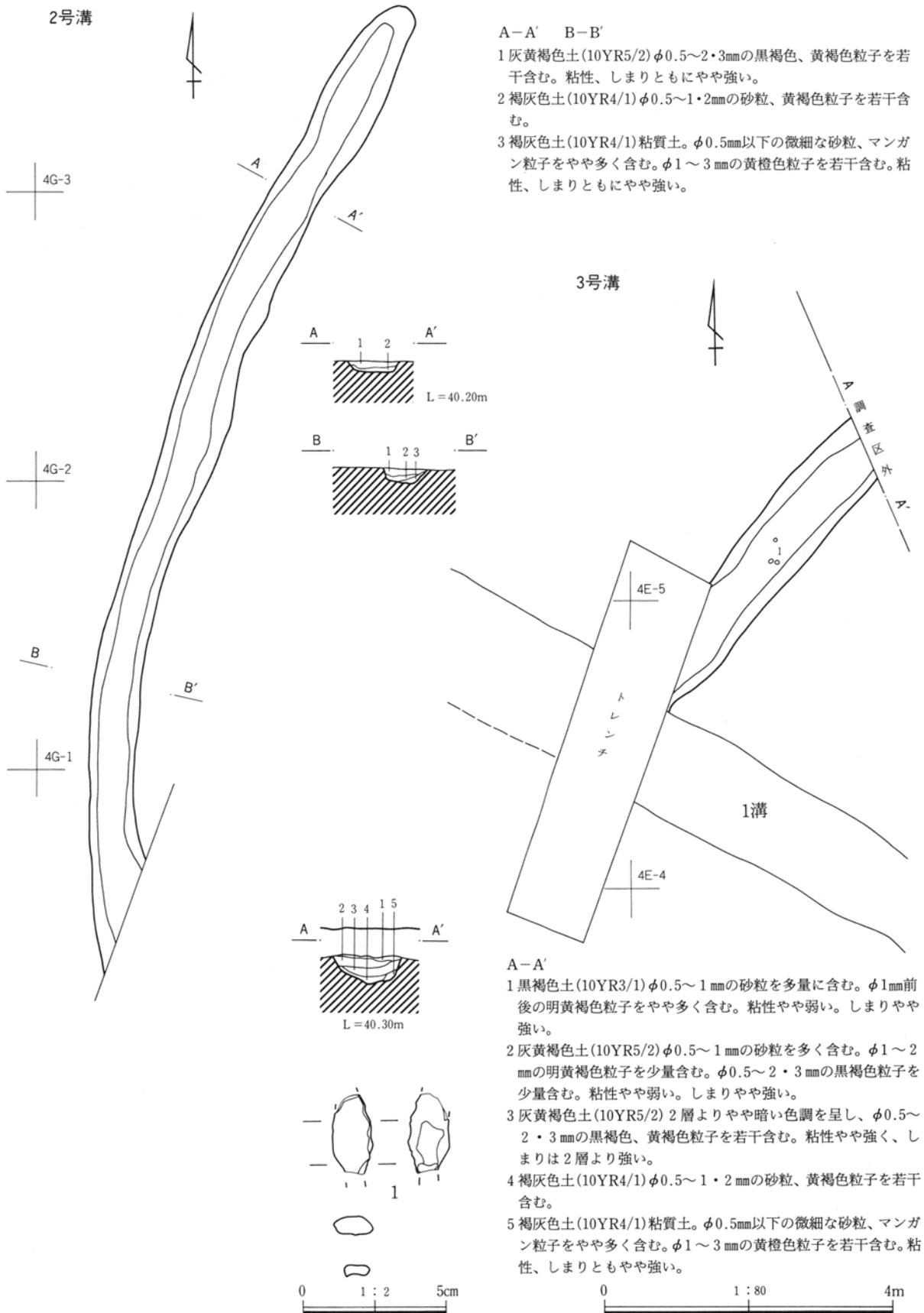


- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)  $\phi$ 1mm前後の黄褐色粒子、 $\phi$ 1mm以下の砂粒を多量に含む。
- 1' 灰黄褐色土(10YR5/2) 基本的には1層と同じ土層と見てよいが、1層に比して粒子が大きく、粗い。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2)  $\phi$ 1mm以下の黄褐色、明黄褐色粒子、 $\phi$ 1mm前後の赤褐色粒子を少量含む。 $\phi$ 3~5mmの炭化物を少量含む。部分的に $\phi$ 2~3cmの褐灰色粘質土塊を含む。
- 3 におい黄褐色土(10YR4/3)  $\phi$ 1mm以下の微細な砂粒を多く含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2)  $\phi$ 1mm以下の微細な砂粒を多く含む(3層よりやや少ない)。 $\phi$ 5mm程度の灰褐色粘質土塊を若干含む。
- 5 褐灰色土(10YR6/1)粘質土。 $\phi$ 0.5~1mmの砂粒を少量含む。鉄分の沈着若干あり。
- 6 褐灰色土(10YR6/2)粘質土。 $\phi$ 5mm程度のおい黄褐色土の塊

- を若干、 $\phi$ 0.5~1mmの黄褐色粒子、砂礫等を若干含む。(5層に比べて爽雑物多い)
- 7 におい黄褐色土(10YR6/3)  $\phi$ 0.5~1mm前後の黄褐色粒子を若干、 $\phi$ 1mm以下の砂粒をやや多く含む。
- 8 灰黄褐色土(10YR5/2)粘質土。 $\phi$ 0.5mm前後の砂粒を少量含む。
- 9 におい黄褐色土(10YR5/3)シルト質土。 $\phi$ 0.5~1mm前後の砂粒からなる。
- 10 灰黄褐色土(10YR6/2)粘質土。 $\phi$ 0.5~2mm前後の砂粒、 $\phi$ 1mm以下の黄褐色粒子を少量含む。
- 11 灰黄褐色土(10YR4/2)シルト質土。 $\phi$ 0.5~2mm前後の黄褐色粒子を少量含む。
- 12 明褐灰色砂質土(7.5YR7/1)  $\phi$ 0.5mm前後の黄褐色粒子を若干。
- 13 灰黄褐色土(10YR4/2)シルト質土。 $\phi$ 1mm以下の砂粒からなる。

第321図 1号溝と出土遺物

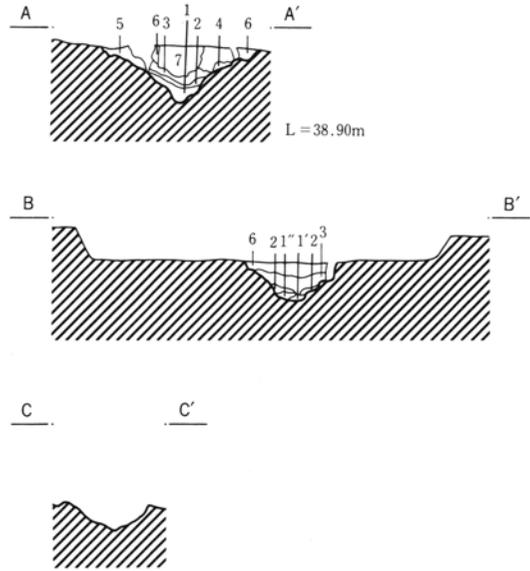
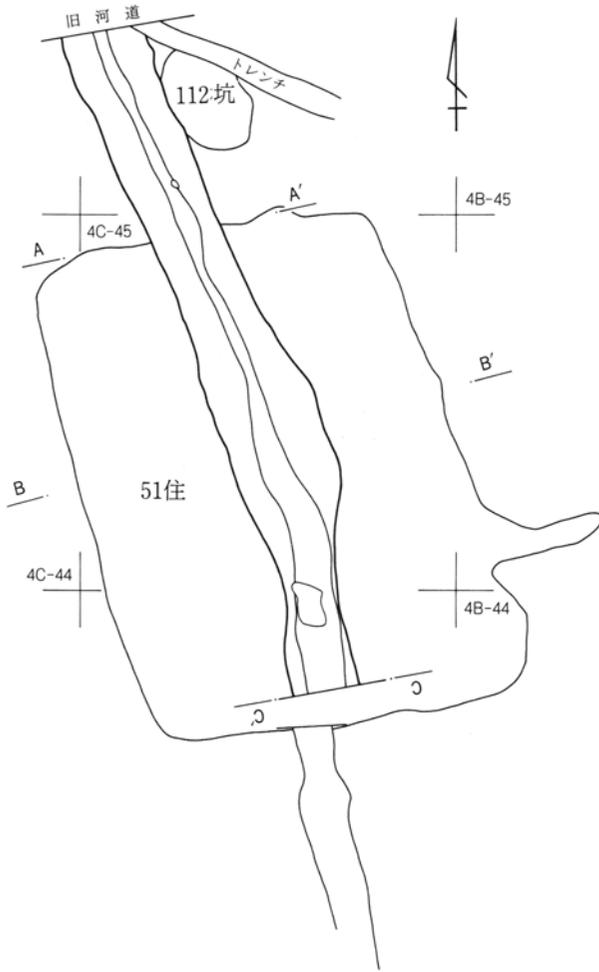




第322図 2号・3号溝と出土遺物

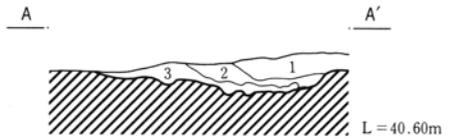
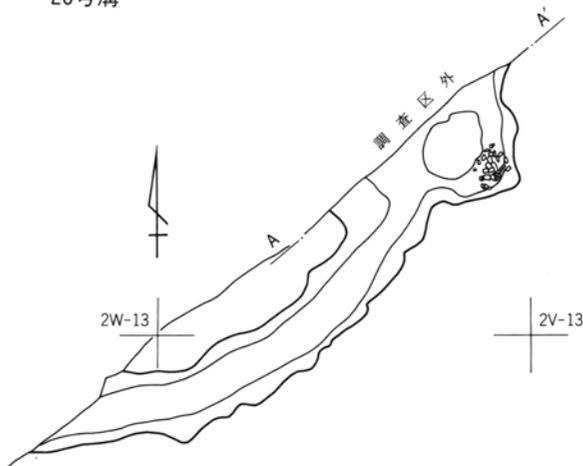
第3章 検出された遺構と遺物

5号溝

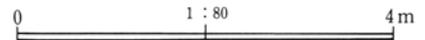


- 1 黒褐色土(10YR3/2) 地山の崩壊粒子を含む。
- 1' 地山の崩壊土を主に、10YR3/2を含む。
- 1'' 地山の崩壊土を多く含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 床状に固くしまる。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 少量の炭化物粒を含む。
- 4 褐色土(10YR4/4) 地山の崩壊粒子を多く含む。
- 5 褐色土(10YR4/4) 地山の崩壊粒子を多く含む。少量の炭化物粒を含む。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 少量の炭化物粒を含む。
- 7 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物粒、焼土粒を含む。

20号溝

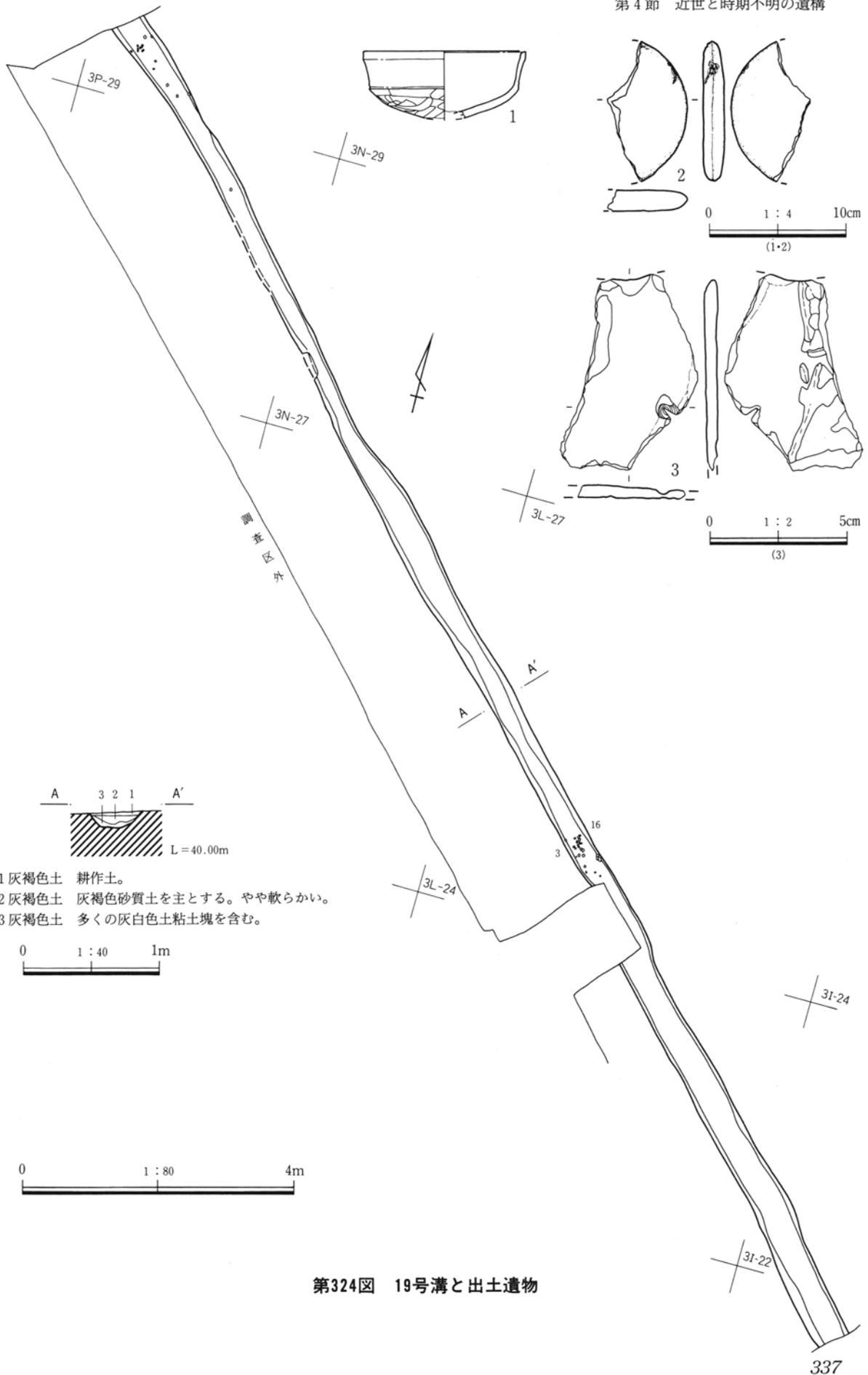


- 1 表土。
- 2 暗褐色土 砂質土。
- 3 暗褐色土 ローム塊多量に含む。



第323図 5号・20号溝

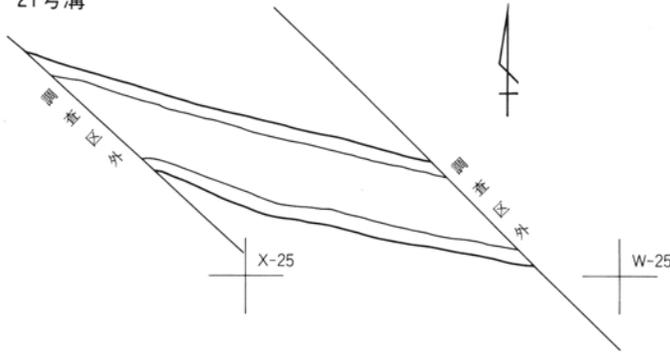
第4節 近世と時期不明の遺構



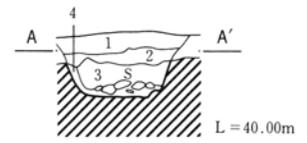
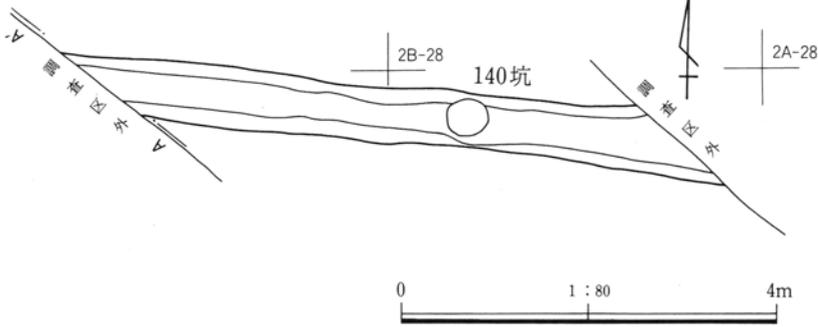
第324図 19号溝と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

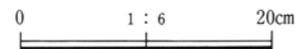
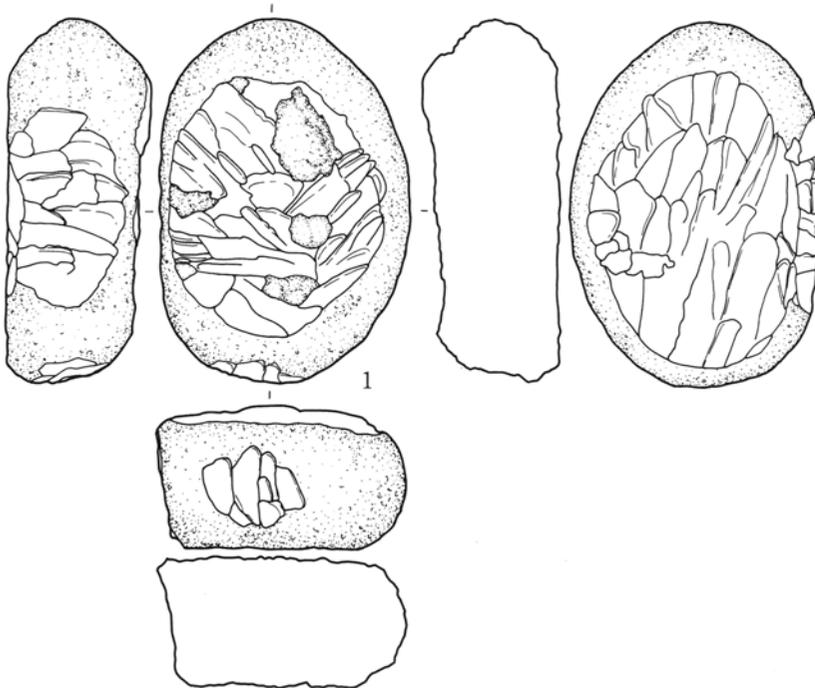
21号溝



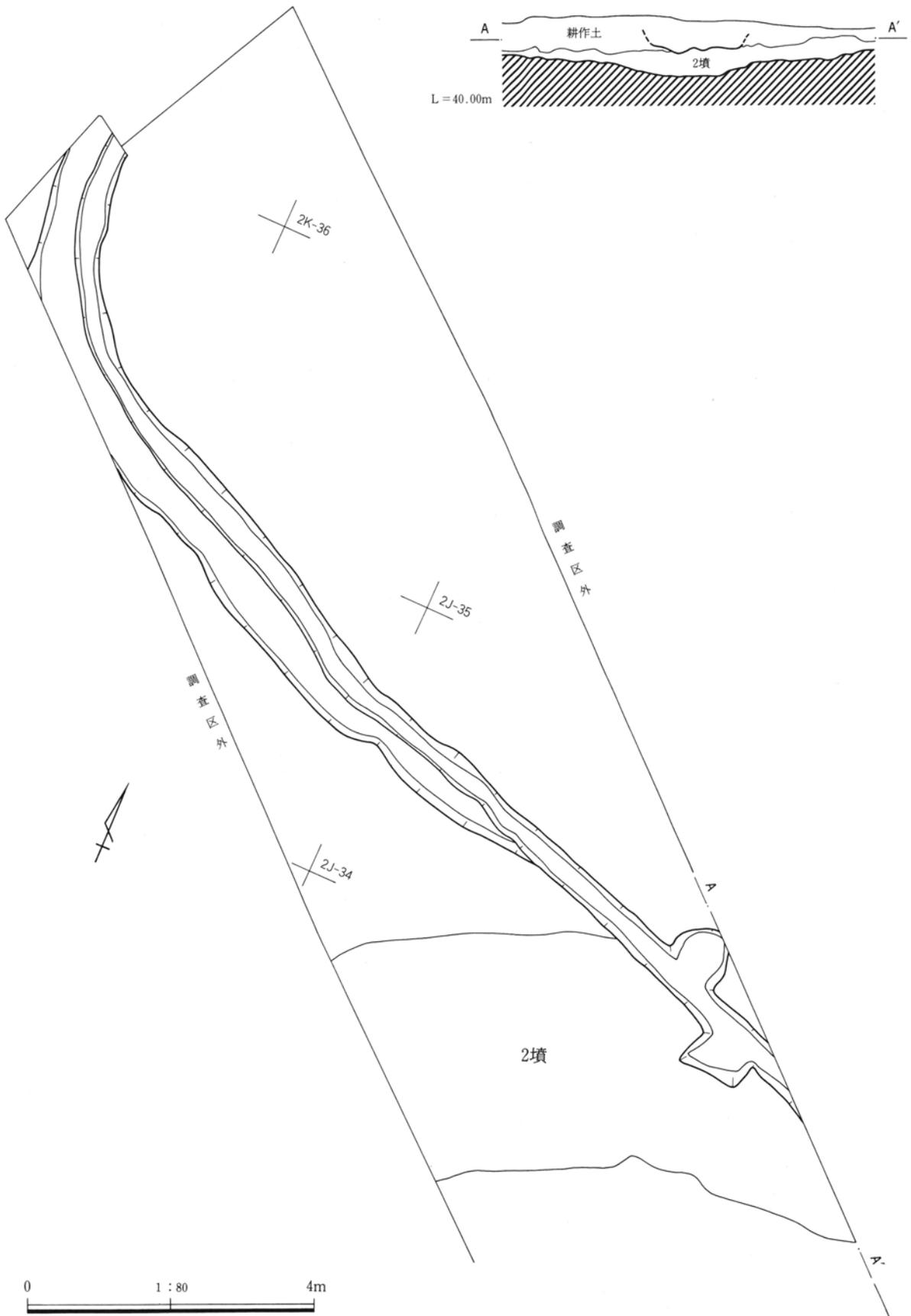
22号溝



- 1 茶褐色土 耕作土。
- 2 茶褐色土 黒色の砂質土が混じる。さらさら、粘性なし。
- 3 暗褐色土に茶褐色土の混じり。中程度の粘質。
- 4 ロームに暗褐色土の混じり。



第325図 21号・22号溝と出土遺物



第326図 23号溝

## 第5節 遺構外の遺物

三ツ木皿沼遺跡では遺構に伴わない形で、遺物が出土している。ここでは、それらの遺物を旧河道出土遺物(第327・328図)、グリッド出土遺物(第329・330図)、表面採集遺物(第331図)に分けて報告する。

旧河道出土遺物は主としてA6区中央区で弧状に検出された上層部で出土した。この旧河道年代は10世紀後半の住居を切っていることから、それ以降ということになる。遺物は河道が流下する際に遺構を破壊して遺物を巻き込んだものと考えられる。遺物の主体は平安時代の土器で、他に鉄滓や埴輪等が含まれていた。第328図9は椀状滓、10は鞍形埴輪の破片と考えられる。

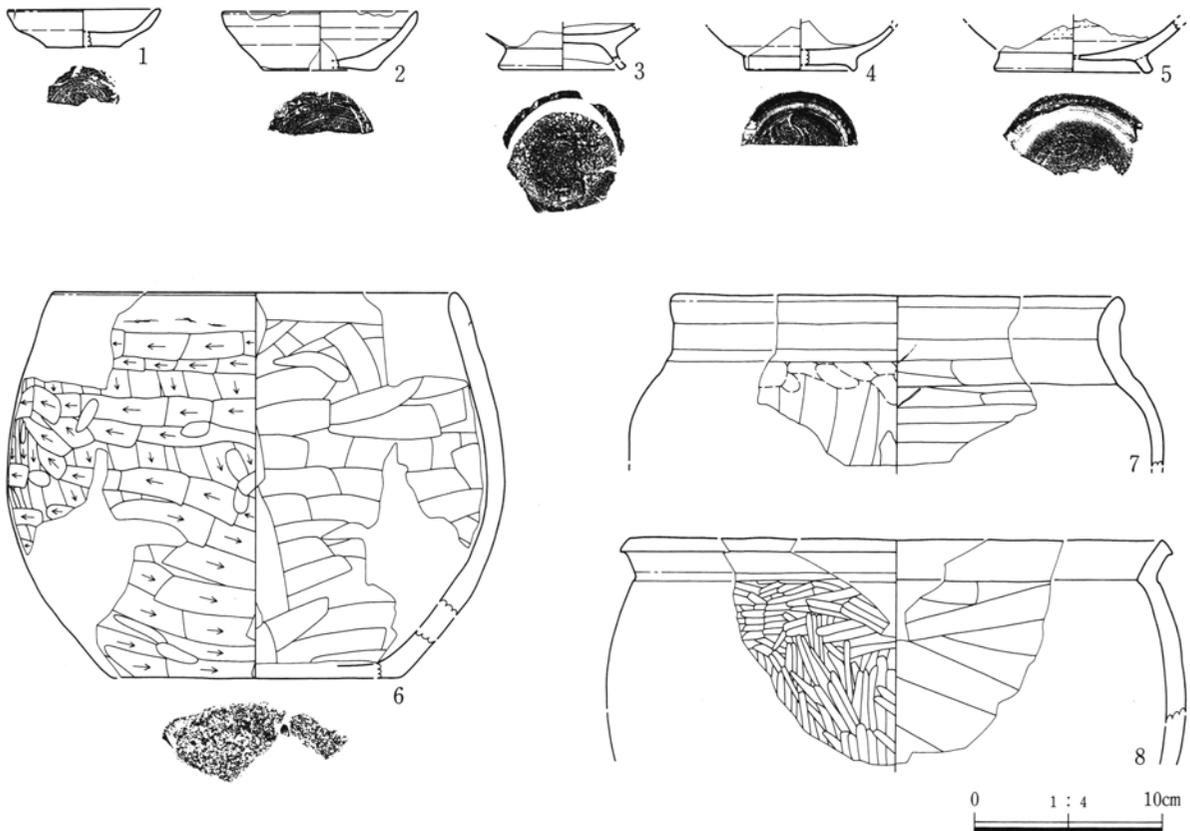
グリッド出土遺物の多くはA6区低地部の9世紀末から11世紀前半の住居群の遺構確認作業時に出土した。他はA2区の遺構確認作業中に出土したもの

もある。各遺物の出土位置と層位は第4章遺物観察表(P.395~397)に記載した。

第329図に示した土師器・須恵器は住居群の時期に対応する。第329図22の円筒埴輪も同様な位置で出土した。三ツ木皿沼遺跡では平安時代の竪穴住居内で埴輪を竈構築材として再利用していた。この埴輪もその類であろう。第330図に示した土錘も、平安時代の竪穴住居内で出土しているもの同じものである。36・39の石器も土器と同じ層位で出土した。

37・38・40の石器は台地部のA2区で遺構確認作業中に出土した。

第331図に示した遺物は出土地点の明確でない遺物を集めた。

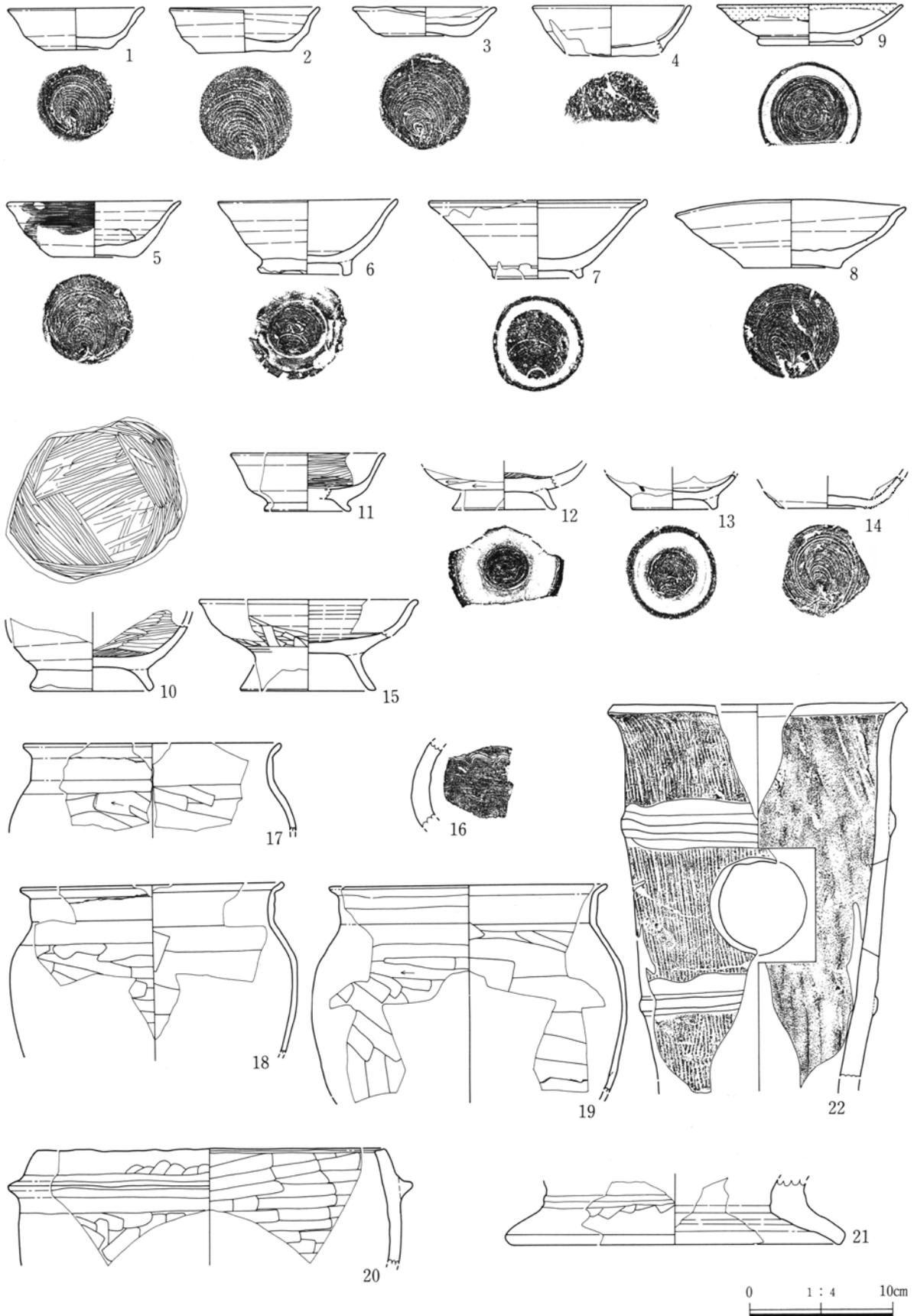


第327図 旧河道の出土遺物(1)

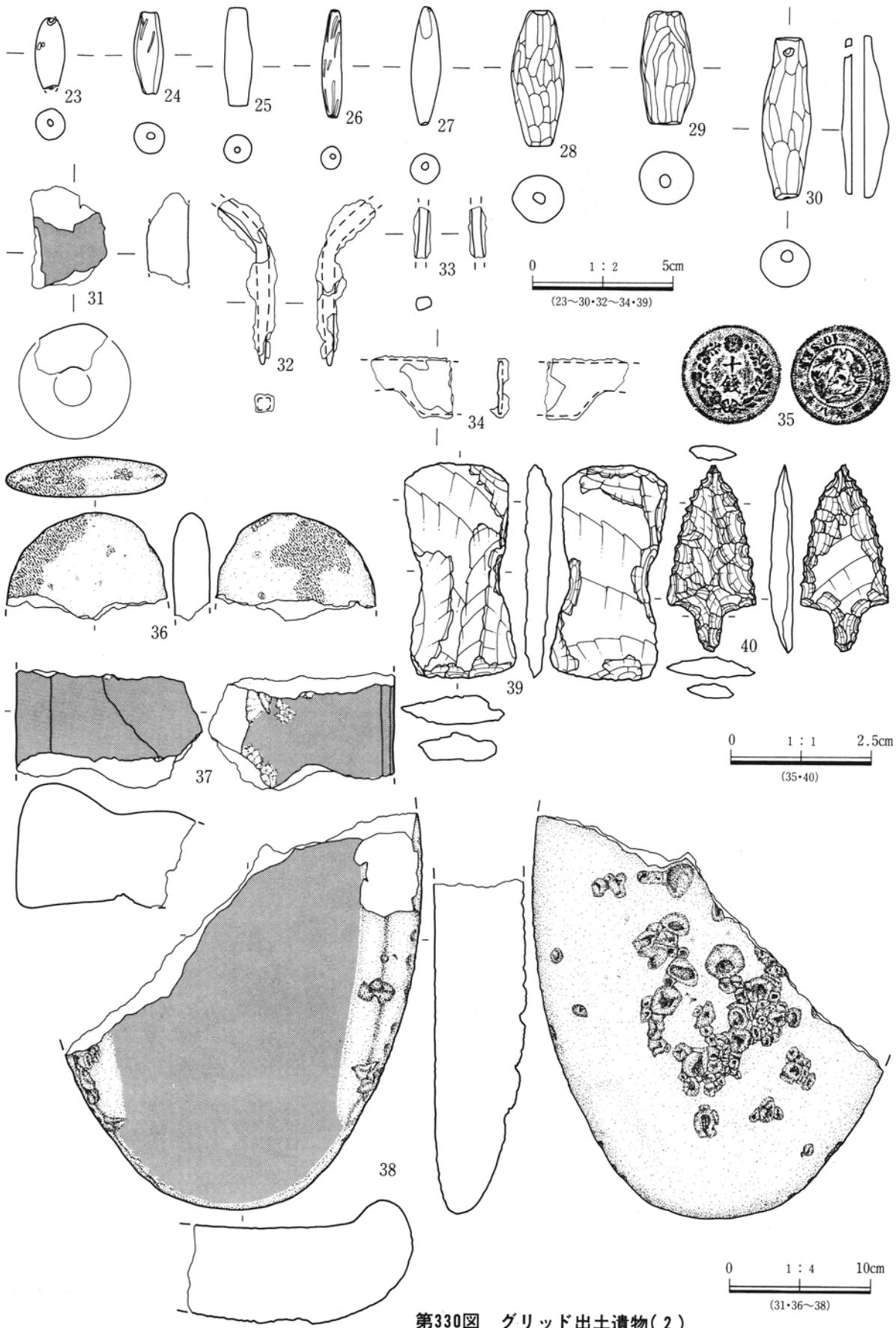


第328図 旧河道の出土遺物(2)

0 1 : 4 10cm

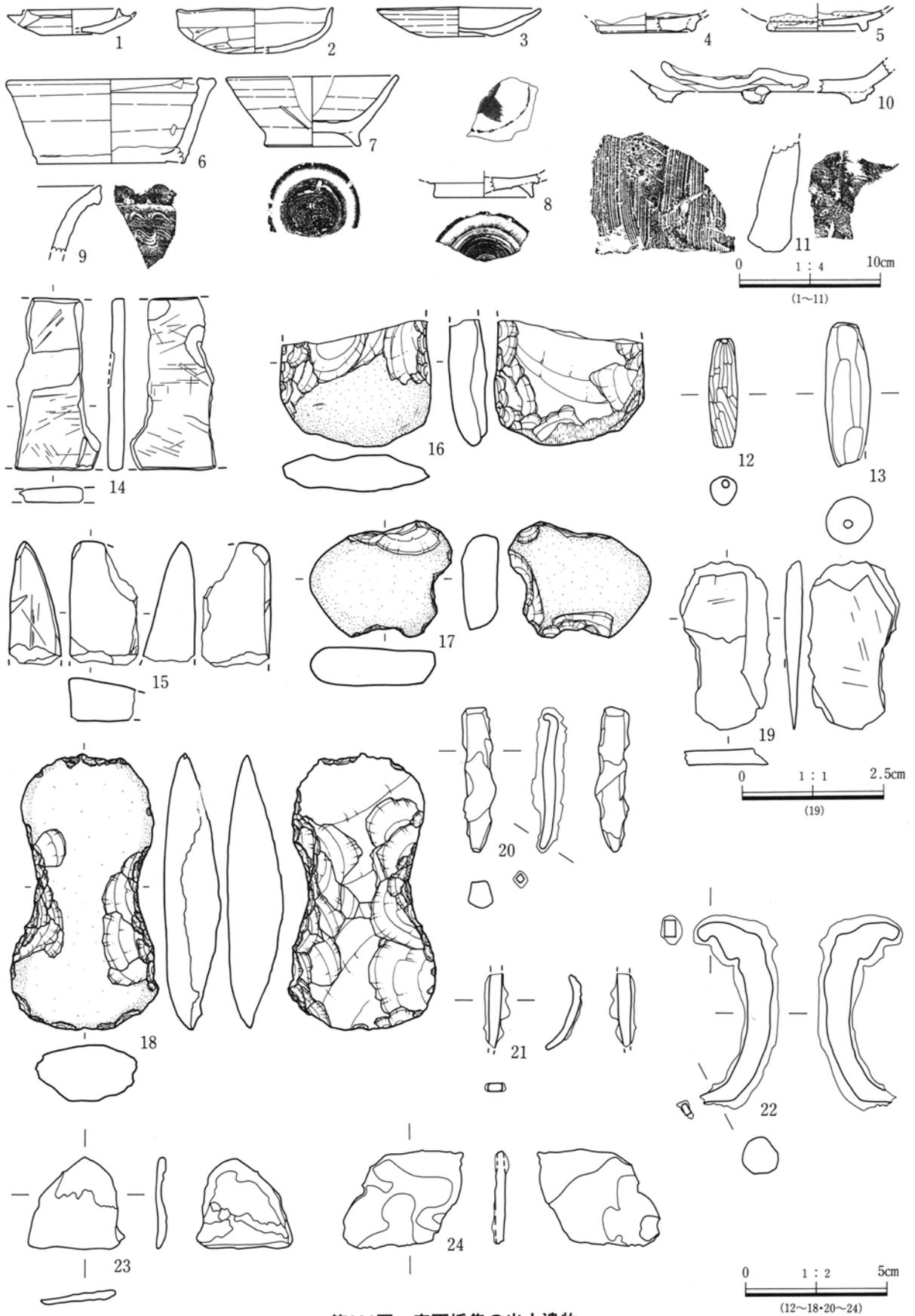


第329図 グリッド出土遺物(1)



第330図 グリッド出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第331図 表面採集の出土遺物

## 第4章 遺構・遺物の一覧表

本章には、下記のような三ツ木皿沼遺跡の遺構・遺物の一覧表を掲げた。

第5表 三ツ木皿沼遺跡住居一覧表

第6表 三ツ木皿沼遺跡土坑一覧表

第7表 三ツ木皿沼遺跡溝一覧表

第8表 三ツ木皿沼遺跡土器埋設土坑一覧表

第9表 三ツ木皿沼遺跡墓関連遺構一覧表

第10表 三ツ木皿沼遺跡鉄生産関連遺構一覧表

第11表 三ツ木皿沼遺跡畠一覧表

第12表 三ツ木皿沼遺跡その他の遺構一覧表

第13表 三ツ木皿沼遺跡出土遺物一覧表

### 凡例

1. 遺構の一覧表は、左記のように各遺構ごとに作成した。
2. 遺構はA 2～7区、B 2、B 3区の発掘区の番号順で並べた。報告書作成時に番号をかえた遺構は、調査時の番号を併載した。
3. 掲載頁・図は第3章で報告した頁・図番号を、掲載写真は第2分冊写真図版編に遺構・遺物を掲載したPL番号を記入した。
4. 遺構の計測値は、重複等で計測できないものは計測不可とした。また本来計測値のない欄には\*マークを記入した。
5. 遺物一覧表は土器・石器・鉄生産関連遺物・銅製品を一表にしている。
6. 分量欄の( )は復元値である。残存値については残存と明記した。
7. 出土位置欄は、竈・貯蔵穴・壁際・隅等の平面的位置と床面比高を併記した。
8. 外観の特徴のうち、土器の胎土は特徴的な挟雑物について記載した。
9. 外観の特徴のうち、土器の焼成は酸化焰か還元焰かを記載した。
10. 外観の特徴のうち、色調は『標準土色帖』を用い、最も大きな面積の器面の色名を記載した。なお焼成に伴う黒斑は記載した。
11. 備考欄は黒色処理や付着物・塗彩・穿孔等を記載した。また型式名や窯式名を記載した。
12. 鉄生産関連遺物の外観の特徴は第3章-4、第5章-9、第6章-8を参照されたい。



第5表 三ツ木皿沼遺跡住居一覧表

住居番号	調査時番号	発掘区	時期	掲載頁	掲載図版	写真図版	グリッド	形態	長辺 (m)	短辺 (m)	面積 (㎡)	残存壁高 (cm)	長軸方位
縄文時代													
108号住居		A 6区	称名寺式	23~30	16~22	6・7・123~125	4 D ~ 4 F - 44~46						
古墳時代													
110号住居	小角田前 2号	A 2区	6世紀後半	46~49	38~41	13・129・130	K ~ M - 28・29	横長長方形	5.68	5.0	24.83	40	N - 45° - E
111号住居	小角田前 3号	A 2区	6世紀後半	50~51	42~43	13・14・130	N・O - 29・30	方形	2.54	2.49	5.25	38	N - 9° - W
112号住居	小角田前 4号	A 2区	6世紀中葉	52~54	44~46	14・15・130・131	M・N - 29~31	方形あるいは横長長方形	測定不可	測定不可	測定不可	38	N - 29° - E (東壁)
113号住居	小角田前 5号	A 2区	6世紀後半	55~58	47~50	15・16・131・132	N ~ P - 31・32	方形	4.8	4.72	19.49	70	N - 43° - E
114号住居	小角田前 6号	A 2区	6世紀後半	59~61	51~53	15・16・132	P・Q - 30~32	台形?	4.26	3.78	測定不可	32.5	N - 135° - E
115号住居	小角田前 7号	A 2区	6世紀後半	62~64	54~56	17・132・133	Q・R - 33~35	縦長長方形	3.88	3.54	12.51	52	N - 138° - E
116号住居	小角田前 8号	A 2区	6世紀前半	64~66	57~58	18・133・134	P・Q - 33・34	方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	53	N - 18° - E (東壁)
117号住居	小角田前 9号	A 2区	6世紀後半	67~68	59~60	18・19・134	R・S - 33・34	横長隅丸長方形	4.02	3.58	測定不可	44	N - 46° - E
95号住居		B 2区	6世紀前半	70~72	61~62	19・134	X・Y - 25~27	横長長方形あるいは方形	測定不可	測定不可	測定不可	18.5	N - 65° - W
100号住居		A 7区	6世紀前半	73~74	63~64	19・20・134・135	4 V・4 W - 10・11	方形	3.3	3.3	10.14	28	N - 34° - W
101号住居		A 7区	6世紀前半	75	65~66	20・135	4 T ~ 4 V - 9・10	長方形	4.14	3.5	15.03	11	N - 163° - E
102号住居		A 7区	6世紀前半	76~78	67	21・135	4 U - 11・12	横長長方形?	3.3	2.8	測定不可	12	N - 11° - E (東壁)
104号住居		A 7区	6世紀前半	69・70	68~70	21・135・136	4 U ~ 4 W - 11~13	方形	4.82	4.72	23.49	23	N - 58° - E
平安時代													
108号住居	小角田前 1号	A 3区	10世紀中葉	93~95	83~85	28・138	2 K・2 L - 2・3	歪んだ台形	3.0	2.8	7.62	20~32	N - 90° - E
107号住居	A 4区 1号	A 4区	10世紀前葉	96~98	86~88	28・162・163	2 T・2 U - 9・10	不明	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	N - 8° - E
1号住居		A 6区	10世紀後葉	99・100	89・90	29	4 I・4 J - 47・48	方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	18	N - 78° - E (北壁)
2号住居		A 6区	10世紀中葉	101~103	91~93	29・30・138・139	4 I・4 J - 48・49	横長長方形	4.07	3.13	11.14	32	N - 99° - E
3号住居		A 6区	10世紀前葉	103・104	94	30・31・139	4 G・4 H - 45・46	歪んだ横長長方形	3.16	2.56	6.73	9	N - 122° - E
4号住居		A 6区	10世紀前葉	104・105	95	31・139	4 H・4 I - 49・50	横長長方形?	測定不可	測定不可	測定不可	6	N - 102° - E
5号住居		A 6区	11世紀前葉	105~108	96~98	31・32・139・140	4 N・4 O - 4・5	横長長方形	3.76	2.92	9.42	40	N - 97° - E
6号住居		A 6区	10世紀前葉	108・109	99	33・140	4 O・4 P - 5・6	縦長長方形	3.6	3.15	10.02	24	N - 102° - E
7号住居		A 6区	10世紀中葉	110・111	100・101	33・34・140	4 O・4 P - 7	縦長長方形	3.34	2.3	6.9	24	N - 92° - E
8号住居		A 6区	10世紀中葉	112~113	102・103	34・140	4 P・4 Q - 8・9	縦長長方形	3.8	3.0	10.47	22	N - 101° - E
9号住居		A 6区	10世紀代	114	104	34	4 P・4 Q - 10・11	方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	8.5	N - 105° - E
10号住居		A 6区	10世紀後葉	115~116	105・106	35・140	4 L・4 M - 4・5	横長長方形	4.42	3.4~3.7	14.88	50	N - 92° - E
11号住居		A 6区	11世紀前半	117~120	107~110	35・36・140・141	4 M・4 N - 1・2	方形	3.3	3.1	11.42	60	N - 85° - E
12号住居		A 6区	10世紀後葉	120~122	111~112	37・141~143	4 N・4 O - 2・3	横長長方形	4.92	3~3.5	15.26	35	N - 86° - E
14号住居		A 6区	10世紀中葉	123・124	113・114	37・143	4 M・4 N - 4~6	横長長方形	5.24	3.53	測定不可	25.5	N - 2° - W
15号住居		A 6区	10世紀前葉	125	115	38	4 K・4 L - 5・6	縦長長方形	3.6	2.56~2.9	9.88	5	N - 1° - W
16号住居		A 6区	10世紀前葉	126・127	116~117	38・143	4 K・4 L - 5・6	横長長方形	3.2	2.38	7.26	11	N - 90° - E
17号住居		A 6区	10世紀前葉	127・128	118	38・39・143	4 K・4 L - 6~8	方形	3.6	3.4	13.36	12	N - 96° - E
18号住居		A 6区	10世紀代	129	119	39	4 K - 7・8	歪んだ横長長方形	2.74	1.94	5.64	4	N - 101° - E
19号住居		A 6区	10世紀後葉	130・131	120・121	39・143	4 J・4 K - 8・9	長方形	5.8	3.54	20.11	25	N - 94° - E
20号住居		A 6区	11世紀前半	131~133	122・123	40・143	4 H・4 I - 7・8	隅丸長方形	3.42	2.84	測定不可	9.5	N - 97° - E
21号住居		A 6区	10世紀前葉	134	124	40・41・143	4 G - 8	縦長隅丸長方形	3.16	2.29	6.98	12.5	N - 90° - E
22号住居		A 6区	10世紀前葉	135・136	125・126	41・143・144	4 F・4 G - 7・8	やや歪んだ方形	2.58	2.56	6.33	29	N - 91° - E
23号住居		A 6区	10世紀前葉	136・137	127	41・42・144	4 E・4 F - 3~5	歪んだ横長長方形	測定不可	測定不可	測定不可	3.5	N - 82° - E
24号住居		A 6区	10世紀後葉	138~140	128~130	42・144・145	4 E・4 F - 9・10	横長長方形	3.24	2.58	9.52	20	N - 104° - E
25号住居		A 6区	10世紀中葉	140・141	131	42・43・145	4 E・4 F - 8・9	縦長長方形	2.42	2.14	5.39	32	N - 97° - E
27号住居		A 6区	10世紀中葉	142・143	132・133	43・145	4 I・4 J - 7・8	方形	3.18	3.12	9.67	23	N - 2° - E (電1)
28号住居		A 6区	10世紀中葉	143・144	134	44・145	4 M・4 N - 1・2	縦長長方形	測定不可	測定不可	測定不可	28	N - 90° - E
29号住居		A 6区	10世紀中葉	145・146	135・136	44・45・145	4 K・4 L - 10・11	横長長方形	3.5	2.9~3.1	10.67	13.5	N - 88° - E
30号住居		A 6区	10世紀中葉	146・147	137	45・145・146	4 K・4 L - 50・1	横長長方形	4.14	2.69	11.67	23	N - 93° - E
31号住居		A 6区	10世紀中葉	148・149	138・139	45・46・146	4 L・4 M - 1・2	横長台形	3.78	2.68~3.1	11.45	23.5	N - 1° - W
32号住居		A 6区	不明	150	140	46	4 J・4 K - 48	不明	測定不可	測定不可	測定不可	3.5	N - 75° - E (北壁)
33号住居		A 6区	10世紀後葉	150~152	141・142	46・47・146	4 L・4 M - 2・3	縦長長方形	3.24	2.74	測定不可	19.5	N - 2° - E
34号住居		A 6区	平安時代	152・153	143	47・146	4 P - 4・5	不明	測定不可	測定不可	測定不可	20	N - 2° - E
35号住居		A 6区	10世紀中葉	153	144	47	4 I・4 J - 1・2	歪んだ台形	2.4	1.7	4.33	21	N - 20° - W (東壁)
36号住居		A 6区	10世紀中葉	154・155	145・146	47・48・146	4 K・4 L - 2・3	隅丸方形	3.32	2.94	9.8	17	N - 13° - W
37号住居		A 6区	10世紀前葉	156	147		4 P・4 Q - 5	不明	測定不可	測定不可	測定不可	11	N - 7° - W (東壁)
38号住居		A 6区	10世紀中葉	156・157	148	48・147	4 D・4 E - 6・7	長方形あるいは方形	測定不可	測定不可	測定不可	12.7	N - 97° - E
39号住居		A 6区	10世紀中葉	158・159	149・150	48・49・147	4 F・4 G - 11・12	長方形あるいは方形	測定不可	測定不可	測定不可	24.4	N - 101° - E
40号住居		A 6区	10世紀前葉	159・160	151	49	4 F・4 G - 11・12	方形	2.6	2.5	測定不可	24	N - 96° - E
41号住居		A 6区	10世紀中葉	161	152	49	4 E・4 F - 12・13	方形	2.1	1.9	4.77	5	N - 95° - E
42号住居		A 6区	平安時代か	161・162	153	50	4 G - 13	不明	測定不可	測定不可	測定不可	19	N - 92° - E (南壁)
43号住居		A 6区	11世紀前葉	162・163	154・155	50・147	4 E - 9・10	横長長方形	3.5	2.9	12.74	6.6	N - 107° - E
44号住居		A 6区	平安時代か	163・164	156	50	4 C・4 D - 6・7	方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	21	N - 6° - E (西壁)
45号住居		A 6区	10世紀前葉	164	157	50	4 N - 11・12	方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	1	N - 90° - E
46号住居		A 6区	8世紀後半	165	158	50・51	4 K・4 L - 9・10	横長長方形	3.1	2.56	9.52	8.5	N - 48° - E
47号住居		A 6区	8世紀後半	166・167	159・160	51・147	4 I・4 J - 7・8	縦長長方形	2.8	1.94	6.47	12	N - 151° - E

第4章 遺構・遺物の一覧表

住居番号	調査時番号	発掘区	時期	掲載頁	掲載図版	写真図版	グリッド	形態	長辺 (m)	短辺 (m)	面積 (㎡)	残存壁高 (cm)	長軸方位
48号住居		A 6区	平安時代	167	161	51	4 P・4 Q-6・7	不明	測定不可	測定不可	測定不可	6.5	N-73°-E
49号住居		A 6区	11世紀前半	168	162	51・52	4 C・4 D-44・45	縦長隅丸長方形	3.2	1.8	6.52	17	N-86°-E
50号住居		A 6区	10世紀中葉	169~171	163~165	52・147・148	4 D・4 E-42・43	縦長長方形	4.36	3.36	測定不可	42	N-90°-E
51号住居		A 6区	10世紀中葉	172~175	166~168	52~54・148	4 A~4 C-43・44	横長長方形	5.0	3.64	17.46	52	N-82°-E
52号住居		A 6区	10世紀中葉	176~178	169~171	54・148・149	4 B・4 C-41・42	隅丸方形	2.96	2.9	9.67	27	N-98°-E
53号住居		A 6区	10世紀前半	179~181	172~174	55・149・150	3 Y・4 A・4 B-41・42	縦長長方形	4.06	2.74	測定不可	11	N-70°-E
54号住居		A 6区	10世紀中葉	182・183	175・176	55・150	4 A・4 B-42	横長長方形?	測定不可	測定不可	測定不可	22.5	N-80°-E
55号住居		A 6区	10世紀中葉	184・185	178	56・150	4 B・4 C-40・41	方形	3.16	3.1	測定不可	13	N-114°-E
56号住居		A 6区	10世紀中葉	186~188	179~181	56・57・150・151	3 Y・4 A-40・41	方形	2.54	2.54	7.33	26	N-89°-E
57号住居		A 6区	10世紀中葉	189・190	182・183	57・151	3 X・3 Y-40・41	縦長長方形	3.34	2.2	測定不可	14	N-94°-E
58号住居		A 6区	10世紀前半	191・192	184・185	57・58・151	4 A・4 B-38・39	横長長方形?	測定不可	測定不可	測定不可	17	N-98°-E
60号住居		A 6区	10世紀前半	192・193	186	58・59・151	3 X・3 Y-37~39	隅丸方形	4.71	4.1	測定不可	10	N-83°-E
61号住居		A 6区	10世紀後葉	194・195	187・188	59・152	3 W・3 X-39・40	横長長方形	測定不可	測定不可	測定不可	12	N-84°-E
62号住居		A 6区	10世紀中葉	195~198	189~191	59・60・152・153	3 U・3 V-38・39	隅丸長方形	3.66	3.2	11.45	8	N-91°-E
64号住居		A 6区	11世紀前半	199~201	192~194	60・61・153	3 U~3 W-36・37	隅丸台形	3.6	3.4	14.24	22.5	N-71°-E
65号住居		A 6区	10世紀後葉	201~203	195・196	61・153・154	3 T・3 U-33~35	台形	4.0	3.04	11.62	7	N-82°-E
66号住居		A 6区	10世紀前半	203・204	197	61・62・154	3 R・3 S-32・33	横長長方形	3.04	2.7	8.68	13	N-77°-E
67号住居		A 6区	平安時代	205	198	62	3 N・3 O-31・32	方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	0	N-42°-W(南東辺)
68号住居		A 6区	10世紀前半	205~207	199・200	62・63・154	4 B~4 D-43・44	横長長方形	3.94	3.02	測定不可	34	N-95°-E
69号住居		A 6区	10世紀中葉	207~213	201~206	63・64・154~156	4 C・4 D-42・43	横長長方形	3.5	2.92	10.3	21	N-105°-E
70号住居		A 6区	10世紀前半	214・215	207・208	64・156	4 C・4 D-41・42	隅丸台形	2.98	2.36	測定不可	13	N-13°-E
71号住居		A 6区	10世紀前半	215・216	209	64・65・156	3 X・3 Y-41・42	隅丸長方形?	測定不可	測定不可	測定不可	8	N-82°-E
72号住居		A 6区	10世紀中葉	217・218	210・211	65・156	3 U-36・37	隅丸長方形	2.96	2.3	7.96	5	N-78°-E
73号住居		A 6区	10世紀中葉	218~220	212・213	65・156・157	3 T・3 U-36	横長長方形	3.22	2.34	8.29	14	N-87°-E
74号住居		A 6区	平安時代	221~223	214~216	66・157	3 U・3 V-35・36	隅丸台形	2.62~3.76	3.06	10.75	21	N-93°-E
75号住居		A 6区	10世紀後葉	224・225	217・218	66・67・157	4 E~4 G-46・47	横長長方形	4.14	3.54	測定不可	26	N-89°-E
76号住居		A 6区	10世紀中葉	226・227	219・220	67・157・158	4 A・4 B-44・45	縦長長方形?	3.48	2.52	測定不可	2.5	N-92°-E
77号住居		A 6区	10世紀中葉	228~231	221~224	67・68・158・159	4 D・4 E-44・45	横長長方形	4.2	3.2	13.82	26	N-111°-E
78号住居		A 6区	10世紀前半	232・233	225・226	68・159	3 Y・4 A-40・41	横長長方形	4.14	3.16	測定不可	11.5	N-85°-E
79号住居		A 6区	10世紀中葉	233~235	227・228	68・69・159	4 D・4 E-42	不明	測定不可	測定不可	測定不可	24	N-83°-E(南壁)
80号住居		A 6区	10世紀前半	236・237	229・230	69・159	4 C・4 D-40・41	横長長方形?	測定不可	測定不可	測定不可	21	N-80°-E(北壁)
81号住居		A 6区	10世紀前半	238・239	231・232	69・70・159	3 W・3 X-40・41	横長長方形?	3.54	3.3	測定不可	4	N-79°-E
82号住居		A 6区	10世紀前半	239・240	233・234	70	3 P・3 Q-31・32	横長長方形	3.76	3.64	13.49	12	N-64°-E
83号住居		A 6区		183・184	177	55・56	4 B-42・43	不明	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	N-17°-E
84号住居		A 6区	平安時代か	240・241	235	70	4 D・4 E-41・42	方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	29	N-4°-W(東壁)
85号住居		A 6区	平安時代か	241	236	70	3 Y-44・45	隅丸方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	10	N-82°-E(西壁)
86号住居		A 6区	平安時代か	242~246	237~241	71・159・160	4 G-44	不明	測定不可	測定不可	測定不可	5	N-122°-E
87号住居		A 6区	平安時代か	247	242	71	3 H・3 I-21・22	長方形あるいは方形	測定不可	測定不可	測定不可	2.5	N-58°-E
88号住居		A 6区	9世紀後葉	247・248	243	71・72	3 H・3 I-23・24	方形	3.1	3.0	9.12	0	N-114°-E
89号住居		A 6区	平安時代か	248・249	244	72・160・161	3 J~3 L-26・27	方形	3.5	3.2	11.54	0	N-124°-E
90号住居		A 6区	10世紀前半	250	245	72	3 K・3 L-24・25	縦長長方形?	3.3	2.6	測定不可	0	N-109°-E
92号住居		A 6区	9世紀後葉	250・251	246	72・73・161	3 M・3 N-28・29	方形	2.7	2.7	7.89	4.8	N-130°-E
94号住居		A 6区	10世紀中葉	251	247	73・161	3 N-27・28	縦長長方形	2.6	2.34	6.52	0	N-90°-E
98号住居		A 6区	10世紀前半	252~254	248~250	73・162	3 K・3 L-24~26	歪んだ方形	4.1	3.9	17.94	14	N-105°-E
106号住居		A 6区	平安時代	254	251	74	3 G・3 H-23・24	不明	測定不可	測定不可	測定不可	0	N-58°-E(南西壁)
106号住居		A 6区	10世紀前半	255	252	66・162	4 A・4 B-42・43	不明	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	N-*
99号住居		A 7区	10世紀前半	255・256	253	74・162	5 F・5 G-22・23	長方形	測定不可	3.24	測定不可	7	N-108°-E
100号住居		A 7区	10世紀後葉	256	254	74	4 T-10・11	長方形あるいは方形	測定不可	測定不可	測定不可	15	N-13°-E(西壁)
96号住居		B 3区	10世紀中葉	257~259	255~257	75・161	2 V・2 W-46・47	縦長長方形	3.78	2.9	測定不可	20.5	N-119°-E
97号住居		B 3区	10世紀前半	260・261	258・259	75・161	2 W・2 X-48	長方形あるいは方形	測定不可	測定不可	測定不可	15	N-120°-E

第6表 三ツ木皿沼遺跡土坑一覧表

土坑番号	調査時番号	発掘区	掲載頁	掲載図版	掲載写真	グリット	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位	備考
縄文時代												
163号土坑	小角田22号土坑	A 2区	37	29	8	O・P-30・31	円形	1.12	*	0.40	N- 42° -E	
147号土坑	小角田1号土坑	A 3区	34	26	8・126	2K-50	隅丸長方形	1.84	0.55	0.44	N- 12° -W	
148号土坑	小角田2号土坑	A 3区	34	26	8・126	2K-50・1	長楕円形	1.80	0.53	0.23	N- 0° -E	
149号土坑	小角田3号土坑	A 3区	35	27		2M-1・2	楕円形	1.85	1.19	0.36	N- 4° -E	3号溝に切られる。
150号土坑	小角田4号土坑	A 3区	35	27	8・126	2M-4	不定長楕円形	2.00	0.68	0.62	N- 21° -W	
151号土坑	小角田5号土坑	A 3区	35	27	9	2M-3・4	長楕円形	2.04	0.59	0.52	N- 28° -W	
156号土坑	小角田10号土坑	A 3区	35	25	9	2O-3・4	長楕円形	2.51	0.69	0.45	N- 35° -W	3号溝に切られている。
152号土坑	小角田6号土坑	A 3区	36	28	9・126	2L-3	円形	0.96	*	0.39	*	
153号土坑	小角田7号土坑	A 3区	36	28	9・126	2N-2	円形	0.92	*	0.40	*	4号溝に切られる
157号土坑	小角田12号土坑	A 3区	37	29	9	2N-4	楕円形	0.82	0.63	0.31	N- 50° -E	
120号土坑	A 4区6号土坑	A 4区	37	29		2U-12	楕円形	0.76	0.61	0.38	N- 15° -E	
123号土坑	A 4区9号土坑	A 4区	37	29	10	2W-11・12	楕円形	2.10	1.28	0.34	N- 28° -E	
124号土坑	A 4区10号土坑	A 4区	37	29	10・127	2V・2W-12	円形	1.82	*	1.06	*	
8号土坑		A 6区	38	30	10・126	4G・4H-48	円形	0.98	*	0.20	*	4号土坑より古い。
10号土坑		A 6区	38	30	11・127	4H-48	円形	1.25	*	0.21	*	
115号土坑		A 6区	38	30	11	4D-44・45	楕円形	1.44	1.18	0.49	N- 0° -E	
古墳時代												
141号土坑	1017号土坑	A 2区	79	71	22・137	V-36・37	楕円形	1.04	0.82	1.08	N- 89° -E	
145号土坑	1021号土坑	A 7区	81	74	22・137	2V-13	円形	0.64	*	0.43	*	
平安時代												
164号土坑	小角田23号土坑	A 2区	261	260	76	R-35	円形	1.56	*	0.70	*	
122号土坑	A 4区8号土坑	A 4区	262	261	76	2W-13	円形	1.13	*	0.32	*	
1号土坑		A 6区	262	261	76	4I・4J-49・50	円形	1.10	*	0.80	*	2号住より新しい。
4号土坑		A 6区	262	261	76	4G・4H-48	円形	0.99	*	0.10	*	8号土坑より新しい。
5号土坑		A 6区	262	261		4F・4G-48	円形	1.28	*	0.28	*	5・6号土坑の新旧関係は不明。
6号土坑		A 6区	262	261		4F・4G-48	円形	0.88	*	0.22	*	5・6号土坑の新旧関係は不明。
11号土坑		A 6区	262	261	77	4H・4I・47・48	円形	1.03	*	0.24	*	
13号土坑		A 6区	262	261	77	4H-46	円形	0.82	*	0.74	*	
15号土坑		A 6区	263	262	77	4H-46・47	円形	0.68	*	0.12	*	
16号土坑		A 6区	263	262	77	4I-49	円形	0.81	*	0.07	*	
25号土坑		A 6区	263	262	77・165	4L-3	円形	0.94	*	0.40	*	
29号土坑		A 6区	263	262	78	4N-3	円形	0.72	*	0.08	*	
32号土坑		A 6区	263	262	78	4N-7	円形	0.74	*	0.10	*	
36号土坑		A 6区	263	262	78	4O・4P-4	円形	0.98	*	0.26	*	
38号土坑		A 6区	263	262	78	4I・4J-10	円形	1.30	*	0.32	*	
42号土坑		A 6区	263	262	78・79	4P-7	円形	1.15	*	0.14	*	
43号土坑		A 6区	264	263	79	4O-6・7	円形	1.40	*	0.42	*	
44号土坑		A 6区	264	263	79	4O-6	円形	0.86	*	0.10	*	
45号土坑		A 6区	264	263	79	4O-4	円形	0.78	*	0.10	*	
52号土坑		A 6区	264	263	79・80	4M-3	円形	0.82	*	0.19	*	
53号土坑		A 6区	264	263	80	4M-3	円形	1.05	*	0.08	*	
62号土坑		A 6区	264	263	80	4F-9	円形	0.82	*	0.15	*	
63号土坑		A 6区	264	263	80	4F-9						62号土坑と重複。
64号土坑		A 6区	264	263	80	4G-10	円形	1.53	*	0.15	*	
68号土坑		A 6区	265	264	80・165	4A・4B-44	円形	0.74	*	0.28	*	51号住と重複。
70号土坑		A 6区	265	264	81	4A-42	円形	1.48	*	0.34	*	53号住より新しい。
73号土坑		A 6区	265	264	81・165	4A・4B-42	円形	1.20	*	0.33	*	53号住より新しい。
78号土坑		A 6区	265	264	81・165	4F-45	円形	0.73	*	0.14	*	
82号土坑		A 6区	266	265	81	4D-45	円形	1.03	*	0.27	*	
94号土坑		A 6区	266	265	82・165	4A-41・42	円形	1.51	*	0.55	*	53号住より新しい。
96号土坑		A 6区	267	266	82・165	4B-42	円形	0.71	*	0.49	*	
100号土坑		A 6区	267	266	82	3U-37	円形	0.82	*	0.07	*	
138号土坑	1014号土坑	B 2区	267	266	82	2H-33・34	円形	0.65	*	0.55	*	
140号土坑	1016号土坑	B 2区	267	266		2A-27	円形	0.44	*	1.15	*	
160号土坑	小角田15号土坑	A 2区	280	183	94・95	N・O-30	長楕円形	1.06	0.50	0.10	N- 28° -E	
121号土坑	A 4区7号土坑	A 4区	267	267		2V-12・13	楕円形	1.60	0.87	0.12	N- 10° -E	
7号土坑		A 6区	267	267		4H-50	楕円形	1.31	1.10	0.65	N- 20° -E	
9号土坑		A 6区	267	267	82	4F-47・48	楕円形	1.08	0.82	0.15	N- 23° -E	
14号土坑		A 6区	263	262	77	4H-46・47	楕円形	*	0.50	0.15	N- 57° -W	
17号土坑		A 6区	268	268	77	4I-48・49	楕円形	0.83	0.63	0.05	N- 68° -E	
18号土坑		A 6区	268	268	77	4I-48	楕円形	0.91	0.80	0.07	N- 40° -E	
22号土坑		A 6区	268	268	82・83	4J-1・2	楕円形	0.97	0.47	0.06	N- 90° -E	
24号土坑		A 6区	268	268	83	4J・4K-1	楕円形	1.98	1.12	0.19	N- 93° -E	
26号土坑		A 6区	268	268	83	4I・4J-50	楕円形	1.19	1.08	0.18	N- 52° -E	
27号土坑		A 6区	268	268	83	4N-4	楕円形	1.14	1.02	0.13	N- 14° -W	
28号土坑		A 6区	268	268	83	4M・4N-4	楕円形	1.41	0.85	0.06	N- 18° -W	
30号土坑		A 6区	268	268	84	4M-3・4	楕円形	1.00	0.86	0.07	N- 48° -W	
33号土坑		A 6区	268	268	84	4N-7・8	楕円形	0.95	0.70	0.13	N- 17° -W	
35号土坑		A 6区	269	269	84	4O・4P-4	楕円形	2.08	1.13	0.43	N- 10° -E	
47号土坑		A 6区	269	269	84	4J・4K-8・9	楕円形	1.44	1.12	0.30	N- 90° -E	
49号土坑		A 6区	269	269	85	4H・4I-9	楕円形	1.85	1.25	0.40	N- 90° -E	
50号土坑		A 6区	269	269	85	4J-9・10	楕円形	1.73	0.95	0.14	N- 3° -E	
51号土坑		A 6区	269	269	85	4J・4K-10	楕円形	1.28	0.80	0.28	N- 14° -E	
55号土坑		A 6区	270	270	85・86・165	4H-7・8	大形楕円形	3.26	2.43	0.46	N- 1° -E	
57号土坑		A 6区	269	269	86	4L-1	楕円形	0.83	0.70	0.38	N- 1° -E	30号住貯蔵穴の可能性が有る。

第4章 遺構・遺物の一覧表

土坑番号	調査時番号	発掘区	掲載頁	掲載図版	掲載写真	グリット	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位	備考
58号土坑		A 6区	271	271	86	4K-2	楕円形	1.05	0.76	0.05	N-16°-W	
59号土坑		A 6区	271	271	86	4J-2	楕円形	1.31	0.72	0.15	N-92°-W	
66号土坑		A 6区	271	271	86・87	4K-49	楕円形	1.03	0.62	0.12	N-50°-E	
69号土坑		A 6区	271	271	87	4A-41・42	楕円形	1.68	0.97	0.27	N-24°-W	53号住より新しい。
72号土坑		A 6区	271	271	87	3X-40	楕円形	0.84	—	0.24	N-35°-W	
76号土坑		A 6区	271	271	87	4A・4B-42・43	楕円形	2.56	2.16	0.31	N-33°-W	
77号土坑		A 6区	272	272	87	4F-47	楕円形	1.56	1.20	0.20	N-7°-W	77号住と重複。
88号土坑		A 6区	272	272	88	4A-43	楕円形	0.45	0.36	0.14	N-48°-E	
91号土坑		A 6区	272	272	88・165	4A-43	楕円形	1.12	0.86	0.46	N-24°-W	
93号土坑		A 6区	272	272	88	4A・4B-41	楕円形	1.04	0.83	0.19	N-18°-W	
98号土坑		A 6区	273	273	88・166	3X-39	楕円形	2.08	1.56	0.23	N-95°-E	長径・短径は復元長。
101号土坑		A 6区	272	272	82・88	3U-37	楕円形	1.02	0.89	0.11	N-22°-E	
105号土坑		A 6区	272	272	88	4A-43・44	楕円形	1.10	0.76	0.13	N-16°-W	
106号土坑		A 6区	272	272	88	3Y・4A-43・44	楕円形	1.02	0.90	0.12	N-24°-W	
107号土坑		A 6区	273	273	88	3Y-43	楕円形	0.82	1.06	0.35	N-87°-E	
108号土坑		A 6区	273	273	88	3Y-43	楕円形	0.57	0.80	0.13	N-87°-E	
109号土坑		A 6区	273	273	89	3Y-43	楕円形	1.38	1.00	0.15	N-90°-E	
110号土坑		A 6区	274	274	70・89・165	3Y-44	楕円形	0.75	0.67	0.15	N-0°-E	
111号土坑		A 6区	274	274	70・89・165	3Y-44	楕円形	0.81	0.65	0.46	N-6°-W	住居の可能性はないのか。
112号土坑		A 6区	274	274	89	4B-45	楕円形	1.22	0.77	0.35	N-40°-W	
113号土坑		A 6区	274	274	89	4D-44・45	楕円形	1.84	0.91	0.26	N-10°-W	
118号土坑	4M-50G土坑	A 6区	274	274	89	4L・4M-1	大形楕円形	2.20	1.89	0.14	N-80°-E	
127号土坑	1003号土坑	A 6区	275	275	90	3M-28	楕円形	0.70	0.54	0.14	N-40°-E	
128号土坑	1004号土坑	A 6区	275	275	90	3I-21	楕円形	0.95	0.56	0.35	N-52°-E	
131号土坑	1007号土坑	A 6区	275	275	90	3N-27	楕円形	0.48	0.39	0.09	N-105°-W	
144号土坑	1020号土坑	A 6区	275	275	90	3L・3M-25	楕円形	1.64	0.83	0.06	N-53°-W	
137号土坑	1013号土坑	B 2区	275	275	90・91	2J-35	楕円形	1.58	0.88	0.39	N-32°-E	
139号土坑	1015号土坑	B 2区	276	276	91	2A-27	楕円形	1.22	1.02	0.30	N-18°-W	
146号土坑	1022号土坑	B 2区	276	276	91	2B-28	楕円形	2.26	1.85	0.22	N-20°-W	
39号土坑		A 6区	276	277	91	4H-9	隅丸方形	1.12	0.71	0.12	N-82°-E	
40号土坑		A 6区	276	277	91	4H・4I-10	隅丸方形	0.95	0.68	0.13	N-51°-W	
46号土坑		A 6区	277	278	91・166	4L-9	隅丸方形	1.30	1.08	0.16	N-18°-E	
48号土坑		A 6区	276	277	91・92・165	4J-9	隅丸方形	1.25	1.05	0.65	N-18°-E	
56号土坑		A 6区	277	278	92	4H・4I-12・13	隅丸方形	1.10	1.01	0.11	N-90°-E	
60号土坑		A 6区	277	278	92	4I-2	隅丸方形	1.44	1.22	0.24	N-60°-E	
61号土坑		A 6区	277	278	92	4I-2	隅丸方形	1.32	1.12	0.26	N-117°-W	
71号土坑		A 6区	277	278	92	3Y-39・40	隅丸方形	1.32	1.15	0.18	N-83°-E	
79号土坑		A 6区	277	278	93	4E-46	隅丸方形	1.30	1.23	0.38	N-0°-E	
81号土坑		A 6区	266	265	81	4D-45	隅丸方形	0.91	0.74	0.06	N-48°-E	
87号土坑		A 6区	278	279	87・93	4A-43	隅丸方形	1.37	1.29	0.18	N-50°-W	
89号土坑		A 6区	278	279	87・93	4A-42・43	隅丸方形	1.69	1.34	0.22	N-82°-E	
95号土坑		A 6区	278	279		4F-45	隅丸方形	1.15	1.05	0.30	N-3°-E	
99号土坑		A 6区	278	279	93	4B-42・43	隅丸方形	2.47	2.34	0.39	N-2°-W	
102号土坑		A 6区	279	280	93	4B-41	隅丸方形	1.68	1.63	0.43	N-16°-W	
103号土坑		A 6区	279	280	93・94	4A-40	隅丸方形	1.21	1.17	0.31	N-0°-E	
119号土坑		A 6区	101・102	92	29	4I-49	隅丸方形	0.93	—	0.28	N-9°-E	2号住の図に併載。
31号土坑		A 6区	279	281	94	4M-6	隅丸長方形	1.20	0.79	0.24	N-4°-E	
75号土坑		A 6区	279	281	94・166	3W-38・39	隅丸長方形	1.48	0.85	0.19	N-18°-E	
80号土坑		A 6区	280	282	94	4D・4E-44	隅丸長方形	2.09	1.42	0.42	N-76°-E	
92号土坑		A 6区	280	282	82・94	4B・4C-42	隅丸長方形	1.60	1.10	0.55	N-41°-W	
159号土坑	小角田14号土坑	A 2区	280	283	94・95	O-30	長方形	2.41	0.71	0.15	N-7°-E	
2号土坑		A 6区	281	284	95	4G-46・47	長方形	1.60	1.12	0.21	N-34°-E	3号住より新しい。
20号土坑		A 6区	281	284	95	4O-3	長方形	2.07	0.65	0.76	N-15°-W	
54号土坑		A 6区	281	284	95・166	4K・4L-3・4	細長方形	3.02	0.78	0.60	N-9°-W	
74号土坑		A 6区	281	284		3Y-37・38	長方形	3.54	0.75	0.16	N-71°-W	60号住と重複。
86号土坑		A 6区	282	285	96・166	4B・4C-40・41	長方形	1.32	0.81	0.10	N-50°-W	55号住より新しい。
90号土坑		A 6区	282	285	87・96	3Y・4A-42	長方形	1.68	1.11	0.41	N-65°-E	
114号土坑		A 6区	282	285	89	4C・4D-45	長方形	1.74	0.91	0.23	N-107°-W	
125号土坑	1001号土坑	A 6区	282	285	96・166	3M-27・28	長方形	0.96	0.72	0.27	N-38°-E	
126号土坑	1002号土坑	A 6区	283	286	96・166	3M-27	長方形	0.82	0.51	0.59	N-55°-W	
132号土坑	1008号土坑	B 2区	283	286	96	W-24	長方形か？	—	0.47	0.63	N-48°-E	
134号土坑	1010号土坑	B 2区	283	286	96	2C-28	長方形	1.03	0.78	0.19	N-80°-W	
135号土坑	1011号土坑	B 2区	283	286	97	2D-29	長方形	2.70	0.83	0.28	N-3°-E	
142号土坑	1018号土坑	B 3区	283	286	97	2T-44	長方形	2.16	1.33	0.15	N-20°-E	
143号土坑	1019号土坑	B 3区	283	286	97	2W-46・47	長方形	1.94	0.64	0.18	N-25°-E	
161号土坑	小角田16号土坑	A 2区	280	283	94・95	N・O-30	不定形	1.08	1.06	0.10	N-12°-E	
158号土坑	小角田13号土坑	A 3区	284	287	97・98	2N-4	不整形	1.10	0.93	0.37	N-38°-E	
3号土坑		A 6区	284	287	98	4H-46	不定形	0.74	0.60	0.11	N-58°-W	3号住と重複。
12号土坑		A 6区	284	287	98	4H-49	不定形	1.40	1.15	0.29	N-23°-W	
41号土坑		A 6区	284	287	98	4G・4H-10	不定形	1.45	1.22	0.16	N-91°-E	
67号土坑		A 6区	284	287	98	4H・4I-46	不定形	1.26	—	0.47	N-46°-W	
116号土坑		A 6区	284	287	98	4K-49	不定形	1.20	0.83	0.28	N-60°-W	旧65号土坑
129号土坑	1005号土坑	A 6区	285	288	99・166	3N・3O-29	不定形	1.39	—	0.10	N-50°-E	
130号土坑	1006号土坑	A 6区	285	288	99	3O・3P-28	不定形	0.80	0.77	0.17	N-28°-W	
133号土坑	1009号土坑	B 2区	285	288	99	W-24・25	不定形	1.67	—	0.24	N-132°-E	
136号土坑	1012号土坑	B 2区	285	288	99	2C-29	不定形	1.90	—	0.43	N-47°-W	
近世												
162号土坑	小角田21号土坑	A 2区	320・321	314・315	117・174	N-31	円形	1.10	*	0.81	*	4号住を切る。

第7表 三ツ木皿沼遺跡溝一覧表

溝番号	調査時番号	発掘区	掲載頁	掲載図版	掲載写真	グリッド	最大幅(m)	最小幅(m)	深さ(m)	調査長(m)	走向方位	備考
14号溝	小角田10号溝	A2区	323	316	118	P-31	0.58	—	0.12	—	N- 88° -W	10号溝・5号住・6号住と重複。
15号溝	小角田11号溝	A2区	323	316		O-29・30	0.68	0.52	0.18	東西1.94 南北3.14	N- 83° -W N- 0° -E	17号土坑・3号住と重複。 地割溝と考えられる。
16号溝	小角田12号溝	A2区	323	316	118	Q・R-34	0.95	—	0.36	4.58	N- 87° -W	19号土坑・8号住と重複。 8号住より新しい。
17号溝	小角田13号溝	A2区	323	316	118	R・S-34	0.80	—	0.48	4.68	N- 90° -E	20号土坑・7号住と重複。
12号溝	小角田7号溝	A2区	324	317	118	M~O-30・31	1.00	0.46	0.46	8.00	N-113° -W	7号溝・4号住と重複。4号住を切る。
13号溝	小角田8号溝	A2区	324	317	118	N-28~30	1.25	1.13	0.08	5.78	N- 14° -E	8号溝・4号住と重複。4号住より新しい
7号溝	小角田1号溝	A3区	325	318	118・119	2J~2L-50	0.66	0.35	0.12	7.48	N- 87° -W	
8号溝	小角田2号溝	A3区	325	318	118・119	2J~2M-50・1	2.28	0.84	0.20	11.75	N- 82° -W	地割の溝と思われる。
9号溝	小角田3号溝	A3区	326	319	119・174	2M~2P-1~4	1.02	0.60	0.25	19.40		ほぼ東西弧状 3号土坑を切る。4号溝を切る。
10号溝	小角田4号溝	A3区	327・328	320	119	2M~2Q-1~6	1.50	1.10	0.78	22.88	南北弧状	3号溝に切られる。7号土坑(縄文)を切る。 直径35mの円墳周溝の可能性ある。
11号溝	小角田5号溝	A3区	327・328	320	119・120	2L~2O-6	0.80	—	0.10	17.40	東西弧状	砂及びラミナの堆積から、用水路の可能性が高い。1、2号周溝より新しい。
18号溝	A4区1号溝	A4区	324	317	120	2Y・3A-13~15	3.00	—	0.60	11.00	N- 5° -E	
1号溝		A6区	329・330	321	120・121	4C~4Q-3~11	1.74	0.78	0.41	68.40	N- 55° -W N- 62° -W	
2号溝		A6区	331	322	121	4E~4F-50~3	0.84	0.68	0.20	13.50	南北弧状	
3号溝		A6区	331	322	121	4D-4・5	0.92	—	0.42	4.22	N- 50° -E	1号溝より古い。
4号溝		A6区	12	12		3R~3U-32~39						
5号溝		A6区	332	323	121	4B・4C-43~45	1.06	0.80	0.60	6.50	N- 23° -W	
6号溝		A6区	313	307	121	3M~3P-29・30	1.36	—	0.95	5.20	N- 67° -E	
19号溝	1001号溝	A6区	333	324	122・174	3H~3O-21~29	1.05	0.78	0.22	44.00	N- 44° -W	
20号溝	1004号溝	A7区	332	323		4V・4W-12・13	0.80	—	0.46	5.50	南北弧状	北東端で145号土坑と重複するが新旧関係は不明。
21号溝	1002号溝	B2区	334	325		W・X-25	0.87	—	—	4.02	N- 77° -W	上武道路本線調査小角田前遺跡 27号溝
22号溝	1003号溝	B2区	334	325	122・174	2A・2B-27・28	0.68	—	0.70	6.16	N- 84° -W	
23号溝	1005号溝	B2区	335	326	122	2H~2K-33~35	1.01	0.38	0.14	17.20	東西弧状	

第4章 遺構・遺物の一覧表

第8表 三ツ木皿沼遺跡 土器埋設土坑一覧表

番号	旧番号	発掘区	時期	掲載頁	掲載図版	掲載写真	グリッド	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位
1		A 4区	後期廻ノ内式	31・32	23・24	7・125	2W-12	楕円形	0.93	0.7	0.37	N-117° -E
2		A 4区	後期廻ノ内式	31・33	25	7・125	2W-14	楕円形	0.75以上	0.8	不明	N-10° -E

第9表 三ツ木皿沼遺跡 墓関連遺構一覧表  
周溝墓

番号	旧番号	発掘区	時期	掲載頁	掲載図版	掲載写真	グリッド	形態	方台部長(m)	周溝幅(m)	周溝深さ(m)	長軸方位
1		A 3区	古墳時代前期	82~84	75・76	23・24・137	2K~2N-2~6	方形	9.6	北 2.56	0.63	N-18° -W
										西 2.8	0.82	
										南 3.5	1.26	
2		A 3区	古墳時代前期	85	77	24	2K~2O-6・7	方形	不明	不明	不明	不明

古墳

番号	旧番号	発掘区	時期	掲載頁	掲載図版	掲載写真	グリッド	形態	直径(m)	周溝幅(m)	周溝深さ(m)	長軸方位
1	1号周溝	A 4区	古墳時代中期	86	78	25・137	2V~2X-10~13	円形	23.8	1.68	0.32	*
2	1号古墳	B 2区	古墳時代後期	87・88	79	11・26	2E~2I-30~34	方形	14	3.27	0.26	N-27° -W
3	2号古墳	B 3区	古墳時代後期	87・89	80	26・137	2O~2R-39~41	円形	不明	2.38	0.68	*

第10表 三ツ木皿沼遺跡 鉄生産関連遺構一覧表  
炉

番号	旧番号	発掘区	時期	掲載頁	掲載図版	掲載写真	グリッド	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位
1		A 6区	平安時代	290・291	292・293	100・166・167	4A-42	楕円形	1.45	0.75	0.12	N-12° -W
2		A 6区	平安時代	291~295	294~296	101・167~170	4A-39	楕円形	1.40	1.05	0.17	N-90° -E

関連土坑

番号	旧番号	発掘区	時期	掲載頁	掲載図版	掲載写真	グリッド	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位
60号住居上層	60住内	A 6区	平安時代	295・296	296	102・103・170	3X・3Y-38					
83		A 6区	平安時代	297・298	298	103・104・171	3Y-37・38	円形	1.16	*	0.36	*
84		A 6区	平安時代	297・299	299	104	3Y-38	楕円形	0.95	0.8	0.2	N-90° -E
97		A 6区	平安時代	297・299	299	104・171	3X-37・38	楕円形	0.72	0.65	0.33	N-62° -E
85		A 6区	平安時代	297・299	299	104	3X-38・39	楕円形	1.19	0.93	0.26	N-112° -E

第11表 三ツ木皿沼遺跡 畠一覧表

番号	発掘区	時期	掲載頁	掲載図版	付図	掲載写真	遺構面	面積(m <sup>2</sup> )
1	A 6区 北区	平安時代	308	302	2	105	171 最上面畠	250
2	A 6区 北区	平安時代	308~309	303	2	105~108	172 上面畠	2140
3	A 6区 北区	平安時代	310		3	105・109・110	下面畠	2231
4	A 6区 北区	平安時代	310	304	3	110	拡張区最下面畠	210
5	A 6区 北区	平安時代	312	305	4	111	最下面畠	408
6	A 6区 中央区	平安時代	313~315	306	5	112	I面	1196
7	A 6区 中央区	平安時代	313~315	306	5	112	2面	
8	A 6区 中央区	平安時代	315		6	113・114	3面	1050
9	A 6区 中央区	平安時代	316	307	7	114・115	4面	1040
10	A 6区 中央区	平安時代	217		7	115	5面	77
11	A 6区 南区	平安時代	318		8	4	I面	154
12	A 6区 南区	平安時代	319		9	116	II面	319
13	A 7区	平安時代	319		10	116		41
14	B 3区 北区	平安時代	320	310	11	116		321
15	B 3区 南区	平安時代	320・321		11	116		

第12表 三ツ木皿沼遺跡 その他の遺構一覧表  
祭祀遺構

番号	旧番号	発掘区	時期	掲載頁	掲載図版	掲載写真	グリッド	形態
1		A 6区	10世紀後葉	286・287	289・290	99・164	4H-5	

竪穴状遺構

番号	旧番号	発掘区	時期	掲載頁	掲載図版	掲載写真	グリッド	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位
1		A 4区	近世	322~324	311~313	117・172・173	2T・2U-10・11	隅丸方形	3.7	3.18	不明	N-90° -E

第13表 三ツ木皿沼遺跡出土遺物観察表

108号住居出土遺物観察表 第18図～第22図・P L123、124、125

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	石器 石鏃	完形	長さ 2.0 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.51	4E-45G 遺物包含層	石材黒色安山岩。	素材剥片の形態は不明である。入念な二次加工により成形されている。	
2	石器 石鏃	完形	長さ 2.2 幅 1.7 厚さ 0.3 重さ 0.55	4E-46G 遺物包含層	石材黒曜石。	素材剥片の形態は不明である。入念な二次加工により成形されている。	
3	石器 打製石斧	完形	長さ 7.8 幅 5.5 厚さ 1.7 重さ 7.9	4E-46G 遺物包含層	石材黒色頁岩。	片面に自然面を残す。	
4	石器 コア	完形	長さ 5.6 幅 6.1 厚さ 3.6 重さ 139.1	4F-46G 遺物包含層	石材黒色頁岩。	小形礫を分割したもの、あるいは厚形剥片を石核の素材とする。最大長 2 cm 程度の小形剥片を剝離した痕跡有り。	
5	石器 敲石	完形	長さ 11.6 幅 9.0 厚さ 3.8 重さ 550	4E-46G 遺物包含層	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な楕円形の礫。上下の平らな面は磨られており、上下両面の中央に敲打痕が残る。両側面にも敲打痕が残る。	
6	縄文土器 深鉢	口縁～体部上位3/8	器高 20.6残存 口径 (20.4)	炉	波状口縁の深鉢。波頂部から胴部にかけて橋状把手が付される。沈線により文様構成されるが、区画内には縄文、刺突文はみられない。整形は良好で、内外面とも平滑である。	称名寺Ⅱ式	
7	縄文土器 深鉢	体部上位～下位	器高 29.0残存	4E-46G 遺物包含層	沈線により J・Y 字文が構成され、区画内には刺突文が加えられる。器面は平滑で、外面には縦位、内面には横位の整形痕が残る。	称名寺Ⅱ式	
8	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 破片	器高 29.0残存 口径 (29.8)	4E-46G 遺物包含層	小平口縁の深鉢。口唇は外側に面を持つ。口縁無文帯下に沈線が走り、以下に格子文が施される。	称名寺Ⅱ式	
9	縄文土器 深鉢	口縁～頸部	器高 10.2残存 口径 13.9	4E-46G 遺物包含層	波状口縁の深鉢。小型の深鉢で無文である。	加曾利 B 式?	
10	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 22.0残存 口径 (31.8)	4E-46G 遺物包含層	水平口縁の深鉢。口唇は外側に面を持つ。沈線により J・Y 字文が構成され、区画内には部分的に縄文が加えられる。施文は粗雑で、不明瞭であるが、軸繩 L R による附加条第 1 種縦位とみられる。沈線は半載竹管状工具が用いられ、主として外側の施文であるが、部分的に内側が利用されている。口縁下に補修孔を穿つが、貫通しないも認められる。	称名寺Ⅱ式	
11	縄文土器 深鉢	口縁～体部下位2/3	器高 29.7残存 口径 27.0	炉	水平口縁の深鉢。口唇上部に平坦面を持つ。沈線により J 字文や弧状文が構成される。区画内には縄文や列点文等は施されない。沈線は深く明瞭である。胴部上半は赤化し、下半はススの付着が見られる。	称名寺Ⅱ式	
12	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 10.6残存	4E-46G 遺物包含層	口唇部は内側に段を持つ。波頂部には渦状の把手が付され、その両側に沈線が加えられる。沈線による区画内には L 帯が施されるが、施文方位は不規則で、条走向は一定しない。	堀ノ内式	
13	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 13.5残存	炉	波頂部には渦状の小突起が付され、内側には円形刺突文が加えられる。沈線により文様が構成されるが、縄文は認められない。	堀ノ内Ⅱ式	
14	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 9.4残存	4E-46G 遺物包含層	把手内側には円形の沈線、刺突文が加えられる。口唇は短く内側に内折し、外側に面を持つ。	堀ノ内式	
15	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 6.3残存	4E-45G 遺物包含層	波頂部に渦状の突起が付される。口唇はやや直立きみで、外側に面を持つ。	堀ノ内Ⅰ式	
16	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 8.8残存	4E-46G 遺物包含層	把手部分。	称名寺Ⅱ式	
17	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 8.0残存	4E-46G 遺物包含層	口縁波頂部の円孔の両側に弧状の沈線が加えられる。器面には横位の整形痕が明瞭に残る。	堀ノ内Ⅰ式	
18	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 7.1残存	4E-46G 遺物包含層	波状口縁の深鉢。波頂部には円形の刺突文が加えられる。	称名寺Ⅱ式	
19	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 7.5残存	4E-46G 遺物包含層	口唇部は肥厚し、上端は丸みを持つ。	称名寺Ⅱ式	
20	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 6.0残存	4E-46G 遺物包含層	弧状の沈線間に刺突文が加えられる。	称名寺Ⅱ式	
21	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 13.0残存	4E-46・4F-47G 遺物包含層	沈線により J 字文が構成され、区画内には刺突文が加えられる。	称名寺Ⅱ式	
22	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 18.9残存	4F-46G 遺物包含層	水平口縁の深鉢。広い口縁無文帯下に深く明瞭な沈線が走る。胴部は沈線による J 字文等が構成され、区画内には縄文が施される。縄文は原体の繊維が硬質であるため、擦りが判別できない。	称名寺Ⅱ式	
23	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 12.5残存	4E-46G 遺物包含層	口唇外側に面を持つ。沈線により J・Y 字文が構成されるが、施文は丁寧である。	称名寺Ⅱ式	
24	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 8.9残存	炉	口唇が短く内折し、外側に沈線が走る。沈線により J 字文が構成され、器面には整形に伴う擦痕が多数残る。	称名寺Ⅱ式	
25	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 11.8残存	4E-45G 遺物包含層	波状口縁の深鉢。口唇は短く内折し、外側に面を持つ。沈線は深く明瞭である。	称名寺Ⅱ式	
26	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 16.3残存	炉	沈線により J 字文、懸垂文が施される。縄文、列点文等は認められない。	称名寺Ⅱ式	
27	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 5.4残存	4E-45G 遺物包含層	沈線は深く明瞭で J 字文が構成され、区画内には列点文が加えられる。	称名寺Ⅱ式	
28	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 11.4残存	炉	沈線により格子文が構成される。	加曾利 B 3 式?	
29	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 21.1残存	炉	沈線により J 字文等が構成される。区画内には刺突文が加えられる。施文は粗雑で、沈線の表出も不規則である。	称名寺Ⅱ式	
30	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 17.3残存	炉	沈線により文様構成され、区画内には刺突文が加えられる。沈線は深く明瞭である。	称名寺Ⅱ式	
31	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 11.4残存	4E-46G 遺物包含層	集合条線が垂下する。2 帯認められるが、両者の条線の施文状態が類似しているため、8 本 1 単位の節歯状工具による可能性がある。	称名寺Ⅱ式	
32	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 7.5残存	4E-45・46G 遺物包含層	沈線による区画内には、集合条線が加えられる。断面には、土器製作に伴う接合面の刻目が観察される。	称名寺Ⅰ式	

## 第4章 遺構・遺物の一覧表

1号土器埋設土坑出土遺物観察表 第24図・P L125

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	ほぼ完形	器高 56.9 口径 42.0 底径 11.6	土坑中央部・横 位・底面直上	胎土・焼成・色調・石材等	口縁下からY字状隆帯文を垂下させ、交差部以下には刻み目に加えられる。縄文はLRが用いられ、施文方位は不規則である。	堀ノ内I式
2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 7.8残存	埋没土中	胎土・焼成・色調・石材等	口唇は尖りぎみで、外側に段を持つ。沈線により横位、弧状、斜位の文様が構成される。施文は丁寧で明瞭である。	堀ノ内II式

2号土器埋設土坑出土遺物観察表 第25図・P L125

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口縁～体部下位1/6	器高 62.5残存 口径 (41.8)	土坑中央部・横 位・底面上5cm	胎土・焼成・色調・石材等	J字状および弧状沈線文により文様が構成される。施文はやや不規則で縄文は加えられない。	称名寺II式
2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 8.1残存	北部 面上10cm	胎土・焼成・色調・石材等	口唇は内側に段を持つ。口縁に沈線が巡り、以下に矢羽根状、斜行沈線が施される。器面は平滑で、内外面に横位の整形痕が残る。	堀ノ内II式

147号土坑出土遺物観察表 第26図・P L126

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 11.1残存	埋没土中	胎土・焼成・色調・石材等	波状口縁の深鉢。把手部が欠損する。隆線文に沿って沈線が巡り文様が構成される。	堀ノ内I式

148号土坑出土遺物観察表 第26図・P L126

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	破片	器高 3.0残存	埋没土中	胎土・焼成・色調・石材等	沈線により横走縄文、同心円文が構成される。地文には、Rt 縦位が施される。	加曾利B1式

150号土坑出土遺物観察表 第27図・P L126

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 5.5残存	埋没土中	胎土・焼成・色調・石材等	口唇は短く内折する。横位の隆線には刻み目に加えられる。器面は平滑で、内外面には横位の整形痕が残る。	堀ノ内II式
2	縄文土器 深鉢	底部 2/3	器高 5.5残存 底径 8.3	埋没土中	胎土・焼成・色調・石材等	底部はやや張り出しぎみで、底面は平坦である。一部にRt 横位がみられる。	

152号土坑出土遺物観察表 第28図・P L126

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	破片	器高 9.1残存	中央部 底面上32cm	胎土・焼成・色調・石材等	把手部分。器面は平滑で整形は丁寧である。把手下に弧状の沈線が認められる。	称名寺II式
2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 10.0残存	中央部 底面上14cm	胎土・焼成・色調・石材等	波状口縁の深鉢。口唇上は平坦面となる。沈線は施文が不規則で、細く鋭い沈線と、浅く太い沈線がみられる。	称名寺II式
3	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 7.0残存	中央部 底面上6cm	胎土・焼成・色調・石材等	口縁が開く鉢形。沈線によりJ字文、弧状文が構成され、施文は丁寧で棒状工具が用いられる。縄文や列点文は認められない。	称名寺II式
4	縄文土器 深鉢	破片	器高 9.4残存	中央部 底面上3cm	胎土・焼成・色調・石材等	沈線によりJ字文が構成される。縄文や列点文は認められない。	称名寺II式
5	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 15.4残存	中央部 底面直上	胎土・焼成・色調・石材等	胴部中央が括れる深鉢。沈線は施文がやや粗雑で、J字文が構成される。区画内に加えられる列点文も粗雑である。	称名寺II式

153号土坑出土遺物観察表 第28図・P L126

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 8.1残存	南西壁際 床面直上	胎土・焼成・色調・石材等	懸垂する沈線は太く明瞭である。間隔はやや不規則であるが、ほぼ一指幅程度となる。地文には縄文が施される。節の形状を観察すると前々段合燃(異節縄文)の可能性もあるが、沈線により消失する部分もあり、確定できない。断面には土器製作に伴う刻目が認められる。接合関係はないが2と同一個体とみられる。	堀ノ内I式
2	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 8.3残存	南西壁際 床面直上	胎土・焼成・色調・石材等	懸垂する沈線は太く明瞭である。間隔はやや不規則であるが、ほぼ一指幅程度となる。地文には縄文が施される。節の形状を観察すると前々段合燃(異節縄文)の可能性もあるが、沈線により消失する部分もあり、確定できない。断面には土器製作に伴う刻目が認められる。接合関係は1と同一個体とみられる。	堀ノ内I式
3	縄文土器 深鉢	底部	器高 14.3残存 底径 11.0	南西壁際 床面直上	胎土・焼成・色調・石材等	深鉢の底部。底面は平坦で、器面には整形に伴う縦位のミガキが施される。	

124号土坑出土遺物観察表 第29図・P L127

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	頸部破片	器高 8.1残存	中央部西寄り 底面上39cm	胎土・焼成・色調・石材等	頸部が強く屈曲する深鉢。太沈線により、楕円文が施され、その周囲に列点文が加えられる。地文にはL形縦位が施される。下半部は無文となる。	称名寺II式
2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 8.3残存	中央部東寄り 底面上14cm	胎土・焼成・色調・石材等	口唇上端は平坦面を持つ。口縁に幅広い無文帯があり、横位の沈線下には集合条線が加えられる。	称名寺II式

8号土坑出土遺物観察表 第30図・P L126

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	石器 石鏃	完形	長さ 1.4 幅 1.5 厚さ 0.2 重さ 0.46	北西壁際 底面上13.5cm	石材黒曜石。	素材剥片の形態は不明であるが、入念な二次加工により成形されている。	
2	石器 石鏃	完形	長さ 1.4 幅 1.4 厚さ 0.3 重さ 0.2	北西壁際 底面上18.5cm	石材黒曜石。	素材剥片の形態は不明であるが、入念な二次加工により成形されている。	
3	石器 石鏃	完形	長さ 2.3 幅 1.7 厚さ 0.4 重さ 1.6	埋没土中	石材黒色安山岩。	未成品の可能性有り。本石器は大量のチップ(黒色安山岩)とともに8号土坑より出土した。チップには石鏃加工時に生じると考えられる物が存在した。	
4	石器 ピエスキュー	完形	長さ 2.7 幅 2.5 厚さ 1.1 重さ 6.6	埋没土中	石材チャート。	上下端に両極技法によると考えられる剝離痕が濃密に認められる。	
5	縄文土器 深鉢	口縁～体部破片	器高 11.6残存 底径 (17.8)	南東壁際 底面上13.5cm	胎土・焼成・色調・石材等	隆線によりJ字文および弧状文が施され、隆線両端に沈線が加えられる。口縁には楕状把手をもち、緩やかな波状口縁を呈する。	堀ノ内I式

10号土坑出土遺物観察表 第30図・P L 127

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	石器 ドリル	完形	長さ 2.9 幅 2.3 厚さ 0.5 重さ 1.5	埋没土中	石材チャート。	先端部にドリルとしての使用時に生じたと考えられる微細剥離痕有り。	

A 3 区の包含層出土遺物観察表 第31図・P L 127

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	破片	器高 10.8 残存	1号方形周溝墓 周辺ローム層上面		深く明瞭な沈線により文様構成され、隆帯懸垂文上には刻目が加えられる。区画内にはL <sub>1</sub> 縦位が施される。	称名寺I式
2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 6.4 残存	1号方形周溝墓 周辺ローム層上面		口唇外側に面を持ち、この部分に浅い円形の刺突文が巡る。沈線がみられるが、文様構成は不明である。	称名寺II式
3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 5.8 残存	1号方形周溝墓 周辺ローム層上面		緩やかな波状口縁の深鉢。波頂部に縦位の円形刺突文が施され、その両側に太沈線が巡る。垂下する沈線間にはR <sub>1</sub> 縦位が施される。縄文、沈線とも不明瞭である。	堀ノ内I式
4	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 5.2 残存	1号方形周溝墓 周辺ローム層上面		尖りぎみの口唇部を持ち、外側に沈線が巡る。弧状の沈線が複数加えられ、地文には、R <sub>1</sub> 縦位が観察される。	堀ノ内I式
5	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 8.8 残存	1号方形周溝墓 周辺ローム層上面		沈線によりJ字文が構成される。区画内には不明瞭であるが、L <sub>1</sub> が加えられる。施文方位は不規則で条走向は一定しない。	称名寺I式
6	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 5.7 残存	1号方形周溝墓 周辺ローム層上面		口唇は短く内折し、外側に面を持つ。平行する低い隆帯上には、D字形の刻目が加えられる。	堀ノ内II式
7	縄文土器 深鉢	体部破片	器高 8.7 残存	1号方形周溝墓 周辺ローム層上面		沈線により格子状、矢羽根状の文様が構成される。沈線は深く鋭い。地文にはL <sub>1</sub> が加えられるが、施文方位は不規則で条走向は一定しない。	堀ノ内II式
8	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 8.8 残存	1号方形周溝墓 周辺ローム層上面		口唇は丸みを持つ。口縁下沈線間に極めて不明瞭であるが、浅く細い刻目が観察される。弧状の沈線間には、L <sub>1</sub> 縦位が施される。	加曾利B式?
9	石器 二次加工 ある剥片	完形	長さ 3.1 幅 4.4 厚さ 0.8 重さ 15.37	表土内	石材チャート。	剥片を素材とし、主要剥離面と背面側の両方に二次加工痕が認められる。	

B 2・B 3 区の包含層出土遺物観察表 第32図・P L 127、128

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 5.6 残存	2号古墳 埋没土中		波状口縁?口唇は丸みを持つ。沈線は深く明瞭である。	称名寺II式
2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 8.0 残存	3号古墳 埋没土中		口唇は内側に段を持ち、外側に太沈線が一条巡る。沈線により楕円文が構成され、地文にはR <sub>1</sub> 縦位が施される。	堀ノ内I式
3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 7.4 残存	3号古墳 埋没土中		口唇下に太沈線が一条巡る。器面には浅く不明瞭な縄文が施される。節が観察されないため、R <sub>1</sub> 縦位の可能性がある。	
4	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 6.3 残存	3号古墳 埋没土中		口唇は僅かに内折する。口縁下に刻目を持つ隆起縄文が一条巡り、その上に8の字状の貼付文が加えられる。弧状の沈線は深く明瞭で、区画内には粗雑なR <sub>1</sub> 縦位が施される。	堀ノ内II式
5	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 4.5 残存	2号古墳 埋没土中		把手部分。口唇は丸みを持ち、口縁に沿って沈線が巡る。	堀ノ内I式
6	縄文土器 深鉢	把手	器高 8.5 残存	3号古墳 埋没土中		把手部分。	称名寺II式
7	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 5.1 残存	3号古墳 埋没土中		口唇は内側に段を持ち、外側には沈線が巡る。器内外面とも平滑で、横位の整形痕が明瞭に観察できる。	加曾利B 1式
8	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 4.3 残存	2号古墳 埋没土中		頸部がくの字状に屈曲する浅鉢。突出部に棒状工具による刻目が加えられ、内側には沈線が巡る。器面には横位の整形痕が残る。	加曾利B式
9	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 5.6 残存	3号古墳 埋没土中		口唇上端は平坦面を持つ。5条巡る横位の沈線間には刻目が加えられる。なお、沈線は全周しないものもあり、上から2条目の沈線は一ヶ所途切れる部分がある。	加曾利B 1式
10	縄文土器 不明	体部破片	器高 3.7 残存	3号古墳 周堀没土中		細い沈線により弧状文がみられる。縄文はR <sub>1</sub> で沈線文を施した後に加えられる。器内外面とも平滑である。	堀ノ内I式
11	縄文土器 深鉢	体部~底部	器高 16.0 残存 底径 10.2	2号古墳 J-34G		底面は平坦。器外面には整形に伴う縦位のミガキ痕が明瞭に残る。	
12	石器 石錘	完形	長さ 4.6 幅 3.5 厚さ 1.0 重さ 21.16	3号古墳 埋没土中	石材緑色片岩。	上下端に石錘加工の為の剥離痕が認められる。	
13	石器 敲石	完形	長さ 8.6 幅 7.3 厚さ 4.5 重さ 340	2号古墳 埋没土中	石材粗粒輝石安山岩。	上下面および小口の片面に敲痕が残る。	
14	石器 石斧	上端欠損	長さ 7.2 幅 7.5 厚さ 2.8 重さ 160	3号古墳 埋没土中	石材粗粒輝石安山岩。	片面に自然面を大きく残し、中央部で破損している。	
15	石器 石斧	上端欠損	長さ 8.3 幅 8.7 厚さ 2.5 重さ 235	2号古墳 埋没土中	石材黒色頁岩。	片面に自然面を大きく残し、中央部で破損している。	
16	石器 打斧	完形	長さ 9.1 幅 5.8 厚さ 2.0 重さ 90	2号古墳 埋没土中	石材黒色頁岩。	片面に自然面を残す。剥片素材と考えられる。	

A 4 区の包含層出土遺物観察表 第33図・P L 128

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	体部下半~底部1/2	器高 12.7 残存 底径 9.8	2X Y-12~14G		底面はやや上げ底気味。器外面に縦位の整形痕が残る。	
2	石器 石鏃	完形	長さ 1.2 幅 2.0 厚さ 0.3 重さ 0.49	表土	石材黒色頁岩。	石鏃の一部に素材剥片の段階の剥離面を残す。薄形の小形剥片を素材としていていると考えられる。	

A 6 区中央区の包含層出土遺物観察表 第33図・P L 128

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口縁~体部破片	器高 13.2 残存	3V-37G包含層 黒色粘質土		波状口縁の深鉢。沈線により弧状の文様が構成される。沈線は浅く不明瞭である。	称名寺式
2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 9.0 残存	3T-37G包含層 灰褐色粘土		口唇は僅かに内折する。刻目を持つ隆線は低くやや不明瞭な部分もある。沈線による区画内には、L <sub>1</sub> 横位が加えられる。	堀ノ内II式
3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 3.4 残存	3T-37G包含層 灰褐色粘土		小波状口縁の深鉢。波頂部内側には円形の小突起が付される。刻目を持つ隆線には、8の字状の貼付文が加えられる。	堀ノ内II式
4	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 6.5 残存	3V-38G包含層 黒色粘質土		器面の剥落が著しい。浅い太沈線が横位に加えられる。	堀ノ内I式
5	縄文土器 注口		器高 4.5 残存	3T-37G包含層 灰褐色粘土		注口土器。把手下に注口が付されるが、注口部は欠損する。	堀ノ内I式

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
6	石器 二次加工 ある剥片	完形	長さ 3.3 幅 3.0 厚さ 1.0 重さ 8.85	3 V-37 G	石材黒色頁岩。	小形剥片を素材とし、主要剥離面側に二次加工痕が認められる。	

A 6区ローム台地周辺出土土物観察表 第35図・P L 129、165

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 10.5残存	4 G-49 G		口唇部はやや尖りぎみで、内側に段を持つ。沈線の施文は明瞭である。	称名寺II式
2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 6.3残存	4 G-49 G		口唇は丸みを持つ。沈線は深く明瞭で、区画内には刺突文が加えられる。	称名寺II式
3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 6.6残存	埋没土中		口縁上には、8の字状の小突起が付される。口唇は僅かに内折し、内側には平行する沈線が施される。口縁部には沈線により横位、渦状の文様が構成され、沈線間にはL <sub>8</sub> 横位がみられる。	堀ノ内II式
4	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 5.3残存	南西部 床面上3cm		波状口縁の深鉢。波頂部には小突起が付され、沈線、円形文が加えられる。	加曾利B1式
5	縄文土器 蓋	ほぼ完形	器高 2.9 底径 5.7	78号土坑西部 底面上16cm		逆台形の手づくね整形。外面を4分割して、連弧状の沈線文が施されている。内面には縁に巾1.5cmの文様帯が段で区切られ、外面と同様な連弧文状の沈線文が施されているが、外面のように4分割はされていない。	堀ノ内I式
6	石器 石鏃	完形	長さ 2.1 幅 2.4 厚さ 0.9 重さ 3.37	4 J-50 G	石材チャート。	石鏃の未成品と考えられる。	
7	石器 ピエスエスキュー	完形	長さ 2.0 幅 2.5 厚さ 0.7 重さ 4.79	4 G-48 G	石材黒色安山岩。	一側面に打断痕が認められるが、上下端に両極技法によると考えられる剝離痕が認められることから、ピエスエスキューと判断した。	
8	石器 石鏃	左欠損	長さ 2.1 幅 2.6 厚さ 0.7 重さ 5.02	2号住居埋 没土中	石材黒色安山岩。	石鏃の未成品と考えられる。先端の欠損は製作時の破損と考えられる。	
9	石器 石鏃	完形	長さ 3.4 幅 2.4 厚さ 1.0 重さ 9.22	77号住居埋 没土中	石材チャート。	石鏃の未成品と考えられる。	

A 6区低地部出土土物観察表 第36図・P L 129

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口縁～体部中位1/3	器高 33.0残存 口径(42.0)	4 O-8 G		水平口縁の深鉢。口唇下に折り返し状の隆帯を巡らせ、指頭による刺突を加える。胴部には文様は認められない。	堀ノ内I式
2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	器高 6.9残存	4 I-5 G 砂礫層中		口唇はやや尖りぎみ。斜行する2条の沈線は深く明瞭であり、この沈線帯両側には不規則な平行縄文が加えられる。	称名寺II式
3	石器 磨石	完形	長さ 10.3 幅 3.9 厚さ 2.1 重さ 140	灰褐色粘土層	石材緑色片岩。	断面が扁平な棒状の小さな礫。片目が磨られている。	
4	石器 二次加工 ある剥片	完形	長さ 7.8 幅 2.3 厚さ 1.1 重さ 21.79	灰褐色粘土層	石材黒色頁岩。	大形剥片を素材とし、一側面の主要剥離面側と背面側の両方に二次加工痕が認められる。	

低地部出土土物観察表 第37図・P L 129、137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	ほぼ完形	器高 3.3 口径 10.8	B 3区12層上面	胎土砂粒・赤色粒・小石を含む。 焼成酸化焙。色調におい橙。	外面口縁部横ナデ。底部篋削り。内面口縁～底部丁寧ナデ。	
2	土師器 坏	口縁～底部 1/5	器高 3.3残存 口径(9.9)	B 3区12層上面	胎土砂粒・小石を含む。 焼成酸化焙。色調におい橙。	外面口縁部横ナデ。	
3	土師器 坏	口縁～底部 1/2	器高 9.4 口径(10.7)	4 M-7 G	胎土細砂を多量に含む。 焼成酸化焙。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。底部横・斜め方向篋削り。内面口縁部横ナデ。体部～底部丁寧ナデ。	
4	土師器 埴	口縁～体部下位1/3	器高 11.5残存 口径 10.0	4 H-9 G 黒色土中	胎土赤色鉱物細粒を含む。 焼成酸化焙。色調灰白。	外面口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ後、横・斜め方向篋磨き。内面口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。	
5	土師器 坏	口縁～底部	器高 4.8残存 口径 12.0	4 O-3 G 黒色土上面	胎土細砂を含む。 焼成酸化焙。色調におい橙。	外面口縁部横ナデ。底部篋削り。内面口縁部横ナデ。底部丁寧ナデ。	
6	土師器 甕	口縁～底部 2/3	器高 21.6 口径 19.1 底径 6.4	4 L・K-5・6 G 黒色土中	胎土微細砂を多く含む。 焼成酸化焙。色調におい橙。	外面口縁部横ナデ。体部上半縦方向篋磨き。体部下半横方向篋ナデ。底部篋ナデ。内面口縁部横ナデ。体部～底部横方向篋ナデ。	
7	須恵器 甕	口縁～底部 2/5	器高 44.0 口径(22.4)	5 G-23 G 黒色土中	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元焙。色調灰。	外面口縁部8本1単位の櫛描波状文を2段施文。体部～底部平行タタキ。内面口縁部横ナデ。体部同心円タタキ。	丸底。
8	土師器 高坏	口縁～脚部	器高 7.0残存 口径(15.8)	5 G-23 G 黒色土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焙。色調橙。	外面坏部横ナデ。下位篋ナデ。脚部横ナデ。内面坏部横ナデ。脚部横ナデ。	口縁部スス付着。
9	土師器 高坏	坏底部～脚部 1/3	器高 4.3残存 底径(10.1)	5 G-23 G 黒色土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焙。色調におい橙。	内外面ナデ調整。	黒い物付着。
10	土師器 高坏	脚部破片	器高 2.1残存 底径(11.3)	5 G-23 G 黒色土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焙。色調におい橙。	内外面ナデ。	

110号住居出土土物観察表 第40、41図・P L 129、130

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁～底部 1/3	器高 3.8残存 口径(11.6)	竈右横 床面上4cm	焼成酸化焙。色調明赤褐。	外面口縁部横ナデ。底部篋削り。内面口縁部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器 坏	口縁～底部 1/8	器高 4.0残存 口径(12.8)	埋没土中	胎土砂粒を多く含む。焼成酸化焙。 色調におい黄橙。内面黒褐。	外面口縁部横ナデ。底部篋削り。内面口縁～底部丁寧ナデ。	
3	土師器 坏	口縁～底部 1/6	器高 3.3残存 口径(12.9)	埋没土中	胎土砂粒を多く含む。焼成酸化焙。 色調におい赤褐。	外面口縁部横ナデ。底部篋削り。内面口縁～底部丁寧ナデ。	
4	土師器 坏	口縁～底部 1/8	器高 4.0残存 口径(12.8)	竈埋没土中	胎土砂粒を含む。焼成酸化焙。 色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部篋削り。内面口縁～底部横ナデ。	
5	土師器 坏	口縁～底部 1/2	器高 4.7残存 口径 14.2	竈埋没土中	胎土細砂を含む。焼成酸化焙。 色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部篋削り。内面口縁部～底部一部に横方向篋磨きが残る。	
6	石器 棒状礫	完形	長さ 11.3 幅 3.2 厚さ 3.3 重さ 120	南東壁際 床面上13.5cm	石材角閃石安山岩。	断面台形の棒状礫。広い二面に磨り面が残る。	
7	石器 棒状礫	完形	長さ 11.2 幅 4.5 厚さ 3.8 重さ 285	北西部壁寄り 床面上1.5cm	石材粗粒輝石安山岩。	断面隅丸台形の棒状礫。片面の中央に敲打痕が残る。	

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
8	石器 棒状礫	完形	長さ 10.4 幅 5.9 厚さ 2.2 重さ 225	北西部壁寄り 床面上2.5cm	石材粗粒輝石安山岩。	断面の扁平な小礫。	
9	石器 棒状礫	完形	長さ 13.1 幅 4.7 厚さ 4.3 重さ 390	北西部土坑 底面上1cm	石材雲母石英片岩。	断面円形の棒状礫。顕著な使用面は認められなかった。	
10	石器 棒状礫	上端欠損	長さ 12.5 幅 6.2 厚さ 4.3 重さ 430	埋没土中上位	石材粗粒輝石安山岩。	断面三角形の棒状礫。	
11	石器 棒状礫	完形	長さ 15.5 幅 7.2 厚さ 3.6 重さ 545	南東壁際 周溝底上20cm	石材デイスイト。	断面の扁平な小礫。	
12	石器 棒状礫	完形	長さ 15.9 幅 8.6 厚さ 6.4 重さ 1250	南東壁際 周溝底上22cm	石材溶結凝灰岩。(奥日光)	断面隅丸方形の小礫。	
13	石器 敲石	破片	長さ 7.1 幅 6.5 厚さ 3.0 重さ 170	埋没土中上位	石材石英閃緑岩。	扁平礫の破片。	
14	石器 凹み石?	完形	長さ 10.6 幅 8.3 厚さ 3.3 重さ 370	埋没土中下位	石材粗粒輝石安山岩。	楕円形の扁平な小礫。両面の中央に小さな敲打痕が残る。	
15	石器 円盤形	完形	長さ 11.8 幅 10.5 厚さ 2.7 重さ 420	東部 床面上6cm	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の礫。裏面の一部に敲打痕が認められる。	
16	石器 敲石	完形	長さ 9.7 幅 8.0 厚さ 3.6 重さ 350	埋没土中上位	石材粗粒輝石安山岩。	やや厚い円盤形の小礫。側面の1カ所に敲打痕が残る。	
17	石器 敲石	一部欠損	長さ 9.0 幅 9.6 厚さ 3.8 重さ 360	埋没土中上位	石材粗粒輝石安山岩。	表裏全面に磨り面がある。側面の1カ所とその周辺に敲打痕が残る。	
18	石器 円盤形	破片	長さ 8.2 幅 7.2 厚さ 2.6 重さ 120	埋没土中上位	石材粗粒輝石安山岩。	扁平礫の破片。	
19	石器 石製模造品	上下端欠損	長さ 2.1 幅 1.3 厚さ 0.6 重さ 2.13	埋没土中	石材珪質粘板岩。	左右には面取りがあり、丁寧に整形されている。両面に擦痕が残る。	
20	石器 石製模造品	破片	長さ 2.0 幅 1.7 厚さ 0.5 重さ 1.77	埋没土中	石材珪質粘板岩。	左右には面取りがあり、丁寧に整形されている。両面に擦痕が残る。	
21	石器 石製模造品	上下端欠損	長さ 1.9 幅 1.8 厚さ 0.4 重さ 1.85	埋没土中位	石材珪質粘板岩。	左右には面取りがあり、丁寧に整形されている。両面に擦痕が残る。	
22	石器 石製模造品	上下端欠損	長さ 1.7 幅 2.1 厚さ 0.5 重さ 2.30	埋没土中	石材珪質粘板岩。	左右には面取りがあり、丁寧に整形されている。両面に擦痕が残る。	
23	石器 石製模造品	破片	長さ 2.7 幅 2.0 厚さ 0.5 重さ 1.9	埋没土中	石材珪質粘板岩。	はがれたような厚さの不均一なところがある。両面に擦痕が残る。	
24	石器 石製模造品	破片	長さ 3.2 幅 1.7 厚さ 0.4 重さ 1.53	埋没土中位	石材珪質粘板岩。	はがれたような厚さの不均一なところがある。両面に擦痕が残る。	
25	石器 石製模造品	破片	長さ 3.3 幅 1.5 厚さ 0.2 重さ 1.03	埋没土中位	石材頁岩。	はがれたような厚さの不均一なところがある。片面に擦痕が残る。	
26	石器 石製模造品	破片	長さ 2.4 幅 2.9 厚さ 0.3 重さ 2.02	埋没土中	石材珪質粘板岩。	半円形の石製模造品の未成品。片面に擦痕が残る。	
27	石器 石製模造品	下端欠損	長さ 4.3 幅 2.0 厚さ 5.1 重さ 6.78	埋没土中	石材珪質粘板岩。	表面の左右には面取りがあり、肉厚に丁寧に整形されている。表面の中央には擦痕が残る。裏面は磨かれている。	
28	石器 有孔円板	完形	長さ 2.8 幅 3.6 厚さ 0.5 重さ 6.78	南東壁寄り 床面上18cm	石材珪質粘板岩。	上端中央に1個小穿孔がある。片面に擦痕が残る。	
29	石器 有孔円板	完形	長さ 3.0 幅 3.0 厚さ 0.6 重さ 6.39	埋没土中	石材珪質粘板岩。	中央に並んで2個小穿孔がある。片面に擦痕が残る。	
30	石器 石製模造品	破片	長さ 4.3 幅 4.0 厚さ 0.7 重さ 11.0	埋没土中	石材珪質粘板岩。	半円形の石製模造品の未成品。片面に擦痕が残る。	

111号住居出土遺物観察表 第43図・P L130

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	完形	器高 4.6 口径 13.3	南部 床面上3cm	胎土砂粒・赤色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁部～底部横ナデ。	内面の摩滅が著しい。
2	土師器 小型甕	完形	器高 12.4 口径 13.8	中央やや東部 床面直上	胎土砂粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部～底部寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部寛ナデ。	底部に直径2cmの穿孔がある。
3	土師器 小型甕	ほぼ完形	器高 13.3 口径 14.4 底径 4.8	中央やや南部 床面上4cm	胎土砂粒・白色粒子を多く含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。中位～下半斜め方向寛削り。底部寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部上半横方向寛ナデ。下半摩滅が著しい。	
4	土師器 小型甕	ほぼ完形	器高 19.6 口径 17.7	竈焚口部 使用面直上	胎土砂粒・白色粒子を多く含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部上位～下半縦方向寛削り。下位斜め方向寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	
5	土師器 甕	ほぼ完形	器高 38.1 口径 21.7 底径 4.5	竈燃焼部 使用面直上	胎土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位斜め方向寛削り。中位縦方向寛削り。下部横方向寛削り。底部寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部～底部横方向寛ナデ。	

112号住居出土遺物観察表 第46図・P L130、131

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	ほぼ完形	器高 4.6 口径 11.1	東壁際 床面直上	焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。周縁のみナデ。内面口縁部横ナデ。底部丁寧ナデ。	
2	土師器 坏	完形	器高 4.7 口径 12.2	東壁際 床面直上	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい黄橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁部横ナデ。底部丁寧ナデ。	
3	土師器 坏	ほぼ完形	器高 4.8 口径 11.8	南西部 床面上4cm(散在)	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁部横ナデ。底部丁寧ナデ。	
4	土師器 坏	口縁～底部 5/6	器高 5.2 口径(12.3)	東部壁際 床面直上	焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁部横ナデ。底部丁寧ナデ。指頭による凹凸が少し残る。	
5	須恵器 蓋坏の身	完形	器高 4.9 口径 9.7	東壁際 床面上11cm	胎土砂粒・小石を含む。 焼成還元焰。色調灰白。	外面口縁部横ナデ。底部回転寛削り。内面口縁～底部回転ナデ。	
6	土師器 甕	体部下位～底部	器高 16.7残存 底径 8.7	中央やや北部 床面直上	胎土砂粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調灰白。	外面体部下位縦方向寛削り。内面体部下位横方向寛ナデ。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
7	土師器 小型甕	口縁～体部上位1/4	器高 5.4残存 口径(12.4)	南部床面上6cm 甕前	胎土細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調灰黄褐色。	外面口縁～頸部横ナデ。体部縦・斜め方向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方向ナデ。	
8	土師器 甕	口縁～底部 3/4	器高 31.1 口径(17.1) 底径(7.0)	南部 床面直上	胎土砂粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。頸部ナデ。体部上半巾狹の縦方向ナデ。中位横方向ナデ。下位斜め方向ナデ。最下部縦・斜め方向ナデ。底部寛削り。内面口縁部横ナデ。体部～底部横方向ナデ。	
9	土師器 甕	口縁～底部 1/3	器高 34.0 口径(17.4) 底径(6.0)	西部 床面上10.5cm	胎土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面口縁部横ナデ。頸部ナデ。体部上半斜め方向ナデ。下位縦方向ナデ。底部寛削り。内面口縁部横ナデ。頸部下から底部横方向ナデ。	
10	土師器 甕	口縁～体部上位1/8	器高 10.2残存 口径(18.6)	北東部 床面上10.3cm	胎土砂粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調灰白。	外面口縁～頸部横ナデ。粘土痕残る。体部上位縦方向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ。	
11	土師器 甕	口縁～体部下位1/2	器高 34.0 口径(17.2) 底径 7.8	南部 床面上4.5cm	胎土細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	口縁部横ナデ。頸部横方向ナデ。体部上位～中位縦方向ナデ。一部に横方向ナデ。下位斜め方向ナデ。最下位丁寧ナデ。底部寛削り。内面口縁部～頸部横ナデ。体部～底部横方向ナデ。	
12	石器 棒状礫	下端欠損	長さ 14.8 幅 6.2 厚さ 5.4 重さ 650	西隅 床面上20cm	石材粗粒輝石安山岩。	断面三角形の棒状礫。	
13	石器 棒状礫	完形	長さ 15.1 幅 5.7 厚さ 4.1 重さ 490	中央やや東寄り 床面上4cm	石材変質安山岩。	断面三角形の棒状礫。一面に剝離痕が顕著に見られる。	
14	石器 磨石	完形	長さ 16.1 幅 13.9 厚さ 7.3 重さ 2990	南東壁際 床面直上	石材アサイト。	断面長方形の大型方形礫。上面は磨られている。	
15	石器 棒状礫	完形	長さ 10.2 幅 5.3 厚さ 3.5 重さ 310	西隅 床面上19cm	石材石英閃緑岩。	断面楕円形の礫。上下両面に磨り面が残る。	

113号住居出土遺物観察表 第49、50図・P L131、132

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 鉢	ほぼ完形	器高 12.9 口径 22.8	中央部 床面直上	胎土砂粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ。下半斜め方向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方向ナデ。	
2	土師器 小型甕	口縁～体部下位2/5	器高 14.2残存 口径 10.9	甕右袖脇 床面直上	胎土砂粒・赤色粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位斜め方向ナデ。中位～下位縦方向ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向ナデ。	
3	土師器 甕	口縁～頸部破片	器高 5.0残存 口径(16.9)	埋没土中	胎土砂粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調明赤褐色。	外面口縁部横ナデ。頸部指ナデ。内面口縁部横ナデ。頸部指ナデ。	
4	土師器 甕	口縁～体部上位2/3	器高 5.1残存 口径(22.0)	甕右脇貯蔵穴 底面上8.5cm	胎土砂粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ。	
5	土師器 甕	口縁～体部中位1/8	器高 13.4残存 口径(23.4)	南東壁際 床面上20.5cm	胎土砂粒を少量含む。 焼成酸化焰。色調明赤褐色。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位縦方向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ。	
6	土師器 甕	体部下半～底部1/8	器高 14.2残存 底径 4.0	埋没土中	胎土砂粒を多く含む。焼成酸化焰。 色調にぶい黄褐色。内面にぶい橙。	外面体部下半縦方向ナデ。底部寛削り。内面体部下位～底部寛ナデ。	
7	土師器 甕	口縁～体部上位	器高 13.4残存 口径 20.4	甕燃焼部 使用面上14.5cm	胎土砂粒・赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位縦方向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ。	
8	土師器 甕	口縁～体部上半1/3	器高 12.8残存 口径(22.4)	甕燃焼部 使用面上4cm	胎土砂粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい橙。内面橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ。上半縦方向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方向ナデ。	
9	土師器 甕	口縁～体部上位1/2	器高 14.4残存 口径(19.2)	甕右脇貯蔵穴 底面上12.5cm	胎土砂粒・白色粒を多量に含む。 焼成酸化焰。色調明赤褐色。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位縦方向ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向ナデ。	
10	土師器 甕	口縁～体部 2/3	器高 19.8残存 口径 21.7	中央部 床面上2.5cm	胎土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部斜め・縦方向ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向ナデ。	
11	土師器 甕	口縁～底部 2/3	器高 38.1 口径 20.5 底径 3.0	甕焚口部 使用面上6cm	胎土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部縦方向ナデ。底部寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。底部横方向ナデ。	
12	土師器 甕	ほぼ完形	器高 37.6 口径 21.2 底径 4.6	甕焚口部 横位	胎土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部縦・斜め方向ナデ。底部寛削り。内面口縁部横ナデ。体部横方向ナデ。	
13	土師器 甕	口縁～体部下位	器高 31.4残存 口径 21.1	甕右脇 床面上10cm	胎土砂粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部斜め・縦方向ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向ナデ。	
14	土師器 坏	ほぼ完形	器高 4.2 口径 11.8	南隅 床面上25cm	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～底部丁寧ナデ。	
15	土師器 坏	口縁～底部 3/4	器高 3.8 口径 11.3	北東壁際 床面上8cm	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調暗赤褐色。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～底部丁寧ナデ。	
16	土師器 坏	口縁～底部 3/4	器高 4.0 口径 11.2	南東部 床面上7cm	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～底部横ナデ。	
17	土師器 坏	口縁～底部 3/4	器高 4.0 口径 11.8	甕右脇貯蔵穴 底面上11.5cm	胎土砂粒・赤色粒を含む。 焼成酸化焰。色調明赤褐色。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～底部丁寧ナデ。	
18	土師器 坏	口縁～底部 1/4	器高 4.1 口径 11.8	中央部 床面上6cm	胎土砂粒・赤色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～底部丁寧ナデ。	
19	土師器 坏	完形	器高 4.5 口径 12.8	南東壁際 床面上22cm	焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～底部丁寧ナデ。	
20	土師器 坏	口縁～底部 1/4	器高 4.5 口径 12.8	埋没土中	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい赤褐色。内面黒褐色。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁部～底部ナデ。	
21	土師器 坏	口縁～底部 1/3	器高 4.3残存 口径(14.2)	南隅 床面上18cm	胎土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調黒褐色。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～底部丁寧ナデ。	

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
22	須恵器 甕	頸部～体部上位破片	器高 4.5残存	埋没土中	胎土砂粒・白色粒を含む。 焼成還元焰。色調褐色。内面灰。	外面平行タタキ目文。内面同心円文。	
23	石器 棒状礫	完形	長さ 12.2 幅 4.4 厚さ 3.4 重さ 270	埋没土中	石材粗粒輝石安山岩。	断面隅丸方形の棒状礫。	
24	石器 棒状礫	下端の一角を 欠損	長さ 11.2 幅 5.2 厚さ 3.0 重さ 220	南東壁寄り 床面直上	石材チャート。	断面長方形の棒状礫。	
25	石器 棒状礫	完形	長さ 12.0 幅 5.0 厚さ 3.7 重さ 330	南隅壁際 床面上5cm	石材雲母石英片岩。	断面方形の棒状礫。	
26	石器 棒状礫	完形	長さ 14.1 幅 4.2 厚さ 2.9 重さ 240	南隅壁際 床面上3cm	石材変質緑岩。	断面楕円形の棒状礫。片面に磨り面が残る。	
27	石器 球形軽石	完形	長さ 7.6 幅 6.7 厚さ 4.7 重さ 190	北隅壁際 床面上4cm	石材角閃石安山岩。	断面楕円形の球状の軽石。	
28	石器 棒状礫	完形	長さ 13.1 幅 5.3 厚さ 3.3 重さ 320	埋没土中	石材変質安山岩。	断面三角形の棒状礫。	
29	石器 棒状礫	完形	長さ 14.6 幅 6.4 厚さ 4.8 重さ 610	中央部 床面上7cm	石材粗粒輝石安山岩。	断面楕円形の棒状礫。	
30	石器 棒状礫	完形	長さ 12.9 幅 7.3 厚さ 4.0 重さ 520	南東壁際 底面上1.5cm	石材ひん岩。	断面が扁平な台形の礫。下端が剝離している。	
31	石器 棒状礫	完形	長さ 11.4 幅 5.4 厚さ 3.9 重さ 330	甕前 床面上3cm	石材溶結凝灰岩。(片品川)	断面隅丸方形の棒状礫。	
32	石器 楕円盤形	上端欠損	長さ 13.0 幅 8.9 厚さ 3.5 重さ 550	床面上8cm	石材石英閃緑岩。	楕円形の扁平な円盤形の石器。側面に敲打痕が集中して認められ、挟れている。	
33	石器 二次加工 ある剥片	完形	長さ 5.4 幅 4.5 厚さ 8.0 重さ 25.74	埋没土中上層	石材黒色頁岩。	大型剥片を素材とし、主要剝離面側と背面側の両方に二次加工痕が認められる。	

114号住居出土遺物観察表 第52、53図・P L132

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	完形	器高 4.6 口径 12.8	北隅壁際 床面上4cm	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調褐色。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧ナデ。	
2	土師器 坏	口縁～底部 1/5	器高 4.2残存 口径(13.4)	北隅壁際 床面直上	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調にふい橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部横ナデ。	
3	土師器 坏	口縁～底部 1/4	器高 4.0残存 口径(13.1)	北隅壁際 床面直上	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧ナデ。	
4	土師器 甕	体部下位破片	器高 2.5残存 底径(10.7)	南東部 床面上18cm	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調浅黄橙。	外面体部下位縦方向削り。内面体部下位縦 方向ナデ後、縦方向磨き。	
5	石器 石鏃	完形	長さ 2.4 幅 1.4 厚さ 0.5 重さ 1.1	埋没土中	石材チャート。	石鏃の一部に素材剥片の段階の剝離面を残す。	
6	石器 整形軽石	完形	長さ 15.3 幅 10.0 厚さ 7.2 重さ 1510	北東壁際 周溝底内	石材粗粒輝石安山岩。	断面楕円形のやや大型の礫。上端部に敲打痕 が集中して付けられており、隅がつぶれている。 下端の一部にも敲打痕がある。	
7	石器 棒状礫	完形	長さ 11.9 幅 5.1 厚さ 2.5 重さ 230	甕左前 床面上15cm	石材粗粒輝石安山岩。	断面楕円形の棒状礫。	
8	石器 棒状礫	完形	長さ 10.3 幅 4.9 厚さ 3.7 重さ 320	北隅貯蔵穴 底面直上	石材石英閃緑岩。	断面隅丸三角形の棒状礫。	
9	石器 棒状礫	完形	長さ 11.6 幅 4.7 厚さ 4.6 重さ 360	中央部 床面上3.5cm	石材粗粒輝石安山岩。	断面三角形の棒状礫。	
10	石器 棒状礫	完形	長さ 11.8 幅 5.8 厚さ 3.7 重さ 370	南東壁寄り 床面直上	石材ひん岩。	断面隅丸方形の棒状礫。	
11	石器 棒状礫	完形	長さ 12.0 幅 5.7 厚さ 4.5 重さ 450	埋没土中	石材粗粒輝石安山岩。	断面方形の棒状礫。	
12	石器 棒状礫	完形	長さ 11.3 幅 4.6 厚さ 4.9 重さ 360	南東壁寄り 床面直上	石材変質安山岩。	断面方形の棒状礫。	
13	石器 棒状礫	完形	長さ 12.4 幅 5.6 厚さ 3.8 重さ 370	南東壁際 周溝底上2.5cm	石材石英閃緑岩。	断面三角形の棒状礫。	
14	石器 棒状礫	完形	長さ 13.0 幅 6.3 厚さ 2.8 重さ 330	東壁際 床面上5cm	石材変質安山岩。	扁平な小礫。	
15	石器 棒状礫	完形	長さ 13.1 幅 5.4 厚さ 4.0 重さ 410	甕右脇 床面直上	石材ひん岩。	断面台形の棒状礫。	
16	石器 棒状礫	半欠	長さ 9.0 幅 5.9 厚さ 4.5 重さ 330	中央やや北西寄 床面上13.5cm	石材石英閃緑岩。	断面楕円形の棒状礫。	
17	石器 棒状礫	完形	長さ 13.4 幅 5.9 厚さ 4.3 重さ 450	南東壁寄り 床面直上	石材珪質変質岩。	断面方形の棒状礫。	
18	石器 棒状礫	完形	長さ 12.7 幅 5.8 厚さ 4.2 重さ 450	南東壁寄り 床面直上	石材粗粒輝石安山岩。	断面台形の棒状礫。	
19	石器 棒状礫	完形	長さ 13.8 幅 5.3 厚さ 3.4 重さ 340	北隅貯蔵穴 底面直上	石材変玄武岩。	断面楕円形の棒状礫。	
20	石器 棒状礫	完形	長さ 16.2 幅 7.2 厚さ 4.4 重さ 770	中央やや北西寄 床面上16cm	石材ひん岩。	断面楕円形のやや大型の棒状礫。	
21	石器 円礫	完形	長さ 12.0 幅 7.8 厚さ 6.4 重さ 800	中央部 床面上8cm	石材粗粒輝石安山岩。	断面台形の大型礫。	
22	石器 敲石	上端欠損	長さ 12.3 幅 6.6 厚さ 3.1 重さ 380	中央部やや南東 寄り、床面直上	石材砂岩。	扁平な楕円形石器。片方の側面から下面にか けて敲打痕が集中する。	
23	石器 敲石	完形	長さ 11.2 幅 7.0 厚さ 2.9 重さ 320	北隅貯蔵穴 底面直上	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な楕円形石器。側面と上下面の一部に敲 打痕が散在する。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

115号住居出土遺物観察表 第54図・P L132、133

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	ほぼ完形	器高 4.6 口径 11.7	竈右脇 床面直上	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧なナデ。	
2	土師器 坏	ほぼ完形	器高 3.9 口径 11.6	竈右脇貯蔵穴 底面上13cm	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調黒褐。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部ナデ。	
3	土師器 坏	口縁～底部 1/5	器高 3.0残存 口径(13.2)	竈右脇貯蔵穴 底面上13cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焰。色調赤黒。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧なナデ。	内黒。外面も黒色。
4	土師器 坏	口縁～底部 1/3	器高 3.5残存 口径(13.2)	竈右脇貯蔵穴 底面上10cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焰。色調暗赤灰。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧なナデ。	
5	土師器 甕	口縁～体部下位1/2	器高 25.2残存 口径(18.2)	竈右脇 床面直上	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい黄橙。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部縦・斜め方向 寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向 寛ナデ。	
6	土師器 甕	口縁～体部下位1/6	器高 25.0残存 口径(18.6)	竈左脇・貯蔵穴 脇床面直上	胎土細砂を多量に含む。 焼成酸化焰。色調褐灰。	外面口縁～頸部横ナデ。体部縦方向寛削り。 内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	
7	土師器 甕	体部下位～底部	器高 3.3残存 底径 5.8	埋没土中	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい赤褐。	外面体部下位縦方向寛削り。底部寛削り。内 面底部斜め方向ナデ。	
8	須恵器 甕	体部破片	長さ 6.1残存 厚さ 0.9	埋没土中	胎土砂粒を含む。焼成還元焰。 色調灰。	外面平行タタキ。内面同心円タタキ。	
9	石器 紡錘車	完形	長さ 4.5 幅 4.3 厚さ 2.3 重さ 63.33	中央部 床面直上	石材蛇紋岩。	上面と下面には擦痕が残る。側面は磨かれて いる。	
10	石器 棒状礫	完形	長さ 18.0 幅 9.1 厚さ 5.6 重さ 1250	埋没土中	石材溶結凝灰岩。(奥日光)	断面三角形のやや大型の礫。	全面被熱。
11	石器 棒状礫	完形	長さ 11.9 幅 6.1 厚さ 2.6 重さ 240	南部 床面上34.5cm	石材粗粒輝石安山岩。	断面楕円形の小型。	

116号住居出土遺物観察表 第58図・P L133、134

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁～底部 1/6	器高 4.2残存 口径(11.2)	北西壁際 床面上5.5cm	焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧なナデ。	
2	土師器 坏	口縁～底部 1/8	器高 4.3残存 口径(11.9)	南東隅貯蔵穴 確認面	胎土砂粒・赤色粒を少量含む。 焼成酸化焰。色調灰白。内面橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧なナデ。	
3	土師器 坏	口縁～底部 1/4	器高 4.6 口径(11.7)	西隅 床面上17cm	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧なナデ。	外面に黒斑。
4	土師器 坏	完形	器高 4.5 口径 12.0	南東壁際 床面上8cm	胎土赤色粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧なナデ。	
5	土師器 坏	口縁～底部 1/5	器高 4.0残存 口径(12.1)	南西部 床面上17cm	胎土砂粒・赤色粒を少量含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り後、ナデ。内 面口縁部～底部丁寧なナデ。	
6	土師器 坏	口縁～底部 2/3	器高 4.7 口径 12.4	西壁際 床面上4cm	胎土砂粒・赤色粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧なナデ。	
7	土師器 坏	口縁～底部 1/3	器高 7.0残存 口径 14.2	西壁際 床面上5.5cm	胎土砂粒・赤色粒を少量含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り後、指ナデ。 内面口縁部～底部丁寧なナデ。	
8	土師器 高坏	脚部のみ	器高 4.0残存	北西壁際 床面上4.5cm	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい橙。	外面脚部横ナデ。内面坏部丁寧なナデ。脚部 横方向寛ナデ。	
9	土師器 高坏	坏部 1/4	器高 4.3残存 口径(20.4)	南東隅貯蔵穴北 縁床面上7.5cm	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面丁寧なナデ。外面寛削り痕薄い。その 上に赤色塗彩の残痕あり。内面摩滅著しいが、 上に赤色塗彩した痕がうかがえる。	
10	土師器 高坏	脚部 1/2	器高 4.8残存 底径(9.7)	北西壁際 床面上5.5cm	胎土砂粒を少量含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面脚部丁寧なナデ。内面坏部底部丁寧なナ デ。脚部ナデ。	
11	土師器 高坏	坏部 1/4	器高 6.0残存 口径(14.0)	中央部 床面上21cm	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調橙。	外面口縁部横ナデ。坏部下位寛削り。脚部ナ デ。内面口縁～底部丁寧なナデ。	
12	須恵器 蓋	口縁～底部 1/4 (受部欠)	器高 3.0残存 口径(14.1)	南東部 床面上4.5cm	胎土砂粒を含む。焼成還元焰。 色調灰。	外面天井部回転寛削り。内外面回転ナデ調整。	
13	土師器 甕	体部下位～底部1/4	器高 2.7残存 底径(6.9)	南東隅貯蔵穴北 脇床面上9.5cm	胎土砂粒・白色粒を含む。全体に砂 粒が目立つ。焼成酸化焰。色調にぶ い赤褐。内面黒。	外面体部下位縦・斜め方向寛削り。底部寛削 り。内面底部斜め方向寛ナデ。	
14	土師器 甕	体部下位～底部	器高 2.9残存 底径 6.4	南東隅貯蔵穴脇 床面上4cm	胎土砂粒・赤色粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。内面黒。	外面体部下位縦方向寛削り。底部寛削り。内 面底部横・斜め方向寛ナデ。	
15	土師器 小型甕	口縁～体部上位1/4	器高 6.5残存 口径(13.0)	南西柱穴確認面	胎土粗砂粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調にぶい赤褐。	外面口縁部横ナデ。体部上位縦方向寛削り。 内面口縁部横ナデ。体部斜め方向寛削り。	
16	土師器 甕	口縁～体部上位1/8	器高 7.6残存 口径(18.0)	南東隅貯蔵穴北 縁床面上4.5cm	胎土砂粒・白色粒を多く含む。小石 を少量含む。焼成酸化焰。色調浅黄 橙。	外面口縁部横ナデ。頸部縦方向寛ナデ。体部 上位横方向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上 位横方向寛ナデ。	
17	土師器 罎	ほぼ完形	器高 10.0 口径 10.1	南東部壁際 床面上5cm	胎土粗砂粒が多く良く見える。焼成 酸化焰。色調浅黄橙。内面にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部横方向寛削り。 内面口縁部横ナデ。体部横・縦方向寛ナデ。	
18	土師器 甕	口縁～体部上位1/8	器高 10.8残存 口径(25.2)	南東隅 床	胎土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位縦方向寛ナデ。 内面口縁部横ナデ。体部縦方向寛磨き。	
19	土師器 甕	口縁～体部上半1/4	器高 13.0残存 口径(21.3)	南東隅貯蔵穴 確認面	胎土砂粒・小石が少量混じり、砂粒 良くわかる。焼成酸化焰。色調浅黄 橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ。上 半縦方向寛ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上 半横方向寛ナデ。	
20	土師器 甕	ほぼ完形	器高 15.3 口径 14.4 底径 5.8	南東壁際 床面上4cm	胎土砂質。焼成酸化焰。色調淡黄。	外面口縁部横ナデ。体部縦方向寛削り。下位 横方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部横方 向寛ナデ。	
21	土師器 甕	体部下半～底部1/8	器高 12.4残存 底径 6.0	南東隅床面上 30.5cm(埋没土 中上層に散在)	胎土砂粒・赤色粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面体部下半縦方向寛削り。底部寛ナデ。内 面体部下半～底部寛ナデ。	
22	土師器 甕	口縁～体部下位1/2	器高 30.0残存 口径(19.4)	南東隅壁際 床面直上	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい赤褐。内面黒。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位～下半縦方 向寛削り後、縦方向寛磨き。下位斜め方向寛 ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
23	須恵器 甕	体部破片	器高 9.0残存	南西部 床面上22.5cm	胎土砂粒を含む。焼成還元焰。 色調灰。	外面平行タタキ。内面同心円タタキ後、指ナ デ。	
24	土製品 土鉢	一端欠損	長さ 3.6残存 幅 1.5 重さ 8.02	南東部 床面上28cm	焼成酸化焰。色調灰白。		
25	石器 整形軽石	完形	長さ 10.3 幅 10.7 厚さ 6.6 重さ 390	中央部 床面上40cm	石材二ツ岳軽石。	断面三角形の軽石塊。	

117号住居出土遺物観察表 第60図・P L134

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	完形	器高 4.5 口径 11.4	電左脇壁際 床面直上	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調明赤褐。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁部 ～底部丁寧ナデ。	
2	土師器 甕	口縁～体部上位1/2	器高 6.3残存 口径(20.3)	電右脇貯蔵穴内 底面上8cm	胎土粗砂粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。体部縦方向寛削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	
3	土師器 甕	体部 1/3	器高 18.9残存	電右脇貯蔵穴内 底面上8cm	胎土粗砂粒・粒子がよく見える。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面体部上半縦方向寛削り。下位斜め方向寛 削り。内面体部斜め方向寛ナデ。	
4	土師器 甕	体部下位～底部	器高 3.1残存 底径 4.2	北東隅 床面上5.5cm	胎土砂粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調灰黄褐。	外面体部下位斜め方向寛削り。底部木葉痕が 残り、無調整。内面底部縦・斜め方向寛ナデ。	
5	円筒埴輪 円筒	基底部破片	器高 6.2残存	埋没土中	胎土砂粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(8本/1cm)。内面縦指ナデ。底面平 坦。	
6	石器 棒状礫	下端欠損	長さ 12.7 幅 5.4 厚さ 1.9 重さ 195	南東壁寄り 床面上2cm	石材雲母石英片岩。	断面が扁平な、細い棒状礫。	

95号住居出土遺物観察表 第62図・P L134

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁一部欠損	器高 5.2 口径 12.4	電右前 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調明褐灰。 内面橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧ナデ。	丸底。
2	土師器 坏	口縁～底部 1/5	器高 4.4残存 口径(12.3)	電右脇 床面上4.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調赤灰。内面橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧ナデ。	丸底。
3	土師器 坏	口縁～底部破片	器高 3.8残存 口径(11.0)	東壁際 床面上18cm	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧ナデ。	丸底。
4	土師器 坏	口縁～底部 1/4	器高 4.0残存 口径(11.7)	電燃焼部中央 使用面上8cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面口縁部横ナデ。底部横・斜め方向寛ナデ。 内面口縁～底部丁寧ナデ。	丸底。 穿孔されていない 穴あり。
5	土師器 坏	口縁～底部破片	器高 4.2残存 口径(12.2)	北東部 床面上12.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 にぶい橙。内面橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛ナデ。内面口縁～ 底部丁寧ナデ。	丸底。
6	土師器 甕	口縁部破片	器高 3.8残存 口径(18.4)	東部 床面上7cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面口縁部横ナデ。	
7	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 8.7残存 口径(17.1)	電右脇床面上16cm 北東部床面直上 東部床面上3cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位横・斜め方向寛 ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向寛 ナデ。	

100号住居出土遺物観察表 第64図・P L134、135

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	ほぼ完形	器高 5.7 口径 11.9	東南部 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁部 横ナデ。底部丁寧ナデ。一部に寛痕が残る。	
2	土師器 坏	口縁～底部 3/4	器高 6.4 口径(15.0)	電焚口部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧ナデ。	丸底。 外面スス付着。
3	土師器 坏	口縁～底部 1/2	器高 6.0 口径(12.8)	電焚口部	胎土赤色粒・白色粒・鉾物粒・小石 を少量含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧ナデ。	丸底。
4	土師器 坏	口縁～底部 1/3	器高 5.7 口径(13.5)	電燃焼部	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧ナデ。	丸底。
5	土師器 坏	口縁～底部 1/2	器高 5.7 口径(13.5)	電左袖上	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛ナデ。内面口縁～ 底部丁寧ナデ。	丸底。 外面スス付着。
6	土師器 坏	口縁～底部破片	器高 5.5残存 口径(12.8)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい 橙。内面明赤褐。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧ナデ。	丸底。
7	土師器 坏	口縁～底部 1/5	器高 7.3残存 口径(11.3)	電左袖上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調明赤褐。内面橙。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部～底部寛削り 後、ナデ。剝離が著しく、整形単位は不明。 内面口縁部横ナデ。体部～底部丁寧ナデ。	外面剝離。
8	土師器 台付甕	口縁～体部下位4/5	器高 17.1残存 口径 14.0	南西部 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を多く含む。焼成酸化焰。 色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位縦方向寛削り。中 位横方向寛削り。下位横方向寛ナデ。一部に横 ・斜め方向のナデ。内面口縁部横ナデ。体部横 方向寛ナデ。下半の一部には斜め方向寛ナデ。	
9	土師器 甕	口縁～底部 5/6	器高 27.8 口径 18.3 底径 5.7	南西部 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。体部縦方向細かい寛ナデ。 内面口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	外面スス付着。
10	土師器 甕	口縁～体部 1/4	器高 16.2残存 口径(16.7)	東隅 床面上21cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部縦方向寛削り後、 指ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向 寛ナデ。中位斜め方向寛ナデ。	
11	土師器 甕	口縁～底部 5/6	器高 32.9 口径 17.5 底径 6.3	電燃焼部奥 支脚上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位縦方向ナデ。中 位斜め方向寛削り。一部に横方向ナデ。下位 横方向ナデ。底部寛削り。内面口縁部横ナデ。 体部横方向寛ナデ。	外面スス付着。
12	土師器 甕	口縁～底部 4/5	器高 32.2 口径 18.2 底径 7.4	電焚口部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部上半指ナデ。粘土帯 痕残る。中位横方向指ナデ。下半斜め方向寛 削り。底部ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横 方向寛ナデ。	内外面スス付着。
13	土製品 支脚	完形	器高 11.2 上径 5.4 下径 7.6	電燃焼部中央 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐。	外面平滑に丁寧ナデられている。内面上半 粘土の紋り痕が顕著に残る。下半指ナデ。上 端・下端ともに鋭りに平滑にナデられている。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

101号住居出土遺物観察表 第66図・P.L135

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁～底部 1/2	器高 5.4 口径(12.4)	竈右脇壁際 床面上9cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 にふい赤褐色。内面明赤褐色。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部放射状磨き。	丸底。
2	土師器 坏	口縁～底部 1/4	器高 5.4残存 口径(12.9)	竈左前 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・鉾物粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐色。	外面口縁部横ナデ。体部上半縦方向ハケメ。 下半横方向指ナデ。底部寛削り。内面口縁部 横ナデ。体部～底部横方向削り。	丸底。
3	土師器 坏	口縁～底部 1/4	器高 4.2残存 口径(12.7)	掘り方埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧なナデ。	丸底。
4	土師器 坏	口縁～底部 1/5	器高 7.5残存 口径(17.2)	竈燃焼部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・鉾物粒を含む。 焼成酸化焰。色調にふい赤褐色。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 底部丁寧なナデ。	丸底。 内外面スス付着。
5	土師器 鉢	口縁～底部 1/5	器高 6.4 口径(13.5) 底径(5.2)	竈埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 橙。	外面口縁部横ナデ。体部横方向削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向削り。	
6	土師器 鉢	口縁～体部上位破片	器高 3.1残存 口径(12.5)	竈燃焼部右脇 竈右前床面上6cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調明褐色。	外面口縁部横ナデ。体部斜め方向ハケメ。内 面口縁部横ナデ。体部横方向ハケメ。	
7	土師器 坏	口縁～底部 1/4	器高 4.8残存 口径(12.7)	竈埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。内 面にふい赤褐色。	外面口縁部横ナデ。体部ナデ。底部寛削り。 内面口縁部～体部横・斜め方向削り。	丸底。
8	土師器 埴	口縁欠損	器高 11.0残存	竈内	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 にふい赤褐色。	外面体部上位縦方向削り。上半～中横方 向ナデ。下位横・斜め方向ナデ。内面体部上 半横方向ナデ。下半縦方向ナデ。	丸底。 内外面スス付着。
9	土師器 壺	口縁～体部上位1/4	器高 11.0残存 口径(25.0)	竈燃焼部 中央～北部 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 赤褐色。	外面口縁部横ナデ。体部上位斜め方向削り 後、横方向削り。内面口縁部横ナデ。体部 上位縦方向削り。	
10	土師器 壺	体部中位～底部	器高 6.8残存 底径(7.4)	北部 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・小石を多く含む。焼成酸化焰。 色調にふい褐色。内面にふい橙。	外面体部中位斜め方向削り後、斜め・縦方 向削り。下位縦方向削り。底部ナデ。内 面体部～底部ナデられているが、方向・単位 は不明。	

103号住居出土遺物観察表 第67図・P.L135

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 壺	口縁～体部上位破片	器高 5.6残存 口径(15.0)	南壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 明赤褐色。	外面口縁部横ナデ。頸部斜め方向ナデ。体部 上位横方向削り。内面口縁部横ナデ。体部 上位横方向削り。	
2	土師器 壺	口縁～体部 1/4	器高 21.7残存 口径(19.0)	南壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上半斜め方向削 り。一部にハケメ状の工具痕が残る。下半 縦方向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方 向削り。	外面スス付着。

104号住居出土遺物観察表 第70図・P.L135、136

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	完形	器高 6.2 口径 12.2	竈前 床面上2cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 橙。	外面口縁部横ナデ。体部上半横方向削り。 下半～底部削り後ナデ。内面口縁部横ナデ。 体部～底部横ナデ後、放射状磨き。	丸底。
2	土師器 坏	完形	器高 5.3 口径 12.4	竈左脇壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調にふい 橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ。下 半削り、磨き。内面口縁部横ナデ。体部 ～底部は丁寧なナデられているが剝離箇所お よび摩擦があり、単位、方向等は不明。	丸底。 外面スス付着。
3	土師器 坏	口縁部破片	器高 2.5残存 口径(11.8)	掘り方埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。内面口縁部斜め削り。	
4	土師器 坏	ほぼ完形	器高 5.5 口径 14.4	中央部 床面上2cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調にふい 赤褐色。内面明赤褐色。	外面口縁部横ナデ。底部寛ナデ。内面口縁～ 底部丁寧なナデ。	丸底。内外面にス ス付着。口縁部に 一部工具の文様が ある。
5	土師器 坏	口縁～底部 3/4	器高 5.8 口径(13.7)	中央部 床面上2cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調にふい 赤褐色。内面明赤褐色。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り後、磨き。 内面口縁～底部丁寧なナデ。	丸底。 内外面スス付着。
6	土師器 坏	口縁～底部 7/8	器高 5.6 口径 13.4	北西部 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐色。	外面口縁部横ナデ。底部寛削りおよび磨き様 のナデ。内面口縁～底部丁寧なナデ。	丸底。 内外面スス付着。
7	土師器 坏	口縁～底部 4/5	器高 6.0 口径 14.2	東隅壁際 床面上6cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部～底部削り後、磨 き様のナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方 向削り。底部ナデ。	丸底。 内外面スス付着。
8	土師器 坏	口縁～底部 1/5	器高 5.1残存 口径(13.5)	西部 床面上8cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調にふい 赤褐色。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り後、磨き。 内面口縁～底部丁寧なナデ。	丸底。 内外面スス付着。
9	土師器 坏	口縁～底部 1/7	器高 3.7残存 口径(13.3)	西隅壁際 床面上21cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～ 体部丁寧なナデ。	丸底。
10	土師器 坏	口縁～体部破片	器高 3.8残存 口径(14.0)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調黒褐色。内 面明赤褐色。	外面口縁部横ナデ。体部横方向削り。内面 口縁～体部横・縦方向削り。	丸底。
11	土師器 高坏	坏部の破片	器高 4.0残存 口径(19.8)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。坏部ナデ。内面口縁部～ 坏部横方向削り後、縦方向削り。	外面スス付着。
12	土師器 鉢	口縁～体部下位1/5	器高 10.3残存 口径(18.2)	西部 床面上17cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調にふい橙。	外面口縁部横ナデ。体部削り後、ナデ。内 面口縁部横ナデ。体部寛削り。	内外面スス付着。
13	土師器 埴	ほぼ完形	器高 14.5 口径 8.3 底径 3.0	竈燃焼部中央 使用面上11cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物 粒・φ3mmの小石を含む。焼成酸化 焰。色調橙。	外面口縁部～体部上位横ナデ。体部中位横・ 斜め方向ナデ。底部寛削り。内面口縁部横 ナデ。体部不明。	

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
14	土師器 小型甕	口縁～底部 5/6	器高 15.8 口径 12.4 底径 5.2	中央部 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒・小石を多くを含む。焼成酸化焰。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上半横方向ナデ。下半横方向ナデ。中に寛削りのナデ残しがある。底部寛削り。内面口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	内外面スス付着。
15	土師器 甕	体部中位～底部3/4	器高 22.3残存 底径 7.5	南東部 床面上14cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面体部中位～下位縦方向ハケメ。最下部横方向ハケメ。底部寛削り。内面体部中位横方向ナデ後、縦方向寛ナデ。下位横方向ハケメ。底部ナデ。	外面スス付着。
16	石器 石製模造品	完形	長さ 4.9 幅 2.3 厚さ 0.4 重さ 8.25	北隅壁寄り 床面上11cm	石材滑石。	剣形石製模造品。上方中央に縦に2個並んだ小穿孔がある。	
17	石器 石鏃	先端部欠損	長さ 1.8 幅 1.7 厚さ 0.3 重さ 0.69	埋没土中	石材ぎよぐずい。	先端部欠損。石鏃として使用時の衝撃剝離の可能性有り。	

141号土坑出土遺物観察表 第71図・P.L.137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁～底部 1/2	器高 4.3 口径(12.4)	北部壁際 床面上11cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁部～底部丁寧なナデ。	丸底。
2	土師器 坏	口縁～底部 4/5	器高 5.8 口径(12.6)	中央部 床面上18cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り、寛ナデ。一部磨いたように平滑になっている。内面口縁部～底部丁寧なナデ。	丸底。

A 2 区土器溜まり出土遺物観察表 第72、73図・P.L.136、137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁～底部 1/2	器高 4.4残存 口径(11.2)	W-36G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁部～底部丁寧なナデ。	丸底。 外面スス付着。
2	土師器 坏	完形	器高 4.6 口径 12.3	W-36G	胎土赤色粒・白色粒・鉾物粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。一部に粘土帯痕残る。底部寛削り。内面口縁部～底部丁寧なナデ。	丸底。
3	土師器 高坏	口縁～底部 4/5	器高 9.7 口径(11.8) 底径 8.5	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。坏部縦方向寛削り後、上端指ナデ。脚部との接合部斜め・横方向指ナデ。脚部ナデ後、縦方向寛磨き。下端部横ナデ。内面口縁部横ナデ。坏部ナデ後、放射状寛磨き。脚部横方向寛ナデ。下端部横ナデ。	
4	土師器 高坏	口縁～底部 4/5	器高 10.0 口径 12.0 底径 8.8	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。坏部横・斜め方向指ナデ。脚部横・斜め方向指ナデ。下端部横ナデ。内面口縁部横ナデ。坏部ナデ後放射状寛磨き。脚部横方向寛ナデ。下端部横ナデ。	
5	土師器 高坏	坏底部～脚部	器高 6.1残存 底径 9.2	W-36G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐。	外面脚部上半縦方向寛削り。中位縦方向指ナデ。下端横ナデ。内面脚部上半横方向寛ナデ。下半横ナデ。	外面スス付着。
6	土師器 高坏	坏底部～脚部	器高 5.5残存	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面坏部～脚部横方向ナデ。内面坏部ナデ。脚部上半横方向寛ナデ。下半横ナデ。	
7	土師器 壺	ほぼ完形	器高 16.7 口径 11.5 底径 4.5	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐。	外面口縁部横ナデ後、横方向寛磨き。頸部指ナデ。体部上位横方向寛磨き。中位縦方向寛磨き。下位縦方向寛ナデ後、縦方向寛磨き。底部寛削り。内面口縁部横方向寛磨き。体部横方向寛ナデ。	
8	土師器 甕	ほぼ完形	器高 33.5 口径 19.4 底径 5.3	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位～中位縦方向寛削り。下位縦方向寛削り。底部寛削り。内面口縁部横ナデ。体部上位～下位横方向寛ナデ。底部ナデ。	外面スス付着。
9	土師器 甕	口縁～体部下位2/3	器高 29.8残存 口径(19.0)	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。頸部～体部上位横方向指ナデ。体部中位縦方向寛ナデ。下位斜め方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	内外面スス付着。
10	土師器 甕	完形	器高 33.8 口径 16.6 底径 5.5	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位縦方向ハケメ。体部中位～下位縦方向寛削り。底部ナデ。内面口縁部ハケメ。体部最上部指ナデ。体部上位～下位横方向ハケメ。底部指ナデ。	スス付着。
11	土師器 甕	口縁～体部上半1/6	器高 10.9残存 口径(18.2)	W-37G	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。体部上半縦方向寛ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	
12	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 9.4残存 口径(23.8)	V-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位縦方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部上位縦方向ナデ。	
13	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 8.3残存 口径(22.0)	V-36G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位丁寧なナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	内面スス付着。
14	土師器 小型甕	口縁～体部中位破片	器高 5.2残存 口径(14.2)	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒を含む。焼成酸化焰。色調赤褐。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向指ナデ。中位縦方向寛削り。内面口縁～体部横方向寛ナデ。	
15	須恵器 甕	体部破片	器高 7.9残存	V-37G	胎土白色粒・黒色粒・鉾物粒を含む。焼成還元焰。色調灰。	外面平行タタキ。内面同心円タタキ後、指押さえ。	
16	須恵器 甕	体部破片	器高 6.3残存	V-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒を含む。焼成還元焰。色調灰。	外面平行タタキ。内面同心円タタキ。	
17	須恵器 甕	口縁破片	器高 7.3残存	V-37G	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成還元焰。色調灰白。	外面口縁部に3本1単位の櫛状波状文を2段施文。内面横ナデ。	
18	土師器 甕	口縁～体部上位1/4	器高 13.3残存 口径(22.7)	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部～頸部横ナデ。一部に指頭痕残る。体部上位縦方向寛ナデ。一部に横方向指ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方向寛削り後、縦方向寛磨き。	スス付着。
19	土師器 甕	体部下位～底部1/2	器高 11.1残存 底径(9.8)	W-36G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面体部下位縦方向寛削り。最下部縦方向ナデ。内面体部下位横方向寛ナデ後、縦方向寛ナデ。最下部横ナデ。	
20	土師器 小型甕	体部中位～底部1/4	器高 8.1残存 底径 5.8	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面体部中位縦方向寛削り。下位横方向寛削り。内面体部～底部横方向寛ナデ。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	法量 (cm)		胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
21	土師器 甕	体部下半～底部1/2	器高 8.3残存 底径 7.1	V-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面体部下半斜め方向寛削り。底部寛削り。内面体部下位～底部横方向寛ナデ。	
22	土師器 甕	口縁～体部 1/3	器高 23.3残存 口径(24.7)	W-36G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調淡橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位～下位縦方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部上位～下位縦方向寛ナデ。	

145号土坑出土遺物観察表 第74図・P L137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁～底部 1/4	器高 6.2残存 口径(12.8)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒。黒色粒・鉾物粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部ナデ。内面口縁～底部丁寧ナデ。一部に指頭圧痕が残る。	丸底。
2	土師器 甕	口縁～底部 7/8	器高 29.3 口径(19.1) 底径 7.2	2 V-12G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒・小石を多く含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。頸部指ナデ。体部上位指ナデ。中位～下位斜め方向寛削り後、縦方向磨き。最下位横方向ナデ。底部ナデ。内面口縁部横ナデ。体部～底部横方向寛ナデ。	外面スス付着。

1号方形周溝基出土遺物観察表 第75図・P L137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	土師器 埴	ほぼ完形	器高 7.4 口径 11.3	南東周溝中央部 床面直上	胎土砂粒・赤色粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横方向細かい磨き。体部横方向細かい磨き。内面口縁部横方向細かい磨き。	
2	土師器 埴	口縁～体部 2/3	器高 19.0残存 口径 15.0	南西周溝中央部 底面上10cm	胎土砂粒・赤色粒を含む。焼成酸化焰。色調淡橙。	外面口縁部横ナデ。頸部下ナデ。体部上半斜め・横方向磨き。内面口縁部横ナデ。頸部横方向ハケメ。体部横方向寛ナデ。	

B3区3号古墳遺物観察表 第80図・P L137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	円筒埴輪 円筒	胴部破片	器高 5.6残存	埋没土中	胎土細砂を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	不明(円筒か?)。外面縦ハケ(12本/2cm)後、突帯状の粘土貼付。透孔の一部残る。内面縦ハケ(5本/1cm)後、縦指ナデ。	透かし部分有り。
2	土師器 甕	完形	器高 11.8 口径 8.6	2 P-40G 北東部周堀内 底面上13cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉾物粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐。	外面口縁部横ナデ。一部に縦方向磨き。体部横方向磨き。底部寛削り。内面口縁部横ナデ。一部に縦方向磨き。体部ナデ。	体部中位に一ヶ所穿孔。

1号凹地出土遺物観察表 第82図・P L137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	須恵器 甕	体部破片	器高 6.0残存	Q-32G 埋没土中	胎土砂粒・白色粒を含む。焼成還元焰。色調灰。	外面平行タタキ。内面同心円タタキ。	
2	須恵器 甕	体部破片	器高 8.5残存	Q-32G	胎土砂粒・赤色粒を含む。焼成還元焰。色調灰白。	外面平行タタキ。内面同心円タタキ。	
3	須恵器 甕	体部破片	器高 5.7残存	Q-32G 埋没土中	胎土砂粒・白色粒を含む。焼成還元焰。色調灰。	外面平行タタキ。内面同心円タタキ。	
4	土師器 甕	底部	器高 2.5残存 底径 5.8	埋没土中	胎土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調灰白。	外面体部縦方向寛削り。底部寛削り。内面底部ナデ。	
5	土師器 甕	底部 1/3弱	器高 2.6残存 底径(7.4)	R-33G	胎土砂粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。内面褐灰。	外面体部下位斜め・横方向指ナデ。底部ナデ。	
6	須恵器 甕	口縁部破片 1/3	器高 4.8残存	Q-33G 埋没土中	胎土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。焼成還元焰。色調褐灰。	外面に10本一単位の波状文施文。	
7	須恵器 長頸甕	体部破片	器高 1.4残存	Q-32G	胎土白色鉾物粒を含む。焼成還元焰。色調灰白。	外面一部に直径6.2mmのコンパス文が4個施文されている。内面指ナデ。	胎土分析資料 小角田前-1
8	須恵器 長頸甕	頸部～体部下位 1/3	器高 11.1残存	埋没土中上層	胎土白色鉾物粒を含む。焼成還元焰。色調灰。	内外面回転ナデ。外面肩部上面と直下に櫛描き波状文が1条ずつ施文されている。	胎土分析資料 小角田前-2
9	須恵器	体部破片	器高 3.5残存	R-32G 埋没土中	胎土砂粒・白色粒を含む。焼成還元焰。色調灰。	外面カキ目。内面ナデ。	
10	須恵器 蓋	1/4	器高 2.3残存 口径(17.8)	P-30G、P-31G、 P-32G	胎土砂粒・黒色粒を含む。焼成還元焰。色調灰。	天井部外面回転寛削り。内外面回転ナデ。	

2号凹地出土遺物観察表 第82図・P L137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	須恵器 甕	口縁～体部上位1/4	器高 6.6残存 口径(17.2)	U-34G	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。色調灰白。	外面口縁部横ナデ。上端に一単位6本の櫛描波状文。内面口縁～体部上位回転ナデ。	
2	土師器 高坏	坏部	器高 3.0残存 口径(12.8)	U-34G 埋没土中	胎土砂粒・赤色粒を含む。焼成酸化焰。色調褐灰。内面にぶい橙。	口縁部～坏部丁寧ナデ。	
3	土師器 高坏	口縁 1/8	器高 1.9残存 口径(14.3)	U-34G 埋没土中	胎土砂粒・赤色粒を含む。焼成酸化焰。色調褐灰。内面橙。	内外面ナデ。	
4	土師器 高坏	坏部 1/5	器高 3.8残存 口径(13.4)	U-34G 埋没土中	胎土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	内外面ナデ。	
5	土師器 坏	口縁～底部 1/2	器高 4.1残存 口径 13.0	U-34G 埋没土中	胎土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調赤橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～底部丁寧ナデ。	
6	土師器 坏	口縁～底部 1/4	器高 3.6残存 口径(11.7)	U-34G	胎土砂粒・赤色粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。底部寛削り。内面口縁～底部丁寧ナデ。	
7	土師器 高坏	坏部 1/4	器高 3.4残存 口径(12.6)	U-34G 埋没土中	胎土砂粒・赤色粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。内面口縁部横ナデ。	
8	土師器 甕	把手部分	横 4.4残存 縦 4.9残存 厚さ 1.7	U-34G	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	上下面ともナデ。	
9	須恵器 甕	体部～底部	器高 7.5残存	U-34G	胎土砂粒・白色粒を含む。焼成還元焰。色調灰。	外面体部上位横方向一単位9～11本のカキ目。中位一単位6本の波状文。体部下半～底部斜め・横方向寛ナデ。内面体部～底部回転ナデ。	
10	須恵器 提瓶	体部破片	器高 5.7残存	U-34G	胎土砂粒・白色粒を含む。焼成還元焰。色調灰。	外面体部下半カキ目。内面体部下半横方向寛ナデ。	

109号住居出土遺物観察表 第84、85図・P L138

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	石器 棒状鏢	完形	長さ 11.1 幅 5.1 厚さ 2.6 重さ 175	埋没土中	石材黒色片岩。	断面扁平な棒状鏢。	
2	石器 棒状鏢	完形	長さ 12.4 幅 5.2 厚さ 4.2 重さ 380	竈左前 床面直上	石材変玄武岩。	断面三角形の棒状鏢。三角形の角部分の一部に敲打痕が残る。	
3	石器 整形軽石	右欠損	長さ 15.9 幅 14.9 厚さ 9.4 重さ 1380	中央部 床面直上	石材ニツ岳軽石。	上下面がやや凹凸軽石塊。側面と下面の一部に整形時に敲いた痕跡が残る。	
4	須恵器 高台付埴	体部下位～底部	器高 2.2残存 底径 6.3	竈左脇 床面上3.5cm	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
5	須恵器 高台付埴	ほぼ完形	器高 4.6 口径 11.3 底径(6.3)	竈燃焼部 使用面上16.5cm	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け高台。	
6	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/2 (高台端部欠損)	器高 5.5残存 口径(14.3)	竈燃焼部右奥 使用面直上	胎土砂粒を多く含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
7	須恵器 高台付埴	口縁～体部 1/4	器高 4.7残存 口径(14.2)	東中央部壁際 床面上4cm	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。色調灰黄褐。内面黒褐。	内外面回転ナデ。	
8	土師器 壺	口縁～体部上位1/4弱	器高 7.8残存 口径 19.0	西部 床面上4.8cm	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい赤褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位斜め方向寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位寛ナデ。中位荒いナデ。	
9	土師器 土釜	口縁～体部上半1/4	器高 11.5残存 口径 19.4	竈燃焼部	胎土微細砂を多く含む。焼成酸化焰。色調橙。内面赤褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上半横方向寛削り。一部に縦方向寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部上半横・斜め方向寛ナデ。	
10	土師器 鉢	口縁～体部上位破片	器高 3.7残存 口径(12.0)	埋没土中	焼成酸化焰。色調黒褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部横方向寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	
11	土師器 鉢	口縁～体部中位1/4	器高 6.4残存 口径(10.8)	埋没土中	焼成酸化焰。色調黒褐。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ。全体に紐土帯痕が残る。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。中位縦方向寛ナデ。	
12	土師器 鉢	口縁～体部中位破片	器高 7.5残存 口径(10.8)	埋没土中	焼成酸化焰。色調黒褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部指ナデ。寛ナデ。	
13	土師器 土釜	口縁～体部下半1/2	器高 8.3残存 口径(13.6)	竈燃焼部使用面 西壁際床面直上	胎土細砂を多く含む。焼成酸化焰。色調にぶい赤褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。下半縦方向寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	
14	土師器 壺	体部下位～底部1/4	器高 4.3残存 底径(5.5)	埋没土中	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。色調黒褐。	外面体部下位指ナデ。底部指ナデ。内面体部下位～底部横方向寛ナデ。	
15	土師器 土釜	口縁～体部下半1/4	器高 13.0残存 口径 19.6	竈左袖前 床面直上	胎土砂粒を多く含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向寛削り。下半縦方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部横・斜め方向寛削り。	
16	須恵器 小型壺	口縁～底部 4/5	器高 14.2 口径 11.6 底径 7.6	中央部 床面上5cm	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。内面褐灰。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上半横方向回転ナデ。下半斜め方向ナデ。底部ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部～底部横方向寛ナデ。	
17	土師器 壺	口縁～底部 4/5	器高 27.9 口径 21.2 底径(4.4)	竈燃焼部 使用面直上	胎土砂粒・小石が混じる。赤色粒を多く含む。焼成酸化焰。色調橙。内面にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り後、横方向・一部縦方向ナデ。中位縦方向寛削り。一部に横方向ナデ。下位横方向寛削り。底部砂底。内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向寛ナデ。底部寛ナデ。	
18	土師器 壺	口縁～体部 1/3	器高 20.3残存 口径 21.6	竈燃焼部、左側 使用面直上	胎土細砂粒を多く含む。焼成酸化焰。色調明黄褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。一部に指押さえ。下半縦方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	
19	須恵器 羽釜	口縁～体部上位1/8	器高 6.5残存 口径(21.8)	中央部 床面上20.5cm	胎土砂粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。内面にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。内面口縁～体部上位横ナデ。	
20	須恵器 羽釜	体部 1/4	器高 14.4残存	南東隅 床面直上	胎土砂粒を含む。焼成酸化焰。色調明黄褐。	外面体部中位回転ナデ。下位縦方向寛削り。内面体部中位～下位回転ナデ。	
21	土師器 壺	体部中位～底部1/4	器高 15.4残存 底径(5.6)	南西隅 床面上10cm	胎土砂粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐。	外面体部中位横方向指ナデ。下半縦方向寛削り。最下位横方向寛削り。底部寛削り。内面体部下半横方向寛ナデ。一部に縦方向寛ナデ。	

107号住居出土遺物観察表 第87、88図・P L162、163

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/3	器高 4.6 口径(11.2) 底径(6.0)	2 T-10G	胎土細砂を多く含む、ガラザラしている。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
2	須恵器 高台付埴	底部 1/2 (高台欠損)	器高 2.2残存	2 T-10G	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
3	須恵器 坏	完形	器高 4.0 口径 11.4 底径 5.7	2 T-10G	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
4	土師器 壺	口縁～体部下位1/6	器高 22.6残存 口径(19.0)	2 T-9 G	焼成酸化焰。色調にぶい褐。	外面口縁部横ナデ。頸部～体部上位横方向寛ナデ。体部上半～下位縦方向寛削り後、中位に横・縦・斜め方向指ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位～下位横方向寛ナデ。	
5	須恵器 羽釜	口縁～体部下半1/4	器高 21.4残存 口径(20.9)	2 T-9 G	胎土細砂を多く含む。焼成還元焰。色調灰白。	外面口縁～頸部横ナデ。体部回転ナデ。下半縦方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	
6	土師器 壺	口縁～体部上半1/5	器高 14.3残存 口径(18.0)	2 T-9 G	胎土細砂を多く含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部上半横・斜め方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部上半横方向寛ナデ。	
7	須恵器 羽釜	体部 1/4	器高 21.1残存	2 T-9・10G	胎土φ8～10mmの砂礫を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。外面体部上位寛削りか?	体部下半は器面の荒れが著しい。
8	須恵器 壺	頸部～体部下位1/4	器高 23.0残存	2 T-9 G	胎土細砂・φ5～10mmの砂礫を多く含む、ガラザラしている。焼成酸化焰。色調にぶい褐。	外面頸部～体部下位回転ナデ。内面頸部～体部下位横方向寛ナデ。	器面は荒れている。
9	軟質陶器 火鉢?	脚部破片	長さ 7.7残存 最大幅 4.0 高さ 2.6	埋没土中	焼成黒色いぶし。	内外面寛ナデ調整。	19世紀

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
10	石器 整形磨石	破片	長さ 12.9 幅 16.9 厚さ 8.4 重さ 2010	埋没土中	石材角閃石安山岩。(ニツ岳)	厚く扁平な軽石塊。上面には磨り面が、下面には敲打痕が残る。	
11	石器 円盤形	完形	長さ 13.5 幅 15.8 厚さ 2.8 重さ 700	埋没土中	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の石器。側面の大半に敲打痕が残る。	
12	石器 磨石	上端欠損	長さ 18.5 幅 7.5 厚さ 7.4 重さ 1144	埋没土中	石材ひん岩。	断面三角形の棒状礫。外面は磨れている。	
13	銅製品 銅製 片口鍋	ほぼ完形	器高 5.5 口径 15.8 底径 11.4 片口部口径 18.3	2 UT-10G 遺物集中区	鋳造品。	片口をつく容器。片口の左側の体部には柄を装着するためと考えられる小孔が3個あいている。	分析番号119

1号住居出土遺物観察表 第89図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	台部欠	器高 2.3残存	北東壁際 床面上13.5cm	胎土赤色粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け高台。	
2	須恵器 高台付埴	底部一部欠	器高 2.0残存 底径 7.1	北隅 床面上4.2cm	焼成酸化焰。色調灰褐色。内面黒。	底部回転切り離し。付け高台。内面底部黒色処理後一方向磨き。	内面黒色処理。
3	土師器 土師器 土釜	口縁～体部上位破片 1/8	器高 8.7残存 口径(22.8)	北部 床面上5cm	胎土白色粒を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐色。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横・斜め方向指ナデ。内面口縁横ナデ。体部上位横方向指ナデ。	
4	土師器 土釜	口縁～体部上位破片	器高 7.0残存 口径(15.7)	北西壁際 床面上9cm	胎土白色粒を含む。焼成酸化焰。色調褐色。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位縦方向指ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横・斜め方向指ナデ。	

2号住居出土遺物観察表 第91図・P L138、139

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 7/8	器高 4.0 口径 11.0 底径 5.4	竈前 床面直上	胎土赤色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
2	須恵器 高台付埴 (高台欠損)	口縁～底部 1/2	器高 4.4残存 底径 13.4	電燃焼部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け高台。	
3	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/2	器高 6.7 口径(14.6) 底径 8.4	中央部 床面直上	胎土赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調黄橙。内面黄灰。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け高台。	
4	須恵器 高台付埴	坏部下位～高台部	器高 6.9残存 底径 9.6	電燃焼部 使用面直上逆位	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調灰黄。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け高台。	
5	土師器 高台付埴	底部のみ	器高 2.5残存 底径 5.3	北西隅壁際 床面上4cm	胎土赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	体部下位斜め方向指ナデ。高台部ナデ。底部砂底痕残る。	
6	緑釉陶器 皿	底部破片	器高 1.1残存	北部 底面上4cm	胎土緻密。焼成還元。色調灰。	付高台。底部寛ナデ。釉調やや淡い緑色。	猿投産 K-90窯時期後半
7	土師器 甕	口縁～体部破片	器高 9.4残存 口径(21.9)	電燃焼部 使用面直上19.5cm	胎土白色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部横方向指ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向指ナデ。	
8	須恵器 羽釜	口縁～体部 1/3	器高 11.6残存 口径(20.0)	電燃焼部 使用面直上	胎土赤色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～体部中位回転ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上半横方向指ナデ。	
9	須恵器 羽釜	口縁～体部 1/8	器高 20.8残存 口径(22.2)	電右袖前 床面直上	胎土白色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面口縁部～体部中位回転ナデ。下位縦・斜め方向指ナデ。内面口縁～体部下位丁寧な横方向指ナデ。	胎土分析資料 三ツ木皿沼-14

3号住居出土遺物観察表 第94図・P L139

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	口縁～体部上位1/8	器高 4.7残存 口径(14.0)	西隅壁際 床面上4cm	胎土赤色粒を含む。焼成酸化焰。色調灰赤。	外面口縁部横ナデ。体部横方向指ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方向指ナデ。	
2	須恵器 甕	口縁～体部破片	器高 10.6残存 口径(15.3)	竈内	胎土小石を含む。焼成還元焰。色調灰白。	内外面コクロ整形。外面体部下半縦方向指ナデ。	
3	土師器 甕	体部下位～底部1/4	器高 5.4残存 底径( 5.7)	南西壁際 床面上5cm	胎土赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調黄灰。内面灰白。	外面体部下位縦方向指ナデ。最下横方向指ナデ。底部指ナデ。内面体部下位～底部横方向指ナデ。	
4	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 1.7残存 底径 6.7	南部 床面直上	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け高台。	

4号住居出土遺物観察表 第95図・P L139

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁一部欠	器高 4.3 口径 11.0 底径 4.9	北東隅貯蔵穴 西脇床面直上	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	底部回転系切り離し。内外面回転ナデ調整。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/4	器高 4.4 口径(11.4)	電燃焼部 使用面直上	胎土赤色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
3	土師器 小型甕	口縁～体部上位1/4	器高 6.0残存 口径(12.9)	中央部やや南 床面上3cm	胎土白色粒を含む。焼成酸化焰。色調赤灰。	外面口縁部横ナデ。頸部～体部上位縦・横方向指ナデ・指ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向指ナデ。	
4	土師器 甕	口縁～体部破片1/6	器高 5.7残存 口径(18.8)	電焚口部 使用面直上	胎土赤色粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。指頭痕残る。体部横方向指ナデ後、頸部のみ横方向指ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向指ナデ。	
5	土師器 甕	体部～底部	器高 10.7残存 底径 3.8	中央部 床面上3cm	胎土白色粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面体部下半縦方向指ナデ後、下位斜め方向指ナデ。底部砂底。内面体部～底部横方向指ナデ。	
6	土師器 甕	体部～底部	器高 9.1残存 底径 7.2	電焚口部 床面上1.5cm	胎土赤色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面体部下半縦方向指ナデ。下位横方向指ナデ。底部ナデ。内面体部下半～底部横方向指ナデ。	
7	須恵器 羽釜	口縁のみ	器高 5.2残存 口径 21.0	電燃焼部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。	

5号住居出土遺物観察表 第97図・P L139、140

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	完形	器高 2.0 口径 7.6 底径 3.7	北西隅壁際 床面上 2cm	胎土小石を含む。焼成酸化焰。 色調浅黄。内面灰白。	内外面回転ナデ。底部糸切り離し。	
2	須恵器 坏	口縁~底部 1/2	器高 2.0 口径 8.4 底径 4.4	埋没土中	胎土白色粒・光る粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
3	須恵器 坏	口縁一部欠	器高 1.9 口径 8.7 底径 4.2	北中央部 床面上10.5cm	胎土光る砂粒を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい黄橙。内面にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し後、粘土塊が付着し、それを回転篋削りで調整している。	
4	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 1.9 口径 8.9 底径 5.8	電燃焼部 使用面直上	胎土細かい石が混じる。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
5	須恵器 坏	口縁~底部 2/3	器高 1.9 口径 9.8 底径 6.4	中央部やや西 床面上12.5cm	胎土白色粒を含む。焼成還元焰。 色調灰黄褐。内面褐灰。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
6	須恵器 坏	口縁~底部 7/8	器高 2.5 口径 9.0 底径 5.5	中央部 床面上23cm	胎土白色粒を含む。焼成酸化焰。 色調明赤褐。内面赤褐。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。底部内面指ナデ。	
7	須恵器 羽釜	口縁部破片	器高 5.8残存 口径(18.2)	電焚口部 床面上11.5cm	胎土黒色粒・小石を含む。 焼成還元焰。色調黒褐。	内外面丁寧な回転ナデ。	
8	土製品 土鍾	完形	長さ 3.8 幅 1.9 重さ 11.55	掘り方埋没土中	焼成酸化焰。色調明浅黄。		
9	土製品 土鍾	完形	長さ 4.2 幅 0.8 重さ 2.95	掘り方埋没土中	焼成酸化焰。色調明赤褐。		
10	土製品 土鍾	完形(一部剝離)	長さ 3.6 幅 1.1 重さ 2.91	掘り方埋没土中	焼成酸化焰。色調暗赤灰。		

6号住居出土遺物観察表 第99図・P L140

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁~底部 3/4	器高 4.3 口径 12.2 底径 5.4	電左脇壁際 床面上2.5cm	胎土赤色粒・白色粒を含む。 焼成還元焰。色調灰。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 高台付埴	口縁一部欠損	器高 5.1 口径 13.3 底径 6.1	電左脇 床面直上	胎土白色粒・小石を含む。焼成酸化焰。 色調橙。内面にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
3	土師器 甕	口縁~体部 1/5	器高 5.2 残存 口径(17.0)	電前 床面上2.5cm	胎土白色粒を含む。焼成酸化焰。 色調明赤褐。内面にぶい赤褐。	外面口縁部横ナデ。体部上位横・斜め方向篋削り。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。	

7号住居出土遺物観察表 第100図・P L140

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁~底部 1/4	器高 2.9 口径(10.4) 底径(5.8)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 坏	口縁~体部下位1/4	器高 3.8残存 口径(14.2)	埋没土中	胎土赤色粒を多く含む。小石混じりの痕あり。焼成酸化焰。色調明赤褐。	内外面回転ナデ。	
3	須恵器 高台付埴	高台部 1/3	器高 3.0残存 底径(8.1)	掘り方埋没土中	胎土赤色粒を多く含む。小石混じりの痕あり。焼成酸化焰。色調明赤褐。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。	
4	土師器 土釜	口縁~体部上位破片	器高 6.3残存 口径(21.3)	南東部 床面上4cm	胎土赤砂粒・白砂粒が目立つ。焼成酸化焰。色調にぶい褐。内面橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位縦方向篋削り、一部に指ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。	
5	須恵器 甕	頸部 1/3	器高 5.4残存	電左脇壁際 床面直上	胎土白色粒を含む。焼成還元焰。 色調灰。内面暗灰。	外面口縁部横ナデ。体部上位ナデ。内面口縁~頸部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。	
6	石器 円盤形	完形	長さ 12.5 幅 11.7 厚さ 2.7 重さ 670	南西壁際 床面上2cm	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の石器。側縁部の大半に敲打痕が残る。	

8号住居出土遺物観察表 第103図・P L140

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁~底部 1/4	器高 3.0 口径(10.1) 底径 6.4	電左脇壁際 床面上5cm	胎土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 高台付埴	口縁~底部 1/3	器高 5.8 口径(14.6) 底径(8.9)	掘り方中央部 底面直上	胎土黒色粒を含む。焼成酸化焰。 色調灰黄。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け高台。	
3	須恵器 高台付埴	口縁~底部 7/8	器高 5.8 口径 12.6 底径 5.9	北西隅床面直上 電燃焼部使用面直上	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。内面黒褐。	外面口縁~高台部回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け高台。内面口縁~底部篋磨き。	内面黒色処理。
4	土師器 土釜	底部のみ	器高 2.7残存 底径 7.5	電燃焼部 使用面上7cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調明黄褐。	外面体部下位横方向篋削り。底部砂底。内面体部下位~底部横方向篋ナデ。	
5	土師器 土釜	口縁~体部上位破片	器高 5.0残存 口径(18.0)	埋没土中上層	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調明褐。	外面口縁部横ナデ。体部上位縦方向篋削り。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。	
6	須恵器 甕	底部1/4	器高 3.4残存 底径 16.6	中央部 床面直上	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元焰。色調灰。	内外面指ナデ。	
7	須恵器 羽釜	口縁~体部 1/6	器高 10.3残存 口径(14.4)	西部 床面上19.8cm	胎土赤色粒・φ5mmの小石を含む。 焼成酸化焰。色調明赤褐。	内外面回転ナデ。	
8	緑釉陶器 水注	口縁~体部上位1/4	器高 16.0残存 口径 10.2	電前、中央部 床面上2cm	胎土緻密。焼成還元。色調灰。	把手貼付。頸部と胴部は二段接合。釉調は濃緑色。	東濃産 虎溪山1号窯式期

9号住居出土遺物観察表 第104図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 土釜	口縁~体部上位破片	器高 6.8残存 口径(17.5)	電燃焼部 使用面上2cm	胎土赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。内面明赤褐。	外面口縁~頸部横ナデ。体部上位縦方向篋削り。内面口縁~頸部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。	
2	須恵器 高台付埴	体部下半~底部1/4	器高 3.3残存 底径(6.9)	北西隅 床面上2cm	胎土白砂粒が混じる。焼成酸化焰。 色調にぶい橙。内面浅黄橙。	外面体部下半ナデ。下位斜め方向篋削り。高台部ナデ。内面体部下半~底部篋磨き。	内面黒色処理。 2次加熱によって酸化。

第4章 遺構・遺物の一覧表

10号住居出土遺物観察表 105図・P.L140

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 土釜	口縁～体部中位破片	器高 12.6残存 口径(22.2)	竈前 床面直上	胎土白色粒・黒色粒が目立つ。焼成酸化焰。色調橙。内面におい橙。	外面口縁部横ナデ。体部斜め方向寛ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上半横方向寛ナデ。	上端部に小穿孔。
2	須恵器 羽釜	口縁～体部破片	器高 13.6残存 口径(20.7)	埋没土中	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調赤褐。内面明赤褐。	外面口縁～胴部横ナデ。体部上半横方向ナデ後、縦方向寛磨き。内面口縁部横ナデ。体部上半横方向寛ナデ。	
3	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 2.2残存 底径 5.5	竈埋没土中	胎土白色粒・小石僅かに混じる。焼成酸化焰。色調におい黄橙。内面黒。	外面高台部ナデ。底部切り離し技法不明。付け高台。内面底部細かい寛磨き。	内面黒色処理。
4	石器 円盤形	完形	長さ 11.0 幅 11.2 厚さ 2.7 重さ 460	南西壁際 床面上23.5cm	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の石器。側縁部の一部に剝離が残る。	

11号住居出土遺物観察表 第107、108図・P.L140、141

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 1/4	器高 1.6 口径(8.8) 底径(4.5)	埋没土中	赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調におい赤褐。内面暗赤褐。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	器高 1.7 口径(8.3) 底径 3.4	埋没土中	胎土精選されている。焼成酸化焰。色調におい黄橙。	内外面ナデ。底部回転系切り離し。	
3	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	器高 1.6 口径(9.7) 底径(7.0)	埋没土中	胎土雲母・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。内面黒褐。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
4	須恵器 坏	口縁～底部 1/5	器高 2.0 口径(7.7) 底径(3.3)	埋没土中	胎土精選されている。焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
5	須恵器 坏	口縁～底部 1/5	器高 4.3残存 口径(14.7) 底径(7.0)	埋没土中	胎土雲母・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調におい橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
6	須恵器 坏	口縁～底部 1/7	器高 4.1残存 口径(14.0)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
7	須恵器 坏	底部 3/4	器高 2.3残存 底径 5.8	埋没土中	器高精選されている。焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
8	須恵器 高台付埴	底部 2/3	器高 3.0残存 底径(7.2)	貯蔵穴埋没土中	胎土白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調におい橙。	外面体部下位～高台部回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け高台。内面底部細かい寛磨き。	内面黒色処理。
9	土師器 羽釜	口縁部破片	器高 6.5残存	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面横ナデ。	胴部に穿孔。
10	形象埴輪 家形	壁破片か	器高 8.2残存	埋没土中	胎土赤色粒を含む。焼成酸化焰。色調灰黄。内面におい橙。	家の壁?板状で肉厚。外面縦ハケ(10本/1cm)。内面斜めハケ(9本/1cm)後、一部斜め指ナデ。	
11	円筒埴輪 円筒	胴部破片	器高 10.9残存	南西壁際 床面上23cm	胎土精選されている。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面縦ハケ(13本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部縦指ナデ後、縦ハケ(8本/1cm)。突帯台形(M字)。	
12	円筒埴輪 朝顔形	口縁部破片	器高 10.7残存	中央部 床面上10cm	胎土φ5mmの小礫を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(17本/2cm)後、突帯貼付。内面横ハケ(16本/2cm)後、突帯内側の横指ナデ。突帯台形(M字)。	
13	形象埴輪 馬	脚部破片	器高 10.4残存	竈燃焼部 使用面上6cm	胎土白色鉍物粒を多く含む。焼成還元焰。色調黄灰。	須恵質。馬脚。ヒヅメの切り込み一部残存。外面縦ハケ(16本/2cm)。一部斜めハケ。内面縦指ナデ。底面平坦で基部の重ね合わせ残る。	
14	円筒埴輪 朝顔形	肩部破片	器高 7.0残存	竈左袖	胎土細砂を多く含む。焼成酸化焰。色調におい橙。	外面縦ハケ(15本/2cm)後、突帯貼付。内面縦指ナデ。突帯台形(M字)。	
15	円筒埴輪 盾形	胴部破片	器高 13.6残存	南東隅貯蔵穴内 床面上12cm	胎土砂粒を多く含む。焼成酸化焰。色調におい橙。	外面円筒状にまきあげ、縦ハケ後、突帯貼付。ヒレ状の張出部貼り付けが剝落。中央に沈線を施す。内面縦ハケ(5本/1cm)。透孔一部残存。	
16	円筒埴輪 円筒	胴部破片	器高 14.3残存	竈焚口部 床面上3.5cm	胎土細砂を多量に含む。焼成酸化焰。色調におい橙。	外面縦ハケ(11本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部横ハケ(6本/2cm)後、縦指ナデ。透孔円形。突帯低い台形(下端が低い)。	
17	円筒埴輪 朝顔形	肩部	器高 20.8残存	竈左袖	胎土赤色鉍物粒が目立つ。焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(7本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部縦指ナデ後肩部斜め指ナデ、頸部縦指ナデ。透孔円形。突帯低い台形(下稜低い)。	
18	円筒埴輪 朝顔形	肩部～胴部	器高 34.7残存	竈右袖	胎土細砂を多く含む。焼成酸化焰。色調におい橙。	外面縦ハケ(13本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部縦指ナデ後、肩部横指ナデ、頸部縦指ナデ。透孔歪んだ円形。突帯台形(M字)。	
19	土製品 土鏝	一端欠損	長さ 2.8残存 幅 0.9 重さ 2.45	埋没土中	焼成酸化焰。色調赤灰。		
20	土製品 土鏝	完形	長さ 3.0 幅 1.0 重さ 3.38	南西部。貯蔵穴 底面上15cm	焼成酸化焰。色調におい橙。		
21	土製品 土鏝	一端欠損	長さ 3.2残存 幅 0.8 重さ 1.77	埋没土中	焼成酸化焰。色調におい橙。		
22	土製品 土鏝	完形	長さ 3.6 幅 0.8 重さ 2.91	埋没土中	焼成酸化焰。色調黒褐。		
23	鉄製品 刀子	両端欠損	長さ 5.7残存 幅 1.8 厚さ 0.4 重さ 7.25	埋没土中			分析番号108
24	石器 円盤形	完形	長さ 15.6 幅 12.9 厚さ 2.7 重さ 770	中央部 床面直上	石材粗粒輝石安山岩。		

12号住居出土遺物観察表 第111、112図・P.L141、142、143

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 甕	体部破片	器高 16.0残存	西壁際 床面直上	胎土φ4mmの白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元焰。色調暗青灰。	外面平行タタキ。内面指ナデ。	
2	土製品 土鍾	一端欠損	長さ 3.2 幅 0.9 重さ 2.53	埋没土中上層	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		
3	土製品 土鍾	一端欠損	長さ 3.2 幅 1.0 重さ 3.03	埋没土中上層	焼成酸化焰。色調灰黄褐。		
4	土製品 土鍾	完形	長さ 3.0 幅 0.9 重さ 2.27	埋没土中	焼成酸化焰。色調黒褐。		
5	土製品 土鍾	完形	長さ 3.0 幅 1.0 重さ 2.70	埋没土中上層	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		
6	土製品 土鍾	一端欠損	長さ 3.1残存 幅 0.8 重さ 2.11	埋没土中	焼成酸化焰。色調黒褐。		
7	土製品 土鍾	完形	長さ 3.1 幅 1.0 重さ 2.79	埋没土中上層	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。		
8	土製品 土鍾	完形	長さ 3.6 幅 1.0 重さ 3.56	南部 床面上20cm	焼成酸化焰。色調灰褐。		
9	土製品 土鍾	完形	長さ 3.7 幅 0.8 重さ 2.14	埋没土中上層	焼成酸化焰。色調にぶい褐。		
10	土製品 土鍾	完形	長さ 4.0 幅 0.7 重さ 2.44	埋没土中上層	焼成酸化焰。色調にぶい褐。		
11	土製品 土鍾	一端欠損	長さ 3.8残存 幅 1.2 重さ 7.25	埋没土中	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		
12	石器 基石(白)	完形	長さ 1.8 幅 1.4 厚さ 0.7 重さ 2.7	北壁寄り 床面上2cm	石材石英。	表面は平滑である。	
13	石器 基石(黒)	完形	長さ 2.0 幅 1.4 厚さ 0.8 重さ 3.4	北壁寄り 床面上2cm	石材珪質頁岩。	表面は平滑である。	
14	須恵器 坏	体部下位～底部1/2	器高 1.6残存 底径 (5.4)	掘り方埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調灰黄褐。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
15	須恵器 坏	体部～底部 1/3	器高 1.9残存 底径 (5.1)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	胎土分析資料 三ツ木皿沼-12
16	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	器高 2.3 口径 (9.0) 底径 6.0	埋没土中	胎土赤色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
17	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 2.8 口径 9.4 底径 5.7	西壁近く 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
18	須恵器 坏	完形	器高 2.7 口径 9.7 底径 5.7	北壁際 床面上4cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
19	須恵器 坏	完形	器高 2.6 口径 10.2 底径 6.0	西壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
20	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 2.6 口径 10.1 底径 5.2	北東隅壁際 床面上3cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒φ10mm の石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
21	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 2.8 口径 10.2 底径 6.0	北壁近く 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ3 mmの石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
22	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 3.0 口径 10.3 底径 5.5	北東隅 床面上2cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
23	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 2.7 口径 10.4 底径 5.3	北壁際 床面上3cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	112図-18の下に 重なる。
24	須恵器 坏	口縁一部欠損	器高 2.5 口径 10.4 底径 6.7	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・φ3mmの小石 を含む。焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
25	須恵器 坏	完形	器高 2.8 口径 10.2 底径 5.6	北東隅壁際 床面上3.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
26	須恵器 坏	口縁～底部 2/3	器高 3.2 口径 10.6 底径 5.2	南壁際 床面上10cm	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒 を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
27	須恵器 坏	口縁～底部 1/3	器高 3.1 口径 (11.2) 底径 (5.7)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
28	須恵器 坏	口縁～底部 3/4	器高 2.7 口径 10.0 底径 5.7	北東隅壁際 床面付近	胎土微細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
29	須恵器 坏	完形	器高 2.7 口径 9.8 底径 6.5	東壁近く 床面上16cm	胎土雲母・白色粒・黒色粒・φ2mm の小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
30	須恵器 坏	口縁1/2欠損	器高 2.6 口径 10.1 底径 6.4	北壁際 床面上7cm	胎土雲母・白色粒・黒色粒・小石を 含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。内面橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	112図-23の上に 重なる。
31	土師器 小坏	完形	器高 2.7 口径 4.3 底径 3.5	北東隅壁際 床面付近	胎土微細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調オリーブ黒。	外面口縁～底部斜め方向磨き。内面口縁部～底部横方向細かな磨き。	黒色処理。
32	土師器 小坏	完形	器高 2.8 口径 4.5 底径 2.5	北東隅壁際 床面付近	胎土白色鉱物粒を含む。 焼成酸化焰。色調黒。	外面口縁～底部横方向磨き。内面口縁～底部横方向磨き。	黒色処理。
33	須恵器 高台付坏	底部のみ	器高 3.0残存 底径 8.3	西壁際 床面上2cm	胎土φ4mmの赤色粒・白色粒・黒色 粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
34	須恵器 高台付坏	口縁部欠損	器高 4.6残存 底径 (7.2)	埋没土中	胎土φ5mmの赤色粒・白色粒・黒色 粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け 高台。	
35	須恵器 高台付坏	口縁～底部 1/2	器高 6.7 口径 (14.9) 底径 8.2	南壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調明赤褐。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け 高台。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
36	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 1.9残存 底径 6.3	埋設土中	胎土赤色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
37	緑釉陶器 皿	口縁～体部破片	器高 1.9残存 口径(15.9)	床面直上	胎土緻密。焼成やや酸化焰気味。 色調灰白。	口唇部外反。軸調濃緑色。	東海産9世紀代
38	須恵器 埴	口縁～底部 1/4	器高 5.2 口径(16.0) 底径 (7.4)	埋設土中	胎土白色粒・黒色粒・φ3mmの小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。内面黒。	外面口縁部横ナデ。体部上半回転ナデ。下半横方向手持ち寛ナデ。内面口縁～体部横方向磨き。	内面黒色処理。
39	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 2.2残存 底径 5.4	埋設土中	胎土雲母・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調黒褐。	外面体部～高台部回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。内面磨き。	内面黒色処理。 胎土分析資料 三ツ木皿沼-18
40	須恵器 高台付埴	口縁一部欠損	器高 6.3 口径(14.1) 底径 6.9	南東隅 床面直上	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい橙。内面黒褐。	外面口縁部～底部回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。内面口縁～底部磨き。	内面黒色処理。
41	須恵器 高台付埴	口縁～底部 2/3	器高 6.7 口径 14.8 底径 7.2	南東隅 床面直上	胎土雲母・赤色粒・白色粒・φ3mmの小石を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい黄橙。内面黒褐。	外面口縁～高台部回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。内面口縁～底部磨き。	内面黒色処理。
42	須恵器 羽釜	口縁部破片	器高 6.0残存	北東隅 床面上4cm	胎土白色粒・φ2mmの小石を含む。 焼成還元焰。色調灰白。	内外面横ナデ。	
43	土師器 羽釜	口縁～体部 1/3	器高 26.4残存 口径(23.1)	南東部 床面上4cm	胎土赤色粒・白色粒。黒色粒・φ5mm程の小石を含む。焼成酸化焰。 色調橙。内面明赤褐。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部上半指ナデ。下位横方向削り。内面口縁部～体部下位横方向寛ナデ。	胎土分析資料 三ツ木皿沼2-19

14号住居出土遺物観察表 第113図・P L143

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 1/5	器高 2.8 口径(10.1) 底径 (6.0)	竈内	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部静止糸切り離し。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	器高 2.9 口径(9.2) 底径 5.3	北西部 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
3	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/4	器高 4.6 口径(12.8) 底径 (6.4)	埋設土中	胎土白色粒・φ3mmの小石を含む。 焼成酸化焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
4	須恵器 高台付埴	体部～底部 1/3	器高 4.2残存 底径 7.6	中央部 床面直上	胎土精選されている。 焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
5	土師器 羽釜	口縁～体部上位破片	器高 6.5残存	埋設土中	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向削り。内面口縁部横方向寛ナデ。	
6	須恵器 甕	体部下位～底部破片	器高 8.2残存 底径(14.8)	埋設土中	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元焰。色調灰。	外面体部下位回転ナデ。底部寛ナデ。内面体部下位横・斜め方向寛ナデ。	

15号住居出土遺物観察表 第115図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 7.0残存 口径(18.2)	竈埋設土中	胎土赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい赤褐。内面明赤褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	
2	須恵器 高台付埴	体部～底部 1/4	器高 4.4残存 底径(5.4)	竈左脇、竈焚口 部使用面直上	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元焰。色調灰黄褐。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	

16号住居出土遺物観察表 第117図・P L143

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 4.0 口径 11.8 底径 5.4	竈燃焼部 使用面直上	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調灰黄。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/4	器高 5.3 口径(14.4) 底径 (6.4)	埋設土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け高台。	
3	土師器 台付甕	脚部破片	器高 4.2残存 底径(11.2)	北部中央寄り 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調赤褐。	外面脚部横ナデ。接合部縦方向削り。内面脚部横ナデ。底部指ナデ。	
4	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 6.5残存 口径(14.4)	北壁近く 床面直上	胎土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調暗赤褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向削り。内面口縁部横ナデ後、斜めの刻線。頸部横方向ナデ。体部上位丁寧なナデ。	
5	土師器 甕	口縁～体部上位1/8	器高 5.1残存 口径(15.8)	北東部 床面1cm	胎土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調灰赤。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向削り。内面口縁部横ナデ。頸部横方向寛ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	
6	土師器 甕	口縁～体部 1/6	器高 9.8残存 口径(19.8)	竈焚口部 床面直上	胎土赤色粒を含む。 焼成酸化焰。色調明褐。	外面口縁部横ナデ。体部上半横・斜め方向削り。中位縦方向指ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上半横方向寛ナデ。	
7	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 5.1残存 口径(17.7)	北西隅 床面直上	胎土赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化焰。色調黒褐。内面明赤褐。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部上位縦・斜め方向ナデ。内面口縁部～頸部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	

17号住居出土遺物観察表 第118図・P L143

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	口縁～底部 1/2	器高 22.8 口径 21.0 底径 3.5	竈前 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調赤褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横・斜め方向削り。中位縦方向削り。下位斜め方向削り。底部砂底。内面口縁～頸部横ナデ。体部上半横方向寛ナデ。	胎土分析資料 三ツ木皿沼-16
2	須恵器 高台付皿	口縁～底部 1/4	器高 2.9 口径(12.4) 底径 5.7	南西隅 床面直上	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
3	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/2	器高 4.8 口径 13.6 底径 6.7	竈右脇 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄褐。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
4	須恵器 高台付埴	口縁一部欠損	器高 5.0 口径 12.8 底径 7.1	北壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	

## 18号住居出土遺物観察表 第119図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 2.1残存 底径(6.2)	埋没土中	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面底部切り離し技法不明。付け高台。高台部内外面回転ナデ。内面底部寛磨き。	内面黒色処理。 2次加熱され酸化。

## 19号住居出土遺物観察表 第121図・P L143

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部破片	器高 3.3 口径(9.0) 底径(4.2)	南部 床面上8cm	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
2	須恵器 高台付埴	口縁～体部破片	器高 4.8残存 口縁(15.4)	電焚口右側 使用面直上	胎土赤色粒・黒色粒・φ3mmの小石を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい橙。内面黒。	外面回転ナデ。内面横方向寛磨き。	内面黒色処理。
3	須恵器 埴	体部下位～底部1/4	器高 2.3残存 底径(8.0)	南東部 床面上6cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
4	土師器 甕	体部下位～底部1/4	器高 4.2残存 底径(7.6)	電燃焼部左脇 住居確認面	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ3mmの小石を含む。焼成酸化焰。 色調灰褐。内面にぶい橙。	外面体部下位斜め方向寛削り。底面寛削り、ナデ。内面体部下位～底部指ナデ。	
5	須恵器 羽釜	口縁部破片	器高 7.7残存 口径(17.8)	中央部 床面上5cm	胎土赤色粒・φ3mmの赤石を含む。 焼成酸化焰。色調明赤褐。	内外面ナデ。	
6	土師器 鍋	口縁～体部破片	器高 10.8残存 口径(25.0)	電燃焼部右壁際 使用面直上	胎土赤色粒・φ4mmの小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい赤褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向ナデ後、縦方向指ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向指ナデ。	
7	須恵器 羽釜	口縁～体部中位1/4	器高 17.1残存 口径(20.0)	電燃焼部、両脇 使用面上5cm	胎土φ5～8mmの小礫を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部縦方向指ナデ。内面口縁部横ナデ。体部寛ナデ。	
8	土製品 土鉢	完形	長さ 3.1 幅 1.1 重さ 4.0	北西部 床面直上	焼成酸化焰。色調橙。		

## 20号住居出土遺物観察表 第123図・P L143

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 羽釜	口縁～体部上位破片	器高 7.3残存 口径(21.2)	北東電焚口部 床面上2cm	胎土黒色粒・φ4mmの小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向指ナデ。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 2/3	器高 1.6 口径(9.1) 底径 5.0	北東電前 床面上2cm	胎土黒色粒・φ3mmの小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
3	須恵器 坏	口縁～底部 2/3	器高 1.9 口径(9.0) 底径 5.0	北東電焚口部 使用面直上	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
4	円筒埴輪 円筒	基底部破片	器高 11.7残存	南東電燃焼部 使用面直上	胎土白色鉱物粒が目立つ。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(11本/2cm)後、基部板押圧による底部調整。内面基底部下端横指ナデ後、基底部縦指ナデ。	
5	土製品 土鉢	一端欠損	長さ 3.3 幅 0.9 重さ 2.14	埋没土中	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		
6	土製品 羽口	破損品	長さ 8.0残存 幅 8.1 厚さ 7.3	電前 床面直上		内径2.4cm 外径8.5cm	

## 21号住居出土遺物観察表 第124図・P L143

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	器高 2.7 口径(10.2) 底径 5.6	南西部 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	内外回転ナデ。底部切り離し技法不明。	2片の破片の復元。
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/5	器高 4.0 口径(12.0) 底径(6.0)	南部中央寄り 床面下2.5cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
3	須恵器 高台付埴	口縁～底部 2/3	器高 3.2 口径 8.9 底径 5.2	埋没土中	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～高台部回転ナデ。口縁～底部寛磨き。	内面黒色処理。
4	灰釉陶器 高台付埴	底部 1/3	器高 2.1残存 底径 7.7	北東部壁際 床面上6.5cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。施釉漬り掛か。	大原2号窯式期

## 22号住居出土遺物観察表 第126図・P L143、144

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	完形	器高 4.1 口径 11.5 底径 5.5	電燃焼部右袖際 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部上半指押さえ、指ナデ。下半横方向寛削り。底部寛削り。内面口縁部～底部ナデ。指頭痕が残る。	
2	土師器 坏	口縁～底部 1/3	器高 3.7 口径(11.2) 底径(5.2)	西壁中央壁際 床面上14cm	胎土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。体部上半指押さえ、指ナデ。下半ナデ。底部無調整。内面口縁～底部横ナデ。指頭痕が残る。	
3	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 4.1 口径 12.5 底径 6.4	電燃焼部 使用面上2cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元焰。色調明褐灰。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
4	須恵器 高台付埴	口縁一部欠損	器高 5.3 口径 13.0 底径 6.4	南東隅壁際 床面上10cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成還元焰。色調灰。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け高台。	
5	須恵器 高台付埴	口縁～底部 2/3	器高 5.2 口径(13.7) 底径 7.0	電前 床面上3cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け高台。	
6	土師器 甕	口縁～体部上位1/3	器高 8.0残存 口径(19.8)	中央部北寄り 電燃焼部 床面上10cm	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調淡橙。	外面口縁部横ナデ。頸部横ナデ。一部に横方向寛削りが残る。体部上位横方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部上位横・斜め方向指ナデ。	
7	土製品 土鉢	完形	長さ 2.8 幅 0.9 重さ 2.36	埋没土中	焼成酸化焰。色調黒褐。		
8	土製品 土鉢	完形	長さ 3.1 幅 0.9 重さ 3.14	埋没土中	焼成酸化焰。色調橙。		

第4章 遺構・遺物の一覧表

23号住居出土遺物観察表 第127図・P L144

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	完形	器高 3.5 口径 12.3 底径 5.6	北西隅 床面上14cm	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調灰黄。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 高台付埴	高台部破片	器高 2.0残存 底径(6.8)	東壁際 床面直上	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調明褐色。	内外面ナデ。底部回転糸こし。付け高台。	
3	須恵器 高台付埴	体部下位～高台部1/2	器高 3.0残存 底径 6.0	中央部南西寄り 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調灰黄。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け高台。	
4	土師器 甕	体部～底部 1/4	器高 7.8残存 底径(6.8)	埋没土中	胎土赤色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面体部下位斜め方向寛削り。底部寛削り。 内面体部下位～底部横方向寛ナデ。	
5	須恵器 壺	体部破片	器高 7.3残存 底径(16.0)	埋没土中	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調灰白。	外面2条と1条の沈線施文、回転ナデ。内面 回転ナデ。成形時の指頭圧痕が顕著に残る。	
6	須恵器 台付甕	体部中位～底部1/2	器高 15.6残存 底径 13.0	南西隅 床面下20cm	胎土白色粒・黒色粒・φ5mmの小石 を含む。焼成還元焰。色調黄灰。	外面体部下半平行タキ。内面体部中位横・ 斜め方向指ナデ。下位横方向寛ナデ。	底部中央に直径 7cmの穿孔。

24号住居出土遺物観察表 第129図・P L144、145

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁～底部 1/2	器高 3.8 口径(10.6) 底径 4.6	中央部 床面上13.5cm	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒 ・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部横・斜め方向寛削り。 底部砂底。内面口縁部横ナデ。体部～底部ナ デ。	
2	須恵器 坏	口縁～底部3/4	器高 4.2 口径(11.0) 底径 5.2	電燃焼部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。ロク口痕は深く明瞭。底部 回転糸切り離し。体部下位外面手持ち寛削り。	墨書。
3	須恵器 埴	底部のみ	器高 2.1残存 底径(7.2)	電埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。体部下位手持ち寛削り。底 部切り離し技法不明。回転寛削り後、一部に 手持ち寛削り。	
4	須恵器 高台付埴	口縁～底部 2/3	器高 4.6 口径(11.5) 底径 5.7	南壁際 床面上14cm	胎土白色粒・黒色粒・φ4mmの小石 を含む。焼成還元焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
5	須恵器 高台付埴	ほぼ完形	器高 5.0 口径 11.0 底径 6.8	南壁近く 床面上12cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
6	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 3.0残存 底径 6.9	掘り方埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ4 mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調 橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
7	須恵器 高台付埴	口縁～底部1/4 (高台欠損)	器高 3.8残存 口径(10.8)	電埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調オリープ黒。内面 黒。	外面口縁～底部回転ナデ。底部回転糸切り離 し。付け高台。内面口縁～底部磨き。	内面黒色処理。
8	須恵器 高台付埴	高台部欠損	器高 5.0残存 口径(14.0)	電焚口部 使用面直上	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。	
9	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 3.3残存 底部 6.6	北壁際 床面上17.5cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離しか？ 付け高台。	
10	灰軸陶器 高台付皿	底部破片	器高 1.4残存 底径 6.0	北壁際 床面上20cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。施釉漬け掛け。	大原2号窯式期
11	灰軸陶器 高台付皿	口縁～底部 3/4	器高 2.2 口径(12.8) 底径 6.0	南西隅壁際 床面上9.5cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。施釉漬け掛け。	大原2号窯式期
12	土師器 土釜	口縁～体部破片	器高 9.5残存 口径(16.2)	電埋没土中	胎土赤色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。一部に指頭残痕。 体部上半斜め方向寛削り後、一部に縦方向寛 磨き状ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部上半 外面体部上半斜め方向寛削り後、縦方向寛ナ デ。底部寛削り。内面体部下半横方向寛ナデ。 底部指ナデ。	
13	土師器 甕	体部下位～底部1/4	器高 10.2残存 底部(7.0)	北東隅 床面上15.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ3 mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調 にぶい橙。	外面体部下位縦方向寛削り。底部砂底。内面 体部下位～底部横方向寛ナデ。	
14	土師器 甕	体部下位～底部1/5	器高 4.8残存 底径 6.8	電埋没土中	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調明赤褐。	外面体部下位縦方向寛削り。底部砂底。内面 体部下位～底部横方向寛ナデ。	
15	土師器 甕	口縁～体部中位1/2	器高 17.8残存 口径 21.0	電煙道部 使用面直上	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削 り。下半縦方向寛削り、一部に横方向指ナデ。内 面口縁～頸部横ナデ。体部上半横方向寛ナデ。	
16	土師器 土釜	口縁～体部中位1/2	器高 16.3残存 口径 17.4	電煙道部 使用面直上	胎土赤色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部縦方向寛削り後 縦方向磨き。内面口縁部横ナデ。頸部ナデ。 体部上位～中位ハケ状工具による寛ナデ。	
17	須恵器 甕	頸部～体部上位1/5	器高 15.6残存	電燃焼部 床面上19.5cm	胎土白色粒・小石を含む。 焼成還元焰。色調灰。	内外面回転ナデ。外面体部斜行する平行タキ 調整痕が残る。	

25号住居出土遺物観察表 第131図・P L145

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	口縁～底部 3/4	器高 5.2 口径(13.4) 底径 6.6	電焚口部右脇 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
2	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/2	器高 6.1 口径(13.5) 底径(8.7)	電右脇壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ4 mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調 明赤褐。	内外面回転ナデ。底部糸切り離し。付け高台。	胎土分析資料 三ツ木血沼-11
3	須恵器 高台付埴	3/4(高台欠損)	器高 4.7 口径(12.8)	掘り方電前 床面上3cm	胎土白色粒・黒色粒・φ4mmの小石 を含む。焼成還元焰。色調灰黄。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。高台 部剥落。	
4	須恵器 高台付埴	体部～高台部	器高 5.5残存 底径(6.5)	電右脇壁際 掘り方底面上6cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄 橙。	体部～高台部回転ナデ。底部切り離し技法不 明。付け高台。	
5	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	器高 2.2 口径(9.2) 底径(6.2)	住居脇焼土層 4G-0G	胎土黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
6	須恵器 小型甕	口縁～底部 1/2	器高 12.6 口径(11.2) 底径(7.2)	電燃焼部左壁際 使用面上8cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上半回転ナデ。 下半縦方向寛削り。底部ナデ。内面口縁部横 ナデ。体部横方向寛ナデ。	胎土分析資料 三ツ木血沼-15
7	須恵器 小型甕	3/4(底部欠損)	器高 16.3 口径 13.2	電燃焼部 使用面上3.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ3 mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調 明褐色。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部上位横方向回 転ナデ。体部下半縦・斜め方向寛削り。内面 口縁～頸部横ナデ。体部上半丁寧ナデ。下 半横方向寛ナデ。	

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
8	土師器 甕	口縁～体部上半破片	器高 8.8残存 口径(18.0)	北東部 床面上5cm	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上半横方向篋削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部上半横方向篋ナデ。	
9	土師器 甕	口縁～体部上位1/5	器高 11.3残存 口径(22.4)	電燃焼部左壁際 使用面上3cm (北東隅壁際)	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部最上位指ナデ。上半横方向篋削り。内面口縁部～頸部横ナデ。体部上半横方向篋ナデ。	
10	土師器 甕	体部下半～底部	器高 9.5 底径 5.6	電燃焼部右脇 床面上3.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。内面にふい橙。	外面体部下半縦方向篋削り後、横方向指ナデ。底部砂底。内面体部下半横方向篋ナデ。底部放射状の篋ナデ。	

27号住居出土遺物観察表 第132図・P L145

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 1.9 口径 9.7 底径 5.1	電掘り方	胎土黒色粒・小石を多く含み、白色粒を僅かに含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。内面灰黄褐。	内外面回転ナデ。底部糸切り離し。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/4	器高 3.8 口径(11.4) 底径 (5.0)	電右脇貯蔵穴 床面直上	胎土白色粒僅かに混じる。焼成酸化焰。色調橙。内面にふい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
3	土師器 土釜	体部下位～底部破片	器高 4.8残存 底径(11.2)	電前 床面直上	胎土黒色粒が多く、小石混じる。白色粒僅かに目立つ。焼成酸化焰。色調にふい橙。内面橙。	外面体部下位横方向篋ナデ。一部に磨き様の整形痕がある。底部篋削り。内面体部下位～底部横方向篋ナデ。	

28号住居出土遺物観察表 第134図・P L145

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 鉢	口縁～底部 1/2	器高 12.5 口径(19.6)	電燃焼部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調黒褐。内面明褐。	外面口縁部指ナデ。体部上位～中位縦方向細かいナデ。磨き様の痕跡が残る。下位横方向ナデ。底部ナデ。内面口縁部指ナデ。体部上位～中位横方向篋ナデ。体部下位～底部篋ナデ。	
2	須恵器 甕	口縁～体部 1/5	器高 9.3残存 口径(24.0)	中央部やや南寄 床面上6.5cm	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。内面浅黄橙。	外面口縁～体部上位回転ナデ。体部下位横・斜め方向篋磨き。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。	
3	灰釉陶器 壺	底部破片	器高 1.8残存 底径(14.0)	電左前 床面上6.5cm	胎土黒色粒を含む。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転篋削り。付け高台。底部内外面に釉薬附着。	短頸壺か
4	土製品 土鍾	完形	長さ 2.9 幅 0.9 重さ 2.08	北部 底面上13cm	焼成酸化焰。色調褐灰。		
5	土製品 土鍾	一端欠損	長さ 3.1 幅 0.9 重さ 1.95	電前 床面直上	焼成酸化焰。色調灰褐。		
6	土製品 土鍾	完形	長さ 3.0 幅 1.0 重さ 2.32	埋没土中	焼成酸化焰。色調灰白。		
7	土製品 土鍾	完形	長さ 3.1 幅 0.8 重さ 1.61	埋没土中	焼成酸化焰。色調明赤褐。		
8	土製品 土鍾	横半欠	長さ 2.0残存 幅 0.8 重さ 1.05	埋没土中	焼成酸化焰。色調橙。		

29号住居出土遺物観察表 第135図・P L145

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 壺	口縁～底部 3/4	器高 6.0 口径(12.7) 底径 (6.7)	電右脇貯蔵穴 底面上6cm	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成還元焰。色調黄灰。	内外面回転ナデ。体部外面下位縦・斜め方向篋ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	土製品 土鍾	一端欠損	長さ 6.9 幅 1.4 重さ 14.40	埋没土中	焼成酸化焰。色調黄灰。		

30号住居出土遺物観察表 第137図・P L145、146

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付壺 坏	体部下位～底部破片	器高 2.7残存 底径 5.0	東壁中央壁際 床面上2.6cm	胎土雲母・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 高台付皿	ほぼ完形	器高 3.5 口径 11.8 底径 6.9	南東隅壁際 床面上6cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ5mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け高台。	
3	須恵器 高台付壺	底部のみ	器高 2.6残存 底径 6.3	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調にふい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
4	須恵器 高台付壺	高台 1/2	器高 3.8残存 底径 (9.1)	電右前 床面直上	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐。	内外面回転ナデ。	
5	緑釉陶器 段皿	口縁破片	器高 1.4残存 口径(14.8)	東壁近く 床面上7.5cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰。	外面口縁部の釉薬一部剥落。	猿投産 K-90窯式期
6	土師器 土釜	口縁～底部 1/2	器高 19.0 口径 18.8 底径 8.0	電燃焼部 使用面直上	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位縦方向篋削り。中位～下位横方向篋削り。一部に指ナデ。底部ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。	
7	土師器 土釜	口縁～底部 5/6	器高 30.5 口径 22.5 底径 8.0	電燃焼部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ5mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調にふい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上半縦方向篋削り。下位斜め方向篋削り後、中位の一部に指ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向篋ナデ。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

31号住居出土遺物観察表 第139図・P L146

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	鉄製品 刀子	両端欠損	長さ 9.6 残存幅 1.5 厚さ 0.4 重さ 9.4	南壁際 床面上29cm			分析番号109
2	須恵器 埴	口縁～底部 1/3	器高 4.4 口径(15.0) 底径(9.1)	電燃焼部 使用面上2.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ5mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。手持ち篋削り調整。	
3	須恵器 坏	口縁～体部 1/4	器高 3.2 口径 10.6 底径 7.0	南東隅壁際 床面直上	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
4	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 2.5 口径 10.6 底径 7.0	北東隅壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部篋おこし。	
5	須恵器 高台付埴	口縁～底部 4/5	器高 6.0 口径 13.8 底径 6.9	電右脇壁際	胎土赤色粒・赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け高台。	
6	土師器 土釜	口縁～体部上位1/8	器高 11.9 残存 口径(21.8)	電燃焼部右壁 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部斜め方向篋ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。	
7	土師器 甕	口縁～体部破片	器高 9.0 残存 口径(20.5)	南東隅壁際 床面上15cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向篋削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。	
8	土師器 土釜	体部下位～底部1/3	器高 10.4 残存 底径(9.2)	電燃焼部 掘り方	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ5mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐。	外面体部下位横方向篋削り。底部篋削り。内面体部下位横方向篋ナデ。	
9	須恵器 高台付埴	体部 1/2	器高 2.9 残存	中央部 床面上6.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	

33号住居出土遺物観察表 第142図・P L146

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 4/5	器高 2.5 口径(10.8) 底径 7.0	東壁土坑 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転篋おこし。	
2	土師器 羽釜	口縁～体部上位破片	器高 10.9 残存 口径(19.2)	電燃焼部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位縦方向篋ナデ後、一部に横方向の篋ナデ。内面口縁部横方向細かい篋ナデ。体部上位斜め方向篋ナデ。	
3	土師器 土釜	体部下位～底部1/4	器高 5.9 残存 底径(10.4)	東壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面体部下位縦方向篋削り。底部ナデ。内面体部下位横方向篋ナデ。	

35号住居出土遺物観察表 第144図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口縁部破片	器高 5.9 残存 口径 20.0	東壁近く 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。	内外面回転ナデ。	
2	土師器 羽釜	口縁～体部上位破片	器高 10.1 残存 口径(25.5)	北東隅壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位縦・斜め方向篋削り。内面口縁部横ナデ。体部上位篋ナデ。	頸部に小穿孔。

36号住居出土遺物観察表 第146図・P L146

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 3.2 口径 9.9 底径 6.0	南壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部静止糸切り離し。	
2	須恵器 坏	完形	器高 3.7 口径 10.0 底径 5.8	南壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
3	須恵器 高台付埴	完形	器高 5.0 口径 12.2 底径 6.9	電左袖前 床面上5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
4	須恵器 高台付埴	口縁～底部 3/4	器高 6.4 口径(13.3) 底径 7.4	南壁近く 床面上5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。高台部内側の底部に篋による円形の刻みがある。	
5	石器 整形角礫	完形	長さ 19.5 幅 15.2 厚さ 13.8 重さ 3515	南東隅壁際 床面上4.5cm	石材未固結凝灰岩。	方形に切り出されたとされる礫。	

37号住居出土遺物観察表 第147図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	灰軸陶器 段皿	体部～底部 1/2	器高 3.5 残存 底径(7.9)	北東壁際 床面直上	焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。施釉漬け掛け。	大原2号窯式期か？

38号住居出土遺物観察表 第148図・P L147

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	底部 2/3	器高 1.1 残存 底部 5.6	電焚口部 床面直上	胎土精選されている。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 坏	底部 1/2	器高 2.3 残存 底径 6.4	南東隅壁際 床面直上	胎土赤色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転篋おこし。	
3	須恵器 埴	体部下位～底部	器高 1.2 残存 底径 6.7	電燃焼部左脇 床面上1.5cm	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。外面体部下位横方向篋削り。底部一方手持ち篋削り。	
4	須恵器 高台付埴	体部下位～底部	器高 2.8 残存 底径 7.0	電燃焼部 使用面	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調明褐灰。	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。内面体部下位～底部篋磨き。	内面黒色処理。
5	土師器 羽釜	口縁～体部破片	器高 14.6 残存 口径(20.8)	電燃焼部 使用面上2.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ5mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上半縦方向篋削り。一部縦方向指ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上半縦方向篋ナデ後、横方向篋ナデ。	

## 39号住居出土遺物観察表 第150図・P L147

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 2.1残存 底径 6.7	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調灰白。内面黒。	外面体部下位～高台部回転ナデ。底部回転糸 切り離し。付け高台。内面底部磨き。	内面黒色処理。
2	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 1.9残存 底径 5.7	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調にぶい褐。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
3	須恵器 高台付埴	口縁～底部破片	器高 3.5 口径(10.4) 底径 (5.2)	掘り方埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部静止糸切り離し。	
4	須恵器 高台付埴	口縁～底部 2/3	器高 3.7 口径(10.5) 底径 5.5	電燃焼部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部静止糸切り離し。	
5	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/2	器高 6.8 口径(14.3) 底径 (8.0)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け 高台。	
6	須恵器 高台付埴	1/3(高台欠損)	器高 5.7残存 口径(15.5)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面口縁～体部下位回転ナデ。底部切り離し 技法不明。付け高台。内面口縁～底部磨き。	内面黒色処理。
7	灰軸陶器 高台付埴	口縁～底部破片	器高 3.6 口径(12.7) 底径 (5.9)	電埋没土中	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰。	付け高台。施軸漬け掛け。	大原2号窯式期
8	灰軸陶器 皿	口縁～底部 1/2	器高 2.6 口径(11.8) 底径 6.4	埋没土中	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰。	底部回転ナデ。付け高台。施軸漬け掛け。	大原2号窯式期
9	灰軸陶器 輪花皿	口縁～底部 1/2	器高 2.8 口径(13.0) 底径 (7.2)	埋没土中	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰。	四輪花。底部回転ナデ。付け高台。施軸不明。	大原2号窯式期
10	土師器 土釜	口縁～体部 1/2	器高 20.5残存 口径 20.3	電煙道部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ3 mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調 黄橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向指 ナデ。上～中位縦方向篋削り。内面口縁部横 ナデ。体部上位～中位横方向篋ナデ。	
11	土師器 甕	体部下位～底部3/4	器高 17.7残存 底径 (6.6)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ3 mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調 にぶい褐。内面にぶい黄橙。	外面体部下位縦方向篋削り後、横方向指ナデ。 底部篋削り。内面体部下位横方向篋ナデ。	

## 40号住居出土遺物観察表 第151図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 6.5残存 口径(16.5)	電焚口部 床面上6.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調明赤褐。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部上位横方向篋 削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方 向篋ナデ。	

## 41号住居出土遺物観察表 第152図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～体部破片	器高 3.6残存 口径(10.4)	中央部 床面上4cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。	
2	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 3.3残存 口径(18.4)	南壁際 床面上2.5cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調黒褐。	外面口縁部横ナデ。体部上位縦方向篋削り。 内面口縁部横ナデ。体部上位篋ナデ。	

## 42号住居出土遺物観察表 第153図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	底部	器高 1.7残存 底径 (5.1)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	

## 43号住居出土遺物観察表 第154図・P L147

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 4/5	器高 2.4 口径 9.4 底径 6.9	南西隅貯蔵穴 確認面	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転篋おこし。	
2	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 2.2残存 底径 7.0	南西隅貯蔵穴 底面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。内面黒。	外面体部～高台部回転ナデ。底部回転糸切り 離し。付け高台。内面底部磨き。	内面黒色処理。
3	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 5.5残存 口径(19.3)	中央やや東 床面5cm	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。頸部～体部上位横方向指 ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向篋 ナデ。	
4	石器 円盤形	下端欠損	長さ 6.3 幅 11.1 厚さ 2.6 重さ 210	北西隅壁際 床面直上	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の石器の破片。側縁部に敲打痕 が残る。	

## 45号住居出土遺物観察表 第157図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	灰軸陶器 高台付埴	底部 1/4	器高 2.1残存 底径 (7.3)	電左前 床面直上	胎土微砂粒を含む。焼成還元焰。 色調灰白。	付け高台。施軸不明。	大原2号窯式期

## 46号住居出土遺物観察表 第158図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	口縁～体部 1/4	器高 5.4残存 口径(15.7)	南東隅 床面上7cm	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元焰。色調灰。	内外面回転ナデ。	
2	土師器 坏	口縁～体部下位破片	器高 2.7残存 口径(11.9)	電埋没土中	胎土赤色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。底部篋削り・ナデ。内面 口縁～底部丁寧ナデ。	

## 47号住居出土遺物観察表 第160図・P L147

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁～底部 2/3	器高 4.9 口径(15.6) 底径 9.5	電前 床面上10cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部篋削り。底部篋削り。 内面口縁部横ナデ。底部丁寧ナデ。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	器高 3.8 口径(13.9) 底径 7.8	電焚口部 使用面上5cm	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。周縁 のみ回転篋削り。	
3	土師器 甕	体部 1/2	器高 15.8残存	南西隅 床面上2cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面頸部横ナデ。体部上位横方向篋削り。下 半縦方向篋削り。内面頸部横ナデ。体部上半 横方向篋ナデ。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

50号住居出土遺物観察表 第164、165図・P L147、148

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 1/4	器高 2.0 口径(8.9) 底径(4.4)	窠内	焼成酸化焰。色調橙。	内外面ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/4	器高 2.7 口径(9.8) 底径(7.0)	埋没土中	焼成酸化焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転篋削り。	
3	須恵器 坏	底部のみ	器高 1.5残存 底径 5.8	中央部北寄り 床面上26cm	焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
4	須恵器 高台付埴	1/3(高台欠損)	器高 5.7残存 口径(14.5)	床下土坑内	胎土白色微細砂を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面口縁～体部上半ナデ。体部下位斜め方向 篋削り。底部回転糸切り離し。内面体部横方 向篋磨き。底部一方方向磨き。	内面黒色処理。 二次加熱により酸化。
5	須恵器 坏	口縁部1/3欠損	器高 3.0 口径 9.9 底径 6.5	窠左前 床面上9cm	胎土赤色微細粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け 高台。	
6	須恵器 高台付埴	体部下位～底部2/3	器高 3.6残存 底径(6.0)	窠左前 床面上17cm	胎土精選された胎土。 焼成酸化焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け 高台。	
7	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/2	器高 6.1 口径(13.4) 底径 6.5	南壁際、窠周辺 床面上4cm	胎土白色微細砂を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～体部下半回転ナデ。体部下位斜め 方向篋削り。底部回転糸切り離し。付け高台。 内面口縁～体部横方向磨き。底部一方方向磨 磨き。	内面黒色処理。
8	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/2	器高 6.8 口径(15.8) 底径 7.8	窠前床下土坑と 南西隅の出土遺 物接合。床面直 上	胎土白色微細砂が目立つ。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～体部中位回転ナデ。体部下位横方 向篋削り。底部回転糸切り離し。付け高台。 内面口縁端部横ナデ。底部一方方向細かい磨 磨き。体部横方向磨磨き。	内面黒色処理。 二次的加熱により、 橙色に変色した破 片もある。
9	土師器 土釜	口縁～体部 1/6	器高 8.1残存 口径(18.0)	北東隅 床面上23cm	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部縦方向磨ナデ後、中 位横方向磨ナデ。内面口縁部横ナデ、体部上 半横方向磨ナデ。	内面スス付着。 胎土分析資料 三ツ木皿沼-3
10	土師器 土釜	口縁～体部上位破片	器高 8.2残存 口径(24.5)	窠周辺床面直上 69住の遺物と接合	胎土雲母細片を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部縦方向磨ナデ。内面口 縁部横ナデ。体部横方向磨ナデ。	
11	土師器 羽釜	口縁部破片	器高 6.3残存 口径(21.5)	埋没土中	胎土赤色鉱物粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	内外面ナデ調整。罫には接合時の指頭圧痕が 多く残る。	
12	土師器 甕	頸部～体部 1/3	器高 18.5残存	窠前床下土坑内	胎土細砂・φ3mmの砂粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部上半横方向磨ナデ。下 位に斜め方向磨ナデ。体部下半横方向磨削り 後、縦方向磨ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上 半横方向磨ナデ。	内面上位にスス 付着。
13	土製品 土鍾	一端欠損	長さ 4.6 幅 1.3 重さ 8.45	埋没土中	焼成酸化焰。色調灰白。		
14	円筒埴輪 円筒	基底部破片	器高 15.7残存 底径(15.6)	窠内	胎土細砂を多量に含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(10本/2cm)。内面基底部下端横ハ ケ(9本/2cm)後、基底部斜指ナデ。底部平坦で 小さな凹凸。基部の重ね合わせ左。	
15	円筒埴輪 円筒	胴～基底部 1/4	器高 26.2残存 底径(28.0)	窠燃焼部	胎土白色鉱物粒・砂粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(12本/2cm)後、突帯貼付。内面胴 部縦ハケ(9本/2cm)、一部に斜指ナデ。基底部 斜指ナデ後、斜ハケ(9本/2cm)。底面平坦。突 帯低い台形(下稜低い)、一部に布目圧痕。	
16	石器 整形角礫	破片	長さ 10.0 幅 11.5 厚さ 11.0 重さ 1570	窠前 床面上29cm	石材金山石。	方形に整形された石塊の破片。明瞭に使用痕 跡は認められない。	

51号住居出土遺物観察表 第168図・P L148

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 1/4	器高 4.0 口径(10.4) 底径 4.0	埋没土中	焼成還元焰。色調灰白。 一部に黒斑。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/4	器高 3.6 口径(11.8) 底径(5.6)	北西部 床面上8cm	胎土φ5mmほどの小礫も含む。 焼成還元焰。色調黒褐。	内外面口縁～体部回転ナデ。底部回転糸切り 離し。	
3	須恵器 坏	口縁～底部 3/4	器高 3.8 口径(10.6) 底径 4.0	中央部 床面直上	胎土φ2～5mmの砂礫を含む。 焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
4	須恵器 坏	口縁～底部 1/5	器高 5.0 口径(14.5) 底径(6.2)	埋没土中	胎土雲母細粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙～褐灰。	内外面回転ナデ調整。底部回転篋おこし。	
5	土師器 高台付埴	口縁～底部 1/2	器高 5.9 口径(13.2) 底径 7.3	西側窠前	胎土微細砂を多く含む、ザラザラし ている。焼成酸化焰。色調にぶい黄 橙。	内外面ナデ調整。体部下位縦方向指ナデ。付け 高台。高台部内面ナデ。	
6	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/4	器高 5.1 口径(12.5) 底径 6.0	窠掘り方 床面直上	胎土微細砂を多く含む。焼成酸化焰。 色調灰白。	底部切り離し技法不明。付け高台。	底部外面および内 面にスス付着。器 面が荒れている。
7	須恵器 坏	口縁～底部 1/4	器高 3.5 口径(11.8) 底径(6.0)	北西隅 床面上18cm	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	体部外面に「上」の 墨書あり。
8	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/3	器高 6.0 口径(13.5) 底径(5.7)	西側窠内	胎土微細砂を多く含む、ザラザラし ている。焼成酸化焰。色調灰白。	内外面回転ナデ調整。底部回転糸切り離し。 付け高台。	
9	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 4.5残存	西部 床面上14cm	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け 高台。	
10	須恵器 高台付埴 (高台欠損)	口縁～底部 1/2	器高 5.8残存 口径 15.0	中央部 床面上23cm	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
11	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 2.4残存 底径(6.0)	東部 掘り方内	胎土砂礫を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
12	須恵器 高台付埴	体部下位～ 底部残存	器高 3.6残存 底径 6.3	東壁際 掘り方底面直上	胎土φ8mmの砂礫も含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
13	須恵器 高台付埴	体部下位～ 底部残存	器高 2.1残存 底径 4.8	北東隅貯蔵穴内 床面上19cm	胎土微細砂を多く含む、ザラザラし ている。焼成酸化焰。色調灰黄。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
14	須恵器 高台付埴	底部 1/5	器高 6.5残存 底径(8.8)	西壁際 床面上23cm	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
15	須恵器 高台付埴	底部 1/2	器高 2.5残存 底径 6.0	西南隅 床面直上	焼成酸化焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
16	灰軸陶器 高台付皿	口縁～底部 1/6	器高 2.2 口径(12.6) 底径(6.2)	南西隅土坑 床面上5cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	口縁部わずかに外反。付け高台。施釉漬り掛 け。	大原2号窯式期

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
17	灰釉陶器 高台付埴	体部下位～底部1/4	器高 2.7残存 底径( 7.0)	西部 床面上1cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	口縁部わずかに外反。施釉漬け掛け。	大原2号窯式期
18	灰釉陶器 埴	口縁部 1/4	器高 3.4残存 口径 13.0	北東隅貯蔵穴 床面直上	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	付け高台。施釉不明。	大原2号窯式期
19	土師器 羽釜	口縁部破片	器高 4.1残存 口径(24.7)	西壁際 床面上25cm	焼成酸化焰。色調にぶい褐。	内外面ともナデ。	顎がうすく鋭い。
20	土師器 甕	体部下位～底部1/3	器高 12.4残存 底径( 7.0)	西壁沿い 床面上11cm	胎土φ3～5mmの砂粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面体部下位縦方向寛削り後、縦・斜め方向 ナデ。体部下端横方向寛削り。底部寛ナデ。 内面体部下位～底部横方向寛ナデ。	
21	須恵器 甕	頸部 1/4	器高 3.6残存	中央部 床面上24cm	焼成還元焰。色調にぶい黄橙。	内外面とも回転ナデ。	
22	土製品 羽口	破片	長さ 3.8残存 幅( 6.1) 厚さ 1.5	埋没土中		内径 4.6cm 外径 8.0cm	
23	土製品 土鍾	完形	長さ 3.2 幅 1.5 重さ 7.03	北部 床面上11cm	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。		
24	土製品 土鍾	完形	長さ 3.7 幅 1.6 重さ 8.84	北部 床面上7cm	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。		
25	土製品 土鍾	一端欠損	長さ 3.5残存 幅 1.5 重さ 7.20	北部 床面直上	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		
26	土製品 土鍾	一端欠損	長さ 4.1 幅 1.5 重さ 8.43	南東隅、床下土 坑底面直上	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		
27	土製品 土鍾	完形	長さ 4.3 幅 1.5 重さ 8.61	電前、床下土坑 底面上8cm	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		
28	土製品 土鍾	完形	長さ 3.9 幅 1.4 重さ 8.20	中央部 床面上3cm	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		

52号住居出土遺物観察表 第170、171図・P.L148、149

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	完形	器高 2.3 口径 8.7 底径 5.1	北西隅 床面直上	胎土精選された胎土。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面体部回転ナデ。底部回転窓おこし。内面 口縁～底部回転ナデ。	口縁部内面の 1/2にスス附着。
2	須恵器 埴	口縁～底部 3/4	器高 4.9 口径(15.0) 底径 7.1	電左脇 床面直上	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
3	須恵器 埴	口縁～底部 2/3	器高 4.8 口径 13.8 底部 6.0	中央やや南 床面直上	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。体部ナデ。体部下位横方 向寛磨き。底部ナデ。内面口縁部横ナデ。体 部～底部回転ナデ。	内面黒色処理。 一部酸化して橙色。
4	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 3.4残存 底径( 8.1)	南西隅 床面直上	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	高台部回転ナデ。底部切り離し技法不明。付 け高台。	底部内面スス附着。
5	須恵器 坏	体部破片	器高 1.8残存	埋没土中	焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。	内面に墨書。 文字不明。
6	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/4	器高 5.6 口径(13.7) 底径 6.4	電前 床面上25cm	焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け 高台。	
7	須恵器 高台付埴	口縁～底部 2/3	器高 5.8 口径 15.8 底径 6.8	電左脇と電前の 破片接合 床面直上	胎土砂粒を多く含む、ザラザラして いる。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け 高台。体部外面下位には横方向の削りよ うなナデ調整が入る。	
8	須恵器 高台付埴	口縁～底部 2/3	器高 6.2 口径(14.5) 底径 6.7	電左脇 床面直上	焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～体部回転ナデ。底部回転系切り離 し。付け高台。内面口縁～底部寛磨き。	内面黒色処理。一 部酸化して橙色。
9	土師器 羽釜	口縁～底部 内面1/2 外面1/4(剝離)	器高 14.7 口径(17.0) 底径( 8.0)	中央部 床面直上	胎土精選された胎土。 焼成酸化焰。色調灰黄褐。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部上半縦方向 ナデ。下半横方向ナデ。内面口縁部横ナデ。 体部横方向寛ナデ。	外面は剝離が著し い。
10	土師器 羽釜	ほぼ完形	器高 33.4 口径 23.6 底径 11.7	南東隅 電前 床面直上	胎土φ5～8mmの砂粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部上上→下縦 方向寛削り。中位～下位下→上縦方向寛削り。 底部ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方 向寛ナデ。中位～下位斜め方向寛ナデ。最下 位横方向寛ナデ。底部ナデ。	
11	土師器 羽釜	口縁～体部下位1/6	器高 24.2残存 口径(25.9)	南東隅 電前 床面直上	胎土細砂を多く含む、ザラザラして いる。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部～頸接合部横ナデ。体部上位斜め 方向寛削り。中位縦方向寛削り。下位斜め方 向寛削り。内面口縁部～体部下位横・斜め方 向寛ナデ。	
12	土師器 土釜	口縁～底部 1/2	器高 29.5 口径(25.9) 底径(11.1)	電前 床面直上	胎土微細砂を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい褐。	外面口縁部横ナデ。体部上端横方向ナデ。体 部上半丁寧なナデ。下半縦方向寛削り後、縦 方向ナデ。底部ナデ。内面口縁部横ナデ。体 部上半横方向寛ナデ。中位縦方向ナデ。下位 ～底部横方向寛ナデ。	
13	土製品	破片	縦 7.0 横 5.6 厚さ 0.75	埋没土中	焼成還元焰。色調灰。	断面部を磨っている。	須恵器甕の転用。
14	土製品 土鍾	縦横半欠	長さ 1.8残存 幅( 1.2) 重さ 1.56	埋没土中	焼成酸化焰。色調褐灰。		
15	土製品 土鍾	縦横半欠	長さ 2.1残存 幅( 1.5) 重さ 2.58	埋没土中	焼成酸化焰。色調褐灰。		
16	土製品 土鍾	完形	長さ 3.2 幅 1.0 重さ 3.50	東部 床面上16cm	焼成酸化焰。色調浅黄橙。		
17	土製品 土鍾	完形	長さ 3.3 幅 1.2 重さ 5.01	埋没土中	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		
18	土製品 土鍾	完形	長さ 3.0 幅 1.0 重さ 3.58	西部 床面直上	焼成酸化焰。色調灰黄。		
19	土製品 土鍾	完形	長さ 2.8 幅 1.1 重さ 3.27	埋没土中	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		
20	土製品 土鍾	完形	長さ 3.9 幅 1.1 重さ 4.14	東部 床面直上	焼成酸化焰。色調黒褐。		
21	土製品 土鍾	一端欠損	長さ 3.8残存 幅 1.5 重さ 7.11	埋没土中	焼成酸化焰。色調浅黄橙。		

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
22	鉄製品 刀子	両端欠損	長さ 5.1 残存 幅 1.7 厚さ 1.1 重さ 9.32	埋没土中			分析番号110
23	鉄製品 釘	両端欠損	長さ 4.3 残存 幅 0.6 厚さ 0.5 重さ 6.72	埋没土中			分析番号102

53号住居出土遺物観察表 第174図・P.L149、150

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 高台付埴	口縁～底部 2/3	器高 6.3 口径(14.8) 底径 8.2	竈左前 床面直上	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部斜め方向寛削り後、指押さえ。高台接合部ナデ。付け高台。内面口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	外面に墨書。
2	土師器 高台付埴	口縁～体部下位1/2	器高 5.1 残存 口径 16.0	竈内 床面直上	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部斜め方向寛削り後、指押さえ。内面口縁部横ナデ。体部ナデ。	胎土分析資料 三ツ木皿沼-4
3	須恵器 坏	底部のみ	器高 3.0 残存 底径 5.7	竈左前 床面上9cm	焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
4	須恵器 高台付埴	体部下位～底部1/4	器高 3.0 残存 底径 6.1	西部 床面上5cm	焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け高台。	
5	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/3	器高 5.3 口径(12.8) 底径 6.8	南西隅 床面直上	胎土φ2～3mmの砂礫を含む。焼成還元焰。色調灰白。底部に黒斑。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け高台。	
6	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	器高 4.4 口径(12.6) 底径 6.0	竈内 使用面直上	焼成酸化焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
7	灰釉陶器 高台付埴	口縁～高台部 1/2	器高 3.9 口径(13.3) 底径 6.8	竈前 床面上13cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。施釉漬け掛け。	大原2号窯式期
8	灰釉陶器 高台付埴	底部 1/2	器高 2.0 残存 底径 8.0	西北壁際 床面上8cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。施釉不明。	大原2号窯式期
9	灰釉陶器 高台付埴	体部中位～底部1/2	器高 3.6 残存 底径 5.4	北西壁際 床面上9cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。施釉漬け掛け。	大原2号窯式期
10	灰釉陶器 高台付埴	底部のみ	器高 1.4 残存 底径 7.4	竈埋没土中	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。施釉不明。	大原2号窯式期
11	灰釉陶器 高台付埴	底部のみ	器高 2.1 残存 底径 6.7	竈前 床面直上	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰。	底部回転ナデ。付け高台。施釉不明。	大原2号窯式期
12	土師器 壺	口縁部 1/4	器高 7.9 残存 口径(19.6)	竈内 床面上19cm	焼成酸化焰。色調にふい褐。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	
13	土師器 壺	口縁～体部上位破片	器高 4.6 残存 口径(21.6)	南壁・北壁付近 の土器が接合 床面上5cm	焼成酸化焰。色調にふい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	
14	土師器 壺	口縁～体部上位破片	器高 7.95 残存 口径(21.4)	竈前 床面直上	焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。内面口縁部横ナデ。頸部ナデ。体部上位横ナデ。	
15	土師器 壺	口縁～体部上位1/5	器高 8.2 残存 口径(21.9)	竈前 床面上10cm	焼成酸化焰。色調にふい橙。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。内面口縁部横ナデ。頸部横方向ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	
16	土師器 壺	口縁～体部下位1/4	器高 24.5 残存 口径(23.8)	竈燃焼部 使用面直上	焼成酸化焰。色調にふい橙。 一部黒斑。	外面口縁部～頸部横ナデ。指頭痕残る。頸部下位ナデ。粘土積み上げ痕残る。体部上位斜め方向寛削り。中位～下位縦方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	
17	石器 敲石	完形	長さ 10.6 幅 9.4 厚さ 3.6 重さ 460	北隅壁際 床面直上	石材粗粒輝石安山岩。	やや厚く扁平な小礫。両面中央に敲打痕が残る。磨り面も残る。	
18	石器 整形軽石	破片	長さ 10.4 幅 11.3 厚さ 9.2 重さ 460	南西隅 床面直上	石材二ツ岳軽石。	方形に整形した軽石の破片。上面は磨られており、側面には敲打痕と擦痕が残る。	

54号住居出土遺物観察表 第176図・P.L150

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 3/4	器高 3.0 口径 9.6 底径 5.4	竈前・中央部 床面上14cm	焼成酸化焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 3/4	器高 2.9 口径 11.5 底径 6.5	竈内 使用面上2cm	色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
3	土師器 土釜	口縁～体部上位1/8	器高 7.5 残存 口径(18.3)	北東隅 床面上19cm	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部横方向寛削り後、縦方向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横ナデ。	
4	土師器 土釜	口縁～体部上位1/5	器高 9.5 残存 口径(22.4)	北壁近く 床面直上	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位縦方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	
5	土製品 土鍾	完形	長さ 3.5 幅 1.2 重さ 5.88	掘り方埋没土中	焼成酸化焰。色調にふい橙。		
6	鉄製品 針	完形	長さ 5.1 幅 0.2 厚さ 0.3 重さ 1.47	埋没土中			分析番号101
7	石器 砥石	上下端欠損	長さ 5.5 幅 5.5 厚さ 2.5 重さ 57.0	掘り方埋没土中	石材砥沢石。	扁平に使い込まれた砥石の破片。表面一面を使用している。	
8	石器 整形軽石	上下端、右欠損	長さ 10.9 幅 9.7 厚さ 6.8 重さ 660	貯蔵穴 底面直上	石材数塚石?	方形に整形した軽石の破片。上面に炭化物が付着している。	
9	石器 砥石	下端欠損	長さ 5.7 幅 4.6 厚さ 2.3 重さ 77.0	埋没土中	石材砥沢石。	扁平に使い込まれた砥石の破片。表裏二面とも使用している。	

83号住居出土遺物観察表 第177図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	体部破片	器高 4.4 残存	竈前 床面上18cm	焼成酸化焰。色調にふい褐。	外面体部上半横方向寛磨き。体部下半回転寛削り。内面体部横方向寛磨き。	内面黒色処理。

55号住居出土遺物観察表 第178図・P L150

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 6.6残存 口径(20.3)	南西壁際 床面上13cm	焼成酸化焰。色調灰白。	内外面口縁～頸部横ナデ。 体部上位横方向篋ナデ。	
2	灰釉陶器 高台付段 皿	底部破片	器高 1.8残存 底径( 6.0)	埋没土中	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転糸切り。付け高台。施釉不明。	虎溪山1号窯式期
3	灰釉陶器 高台付皿	口縁～底部 1/6	器高 2.0 口径(13.3) 底径( 7.0)	北東隅 床面上2cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。施釉漬け掛け。	虎溪山1号窯式期
4	鉄製品 不明	完形	長さ 7.3 幅 0.9 厚さ 0.6 重さ 5.18	埋没土中		断面三角形・棒状。	
5	土製品 土鏝	一端欠損	長さ 3.0残存 幅 1.2 重さ 4.13	北西部 床面上2cm	焼成酸化焰。色調におい橙。		
6	土製品 土鏝	一端欠損	長さ 2.9残存 幅 1.0 重さ 3.24	埋没土中	焼成酸化焰。色調におい褐。		
7	土製品 土鏝	完形	長さ 2.8 幅 1.1 重さ 3.36	埋没土中	焼成酸化焰。色調におい黄橙。		

56号住居出土遺物観察表 第180、181図・P L150、151

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 1/3	器高 2.95 口径( 9.7) 底径 5.6	竈前 床面上4cm	胎土赤色鉱物粒を含む。焼成酸化焰。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	灰釉陶器 高台付埴 土	底部 1/3	器高 1.9残存 底径( 7.4)	竈左脇 床面上19cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部篋ナデ。付け高台。施釉漬け掛け。	大原2号窯式期
3	須恵器 高台付埴 土	底部のみ	器高 1.6残存 底径( 5.2)	西壁際 床面直上	焼成還元焰。色調黒。	底部回転糸切り離し。外面高台接合部回転ナ デ。内面底部横方向篋磨き。	内外面とも黒色処 理。
4	円筒埴輪 円筒	胴部破片	器高 13.9残存	南西隅貯蔵穴内 床面上5cm中央 部の破片接合	胎土細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調におい赤褐。	外面縦ハケ(13本/2cm)。内面胴部縦指ナデ。	
5	円筒埴輪 朝顔形	口縁部破片	器高 15.0残存	竈煙道端部 使用面	胎土細砂、小礫を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(10本/2cm)。内面口縁部上半横ハ ケ(12本/2cm)後、下半縦指ナデ。	
6	円筒埴輪 円筒	胴部 1/4	器高 13.3残存	竈前 使用面下6cm	胎土細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調におい赤褐。	外面縦ハケ(14本/2cm)。内面胴部縦指ナデ。 透孔円形。	
7	土製品 土鏝	完形	長さ 3.1 幅 1.0 重さ 4.13	東部 床面上6cm	焼成酸化焰。色調橙。		
8	土製品 土鏝	一端欠損	長さ 4.0残存 幅 1.9 重さ 11.55	北東部 床面上17cm	焼成酸化焰。色調黄灰。		
9	土製品 土鏝	一端欠損	長さ 3.9残存 幅 2.0 重さ 12.49	埋没土中	焼成酸化焰。色調黄灰。		
10	鉄製品 不明	下端欠損	長さ 5.7残存 幅 1.2 厚さ 0.7 重さ 18.10	東壁際 床面上3cm			分析番号116
11	鉄製品 不明	一端欠損	長さ 4.0残存 幅 1.6 厚さ 1.0 重さ 13.25	北東部 床面直上			分析番号115
12	鉄製品 不明	両端欠損	長さ 3.8残存 幅 1.4 厚さ 1.5 重さ 6.85	西部 床面上3cm			分析番号114
13	土製品 羽口	破片	長さ 4.4残存 幅 (3.7) 厚さ 1.9	南壁際 床面上4cm		内径 2.6cm 外径 6.9cm	
14	土製品 羽口	破片	長さ 13.0残存 幅 (4.8) 厚さ 1.1	南西部貯蔵穴底 面上18cm 南壁際床面下3cm		内径 2.7cm 外径 6.2cm	
15	土製品 羽口	破片	長さ 8.0残存 幅 (7.4) 厚さ 2.4	北西部 床面上6cm		内径 2.4cm 外径 6.3cm	
16	土製品 羽口	破片	長さ 14.5残存 幅 (7.6) 厚さ 7.5	南西部 床面上19cm		内径 3.3cm 外径 7.8cm	
17	鉄滓 碗形滓		長さ 16.2 幅 12.4 厚さ 4.2 重さ 1010	南部 床面上5cm			

57号住居出土遺物観察表 第183図・P L151

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	口～底破片	器高 3.7残存 口径(12.0) 底径( 6.6)	埋没土中	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部斜め方向篋削り。底 部一方方向篋削り。内面口縁部～底部ナデ。	体部内面に「阿」 墨書。
2	須恵器 坏	口縁部1/3欠損	器高 2.9 口径 10.2 底径 6.1	北西隅 床面直上	焼成酸化焰。色調におい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。底部 内面渦巻き状の沈線が刻まれている。	
3	須恵器 坏	底部のみ	器高 1.5残存 底径 6.3	南西隅 床面直上	焼成還元焰。色調灰褐。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	底部外面スス付着。
4	須恵器 高台付埴 土	口縁～底部 1/3	器高 6.5 口径(15.2) 底径 8.3	南壁際 床面直上	胎土砂粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し後、回転ナデ。 付け高台。	
5	須恵器 羽釜	口縁～体部 1/4	器高 11.6残存 口径(17.9)	中央部やや西側 床面上2cm	胎土細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。	
6	土製品 土鏝	一端欠損	長さ 3.5 幅 1.4 重さ 6.46	北部 床面上12cm	焼成酸化焰。色調浅黄橙。		

58号住居出土遺物観察表 第185図・P L151

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	口縁～体部 1/2	器高 20.9残存 口径(20.7)	竈内 使用面上3cm	胎土微細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調におい黄橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向篋削 り。下位斜め方向篋削り。内面口縁部横ナデ。 体部横方向篋ナデ。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/5	器高 4.1 口径(11.9) 底径( 4.5)	東壁際 床面上11cm	胎土微細砂を多く含む、ザラザラし ている。焼成還元焰。色調暗灰。	内外面回転ナデ。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

60号住居出土遺物観察表 第186図・P.L151

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 1.8 口径 9.8 底径 7.0	中央部 床面直上	胎土微細砂を含み、ザラザラしている。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/6	器高 4.8 口径(13.5) 底径 (5.7)	北西部 床面上6cm	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
3	須恵器 坏	口縁～体部下位1/4	器高 3.6残存 口径(13.8)	北西隅 床面上5cm	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。	
4	円筒埴輪 円筒	破片	器高 12.6残存	電燃焼部 使用面	胎土茶色鉱物粒が目立つ。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(11本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部縦方向指ナデ。透孔円形。突帯台形(下稜が低い)。	
5	円筒埴輪 円筒	胴中位～基底部1/5	器高 27.3残存 底径(13.0)	電煙道部 使用面	胎土赤色鉱物粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面縦ハケ(11本/2cm)後、突帯貼付。内面基底部斜指ナデ後、胴部縦指ナデ。底面平坦で小さな凹凸。基部の重ね合わせ右。透孔円形。突帯低い台形(下稜低い)。	

61号住居出土遺物観察表 第188図・P.L152

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	口縁～底部 3/4	器高 4.7 口径 11.9 底径 6.4	北壁際 床面直上	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部～高台部回転ナデ。底部切り離し技法不明。内面坏部細かな寛磨き。	内面黒色処理。
2	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 2.1 口径 9.9 底径 6.8	北東隅 床面直上	胎土細砂を多く含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。底部の一部に黒斑。	内外面回転ナデ。底部回転寛おこし。	
3	須恵器 坏	口縁～底部 3/4	器高 2.5 口径 9.8 底径 6.1	電焚口部	焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転寛おこし。	
4	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 2.3残存 底径 7.4	南壁際 床面上12cm	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面回転ナデ。底部回転糸切り離しか?内面丁寧な寛磨き。	内面黒色処理。 2次加熱により酸化。
5	灰釉陶器 埴	口縁～体部破片	器高 5.6残存 口径(16.2)	西壁際 床面直上	胎土白色粒を微量含む。焼成還元焰。色調灰。	体部下位回転筒割り。内面口唇部に凹線が一条巡る。施釉範囲は内面口縁部から体部のみ。	虎渓山1号窯式期
6	土師器 羽釜	口縁～体部上位1/8	器高 7.8残存 口径(18.4)	電 使用面直上	焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部～鋳部横ナデ。体部上位縦方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部横・斜め方向寛ナデ。	胎土分析資料 三ツ木皿沼-5
7	土師器 土釜	体部下位～底部破片	器高 6.7残存 底径(14.4)	電 使用面直上	胎土φ10～15mmの砂粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面体部下位縦方向寛削り。最下横方向寛削り。底部ナデ。内面体部下位～底部横方向寛ナデ。	
8	土製品 土鍾	縦半欠	長さ 4.6 幅 1.9 重さ 6.91	北部 床面上2cm	焼成酸化焰。色調明赤褐。		
9	土器 塊	破片	長さ 7.4 幅 7.5 厚さ 5.6 重さ 220	電燃焼部右脇 使用面上5cm	焼成酸化焰。色調明赤褐。	方形に整形し焼成された土塊。上面に擦痕が残る。	

62号住居出土遺物観察表 第190、191図・P.L152、153

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	灰釉陶器 高台付皿	体部下位～底部1/5	器高 1.9残存 底径(6.0)	埋設土中	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	付け高台。施釉漬り掛け。	大原2号～ 虎渓山1号窯式期
2	灰釉陶器 高台付皿	体部下位～底部破片	器高 1.8残存 底径(5.9)	中央部やや西 床面直上	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	付け高台。施釉不明。	大原2号窯式期
3	土師器 土釜	底部 1/5	器高 3.3残存 底径(12.6)	電前掘り方土坑 内 底面直上	胎土φ3～5mmの砂礫を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面体部下位縦方向寛削り。下端部横方向寛削り。底部寛削り。内面体部下位～底部横ナデ。	
4	土師器 羽釜	口縁～体部上半1/4	器高 15.7残存 口径(23.8)	電煙道部 埴輪上	胎土黒色鉱物粒を多量に含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部～鋳部横ナデ。体部上半縦方向寛削り後、斜め方向細かな寛ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上半横方向寛ナデ後、上位のみ縦方向ナデ。	
5	鉄製品 不明	両端欠損	長さ 4.6残存 幅 1.2 厚さ 1.4 重さ 6.82	北部 床面直上			分析番号401
6	土製品 羽口		長さ 18.0残存 幅 8.0 厚さ 8.3	電焚口部右側 使用面下4cm		内径 3.5cm 外径 9.0cm	
7	土製品 羽口	破片	長さ 9.0残存 幅 9.0 厚さ 2.0	中央部 床面直上		内径 3.8cm 外径 5.2cm	
8	土製品 羽口		長さ 28.9残存 幅 (9.1) 厚さ 8.0	電燃焼部 使用面下6cm		内径 3.2cm 外径 7.9cm	先端部内径1.9cm 分析番号201
9	円筒埴輪 円筒	胴部破片	器高 12.9残存	電焚口部右側面 使用面に立てていた。	胎土黒色鉱物粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(9本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部縦ハケ(6本/1cm)後、縦指ナデ。突帯台形(下稜低い)。	
10	円筒埴輪 円筒	胴部破片	器高 24.0残存	埋設土中	胎土細砂、少量の小礫を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(15本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部縦・斜指ナデ後、上位斜ハケ(7本/1cm)。透孔円形。突帯台形。	突帯直上にヘラ記号の一部残る。
11	円筒埴輪 円筒	胴上位～基底部破片	器高 40.3残存	電焚口部 使用面直上	胎土白色鉱物粒・雲母片が目立つ。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(9本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部～基底部縦指ナデ後、縦ハケ(11本/2cm)。底面平坦。透孔円形。突帯台形(下稜低い)。	胴部内面に平行する沈線とそれに斜行する沈線。ヘラ記号か。
12	円筒埴輪 円筒	口縁～胴部下位1/3	器高 40.7残存 口径(30.0)	電煙道部。使用 面直上、内面を 上にしていた。	胎土細砂を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい橙。	外面縦ハケ(14本/2cm)後、突帯貼付。口縁部端横ナデ。口縁部はゆるく外反する。内面基底部縦指ナデ。胴部横指ナデ後、縦・斜ハケ(12本/2cm)。口縁部横ナデ。透孔円形。突帯やや高い台形(下稜低い)。	

64号住居出土遺物観察表 第192、193図・P L 153

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	完形	器高 2.3 口径 8.3 底径 3.8	竈左脇壁際 床面直上	胎土精選されている。 焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 坏	口縁部1/3欠損	器高 2.2 口径 8.3 底径 3.9	埋没土中	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	内面の一部にスス 付着。
3	円筒埴輪 円筒	口縁～胴部上位1/4	器高 19.2残存 口径(20.0)	竈左側壁を作っ ている。	胎土細砂を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面縦ハケ(11本/2cm)後、突帯貼付。口縁端 部横ナデ。内面胴部上半斜・縦指ナデ後、口 縁部斜ハケ(15本/2cm)。口縁端部横ナデ。透 孔円形。突帯台形(下稜低い)。 内径3.1cm 外径8.7cm	口縁部外面にヘラ 記号「o」。
4	土製品 羽口	破片	長さ 8.1残存 幅 (7.5) 厚さ 2.9	中央部 床面上11cm			
5	鉄滓 塊状滓		長さ 5.5 幅 5.0 厚さ 3.3 重さ 150	東部 床面上5cm			分析番号 9
6	鉄滓 塊状滓		長さ 4.5 幅 5.3 厚さ 2.5 重さ 90	電燃焼部、使用 面上高さ不明			
7	鉄滓 塊状滓		長さ 2.8 幅 3.7 厚さ 2.7 重さ 50	埋没土中			
8	鉄滓 塊状滓		長さ 5.9 幅 8.7 厚さ 3.7 重さ166.5	東部 床面直上			分析番号 15
9	鉄滓 椀形滓		長さ 10.9 幅 8.7 厚さ 4.6 重さ 480	中央部 床面直上			分析番号202

65号住居出土遺物観察表 第196図・P L 153、154

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 土釜	口縁～体部破片	器高 8.6残存 口径(14.6)	北東隅 床面上3cm	焼成酸化焰。色調黒褐。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 下位縦方向篋削り。一部にナデ。内面口縁部 横ナデ。体部横方向篋ナデ。	
2	土師器 土釜	口縁～体部 1/5	器高 10.5残存 口径(22.5)	南西隅 床面直上	焼成酸化焰。色調にぶい褐。	外面口縁横ナデ。体部上位縦方向篋削り後、 縦方向篋磨き。内面口縁横ナデ。体部上位横 方向、一部縦方向篋ナデ。	
3	土師器 土釜	体部下位～底部破片	器高 9.0残存 底径(10.0)	中央部 床面直上	胎土砂粒を多く含み、ガラガラして いる。焼成酸化焰。色調灰黄褐。	外面体部下位斜め・横方向篋削り後、縦・斜め 方向ナデ。内面体部下位～底部横方向篋ナデ。	
4	円筒埴輪 円筒	胴部破片	器高 14.2残存	電燃焼部 使用面	胎土細砂を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい黄橙。	外面縦ハケ(15本/2cm)後、突帯貼付。内面胴 部下位縦指ナデ。上位縦ハケ(6本/1cm)。透孔 円形。突帯台形。	
5	形象埴輪 軀(?)	胴部破片	器高 8.1残存	埋没土中	胎土細砂を多く含む。焼成酸化焰。 色調にぶい橙。	軀(?)胴部か。右側のヒレ(背板)の接合のため の補充粘土残る(背板の本体は残せず)。外面 胴部縦ハケ(10本/1cm)、背板は横ハケ(8本/1cm)。 内面縦ハケ(5本/1cm)後、縦及び斜指ナデ。	
6	土製品 土鏝	完形	長さ 2.8 幅 1.0 重さ 2.45	北部、床下土坑 床面上5cm	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。		

66号住居出土遺物観察表 第197図・P L 154

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	ほぼ完形	器高 5.3 口径 11.8 底径 6.0	電燃焼部中央 使用面直上	胎土φ5～8mmの砂礫を含む。 焼成還元焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
2	須恵器 高台付埴	口縁～底部 2/3	器高 5.4 口径 12.8 底径 6.8	南東隅貯蔵穴 底面上2cm	胎土φ3～10mmの砂礫をごく少量含 む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
3	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/5 (高台欠損)	器高 5.3残存 口径(14.7)	電燃焼部 使用面上3cm	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。	
4	灰釉陶器 高台付埴	底部のみ	器高 2.2残存 底径 7.1	東南隅貯蔵穴 底面直上	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。施釉漬け掛け。	大原2号窯式期
5	土師器 甕	口縁部破片	器高 3.4残存 口径(17.0)	竈左脇 床面直上	焼成酸化焰。色調褐灰。	内外面口縁部横ナデ。	

68号住居出土遺物観察表 第200図・P L 154

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 高台付埴	底部 1/4	器高 3.8残存 底径( 8.0)	埋没土中	焼成酸化焰。色調灰白。	外面体部下位斜め方向篋削り。一部指押さえ。 高台接合部強いナデ。底部内面砂底。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	器高 3.8 口径(12.4) 底径 (4.8)	北東壁際 床面上11cm	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
3	須恵器 高台付埴	底部 1/2	器高 3.3残存 底径 5.8	埋没土中	焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り後、付け高 台。	
4	土師器 甕	口縁部破片	器高 6.9残存 口径(20.7)	竈左焚口部 床面上22cm	胎土精選されている。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向篋削 り。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向 篋削り。	
5	土製品 土鏝	縦横半欠	長さ 3.1残存 幅 1.9 重さ 6.07	埋没土中	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。		
6	石器 模造品	完形	長さ 4.1 幅 4.5 厚さ 0.7 重さ 18.7	埋没土中	石材雲母石英片岩。	円形の石製模造品の未成品。両面に擦痕が残 る。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

69号住居出土遺物観察表 第203～206図・P.L154、155、156

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/2 (高台欠損)	器高 6.9残存 口径(15.7)	竈内(高さ不明)	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。	
2	須恵器 高台付埴	高台部 1/4	器高 4.5残存 底径(11.7)	埋没土中	焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。	
3	土師器 壺	口縁～体部上位破片	器高 7.9残存 口径(17.4)	竈内(高さ不明)	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、一部に縦方向指ナデ。口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。	
4	土師器 土釜	口縁～体部上位破片	器高 6.1残存 口径(20.4)	竈前 床面直上	胎土小礫を含む。 焼成酸化焰。色調褐。	外面口縁部横ナデ。体部上位縦方向篋削り。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。	
5	土師器 羽釜	口縁～体部破片	器高 12.5残存 口径(21.2)	南壁際 床面上20cm(確認面に近い高さ)	胎土微細な黒色鉱物粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁～頸部下位横ナデ。体部上半丁寧なナデ。内面口縁～体部横方向篋ナデ。	
6	土製品 土鍾	縦横半欠	長さ 3.7残存 幅 (1.8) 重さ 5.19	埋没土中	焼成酸化焰。色調褐灰。		
7	土製品 土鍾	完形	長さ 4.2 幅 1.9 重さ 15.42	電燃焼部 使用面上15cm	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		
8	円筒埴輪 朝顔形	口縁部欠損	器高 37.5残存 底径(12.4)	電燃焼部、転位 使用面上2cm	胎土微細砂を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい黄橙。	外面縦ハケ(6～7本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部縦指ナデ後、肩部斜指ナデ。頸部縦指ナデ。透孔位置に横方向の断続的な浅い沈線。透孔円形。底平坦で小さな凹凸。基部の重ね合わせ右。突帯台形(下稜低い)。	ヘラ記号外面肩部「×」
9	円筒埴輪 円筒	口縁～底部 3/4	器高 33.0 口径 19.5 底径 11.9	焚口部中央倒立 使用面上15cm	胎土白色鉱物粒が目立つ。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面縦ハケ(9本/2cm)後、突帯貼付。口縁部横ナデ。口縁部はゆるく外反する。内面縦方向指ナデ後、口縁部斜ハケ(8本/2cm)のち口縁部横ナデ。底面棒状圧痕あり。透孔円形。突帯低い台形(M字)。	口縁部内面ヘラ記号(赤彩)「～」
10	円筒埴輪 円筒	胴部破片	器高 19.4残存	電焚口左側 床面上3cm、西壁 沿い床直や埋没 土中上位の遺物 が接合している。	胎土φ8～10mmの砂礫を多く含む。 焼成酸化焰。色調灰白。	外面縦ハケ(10本/2cm)一部に斜ハケ後、突帯貼付。内面縦方向指ナデ後、縦ハケ(7本/2cm)。透孔円形。突帯台形。	
11	円筒埴輪 円筒	基底部破片	器高 14.0残存 底径(10.0)	電左脇壁際 床面上18cm	胎土細砂・小礫を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(9本/2cm)後、基底部下端、板押圧による底部調整。内面基底部縦指ナデ後、下端横削り。	
12	円筒埴輪 円筒	胴～基底部破片	器高 24.5残存 底径(17.0)	電燃焼部、使用 面、西南隅貯蔵 穴の破片が接合	胎土白色鉱物粒が目立つ。 焼成酸化焰。色調にぶい褐。	外面縦ハケ(10本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部～基底部縦指ナデ。底面平坦。透孔円形。突帯台形。	
13	円筒埴輪 円筒	胴部破片	器高 13.3残存	住居中央やや東床 面上2cm、南東隅や 東壁際の破片も接 合している。	胎土赤色鉱物粒が目立つ。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面縦ハケ(13本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部斜指ナデ。透孔円形。一部が残る。突帯台形(下稜が低い)。	
14	円筒埴輪 円筒	胴上位～基底部1/4	器高 28.8残存	電燃焼部、右側 壁、使用面直上	胎土赤色鉱物粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調明褐灰。	外面縦ハケ(12本/2cm)後、突帯貼付。内面基底部斜指ナデ後、胴部斜ハケ(11本/2cm)。透孔円形。突帯低い台形。	
15	形象埴輪 不明	屋根の端部か		北壁沿い床下土 坑、底面上1cm	胎土砂粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	不明(屋根の端部?)。板状で肉厚。端部片面は条線の残るナデ。他の片面はナデ。	
16	形象埴輪 家形	上屋根最上部 破片		西南隅 床面上32cm	胎土結晶片岩を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	上屋根の最上部。上下方向にゆるく曲線を描くが、とくに上端で強く曲面をつくりはじめている。外面横ハケ後、一部横ナデ。上端にキザミを入れて帯状粘度貼付。内面横ハケ後、横指ナデ。	
17	形象埴輪 家形	家の一部		電燃焼部、左壁 使用面	胎土細砂を多量に含む。 焼成酸化焰。色調橙。	入母屋造の上屋根の一部。円筒状の本体に粘土貼付し、上屋根を成形。端部は帯状粘土貼付し、肥厚。外面横ハケ(9本/1cm)後、端部粘土貼付。内面面の荒れ著しいが、一部に斜ハケ(9本/1cm)。指ナデ残存。	
18	形象埴輪 馬形	胴右側～尻部		竈前床面直上 西南隅貯蔵穴脇 の破片と接合	胎土細砂・微細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面前後方向のハケメ(15本/2cm)後、一部指ナデし、馬装貼付。内面胴部下半は上下方向のハケメ(7本/1cm)。上半は斜指ナデ後、一部斜ハケ。背は前後方向の指ナデ。側面上位に粘土接合痕残る。	
19	鉄製品 釘	両端欠損	長さ 3.7残存 幅 0.6 厚さ 0.5 重さ 2.42	電左脇 床面上6cm			分析番号105
20	鉄製品 釘	上端欠損	長さ 3.8残存 幅 1.6 厚さ 1.4 重さ 5.97	埋没土中			分析番号104
21	鉄製品 釘	完形	長さ 6.6 幅 0.7 厚さ 0.8 重さ 5.01	中央部 床面上2cm			分析番号103
22	鉄製品 刀子	完形	長さ 5.4 幅 2.6 厚さ 0.5 重さ 11.96	北西部 床面上14cm			分析番号112
23	鉄製品 刀子	両端欠損	長さ 3.7残存 幅 1.8 厚さ 0.3 重さ 4.96	埋没土中			分析番号111
24	土製品 羽口		長さ 14.4残存 幅 (6.7) 厚さ 2.2	東壁際、 床面上30cm 北部、床下土坑 底面上12cm		内径4.0cm 外径7.1cm	
25	土製品 羽口	破片	長さ 7.2残存 幅 (6.7) 厚さ 2.2	北西部 床面上13cm		内径3.4cm 外径6.9cm	
26	土製品 羽口	破片	長さ 16.5残存 幅 (8.5) 厚さ 8.2	電燃焼部 使用面下3cm		内径3.8cm 外径7.8cm	
27	土製品 羽口	破片	長さ 3.4残存 幅 (5.8) 厚さ 2.3	電燃焼部 使用面上7cm		内径3.9cm 外径9.1cm	

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
28	鉄滓塊状滓		長さ 7.8 幅 6.6 厚さ 4.6 重さ 230	埋没土中			分析番号 10
29	鉄滓塊状滓		長さ 9.6 幅 8.9 厚さ 8.2 重さ 1365	電焚口部右側 使用面上34cm			

70号住居出土遺物観察表 第208図・P L156

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 羽釜	口縁～体部上位破片	器高 11.3残存 口径(23.0)	電焚口部左 床面上2cm	焼成酸化焰。色調灰黄。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位丁寧なナデ。 内面口縁～体部上位横方向寛ナデ。	
2	土製品 土錘	縦横半欠	長さ 1.7残存 幅 0.9 重さ 0.63	埋没土中	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。		
3	土製品 土錘	一端欠損	長さ 3.5残存 幅 1.2 重さ 4.69	埋没土中	焼成酸化焰。色調黄灰。		
4	石器 磨石	完形	長さ 16.1 幅 12.5 厚さ 5.0 重さ 1540	電焚口部 使用面直上	石材閃緑岩。	扁平なやや大型の礫。上面は磨られて凹んでいる。	
5	鉄製品 釘	完形	長さ 6.5 幅 1.1 厚さ 0.9 重さ 6.65	埋没土中			分析番号107
6	鉄製品 釘	下端欠損	長さ 3.2残存 幅 1.2 厚さ 1.2 重さ 3.62	埋没土中			分析番号106

71号住居出土遺物観察表 第209図・P L156

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁～底部 1/2	器高 4.0 口径(12.4) 底径 (5.4)	電燃焼部、 使用面上3cm 電右脇貯蔵穴内 の破片と接合	胎土赤色鉱物粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部斜め方向寛削り。上位に指押さえ。底部寛削り。内面口縁～底部丁寧なナデ。	
2	須恵器 高台付埴	底部のみ (高台欠損)	器高 1.9残存	電焚口部 床面上10cm	焼成還元焰。色調灰。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け高台。	
3	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 3.5残存 底径 7.2	電燃焼部中央 使用面上3cm	胎土φ3～5mmの砂粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい褐。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付け高台。	
4	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/3	器高 6.8 口径(14.5) 底径 (6.6)	北東隅 床面上2cm	胎土赤色鉱物粒が目立つ。 焼成酸化焰。色調にぶい褐。	内外面回転ナデ。付け高台。	
5	石製品 板碑	破片	長さ 20.9 幅 11.6 厚さ 1.7 重さ 49.0	北部 床面上2cm	石材緑泥片岩。		

72号住居出土遺物観察表 第211図・P L156

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁～底部 1/2	器高 3.4 口径(12.3) 底径 (5.4)	電燃焼部 使用面下9cm	焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部斜め方向寛削り。上位に指押さえ。底部寛削り。内面口縁部～底部丁寧なナデ。	
2	須恵器 高台付埴	口縁～底部 3/4	器高 5.7 口径 14.7 底径 7.3	電焚口部中央 使用面直上	焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
3	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 8.5残存 口径(15.0)	電燃焼部(右脇) 使用面直上	焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	
4	土師器 甕	口縁～体部上位1/4	器高 7.1残存 口径(18.9)	電右脇、東壁際 床面上2cm	胎土微細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	胎土分析資料 三ツ木皿沼ー 7
5	石器 二次加工 ある剝片	完形	長さ 2.4 幅 1.8 厚さ 0.9 重さ 3.19	埋没土中	石材黒曜石。	小形剝片を素材とし、主要剝離面側に二次加工痕が認められる。	

73号住居出土遺物観察表 第212、213図・P L156、157

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	完形	器高 2.9 口径 10.5 底径 6.0	電左前 床面直上	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。内面には回転により、沈線が施されている。	
2	須恵器 坏	口縁～底部1/2	器高 3.5 口径(10.8) 底径 5.0	電右袖脇 床面直上	胎土微細砂を多く含む、ザラザラしている。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
3	須恵器 埴	口縁～底部3/4	器高 4.4 口径 15.6 底径 6.7	南西部 床面上9cm	焼成酸化焰。色調灰白。	外面口縁～体部下位回転ナデ。体部最下位～底部寛削り。内面口縁～底部回転ナデ。	
4	須恵器 高台付埴	口縁～底部3/4	器高 6.0 口径 13.2 底径 6.9	中央やや南寄り 床面上2cm	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面回転ナデ。体部下位横方向寛削り。底部回転糸切り離し。付け高台。内面口縁～底部寛磨き。	内面黒色処理。 2次加熱されて酸化。
5	須恵器 高台付埴	体部～底部1/3	器高 4.3残存 底径 7.1	電右側 使用面上3cm	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面体部下位回転ナデ。最下部横・斜め寛削り。底部回転糸切り離し。付け高台。内面体部～底面寛磨き。	内面黒色処理。 2次加熱されて酸化。
6	土師器 羽釜	口縁～体部上位破片	器高 9.6残存 口径(19.5)	電右袖前と右脇 の破片接合 床面直上	胎土微細砂・細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調褐灰。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部上位横・斜め方向寛ナデ。	
7	土師器 土釜	体部下位～底部破片	器高 12.9残存 底径(10.9)	電燃焼部 使用面直上	胎土細砂を多く含む、ザラザラしている。焼成酸化焰。色調にぶい赤褐。	外面体部中位縦方向寛削り。一部横方向ナデ。下位横方向寛削り。	
8	土師器 土釜	口縁～体部上位破片	器高 16.2残存 口径(30.6)	電燃焼部 使用面直上	胎土φ1～5mmの砂粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁部横ナデ。体部上半縦方向寛削り。一部に横方向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上半斜め・横方向寛ナデ。	
9	土師器 土釜	口縁～体部破片	器高 11.3残存 口径(22.5)	電前 床面上6cm	焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。頸部ナデ。体部上位横方向細かい寛ナデ。体部中位縦方向指ナデ。内面口縁部横ナデ。頸部ナデ。体部上半横方向寛ナデ。	
10	土師器 土釜	口縁～体部破片	器高 13.6残存 口径(17.4)	電左側面 使用面上3cm	胎土細砂を多く含む、ザラザラしている。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部上半縦方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部上半斜め・横寛ナデ後、縦方向指ナデ。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
11	須恵器 大甕	体部下位～底部1/2	器高 7.8残存	電燃焼部、電前、 電右脇の破片も 接合床面直上	焼成還元焰。色調灰。	外面体部下位～底部カキ目。内面体部下位～ 底部丁寧なナデ。	丸底。
12	石器 凹み石	完形	長さ 20.0 幅 15.7 厚さ 6.8 重さ 2520	電右脇 床面直上	石材粗粒輝石安山岩。	表裏面とも全面熱を受けている。	

74号住居出土遺物観察表 第215、216図・P L157

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	石器 整形軽石	破片	長さ 20.0 幅 13.6 厚さ 11.4 重さ 1870	埋没土中	石材二ツ岳軽石。	方形に整形された軽石塊。角の部分は欠けて いる。各面に磨った痕跡があり、窪んだ上面 には敲打痕が残る。	
2	陶器 皿	口縁～底部1/4弱	器高 2.4 口径(12.6) 底径(6.5)	北西隅 床面上4cm	美濃系	外面上半部施釉。内面全面施釉。	18世紀
3	陶器 鉢	体部下位～底部1/2弱	器高 2.2残存 底径(6.8)	南西隅 床面上4cm	産地不明	内面鉄釉。みこみに印花文あり。	18世紀
4	土師器 甕	体部破片	器高 20.4残存	電前 床面直上	胎土微細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調にぶい褐。	外面体部下半縦方向削り後の、縦・横方向 の磨き。内面体部下半横方向削りナデ。	
5	石器 整形軽石	完形	長さ 41.5 幅 22.3 厚さ 15.0 重さ 1115	北西部 床面直上	石材二ツ岳軽石。	長方形の箱がたに整形された軽石。角の部分 には自然面が残るが、各面の大半には帯状の 削り痕が明瞭に残る。	

75号住居出土遺物観察表 第218図・P L157

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 9.9残存 口径(30.4)	南壁際 床面直上	胎土細砂を多く含む、ザラザラして いる。焼成酸化焰。色調黒。	外面口縁部横ナデ。体部上位削り後、横方 指向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方 削りナデ。	
2	土師器 土釜	口縁～体部上位1/8	器高 8.0残存 口径(25.5)	電左袖前 床面直上	胎土φ2～3mmの砂粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調にぶい赤褐。	外面口縁部横ナデ。頸部横方向ナデ。体部上 位縦方向削り。内面口縁部横ナデ。体部上 位横方向削りナデ。	
3	石器 二次加工 ある剥片	完形	長さ 1.5 幅 1.0 厚さ 0.4 重さ 0.48	埋没土中	石材黒曜石。	小形剥片を素材とし、主要剥離面側と背面側 の両方に、二次加工痕が認められる。	
4	土製品 土釜	完形	長さ 4.5 幅 1.3 重さ 6.44	埋没土中	焼成酸化焰。色調褐灰。		
5	鉄滓 塊状滓		長さ 6.8 幅 4.6 厚さ 2.8 重さ 125	東部 床面上10cm			
6	鉄塊 鉄鉄塊	完形	長さ 4.8 幅 3.1 厚さ 1.7 重さ 31.92	埋没土中			分析番号117
7	鉄滓 椀形滓	ほぼ完形	長さ(7.7) 幅 9.8 厚さ 1.9 重さ 230	南壁際 床面上5cm		ほぼ完形の椀状滓。全体に錆が出ている。特 に底面は著しい。	分析番号 20

76号住居出土遺物観察表 第220図・P L157、158

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～体部下位1/4	器高 2.6残存 口径(11.0)	電 確認面	焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。	
2	須恵器 坏	口縁部1/3欠損	器高 3.2 口径 10.6 底径 6.3	北壁沿い 床面上26cm	胎土精選された胎土。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
3	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/3	器高 6.8 口径(13.8) 底径 7.9	電確認面	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付 け高台。	
4	土師器 土釜	底部 1/2	器高 2.1残存 底径(7.2)	電 使用面直上	胎土砂粒を多く含む、ザラザラして いる。焼成酸化焰。色調にぶい褐。	外面体部下位横方向削り。底部砂底。内面 底部磨ナデ。	
5	土師器 土釜	底部 1/4	器高 2.7残存 底径(10.3)	電 使用面直上	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	外面体部下位削り。底部無調整。内面底部 指押え。	
6	須恵器 羽釜	口縁～体部破片	器高 18.6残存 口径(19.0)	中央部(床面の 高さ不明の為、 床面比高も不明)	胎土赤色鉱物粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上半回転ナデ。 下半指ナデ。内面口縁部横ナデ。体部横方向 削りナデ。	
7	土師器 羽釜	口縁～体部上位1/8	器高 7.9残存 口径(24.9)	南壁際(床面レ ベル不明)	焼成酸化焰。色調灰黄褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向削 り。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向削 りナデ。	
8	須恵器 羽釜	頸～体部破片	器高 19.7残存	電前 床面直上	焼成酸化焰。色調橙。	外面体部上半回転ナデ調整。粘土帯残る。下 半縦方向削り後、中位のみ縦方向磨き。 内面体部縦方向削り後、上半縦方向削り。 下半格子状の磨き。	
9	石器 円盤形	上端欠損	長さ 6.7 幅 10.4 厚さ 2.2 重さ 270	埋没土中	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の石器。裏面の一部に敲打痕が 残る。側縁部を中心に炭化物が付着している。	

77号住居出土遺物観察表 第222～224図・P L158、159

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	鉄滓 塊状滓		長さ 6.8 幅 5.6 厚さ 4.1 重さ 220	中央部 床面上11cm			分析番号 21
2	鉄滓 塊状滓		長さ 7.0 幅 5.5 厚さ 3.5 重さ 205	電右前 床面上13cm			分析番号 16
3	鉄滓 椀形滓		長さ 12.3 幅 11.9 厚さ 5.5 重さ 870	電前 床面直上			
4	土製品 羽口	破片	長さ 9.8残存 幅 (6.8) 厚さ 2.0	南西部 床面上11cm		内径3.4cm 外径8.0cm	
5	土製品 羽口	破片	長さ 10.8残存 幅 (5.0) 厚さ 2.5	北東部 床面直上		内径2.4cm 外径8.0cm	
6	土製品 羽口	破片	長さ 4.3残存 幅 (4.2) 厚さ 2.5	電燃焼部 使用面直上		内径3.1cm 外径7.9cm	
7	土師器 羽釜	口縁～体部上半1/8	器高 12.7残存 口径(30.0)	電燃焼部 使用面直上25cm	胎土微細砂とφ8～10mmの砂礫を含 む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上半縦方向削 り。一部に縦方向磨き。内面口縁横ナデ。 体部上半横方向削り後、縦方向ナデ。	

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
8	灰釉陶器 埴	口縁～体部破片	器高 2.9残存 口径(13.4)	埋没土中	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	付け高台。施釉漬け掛け。	大原2号～ 虎溪山1号窯式期 東海産
9	緑釉陶器 皿	口縁部破片	器高 1.1残存 口径(14.8)	北東部 床面上19cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰。	口縁部外反。軸調濃緑色。	
10	灰釉陶器 高台付皿	体部～底部破片	器高 1.9残存 底径(6.4)	電左脇壁際 床面上11cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。施釉方法不明。	虎溪山1号窯式期
11	土製品 土錘	完形	長さ 3.9 幅 1.0 重さ 4.09	埋没土中	焼成酸化焰。色調橙。		
12	土製品 土錘	完形	長さ 3.2 幅 1.0 重さ 2.40	埋没土中	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		
13	土製品 土錘	両端欠損	長さ 2.4残存 幅 0.9 重さ 2.23	埋没土中	焼成酸化焰。色調浅黄橙。		
14	石器 剝片	完形	長さ 1.3 幅 1.2 厚さ 0.4 重さ 0.41	埋没土中	石材黒曜石。	黒曜石小形剝片。	
15	円筒埴輪 円筒	破片	器高 17.6残存	電煙道部東端 煙出し部	胎土細砂・小礫を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい赤褐。	外面縦ハケ(11本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部下半縦ハケ(9本/2cm)後、斜指ナデ。上半指ナデ後、斜ハケ(5本/1cm)。突帯低い台形。	煙出し部を囲むようにたてられていた。
16	形象埴輪 家形	壁破片	縦 17.5残存 横 17.0残存	電煙道部 煙出し部	胎土細砂・小礫を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	家の壁。全体に平坦だが左端で曲面をつくる。外面縦ハケ(11本/2cm)で上端に横ナデ一部残存。内面左上がりの斜ハケ(7本/2cm)後、一部右上がりの斜ハケ。	壁。
17	円筒埴輪 朝顔形	口縁部 1/2	器高 18.1残存 口径(34.7)	電煙道部 使用面直上	胎土細砂・小礫を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(11本/2cm)後、突帯貼付。口縁部上端横ナデ。内面頸部縦指ナデ後、口縁部斜ハケ(12本/2cm)。口縁上端部横ナデ。突帯台形(下稜低い)。	煙出し部にたてられていた。
18	円筒埴輪 円筒	口縁～胴部 1/2	器高 42.1残存 口径 22.0	電燃焼部 両側壁に立てられていた。	胎土微細砂を多量に含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(14本/2cm)後、突帯貼付。口縁部横ナデ。内面胴部縦指ナデ後、口縁部横・斜ハケ(13本/2cm)。口縁部横ナデ。胴下部縦ハケ(8本/2cm)。透孔円形。突帯台形。	円筒埴輪を半裁し、それを2つに割って、両側壁に使っている。
19	円筒埴輪 朝顔形	口縁～肩部 1/2欠損	器高 51.6残存 底径 15.1	電煙道部 使用面直上	胎土微細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(5本/1cm)後、突帯貼付。内面胴部縦指ナデ。基底部斜指ナデ後、胴部～肩部斜ハケ(9本/2cm)。底面平坦。砂粒多量に付着。基部の重ね合わせ右。透孔円形。突帯台形(下稜低い)。	煙道の施設として使用。

78号住居出土遺物観察表 第225図・P.L.159

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 埴	口縁～体部 1/3 (底部欠損)	器高 3.9残存 口径(13.0)	南西部 床面上10.5cm	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。内面寛磨き。	内面黒色処理。
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/4	器高 2.8 口径(9.8) 底径(5.4)	中央部 床面上3.5cm	焼成酸化焰。色調灰褐。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り。	
3	須恵器 埴	ほぼ完形	器高 5.7 口径 17.1 底径 4.9	南東隅、電前 床面上4cm	胎土φ8～10mmの砂粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～体部下位回転ナデ。体部下位～底部周縁手持ち寛削り。底部回転糸切り離し。内面口縁～底部回転ナデ。	

79号住居出土遺物観察表 第228図・P.L.159

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	完形	器高 3.1 口径 11.1 底径 6.3	電焚口部 使用面直上	胎土白色鉾物粒が目立つ。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 高台付埴	ほぼ完形	器高 5.3 口径 13.5 底径 6.4	掘り方埋没土中	焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
3	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 7.5残存 口径(16.0)	電煙道部 使用面上10cm	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位縦方向寛ナデ。内面口縁部横ナデ。頸部指ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	
4	土師器 甕	体部下位～底部破片	器高 7.2残存 底径(6.6)	電燃焼部 使用面上5cm	胎土砂粒を多く含む、ザラザラしている。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面体部下位斜め・横方向寛削り。底部ナデ。内面体部下位～底部横方向寛ナデ。	
5	土師器 小型羽釜	口縁～体部上位1/2	器高 5.8残存 口径(10.0)	電燃焼部 使用面直上	胎土微細砂を多く含む。焼成酸化焰。色調にぶい赤褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位縦方向寛ナデ。一部指ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	
6	土師器 土釜	体部上半～底部1/2	器高 12.0残存 底径 7.7	79住電	胎土白色粒・赤色粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面体部上半縦方向寛削り。体部下半横方向寛削り。底部一方方向寛削り。内面体部下半横方向寛ナデ。	
7	土師器 羽釜	口縁～体部上位破片	器高 11.1残存 口径(20.9)	電燃焼部 使用面直上	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。一部横方向ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横・縦方向寛ナデ。	
8	土師器 羽釜	口縁～体部上位破片	器高 9.8残存 口径(18.9)	電焚口部 使用面上5cm	焼成酸化焰。色調明赤褐。	外面口縁～頸部横ナデ。頸下部には指ナデ残る。体部上位横方向ナデ。内面口縁～体部横方向寛ナデ。	
9	土師器 羽釜	口縁～体部上半破片	器高 14.2残存 口径(20.8)	南部(床面レベル不明の為、床面比高不明)	胎土微細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上半斜め・縦方向寛磨き。内面口縁～体部上半横方向寛ナデ。	
10	土師器 羽釜	口縁～体部上位破片	器高 13.6残存 口径(23.8)	南部(床面の高さ不明の為、床面比高不明)	焼成酸化焰。色調灰褐。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位斜め方向寛削り。中位横方向寛削り。内面口縁～体部上半横方向寛削り。	
11	土師器 羽釜	口縁～体部上位1/8	器高 10.2残存 口径(27.0)	電燃焼部左側面 使用面直上	胎土砂粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向ナデ後、縦方向寛削り。内面口縁～体部上位横方向寛ナデ。	
12	石器 円盤形	下端欠損	長さ 9.0 幅 9.9 厚さ 2.7 重さ 310	埋没土中	石材粗粒輝石安山岩。	やや小型の扁平円盤形石器。表面の一部に敲打痕がある。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

80号住居出土遺物観察表 第230図・P L159

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 1/4	器高 4.0 口径(11.4) 底径 (5.5)	東部 (床面比高不明)	胎土 φ3～5mmの砂粒を含む。 焼成還元焰。色調黒褐。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 高台付埴	口縁～底部 (高台欠損) 1/4	器高 6.0残存 口径(13.6)	埋没土中	胎土 φ3～5mm砂礫を含む。 焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
3	須恵器 高台付埴	体部～底部 2/3	器高 4.1残存 底径 5.9	竈右脇 (床面比高不明)	胎土細砂を多く含む。焼成酸化焰。 色調浅黄橙。黒斑。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
4	灰釉陶器 高台付埴	口縁～底部 1/3	器高 4.4 口径(15.2) 底径 7.7	北部 (床面比高不明)	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。内面底部に凹縁が 巡る。施釉潰け掛け。	大原2号窯式期
5	緑釉陶器 埴壇	高台のみ	器高 1.2残存 口径 8.1	南東隅貯蔵穴西脇 (床面比高不明)	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰。	付け高台。内面底部に三又トチン痕、寛磨き。 口縁部は故意に打ち欠いている？釉調は淡緑 色。	東海産 K-90窯式期
6	土師器 甕	口縁～体部上半破片	器高 8.8残存 口径(16.7)	竈燃焼部 比高？	焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部上半斜め・縦方向ナ デ。口縁～頸部横ナデ。体部上半横方向横ナ デ。	
7	土師器 土釜	体部下位～底部1/2	器高 3.0残存 底径 5.8	南東隅貯蔵穴西脇 床面比高不明	胎土 φ5～8mmの砂粒を含む。 焼成酸化焰。色調にふい褐。	外面体部下位斜め方向ナデ。底部砂底。内面 体部下位～底部横方向指ナデ。	
8	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 9.6残存 口径(22.4)	南東隅貯蔵穴 西脇、床面比高	焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向横ナ デ。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向 横ナデ。	
9	土師器 甕	口縁～体部上位1/8	器高 13.4残存 口径(25.8)	南東隅貯蔵穴内 床面比高？	焼成酸化焰。色調にふい黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向削り。 内面口縁部横ナデ。体部上位横方向横ナデ。	
10	土製品 土鏝	縦横半欠	長さ 4.1残存 幅 1.6 重さ 4.99	埋没土中	焼成酸化焰。色調褐灰。		
11	石器 整形軽石	上端欠損	長さ 9.5 幅 9.7 厚さ 9.3 重さ 800	北壁際 床面直上	石材燧石。	方形に整形された軽石塊。明瞭な使用痕は認 められない。	
12	石器 整形軽石	破片	長さ 16.9 幅 10.4 厚さ 11.8 重さ 1250	中央部 床面上2cm	石材未固結凝灰岩。	方形に整形された軽石塊。角の部分は欠けて いる。明瞭な使用痕は認められない。	

81号住居出土遺物観察表 第232図・P L159

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	完形	器高 4.0 口径 10.7 底径 3.8	北壁際 床面直上	胎土 φ5～8mm砂礫を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	口縁部の一部にス ス付着。
2	須恵器 高台付埴	口縁～底部 2/3	器高 3.8 口径(12.6) 底径 6.3	南東隅貯蔵穴 底面直上	焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
3	須恵器 羽釜	頸～体部上位 破片	器高 6.5残存	北東隅貯蔵穴 床面直上	焼成酸化焰。色調にふい橙。	内外面回転ナデ。	
4	土製品 羽口	破片	長さ 3.0残存 幅 (7.2) 厚さ 2.7	埋没土中		内径 4.0cm 外径 9.0cm	
5	石器 紡錘車	完形	長さ 4.4 幅 4.5 厚さ 1.7 重さ 49.5	竈焚口部左側 使用面上2cm	石材蛇紋岩。	各面は使用によると思われる擦痕が顕著であ る。	

82号住居出土遺物観察表 第233図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	体部下位～底部1/4	器高 1.9残存 底径(3.1)	埋没土中	焼成酸化焰。色調にふい黄橙。	外面体部下位指ナデ。底部砂底。内面体部横 方向ナデ。	胎土分析資料 三ツ木皿沼-8
2	土師器 甕	体部下位～底部破片	器高 3.0残存 底径(6.0)	竈左前 床面上3cm	胎土精選されている。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面体部縦方向削り。最下部横方向ナデ。 底部周縁削り。砂底。内面体部～底部指ナ デ。	
3	土師器 甕	口縁～体部破片	器高 6.2残存 口径(12.8)	埋没土中	焼成酸化焰。色調灰黄褐。	外面口縁～体部上位横ナデ。体部中位縦方向 ナデ。内面口縁横ナデ。体部上半横方向横ナ デ。	
4	陶器 埴	体部破片	器高 3.4残存	埋没土中	美濃系	透明釉は貫入が入る。	18・19世紀

86号住居出土遺物観察表 第238～241図・P L159、160

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	形象埴輪 髷	下端及びさしばの 突出部欠損	器高 30.9残存	竈左袖 使用面直上	胎土細砂を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	髷。円筒状にまき上げ、突帯位置から上部を 収束させつつ、左右上部に粘土貼付により髷 を成形。中央には切り込みを入れ円筒上端を 吹き抜けとし、その縁辺を粘土貼付により肥 厚させ、ボタン状粘土貼付。さらに外形に粘 土紐を弧状に貼り付け、その間に鋸歯文を施 す。その外側にも粘土紐を鋸歯状に施し、ボタ ン状粘土を貼付。外面は縦ハケ(12本/2cm)。 内面縦指ナデ。粘土紐接合痕残る。	竈左袖として、逆 さまに立てられて いた。
2	形象埴輪 髷	胴部中位	器高 29.4残存	竈左袖、外側 使用面直上	胎土赤色鉱物粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	髷。円筒状にまき上げ、上部は収束させる。 扁平な棒状粘土を上部に差し込み閉塞すると ともに槽部分を作る。側部を穿孔し、棒状粘 土によって張出部を成形するが剝離する。外 面円筒部縦ハケ(12本/2cm)。刃部ナデ。内 面縦指ナデ。粘土紐接合痕残る。	髷形埴輪の外側に 正立で立てられて いた。
3	形象埴輪 髷	胴部	器高 34.9残存	竈右袖 使用面直上	胎土細砂・白色鉱物粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	髷。円筒状の本体左右に背板貼付。上部は円 筒を収束させつつ板状の粘土を用い、粘土紐 により髷を表現するが上端を閉塞しない。背 面の紐は「X」状に表現され、本体との接続 部と紐の交点に円形粘土を貼る。背板を表す ヒレ状の粘土は下方の横位の粘土より下で左 右に剝離が残り、横位の粘土より上でも左右 に剝離痕残る。外面縦ハケ(7本/2cm)。内面斜 ・縦の指ナデ。	左右の突出部は欠 損。
4	形象埴輪 家	壁破片	器高 24.1残存	竈燃焼部、右側 壁使用面直上	胎土砂粒を多く含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	壁体。家の壁の一部。外面縦ハケ(10本/2cm)。 内面斜ハケ(10本/2cm)後、上位に縦指ナデ。	

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
5	形象埴輪 人物	帯～上衣裾～ 基台上部	器高 21.2残存	埋没土中	胎土微細砂を多く含みザラザラしている。焼成酸化焰。色調橙。	人物半身像。帯を表現する突帯から上衣裾。基台部の円筒を径をせまげて胴部成形。粘土貼付により突出した上衣を表現。基台部外面縦ハケ(16本/2cm)。内面縦・斜ハケ(19本/2cm)。上衣外面縦ハケ(16本/2cm)後、突帯貼付。裾横ナデ。内面縦・斜指ナデ。	残存部には付属物の痕跡なし。
6	整形軽石 石器	上端欠損	長さ 19.3 幅 11.6 厚さ 11.6 重さ 780	電燃焼部中央 使用面	石材軽石。	楕円形のボール状に表面が平滑になっている。一部に炭化物が付着している。	
7	凹み石 磨石	一部欠損	長さ 20.4 幅 15.0 厚さ 12.5 重さ 3600	電左袖前 床面上18cm	石材粗粒輝石安山岩。	方形に整形された軽石。角の部分は欠けている。上下面は磨り面で、上面には敲打痕が顕著である。側面の一部にも敲打痕が集中している。	

88号住居出土遺物観察表 第243図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～体部破片	器高 3.3残存 口径(10.3)	電前 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。	

89号住居出土遺物観察表 第244図・P L160、161

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	円筒埴輪 円筒	胴部破片	器高 8.0残存	西部壁近く 床面下3.5cm	胎土赤色鉱物粒が目立つ。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面縦ハケ(9本/2cm)後、突帯貼付。内面横指ナデ後、縦ハケ(10本/2cm)。突帯台形。	
2	円筒埴輪 円筒	胴部破片	器高 11.0残存	東壁際 床面下2.8cm	胎土赤色鉱物粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(10本/2cm)後、突帯貼付。内面胴部縦指ナデ。透孔円形。突帯台形(M字)。	
3	形象埴輪 家形	壁破片	器高 9.0残存	東壁際 床面下2.8cm	胎土細砂を多く含む。 焼成酸化焰。色調橙。	不明(家の壁?)。外面縦ハケ(8本/1cm)。内面荒れて不明。一部にナデ残存。	
4	円筒埴輪 円筒	基底端部破片	器高 5.1残存	埋没土中	胎土細砂を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい橙。	外面縦ハケ(9本/2cm)。内面基底下端部横ナデ後、基底部縦指ナデ。底面棒状圧痕。	
5	円筒埴輪 円筒	胴部破片	器高 7.0残存	埋没土中	胎土細砂とφ1.5mmの小礫を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(9本/2cm)後、突帯貼付。内面縦指ナデ。突帯台形(M字)。	
6	円筒埴輪 円筒	基底部1/3	器高 12.8残存 底径 18.8	北東壁際 床面下2.8cm	胎土赤色鉱物粒が目立つ。 焼成酸化焰。色調橙。	外面縦ハケ(10本/2cm)後、突帯貼付。内面縦指ナデ。底面平坦。突帯台形(M字)。	
7	形象埴輪 鞍	鐵身部	長さ 19.8 幅 11.7 厚さ 2.8	北東壁際 床面直上	胎土細砂・小礫を少量含む。 焼成酸化焰。色調橙。	鞍鐵身部分。板状粘土に粘土紐で鐵を表現。下端にボタン状粘土を貼付。裏面には左右端に支柱の粘土貼付。内外面縦ハケ(10本/1cm)。	一部ススが付着している。

90号住居出土遺物観察表 第245図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	体部下位～高台部	器高 2.7残存 底径 8.2	電前 床面直上	胎土赤色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。内面灰。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け高台。	
2	須恵器 羽釜	口縁部破片	器高 5.2残存	中央部 床面上40cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ4mmの石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。	
3	形象埴輪 不明	部位不明・破片	器高 3.8残存	埋没土中	胎土細砂を含む。焼成酸化焰。 色調にぶい黄橙。	不明。左右に曲面をなす。外面縦ハケ(7本/1cm)後、粘土紐貼付。内面斜指ナデ。	

92号住居出土遺物観察表 第246図・P L161

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁～底部 1/2	器高 5.3 口径 13.8 底径 5.9	電焚口部	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。焼成還元焰。色調灰白。内面オリブ黒。	外面口縁部横ナデ。体部上半指押さえ。下半斜め方向寛ナデ。底部砂底。内面口縁部横ナデ。体部～底部横方向寛ナデ。	
2	土師器 壺	口縁部破片	器高 4.9残存 口径(18.5)	電前中央部 床面下8cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。	

94号住居出土遺物観察表 第247図・P L161

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 羽釜	口縁部 1/4	器高 6.1残存 口径(23.6)	西壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元焰。色調にぶい橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位縦方向寛ナデ。内面口縁部横方向寛ナデ。	

98号住居出土遺物観察表 第249、250図・P L162

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 2/5	器高 3.3 口径(10.0) 底径 4.8	掘り方埋没土中	胎土白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。 焼成還元焰。色調灰白。内面オリブ黒。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	内面黒色。
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	器高 4.1 口径(10.7) 底径 5.2	南西隅 床面上5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒・φ4mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
3	須恵器 坏	底部破片	器高 2.0残存 底径(5.2)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元焰。色調浅黄。	内外面回転ナデ。底部静止系切り離し。	
4	須恵器 坏	底部破片	器高 1.4残存 底径(5.8)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒・φ4mmの小石を含む。焼成還元焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。	
5	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/2	器高 4.5 口径(12.0) 底径(6.6)	南西隅 床面上3cm	胎土赤色粒・白色粒・鉱物粒を含む。 焼成還元焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け高台。	底面にスス付着。
6	須恵器 高台付埴	底部のみ	器高 2.2残存 底径 6.0	南西隅壁際 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。焼成還元焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け高台。	
7	須恵器 高台付埴	高台部 3/4	器高 3.3残存 底径 8.0	南西隅 床面上6cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成還元焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転系切り離し。付け高台。	外面スス付着。

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
8	須恵器 高台付埴	高台のみ	器高 2.3残存 底径(10.7)	竈前 床面下3cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。	脚部内スス付着。
9	土師器 甕	底部破片	器高 2.3残存 底径 5.2	南西隅 床面上8cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい橙。	外面体部横方向寛削り。底部寛削り。内面底 部横方向寛ナデ。	
10	須恵器 耳皿	体部～底部	器高 1.9残存 底径(5.8)	掘り方埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焰。色調灰黄褐。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
11	土師器 甕	口縁～体部 1/4	器高 16.8残存 口径(18.8)	竈燃焼部 使用面上9cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焰。色調 赤褐。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部指ナデ。粘土 帯痕残る。内面口縁部横ナデ。体部横方向寛 ナデ。	内外面ザラつく。
12	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 9.2残存 口径(20.3)	竈前 床面上2cm	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒 ・鉱物粒を含む。焼成酸化焰。色調 浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。頸部横ナデ。凸状のナデ 痕を残す。体部上位横方向寛削り。内面口縁 部横ナデ。体部上位横方向ハケメ、寛ナデ。	
13	須恵器 羽釜	体部下位～底部	器高 10.8残存 底径(8.4)	南東部 床面上5cm	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焰。色調灰黄。	外面体部下半斜め方向寛削り。底部寛削り。 内面体部下位～底部横方向指ナデ。	
14	須恵器 羽釜	口縁～体部上位破片	器高 7.1残存 口径(18.7)	竈右脇壁際 床面上7cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 灰黄褐。	内外面回転ナデ。一部に粘土帯痕が残る。	
15	須恵器 羽釜	口縁～体部上位1/2	器高 9.7残存 口径(20.2)	南西部 床面上8cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい 黄橙。	内外面回転ナデ。	
16	須恵器 羽釜	口縁～甕破片	器高 4.3残存 口径(18.2)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 暗灰黄。内面暗褐灰。	内外面回転ナデ。	
17	須恵器 羽釜	口縁～甕破片	器高 6.1残存 口径(22.0)	中央やや東寄り 床面上2cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調 浅黄橙。	内外面回転ナデ。	
18	須恵器 羽釜	口縁～甕破片	器高 7.0残存 口径(20.0)	竈燃焼部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調浅黄。内 面淡赤褐。	内外面回転ナデ。	
19	須恵器 甕	体部下半～底部1/3	器高 21.1残存 底径(23.8)	竈燃焼部使用面直 上+南壁際床面直 上+南西部床面直 上 床面に散在	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元焰。色調灰。内面にぶい橙。	外面体部下半縦方向寛削り。台接合部横方向 指ナデ。台部横ナデ。内面体部下半横方向寛 ナデ。台接合部横ナデ。台部横方向寛ナデ。	
20	土製品 土鏝	縦半欠	長さ 7.6 幅 3.1 重さ 44.73	北壁際 床面上7cm	焼成酸化焰。色調橙。		
21	石器 円盤形	ほぼ完形	長さ 8.9 幅 9.2 厚さ 2.9 重さ 380	南東部	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の石器。側縁の一部に剥離があ る。上面は炭化物が付着している。	
22	石器 円盤形	上端欠損	長さ 9.0 幅 11.8 厚さ 2.9 重さ 410	北西隅	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の石器。側縁部の大半に敲打痕 がある。	
23	石器 円盤形	完形	長さ 11.6 幅 9.2 厚さ 2.8 重さ 335	埋没土中	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の石器。側縁部の大半に敲打痕 がある。特に相対する2カ所の敲打痕は著し く、側縁が挟れている。	

106号住居出土遺物観察表 第252図・P L162

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 3/4	器高 3.85 口径 11.2 底径 5.8	不明	焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	体部下半～底部ス ス付着。
2	須恵器 高台付埴	ほぼ完形	器高 5.2 口径 12.3 底径 5.4	不明	胎土微細砂を多く含み、ザラザラし ている。焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。付 け高台。	
3	灰軸陶器 輪花皿	ほぼ完形	器高 3.3 口径(15.7) 底径 7.5	106住-2の上	胎土細砂粒・白色粒を含む。 焼成還元焰。色調灰。	底部回転ナデ。付け高台。施釉漬け掛け。	大原2号窯式期
4	灰軸陶器 高台付埴	口縁～底部 1/2弱	器高 5.3 口径(16.1) 底径 (7.5)	不明	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。施釉漬け掛けか。	大原2号窯式期

99号住居出土遺物観察表 第253図・P L162

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	灰軸陶器 皿	口縁～底部 1/3	器高 2.3 口径(12.6) 底径 6.4	竈右脇壁際 床面上7cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	底部回転ナデ。付け高台。体部下位回転寛削 り。施釉漬け掛け。	大原2号窯式期
2	土師器 土釜	口縁～体部上位破片	器高 7.5残存 口径(21.1)	南西隅壁際 床面上10cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焰。色調黒褐。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部上位縦方向寛 削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方 向寛ナデ後、縦方向寛ナデ。	

102号住居出土遺物観察表 第254図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	高台部 1/4	器高 6.0残存 底径(10.8)	南西部 床面上18cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調明赤褐。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け 高台。	
2	須恵器 高台付埴	体部下位～底部2/3	器高 3.0残存 底径(8.6)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焰。色調浅黄橙。 内面にぶい橙。	外面体部下位～高台部回転ナデ。底部切り離 し技法不明。付け高台。内面体部下位～底部 寛磨き。	内面黒色処理後、 二次焼成。

96号住居出土遺物観察表 第256、257図・P L161

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 1/5	器高 3.5残存 口径(11.0) 底径 5.8	南西隅 床面上18cm	胎土赤色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 埴	口縁～体部 1/4	器高 3.9残存 口径(13.7)	南西部 床面上6.5cm	胎土白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。	
3	須恵器 坏	口縁～体部 1/4	器高 3.5残存 口径(12.0)	竈前 床面上24cm	胎土白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。内面 黒褐。	外面口縁部横ナデ。体部回転寛ナデ。内面口 縁～体部寛磨き。	内面黒色処理。
4	須恵器 埴	口縁～体部破片	器高 6.1残存 口径(15.2)	北東隅 床面上6cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焰。色調にぶい 褐。	外面口縁部横ナデ。体部回転ナデ。内面口縁 部～体部横方向寛磨き。	内面黒色処理され ていたものが、 2次加熱されたも のとみられる。

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
5	須恵器 埴	口縁～底部破片	器高 5.3 口径(11.8) 底径 (7.0)	東部 床面上15cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。焼成酸化焰。色調黄褐色。	内外面回転ナデ。底部回転糸切りか?内面は横方向に磨きされている。	内面黒色処理。2次加熱されて酸化。
6	須恵器 坏	口縁～底部 4/5	器高 3.5 口径 11.2 底径 6.9	中央部北西寄り と南壁近くの破片接合。	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。焼成酸化焰。色調浅黄褐色。内面黒。	外面口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り離し。内面口縁～底部磨き。	内面黒色処理。外面口縁部も黒い。
7	須恵器 高台付埴	口縁～底部 2/3 (高台欠損)	器高 5.3残存 口径(14.0)	床面直上 中央部やや東寄り 床面上5.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。焼成酸化焰。色調浅黄褐色。内面黒。	外面口縁～体部下位回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。(欠損) 内面口縁～底部磨き。	内面黒色処理。外面口縁部も黒い。
8	須恵器 小型甕	口縁～底部 1/2	器高 11.0 口径(11.2) 底径 5.4	甕石脇、貯蔵穴 床面上5.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調におい橙。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部上位回転ナデ。下半横方向磨き後、中位を縦方向ナデ。	外面スス付着。
9	須恵器 甕	体部下位～底部	器高 8.2残存	中央やや南寄り 床面上7cm	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成還元焰。色調灰。	外面平行タタキ。内面体部～底部ナデ。	丸底。叩き。
10	土師器 土釜	完形	器高 12.0 口径 18.0 底径 10.7	南西部 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ3mmの小石を含む。焼成酸化焰。色調におい黄褐色。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上半ナデ。下半横方向磨き。底部ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部～底部横方向磨ナデ。	外面スス付着。底部粉痕か?
11	石器 円盤形	ほぼ完形	長さ 14.8 幅 12.3 厚さ 4.6 重さ 970	中央部 床面上3cm	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の石器。側縁部の相対する2か所に著しい敲打痕があり挟れている。	
12	石器 整形軽石	半欠損	長さ 13.8 幅 16.5 厚さ 13.0 重さ 1740	北東部 床面上22.5cm	石材二ツ岳軽石。	方形に整形した軽石塊の破片。1か所を残して角の部分は欠けている。上面は窪んでいる。側面には帯状の削り痕跡が明瞭に残る。	
13	石器 円盤形	ほぼ完形	長さ 9.6 幅 9.8 厚さ 2.0 重さ 250	中央部やや北寄り、 床面直上	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の石器。側縁部のほぼ相対する2か所に敲打痕が残る。	
14	石器 整形軽石	破片	長さ 8.2 幅 10.0 厚さ 9.4 重さ 570	北西壁寄り 床面上24cm	石材二ツ岳軽石。	方形に整形された軽石の破片。	
15	石器 敲石	ほぼ完形	長さ 11.3 幅 9.0 厚さ 4.0 重さ 495	埋没土中	石材粗粒輝石安山岩。	やや肉厚の楕円形の石器。上面および側縁部に敲打痕が残る。特に側縁部の敲打痕は集中し、器面が挟れている。	

97号住居出土遺物観察表 第259図・P L161

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 1/4	器高 4.3 口径(11.8) 底径 (5.3)	南東部 床面上23cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。焼成還元焰。色調灰。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/5	器高 4.1 口径(12.2) 底径 (5.9)	甕燃焼部中央 使用面上11cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。焼成酸化焰。色調灰黄。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
3	須恵器 高台付埴	底部破片	器高 1.3残存 底径 5.1	南壁際 床面上4cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調黄灰。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
4	須恵器 埴	口縁～体部破片	器高 3.9残存 口径(13.2)	甕焚口部 使用面直上	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成還元焰。色調灰。	内外面回転ナデ。	
5	灰釉陶器 皿	底部 1/2	器高 2.1残存 底径(7.4)	甕前 床面上25cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰。	底部回転ナデ。付け高台。施釉不明。	大原2号窯式期
6	灰釉陶器 皿	底部 1/4	器高 2.0残存 底径(7.6)	南西部 床面上32cm	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰。	底部回転ナデ。付け高台。施釉不明。	大原2号窯式期
7	土師器 甕	底部 1/3	器高 1.3残存 底径(6.6)	甕燃焼部、左側 使用面上6.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調におい黄褐色。	外面体部下位縦方向磨き。最下部ナデ。内面体部下位横方向磨ナデ。	
8	須恵器 鉢	底部破片	器高 2.2残存 底径(9.7)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調浅黄褐色。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
9	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 6.4残存 口径(14.7)	甕燃焼部、左側 使用面上6.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焰。色調におい橙。	外面口縁部～頸部横ナデ。体部横・斜め方向磨ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ。	
10	土製品 羽口	破片	長さ 6.5残存 幅 (4.1) 厚さ 2.1	中央部 床面上2.8cm		内径 2.8cm 外径 7.0cm	

25号土坑出土遺物観察表 第262図・P L165

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口縁～底部 2/3	器高 4.3 口径(11.7) 底径 6.0	埋没土中	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部磨き後、斜め方向指ナデ。底部一方向磨き。中央部に砂底痕残る。内面口縁～底部ナデ。	

68号土坑出土遺物観察表 第264図・P L165

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土製品 土錘	完形	長さ 4.6 幅 1.4 重さ 7.68	北壁際 底面直上	焼成酸化焰。色調灰白。		

70号土坑出土遺物観察表 第264図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	緑釉陶器 皿	口縁部破片	器高 1.6残存 口径(15.7)	中央部 底面上26cm	胎土緻密。焼成やや酸化焰気味。色調灰オリープ。	口唇部外反。釉調濃緑色。	東海産
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/5	器高 3.2 口径(12.8) 底径 (6.0)	南西部 底面上21cm (埋没土中位)	焼成還元焰。色調黒。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
3	須恵器 高台付埴	体部～底部 1/2	器高 3.8残存 底径 6.0	北東部 底面上8cm	焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。	
4	須恵器 高台付埴	底部 1/2	器高 2.7残存 底径 8.3	南壁 底面上4cm	焼成酸化焰。色調におい橙。	内外面ナデ。底部切り離し技法不明。	

73号土坑出土遺物観察表 第264図・P L165

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 1/4	器高 3.5 口径(12.8) 底径 (6.0)	北西部 底面上21cm	胎土砂粒を多く含む。焼成酸化焰。色調におい褐色。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
2	須恵器 坏	ほぼ完形	器高 3.6 口径 10.7 底径 5.7	南東部 底面上3cm	胎土白色粒・赤色粒を含む。焼成酸化焰。色調橙。底部に黒斑。	内外面ナデ。底部切り離し技法不明。底部ナデ調整。	口唇部の一部にスス付着。

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
3	須恵器 高台付埴	底部のみ (高台2/3欠損)	器高 4.6残存 底径( 8.2)	南東部 底面上4cm	焼成還元焰。色調にぶい褐。	外面体部回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。内面体部～底部磨き。	内面黒色処理。

78号土坑出土遺物観察表 第264図・P L165

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土製品 土鏝	一端欠損	長さ 3.4 幅 1.1 重さ 3.61	埋没土中	焼成酸化焰。色調灰黄褐。		
2	須恵器 高台付埴	口縁～底部 1/4 (高台欠損)	器高 4.8残存 口径(14.4)	中央部 底面上26cm	胎土砂粒を多量に含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	

94号土坑出土遺物観察表 第265図・P L165

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	石器 円盤形	完形	長さ 10.9 幅 13.4 厚さ 2.8 重さ 640	東壁際 底面上13cm	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の石器。側縁部の一部に敲打痕が残る。	
2	須恵器 坏	完形	器高 4.2 口径 12.0 径 5.4	東部 底面上7cm	焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
3	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	器高 4.6 口径(11.8) 底径 5.8	北部 底面上25cm	焼成還元焰。色調灰白。 底部に黒斑。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。	
4	須恵器 高台付埴	体部下位～底部	器高 3.7残存 底径 6.5	中央部 底面上2cm	焼成酸化焰。色調橙。	内外面回転ナデ。底部回転おこし。付け高台。	
5	須恵器 高台付埴	体部下位～底部1/4	器高 2.6残存 底径( 5.0)	南東部 底面上13cm	焼成還元焰。色調黒褐。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
6	須恵器 坏	口縁～体部下位1/4	器高 4.8残存 口径(13.8)	東部 底面上4cm	焼成還元焰。色調灰白。	内外面回転ナデ。	
7	灰釉陶器 埴	口縁～体部破片	器高 3.7残存 口径(14.6)	南東部 底面上11cm	胎土白色粒を含む。焼成還元焰。 色調灰。	口唇部外反。施釉刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯式期?
8	土師器 甕	口縁～体部上半1/4	器高 7.1残存 口径(10.8)	南東壁際 底面上17cm	焼成酸化焰。色調褐。	外面口縁部横ナデ。体部上半横方向寛ナデ。内面口縁部横ナデ。体部上半横方向寛ナデ。	

96号土坑出土遺物観察表 第266図・P L165

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 6.7残存 口径(21.7)	埋没土中	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位縦方向寛削り。内面口縁部横ナデ。体部上位横方向荒いハケメ。	
2	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 5.2残存 口径(20.9)	埋没土中	焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	
3	土製品 土鏝	一端欠損	長さ 3.5残存 幅 1.1 重さ 4.68	埋没土中上層	焼成酸化焰。色調褐灰。		
4	土製品 土鏝	一端欠損	長さ 3.8残存 幅 1.3 重さ 5.69	埋没土中上層	焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。		

50号土坑出土遺物観察表 第269図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	底部破片	器高 2.9残存 底径( 8.6)	中央 底面上12.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焰。色調にぶい橙。	内外面回転ナデ。底部切り離し技法不明。	

55号土坑出土遺物観察表 第270図・P L165

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 3/4	器高 4.8 口径 12.0 底径 4.7	東壁際 底面上11cm	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元焰。色調灰。	内外面回転ナデ。粘土痕残る。底部回転糸切り離し。	内外面の一部にスス付着。
2	須恵器 高台付埴	口縁～底部 3/5	器高 5.9 口径(14.3) 底径 6.8	東壁際 底面上26.7cm	胎土黒色粒・小石を含む。 焼成還元焰。色調褐灰。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。付け高台。	
3	須恵器 埴	口縁部破片	器高 3.2残存 口径( 5.9)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調にぶい黄橙。	内外面回転ナデ。	墨書?
4	土師器 小型甕	口縁～体部上位破片	器高 5.5残存 口径(13.1)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛削り。一部に指ナデ。内面口縁～頸部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。	
5	土師器 甕	口縁～体部上位破片	器高 5.4残存 口径(20.4)	北西壁際 底面上27cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向寛削り。中位縦方向寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	
6	土師器 甕	口縁～体部中位1/4	器高 13.5残存 口径(22.0)	中央部 底面上1cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焰。色調浅黄橙。	外面口縁部横ナデ。体部上位横方向寛削り。中位縦方向寛削り。内面口縁～頸部横ナデ。体部横方向寛ナデ。	
7	須恵器 甕	体部破片	器高 10.6残存	東部 底面上8cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元焰。色調灰。	外面平行タタキ。内面丁寧なナデ。	
8	須恵器 壺	口縁～体部破片	器高 16.0残存	北部 底面上22cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元焰。色調灰。	外面口縁部横ナデ。体部平行タタキ。内面口縁部横ナデ。体部ナデ。	

59号土坑出土遺物観察表 第271図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	灰釉陶器 皿	口縁～底部破片	器高 2.0残存 口径(13.1) 底径 (7.3)	埋没土中	胎土緻密。焼成還元焰。色調灰白。	付け高台。施釉漬け掛け。	大原2号窯式期

91号土坑出土遺物観察表 第272図・P L165

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土製品 土鏝	完形	長さ 4.3 幅 1.2 重さ 6.87	北西部 底面上高さ不明	焼成酸化焰。色調にぶい橙。		
2	灰釉陶器 皿	口縁部破片	器高 1.7残存 口径(12.4)	埋没土中	胎土微細粒を含む。焼成還元焰。 色調灰。	施釉不明。	光ヶ丘1号～大原2号窯式期